

九年足利義滿の遺明表に於ける同様の態度を非難したるものと對比して興味あるものである。第二の記は永正十三年七月撰の祖燈大明神御行遣記、普應國師傳記等を含む十六篇で、北征集の石友書記、養性室記の二篇を附して居る。第三の記は海翁説以下三十二篇に北征集の月波字説以下九篇を附し、第四の序は送延文侍者歸但陰序以下六篇に北征集の四篇を附し、第五の銘は眞拓上人の別稱として興へたる松園の銘を始めとして二十二篇に北征集の友月銘以下十九篇を附し、第六の贊辭は雲骨權僧正壽徽贊以下六十九篇に北征集の二十七篇を附し、第七の跋は書聖雲集後以下三十六篇に北征集の九篇を附し、第八の書は復祖漢老人書以下の十七篇に北征集の時の所作に係るものと思はれる四篇を附し、第九の雜文は初平叱石圖以下二十五篇の詩文に北征集の時の所作と思はれる二十篇を附したものである。(大久保堅圃)

幻化網大瑜伽教十忿怒明王大
明觀想儀軌

①(日) Gen-ke-mi-dai-yu-ga-kyō-jō-fan-nu-myō-dai-enryō-ke-wan-shō-gi-ki-kyō (支) Huan-hua-wang-ta-yu-chieh-chiao-shih-len-nu-ming-wang-ta-ming-kuang-hsiang-t-kuai-ching. 十忿怒明王大明觀想儀軌 ①一卷 ②存、大正一八・五八三No. 891、縮成三、元一六・一〇、北1219、南1231、元1230、明北1056、清1056、辰1218、天1206、法1335、藏、至863取、明南884、藏、No. 1061 ③宋法賢(一咸平四A. D. 1001)譯

④この經は世尊が世界の淨光天の清淨大樓閣の中に居られた時に、如來は神通力に依つて、かの樓閣を最上の珍寶を以て種々に莊嚴し玉ふた。如來が大瑜伽三昧中に於て、種々の神通變化を現じ玉ふ妙境界を、經題に於て幻化網大瑜伽と稱してある。此の瑜伽三昧中に於て、十忿怒明王を現出し玉ふことを明したのが、即ち此の經である。大毘盧遮那如來は、安樂三摩地に住して、常に大智・大行・大悲・大悲を離れずして、衆生を救度し玉ふ。時に大毘盧遮那如來は大會中に於て金剛手菩薩を觀じ玉ふつて、大光明を放つて、衆生を照し玉ふた。その時金剛手菩薩は、この瑞相を見て、何の因縁に依つて、此の大光明を放ち玉ふかと如來に問尋した。そこで如來は今光を放つて、大智大自在幻化網大瑜伽大王を演説する旨を答へられた。これと同時に、如來は智慧方便・大自在金剛救度大樂金剛三摩地に入り玉ひ、此の定から出で已つて、幻化網大瑜伽三昧曼羅國中に於て、十忿怒明王觀想儀軌を演説せられた。謂ゆる十忿怒明王とは、(一)娑婆得迦忿怒大明王(二)無能勝大忿怒明王、(三)鉢訶得迦大忿怒明王、(四)尾羅得迦大忿怒明王、(五)不動忿怒明王、(六)吒吒大忿怒明王、(七)無能離大忿怒明王、(八)大力大忿怒明王、(九)婆伽大忿怒明王、(十)瞿目囉囉多羅大忿怒明王である。

第一の娑婆得迦(Yanubhata)大忿怒明王は、持明行人が卍字を觀じ、之を如來の大智と念じ、此の大智が變じて、此の明王の相を現すことに成る。この明王は身に光焰ありて劫火の如く、大青雲の色をなし、三臂六臂六足にして、身長は短く、腹部は肥大である。大忿怒の相をなし、利牙は金剛の如く、六面に各々三目あり、八大龍王を以て嚴飾と爲し、虎皮を衣と爲し、鬘鬘を冠と爲し、水牛に乗り、足には蓮花を踏み、體は赤黄色にして、大辯才あり、頂に阿闍佛を戴き、大惡相にして瞋視し、三面の中で正面は笑容、右面は黄色にして、舌相を外に出し、左面は白色にして、唇を舐む。六臂の中で、右方の第一手は劍を執り、第二手は金剛杵を執り、第三手は箭を執り、左方の第一手は鬚索を執り、復頭指を立つ、第二手は般若波羅蜜多經を持し、第三手は弓を執る。この明王の下に於て、諸の天魔が怖畏作禮すと觀想することに成つてある。この明王は妙吉祥菩薩の化身であると言はれて居る。若し持明者が、是の如く法に依て觀想し、大明を誦すれば、此の人は行住坐臥、常に五欲の快樂を受けて、過失が無いと論ぜられて居る。

第二の無能勝大忿怒明王は、持明者が鉢囉字を觀じ、この字變じて、無能勝大忿怒明王となつて居る。この尊は三面六臂にして、面の各々に三目あり、身は黄色にして、日輪の圓光あり、八大龍王を以て莊嚴となし、正面は笑容、右面は大青色にして、微に忿怒の相を浮べ、左面は白色にして、唇を舐み、大惡相を現じ、右の第一手に金剛杵を執り、第二手に寶杖を執り、第三手に箭を執り、左の第一手に鬚索を執り、復頭指を立て、第二手に般若波羅蜜多經を持し、第三手に弓を執り、頂に阿闍佛を戴く。その時無量壽大樂金剛如來は、無量功德寶藏大樂金剛三摩地に入つて、定より出で已つて、今この明王の大明を説くことに成つてある。

第四の尾羅得迦大忿怒明王(Vairavata)は大青雲色にして、三面六臂である。面の各々に三目あり、正面は笑容、右面は白色、左面は黄色にして、忿怒の相をなし、唇を舐み、右の足にて諸魔を踏み、左足にて蓮花を踏み、右の第一手は劍を執り、第二手は鉞斧を執り、第三手は箭を執り、左の第一手に鬚索を執り、頭指を立て、第二手は般若波羅蜜多經を持し、第三手は弓を執り、頂に阿闍佛を戴く。その時無量壽大樂金剛如來は、無量功德寶藏大樂金剛三摩地に入つて、定より出で已つて、

この明王の大明を説くことに成つて居る。第五の不動忿怒明王の種子は卍字であつて、持明者は、先づ此の種子を觀じ、種子變じて不動明王となる。明王は眇目の童子相であつて、三面六臂にして、面の各々に三目があり、三面の中で、正面は笑容、右面は黄色にして、舌相を外に出し、舌上に血色あり、左面は白色にして、忿怒の相あり、卍字の聲を出して、身に鬘鬘の色あり、足に蓮華と及び寶山とを踏み、立て舞勢を作し、遍身に熾焰あり、右の第一手に劍を執り、第二手に金剛杵を執り、第三手に箭を執り、左の第一手に鬚索を執り、頭指を立て、第二手に般若波羅蜜多經を執り、第三手に弓を執り、頂に佛冠を戴く。この尊は阿闍如來の所化にして、大神通を具し玉ふ。世尊大毘盧遮那如來が、金剛燈熾盛大明金剛三摩地に入り、この定より出で已つて、不動忿怒大忿怒明王の大明を説示し玉ふことになつて居る。この不動明王は大日經宗に於て明されてある尊像とは大に異つて居る。

第六の吒吒大忿怒明王の種子は卍字であつて、種子が化して此の明王となる。この尊も三面六臂にして、頂に寶冠を戴き、冠上に佛あり、三面の中で、正面は笑容、右面は黄色にして、唇を舐み、左面は白色にして、忿怒相ありて、唇を舐み、身は青雲色である。左右の第二手は本印を結び、右の第二手に金剛杵を執り、第三手に箭を執り、左の第二手に般若波羅蜜多經を持し、第三手に弓を執り、足に蓮華を踏

み、立つて舞勢を爲して居る。この尊を念じて持誦するものは、速に菩提を證すと云はれて居る。世尊大毘盧遮那如來は、普遍熾盛金剛三摩地に入り、この定より出で已つて、この明王の大明を説き玉ふ。以下の四大忿怒明王も、概ね上記と大差は無いから、説明を略することとする。この十忿怒明王は、唐代譯の經軌に於て曾て類例を見ない所である。此の經軌は兩部の中で金剛頂部に屬す可きものである。非アールヤン系の宗教的産物か密教的瑜伽觀中に取り入れられたものであることは、否定し得ない所であらう。續族の信仰の對象をも取り入れ、それ等を佛教的に觀じて行く所に、密教の特色が存して居る。密教は寧ろ佛敎の普通化とも見做す可きもので、如何なる宗教の上にも、佛敎の思想を廣げて行かうとする傾きがあるが、而も其の場合に佛敎の眞實生命を失つて居ないことを見通してはならない。今の十忿怒明王は如來大智の變現であると見做して居る所に、密敎独自の觀想が存して居る所を注意す可きである。(神林隆輝)

幻居紳 ①(日) Gen-ke-shi ①一卷 ②存、大正一八・五八三No. 891、縮成三、元一六・一〇、北1219、南1231、元1230、明北1056、清1056、辰1218、天1206、法1335、藏、至863取、明南884、藏、No. 1061 ③宋法賢(一咸平四A. D. 1001)譯

幻虎録 ①(日) Gen-ko-rok ①起信論 ②起信論 ③起信論 ④起信論 ⑤起信論 ⑥起信論 ⑦起信論 ⑧起信論 ⑨起信論 ⑩起信論 ⑪起信論 ⑫起信論 ⑬起信論 ⑭起信論 ⑮起信論 ⑯起信論 ⑰起信論 ⑱起信論 ⑲起信論 ⑳起信論 ㉑起信論 ㉒起信論 ㉓起信論 ㉔起信論 ㉕起信論 ㉖起信論 ㉗起信論 ㉘起信論 ㉙起信論 ㉚起信論 ㉛起信論 ㉜起信論 ㉝起信論 ㉞起信論 ㉟起信論 ㊱起信論 ㊲起信論 ㊳起信論 ㊴起信論 ㊵起信論 ㊶起信論 ㊷起信論 ㊸起信論 ㊹起信論 ㊺起信論 ㊻起信論 ㊼起信論 ㊽起信論 ㊾起信論 ㊿起信論

幻虎録 ①(日) Gen-ko-rok ①起信論 ②起信論 ③起信論 ④起信論 ⑤起信論 ⑥起信論 ⑦起信論 ⑧起信論 ⑨起信論 ⑩起信論 ⑪起信論 ⑫起信論 ⑬起信論 ⑭起信論 ⑮起信論 ⑯起信論 ⑰起信論 ⑱起信論 ⑲起信論 ⑳起信論 ㉑起信論 ㉒起信論 ㉓起信論 ㉔起信論 ㉕起信論 ㉖起信論 ㉗起信論 ㉘起信論 ㉙起信論 ㉚起信論 ㉛起信論 ㉜起信論 ㉝起信論 ㉞起信論 ㉟起信論 ㊱起信論 ㊲起信論 ㊳起信論 ㊴起信論 ㊵起信論 ㊶起信論 ㊷起信論 ㊸起信論 ㊹起信論 ㊺起信論 ㊻起信論 ㊼起信論 ㊽起信論 ㊾起信論 ㊿起信論

幻師阿夷都神咒 ①(日) Gen-ashi-do-shin-ji ①一卷 ②存、大正一八・五八三No. 891、縮成三、元一六・一〇、北1219、南1231、元1230、明北1056、清1056、辰1218、天1206、法1335、藏、至863取、明南884、藏、No. 1061 ③宋法賢(一咸平四A. D. 1001)譯

幻師阿夷都神咒 ①(日) Gen-ashi-do-shin-ji ①一卷 ②存、大正一八・五八三No. 891、縮成三、元一六・一〇、北1219、南1231、元1230、明北1056、清1056、辰1218、天1206、法1335、藏、至863取、明南884、藏、No. 1061 ③宋法賢(一咸平四A. D. 1001)譯

幻師阿夷都神咒 ①(日) Gen-ashi-do-shin-ji ①一卷 ②存、大正一八・五八三No. 891、縮成三、元一六・一〇、北1219、南1231、元1230、明北1056、清1056、辰1218、天1206、法1335、藏、至863取、明南884、藏、No. 1061 ③宋法賢(一咸平四A. D. 1001)譯

幻師阿夷都神咒 ①(日) Gen-ashi-do-shin-ji ①一卷 ②存、大正一八・五八三No. 891、縮成三、元一六・一〇、北1219、南1231、元1230、明北1056、清1056、辰1218、天1206、法1335、藏、至863取、明南884、藏、No. 1061 ③宋法賢(一咸平四A. D. 1001)譯

名所行録(名庫書)者藏所現 月年の刊載(書考多書釋註)書本 説解管内 代年作者 著者 録存 數巻(名書)名題 號略字數

名所行録(名庫書)者藏所現 月年の刊載(書考多書釋註)書本 説解管内 代年作者 著者 録存 數巻(名書)名題 號略字數

【ケ】

至836頁、明南十行、N.479 ④ 曇無羅譯 ⑤ 東晉太元六年(一〇〇A. D. 381—395) ⑥ この經は支那所説神咒經と略んで呼んである。但し神咒に關して説示されてある所は、此の經の方が甚だ粗略であるから、寧ろ此の種の經の起原を爲すものと見做し得ると思ふ。

⑦ (参考) 三寶紀第七、内典錄第三、譯經圖記第二、開元錄第三、貞元錄第五(神林隆淨) ⑧ (日) Gen-jō-an-shin-gi-shūkeiari-kai-kano-ron (支) Huan-chuan-ching-kei & kai-kan-tu-men. 卷事須知開甘露門附 ⑨ 存、記續二・一六・五 ⑩ 元中峰明本(一延祐四A. D. 1317)撰

⑪ 南岳下二世天目山中峰明本禪師が叢林に於ける日用須知一家の規矩を制定されたもので、元延祐四年冬(A. D. 1317)自序して上梓せるものである。附録の開甘露門は施餼鬼會の施食次第及び法文、疏等であつて開甘露門の部に解説せる通りである。本書撰述の趣旨は中峰自序に述ぶるが如く、心を道に存すれば禮を待たずして自ら中り、法を俟たずして自ら正しきものにて叢林に規矩の要あるは相應はしからぬ事ではあるが、道に執せざる事久しく百丈已に清規を制定して其の餘弊を救ふ、今、中峯の幻住庵に於ける要事須知も主伴交參の標準と爲して自ら天目一家の規矩とせるものであつて、念を天眞未散の頃に攝し終日作して勞を見ず、終日息して佚を知らず外に禮法を忘じ内に能所を空する底の眞參實究の

道人は本書を必要としないが、道に志す學道の人々は本書に據つて道念を涵養し坐作進退自らにして道に契ひ、三代の禮樂を叢林の規矩に見るに至るであらう。全編を十門として居る。日責、月進、年規、世範、督辦、家風、名分、踐履、攝養、津送の十條の綱目これである。第一門の日責とは辨道を以て先と爲す叢林の二六時中の標準と成るべき日課行事を示したるもの。第二門の月進とは月分行事にして正月に於ける元旦、上元の祝聖、二月の初三の啓建、十五日の佛涅槃會、十九日の觀音菩薩會、三月初三の滿散、初四の伽藍慶當住設供風經、二十三日高峯和尚忌、四月初八日の佛降誕會、十三日初起楞嚴會、十四日土地堂念誦、十五日結制。五月初五の端陽、二十八日青苗經會。六月初一の散青苗經會。七月十三日の滿散楞嚴會、十四日土地堂念誦、十五日解制。十月初一の開爐、初五の建臘忌。十一月冬至土地堂念誦。十二月初一の高峯和尚忌、初八日佛成道會、除夜土地堂念誦。第三門の年規とは年分行事にして聖節、四節、歲計等を擧げ、第四門の世範とは此れ等の行事に用ふる疏及び回向文を示したるもの。第五門の督辦とは寺門を經營し衆僧の善惡を備辦する心得を示したるもの。第六門の家風とは佛祖成規の家風を展べ、叢林新舊の條令を布かんと爲め規矩を示せるもので、掛塔、送新到叙語、謝掛塔叙語、延請、用人、賞罰、進退、分衛、普請等を擧げ、第七門の名分とは叢林に於て隨事名を立て名に因みて其の本分

を顯し以て法道を圓滿せしめんとするのである。即ち庵主、首座、副庵、知庫、飯頭、互用の名分を示したものである。第八門の踐履とは佛祖聖賢の由らざる可らざる様なりとして履踐の意義、外縁内縁に對する心得並に童行訓を擧げ、第九門の攝養とは十方衆會四海同家にして親疎貧富の殊なく彼の病は即ち己が病なりとの立場より病者を攝養せしむる心得を示せるもので、攝養の意義、病人の爲の念誦を擧げ、第十門の津送とは葬送に關する心得及び念誦回向を示したものである。(大久保堅瑞)

⑫ (支) Huan-chuan-ching-kei. ⑬ 一巻 ⑭ 存、記續二・一六・五 ⑮ 元中峰明本(一延祐四A. D. 1317)撰 ⑯ (参考) 釋籍志卷上

⑰ (支) Huan-chuan-ching-kei. 幻住庵清規之狀 ⑱ (日) Gen-jō-an-shin-gi-kei ⑲ 一巻 ⑳ (参考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

⑳ 幻住清規 ㉑ (日) Gen-jō-an-shin-gi-kei ㉒ 一巻 ㉓ (参考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

㉔ 幻住門下邪說祖師傳記 ㉕ (日) Gen-jō-an-shin-gi-kei ㉖ 一巻 ㉗ (参考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

㉘ 幻派頑派辨 ㉙ (日) Gen-jō-an-shin-gi-kei ㉚ 一巻 ㉛ (参考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

① 存、浮木集第一五 (参考) 釋籍目錄

② 幻夢物語 ③ (日) Gen-mu-honryō ④ 存、國文東方佛教叢書第九

⑤ 中古の佛教小説で太田南畝の兒物語部類にも收められたものである。都大原に天台の沙門幻夢といふものがあつて、一年十一月七日に根本中堂に參つて四王院に立寄つた時、法師二人連れたる兒に會つて、不圖とした事から、言葉を変はした、この兒は花松といひ、日光竹林房のものだといふことを聞いて、それ以來慕ふ心止めがたく、遂々日光へ下つて、ある本堂にて本尊を拜む時、笛の音が聞えて来たので、出て見ると美しい兒であつた。名乗合ふとこれが花松であつて、幻夢を導いて竹林房に入り、連歌をする時花松の發句が

夜嵐にあす見ぬ花のわかれかな
といふので幻夢はこの事を問ふと、花松は人間の無常なることを説いて、連歌を終つて、花松は懐紙に笛を包んで與へ、名残おしやと立つたかと思ふと、行方しれずになつた。これは不思議、天魔などでもあつたか、怖ろしくなつてゐるところへ、老僧が出て来て、これは何所のものだといふので、かくかくのものだが、此處は竹林房かと訊くと、さうだといふので、それで昨年比叡山一投戒に上つた方があつたであらう。その方に四王院に會つてよりのことを物語つて懐紙と笛を出して見せると、老僧涙に咽んで、その兒と申すは當國大胡の家説の子で、七歳の時父が小野寺親任の爲

名所行發 (名庫書) 者處所發 月年の刊寫 (書考多書釋註) 書本 説解管内 代年作者 著書 缺存 數卷 (名書) 名題 號略字數

【ケ】

めに討たれたので、父の仇を討つて無念を晴したいといふのを、佛門に入つたものは、仇討してはならぬ、出家得道して、うちつ、うたれる因縁をたつやうに勤めてゐたところ、先頃里へ行きて一族にも遇ひ、連歌などして暫く遊びたきよしに暇を乞ふて出て行きしが、翌日花松の侍童慌だしく来ていふには、花松殿昨夜小野寺の前に忍び入り、やす／＼と敵を討ち取り、館を焼き拂ひ、その身も討死したりと、聞いて昨日の別れが永き別れとなつたかと悲しみ、その笛は箱に入れて葬りたるもの、今日が初七日、お志しの切なるより、なきあとの御形ひを頼む爲めなるべしとの物語りに幻夢は涙にくれ、昔しは根本中堂に道心を新りしを、花松を見せめしより愚痴にかへりたるは口惜し、かゝる縁に遇ふも神明佛陀の方便と、高野山に登りて奥院のかたはらに住して、偏に彌陀をたのみ、念佛をして居た。その翌年三月十日今日は彼の人の一周年忌と、御影堂の前に一心に稱名して居るところへ、二十歳ばかり法師の遺業のあさましき姿にて、思ひ入つたる様子を、浮世のならひ定めなきことかな、去年の今夜親を討たせ、當座に敵を討つたるも夢、敵とはいへ、あの兒の面影忘れがたし、あなむさんと涙をながして念佛を申してゐるのを幻夢が不思議に思ふて聞くと、これが花松の親の敵を討つた小野寺親任の子親次であつた。親の仇を討ち取つて、其の時は喜んで、夜あけて見れば、年二八ばかりの美しき兒なので、あまりのいたはしさに、弓

馬の家に生れずば、かゝる愛目も見まいものをと、これを善知識にして、夜の間に故郷を出て此の山に登つて、かくは一心に彌陀を念じ西方へ心を傾けると、聞いて、幻夢も聲を惜しまず、嘆きあひ、同宿して稱名念佛し、幻夢は七十七、下野の入道は六十歳にて端坐合掌して、十念成就して往生を遂げたのである。本書は續群書類從にも收録されてゐる。作者は不詳、時不詳である。(中谷在禪)

① 玄應音義 ② (日) Gen-on-shi ③ (支) Hsuan-yin-gi. 一切經音義 ④ 二二五卷或二十六卷 ⑤ 存、縮爲、記三五・一一二、南2082附至辨、元1077附至辨、明北1598附至辨、麗1070附至辨、天1065附至辨、指1025附至辨、法1023附至辨、明南1691附至門、N. 1695 ⑥ 唐代玄應撰 ⑦ (日) Gen-on-shi ⑧ 一巻 ⑨ 存

⑩ 玄戒未來比丘經 ⑪ (日) Gen-kai-mi-ai-hi-kyō ⑫ (支) Hsuan-chieh-wei-mi-ai-hi-kyō. ⑬ 一巻 ⑭ 缺 ⑮ 失

⑯ (参考) 出三藏記第四、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

⑰ 玄海相承許可略作法 ⑱ (日) Gen-kai-sō-jō-kyō ⑲ 一帖

⑳ 玄海相承傳授開書 ㉑ (日) Gen-kai-sō-jō-kyō ㉒ 一帖

㉓ (支) Hsuan-shō-jō-kyō ㉔ 一帖

㉕ 玄海法印八千枚記 ㉖ (日) Gen-kai-hō-in-hachi-sen-hai-ki ㉗ (日) Gen-kai-hō-in-hachi-sen-hai-ki

① 存、德川時代寫 ② (支) Hsuan-shō-jō-kyō ③ 一帖

④ 玄義私類聚 ⑤ (日) Gen-gi-kei-rūi-kyō ⑥ 一巻 ⑦ 存、大日本佛教全書第一七 ⑧ 尊賢(實德三A. D. 1451)述 ⑨ 明曆元刊 ⑩ 立大、A. 11・四九

⑪ 玄義私類聚 ⑫ (日) Gen-gi-kei-rūi-kyō ⑬ 一巻 ⑭ 存、大日本佛教全書第一七 ⑮ 尊賢(實德三A. D. 1451)述 ⑯ 明曆元刊 ⑰ 立大、A. 11・四九

⑱ 玄義私類聚 ⑲ (日) Gen-gi-kei-rūi-kyō ⑳ 一巻 ㉑ 存、大日本佛教全書第一七 ㉒ 尊賢(實德三A. D. 1451)述 ㉓ 明曆元刊 ㉔ 立大、A. 11・四九

㉕ 玄義私類聚 ㉖ (日) Gen-gi-kei-rūi-kyō ㉗ 一巻 ㉘ 存、大日本佛教全書第一七 ㉙ 尊賢(實德三A. D. 1451)述 ㉚ 明曆元刊 ㉛ 立大、A. 11・四九

① 玄義私類聚 ② (日) Gen-gi-kei-rūi-kyō ③ 一巻 ④ 存、大日本佛教全書第一七 ⑤ 尊賢(實德三A. D. 1451)述 ⑥ 明曆元刊 ⑦ 立大、A. 11・四九

⑧ 玄義私類聚 ⑨ (日) Gen-gi-kei-rūi-kyō ⑩ 一巻 ⑪ 存、大日本佛教全書第一七 ⑫ 尊賢(實德三A. D. 1451)述 ⑬ 明曆元刊 ⑭ 立大、A. 11・四九

⑮ 玄義私類聚 ⑯ (日) Gen-gi-kei-rūi-kyō ⑰ 一巻 ⑱ 存、大日本佛教全書第一七 ⑲ 尊賢(實德三A. D. 1451)述 ⑳ 明曆元刊 ㉑ 立大、A. 11・四九

㉒ 玄義私類聚 ㉓ (日) Gen-gi-kei-rūi-kyō ㉔ 一巻 ㉕ 存、大日本佛教全書第一七 ㉖ 尊賢(實德三A. D. 1451)述 ㉗ 明曆元刊 ㉘ 立大、A. 11・四九

名所行發 (名庫書) 者處所發 月年の刊寫 (書考多書釋註) 書本 説解管内 代年作者 著書 缺存 數卷 (名書) 名題 號略字數

【ケ】

1) (帝國) 一八七・六九(各)大、長保・三三)

玄義釋義 ①(日) Gen-gi-shaku-sen. (支) Hisan-t-shih-ch'ien. 法華玄義釋義。釋義。二十卷或十卷。②存。大正三・八一五。〇。1717。縮印。〇。三三三・八一〇。明北1538多士。明南1530更。明。N. 1535。流於(景雲二)建中三A.D. 711-782)等。③唐廣德二(A.D. 764)

玄義釋義拾記 ①(日) Gen-gi-shaku-sen-kun-shaku. 法華玄義釋義拾記。玄義釋義拾記。十卷。②存。日語述。③刊本(龍大、二六五・四〇)(各)大、餘大・二六五・一九四(八)

玄義釋義講義 ①(日) Gen-gi-shaku-sen-kō-gi. 法華玄義釋義講義。十卷。②存。佛光大系第二〇—二三。③讀禮堂(安永九—文久二A.D. 1780—1862)述

玄義釋義講述 ①(日) Gen-gi-shaku-sen-kō-jūsu. 法華玄義釋義講述。十卷。②存。佛光大系第二〇—二三。③守脫大實(文化元—明治一七A.D. 1804—1884)述

玄義釋義錄 ①(日) Gen-gi-shaku-sen-gō. 法華玄義釋義錄。十卷。②存。③本純(一延享頃? A.D. 1744—1747)述。④(參) 山家祖德撰述高日集卷下。⑤宣政元刊。⑥(各)大、餘大・七六五

(龍大、二六五・四一—四二、研佛)

玄義釋義備檢 ①(日) Gen-gi-shaku-sen-ki-ken. (支) Hisan-t-shih-ch'ien-pet-ch'ien. 法華玄義釋義備檢。玄義備檢。四卷。②存。刊本。一・四四・四。③宋植卷有版(一建中靖國元A.D. 1101)述

玄義釋義微錄 ①(日) Gen-gi-shaku-sen-mi-roku. 玄義微錄。一卷。②存。③日述。④大正八寫。⑤立大、D. 〇・三三二)

玄義釋義要決 ①(日) Gen-gi-shaku-sen-yō-ke. 法華玄義釋義要決。玄義要決。五卷或十卷。②存。大日本佛教全書第一五。③道述

玄義輯略 ①(日) Gen-gi-shaku-ryaku. 法華玄義輯略。一卷。②存。刊本。一・四四・五。③明代傳燈(一萬曆頃A.D. 1573—1619)述。④(哲、S. 1・中・1)

玄義抄 ①(日) Gen-gi-shaku-shō. 十卷。②存。③(治)元—保延四A.D. 1065—1138)撰。④(參) 山家祖德撰述高日集卷下。

玄義抄 ①(日) Gen-gi-shaku-shō. 一卷。②存。③(天)一萬弘四A.D. 933—1007)撰。④(參) 請宗章錄第二、本朝台觀撰述密部書目

玄義章 ①(日) Gen-gi-shaku-shō. (支) Hisan-t-shang. 一卷。②存。③(參) 奈良朝現在一切經疏目錄2702

玄義條箇 ①(日) Gen-gi-shaku-jōka. 一卷。②存。天台三大部條箇之内。③承應四刊。④(高)大、寄・一・一五)

玄義崇鈔 ①(日) Gen-gi-shaku-shō. 八卷。②存。③日撰。④(一)正保頃A.D. 1644—1647)撰。⑤(享)保五刊。⑥立大、A. 11・五八(哲、S. 中・1・10)

玄義隨聞記 ①(日) Gen-gi-shaku-zuinmon-ki. 玄義隨聞記。八卷。②存。③日撰(元龜三—寬永一九A.D. 1572—1642)記。④刊本(高)大、寄・一・一五(立)大、A. 11・四七、A. 11・五六)

玄義錄雜釋記 ①(日) Gen-gi-shaku-roku-zō-ki. 二卷。②存。③寫本(哲、S. 1・右・八)

玄義授業記 ①(日) Gen-gi-shaku-jyū-ki. 十卷。②存。③乾想述。④延寶元寫(立)大、A. 11・六六)

玄義大綱見聞 ①(日) Gen-gi-shaku-tai-kō-jenmon. 法華玄義大綱見聞。玄義私類案。玄義見聞。六卷。②存。大日本佛教全書第一七。③(寶)德三A.D. 1451—1523)撰。④(立)大、A. 11・四八(高)大、寄・一・一五(哲、S. 中・1・18)

玄義分 ①(日) Gen-gi-shaku-bun. (支) Hisan-t-shen. 觀無量壽經玄義分、觀經疏玄義分。一卷。②存。觀無量壽佛經疏(大正三七No. 1753)之内。③(刊)一・三三・四。佛光大系第一三。淨土宗全書第二、淨土古佚十書第三、四、眞宗聖教大全卷中、眞宗聖典全書、七聖聖教(嘉永二刊)第四一五

①唐善導(大業九—永隆二A.D. 613—681)說龍朔二、年六九疏述

玄義分會解 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-e-ge. 十一卷。②存。③(月)崇(寬文一一—享保一四A.D. 1671—1729)述。④(參) 淨土眞宗教典卷第二。⑤寫本(龍大、研眞) bun-e-ge-ec-chi. ⑥一卷。⑦存。⑧松島善護(文化三—明治一九A.D. 1806—1886)述。⑨寫本(龍大)

玄義分應玄錄 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-ō-roku. 一卷。②存。③東陽四月(文政元—明治三五A.D. 1818—1902)述。④寫本(龍大、二二六・一六)

玄義分己丑記 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-ichū-ki. 四卷。②存。③(曾)朝(明和六—嘉永四A.D. 1769—1851)撰。④寫本(龍大、研眞)

玄義分記 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-ki. 二卷。②存。③惠麟(天明八—明治二A.D. 1788—1869)記。④寫本(龍大、二二六・一八一—九)

玄義分記 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-ki. 二卷。②存。③松島善護(文化三—明治一九A.D. 1806—1886)撰。④寫本(龍大、研眞)

玄義分義疏 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-gi-shū. 觀經玄義分義疏。二卷。②存。③(寶)德三—文政八A.D. 1753—1835)說文政九、年六五疏述。④明治三三刊(龍大、二二六・二二)寫本(龍大、二二六・二二—二二二、研眞)(正、二二五・二四七)

名所行設 (名庫書) 著所現 (月年の刊高) (書考多書釋註) 書本 (說解書内) 代年作者 (著者) 缺也 (名書) 名題 (號略字數)

【ケ】

(帝國) 一八七・六九(各)大、長保・三三)

玄義分聞書 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-ki-gaki. ①一卷。②存。③法業(元祿六—寬保元A.D. 1693—1741)述。④寫本(龍大、二二六・一〇)

玄義分聞書 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-ki-gaki. ①十卷。②存。③義讓(寬政八一—安政五A.D. 1796—1853)述。④寫本(龍大) kwa-senbu. ⑤一卷。⑥存。⑦寫本(龍大、二二六・一七)

玄義分喚遺錄 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-ken-roku. ④卷。⑤慧雲(享保一五—天明IIA.D. 1730—1783)述。⑥安永五(A.D. 1776)三月。⑦(參) 淨土眞宗教典卷第二

玄義分顯彰記 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-ken-shō-ki. 觀經疏玄義分顯彰記。④卷或三卷。⑤存。⑥惠然(元祿六一—寶曆一四A.D. 1693—1764)述。⑦寫本(龍大、二二六・二四)(各)大、宗大、二二四)

玄義分庚午記 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-ko-go-ki. 觀經疏玄義分庚午記。⑤卷。⑥存。⑦空覺(文化四—明治四A.D. 1807—1871)述。⑧寫本(各)大、宗大、一五七)

玄義分庚申記 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-ko-shin-ki. 觀經疏玄義分庚申記。③卷。④存。⑤眞宗大系第九。⑥風嶺(寬延三—文化III A.D. 1750—1816)述。⑦宣政一二(A.D. 1800)

玄義分講 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-kō. ①一卷。②存。③寫本(龍大、二二六・一一)

五)

玄義分講義 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-kō-gi. 觀經疏玄義分講義。④卷。⑤存。⑥實景(延享三—文政一A.D. 1746—1833)述。⑦(文)政五(A.D. 1832) ⑧明治二五寫。⑨(各)大、宗大、一七五)

玄義分講義 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-kō-gi. 觀經疏玄義分講義。④卷。⑤存。⑥(天)一萬弘四A.D. 933—1007)撰。⑦(參) 請宗章錄第二、本朝台觀撰述密部書目

玄義章 ①(日) Gen-gi-shaku-shō. (支) Hisan-t-shang. 一卷。②存。③(參) 奈良朝現在一切經疏目錄2702

玄義條箇 ①(日) Gen-gi-shaku-jōka. 一卷。②存。天台三大部條箇之内。③承應四刊。④(高)大、寄・一・一五)

玄義崇鈔 ①(日) Gen-gi-shaku-shō. 八卷。②存。③日撰。④(一)正保頃A.D. 1644—1647)撰。⑤(享)保五刊。⑥立大、A. 11・五八(哲、S. 中・1・10)

玄義隨聞記 ①(日) Gen-gi-shaku-zuinmon-ki. 玄義隨聞記。八卷。②存。③日撰(元龜三—寬永一九A.D. 1572—1642)記。④刊本(高)大、寄・一・一五(立)大、A. 11・四七、A. 11・五六)

玄義錄雜釋記 ①(日) Gen-gi-shaku-roku-zō-ki. 二卷。②存。③寫本(哲、S. 1・右・八)

玄義授業記 ①(日) Gen-gi-shaku-jyū-ki. 十卷。②存。③乾想述。④延寶元寫(立)大、A. 11・六六)

玄義大綱見聞 ①(日) Gen-gi-shaku-tai-kō-jenmon. 法華玄義大綱見聞。玄義私類案。玄義見聞。六卷。②存。大日本佛教全書第一七。③(寶)德三A.D. 1451—1523)撰。④(立)大、A. 11・四八(高)大、寄・一・一五(哲、S. 中・1・18)

玄義分 ①(日) Gen-gi-shaku-bun. (支) Hisan-t-shen. 觀無量壽經玄義分、觀經疏玄義分。一卷。②存。觀無量壽佛經疏(大正三七No. 1753)之内。③(刊)一・三三・四。佛光大系第一三。淨土宗全書第二、淨土古佚十書第三、四、眞宗聖教大全卷中、眞宗聖典全書、七聖聖教(嘉永二刊)第四一五

玄義分講辨 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-kō-ben. ①一卷。②存。③瓜生津陸英(文化七—明治二六A.D. 1810—1893)述。④寫本(龍大、研眞)

玄義分講林 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-kō-jin. ④卷。⑤智潤(一文化三A.D. 1806)述。⑥(參) 淨土眞宗教典卷第二

玄義分講錄 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-kō-roku. ④卷。⑤存。⑥柔遠(寬保一一—寬政一〇A.D. 1742—1798)述。⑦寫本(龍大、二二六・三〇)

玄義分講錄 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-kō-roku. ⑤卷。⑥存。⑦深助(寬延二—文化一四A.D. 1749—1817)述。⑧寫本(龍大)

玄義分講錄 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-kō-roku. ①卷。②存。③月珠(一安政三A.D. 1856)述。④寫本(龍大、研眞)

玄義分講錄 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-kō-roku. ①卷。②存。③安海(文政三一—慶應IIA.D. 1829—1866)記。④寫本(龍大、二二六・三三)

玄義分講錄 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-kō-roku. ②卷。③存。④(一)明治一四A.D. 1881)述。⑤寫本(龍大、二二六・三三)

玄義分講錄 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-kō-roku. 觀經疏玄義分講錄。②卷。③存。④廣說(文政二—明治三三A.D. 1819—1900)述。⑤眞宗高倉大學編。⑥明治二九刊。⑦立大、A. 11・四一(帝國、一〇九・七九)(龍大、二二六・二九)(各)大、宗

大、二六二七)

玄義分講錄 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-kō-roku. ⑥卷。⑦存。⑧寫本(龍大、二二六・三四)

玄義分言南無者宗要文 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-gō-namu-shō-sha-yō-jōmon. ①卷。②存。③惠安(正保元—享保六A.D. 1644—1721)撰。④(參) 眞宗大系刊行豫定書目

玄義分言南無者體要 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-gō-namu-shō-sha-tai-yō. ①卷。②存。③(參) 眞宗大系刊行豫定書目

玄義分集解 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-shū-ge. 玄義分集解。①卷。②存。③月珠(一安政三A.D. 1856)述。④寫本(龍大)

玄義分序題門記 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-jō-dai-mon-ki. ①卷。②存。③(參) 眞宗大系刊行豫定書目

玄義分序題門筆記 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-jō-dai-mon-ki. ①卷。②存。③(參) 眞宗大系刊行豫定書目

玄義分抄 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-shō. ⑤卷。⑥存。⑦(正)保元—享保六A.D. 1644—1721)撰。⑧(參) 淨土眞宗教典卷第二

玄義分抄 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-shō. ⑤卷。⑥存。⑦(正)保元—享保六A.D. 1644—1721)撰。⑧(參) 淨土眞宗教典卷第二

玄義分鈔 ①(日) Gen-gi-shaku-bun-shō. 觀經疏玄義分鈔。觀經疏玄義分鈔。二卷。②存。③(寶)德三—文政八A.D. 1753—1835)說文政九、年六五疏述。④明治三三刊(龍大、二二六・二二)寫本(龍大、二二六・二二—二二二、研眞)(正、二二五・二四七)

名所行設 (名庫書) 著所現 (月年の刊高) (書考多書釋註) 書本 (說解書内) 代年作者 (著者) 缺也 (名書) 名題 (號略字數)

【ケ】

大正七刊 ①明曆二寫(谷大、宗大・二五五三)
玄義分商量鈔 ①(日)Gen-gi-bun-sho-ryo-sha 觀經玄義分商量鈔、觀經疏玄義分商量鈔 ②五卷 ③存、觀經四帖疏商量鈔之内 ④聖慧(瓦文元)延享三 A. D. 1661-1746) ⑤享保四刊 ⑥(龍大、一二二六・三六・三三) ⑦(研眞)谷大、宗大、三三四五(京大、一二二六・九)

玄義分隨釋 ①(日)Gen-gi-bun-shu-shaku ②十卷 ③缺 ④月溪觀信(一享保元 A. D. 1716-) ⑤(參考)淨土真宗教典志第二

玄義分專想錄 ①(日)Gen-gi-bun-sen-shi-roku ②四卷 ③存 ④道振(安永二一文政十 A. D. 1773-1824) ⑤寫本(龍大、一二二六・三八)

玄義分箋述 ①(日)Gen-gi-bun-shu-ten ②一卷 ③存 ④信鏡(享保八一天明三 A. D. 1723-1783) ⑤寫本(龍大、一二二六・二一九)

玄義分他筆鈔 ①(日)Gen-gi-bun-ta-hitsu-sho 觀經玄義分抄 ②三卷 ③存、大日本佛教全書第五六、觀經疏他筆鈔之内、佛教大系第一九、西山全書第四 ④證空(治永元—實治元 A. D. 1177-1247) ⑤寫本(正大、一一五三・一四七)(龍大、二四一五・一七五)

玄義分中疑端 ①(日)Gen-gi-bun-chu-gi-tan ②三卷 ③存 ④正保二刊 ⑤(正大、一一五三・一六九)

玄義分聽記 ①(日)Gen-gi-bun-chi-sho ②三卷 ③存 ④僧觀(實曆三一文政八 A. D. 1753-1825) ⑤說文政九、年六五(龍大、一二二六・四四)

玄義分聽記 ①(日)Gen-gi-bun-chi-sho ②一卷 ③存 ④真教記 ⑤寫本(龍大、一二二六・四一)

玄義分聽記 ①(日)Gen-gi-bun-chi-sho ②二卷 ③存 ④圓龍(一弘化二 A. D. 1843) ⑤寫本(龍大、一二二六・四二)

玄義分聽記 ①(日)Gen-gi-bun-chi-sho ②十卷 ③存 ④行照(一文久二 A. D. 1862) ⑤寫本(龍大、研眞)

玄義分聽記 ①(日)Gen-gi-bun-chi-sho ②一卷 ③存 ④中區俊德(文化七—明治三 A. D. 1810-1888) ⑤寫本(龍大、一二二六・四二)

玄義分聽記 ①(日)Gen-gi-bun-chi-sho ②一卷 ③存 ④善通記 ⑤寫本(龍大、一二二六・四〇)

玄義分聽記 ①(日)Gen-gi-bun-chi-sho ②二卷 ③存 ④參龍(明和六一天保二 A. D. 1769-1844) ⑤寫本(龍大、一二二六・四三)

玄義分丁酉錄 ①(日)Gen-gi-bun-tei-yo-roku 觀經玄義分丁酉錄 ②四卷 ③存、真宗全書第一四 ④慧雲(享保一五—天明二 A. D. 1730-1782) ⑤安永四—五(A. D. 1775-1776) ⑥寫本(龍大、一二二六・四六)

玄義分別匠記 ①(日)Gen-gi-bun-tei-ho-ki ②四卷 ③存 ④了空述 ⑤實曆一(A. D. 1761) ⑥(參考)淨土真宗教典志第二 ⑦實曆一刊 ⑧(龍大、一二二六・四四)

玄義分提耳 ①(日)Gen-gi-bun-tei-ani ②二卷 ③存 ④松島善謙(文化三—明治一九 A. D. 1806-1886) ⑤寫本(龍大、一二二六・四三)

玄義分得益門記 ①(日)Gen-gi-bun-teki-yaku-mon-ki ②一卷 ③存 ④寫本(龍大、一二二六・五七)

玄義分二乘成佛章 ①(日)Gen-gi-bun-ni-jō-butsu-sho ②一卷 ③存 ④兼經(享保一四—文化八 A. D. 1729-1812) ⑤實政七刊 ⑥(龍大、一二二六・五八)

玄義分二乘門聽記 ①(日)Gen-gi-bun-ni-jō-mon-cho-ki ②一卷 ③存 ④寫本(龍大、一二二六・五九)

玄義分別時意章講解 ①(日)Gen-gi-bun-betsu-jishi-kyōge ②存、真宗全書第六二 ③信鏡(享保四—實曆一 A. D. 1719-1762) ④

⑤是書は、善導の觀經玄義分の第六門和會經論中の會通別時意章を講解したもの、P. 門御誓は是書の跋文中に「撰別時意の會通、西河終南の釋ありしよりこのかた、古今の註者、講解乏からず、然りと雖も、多岐亡半、蕪斷分難し、今此の書を讀みて、疑滞水解せり」と云つた。

(脇谷篤謙)

玄義分忘己鈔 ①(日)Gen-gi-bun-waku-ki-sho ②四卷 ③存 ④聖宗(正保元—享保六 A. D. 1641-1721) ⑤寫本(龍大、研眞)

玄義分忘己鈔 ①(日)Gen-gi-bun-waku-ki-sho ②八卷 ③行成(一享保一〇 A. D. 1725-) ④(參考)淨土真宗教典志第二

玄義分聞記 ①(日)Gen-gi-bun-mon-ki ②二卷 ③存 ④寫本(龍大、一二二六・四七—四八)

玄義分略解 ①(日)Gen-gi-bun-ryakuge ②一卷 ③存 ④寫本(龍大、一二二六・四九)

玄義分六字釋 ①(日)Gen-gi-bun-roku-ji-shaku ②一卷 ③存 ④印持(一明治三 A. D. 1870-) ⑤寫本(龍大、研眞)

玄義分六字釋記 ①(日)Gen-gi-bun-roku-ji-shaku-ki ②一卷 ③存 ④得隣(文政五—明治三 A. D. 1822-1898) ⑤寫本(龍大)

玄義分六字釋講義 ①(日)Gen-gi-bun-roku-ji-shaku-kyōgi ②二卷 ③存 ④賢鏡(一文政十 A. D. 1824) ⑤寫本(龍大、一五〇二・一〇一)

玄義分六字釋講義錄 ①(日)Gen-gi-bun-roku-ji-shaku-ki-kyōgi-roku ②一卷 ③存 ④松島善海(安政二—大正二 A. D. 1835-1923) ⑤大正三刊 ⑥(龍大、一五〇二・一〇一)

玄義分六字釋四法錄 ①(日)Gen-gi-bun-roku-ji-shaku-shi-ho-roku ②一卷 ③存 ④朝日保壽述 ⑤大正五刊 ⑥(龍大、一五〇二・一〇五)

名所行發 (名庫書) 蔵所現 (月年の刊寫) (書考參書釋註) 書本 (說解宮内) 代年作者 著者 缺存 數巻 (名書) 名題 號略字數

【ケ】

玄義分六字釋侍講記 ①(日)Gen-gi-bun-roku-ji-shaku-ji-ko-ki ②一卷 ③存 ④雲鏡(實曆九—文政七 A. D. 1759-1834) ⑤寫本(龍大、一五〇二・一〇四)

玄義分六字釋說 ①(日)Gen-gi-bun-roku-ji-shaku-sewa ②一卷 ③存 ④南溪述 ⑤寫本(龍大)

玄義分六字釋聽記 ①(日)Gen-gi-bun-roku-ji-shaku-cho-ki ②一卷 ③存 ⑤寫本(龍大)

玄義分六字釋聽書 ①(日)Gen-gi-bun-roku-ji-shaku-kiki-gaki ②一卷 ③存 ④雲鏡(實曆九—文政七 A. D. 1759-1834) ⑤寫本(龍大、一五〇二・一〇六)

玄義分六字釋文講錄 ①(日)Gen-gi-bun-roku-ji-shaku-mon-kyō-roku ②一卷 ③存 ⑤寫本(龍大、一五〇二・一〇三)

玄義分錄 ①(日)Gen-gi-bun-roku ②二卷 ③存 ④崇廓(一天明六 A. D. 1786) ⑤寫本(龍大、一二二六・五〇)

玄義分錄 ①(日)Gen-gi-bun-roku ②二卷 ③存 ④實雲(實政三—弘化四 A. D. 1791-1847) ⑤(參考)真宗全書刊行豫定書二

玄義問答 ①(日)Gen-gi-bun-nda ②二卷 ③缺 ④最澄(神護堂雲元—弘仁一三 A. D. 767-822) ⑤(參考)本朝台觀撰述密部書目

玄義要釋 ①(日)Gen-gi-yō-shaku 天台法華玄義釋要決、法華玄義釋要決、

玄義釋要決、玄義要決 ②十卷 ③存、大日本佛教全書第一五 ④興道述 ⑤(參考)諸宗章疏錄第二

玄義略要 ①(日)Gen-gi-ryakuyō ②一卷 ③存、大日本佛教全書第二六智證大師全集第二 ④圓珍(弘仁五—寛平三 A. D. 814-861) ⑤說寛平四、年七八家) ⑥唐大中一一(A. D. 857)二月十三日記 ⑦本書は天台智者大師智顛述・章安大師灌頂記に係る法華玄義の略要を智證大師圓珍が唐國留學中、大中年及及び十一年の二ヶ年間に涉つて天台山國清寺と五峯とで著作したものである。玄義の撮要として本書はその魁首をなすものである。本書と同一なる態度で編著したものに、明の智旭記に係る玄義節要二巻があるが、本書は趙宋天台以前の唐の天台學によつて記してゐるのに、節要は趙宋天台の説を受けてゐるから、この兩書は其の趣きが全く異つてゐる。この點に於いて本書は荆溪尊者湛然以後、四明尊者知禮に至る中間の支那天台教學研究上主要なる著述の一といへる。本書は法華玄義に對する圓珍の見解のみを記したものでなく、清觀・元珎・物外・良詒等の諸師の説を或は聞き或は傳へ、それ等に負ふ所が少くないものと考へられる。又圓珍には本書と同時若しくは以前に「玄義科目」の著があつたと考へられる。卷末に「此文與科目、比勘多同小異」とある故である。然し「唐求法目錄・請來目錄・佛全二八」によると、「妙法蓮華經玄義略要」一卷、武丘。妙法蓮華經科文二卷、妙法蓮華經玄

義科文二卷龍門」なるものがある。又本書巻尾の背書には「玄義亦四。初丹丘通序玄及文。次大師集序本述。三丹丘從述序至本。四丹丘從本序至述」とあり。又本書、佛全二六ノ五三二頁本文にも「丹丘序云」とある。ここで武丘(人名未詳)と圓珍とに各同名の「略要」が著述されてゐることとなる。これ本書撰者に對する疑問の一。又武丘と丹丘との相違が疑問の二。武丘は河南省沈丘縣の東北にあり。本名(三國の魏時代)は丘頭。魏の甘露三年以降、武丘と改めた地。丹丘は浙江省寧海縣の南方九十里にある御山附近の地。この二地の何れに住した人の作か不明であるが、天台山に近い丹丘の學僧の撰になつたものと考へべきであらう。本書は上記の如く撰者に關して疑問はあるが、内容から推考して圓珍記と見て然るべきであると思ふ。次に本書の内容及び組織を概観すれば、先づ法花經を釋するに名と文に分つ。次に名を釋するに本述二門、名體宗用教の五義ありとし、次に文を釋するには二門二十八品ありとし、名は總、文は別であるとなす。そして今は文の二門二十八品を以つて名に入れ、文の二門二十八品を以つて名の五重を成せしめる。從つてまた名の五重を以つて文の二門二十八品に入れ、名の五重を以つて文の二門二十八品を皆妙ならしむるのである。この說によれば經題五字が二門二十八品の總稱、二門二十八品が題目五字の別文であつて、五字の題目が少なからず六萬有餘の經文が多ならず、互に相即互融して皆妙なりといふので

ある。さて名を釋するに、名とは玄といふことである。即ち名とは玄義五重である。玄義五重とは一に釋名、二に辨體、三に明宗、四に論用、五に判教相である。この五重を亦二に分つ。初めに釋名を釋し、次に觀心をもつて經名を釋す。經名を釋するに亦二。初めには通じて五重玄義をもつて經名を釋し、次に別して經名を釋するに法・喻・經の三段となす。次に五重玄義を本述二門にかけて經名を解説し、法花經が純圓獨妙であり永異諸經であることを述べ、特に第五重玄の判教相の下では、教相を三段に分ち、一は教、二は相、三は判とし、初めに教とは如来一代の佛説をいひ、次に相とは今教(法花)と兼教(爾前)との同異分別し、述門の圓融と兼教との同異を論じ、本門の圓融と諸教との永異なることを述べ、本述二門のみ唯一圓滿大乘なりといふ。後に判とは判の義。今教と諸教との同異を分判するが判の義である。この分判を根性の融不融相、化道の始終不始終相、師弟の遠近不遠近相の三種に區分し、第一の根性の融不融相の下で、化儀四教・化法四教を論じ、第二の化道の始終不始終相の下で、種熟脫の三益を説き、第三の師弟の遠近不遠近の下で、問達顯本・述根本實を述べてゐる。これは天台四教儀・八教大意・教觀綱宗等の教相論と其の組織が全く相違したものである。天台宗の判教論を五時八教なりとする說に對して、本書のやうに三種教相を取る說は他にはない。本書の如く天台宗の判教論を立てれば趙宋天台の如き名

名所行發 (名庫書) 蔵所現 (月年の刊寫) (書考參書釋註) 書本 (說解宮内) 代年作者 著者 缺存 數巻 (名書) 名題 號略字數

【ケ】

相學派とならずして、全佛敎を一貫した観
點に立脚した天台宗が展開したであらうと
思ふ。猶ほ四教の行位を明する中、四教の
行を無作行・非空非有門行と云ひ、七階信
住行向地等妙)六即の行位を立て、六即
の中、第三觀行即の下に於て十乘觀法を
説き、觀行五品の位を以つて「是れ圓家方
便の初めなり」と確言したことは、天台大
師の行哲學を道破したものであると思ふ。
本書は最後に觀心釋を設けて五重玄義は言
舌の戲論でなく、實相觀・圓觀をもつて觀
照してこそ、初めて五重が支の支たる所謂
であり、天台宗義が顯揚せられるのである
と結んでゐる。

①(参考) 撰目類聚(智證大師全集四、佛
全二二八) 山家祖德撰諸目集卷上(佛全二)
(田島德善)

①(参考) 撰目類聚(智證大師全集四、佛
全二二八) 山家祖德撰諸目集卷上(佛全二)
(田島德善)

①(参考) 撰目類聚(智證大師全集四、佛
全二二八) 山家祖德撰諸目集卷上(佛全二)
(田島德善)

①(参考) 撰目類聚(智證大師全集四、佛
全二二八) 山家祖德撰諸目集卷上(佛全二)
(田島德善)

玄光禪師田麟先生儒釋筆談
①(日) Gen-ku-shen-jin-den-ri-ha-sen-sei-
shaku-ha-chin. ①卷 ②存 ③獨題玄
光(寛永七一年録一) A. D. 1630-1698)撰
④元和二刊(京大、日大未・五二二)天和二刊
(京大、日大未・香外)

玄贊釋方便抄
①(日) Gen-zan-sha-
ku-ha-ben-shu. ①1卷 ②缺 ③最澄
(神護堂元一弘仁一三 A. D. 767-822)述
(参考) 本朝古撰撰述書目

玄贊正妙等問答
①(日) Gen-zan-
sho-myō-to-mon-do. ①1卷 ②缺 ③定
慶述 ④(参考) 東城傳燈目錄卷上、諸宗
章疏卷第二

玄讚注
①(日) Gen-zan-cha. ①1

佛陀が王舎城竹園中の鷲鷲樹間に居られ
た時に、一比丘が竹園から外出した途中
で、毒蛇の爲に驚れ、復鬼神の爲に繞せら
れ、復賊の爲に劫せられた。佛陀が之れを
知られて、其の比丘の所に往かれる時に、
幻師鹿陀が佛陀に隨從して、その比丘の害
を除く爲に説いたのが、今の經の神咒であ
る。尙この經には幻師をして神咒の外に、
歸命佛一切皆得三解脱、と言はせて居る
から、佛陀に歸命する時には、世間の神咒
を以つてせずとも、有ゆる障害から免れる
ことが可能であると云ふ意味が明示されて
ある。(神林隆淨)

玄沙語錄
①(日) Gen-sha-go-roku.
(支) Hsuan-sha-yu-lu. 玄沙師備禪師語錄、
福州玄沙宗一禪師語錄、玄沙大師語錄 ②
三卷 ③存、已續二・三・三 ④唐代玄沙
師語錄、明代林弘衍編 ⑤明曆元刊(各大、
餘大・三四四一)帝國、八二二・三三三(京
大、藏・一七九・八)明版(内閣)

玄沙廣錄
①(日) Gen-sha-ku-roku.
(支) Hsuan-sha-kuang-lu. 玄沙師備禪師
廣錄、宗一大師廣錄、福州玄沙宗一大師廣
錄 ②三卷 ③存、已續二・三・三 ④唐
代玄沙師備語、智嚴編 ⑤元祿三刊(各大、
餘大・一七六一)

玄沙師備禪師語錄
①(日) Gen-
sha-shih-ti-zen-jigo-roku. (支) Hsuan-
sha-shih-pe-i-chen-shih-yu-lu. 福州玄沙
宗一禪師語錄、玄沙宗一禪師語錄、玄沙語
錄、玄沙大師語錄 ②三卷 ③存、已續二・
三・三 ④唐玄沙師備(太和九一開平二

玄沙師備禪師廣錄
①(日) Gen-
sha-shih-ti-zen-jik-roku. (支) Hsuan-
sha-shih-pe-i-chen-shih-kuang-lu. 玄沙宗
一大師廣錄、玄沙廣錄 ②三卷 ③存、已
續二・三・三 ④唐玄沙師備(太和九一開
平二) A. D. 835-908)語、智嚴編

玄沙宗一禪師語錄
①(日) Gen-
sha-shih-ti-zen-jigo-roku. (支) Hsuan-
sha-shih-pe-i-chen-shih-yu-lu. 玄沙師備
禪師語錄、福州玄沙宗一禪師語錄、玄沙語
錄 ②三卷 ③存、已續二・三・三 ④唐
玄沙師備(太和九一開平二) A. D. 835-908)
語、明代林弘衍編 ⑤明曆元刊(帝國、八二
一・二二二)京大、藏・一七九・八(各大、餘

玄沙宗一禪師語錄
①(日) Gen-
sha-shih-ti-zen-jigo-roku. (支) Hsuan-
sha-shih-pe-i-chen-shih-yu-lu. 玄沙師備
禪師語錄、福州玄沙宗一禪師語錄、玄沙語
錄 ②三卷 ③存、已續二・三・三 ④唐
玄沙師備(太和九一開平二) A. D. 835-908)
語、明代林弘衍編 ⑤明曆元刊(帝國、八二
一・二二二)京大、藏・一七九・八(各大、餘

玄沙宗一禪師語錄
①(日) Gen-
sha-shih-ti-zen-jigo-roku. (支) Hsuan-
sha-shih-pe-i-chen-shih-yu-lu. 玄沙師備
禪師語錄、福州玄沙宗一禪師語錄、玄沙語
錄 ②三卷 ③存、已續二・三・三 ④唐
玄沙師備(太和九一開平二) A. D. 835-908)
語、明代林弘衍編 ⑤明曆元刊(帝國、八二
一・二二二)京大、藏・一七九・八(各大、餘

玄沙宗一禪師語錄
①(日) Gen-
sha-shih-ti-zen-jigo-roku. (支) Hsuan-
sha-shih-pe-i-chen-shih-yu-lu. 玄沙師備
禪師語錄、福州玄沙宗一禪師語錄、玄沙語
錄 ②三卷 ③存、已續二・三・三 ④唐
玄沙師備(太和九一開平二) A. D. 835-908)
語、明代林弘衍編 ⑤明曆元刊(帝國、八二
一・二二二)京大、藏・一七九・八(各大、餘

玄沙宗一禪師語錄
①(日) Gen-
sha-shih-ti-zen-jigo-roku. (支) Hsuan-
sha-shih-pe-i-chen-shih-yu-lu. 玄沙師備
禪師語錄、福州玄沙宗一禪師語錄、玄沙語
錄 ②三卷 ③存、已續二・三・三 ④唐
玄沙師備(太和九一開平二) A. D. 835-908)
語、明代林弘衍編 ⑤明曆元刊(帝國、八二
一・二二二)京大、藏・一七九・八(各大、餘

玄沙宗一禪師語錄
①(日) Gen-
sha-shih-ti-zen-jigo-roku. (支) Hsuan-
sha-shih-pe-i-chen-shih-yu-lu. 玄沙師備
禪師語錄、福州玄沙宗一禪師語錄、玄沙語
錄 ②三卷 ③存、已續二・三・三 ④唐
玄沙師備(太和九一開平二) A. D. 835-908)
語、明代林弘衍編 ⑤明曆元刊(帝國、八二
一・二二二)京大、藏・一七九・八(各大、餘

玄沙宗一禪師語錄
①(日) Gen-
sha-shih-ti-zen-jigo-roku. (支) Hsuan-
sha-shih-pe-i-chen-shih-yu-lu. 玄沙師備
禪師語錄、福州玄沙宗一禪師語錄、玄沙語
錄 ②三卷 ③存、已續二・三・三 ④唐
玄沙師備(太和九一開平二) A. D. 835-908)
語、明代林弘衍編 ⑤明曆元刊(帝國、八二
一・二二二)京大、藏・一七九・八(各大、餘

玄沙宗一禪師語錄
①(日) Gen-
sha-shih-ti-zen-jigo-roku. (支) Hsuan-
sha-shih-pe-i-chen-shih-yu-lu. 玄沙師備
禪師語錄、福州玄沙宗一禪師語錄、玄沙語
錄 ②三卷 ③存、已續二・三・三 ④唐
玄沙師備(太和九一開平二) A. D. 835-908)
語、明代林弘衍編 ⑤明曆元刊(帝國、八二
一・二二二)京大、藏・一七九・八(各大、餘

玄沙宗一禪師語錄
①(日) Gen-
sha-shih-ti-zen-jigo-roku. (支) Hsuan-
sha-shih-pe-i-chen-shih-yu-lu. 玄沙師備
禪師語錄、福州玄沙宗一禪師語錄、玄沙語
錄 ②三卷 ③存、已續二・三・三 ④唐
玄沙師備(太和九一開平二) A. D. 835-908)
語、明代林弘衍編 ⑤明曆元刊(帝國、八二
一・二二二)京大、藏・一七九・八(各大、餘

玄沙宗一禪師語錄
①(日) Gen-
sha-shih-ti-zen-jigo-roku. (支) Hsuan-
sha-shih-pe-i-chen-shih-yu-lu. 玄沙師備
禪師語錄、福州玄沙宗一禪師語錄、玄沙語
錄 ②三卷 ③存、已續二・三・三 ④唐
玄沙師備(太和九一開平二) A. D. 835-908)
語、明代林弘衍編 ⑤明曆元刊(帝國、八二
一・二二二)京大、藏・一七九・八(各大、餘

玄沙宗一禪師語錄
①(日) Gen-
sha-shih-ti-zen-jigo-roku. (支) Hsuan-
sha-shih-pe-i-chen-shih-yu-lu. 玄沙師備
禪師語錄、福州玄沙宗一禪師語錄、玄沙語
錄 ②三卷 ③存、已續二・三・三 ④唐
玄沙師備(太和九一開平二) A. D. 835-908)
語、明代林弘衍編 ⑤明曆元刊(帝國、八二
一・二二二)京大、藏・一七九・八(各大、餘

玄沙宗一禪師語錄
①(日) Gen-
sha-shih-ti-zen-jigo-roku. (支) Hsuan-
sha-shih-pe-i-chen-shih-yu-lu. 玄沙師備
禪師語錄、福州玄沙宗一禪師語錄、玄沙語
錄 ②三卷 ③存、已續二・三・三 ④唐
玄沙師備(太和九一開平二) A. D. 835-908)
語、明代林弘衍編 ⑤明曆元刊(帝國、八二
一・二二二)京大、藏・一七九・八(各大、餘

玄沙宗一禪師語錄
①(日) Gen-
sha-shih-ti-zen-jigo-roku. (支) Hsuan-
sha-shih-pe-i-chen-shih-yu-lu. 玄沙師備
禪師語錄、福州玄沙宗一禪師語錄、玄沙語
錄 ②三卷 ③存、已續二・三・三 ④唐
玄沙師備(太和九一開平二) A. D. 835-908)
語、明代林弘衍編 ⑤明曆元刊(帝國、八二
一・二二二)京大、藏・一七九・八(各大、餘

玄師巖陀所說神呪經

①(日) Gen-
shi-dan-da-sho-setsu-jin-shi-kyō. (支)
Hsuan-shih-pa-to-sho-sho-sha-ehou-
ching. 玄師巖陀神呪經、巖陀神呪經、幻
王巖陀經 ①1卷 ②存、大正二・九〇
一 No. 1578、縮成一三、已二・五、廣一
一〇(A. D. 381-395)

①(参考) 撰目類聚(智證大師全集四、佛
全二二八) 山家祖德撰諸目集卷上(佛全二)
(田島德善)

①(参考) 撰目類聚(智證大師全集四、佛
全二二八) 山家祖德撰諸目集卷上(佛全二)
(田島德善)

①(参考) 撰目類聚(智證大師全集四、佛
全二二八) 山家祖德撰諸目集卷上(佛全二)
(田島德善)

①(参考) 撰目類聚(智證大師全集四、佛
全二二八) 山家祖德撰諸目集卷上(佛全二)
(田島德善)

①(参考) 撰目類聚(智證大師全集四、佛
全二二八) 山家祖德撰諸目集卷上(佛全二)
(田島德善)

①(参考) 撰目類聚(智證大師全集四、佛
全二二八) 山家祖德撰諸目集卷上(佛全二)
(田島德善)

①(参考) 撰目類聚(智證大師全集四、佛
全二二八) 山家祖德撰諸目集卷上(佛全二)
(田島德善)

①(参考) 撰目類聚(智證大師全集四、佛
全二二八) 山家祖德撰諸目集卷上(佛全二)
(田島德善)

①(参考) 撰目類聚(智證大師全集四、佛
全二二八) 山家祖德撰諸目集卷上(佛全二)
(田島德善)

①(参考) 撰目類聚(智證大師全集四、佛
全二二八) 山家祖德撰諸目集卷上(佛全二)
(田島德善)

①(参考) 撰目類聚(智證大師全集四、佛
全二二八) 山家祖德撰諸目集卷上(佛全二)
(田島德善)

①(参考) 撰目類聚(智證大師全集四、佛
全二二八) 山家祖德撰諸目集卷上(佛全二)
(田島德善)

①(参考) 撰目類聚(智證大師全集四、佛
全二二八) 山家祖德撰諸目集卷上(佛全二)
(田島德善)

①(参考) 撰目類聚(智證大師全集四、佛
全二二八) 山家祖德撰諸目集卷上(佛全二)
(田島德善)

①(参考) 撰目類聚(智證大師全集四、佛
全二二八) 山家祖德撰諸目集卷上(佛全二)
(田島德善)

①(参考) 撰目類聚(智證大師全集四、佛
全二二八) 山家祖德撰諸目集卷上(佛全二)
(田島德善)

①(参考) 撰目類聚(智證大師全集四、佛
全二二八) 山家祖德撰諸目集卷上(佛全二)
(田島德善)

①(参考) 撰目類聚(智證大師全集四、佛
全二二八) 山家祖德撰諸目集卷上(佛全二)
(田島德善)

①(参考) 撰目類聚(智證大師全集四、佛
全二二八) 山家祖德撰諸目集卷上(佛全二)
(田島德善)

①(参考) 撰目類聚(智證大師全集四、佛
全二二八) 山家祖德撰諸目集卷上(佛全二)
(田島德善)

①(参考) 撰目類聚(智證大師全集四、佛
全二二八) 山家祖德撰諸目集卷上(佛全二)
(田島德善)

①(参考) 撰目類聚(智證大師全集四、佛
全二二八) 山家祖德撰諸目集卷上(佛全二)
(田島德善)

①(参考) 撰目類聚(智證大師全集四、佛
全二二八) 山家祖德撰諸目集卷上(佛全二)
(田島德善)

①(参考) 撰目類聚(智證大師全集四、佛
全二二八) 山家祖德撰諸目集卷上(佛全二)
(田島德善)

①(参考) 撰目類聚(智證大師全集四、佛
全二二八) 山家祖德撰諸目集卷上(佛全二)
(田島德善)

①(参考) 撰目類聚(智證大師全集四、佛
全二二八) 山家祖德撰諸目集卷上(佛全二)
(田島德善)

【ケ】

の考異が記されてある)の文、清算の記に
なる唐太宗皇帝御製基公讚記、及び唐の江
漢昌文の撰になる大唐大慈恩寺大師畫讚
と、苗神容の心經圖贊序に出でた大師の略
傳とを添へ、(三)次に唐李昌の撰した、唐
故白馬寺主翻譯惠沼塔碑序(終の佐伯
定胤師の記によると、秋篠寺の善珠書寫の
文が、この底本となつてゐる)を出し、終
に(四)唐宋復の撰した、大周西明寺故大德
圓測法師佛舍利塔銘序が掲げてある。玄
非三藏の行狀、及び惠沼の塔碑序には、ま
ま缺字の存するもの、蠶毒に依るものであ
らう。散逸し易いものを、茲に纏められた
ことは、謝すべきである。(蓮澤成淳)

玄非三藏渡天由來緣起 ①(日) Gen-
ji-san-sō-to-ten-ju-rai-en-gi. ①
卷 ②存 ③寫本(龍大)

玄非法師行狀 ①(日) Gen-ji-hō-
shū-kyō-ji. (支) Hsuan-chuang-fa-shih-
hsing-chuang. 大唐故三藏玄奘法師行狀
①卷 ②存 大正五〇・二一四 No. 2052-
2122. ③唐冥評(一)麟徳元 A.
D. 661. ④寫本(京大、藏二四・七)

玄非法師五印行跡圖 ①(日) Gen-
ji-hō-shō-go-in-gyō-sekizū. (支) Hsuan-
chang-fa-shih-wu-yin-hsing-chi-t'u.
①葉 ②存 ③龍大、研佛)

玄非法師像 ①(日) Gen-ji-hō-shō-shi-
zō. (支) Hsuan-chuang-fa-shih-hsiang. ②
一葉 ③存 ④龍大、研佛)

玄樞 ①(日) Gen-shū. (支) Hsuan-shū.
①卷 ②缺 ③(參考) 東城傳燈目錄卷

下

玄籤摺釋 ①(日) Gen-sen-kun-shū.
法華玄義釋籤摺釋、玄義釋籤摺釋
十卷 ②存 ③真迹述 ④寛文九刊 ⑤
(立大、A. 11・五七)

玄籤考拾記 ①(日) Gen-sen-kō-shū
法華玄義釋籤考拾記、玄義釋籤考拾
記 十卷 ②存 ③日迹述 ④(智、
八中・二四)

玄籤備檢 ①(日) Gen-sen-bi-ken.
(支) Hsuan-chien-pei-ken. 法華玄義釋
籤備檢、玄義釋籤備檢 四卷 ②存、記
續一四四・四 ③宋檀越有殿(建中靖國
元 A. D. 1101)述 ④(參考) 諸宗章疏錄第
二 ⑤刊本(正大、一一四三・五三・一四二、
一五七) ⑥(智、八・右・一一)

玄籤微錄 ①(日) Gen-sen-mi-roku.
法華玄義釋籤微錄、玄義釋籤微錄 ①卷
②存 ③日迹述 ④大正八寫 ⑤(立大、D
〇・三二)

**玄宗朝經三藏善無畏贈鴻臚
卿行狀** ①(日) Gen-shō-chō-hōn-gyō-
sai-wō-tem-mu-i-kō-kyō-ro-kyō-gyō-ji.
(支) Hsuan-tsung-chō-shō-wai-ching-sai-
sang-shan-wu-wi-tsing-hung-shi-king-
hsing-chuang. 善無畏行狀 ①卷
②存 大正五〇・二九〇 No. 2055-2122. ③
三・一 唐李華(乾元元 A. D. 758)撰
④玄宗表 ⑤(日) Gen-shō-hyō. ①卷
②存 ③(智、八・中・一一)

玄譯集 ①(日) Gen-tan-shū. ①卷
②存 ③寫本(正大、一五五四・二六一)

玄談合禪 ①(日) Gen-dan-gō-jin.
②六卷 ③存 ④寫本(正大、一五五四・二
五九)

玄談雜集 ①(日) Gen-dan-zasshū.
②一卷 ③存 ④寫本(正大、一〇七・二四
一一五)

玄談集 ①(日) Gen-dan-shū. ②一
卷 ③存 ④寫本(正大、一〇七・三三・一〇
七三〇五・一五五三・一三〇)

玄忠指歸 ①(日) Gen-chū-shū-ki.
②一卷 ③缺 ④源然(仁治元一元年 A.
D. 1240—1251)述 ⑤(參考) 諸宗章疏錄
第二

玄忠大師傳 ①(日) Gen-chū-dai-
shūden. ②一卷 ③存 ④(參考) 淨土
眞宗教典卷第二 ⑤寫本(龍大、二五六・
一一)

玄中銘不能語 ①(日) Gen-chū-nami-
go-go. 洞山大師玄中銘不能語 ②一
卷 ③存 ④本光附道 (一安永二 A. D.
1773)述 ⑤刊本(駒大)

玄底 ①(日) Gen-tei. ①帖 ②存
③明應七寫 ④(寶龜院)

玄傳體談 ①(日) Gen-den-oku-dan.
②一卷 ③存 ④文政一〇寫 ⑤(正大、一
五五三・三五〇)

玄透禪師語錄附拾遺 ①(日) Gen-
tō-shō-go-roku-tsunekari-shū-tō. 永平
中興玄透禪師語錄附拾遺 ②八卷 ③存
④玄透即中(一文化四 A. D. 1807)語、岸澤
惟安編 ⑤(參考) 禪師目錄

玄透即中和尚語錄 ①(日) Gen-tō-
jū-chū-nō-shō-gōroku. ①(日) Gen-tō-
jū-chū-nō-shō-gōroku. 空華庵錄 ②
一卷 ③存 ④玄透即中(一文化四 A. D.
1807)語、慧明編 ⑤大正一四寫 ⑥(駒
大)

玄秘私記 ①(日) Gen-pi-shi-ki. ②
三卷 ③存 ④參寂(延寶二一寫保二 A. D.
1674—1742)述 ⑤(參考) 眞言宗全書刊
行豫定書目

玄秘鈔 ①(日) Gen-pi-shō. ②四卷
③存、大正七八・三七六 No. 2956. 醍醐惠深
方聖教二十二卷之内(大阪市太融寺刊)、國
譯密教事相部第三 ④實運(長治二一永曆
元 A. D. 1105—1150)述 ⑤保元平治頃(A.
D. 1156—1159)

⑥佛眼、金輪等の請摩法に、道場觀、
本尊加持、曼荼羅、卷數、支度、其他修法
上必要な印明等を示し、修法の先後を記
してゐる。所載の摩法は卷一に佛眼、金輪、
大佛頂、文殊(一字、五字、六字、八字)、五
大虚空藏、卷二に愛染、光明眞言、無垢淨
光、轉法輪、尊勝(如法普通)、卷三に請雨
經、普賢延命、延命法攝戒作法、法華、六
字經、仁王經、卷四に北斗法の十七摩法で
ある。實運は醍醐三寶院隱居の僧で、最
初は勝覺に師事し、勝覺没後はその遺誡
によつて付法正嫡たる定海に就いて學んだ
が、後に定海の許を去つて勸修寺寛信に師
事し、後更に醍醐に歸つて定海の付法元海
の門に入つた人である。眞言宗三寶院流に
は同じく實運が撰した秘藏金寶集と實運の
口説を寛命が記した諸摩要鈔と玄秘鈔とを
合して後三部又は後三部鈔と名け、玄秘

名所行發 (名庫書)者蔵所現 月年の刊寫 (書考多書釋註)清水 說解管内 代年作者 著者 缺存 數卷 (名書)名題 號字子數

【ケ】

鈔は實運が醍醐歸山後に醍醐流の相傳を記
し、他の二書は勸修寺流の相傳を記したる
ものと稱して、玄秘鈔を特に重んじ、後
三部の中では最後にこれを傳授するのであ
る。然しながら内容を檢するに、或は勸修
寺寛信が修した支度や卷數を載せ、或は廣
澤の蓮臺寺寛空僧正相傳の印明などを記し
てゐるから、全く醍醐相傳の説のみとは思
はれない、たゞ醍醐の相傳を主として作つ
たと稱すべきであらう。著作年代は全面的
には確定しがたいが、五大虚空藏法の奥に
保元元年十二月十三日實運が阿闍梨となつ
て修したことを記し、請雨經法の奥に保元
二年夏比上醍醐鈔之、次年夏少々加
之、權少僧都實一記之と書き、仁王經の奥
にも同様のことを記し、佛眼法の奥には平
治元年六月二十三日抄之と云ひ、金輪法
は同年同月、文殊法と登勝法は同年七月に
撰したと記してあるから、大體保元平治の
頃に全卷を執筆したものと推定してよから
ふ。實運は平治元年の翌年永曆元年二月に
遷化してゐるから、全く晩年の作であり、
醍醐歸山後十數年を経て後の作である。
或說に玄秘鈔には草本と再治本とあり、
再治本は心覺が再治して註を加へたと云ふ
説と、成賢の再治と云ふ説とあると云つて
ゐる。又大正藏經所載本の奥書には根本鈔
と、覺洞院勝賢が勸註を加へたと、略本
との三本があると云ひ、第二の勸註本によ
つた旨を記してゐる。再治本と勸註本との
同異は尙ほ研究を要する。又副卷も四卷、
五卷、六卷、十一卷、十二卷、十七卷等區

々であるが、根本鈔勸註本共に四卷であ
る。従つて三寶院流には四卷の草本を傳授
の正本としてゐる。

⑦(注釋) 祖師玄秘鈔傳授開書二卷。作者
未詳玄秘鈔傳授口訣二卷。曇寂玄秘鈔秘記
四卷。元瑜玄秘鈔傳授要意一卷。勸潮玄秘
鈔傳授手續一卷。英華金妙玄開書一卷。快
道寺心流傳授私記三卷。(以上寫本)。葦原
寂照醍醐乳味鈔(刊)等。⑧明治四一刊(各
大、餘小、一一八) ⑨正大、一四八・一七二) 寫
本(京大、日大未、三四三・印智、N. 11・N.
三〇) ⑩(正大、一四八・四六) ⑪(高六、寄一・六
四) ⑫(鎌倉及徳川時代寫(寶龜院) 南北朝及徳
川時代寫(實善提院) 延慶二及文永五寫(實
善提院) (小田藤舟)

玄秘鈔 ①(日) Gen-pi-shō. 國譯玄
秘鈔 ②四卷 ③存、國譯密教事相部第三
④(寶龜院)

玄秘鈔開書 ①(日) Gen-pi-shō-ka.
②四卷 ③存 ④安政五寫(高
大、寄一・六四) ⑤明和九寫(各六、餘大・九三
五)

玄秘鈔開書 ①(日) Gen-pi-shō-ka.
②一冊 ③存 ④徳川時代寫
本(寶龜院)

玄秘鈔口訣 ①(日) Gen-pi-shō-ku-
ketsu. ①卷 ②存 ③有雅記 ④寫本
(各六、餘大・三七一)

玄秘鈔散口紙 ①(日) Gen-pi-shō-
san-kuchi-shi. ①卷 ②存 ③寫本(寶龜院)

玄秘鈔私記 ①(日) Gen-pi-shō-shi-
ki. ②三卷 ③存 ④寛保元寫 ⑤(各

玄妙日什師別傳 ①(日) Gen-myō-
jū-shi-shū-betsuden. (林屋友次郎)

玄文深義抄 ①(日) Gen-bun-shin-
gi-shō. ①卷 ②存 ③(参考) 淨土正依
經論書目録

玄覽權實義 ①(日) Gen-ran-gon-
jisan-gi. ①卷 ②存 ③日泉一寛政
三 A. D. 1791)述 ④天明四刊 ⑤(京大、
日大未・五八二)

玄隆記 ①(日) Gen-ryō-ki. (支)
Hsuan-ryōng-chi. ①缺 ②(參考) 本朝
台祖撰述密部書目

玄隆師章 ①(日) Gen-ryō-shi-shū.
(支) Hsuan-ryōng-shō. 玄隆師章 元
隆章 ①一卷或十五卷 ②缺 ③(參考)
諸宗章疏錄第二 奈良朝現在一切經疏目錄
2763

玄樓師略傳 ①(日) Gen-ryō-shi-
ryaku-den. ①卷 ②存、鐵笛倒吹
講話附錄 ③(參考) 文化二一明治一一
A. D. 1805—1879) ④大正元刊 ⑤東京
一鳴社

玄樓師臨在家語 ①(日) Gen-ryō-
shū-rin-in-ka-go. ①卷 ②存 ③(參考) 諸宗章疏錄第二

名所行發 (名庫書)者蔵所現 月年の刊寫 (書考多書釋註)清水 說解管内 代年作者 著者 缺存 數卷 (名書)名題 號字子數

刊、言、法、原

- zen-jū-jin-zai-ke-go. ②三卷 ③存 ④
 玄樓集(享保五—文化一〇 A. D. 1720—1813) ⑤天保一四及文政二刊 ⑥駒大
刊評被論 ①(日) Gen-ito-Ayō-ha-ton. ②十卷 ③存 ④寫本(谷大、宗大、一九一六)
刊勝録 ①(日) Gen-hō-roku. ②
 ③存、眞宗全書第五九 ④市隠子撰
 ⑤寛文四(A. D. 1664)
 ⑥紀伊城北西山派の巨利持寺の學徒の著
 はせる「親賢正義決」及び大阪四天王寺の
 寶庫より出づと稱する「聖徳太子未來記」
 に、親賢の宗風並宗義を諷刺せるに對して
 破斥を試みたもので、先に「邪義決」に對
 して推邪のためにせられた「虛偽決」
 より二年後に流布せられた。總じて十三項
 よりなり。(一)肉食妻帯のこと。(二)無戒
 名字の比丘を大福田とすること。(三)說法
 高座制量のこと。(四)九種淨肉のこと。
 (五)諸神講佛を念せず餘行を修せざること。
 (六)月日の吉凶方向の是非を論ぜざること。
 (七)剃髮染衣名字の比丘供養功德無
 量のこと。(八)不淨說法五過失。(九)卒都
 婆位牌を立てざること。(一〇)下炬引導の
 ことを用ひざること。(一一)親賢人俗姓
 藤原氏の出身なること。(一二)選擇集相傳
 の事。(一三)文永九年龜山院寺毀下附のこ
 とを論じてゐる。
 ⑦寫本(谷大、宗大、一九一五)寛文一〇刊
 (谷大、宗大、六六八)龍大、一六一、三
 (大原性實)
言外和尚行狀 ①(日) Gen-ō-wai-
 go-go-to-ku. ①一卷 ②寫本(京
 大、印哲三、一、四)
 ③存、續群書類從第九
 ④宗眞(永享六—水正四 A. D. 1424—1507)撰
 ⑤京都臨濟宗龍興山大徳寺第八世傳正印
 禪師言外宗忠和尚の傳記を、法孫である大
 徳寺五十七世佛宗大弘禪師實傳宗眞和尚が
 撰じたものである。
 言外和尚は大徳寺二世徹翁義享禪師の
 法嗣である。正和四年(A. D. 1315)伊豫の
 越智氏に生れ、十九歳出家して積翠寺白翁
 雲に參じ、白翁の指示に依つて大徳寺に徹
 翁に參じて徹證した。永和二年(A. D.
 1376)八月十六日六十二歳のとき、勅命に
 依り大徳寺に陞住し、明徳元年(A. D.
 1397)十月九日示寂。壽七十六、臘五十八。
 大永八年(A. D. 1528)四月九日後奈良天皇
 より密傳正印禪師の諡號を賜つた。嗣法に
 華聖宗覺、大徳十八世大徳宗範、二十八世
 明徳宗智、三十一世日照宗光、德禪寺別峰宗
 壽、笑溪宗新等があり、行化の地としては
 豫州星岡山に五岳山雲門庵、攝州鳴尾に江
 月山長慶寺、城州大宮に見性寺、攝州海士
 時に瑞雲山廣徳寺等がある。文中に白翁、
 徹翁との機軸問答を詳述して居る。撰者實
 傳宗眞は、大徳寺四十一世春浦宗照の法嗣
 で永正四年(A. D. 1527)四月八日七十四歳
 の示寂である。(大久保堅瑞)
言詞類要 ①(日) Gen-shi-rui-yō.
 ①六卷 ②存 ③寫本(龍大、研佛)
法山諸祖語錄 ①(日) Gen-zan-sho-
 go-go-to-ku. ①一卷 ②寫本(京
 大、印哲三、一、四)
原光録 ①(日) Gen-ko-roku. ②1
 卷 ③存 ④小川獨笑述 ⑤明治四四刊
 ⑥(谷大、宗大、二六六)龍大、一七九四、一、
 (京大、一、二六六、七)
原始佛敎史 ①(日) Gen-shi-ban-
 kyō-shi. ①一卷 ②存 ③舟橋水哉著
 ④大正一、二再刊 ⑤東京廣文堂
原始佛敎思想論 ①(日) Gen-shi-
 buk-kyō-shi-ō-shō. ①一卷 ②存 ③木
 村泰賢(明治一四—昭和五 A. D. 1881—
 1930)著
 ④(第一篇) 大綱論。(一)原始佛敎の取扱
 方と本書の方針。(二)時勢と佛敎。(三)教
 理の網格。(第四篇) 事實的世界觀。(一)
 世界的原理としての因果觀。(二)有情論
 一般。(三)心理論。(四)業と輪廻。(五)特に
 十二緣起論に就て。(六)世界の本質に就
 て。(七)存在に對する價值判斷とその根柢。
 (第三篇) 理想とその實現。(一)修造論總
 説。(二)一般道徳。(三)信者としての修
 造。(四)出家の修業法。(五)修造の進程と
 羅漢。(六)涅槃論。
 ⑤昭和二再刊 ⑥東京丙午出版社
原始佛敎と禪宗 ①(日) Gen-shi-
 buk-kyō-shō-zen-shō. ①一卷 ②存 ③
 立花俊道著 ④大正一、五再刊 ⑤東京更生社
原始佛敎の實踐哲學 ①(日) Gen-
 shi-buk-kyō-shō-no-jī-shen-tetsu-tenka. ②
 ①一卷 ②存 ③社哲郎著 ④昭和二刊
 ⑤東京岩波書店
原州居頓寺圓空國師勝妙塔碑
 ①(日) Gen-shū-kyū-ton-ien-kō-koku-
 shi-shō-myō-shi. (支) Yuan-chou-chū-
 tun-sek-yuan-k'ung-kuo-shih-sheng-minio-
 ta-pei. ③存 ④高麗顯宗一六(A. D.
 1025) ⑤(參考) 朝鮮佛敎總書刊行豫定
 書目
 ⑥(日) Gen-shū-kyū-ton-ien-kō-o-shō-tō-
 shi. (支) Yuan-chou-hsing-fa-sū-tien-cha-
 ho-shang-ta-pei. ③存 ④新羅文聖王頃
 (A. D. 839—846) ⑤(參考) 朝鮮佛敎總
 書刊行豫定書目
原州法泉寺智光國師玄妙塔碑
 ①(日) Gen-shū-hō-sen-ji-kyō-koku-
 shi-fuon-kyō-shi. (支) Yuan-chou-fa-
 chuan-sō-shih-kuang-kuo-shih-hsuan-
 min-ō-ta-pei. ③存 ④(參考) 朝鮮佛敎
 總書刊行豫定書目
原色法隆寺壁畫 ①(日) Gen-shō-
 ka-hō-ryū-ji-heki-gwa. ①一卷 ②存
 ③辻本秀五郎編 ④昭和四刊 ⑤(立大、
 D. 七、一五八)
原道開邪說 ①(日) Gen-dō-byaku-
 ta-setsu. (支) Yuan-tao-chieh-hsieh-shuo.
 ①一卷 ②存、開邪集之内 ③明代費隱
 述、劉文龍編 ④刊本(龍大、二二、一八)
 ⑤(内閣) ⑥原人發徵錄訓蒙記 ①(日) Gen-
 nin-hōshū-nai-toku-kann-amb-ki. 原人論發
 徵錄訓蒙記、原人論發徵錄蒙記 ②二卷
 ③存 ④宜道(一明曆頃 A. D. 1653—1657
 一)述 ⑤萬治三刊 ⑥(正大、一二七、六)
 (谷大、餘大、三四七九)龍大、二六三九、一、
 (哲、一、四、右、二二二)

原

- Yuan-jen-lun. 華嚴原人論 ①一卷 ②
 存、大正四五、七〇七、七、1896、縮陽三、
 三三、四、一〇、明北1897、明南1899、
 Ki. 1894 ③唐宗密(建中元—會昌元 A. D.
 779—841)著
 ④華嚴の宗意を以つて人道の根本を原へ、
 本覺眞心を以つて根本となすことを主張せ
 る者であつて全文を四篇に分つ。(一)斥述
 執、備道二教の元氣判別説及び虛無大道説
 を破斥す。(二)斥偏淺、佛の不了義教なる
 入天教、小乘教、大乘法相教、大乘破相教
 の所説を擧げ、其次第の如く業爲身本説
 色心假合説、頓耶緣起説及び心地皆空説を
 破斥す。(三)眞顯眞源、佛の了義實教なる
 華嚴一乘教の旨に依りて本覺眞心を以つて
 萬有の根源となすことを明す。(四)會通本
 末、前に破斥せる諸教を會通して、同じく
 一乘教の一源に歸すべきを明かす。尙本文
 の外に自序及び製休の序、並に李純甫の後
 序がある。
 ⑤〔注釋〕發徵錄三卷。解三卷。合解二卷。
 續解三卷。羽翼略解一卷。增補科註一卷等
 〔參考〕新編諸宗敎總錄第三、諸宗宗統
 錄第二
 ⑥刊本(正大、一二七、三、一、二七、三—四)
 (高、寄、一、一、一六) (谷、餘大、三三—五)
 (哲、一、三、五、一八) (京專) (龍大、二六三
 九、一、一五)寫本(高、寄、一、一、一六、一、
 九、一、二七、二、一、二、一、二、一) (各
 大、餘大、一八六六)京大、藏、九、九、二九、慶
 應元刊(正大、一二七、一) (齋藤即應)
原人論 ①(日) Gen-nin-ron. (支)
 人論 ②存、昭和新纂國譯大藏經宗典部第
 一〇
原人論 ①(日) Gen-nin-ron. ②一
 卷 ③存、佛敎通俗講義之内 ④大内青樹
 (弘化二—大正七 A. D. 1845—1918)述
 (帝國、六、二、二六八)
原人論 ①(日) Gen-nin-ron. 科本原
 人論 ①一卷 ②存 ③福田義導科註
 明治八刊 ④(高、寄、一、一、一六)龍大、二
 六三九、一、三三
原人論 ①(日) Gen-nin-ron. 訓點改
 正文人論 ①一卷 ②存 ③刊本(正大、一
 二七、二) ④東京西山堂
原人論 ①(日) Gen-nin-ron. 增補科
 註原人論 ①一卷 ②存 ③岸上悵嶺(天
 保一〇—明治一八 A. D. 1839—1895)編
 ④明治一〇刊(帝國、一四五、七)明治一八刊
 (高、寄、一、一、一六) (京專) (龍大、二六二、九、
 一、八) (正大、二七、一、三、一、二、七、一、五)明治
 四二刊(谷大、餘大、六〇、一)
原人論 ①(日) Gen-nin-ron. 標科羽
 翼原人論 ①一卷 ②存 ③圓通(寶曆四
 一天保五 A. D. 1734—1834)略解、春空標科
 ④明治一四刊(帝國、四一、一、一一)
原人論記 ①(日) Gen-nin-ron-ki.
 ①一卷 ②存 ③稻葉道貫述 ④明治二二
 (A. D. 1898) ⑤寫本(谷大、餘大、一三、五
 一一)
原人論科文 ①(日) Gen-nin-ron-
 kwā-mon. (支) Yuan-jen-lun-ke-wen.
 ①一卷 ②(參考) 花嚴宗經論章疏目錄
原人論解 ①(日) Gen-nin-ron-ge.
 (支) Yuan-jen-lun-chih. 華嚴原人論解
 ②三卷 ③存、縮陽三、記續、二、九二
 ④元代圓覺述 ⑤明治三三刊 ⑥(谷大、長
 保、一〇七) (龍大、二六三九、二〇—二二)
 (帝國、一〇九、一、六六)京大、藏、一〇、四、一
 一)
原人論解 ①(日) Gen-nin-ron-ge.
 ②三卷 ③存、町元存堂註 ④明治三三
 刊 ⑤(内閣) (帝國、一〇九、一、六六)
原人論啓蒙鈔 ①(日) Gen-nin-ron-
 kei-mō-shō. ②二卷 ③存 ④實山梵堂成
 著 ⑤明治二二刊 ⑥(龍大、二六三九、一
 九) (帝國、一〇九、一、六九)
原人論玄談 ①(日) Gen-nin-ron-
 gen-dan. ①一卷 ②存 ③山本櫻謙(一
 明治三、八 A. D. 1905)記 ④寫本(龍大、二六
 三九、一一一)
原人論講苑 ①(日) Gen-nin-ron-
 kō-en. ②二卷 ③存 ④水原宏遠(文化
 五—明治三三 A. D. 1808—1890)述 ⑤明治
 一刊 ⑥(龍大、三九、二、三) (谷大、餘小、
 一一、四) (帝國、六、二〇、五)
原人論講義 ①(日) Gen-nin-ron-
 kō-gi. ①一卷 ②存 ③太雲(寛文一〇
 A. D. 1670—)述 ④寛文一〇寫 ⑤(正大、
 一一七、一七)
原人論講義 ①(日) Gen-nin-ron-
 kō-gi. ①一卷 ②存 ③堀江慶了(一、一、
 治三九 A. D. 1896)述 ④明治二六寫 ⑤
 (谷大、餘大、四二、八〇)
原人論講義 ①(日) Gen-nin-ron-
 kō-gi. ①一卷 ②存 ③大内青樹(弘化
 二—大正七 A. D. 1845—1918)述 ④明治三
 三刊(谷大、餘大、一〇六)明治三三刊(龍大、
 二六三九、二、四)
原人論講義 ①(日) Gen-nin-ron-
 kō-gi. ①一卷 ②存 ③熱田靈智(安政
 元—大正七 A. D. 1854—1918)述 ④大正一
 一刊 ⑤(龍大、二六三九、二、五—二六、研
 佛)京大、一、二、四、二、一一)
原人論講義 ①(日) Gen-nin-ron-
 kō-gi. 科註原人論講義 ⑤五卷或一卷
 ⑥存 ⑦岸上悵嶺(天保一〇—明治一八 A.
 D. 1839—1895)述 ⑧明治一四刊 ⑨(龍
 大) (帝國、六、二、一) 明治二六刊(帝國、四
 三、二五、二、九、一、三) 明治二七刊(正大、
 一一七、二、八) (京專)
原人論講義 ①(日) Gen-nin-ron-
 kō-gi. ①一卷 ②存、曹洞禪講義第三
原人論講義 ①(日) Gen-nin-ron-
 kō-gi. ①一卷 ②存、東京光臨館
原人論講義 ①(日) Gen-nin-ron-
 kō-gi. 通俗原人論講義 ①一卷 ②存
 ③水野道秀著 ④明治二六刊 ⑤(帝國、七
 〇、六九)
原人論講義錄 ①(日) Gen-nin-ron-
 kō-gi-roku. ①一卷 ②存、林道永述
 ③明治三五刊 ④(帝國、八、一、五〇、三)
原人論講解 ①(日) Gen-nin-ron-
 kō-gi. ③存 ④福田義導述
原人論講述 ①(日) Gen-nin-ron-
 kō-jutsu. ②二卷 ③存 ④吉谷覺壽(天
 保一三—大正三 A. D. 1842—1914)述 ⑤明

名所行發●(名庫書)者藏所現●月年の刊寫●(書考參書釋註)清本●説解書内●代年作者●著●缺●載●(名書)名題●號略字數

名所行發●(名庫書)者藏所現●月年の刊寫●(書考參書釋註)清本●説解書内●代年作者●著●缺●載●(名書)名題●號略字數

せし佛徒はその滅後如何に安立の根柢を變じ又何に歸依を求めしか。〔第六〕佛陀人格の譽論的叙説と佛傳の神話化（佛徒は如何にして佛陀を人界以上の神人と化したるか）。〔第七〕法と佛との一致（法身佛の觀念）。補遺參照。

◎明治二七刊 ◎東京有朋館
現圖曼陀羅大抄 ①(B) Gen-zai-man-man-dara-shō ②六册 ③存 ④京大・三共商會
 ◎東京三共商會
現圖曼陀羅四角八葉事 ①(B) Gen-zai-man-man-dara-shi-kaku-hachi-yō-no-koto ②一軸 ③存 ④建仁二寫 ⑤(實提善院)

現圖曼荼羅諸尊便覽 ①(B) Gen-zai-man-da-ra-shō-san-ben-ron ②八卷 ③存 ④菩提華便覽、諸尊便覽 ⑤八卷 ⑥存 ⑦菩提華詳編(寫延三一)文政六 A. D. 1750-1823)撰 ⑧文政二(A. D. 1819)

◎現圖兩界曼荼羅各尊の梵號、密號、種子、三摩耶形、尊形、印相、眞言の七項に分ちし、その異同を述べたもの。前四卷は金剛界、後四卷は胎藏界である。
 ◎大正四印行 ◎高野山八葉學會
現圖曼荼羅鈔 ①(B) Gen-zai-man-da-ra-shō ②二卷 ③存

◎曼荼羅大鈔中に收む不空譯と稱するも、日本人の手に成る事明か。金剛界九會、胎藏十三大院の各尊の曼荼羅座位・種子・尊名・本誓を記す(密教大辭典)。
現圖曼荼羅略要 ①(B) Gen-zai-man-da-ra-shō-yaku-yō ②一巻 ③存 ④(現)

◎天保一三寫 ①(高)大寄・一・五四) ②(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ③(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ④二册 ⑤存 ⑥印融(永享七-永正一六 A. D. 1435-1519) ⑦(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ⑧(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ⑨(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ⑩(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ⑪(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ⑫(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ⑬(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ⑭(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ⑮(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ⑯(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ⑰(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ⑱(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ⑲(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ⑳(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㉑(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㉒(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㉓(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㉔(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㉕(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㉖(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㉗(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㉘(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㉙(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㉚(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㉛(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㉜(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㉝(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㉞(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㉟(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㊱(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㊲(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㊳(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㊴(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㊵(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㊶(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㊷(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㊸(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㊹(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㊺(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㊻(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㊼(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㊽(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㊾(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㊿(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō

名所行發 (名庫書) 者蔵所現 (月年の刊寫) (書考參書釋註) 書本 (説解容内) 代年作者 (著者) 缺有 (書名) 題 (名書) 名題 (號略) 字數

初大本經。遊行經。大緣方便經。沙門果經。自歡喜經。善生經。典尊經。梵動經。裸形梵志經。三明經。清淨經。

◎第二卷 中阿含經抄(宇野圓空、林五邦共譯)
 ◎後讀波經。須陀婆羅王迎佛經。大因經。念處經。阿奴波經。寶丸論經。前羅曇彌經。賴吒想羅經。優婆塞經。算數目捷連經。阿彌經。羅摩經。

◎第三卷 中阿含經抄(鳥越道順譯)
 ◎須達勝經。阿伽羅那經。阿蘭那經。梵摩經。釋中禪室尊經。鷓鴣經。心經。受法經。分別布施經。持壽經。箭毛經。轉摩那修經。一切智經。法莊嚴經。受生經。箭輪經。例經。

◎第四卷 增一阿含經抄(赤沼智善譯)
 ◎佛弟子經。大羅羅羅教誡經。四法經。四人出現世間經。波斯匿王大后崩座土身經。三寶經。須摩提女經。瓊瑤王經。四大聲聞經。長者子六過出家經。婆耆沙經。火滅經。自性清淨經。羅中之難經。四座經。父母報恩經。老少經。二人出現經。賢愚經。車輪造者經。人經。四天王經。三神變經。三種異見經。親不知子不知經。高廣床座經。恐怖經。阿難經。三學經。布喻經。業道經。阿那律經。尊法經。獨體經。湯受滅盡經。兩行經。四行經。五力經。布施功德經。五不可得經。守根經。未來經。尸婆羅經。五福師經。五法經。五寶經。木積喻經。婆羅門經。造應經。世間經。

◎第五卷 增一阿含抄(泉芳瑞譯)

◎佛界初利天爲母說法經。尼乾經。舍利弗目連經。尸利提長者經。放生經。緣起經。提婆達多經。玉耶女經。大愛道般涅槃經。舍衛國王夢見十事經。須達長者經。過去諸佛說經。當來佛彌勒經。羅刹女經。朱利榮特經。八關齊法經。梵志發心經。四十二章經。

◎第六卷 雜阿含經抄(高島寬譯)
 ◎聖法印經。水住所漂經。城邑經。滿願子經。轉法輪經。須達多經。阿育王經。涅槃略說教誡經。法句經。教法經。難提釋經。法滅應配經。八正道經。馬有三相經。馬有八應覺入經。戒德香經。摩登伽經。四十二章經。

◎第七・八卷 律藏聖典(手島文會譯)
 ◎大別解說戒因緣廣本。
 ◎第九卷 律藏聖典(巖崎進人譯)
 ◎佛說戒消災經。優婆塞問佛經。佛說迦葉戒相經。舍利問經。沙彌尼戒經。沙彌十戒法並威儀。大愛道比丘尼經。大比丘三千威儀。

◎第一〇卷 論部聖典(羽溪了諦、甲斐實行共譯)
 ◎十上經。衆集經。象跡喻經。水喻經。鐵品經。比丘清經。置喙日健連經。法樂比丘尼經。大拘絺羅經。轉阿提經。八城經。阿那律陀經。見經。聖諦經。拘絺羅經。廣喻經。拘絺羅問經。閻浮車問經。大迦旃延經。阿難陀經。寶多羅長者經。

◎第一一卷(後藤亮一、林五邦共譯)

◎三、研真(天明六刊(京大、一・二六ケ・六) ①(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ②(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ③(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ④(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ⑤(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ⑥(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ⑦(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ⑧(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ⑨(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ⑩(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ⑪(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ⑫(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ⑬(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ⑭(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ⑮(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ⑯(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ⑰(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ⑱(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ⑲(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ⑳(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㉑(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㉒(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㉓(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㉔(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㉕(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㉖(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㉗(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㉘(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㉙(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㉚(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㉛(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㉜(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㉝(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㉞(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㉟(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㊱(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㊲(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㊳(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㊴(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㊵(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㊶(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㊷(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㊸(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㊹(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㊺(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㊻(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㊼(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㊽(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㊾(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō ㊿(現) Gen-zai-man-dara-shi-shō

名所行發 (名庫書) 者蔵所現 (月年の刊寫) (書考參書釋註) 書本 (説解容内) 代年作者 (著者) 缺有 (書名) 題 (名書) 名題 (號略) 字數

【ケ】

現代と浄土宗 ①(日) Gen-dai-to-jo-do-sha. ②一巻 ③存 ④桑原順旭著 ⑤大正六刊 ⑥東京浄土教報社

現代と日蓮聖人の教義 ①(日) Gen-dai-to-nichi-ren-sho-an-no-kyo-ga. ②一巻 ③存 ④小林一郎著 ⑤大正五刊 ⑥京都平樂寺書房

現代の青年 ①(日) Gen-dai-no-sei-nen. ②一巻 ③存 ④梅花啓正著 ⑤大正九刊 ⑥東京二松堂

現代布教全書 ①(日) Gen-dai-to-kyo-ken-sho. ②存 ③昭和七刊 ④京都法藏館

現代佛敎家人名辭典 ①(日) Gen-dai-bok-kyo-ka-jin-mei-ji-ten. ②一巻 ③存 ④井上泰岳編 ⑤大正六刊 ⑥東京圖書刊行會

現代佛敎講座 ①(日) Gen-dai-bok-kyo-ko-za. ②四巻 ③存 ④甲子社編 ⑤大正一五刊 ⑥東京甲子社書房

現代佛敎思想 ①(日) Gen-dai-bok-kyo-shi-so. ②一巻 ③存 ④根山半三郎著 ⑤昭和四刊 ⑥(各)大

現代佛敎の研究 ①(日) Gen-dai-bok-kyo-no-ken-kyu. ②一巻 ③存 ④姉崎正治著 ⑤昭和六刊 ⑥東京同文館

現代名家新説話 ①(日) Gen-dai-mei-ka-shin-seiwa. ②一巻 ③存 ④藤水清敏編 ⑤昭和七刊 ⑥京都顯道書院

現代名家禪學評論 ①(日) Gen-dai-mei-ka-zen-gaku-hyu-ron. ②一巻

③存 ④榮性(一寛政元 A. D. 1789)述 ⑤寫本(各)大、餘大、四一八二二)

減縁減行決擇辨 ①(日) Gen-en-gen-kyo-kec-chaku-ben. ②一巻 ③存 ④佐伯祖雅(文政一一明治二四 A. D. 1828—1891)述 ⑤明治一六刊 ⑥(各)大、餘大、一九七〇(龍大、二六二三四)寫本(京大、日大、大、一六〇)

減縁減行再論 ①(日) Gen-en-gen-kyo-sai-ki-ron. ②四巻 ③減縁減行再論論 ④一巻 ⑤存 ⑥皆空述 ⑦享保三刊 ⑧(京大)哲、七、二、左、一四(龍大、二六二三四、一〇一一)(各)大、餘大、二五八)

減縁減行再論遊刃 ①(日) Gen-en-gen-kyo-sai-ki-ron-yu-jin. ②一巻 ③存 ④藤澤淨空(一享保六 A. D. 1721—)述 ⑤享保六刊 ⑥(龍大、二六二三四、一〇一一)(各)大、餘大、二五八、一五九)

減縁減行捷徑 ①(日) Gen-en-gen-kyo-sho-kei. ②一巻 ③存 ④慧光(一元祿三 A. D. 1690)述 ⑤元祿一五刊(正大、一一九〇、一八四)刊本(各)大、餘大、三四九六(高、大、寄、一、一一)延享三寫(高、大、寄、一、一一)

減縁減行捷覽 ①(日) Gen-en-gen-kyo-sho-kan. ②一巻 ③存 ④元祿一三刊 ⑤(龍大、研佛)

減縁減行深奥鈔 ①(日) Gen-en-gen-kyo-jian-q-sho. ②一巻 ③存 ④聖聽(貞治五—水亨二 A. D. 1366—1440)説水亨二一或龍永二四(龍大、寄、一、一一)寛文一〇

③存 ④松田湛堂編 ⑤明治四一刊 ⑥(京大、一、二五、二) (駒大) ⑦東京鴻聖社

現代名士の參禪實話 ①(日) Gen-dai-mei-ka-shi-no-san-zen-jitsu-wa. ②一巻 ③存 ④谷至堂編 ⑤昭和六刊 ⑥東京中央出版社

現道神足經 ①(日) Gen-do-jin-so-ku-kyo. (支) Hsien-tao-shen-tsu-ching. ②一巻 ③存 ④失譯 ⑤(參考) 出三藏記第四、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

現報當受經 ①(日) Gen-pao-tso-ji-kyo. (支) Hsien-pao-tang-shou-ching. ②一巻 ③存 ④大正八五・一四〇九 No. 2892

⑥天册萬歲元(A. D. 895)撰、大周刊定衆經目錄に載せられた偽經

⑦本經日は初めて大周刊定衆經第一五卷(大正五五卷四七四頁下)の偽目に出で、天册萬歲元年(A. D. 695)以前、道宣の内典錄(A. D. 664撰)以後、恐らく第七世紀末に出でしものであらう。開元釋教錄第一八卷(大正五五卷六七八頁上)及び貞元釋教錄第二八卷(大正五五卷一〇二三頁上)は何れも大周錄を踏襲して偽目録に入れ、大周錄の撰者明倫等が他の經典等と併せて次の如く述べてゐる。即ち「右の經古來相傳して皆偽謬なりと云(り)。(中略)佛説の名を偷むと雖も、終に人誤の狀を露せり」と。本經の要旨は經題に示されてゐる如く、因果應報を説けるもので本經が妄子を殺すの因縁を敘し、慈心作善を説いてゐる。今其の概略を示せば、父母兄弟の家を去つた

一婦人が限り無き不幸と悲劇とが續いて起りしこと、先づ夫に死に別れ、次に生理中泥棒に渡られたが、其の泥棒が殺され、後に長者子と結婚して二子を生み、第三子を出産せし折、夫泥棒して外より來り、我が子を産もて煎煮し、それを脅迫して妻に食はしめしこと、朝且醒めて之れを耻ぢ遂に不飲酒を誓ひしこと、後、相携て妻の故郷を訪はんとして出發の途中央は毒蛇に齧られて死せしこと、妻驚き啼哭しながらも二子を伴ひ道を急ぎしに、長子は虎狼に食はれ、次子は溺死するなど、一人道然と歸宅すれば、實家はすべて火災に見舞はれ、大小悉く焼失して彼女は轉倒悶絶向する所なきを述し(發起)、其の時釋尊は大衆の爲に説法されてゐたが、天賦もて此の女人を觀、阿難に告げていふには「汝は賣衣を以つて此の女人を迎へよ」と。阿難はそこで賣衣を以つて此の女人を迎へて衆中に連れ來つた。女人は世尊を禮拜して慚愧し懺悔したれば、佛は爲に法を説いたから、諸の結縛を斷じて離漢果を得たこと。それから佛は衆衆に向つて此の女人は過去世の因業により現在の苦果を招いたことを説いたものとして經を成立せしめてゐる。以上極めて短簡であるが開元錄偽妄中(大正五五卷六七三頁上)の「姚祐新經亦云始婦經」と其の内容相類するもの、様々ある。

⑦(參考) 武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八 ⑧煇煌出土本(大英博物館藏本 S. 3076) (矢吹慶福一成田昌信)

現妙好人傳 ①(日) Gen-myaku-to-nin-den. ②一巻 ③存 ④森川靈澄編 ⑤大正八刊 ⑥(各)大、宗、五、三三)

現益辨惑論 ①(日) Gen-yaku-ben-waku-ron. ②二巻 ③缺 ④勢北愚堂作 ⑤(參考) 浄土眞宗教典卷第二

眼色相繫經 ①(日) Gen-shiki-g-kei-kyo. (支) Yen-sek-hsiang-chi-ching. ②一巻 ③存 ④阿含經第二十一卷の抄出。 ⑤(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

眼耳錄 ①(日) Gen-iroku. ②二巻 ③存 ④深慧述 ⑤寫本(龍大)

眼能視殺人經 ①(日) Gen-ni-shi-satsu-nin-kyo. (支) Yen-neng-shih-sha-jen-ching. ②一巻 ③缺 ④(參考) 出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

減縁減行 ①(日) Gen-en-gen-kyo. ②一巻 ③存 ④慶房述 ⑤慶長一三寫 ⑥(高、大、寄、一、一一)

減縁減行 ①(日) Gen-en-gen-kyo. ②一巻 ③存 ④慧隆述 ⑤寫本(各)大、餘大、四一七四)

減縁減行決斷 ①(日) Gen-en-gen-kyo-kecshu-dan. ②一巻 ③存 ④榮性(一寛政元 A. D. 1789)述 ⑤寛政六刊(龍大、研佛)正大、一一九〇、一八七、寛政七刊(正大、一一九〇、一八六)

減縁減行決斷指要 ①(日) Gen-en-gen-kyo-kecshu-dan-shi-yo. ②一巻

名所行録(名庫書)者處所現(月年の刊寫)(書考多書釋註)書本(説解管内)代年作者(著者)缺有(數巻)(名書)名題(號略)字數

【ケ】

⑤(龍大、二六八四・二七)

減縁減行雙輪編 ①(日) Gen-en-gen-kyo-sou-ryu-hen. ②一巻 ③存 ④源道述 ⑤寶曆九刊 ⑥(龍大、研佛)

減縁減行中忍觀行義 ①(日) Gen-en-gen-kyo-chu-nin-kan-kyo-gi. ②一巻 ③存 ④林常快道(寶曆元—文化七 A. D. 1751—1810)述 ⑤寫本(正大、一九〇、一八五)

減縁減行朝暉論 ①(日) Gen-en-gen-kyo-chu-ka-ron. ②一巻 ③存 ④龍辰記 ⑤寫本(龍大、二六二三四、一〇一一)

減縁減行開異翼正記 ①(日) Gen-en-gen-kyo-kyaku-ishi-kyo-shi-ki. ②二巻 ③存 ④如實(元祿一一寶曆五 A. D. 1698—1755)述 ⑤刊本(京大、哲、七、二、中、一七)

減縁減行略決 ①(日) Gen-en-gen-kyo-ryaku-kecshu. ②一巻 ③存 ④主海(一延寶頃 A. D. 1673—1690)述 ⑤寶永五刊 ⑥(立大、A. D. 1743) (正大、一一九〇、一八八)

源榮覺書 ①(日) Gen-en-ai-ohoe-gan-ki. ②一巻 ③存 ④源榮(一元和四 A. D. 1618)記 ⑤大正八寫 ⑥(正大、一五一四・一五八)

源翁和尚と殺生石 ①(日) Gen-on-sho-ou-sho-kyo-shi-ishi-seki. ②一巻 ③存 ④横井見明著 ⑤明治四四刊 ⑥(正大、一七七・六) ⑦東京葦江書店

源翁禪師傳 ①(日) Gen-on-zen-shi-den. ②存 ③續群書類從第九

⑤玉藻前化狐の傳説に名高い野州那須野の殺生石を度したと云ふ、謂ゆる石割源翁の傳ある熊澤法王禪師源翁心昭和尚(一作玄翁玄妙)の傳である。續群書類從の本書に據れば、十八歳嵯峨山に謁して洞上の宗旨を究め、後深草天皇の命を奉じて野州那須野に赴き破産の因縁を畢し卓杖破石し、北條時頼の歸依を受け、蘇州殿島の龍神に授戒し、奥州會津の示現寺を開き、弘安三年正月十日(A. D. 1380)示寂せる旨、並に鎌倉扇谷に海蔵寺を建て居し建長寺大覺禪師の臨濟の宗旨に參じたりと記して居る。然るに洞上源翁傳卷二、延寶傳燈錄卷七、本朝高僧傳卷三十六等の源翁禪師傳に據れば、十九歳にして巖山祖頌に總持寺に謁し、應安四年結城の安樂寺を開き、永和元年四月十五日(A. D. 1375)に會津の示現寺に遊院し、殺生石を度したのには至徳二年八月十三日(A. D. 1385)であり、足利義滿の歸依を受け、晩年示現寺に退休し、應永三年正月七日(A. D. 1396)示寂したもので、壽七十一、臘五十六であつたと記されて居る。予は此の説を穩當と認む。

(大久保堅瑞)

源海因縁 ①(日) Gen-kai-in-en. (大久保堅瑞)

⑤一巻 ③存 ④寫本(各)大、宗大、一五七五)

源空記 ①(日) Gen-ku-ki. ②一巻 ③缺 ④聖覺(仁安二—嘉祿元 A. D. 1167—1235)撰 ⑤(參考) 總持寺依源章疏目錄

源空上人御因縁 ①(日) Gen-ku-sho-nin-go-in-en. ②缺 ③(參考) 浄土眞宗教目録

源空上人御法語 ①(日) Gen-ku-sho-nin-go-ho-go. ②一巻 ③存 ④寫本(龍大)

源空上人七箇條管註 ①(日) Gen-ku-sho-nin-ji-kajo-kan-ji. ②一巻 ③存 ④松源(一延寶頃 A. D. 1673—1690)述 ⑤延寶八刊 ⑥(正大、一五〇・一五三)

源空上人十六門記 ①(日) Gen-ku-sho-nin-ju-roku-mon-ki. ②一巻 ③存 ④黒谷源空上人傳、十六門記 ⑤一巻 ③存 ④浄土宗全書第一七、法然上人全集、續群書類從第九、帝國文庫第四四傳敎各宗高僧實傳 ⑥聖覺(仁安二—嘉祿元 A. D. 1167—1235)記 ⑦安貞元(A. D. 1227) (參考) 浄土宗眞教典卷第三 ⑧安永五寫(各)大、宗大、三九五九(延寶四刊(正大、一五一六・六〇)(龍大、二九六五・一八一—一九)(哲、七、五、右、三三)(各)大、宗大、四七四三、宗大、四七四(正大、一五一六・五九)(帝國、八〇・二二一)) ⑨京都西村護法館

源空上人年譜 ①(日) Gen-ku-sho-nin-nen-pu. ②一巻 ③存 ④帝國、一一一〇・二〇〇)

名所行録(名庫書)者處所現(月年の刊寫)(書考多書釋註)書本(説解管内)代年作者(著者)缺有(數巻)(名書)名題(號略)字數

【ケ】

源空上人別傳私註 ①(日) Gen-shō-ain-been-den-shi-cha. ②一巻
 ③存 ④負笈子撰 ⑤明曆四刊 ⑥龍大、二九六・四〇(哲、ら・五・右・一〇)
源空上人略年譜 ①(日) Gen-kō-shō-ain-ryaku-nen-pu. ②一巻 ③存
 ④萬治三刊(各六、宗大・三二七)
源空上人略要年譜 ①(日) Gen-kō-shō-ain-ryaku-yō-nen-pu. ②一巻
 ③存 ④負笈子撰 ⑤萬曆三刊 ⑥(正大、一五一六・一九)
源空聖人私日記 ①(日) Gen-kō-shō-ain-wakushi-ni-ki. ②一巻 ③存、淨土宗全書第一七、傳記系譜、西方指南抄卷中末(大正八三・八七五)之内
 ④本書は法然上人の御一代を漢文體にて簡略に述べたものである。作者は詳かでない。即ち上人の生國出處より保延七年(A. D. 1141)の慘劇、依りて觀覺得業の下で出家、天養二年(A. D. 1145)の叡山初登山に就き母子の訣別を記し、勤學刻苦求道證悟の經過を述し、遂に善導大師の遺業を體して念佛の宗旨を開創せざるべからざる由來を陳べ、次に文治二年の比の大原禪師の集會所謂大原談義の事蹟を述べて參會したる重なる人々の名前、顯眞法印を始めとして三論の明備(普通は通を省く)、法相の貞慶、大原山本成坊、東大寺勸進修(普通は後)業坊重源、龍巖往生院の念佛坊、大原來迎院の蓮慶、菩提山長尾蓮光坊、天台の智海法師、寶地坊證眞などの名を列ねてゐる。

高倉帝の御宇安元元年(承安五年に同じ A. D. 1175)開宗以後は念佛稱名の功重に依つて三昧獲得の趣を記し、雲山寺三七日不斷念佛の間に燈明なれども光明あり、第五夜には夢至菩薩と與に行道したまへし奇瑞を陳べ、次に月輪禪師兼實公の歸依甚深なりしより所謂頭光の橋の事蹟を記し、それより後は流罪、散免、歸洛より建曆二年(A. D. 1212)正月廿五日臨終の次第より光明遍照の文を口ずさみながら眠るが如く大往生の業懐を遂げられたる事を書き、末代惡世の衆生と雖も彌陀稱名の一行に依り悉く往生の業懐を遂げらるべきは源空聖人傳説興行の故なりと結してゐる。
 法然上人傳としては舜昌法印の勸修御傳四十八巻を初めとして、黒谷源空上人傳一巻(聖覺)。法然上人傳三巻(隆寛)。本朝祖師傳記繪詞四巻(就空)。法然上人傳二巻(殘映)。法然上人傳記九巻。法然上人傳繪詞九巻(琳河)。法然上人傳十巻等がある。(参考) 淨土眞宗教典志第一 (成田昌信)
源政歴誌 ①(日) Gen-ko-ryaku-shi. ②一巻 ③存 ④寶殿照海編 ⑤寫本(劇大)
源信僧都 ①(日) Gen-shin-sō. ②一巻 ③存 ④鶴田多八著 ⑤大正三刊 ⑥龍大、二九六・一三三
源信僧都四十箇條起請 ①(日) Gen-shin-sō-jū-jū-jō-kyō. ②一巻 ③存、日本教育文庫第一二宗教篇之内 ④源信(天慶五—寛仁元 A. D. 942—1017)撰

源信僧都傳 ①(日) Gen-shin-sō-den. ②存、帝國文庫第四四傳教各宗高僧傳之内 ③傳文館編
源信僧都之詞 ①(日) Gen-shin-sō-an-no-kotoba. 内道者持念 ②一巻 ③存、大日本佛教全書第三一 ④源信(天慶五—寛仁元 A. D. 942—1017)撰
 ⑤一本に題して内道者持念といひ、八字偈廿二句の一小品であるが、性空上人の開導居士の詞と其類を同じくし、座右の銘として、よく無常遷流の中に地獄を恐れ極樂の欣ぶべきを美言佳辭の中に看破してある。(川宮中人)
源信僧都篇 ①(日) Gen-shin-sō-hen. ②一巻 ③存、高僧名著全集第三一 ④昭和六刊 ⑤東京平凡社
源信枕紳紙 ①(日) Gen-shin-maku-tan-no-shi. 枕紳紙 ②一巻 ③存、大日本佛教全書第三一 ④源信(天慶五—寛仁元 A. D. 942—1017)撰 ⑤寛永一九寫 ⑥(谷大、餘小・一五)
源姓赤松氏系圖 ①(日) Gen-sei-aka-matsukawa-kei. ②一巻 ③存、藤雲尊者全集第一七 ④慈雲欣光(享保三—文化元 A. D. 1713—1802)撰 ⑤著者眞蹟本(東京市牛込區大久保百人町森川清氏藏)
源流略傳 ①(日) Gen-ryū-ryaku-den. ②一巻 ③存、月波碑師語錄附錄 ④元順等編 ⑤寫本(劇大)
賢賀渡海學衆新入之記 ①(日) Ken-ga-ki-kaiki-gaku-shū-shinnyū-no-ki. ②一冊 ③存 ④享保四寫 ⑤(寶

菩提院)
賢愚因緣經 ①(日) Gen-gu-in-en-kyō. (支) Isten-yū-in-yan-yuan-ehing. 賢愚經 ②十三巻 ③存、大正四・三四九 No. 202. ④縮寫九、二二六・三一四、北385號、南1001號、元997號、明北1315左邊、清1315左邊、麗989號、天992號、指947、法974、至1433佐衛、明南1077、誠美、N. 1322 ⑤慧覺譯 ⑥元魏太平眞君六(A. D. 445) ⑦寫本(龍大、二二一・一一一)
賢愚經 ①(日) Gen-gu-kyō. (支) Isten-yū-ehing. (支) Damandak-aidan-sūtra. (藏) Hdsan-bhan shee-bya-baji edo. 賢愚因緣經 ②十三巻 ③存、大正四・三四九 No. 202. ④縮寫九、二二六・三一四、北385號、南1001號、元997號、明北1315左邊、清1315左邊、麗989號、天992號、指947、法974、至1433佐衛、明南1077、誠美、N. 1322 ⑤慧覺譯 ⑥元魏太平眞君六(A. D. 445) ⑦寫本(龍大、二二一・一一一)
 ⑧この經は出三藏記集の第九(大正五五・六七)の賢愚經記に依ると、河西の沙門曇覺、威德等八人が于闐(Khotan)の大寺の較通子瑟會(五年毎の大會)に於て、各開たところを譯して、高昌(Karakhojo)に還り、その地にて集めて一部となしたものであり、譬喩經に屬するものであるが、涼州に於いて釋慧朗が經の性質に考へ、既に他の二三の譬喩經が漢譯せられてゐるので、それらに簡んで賢愚經と命名したものである。此れに依つて知らるゝことは、第一に賢愚經の經名が譯名ではなく、漢人

【ケ】

が命名したものであること、原名は今日では不明であるが、Avadāna 何とかとしてあつたものであらう。第二には譯者が涼州の沙門曇覺等としてゐるが、これは慧德、曇覺等の意味であることである。
 この經典は勿論 Avadāna に屬するものであり、撰集百緣經、雜寶藏經と共にこの種の佛教文學中の三大部をなすものであり、殊に撰集百緣經とは密接の關係があり、次に示すように同語を見出すことの出来るものである。
 賢愚經 No. 3 6 8 9 26 36
 No. 59 98 99 83 73 88 69
 撰集百緣經 No. 59 98 99 83 73 88 69

六十九品、即ち六十九話を内容とし、この中普通の Avadāna 形式のもの、即ち現在の行爲を過去の物語にて説明したもの五三、本生譚と結びつけたもの一、現在の行爲を過去の物語にて説明すると共に未來の授記をなしたものと五、現在の行爲に追隨する現在の果報を説いたものと十となつてゐる。
 漢譯に原本と宋、元、明三本の相違があり、西蔵譯もある。その出處は左に示す通りである。蒙古本も譬喩の大海(Uitger-tan-lain)の名で存在してゐるといふことである。
 品名 原本 三本 西蔵本
 (一)梵天請法六事品(一) 一・一 一・一 No. 1
 (二)摩訶薩埵以身施虎品(一) 一・一 No. 1

(三)貧人夫婦獲施得現報品(支) 五・三 No. 18
 (四)迦梅延教老母賣貨品(支) 五・三 No. 19
 (五)金天品(支) 五・三 No. 20
 (六)重姓品(支) 五・三 No. 21
 (七)散積零品(支) 五・三 No. 24
 (八)月光王頭飾品(支) 五・三 No. 22
 (九)快日王眼藥品(支) 五・三 No. 23
 (十)五百百兒往還逐佛緣品(支) 五・三 No. 23
 (十一)富那奇緣品(支) 五・三 No. 24
 (十二)迦尼提度緣品(支) 五・三 No. 24
 (十三)大劫寶零品(支) 五・三 No. 24
 (十四)梨耆耆七子品(支) 五・三 No. 23
 (十五)設願願健事品(支) 五・三 No. 26
 (十六)蓋事因緣品(支) 五・三 No. 26
 (十七)大施杼海品(支) 五・三 No. 30
 (十八)淨居天請佛洗品(支) 五・三 No. 30
 (十九)善太子入海品(支) 五・三 No. 33
 (二十)摩訶舍奴緣品(支) 五・三 No. 31
 (二十一)善求願緣品(支) 五・三 No. 32
 (二十二)阿難持持品(支) 五・三 No. 32
 (二十三)優婆塞所見所殺品(支) 五・三 No. 31
 (二十四)須達起精舍品(支) 五・三 No. 31
 (二十五)大光明始發無上心品(支) 五・三 No. 31

(二十六)勸那團耶品(支) 五・三 No. 39
 (二十七)迦尼梨百頭品(支) 五・三 No. 36
 (二十八)無惱指鬘品(支) 五・三 No. 36
 (二十九)檀賦騎品(支) 五・三 No. 39
 (三十)師質子摩羅羅世質品(支) 五・三 No. 40
 (三十一)檀羅羅品(支) 五・三 No. 41
 (三十二)象護品(支) 五・三 No. 42
 (三十三)波婆羅品(支) 五・三 No. 42
 (三十四)三關問四諸品(支) 五・三 No. 43
 (三十五)烏闍比丘法生天品(支) 五・三 No. 43
 (三十六)五百那開佛法生天品(支) 五・三 No. 48
 (三十七)聖誓師子品(支) 五・三 No. 49
 (三十八)梵志施佛納衣得受記品(支) 五・三 No. 43
 (三十九)佛始起慈心緣品(支) 五・三 No. 44
 (四十)頂生王品(支) 五・三 No. 45
 (四十一)蘇曼女十子品(支) 五・三 No. 45
 (四十二)愛世禮品(支) 五・三 No. 46
 (四十三)優婆塞緣品(支) 五・三 No. 38
 (四十四)優婆塞緣品(支) 五・三 No. 47
 (四十五)水中虫品(支) 五・三 No. 30
 (四十六)沙彌均提品(支) 五・三 No. 51
 (四十七)三寶紀第九、內典錄第九、譯經圖記第三、貞元錄第九、開元錄第六
賢愚經 ①(日) Gen-gu-kyō. 現代意譯賢愚經 ②一巻 ③存、現代意譯根本佛

名所行發 (名庫書) 藏所現 (月年の刊寫) (書考多書釋註) 書本 (說解書内) 代年作者 (著書) 缺有 (數巻) (名書) 名題 (號略) 字數

名所行發 (名庫書) 藏所現 (月年の刊寫) (書考多書釋註) 書本 (說解書内) 代年作者 (著書) 缺有 (數巻) (名書) 名題 (號略) 字數

【ケ】

敬聖典義書第四 ①赤沼智善譯

賢愚經 ①(日) Gen-ku-kyō 國譯賢愚經 ②一卷 ③存、國譯一切經本緣部第七 ④赤沼智善、西尾京雄共譯

賢護長者會 ①(日) Ken-go-chō-hai (支) Hsien-hu-chang-ché-hai (梵) Bhadrakalpa-sūtra (藏) Hphags-pa tshon-dpon bzad-skyo gis shus-pa shes-bya-ba theg-pa chen-pohimdo. 移譯經 ②二卷 ③存、大寶積經第一〇九一一〇(大正一三No.310.39) ④國那編多譯 ⑤隋開皇一(AD.591) ⑥此の會も、大寶積經百二十卷本の編まれた折、その一會として輯録せられたもので、もとは移譯經と呼び、開皇十一年(西紀五九一)の譯出に於けるものである(三寶紀一二)が、それには信證を缺いてゐたので、編入の際、新たに是れを加へ(開元錄一一)で、經の第三十九會となしたものである。異譯には唐の地婆訶羅の譯した(六八〇)大乘顯經二卷がある。

賢護菩薩法 ①(日) Ken-go-bō-hō-hō-hō ①一帖 ②存 ③德川時代寫 ④(寶龜錄)

賢劫經 (日) Gen-ko-kyō (支) Hsien-chieh-king (梵) Bhadrakalpa-sūtra (引用・譯傳) Hphags-pa bskai-ba bzad-po shes-bya-ba theg-pa-chen-pohimdo.

【ケ】

賢劫定意經、處陀三昧經 ⑧八卷 ⑨存 大正一四・四二五No.425、縮黃四、卅一一・五、北396談、南400談、元392談、明北399特、清399特、麗387談、天396談、指339寧、法387寧、至397詳、明南392特、Np.403 ⑩竺法護譯 ⑪西晉惠帝永康元(AD.300)譯出、一說元康元(AD.291)

賢劫千佛名經 ①(日) Gen-ko-sen-pausan-kyō (支) Hsien-chieh-chien-pausan-kyō (梵) Hsien-chieh-chien-pausan-kyō ②一卷 ③存、後漢代失譯 ④賢劫經の抄出 ⑤(參考) 出三藏記第四、法華經第二、三寶紀第四、仁壽錄第三、晉書錄第三、內典錄第一、第三、武周錄第一、開元錄第一、第四、第六、貞元錄第二、第二、第二、第二

賢者五福經 ①(日) Gen-ko-gō-fuku-kyō (支) Hsien-ché-wu-fu-king (梵) Hsien-ché-wu-fu-king ②一卷 ③失譯 ④(參考) 出三藏記第四、法華經第一、三寶紀第七、內典錄第三

賢者威儀 ①(日) Gen-ko-i-i (支) Hsien-ché-wi (梵) Hsien-ché-wi ②一卷 ③失譯 ④(參考) 出三藏記第四、法華經第五、仁壽錄第五、晉書錄第五

賢

賢

賢劫經 ①(日) Gen-ko-kyō (支) Hsien-chieh-king (梵) Bhadrakalpa-sūtra (引用・譯傳) Hphags-pa bskai-ba bzad-po shes-bya-ba theg-pa-chen-pohimdo.

賢劫十六尊 ①(日) Gen-ko-jū-roku-on (支) Hsien-ché-shih-shih-sun (梵) Hsien-ché-shih-shih-sun ②一卷 ③存、大正一八・三三九No.339、縮餘四、卅一・三三

賢劫五百佛名 ①(日) Gen-ko-iro-pai-hyaku-butsumyō (支) Hsien-chieh-wu-pai-hyaku-butsumyō ②一卷 ③存、北凉代失譯 ④(參考) 出三藏記第三、第四、法華經第二、三寶紀第九、仁壽錄第三、晉書錄第三、內典錄第一、開元錄第四、第一、貞元錄第六、第二、第二

賢劫千佛名 ①(日) Gen-ko-sen-pausan-kyō (支) Hsien-chieh-chien-pausan-kyō (梵) Hsien-chieh-chien-pausan-kyō ②一卷 ③存、後漢代失譯 ④賢劫經の抄出 ⑤(參考) 出三藏記第四、法華經第二、三寶紀第四、仁壽錄第三、晉書錄第三、內典錄第一、第三、武周錄第一、開元錄第一、第四、第六、貞元錄第二、第二、第二、第二

賢

賢

賢劫經 ①(日) Gen-ko-kyō (支) Hsien-chieh-king (梵) Bhadrakalpa-sūtra (引用・譯傳) Hphags-pa bskai-ba bzad-po shes-bya-ba theg-pa-chen-pohimdo.

賢劫十六尊 ①(日) Gen-ko-jū-roku-on (支) Hsien-ché-shih-shih-sun (梵) Hsien-ché-shih-shih-sun ②一卷 ③存、大正一八・三三九No.339、縮餘四、卅一・三三

賢劫五百佛名 ①(日) Gen-ko-iro-pai-hyaku-butsumyō (支) Hsien-chieh-wu-pai-hyaku-butsumyō ②一卷 ③存、北凉代失譯 ④(參考) 出三藏記第三、第四、法華經第二、三寶紀第九、仁壽錄第三、晉書錄第三、內典錄第一、開元錄第四、第一、貞元錄第六、第二、第二

賢劫千佛名 ①(日) Gen-ko-sen-pausan-kyō (支) Hsien-chieh-chien-pausan-kyō (梵) Hsien-chieh-chien-pausan-kyō ②一卷 ③存、後漢代失譯 ④賢劫經の抄出 ⑤(參考) 出三藏記第四、法華經第二、三寶紀第四、仁壽錄第三、晉書錄第三、內典錄第一、第三、武周錄第一、開元錄第一、第四、第六、貞元錄第二、第二、第二、第二

賢

賢

賢劫經 ①(日) Gen-ko-kyō (支) Hsien-chieh-king (梵) Bhadrakalpa-sūtra (引用・譯傳) Hphags-pa bskai-ba bzad-po shes-bya-ba theg-pa-chen-pohimdo.

賢劫十六尊 ①(日) Gen-ko-jū-roku-on (支) Hsien-ché-shih-shih-sun (梵) Hsien-ché-shih-shih-sun ②一卷 ③存、大正一八・三三九No.339、縮餘四、卅一・三三

賢劫五百佛名 ①(日) Gen-ko-iro-pai-hyaku-butsumyō (支) Hsien-chieh-wu-pai-hyaku-butsumyō ②一卷 ③存、北凉代失譯 ④(參考) 出三藏記第三、第四、法華經第二、三寶紀第九、仁壽錄第三、晉書錄第三、內典錄第一、開元錄第四、第一、貞元錄第六、第二、第二

賢劫千佛名 ①(日) Gen-ko-sen-pausan-kyō (支) Hsien-chieh-chien-pausan-kyō (梵) Hsien-chieh-chien-pausan-kyō ②一卷 ③存、後漢代失譯 ④賢劫經の抄出 ⑤(參考) 出三藏記第四、法華經第二、三寶紀第四、仁壽錄第三、晉書錄第三、內典錄第一、第三、武周錄第一、開元錄第一、第四、第六、貞元錄第二、第二、第二、第二

賢

賢

賢劫經 ①(日) Gen-ko-kyō (支) Hsien-chieh-king (梵) Bhadrakalpa-sūtra (引用・譯傳) Hphags-pa bskai-ba bzad-po shes-bya-ba theg-pa-chen-pohimdo.

賢劫十六尊 ①(日) Gen-ko-jū-roku-on (支) Hsien-ché-shih-shih-sun (梵) Hsien-ché-shih-shih-sun ②一卷 ③存、大正一八・三三九No.339、縮餘四、卅一・三三

賢劫五百佛名 ①(日) Gen-ko-iro-pai-hyaku-butsumyō (支) Hsien-chieh-wu-pai-hyaku-butsumyō ②一卷 ③存、北凉代失譯 ④(參考) 出三藏記第三、第四、法華經第二、三寶紀第九、仁壽錄第三、晉書錄第三、內典錄第一、開元錄第四、第一、貞元錄第六、第二、第二

賢劫千佛名 ①(日) Gen-ko-sen-pausan-kyō (支) Hsien-chieh-chien-pausan-kyō (梵) Hsien-chieh-chien-pausan-kyō ②一卷 ③存、後漢代失譯 ④賢劫經の抄出 ⑤(參考) 出三藏記第四、法華經第二、三寶紀第四、仁壽錄第三、晉書錄第三、內典錄第一、第三、武周錄第一、開元錄第一、第四、第六、貞元錄第二、第二、第二、第二

【ケ】

- (一)無際品 (二) (三) (四) (五) (六) (七) (八) (九) (十) (十一) (十二) (十三) (十四) (十五) (十六) (十七) (十八) (十九) (二十) (二十一) (二十二) (二十三) (二十四) (二十五) (二十六) (二十七) (二十八) (二十九) (三十) (三十一) (三十二) (三十三) (三十四) (三十五) (三十六) (三十七) (三十八) (三十九) (四十) (四十一) (四十二) (四十三) (四十四) (四十五) (四十六) (四十七) (四十八) (四十九) (五十) (五十一) (五十二) (五十三) (五十四) (五十五) (五十六) (五十七) (五十八) (五十九) (六十) (六十一) (六十二) (六十三) (六十四) (六十五) (六十六) (六十七) (六十八) (六十九) (七十) (七十一) (七十二) (七十三) (七十四) (七十五) (七十六) (七十七) (七十八) (七十九) (八十) (八十一) (八十二) (八十三) (八十四) (八十五) (八十六) (八十七) (八十八) (八十九) (九十) (九十一) (九十二) (九十三) (九十四) (九十五) (九十六) (九十七) (九十八) (九十九) (一百)

賢劫十六尊 ①(日) Gen-ko-jū-roku-on (支) Hsien-ché-shih-shih-sun (梵) Hsien-ché-shih-shih-sun ②一卷 ③存、大正一八・三三九No.339、縮餘四、卅一・三三

賢劫千佛名 ①(日) Gen-ko-sen-pausan-kyō (支) Hsien-chieh-chien-pausan-kyō (梵) Hsien-chieh-chien-pausan-kyō ②一卷 ③存、後漢代失譯 ④賢劫經の抄出 ⑤(參考) 出三藏記第四、法華經第二、三寶紀第四、仁壽錄第三、晉書錄第三、內典錄第一、第三、武周錄第一、開元錄第一、第四、第六、貞元錄第二、第二、第二、第二

賢者五福經 ①(日) Gen-ko-gō-fuku-kyō (支) Hsien-ché-wu-fu-king (梵) Hsien-ché-wu-fu-king ②一卷 ③失譯 ④(參考) 出三藏記第四、法華經第一、三寶紀第七、內典錄第三

名所行發 (名庫書) 著者所撰 月年の刊寫 (書考參書譯註書本) 說解容内 代年作者 著者 缺有 數卷 (名書名題) 號略字數

名所行發 (名庫書) 著者所撰 月年の刊寫 (書考參書譯註書本) 說解容内 代年作者 著者 缺有 數卷 (名書名題) 號略字數

【ケ】

賢者雜事經 ①(日) Gen-jia-zan-shi-kyō (支) Hsien-chia-shih-ching. ② 卷 ③ 失譯 ④ (參考) 出三藏記第四、武周錄第一、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

賢者手力經 ①(日) Gen-jia-shu-li-ki-kyō (支) Hsien-chia-shou-li-ching. ② 卷 ③ 失譯 ④ (參考) 出三藏記第三、法苑珠林第五、靜泰錄第五、開元錄第一、第一五、貞元錄第二、第二五

賢者得福經 ①(日) Gen-jia-toku-fu-kyō (支) Hsien-chia-te-fu-ching. ② 卷 ③ 失譯 ④ (參考) 仁壽錄第五、靜泰錄第五

賢者德經 ①(日) Gen-jia-tok-kyō (支) Hsien-chia-te-ching. ② 卷 ③ 失譯 ④ (參考) 仁壽錄第五、靜泰錄第五、開元錄第一、第一五、貞元錄第二、第二五

賢者律儀經 ①(日) Gen-jia-ri-yi-kyō (支) Hsien-chia-ri-ching. ② 卷 ③ 失譯 ④ (參考) 仁壽錄第五、靜泰錄第五、開元錄第一、第一五、貞元錄第二、第二五

賢首經 ①(日) Gen-jia-kyō (支) Hsien-chia-kyō (支) Hsien-chia-kyō. 賢首夫人經 ①(日) Gen-jia-fu-nin-kyō (支) Hsien-chia-fu-nin-ching. ② 卷 ③ 失譯 ④ (參考) 仁壽錄第五、靜泰錄第五、開元錄第一、第一五、貞元錄第二、第二五

賢首師別傳 ①(日) Gen-jia-shi-betsu-den (支) Hsien-chia-shi-betsu-chuan. 賢首國師傳 ①(日) Gen-jia-koku-shi-den (支) Hsien-chia-koku-shi-chuan. 賢首大師傳 ①(日) Gen-jia-daishi-den (支) Hsien-chia-daishi-chuan. 賢首諸乘法數 ①(日) Gen-jia-sho-to-hos-za (支) Hsien-chia-sho-to-hos-za-cheng-fa-shu. ② 卷 ③ 失譯 ④ (參考) 仁壽錄第五、靜泰錄第五、開元錄第一、第一五、貞元錄第二、第二五

賢首菩薩二問經 ①(日) Gen-jia-ni-bo-satsu-ni-hyak-amon-kyō (支) Hsien-chia-ni-bo-satsu-ni-hyak-amon-kyō. 賢首夫人經 ①(日) Gen-jia-fu-nin-kyō (支) Hsien-chia-fu-nin-ching. 賢首菩薩二問經 ①(日) Gen-jia-ni-bo-satsu-ni-hyak-amon-kyō (支) Hsien-chia-ni-bo-satsu-ni-hyak-amon-kyō. 賢首夫人經 ①(日) Gen-jia-fu-nin-kyō (支) Hsien-chia-fu-nin-ching.

【ケ】

賢首經 ①(日) Gen-jia-kyō (支) Hsien-chia-kyō. 賢首夫人經 ①(日) Gen-jia-fu-nin-kyō (支) Hsien-chia-fu-nin-ching. 賢首師別傳 ①(日) Gen-jia-shi-betsu-den (支) Hsien-chia-shi-betsu-chuan. 賢首國師傳 ①(日) Gen-jia-koku-shi-den (支) Hsien-chia-koku-shi-chuan. 賢首大師傳 ①(日) Gen-jia-daishi-den (支) Hsien-chia-daishi-chuan. 賢首諸乘法數 ①(日) Gen-jia-sho-to-hos-za (支) Hsien-chia-sho-to-hos-za-cheng-fa-shu. 賢首菩薩二問經 ①(日) Gen-jia-ni-bo-satsu-ni-hyak-amon-kyō (支) Hsien-chia-ni-bo-satsu-ni-hyak-amon-kyō. 賢首夫人經 ①(日) Gen-jia-fu-nin-kyō (支) Hsien-chia-fu-nin-ching. 賢首菩薩二問經 ①(日) Gen-jia-ni-bo-satsu-ni-hyak-amon-kyō (支) Hsien-chia-ni-bo-satsu-ni-hyak-amon-kyō. 賢首夫人經 ①(日) Gen-jia-fu-nin-kyō (支) Hsien-chia-fu-nin-ching.

賢首師別傳 ①(日) Gen-jia-shi-betsu-den (支) Hsien-chia-shi-betsu-chuan. 賢首國師傳 ①(日) Gen-jia-koku-shi-den (支) Hsien-chia-koku-shi-chuan. 賢首大師傳 ①(日) Gen-jia-daishi-den (支) Hsien-chia-daishi-chuan. 賢首諸乘法數 ①(日) Gen-jia-sho-to-hos-za (支) Hsien-chia-sho-to-hos-za-cheng-fa-shu. 賢首菩薩二問經 ①(日) Gen-jia-ni-bo-satsu-ni-hyak-amon-kyō (支) Hsien-chia-ni-bo-satsu-ni-hyak-amon-kyō. 賢首夫人經 ①(日) Gen-jia-fu-nin-kyō (支) Hsien-chia-fu-nin-ching. 賢首菩薩二問經 ①(日) Gen-jia-ni-bo-satsu-ni-hyak-amon-kyō (支) Hsien-chia-ni-bo-satsu-ni-hyak-amon-kyō. 賢首夫人經 ①(日) Gen-jia-fu-nin-kyō (支) Hsien-chia-fu-nin-ching.

賢首師別傳 ①(日) Gen-jia-shi-betsu-den (支) Hsien-chia-shi-betsu-chuan. 賢首國師傳 ①(日) Gen-jia-koku-shi-den (支) Hsien-chia-koku-shi-chuan. 賢首大師傳 ①(日) Gen-jia-daishi-den (支) Hsien-chia-daishi-chuan. 賢首諸乘法數 ①(日) Gen-jia-sho-to-hos-za (支) Hsien-chia-sho-to-hos-za-cheng-fa-shu. 賢首菩薩二問經 ①(日) Gen-jia-ni-bo-satsu-ni-hyak-amon-kyō (支) Hsien-chia-ni-bo-satsu-ni-hyak-amon-kyō. 賢首夫人經 ①(日) Gen-jia-fu-nin-kyō (支) Hsien-chia-fu-nin-ching. 賢首菩薩二問經 ①(日) Gen-jia-ni-bo-satsu-ni-hyak-amon-kyō (支) Hsien-chia-ni-bo-satsu-ni-hyak-amon-kyō. 賢首夫人經 ①(日) Gen-jia-fu-nin-kyō (支) Hsien-chia-fu-nin-ching.

【ケ】

賢聖義問答 (日) Gen-tei-tomon 一冊 賢聖義問答、法相宗賢聖義略問答

賢聖義問答 (日) Gen-tei-tomon 一冊 (現存卷第四) 存、大正七・四一九九・三三三、日本大藏經三論宗章疏餘

賢聖集加陀一百頌 (日) Gen-ji-shu-ke-dai-ippu-pyaku-ju 一冊 (支) Hsien-shih-kuei-shih-tai-ppai-sung 一冊

賢問子行狀記 (日) Ken-mon-ko-gyaku 一冊 (支) Ken-mon-ko-gyaku 一冊

賢問子行狀記 (日) Ken-mon-ko-gyaku 一冊 (支) Ken-mon-ko-gyaku 一冊

賢問子行狀記 (日) Ken-mon-ko-gyaku 一冊 (支) Ken-mon-ko-gyaku 一冊

賢問子行狀記 (日) Ken-mon-ko-gyaku 一冊 (支) Ken-mon-ko-gyaku 一冊

賢問子行狀記 (日) Ken-mon-ko-gyaku 一冊 (支) Ken-mon-ko-gyaku 一冊

【ケ】

Huan-yuan-chi 二卷 賢聖仁岳 (一治平元A.D.1064) 述 (参考) 諸宗章疏餘第二

還源觀科 (日) Gen-gen-kwan-ko 一冊 (支) Huan-yuan-k'o. 華嚴安盡還源觀科 一冊 存、正續一・九五・五

還源觀科 (日) Gen-gen-kwan-ko 一冊 (支) Huan-yuan-k'o. 華嚴安盡還源觀科 一冊 存、正續一・九五・五

還源觀科 (日) Gen-gen-kwan-ko 一冊 (支) Huan-yuan-k'o. 華嚴安盡還源觀科 一冊 存、正續一・九五・五

還源觀科 (日) Gen-gen-kwan-ko 一冊 (支) Huan-yuan-k'o. 華嚴安盡還源觀科 一冊 存、正續一・九五・五

還源觀科 (日) Gen-gen-kwan-ko 一冊 (支) Huan-yuan-k'o. 華嚴安盡還源觀科 一冊 存、正續一・九五・五

還源觀科 (日) Gen-gen-kwan-ko 一冊 (支) Huan-yuan-k'o. 華嚴安盡還源觀科 一冊 存、正續一・九五・五

還源觀科 (日) Gen-gen-kwan-ko 一冊 (支) Huan-yuan-k'o. 華嚴安盡還源觀科 一冊 存、正續一・九五・五

還源觀科 (日) Gen-gen-kwan-ko 一冊 (支) Huan-yuan-k'o. 華嚴安盡還源觀科 一冊 存、正續一・九五・五

還源觀科 (日) Gen-gen-kwan-ko 一冊 (支) Huan-yuan-k'o. 華嚴安盡還源觀科 一冊 存、正續一・九五・五

還源觀科 (日) Gen-gen-kwan-ko 一冊 (支) Huan-yuan-k'o. 華嚴安盡還源觀科 一冊 存、正續一・九五・五

還源觀科 (日) Gen-gen-kwan-ko 一冊 (支) Huan-yuan-k'o. 華嚴安盡還源觀科 一冊 存、正續一・九五・五

還源觀科 (日) Gen-gen-kwan-ko 一冊 (支) Huan-yuan-k'o. 華嚴安盡還源觀科 一冊 存、正續一・九五・五

還源觀科 (日) Gen-gen-kwan-ko 一冊 (支) Huan-yuan-k'o. 華嚴安盡還源觀科 一冊 存、正續一・九五・五

還源觀科 (日) Gen-gen-kwan-ko 一冊 (支) Huan-yuan-k'o. 華嚴安盡還源觀科 一冊 存、正續一・九五・五

還源觀科 (日) Gen-gen-kwan-ko 一冊 (支) Huan-yuan-k'o. 華嚴安盡還源觀科 一冊 存、正續一・九五・五

名所行設 (名庫書) 蔵所現 (月年の刊寫) (書考多書釋註書本) 說解管内 代年作者 著者 録存 數色 (名書) 名題 號鳴字數

名所行設 (名庫書) 蔵所現 (月年の刊寫) (書考多書釋註書本) 說解管内 代年作者 著者 録存 數色 (名書) 名題 號鳴字數

中、上巻は血脈。中巻は作法。下巻は印信。印信の内を甲乙二巻とす。甲は惣じて印信の事を述べ、乙は別して小野流の事を明にした。都合四巻である。祖々相承の秘訣、嫡々傳來の密旨を集めた。先徳も未だ輪廻に載せないものであるから甚だ憚りはあるが、もし不慮の子嗣(後醍醐天皇の時代の傳教界が政治と宗教との對立による不安のあることを指したものであらう)があれば口決斷絶の科を招くであらうから、最極の大事等でも秘訣を残さず悉く書き載せ、印信の箱に納めた云云。これは榮海四十九歳の時のこと。これから六十一歳の建武五年まで或は改訂し或は増補し遂に十九巻の大著となつたのである。第一巻は血脈の種類、海雲血脈に就いて比較研究が詳細に論じられてゐる。第二・三・四・五巻までは灌頂の種類を、第六巻は印信相承秘義を、第七・八・九巻は三昧耶戒を、第十・十一巻は灌頂作法を、第十二巻は灌頂印明を、第十三・十四巻は印信秘略を、第十五巻は印信最略を、第十六巻は蘇悉地を、第十七・十八巻は三種悉地を、第十九巻は瑜伽灌頂を記し、最後に覺慧上人の九字結縛に就いて勸註及び不思議の事を記してゐる。本書は東密と古密との血脈及灌頂・印信に關する評論が隨所に記されてゐる。日本密教史研究の好資料である。

②(参考) 諸宗章疏錄第三 ③尼利初期寫(金剛三昧院) 建武元寫(寶龜院) 貞享三寫(谷大、餘大・三二八三)寫本(高六、寄・一・六四) (田島德普)

リ

古安流傳授聖教目錄 ①(日)Ko-an-ryū-den-jū-shū-kyō-moku-roku. ②八帖 ③存 ④智輪撰、隆法記 ⑤文化二一四寫(高六、寄・一・六一)

古印信並口決 ①(日)Ko-in-jin-narabini-ku-keitsu. ②七通 ③存 ④足利末期寫 ⑤(金剛三昧院)

古印並通那雜記 ①(日)Ko-in-nan-rabini-shū-ka-kaki. ②一卷 ③最澄(神護景雲元一弘仁一三 A. D. 763-823)撰(参考) 山家祖徳撰通那目集卷上、本朝古祖撰通那密部書目、密乘撰述目錄

古英雄と宗教 ①(日)Ko-ō-yū-ō-shū. ②一卷 ③存 ④濱口惠璋著 ⑤明治三四刊 ⑥(谷大、外洋・七四五)

古岳和尚語錄 ①(日)Ko-gaku-ō-shū. ②古岳語錄 ③三巻 ④存 ⑤古岳日叢(寛文一〇—寛保二 A. D. 1670-1742)語(寛文一〇—寛保二 A. D. 1670-1742)語(榮區編) ⑥(哲、け・八・右・九)

古岳大和尚道行記 ①(日)Ko-gaku-ō-dō-gō-dō-gyō-ki. ②大聖國師古岳大和尚道行記 ③存、續群書類從第九 ④慶應記 ⑤天文二〇(A. D. 1551)

①京都大徳寺五十七世實傳宗眞禪師の法嗣にして大徳寺七十七世古嶽宗互和尚(正法大聖國師、佛心正統禪師)の傳記を、建仁寺二百七十九世顯雪實淵和尚が天文二十年二月下旬(A. D. 1551)古嶽の法嗣江陰宗顯和尚に請はれて撰述したものである。古嶽、別號を玄菟、若波、夕嵐庵と稱し、寛正六年(A. D. 1465)近江國蒲生郡の佐々木氏に生れ、文明四年八歳にして岩馬寺義濟に遊學し、文明七年十一歳にして建仁寺瑞光庵の喜足庵和尚に依り文明十三年十七歳にして受具し、長享元年二十三にして奉浦宗照和尚(大徳四十一世正統大宗禪師)に參じ、翌年其の法嗣たる實傳宗眞和尚(大徳五十七世佛宗大弘禪師)に如意庵に參じて得悟し其の法嗣となる。永正六年九月十七日四十五歳にして、給命により大徳寺七十七世となり、足利義植等の歸依を受け、大永元年五月五十七歳のとき、後柏原天皇より佛心正統禪師の賜號あり、天文二年十二月六十八歳にして著帽肩輿を許されて入内說法し、同五年正法大聖國師の號を如賜せられた。天文十七年六月二十四日(A. D. 1548)壽八十四、臘六十八にて示寂した。法嗣に傳善宗器、大林宗養、並に師の行實を隨筆に請ふた江陰宗顯和尚等があり、室町末期寫本として語錄一卷が残存して居る。

古嶽和尚語錄 ①(日)Ko-gaku-ō-shū. ②二巻 ③存 ④古嶽宗互(寛正六一天文一七 A. D. 1465-1548)語(参考) 扶桑釋林書目、禪語目錄

古鑑錄 ①(日)Ko-kan-roku. (支)Ku-chen-lu. ②一卷 ③清代充盛作 ④(参考) 禪語目錄

古巖壁禪師語要 ①(日)Ko-gan-ken-pi-zen-jū-go-yō. (支)Ku-yen-chi-en-pi-kan-shih-yū-yao. ②一卷 ③存、記續二・三・五續古尊宿語要第二之内 ④宋代古巖壁禪語

①明州瑞岩の石憲法恭禪師の法嗣にして青原下十五世古巖壁禪師の語要である。上堂語として雪竇山入寺語要等二十五、小參二、法語三、頌贊十五、佛事一を収めたものである。

古記録文書類 ①(日)Ko-kiroku-mon-jō-rui. ②一括 ③存 ④鎌倉—足利時代寫 ⑤(實善撰)

古經題跋 ①(日)Ko-kyō-da-i-patsu. ②二巻 ③存、解題叢書之内 ④美濃齋定(文化一一—明治二四 A. D. 1814-1891)編 ⑤文久三(A. D. 1868)

①本書は古經堂美濃齋定が各地の名山大寺所藏古經の題跋を輯録した、他に類の乏しい書で、當時木活字で印行されたものであつた、編者はこれに洩れたものを輯めて續古經題跋を編した。本書に收められたものゝを挙げると、大和藥師寺、興福寺の天平大般若經、東大寺の天平仁王般若、大愛道比丘尼經、西大寺の天平賣字の金光明最勝王經、中阿鉢經、唐招提寺の大般若經、眞和上眞跋金剛經、法隆寺の長壽三年の妙法蓮華經、用明天皇宸翰妙法蓮華經、上宮太子眞蹟梵網經、法華經義疏、勝鬘經義疏

私鈔、貝多羅葉三片、外二十餘の天平經を挙げ、高貴寺、紀伊新村觀音堂の天平經、高野山の紺紙金泥大藏經、廣和三年の大藏經、高麗版大藏經を始めとし同所龍光院、遍明院、興山寺、金剛三昧院、如意輪寺、奉雲院、河内高安園光寺、山城尾高山寺の天平の彌勒上生經、梵網經、弘仁の金剛頂經、紫野大徳寺、北野興聖寺、松尾神宮寺、北野天満宮、嵯峨清涼寺、知恩院、入信院、光明寺、知恩寺、法然院、禪林寺、法林寺、東福寺、攝津四天王寺、播磨練馬寺、安藝嚴島神社、筑前宗像神社、近江石山寺、三井寺、寶光寺、伊勢神宮寺、尾張大須眞福寺、相模鎌倉光明寺、鶴岡八幡宮、圓覺寺、建長寺、武藏三峰山智上寺、止觀室、妙定院、西蓮社、古經堂、彌龍宮、東叡山、金澤稱名寺、淺草正行寺、小石川傳通院、清淨心院、岩槻淨國寺、比企慈光寺、下總生實大藏寺、上野尼利學校、新田大光院、武藏西大久保大藏寺、信濃淺間宮、常陸鹿島神宮寺、下野新里村山王社、宇都宮英巖寺、尾羽寺、日光山、陸奥平泉中尊寺等の所藏の寫經、宋、元、明の版本、我國古版本等の題跋を録し、跋あるものは抄出してゐる。此内現今所藏主を轉じたものは甚だ多い、就中古經堂のものは主なるもの五六は知恩院にあるが、他は散佚したと認められる。本書には附録として、山城紫野大徳寺、武藏鎌山古經堂、京都智積院、奈良念佛寺、武藏射谷小山林堂、越後柏崎極樂寺、武藏淺草正行寺、宇都宮清巖寺、武藏池上本門寺等の所藏の經

【一】

巻を掲げてある。(中谷在禪)

古經斷簡 ①(日)Ko-kyō-tan-kan. ②一卷 ③存 ④天年間寫 ⑤(龍大)別

古經跋語 ①(日)Ko-kyō-hatsu-geo. ②三卷 ③存 ④西村兼文編 ⑤寫本(帝國・一八九・二)

古經錄 ①(日)Ko-kyō-roku. (支)Ka-chang-fu. 古錄 ②一卷 ③缺

④本錄は單に古錄とも云ふ。歷代三寶紀第十五に「古錄一卷以是秦時釋利房等所書來經目錄」とあるものが即ち其れである。大唐内典錄第十、開元釋教錄第十、貞元新定釋教目錄第十八も亦この歷代三寶紀を其後承けて同一の記載をなして居る。この三寶紀の記事は開元第一の帝年上に「始皇時釋利房等十八賢者齋經來化、始皇弗從、遂禁利房等、夜有金剛丈六人、來破獄出之、始皇驚怖稽首謝焉」とあるものと相照して居るものであつて、つまり、秦始皇の時釋利房等の十八賢者が佛經を齎して來朝した際の經目錄のやうであるといふのである。斯の如き經錄が現在勿論存して居らなう上に、釋利房の傳説なるもの自體が近世の學者の多くに疑はれて居るものがある爲に、果して斯る經錄が實際に存するや否や疑問の餘地もあるものである。

⑤(參考)三寶紀第一五、内典錄第一〇、開元錄第一〇、貞元錄第一八

古鏡禪師行實 (林屋次太郎) ①(日)Ko-kyō-zen-jū-gyō-jitsu. ②一卷 ③存、澤庵禪師紀

年錄附錄 ④宗朝編 ⑤(參考) 禪籍目錄

古鏡明和尚道行記 ①(日)Ko-kyō-myō-o-shō-dō-gyō-ki. ②一卷 ③存 ④(參考) 禪籍目錄

古外和尚錄 ①(日)Ko-gwai-o-shō-roku. ②三卷 ③存 ④(參考) 禪籍目錄

古華嚴經一乘法界圖 ①(日)Ko-ke-gōn-gyō-ich-i-hō-kai-ten. (支)Ku-hua-yen-ching-i-ch'eng-fa-chieh-t'u. 華嚴經一乘法界圖 ②一卷 ③缺 ④法藏(貞觀一七一先天元 A. D. 643-712) ⑤(參考) 花嚴宗經論章疏目錄

古華嚴經供養十門儀式 ①(日)Ko-ke-gōn-gyō-ku-yō-jū-mōn-gi-shiki. (支)Ku-hua-yen-ching-kuang-yaung-shih-mōn-i-shih. 華嚴經供養十門儀式 ②一卷 ③缺

④隋杜順(永定元一四 A. D. 537-640)撰 ⑤(參考) 貞觀一四 A. D. 537-640撰 ⑥(參考) 華嚴宗經論章疏目錄

古華嚴經華嚴三昧經 ①(日)Ko-ke-gōn-gyō-ke-gōn-sam-mai-ki-wa. 華嚴經華嚴三昧經 ②一卷 ③(參考) 花嚴宗經論章疏目錄

古華嚴經玄明要決 ①(日)Ko-ke-gōn-gyō-zen-myō-yō-keitsu. (支)Ku-hua-yen-ching-hsuan-ming-yao-ch'ieh. 華嚴經玄明要決 ②一卷 ③缺 ④隋杜順(永定元一貞觀一四 A. D. 537-640)撰 ⑤(參考) 華嚴宗經論章疏目錄

古華嚴經五教分記 ①(日)Ko-ke-gōn-gyō-go-kyō-bun-ki. (支)Ku-hua-yen-ching-wu-chiao-fen-ki. 華嚴經五教分記 ②一卷 ③(參考) 花嚴宗經論章疏目錄

古華嚴經傳音義 ①(日)Ko-ke-gōn-gyō-den-on-gi. (支)Ku-hua-yen-ching-kuo-an-yin-i. 華嚴經傳音義 ②一卷 ③(參考) 花嚴宗經論章疏目錄

古華嚴經疏 ①(日)Ko-ke-gōn-gyō-sho. (支)Ku-hua-yen-ching-shu. 華嚴經疏 ②四卷 ③缺 ④魏光統(永平元年 A. D. 508-)撰 ⑤(參考) 花嚴宗經論章疏目錄

古華嚴經三寶別行記 ①(日)Ko-ke-gōn-gyō-san-bō-betsu-gyō-ki. (支)Ku-hua-yen-ching-san-pao-pieh-hsing-ki. 華嚴經三寶別行記 ②一卷 ③(參考) 唐法藏(貞觀一七一先天元 A. D. 643-712)撰 ④(參考) 花嚴宗經論章疏目錄

古華嚴經禮讚 ①(日)Ko-ke-gōn-gyō-san-rai. (支)Ku-hua-yen-ching-san-rai. 華嚴經禮讚 ②一卷 ③(參考) 法藏(貞觀一七一先天元 A. D. 643-712)撰 ④(參考) 花嚴宗經論章疏目錄

古華嚴經佛名 ①(日)Ko-ke-gōn-gyō-butsu-myo. (支)Ku-hua-yen-ching-fu-ming. 華嚴經佛名 ②一卷 ③(參考) 唐法藏(貞觀一七一先天元 A. D. 643-712)撰 ④(參考) 花嚴宗經論章疏目錄

古華嚴經翻梵語 ①(日)Ko-ke-gōn-gyō-hon-bon-go. (支)Ku-hua-yen-ching-fan-yen-yu. 華嚴經翻梵語 ②一卷 ③(參考) 唐法藏(貞觀一七一先天元 A. D. 643-712)撰 ④(參考) 花嚴宗經論章疏目錄

古華嚴經梵語及音義 ①(日)Ko-ke-gōn-gyō-bon-go-oyobi-on-gi. (支)Ku-hua-yen-ching-fan-yen-yu & yin-i. 華嚴經梵語及音義 ②一卷 ③(參考) 唐法藏(貞觀一七一先天元 A. D. 643-712)撰 ④(參考) 花嚴宗經論章疏目錄

古華嚴序註 ①(日)Ko-ke-gōn-jū-chū. (支)Ku-hua-yen-hsu-chū. 華嚴序註 ②一卷 ③(參考) 唐法藏(貞觀一七一先天元 A. D. 643-712)撰 ④(參考) 花嚴宗經論章疏目錄

古桂疏 ①(日)Ko-kei-shū. ②一卷 ③存 ④古桂弘積(一文龜頭 A. D. 1501-

名所行發 (名庫書) 著者所現 (月年の刊寫) (書考多書釋註) 書本 (說解容内) 代年作著 (著者) 缺存 (數卷) (名書) 名題 (號鳴字數)

【二】

1503-)撰 ⑤(參考) 禪籍目錄

古桂錄 ①(日)Ko-kei-roku. 桂子禪味 ②存 ③古桂弘積(一文龜頭 A. D. 1501-1503-)撰 ④(參考) 日本禪林撰述書目、禪籍目錄

古溪和尚語錄 ①(日)Ko-kei-o-shū-go-roku. (支)Ku-ch'i-ho-shang-yū-lu. 香嚴古溪和尚語錄 ②十五卷 ③存 ④明代覺寂、明炬等編 ⑤寫本(京大藏・一・二・三)

古溪蓮禪師試頌附以呂波陀 ①(日)Ko-kei-ren-zen-jū-shi-jū-pan-ku-tō-tō-ro-an-dō-tō. ②一卷 ③存 ④明芳寺註 ⑤(參考) 實曆七刊 ⑥(駒大)

古月和尚語錄 ①(日)Ko-getsu-o-shū-go-roku. ②四卷 ③存 ④古月禪村(寛文七一寶曆元 A. D. 1697-1751)撰 ⑤(參考) 禪籍目錄

古源和尚傳 ①(日)Ko-gen-o-shō-den. 東福二十五世古傳和尚部元傳 ②一卷 ③存、續群書類從第九

④東福寺第二十五世古源(一作古傳)部元和尙の傳記である。古源は如知道人(一作如知道人)及び物外子と號し、永仁三年(A. D. 1295)越前に生れた。上洛して東福寺十一世南山土雲禪師に參じ、十二世雙峯宗源禪師に師事した。嘉曆二年三十三歳にして入元し、雪峯の德隱悟逸、天台山の無見先觀、天目山の斷崖了義、龍山の千巖元長の諸禪師に歷參し、玉泉及び少林寺の版首となり、朝に入つて大藏經を轉じた。在元二十一年にして貞和三年(正平二年)に

歸朝するや衆議に依つて京都大聖寺に住し、雙峯宗源禪師に嗣法した。足利幕府の請に、等持寺に、藤原丞相の請にて東福寺に、赤松氏の請にて播州法雲寺に歴住し、藤原丞相の請に應じて東福寺に再住し、晚年南泉菴に退休し、貞治三年十一月十一日(A. D. 1347)壽七十歳にして示寂した。(大久保堅瑞)

古賢の跡 ①(日)Ko-ken-no-ato. ②支那佛蹟踏査古賢の跡 ③一卷 ③(参考) 常盤大定著

④(一)朝鮮王辰の役。⑤(二)平壤の懷古。⑥(三)奉天より北京に。⑦(四)北京白雲觀附鳥獸園。⑧(五)北京雍和宮附鳥獸園。⑨(六)排貨と飢饉と。⑩(七)京兆十字寺。⑪(八)山西省石壁山玄中寺。⑫(九)靈巖大師の遺蹟附玄中寺鳥獸園。⑬(一〇)山西省天龍山北齊石窟。⑭(一一)山西省龍山の道教石窟。⑮(一二)山西省龍山北齊童子寺跡。⑯(一三)山西省太原縣の古唐村普祠と風峪泰山廟。⑰(一四)山西省太原府の傅公祠附山西省踏査經路略圖。⑱(一五)洛陽龍門に詣る記。⑲(一六)山西省大同府雲岡の石佛寺。⑳(一七)山西省張家口の雲泉寺。㉑(一八)北周の廢佛と京兆房山縣の石經。㉒(一九)湖北省荆州玉泉山天台智者大師の遺蹟附玉泉寺鳥獸園。㉓(二〇)湖北省荆州玉泉山の度門寺附荆州踏査經路略圖。㉔(二一)湖北省漢陽の曹洞宗歸元寺。㉕(二二)湖北省荆州城草市的長沙寺。㉖(二三)荆州城内水天寺。㉗(二四)草市の曹洞宗天皇寺。㉘(二五)荆州城外の佛華寺。㉙(二六)沙市の章華寺並江濱觀。㉚(二七)江西省廬山巡禮記附廬山踏査經路略圖。

分記 ②一卷 ③隋杜順(永定元一貞觀一四 A. D. 537-640)撰 ④(參考) 花嚴宗經論章疏目錄

古華嚴經廣釋義章 ①(日)Ko-ke-gōn-gyō-kuo-shaku-gi-shō. (支)Ku-hua-yen-ching-kuang-shih-i-chang. 華嚴經廣釋義章 ②一卷 ③(參考) 光統(永平元年 A. D. 508-)撰 ④(參考) 花嚴宗經論章疏目錄

古華嚴經三教對辨玄語 ①(日)Ko-ke-gōn-gyō-san-kyō-tai-ben-zen-go. (支)Ku-hua-yen-ching-san-kyō-tai-ben-zen-go. 古華嚴經三教對辨玄語 ②一卷 ③(參考) 唐法藏(貞觀一七一先天元 A. D. 643-712)撰 ④(參考) 花嚴宗經論章疏目錄

古華嚴經三寶別行記 ①(日)Ko-ke-gōn-gyō-san-bō-betsu-gyō-ki. (支)Ku-hua-yen-ching-san-pao-pieh-hsing-ki. 華嚴經三寶別行記 ②一卷 ③(參考) 唐法藏(貞觀一七一先天元 A. D. 643-712)撰 ④(參考) 花嚴宗經論章疏目錄

古華嚴經禮讚 ①(日)Ko-ke-gōn-gyō-san-rai. (支)Ku-hua-yen-ching-san-rai. 華嚴經禮讚 ②一卷 ③(參考) 法藏(貞觀一七一先天元 A. D. 643-712)撰 ④(參考) 花嚴宗經論章疏目錄

古華嚴經佛名 ①(日)Ko-ke-gōn-gyō-butsu-myo. (支)Ku-hua-yen-ching-fu-ming. 華嚴經佛名 ②一卷 ③(參考) 唐法藏(貞觀一七一先天元 A. D. 643-712)撰 ④(參考) 花嚴宗經論章疏目錄

古華嚴經翻梵語 ①(日)Ko-ke-gōn-gyō-hon-bon-go. (支)Ku-hua-yen-ching-fan-yen-yu. 華嚴經翻梵語 ②一卷 ③(參考) 唐法藏(貞觀一七一先天元 A. D. 643-712)撰 ④(參考) 花嚴宗經論章疏目錄

古華嚴經梵語及音義 ①(日)Ko-ke-gōn-gyō-bon-go-oyobi-on-gi. (支)Ku-hua-yen-ching-fan-yen-yu & yin-i. 華嚴經梵語及音義 ②一卷 ③(參考) 唐法藏(貞觀一七一先天元 A. D. 643-712)撰 ④(參考) 花嚴宗經論章疏目錄

古華嚴序註 ①(日)Ko-ke-gōn-jū-chū. (支)Ku-hua-yen-hsu-chū. 華嚴序註 ②一卷 ③(參考) 唐法藏(貞觀一七一先天元 A. D. 643-712)撰 ④(參考) 花嚴宗經論章疏目錄

古今往住淨土寶珠集 ①(日)Ko-kon-jū-jū-do-ji-shū-shū-ha. 淨土寶珠集、寶珠集、新編古今往住淨土寶珠集、八卷の内殘缺卷第一一冊 ②存、續淨土宗全書第一六 ③陸師壽編

④支那における西方淨土往生者註述、僧顯、慧永、慧慶、淨嚴、僧清、慧恭、僧光、慧堪、慧蘭、劉程之、僧寂、慧慶、道海、曇泓(淮南)、道廣、道光、曇泓(黃龍)、烏長國王、宋世子四人、法盛、道瓊、慧通、慧光、法琳、僧柔、曇覺、道珍、慧命、法音、僧崖、靜觀、慧思、智者、知舜、隋文后、大明、慧通、道慧、宋滿、眞慧、法智、道瑜、洪法師、登法師、善賢、釋法師、張元詳、法照等五十二名の傳を叙したものであるが、龍舒淨土文卷五に「近年錢塘陸居士編集感應事蹟凡二百餘傳、皆錄板流傳」とあるから恐らく二百餘人を傳したものである。現存の本は德富猪一郎氏の所蔵に係り、南宋孝宗乾道己丑年(西紀一一六九)の寫本で卷第一を僅に存するのみである。本書は宋宗曉の樂邦文類及び樂邦遺稿、清彭希津の淨土寶鑰、我が國の光明大師傳傳註等に一二の佚文を引用せられてゐる以外、刊本鈔本共古來見たものなく、又長西録は本書を往住淨土寶珠集と題し、卷數を八卷、撰者を王古とし、

名所行發 (名庫書) 著者所現 (月年の刊寫) (書考多書釋註) 書本 (說解容内) 代年作著 (著者) 缺存 (數卷) (名書) 名題 (號鳴字數)

【コ】

蓮門經籍録は長西録をそのまま受くるとも別に往生傳一卷陸師壽撰とし、眞宗教典志には新編古今往生寶珠集八巻とし、撰者を宋錢瑛陸師壽とし、長西録の王古撰とあるを恐誤と云つてゐる。此の二説について何が正しいか、遠慮することは出来なないが佛祖統記卷二十七淨土教志に「本朝飛山戒珠、始集往生傳、厥後侍郎王古加以續傳、南渡以來、錢瑛陸師壽又增續之、四明默容海印復爲續於後」と云ひ、同卷四十七法運通志に於て更にこれを評述し、南宋高宗紹興二十五年の條に「初是治平初、飛山戒珠禪師、依高僧三傳采修淨業臨終往生者、作淨土傳三卷。元豐間尙書王古增補新編通志四卷。是年錢瑛陸師壽續集往生淨土者爲八卷、易名寶珠集」とあり、又龍舒淨土文卷五に「東晉遠法師僧首修淨土、本朝王敏仲侍郎及近年錢瑛陸居士編集感應事達凡二百餘傳」とあるによると、宋英宗の治平年間戒珠あり北宋元豐年中王居士及び南宋紹興年中陸師壽に各往生傳の編著があつたことは明らかである。本書の成立は佛祖統記によると南宋高宗紹興二十五年であり、徳富氏藏本は序文の首を缺くが、終りに「元口七年八月十五日記」とある。元の下は缺字で不明であるが、此の序文は全文王古の新修淨土往生傳と殆ど同文であり、傳の年號は元豐七年八月十五日とあるにより本書序文紀年の缺字は豐の字であることが知られる。元豐七年は北宋の神宗の紀年で、南宋高宗の紹興二十五年とは七十一一年の差がある。従て、元豐七年の序は王

古が自著に附した自序であり、徳富氏藏の本書に收められた序は、本書の著者陸師壽が王古の往生傳續集の意を示すため、特に王古の序を轉載したものと思はれる。本書の著者を王古居士としたのは、宗曉の樂邦文類卷二に淨土寶珠集序、侍郎王古と題し、新修往生傳の序を、陸師壽が轉載したまま、吟味をなすことなしに收載し、これを受けて清の彭希淳は淨土寶珠集卷七に我が義山は圓光大師行狀翼贊卷六十に記したによる誤りである。これは更に佛祖統記卷二十七、前掲の引文の連文に「凡二備二釋繼成此書、今並刪削繁文、獨著平時念佛臨終往生之驗」と云ひ、志警が佛祖統記を作るにあたり、特に淨土往生傳の佛祖統記を列挙して王古、陸師壽の二備と戒珠、海印の二釋計四名の著によつたことを述べてゐるによりて知ることが出来る。

古が自著に附した自序であり、徳富氏藏の本書に收められた序は、本書の著者陸師壽が王古の往生傳續集の意を示すため、特に王古の序を轉載したものと思はれる。本書の著者を王古居士としたのは、宗曉の樂邦文類卷二に淨土寶珠集序、侍郎王古と題し、新修往生傳の序を、陸師壽が轉載したまま、吟味をなすことなしに收載し、これを受けて清の彭希淳は淨土寶珠集卷七に我が義山は圓光大師行狀翼贊卷六十に記したによる誤りである。これは更に佛祖統記卷二十七、前掲の引文の連文に「凡二備二釋繼成此書、今並刪削繁文、獨著平時念佛臨終往生之驗」と云ひ、志警が佛祖統記を作るにあたり、特に淨土往生傳の佛祖統記を列挙して王古、陸師壽の二備と戒珠、海印の二釋計四名の著によつたことを述べてゐるによりて知ることが出来る。

和尙の康熙五年三月(A. D. 1696)の撰述に係る風穴延沼禪師塔銘がある。(續藏所収本には括弧を採録して居ない。) 其の列名は、達摩、慧可、僧愷、道信、弘忍、慧能の六代、第一世南岳より馬祖、百丈、黃檗、臨濟、興化、南院、風穴、首山、汾陽、石霜、楊岐、白雲、五祖、圓悟、虎丘、應庵、密庵、破庵、無準、雪巖、高峰、中峯、千巖、萬峯、寶巖、東明、海舟、寶峯、天奇、絕學、笑巖、幻有、密雲、林野、雲鏡の三十六世を叙し、曹洞宗は青原下三十五世洞山良价禪師より師資傳承して天界道盛に至る列名を掲げ、臨濟宗は馮山靈祐、仰山慧寂兩禪師より始まり南塔光通、芭蕉慧清、承天辭確、羅漢繼宗の五世にして終むとし、雲門宗は雲門文偃禪師より香林澄遠、知門光祚、雪竇重顯、天衣義懷、法雲法秀、佛國惟白、慧林慧海、萬壽壽隆の九世にして終む、雲門四世に洞山曉暉出で雲居晦庵、明教契嵩及び明教大師の著書に一言し、法眼宗は曹溪下第十世法眼文益禪師より、智者嗣如、承天澄月、護國豐の六世にして終む、法眼文益、天台徳詔、永明延壽に至ることに言及したものである。

【コ】 古

【コ】

古今大家説教演説集 (B) Ko-kon-tai-kā-sek-kyō-en-sei-shū. 存
明治四三刊 東京妙法社
古今帝王年代曆 (B) Ko-kon-tai-ten-nen-dai-ryaku. 八巻 ①重賞撰 (参考) 東城傳燈目録卷下
古今典籍集成目錄 (B) Ko-kon-ten-seki-shū-sei-moku-roku. ①巻
②存 ③寫本(龍大、研真)
古今圖書集成釋教部彙考 (B) Ko-kon-to-sho-shū-sei-shak-kyō-bu-i-kō. (支) Ku-chin-t'u-sha-chi-ch'eng-shen-tien-shih-chiao-shih-chiao-pu-i-kao. ②七巻 ③存、已續二〇・六・二 清雍正三(A. D. 1725)
①本書は欽定古今圖書集成の博物彙編神異典の中の第五十九巻より第六十五巻に至る釋教部彙考を抄出したものである。古今圖書集成は清の聖祖(康熙)が勅して多数の延匠學者に命じて古今の圖書より抄出編纂せしめしものであり、全て六疊編、三十二典、六千一百九部、一萬巻と云ふ大編纂として次の世宗(雍正)の朝に成りしものである。釋教部彙考は周より清に至る支那佛教關係記事を正史その他より抄出して成れる一の編年體支那佛教史である。但し編纂にして著述ではないからそのまゝ歴史事實ではないが豊富にして便利なる佛教史資料集と云ふべく、支那佛教研究者に充分利用さるべき書である。尤も研究者が利用する爲には更に引用の原書に遡る必要のあることは云ふ迄もない。又續藏本によるよりは支那刊本の古今圖書集成本に據るがよい。

因に神異典は總計三百二十巻よりなり、釋道二教を中心として支那宗教に關する一大資料集をなしてゐるものである。(深本義隆)
古今圖書集成神異典釋教部紀 (B) Ko-kon-to-sho-shū-sei-jia-i-ten-shak-kyō-bu-ki-ji. (支) Ku-chin-t'u-sha-chi-ch'eng-shen-tien-shih-chiao-pu-chi-shih. ①二巻 ②存、已續二〇・一・一〇 ③清雍正三(A. D. 1725)
①欽定古今圖書集成博物彙編神異典の第七十四巻、第七十五巻の釋教部記事を抄出せしものである。主として個人の佛教に關係せる事跡を古代より近代まで收録す。多数の學者を集めてなせる勅撰書であるだけに、各歴代正史の列傳を初め、十六國春秋、唐國史補、西陽雜俎、宣驗記、獨異志、搜神記、太平廣記、北夢遺言、東觀漢記、東坡志林、雲仙雜記、聖莊漫筆等より佛祖統記、法苑珠林、佛法金湯編等の佛書等その抄録する所極めて廣く、一々その出典をあぐるが故に古今圖書集成の釋教部の他の部分と共に支那佛教史研究者に最も便利なる資料集である。されどその引書文については夫々原典まで遡る必要がある。時に引用の過誤あり、また抄者の意によつて改題されてゐることもある。(深本義隆)
古今圖書集成神異典二氏部彙考 (B) Ko-kon-to-sho-shū-sei-jia-i-ten-ni-shi-bu-i-kō. (支) Ku-chin-t'u-sha-chi-ch'eng-shen-tien-erh-shih-pu-i-kao. ②二巻 ③存、已續二〇・一・一〇

古今舍利驗論 (B) Ko-kon-sha-i-ken-ron. ③三巻 ④存 ⑤淨慧(眞享頃 A. D. 1634-1637) 述 ⑥元祿四刊 ⑦(正大、一〇三三二〇) (龍大、二〇九・二八) (谷大、餘大・四七九) (帝國、二三七・二六)
古今序註 (B) Ko-kon-jo-cha. ②十巻 ③了覺(解應四一應永二七 A. D. 1341-1390) 作 ④(参考) 淨土正依經論書籍目錄
古今正法眼 (B) Ko-kon-shō-hō-gan. ⑤五巻 ⑥存 ⑦道温、懷玉撰 ⑧(参考) 禪籍目錄
古今捷錄 (B) Ko-kon-jit-roku. (支) Ku-chin-t'u-sha-chi-ch'eng-shen-tien-shih-chiao-pu-i-kō. ①二巻 ②存、已續二〇・一九・五 ③清代果性(康熙五 A. D. 1696) 撰
④西蜀の比丘雪亮果性和尙が、宋の密慶成德禪師以下、元明の時代に於ける十七八世の傳燈の祖師に就いて、諸史傳に明かならざるを慨し、諸典籍を閲讀し、天童密雲圓悟禪師の源流を搜り、初祖菩提達磨大師より六祖大鑑慧能禪師まで並に南嶽懷讓禪師より南岳下第三十四世密雲圓悟禪師の法孫南岳下第三十六世風穴の雲鏡行喜禪師の康熙四年迄、即ち臨濟正宗の源流六代並に南岳下三十六祖正傳の事蹟、朝代、僧臘、臨闕の法統、法嗣等を編述したもので、卷末に曹洞、臨濟、雲門、法眼の四家に就いて言及して居る。清康熙五年正月十五日自序して流通せしめたもので、康熙五年本には附録として雲亮果性和尙の拈頌、並に果性和尙の康熙五年三月(A. D. 1696)の撰述に係る風穴延沼禪師塔銘がある。(續藏所収本には括弧を採録して居ない。) 其の列名は、達摩、慧可、僧愷、道信、弘忍、慧能の六代、第一世南岳より馬祖、百丈、黃檗、臨濟、興化、南院、風穴、首山、汾陽、石霜、楊岐、白雲、五祖、圓悟、虎丘、應庵、密庵、破庵、無準、雪巖、高峰、中峯、千巖、萬峯、寶巖、東明、海舟、寶峯、天奇、絕學、笑巖、幻有、密雲、林野、雲鏡の三十六世を叙し、曹洞宗は青原下三十五世洞山良价禪師より師資傳承して天界道盛に至る列名を掲げ、臨濟宗は馮山靈祐、仰山慧寂兩禪師より始まり南塔光通、芭蕉慧清、承天辭確、羅漢繼宗の五世にして終むとし、雲門宗は雲門文偃禪師より香林澄遠、知門光祚、雪竇重顯、天衣義懷、法雲法秀、佛國惟白、慧林慧海、萬壽壽隆の九世にして終む、雲門四世に洞山曉暉出で雲居晦庵、明教契嵩及び明教大師の著書に一言し、法眼宗は曹溪下第十世法眼文益禪師より、智者嗣如、承天澄月、護國豐の六世にして終む、法眼文益、天台徳詔、永明延壽に至ることに言及したものである。

古今佛道論衡 (B) Ko-kon-hō-dō-ron. ②二巻 ③或一巻 ④續集古今佛道論衡 ⑤二巻或一巻
古今佛道論衡 (B) Ko-kon-hō-dō-ron. ②二巻 ③或一巻 ④續集古今佛道論衡 ⑤二巻或一巻
古今佛道論衡 (B) Ko-kon-hō-dō-ron. ②二巻 ③或一巻 ④續集古今佛道論衡 ⑤二巻或一巻
古今佛道論衡 (B) Ko-kon-hō-dō-ron. ②二巻 ③或一巻 ④續集古今佛道論衡 ⑤二巻或一巻
古今佛道論衡 (B) Ko-kon-hō-dō-ron. ②二巻 ③或一巻 ④續集古今佛道論衡 ⑤二巻或一巻
古今佛道論衡 (B) Ko-kon-hō-dō-ron. ②二巻 ③或一巻 ④續集古今佛道論衡 ⑤二巻或一巻
古今佛道論衡 (B) Ko-kon-hō-dō-ron. ②二巻 ③或一巻 ④續集古今佛道論衡 ⑤二巻或一巻
古今佛道論衡 (B) Ko-kon-hō-dō-ron. ②二巻 ③或一巻 ④續集古今佛道論衡 ⑤二巻或一巻
古今佛道論衡 (B) Ko-kon-hō-dō-ron. ②二巻 ③或一巻 ④續集古今佛道論衡 ⑤二巻或一巻
古今佛道論衡 (B) Ko-kon-hō-dō-ron. ②二巻 ③或一巻 ④續集古今佛道論衡 ⑤二巻或一巻

【コ】 古

名所行説 (名庫書) 蔵所現 ① 月年の刊行 ② (書考) 參書註書本 ③ 説解管内 ④ 代年作者 ⑤ 著者 ⑥ 缺存 ⑦ 數巻 ⑧ (名書) 名題 ⑨ 號碼字數

名所行説 (名庫書) 蔵所現 ① 月年の刊行 ② (書考) 參書註書本 ③ 説解管内 ④ 代年作者 ⑤ 著者 ⑥ 缺存 ⑦ 數巻 ⑧ (名書) 名題 ⑨ 號碼字數

翻經三藏の翻經圖を描かしめられ、後にこの翻經圖を縮寫して巻となし、當時、大慈恩寺の綱維たりし玄奘の筆受の任にあつた靖通をしてその圖上に各三藏の譯經と、その事歴を題せしめられたに始まるものである。古今譯經圖なる名稱も亦爰に生じた譯である。従て、當時の古今譯經圖なるものは、この書題を巻として流行されて居つたもので、單なる經錄ではなかつたのである。この繪巻の譯經圖はその第二巻が燦爛出土經中に存し、一度日本にも賣却の爲に賣らせられたことがあつたが、惜しい哉、今何處にあるか解らない。

この書題を描かれた大慈恩寺の翻經院に就ては、大慈恩寺三藏法師傳に「冬十月(中略)又宣同日督慈恩寺、漸向畢切、輪奐將成、僧徒尙闕、伏奉勅使度三百僧、別請五大德同奉神后、降臨行道其新營道場、宣名大慈恩寺、別造翻經院、虹梁藻井丹青雲氣瓊樓碧瓦金環錦繡並加殊麗、令法師移就翻經院內居住」とあるものがそれであつて、翻經院内の書畫もこの時に描かれたものである。然し、靖通がその繪圖の卷の上に翻經三藏の翻經並に事歴を題したのは、それから餘程後のことであることは、本錄卷第四の玄奘譯經の條に於て、大慈恩寺の創建後十有六年を越たる龍朔三年十月に翻經を完成した大慈恩寺六百僧を始めとして、玄奘の示寂せる麟德元年二月五日に先立つこと約一ヶ月前の同年正月一日に譯された呪五百經一卷に至る迄を収録して居る點から見て明かなことである。故に、本

錄の撰集は早くも麟德元年(A. D. 664)以前のものと考へられぬのである。本錄の内容は四巻に分れ

- 〔第一巻〕 後漢錄 翻經素十二人(譯出經三百二十四部三百二十卷。失譯經一百二十三部四百八十八卷) 迦葉摩騰。竺法蘭。安世高。支婁迦讖。安支。竺佛朔。支曜。康巨。嚴佛調。康孟詳。曇果。竺大力。 魏錄 翻經素五人(譯出經十二部十六卷) 曇柯迦羅。康僧朗。曇帝。白延。安法賢。 吳錄 翻經素五人(譯出經百四十九部一百九十六卷。魏吳二代失譯經一百十部二百九十一卷) 支謙。維祇難。竺律炎。康僧會。支疆乘。 〔第二巻〕 西晉錄 翻經素十人(譯出經三百二十七部六百八十三卷。失譯經八部十五卷) 竺法護。鳩摩婁至。安法欽。無羅叉。竺叔蘭。白法祖。支法度。真道真。法立。法炬。 東晉錄 翻經素十六人(譯出經一百九十九部六百三十卷。失譯經五十二部五十六卷) 帛尸梨密多羅。支道林。竺曇無蘭。僧伽提婆。曇摩界。迦留陀伽。康道和。佛跋跋陀羅。卑摩羅叉。法顯。祇多密。竺羅提。竺法力。崇公。退公。法勇。 〔第三巻〕 符秦錄 翻經素六人(譯出經十三部一百

五十三卷) 曇摩持。釋惠當。鳩摩羅佛提。僧伽跋澄。曇摩羅。曇摩羅提。 姚秦錄 翻經素五人(譯出經一百八十八部六百五十三卷) 竺佛念。曇摩耶舍。鳩摩羅什。佛跋耶舍。弗若多羅。 西秦錄 翻經素一人(譯出經十四部十八卷) 法堅。 北魏錄 翻經素三人(譯出經八部四十五卷) 釋曇覺。釋曇鑑。吉迦夜。 北涼錄 翻經素八人(譯出經六十七部三百三十四卷。失譯經五部十七卷) 釋道賢。法象。僧伽陀。曇摩訶。安陽侯京摩。浮陀跋摩。釋道泰。釋智猛。劉宋錄 翻經素十八人(譯出經一百六十六部五百二十卷) 佛陀什。曇摩密多。曇摩耶舍。伊葉波羅。釋智嚴。求那跋摩。寶雲。僧伽跋摩。求那跋跋摩。曇無竭。釋慧簡。功德直。竺法普。釋朝法。釋道嚴。釋勇公。釋法海。釋先公。 〔第四巻〕 南朝錄 翻經素八人(譯出經十四部四十三卷) 蕭齊錄 翻經素八人(譯出經十四部四十三卷) 曇摩伽陀耶舍。摩訶乘。僧伽跋跋摩。法意。求那毗地。釋法度。釋曇覺。釋法化。 南魏錄 翻經素五人(譯出經五十八部一百七十卷)

曇摩流支。釋法場。菩提流支。勒那摩提。佛陀扇多。 蕭梁錄 翻經素三人(譯出經六十四部一百九十八卷) 曼陀羅。僧伽跋摩。波羅末陀(眞諦)。東魏錄 翻經素一人(譯出經十四部八十五卷) 曇摩般若留支。 高齊錄 翻經素二人(譯出經五部十六卷) 那連提耶舍。萬天竺。 陳錄 翻經素二人(譯出經五部十六卷) 月婆首那。須菩提。 後周錄 翻經素四人(譯出經四十四部一百八十卷) 檀那跋跋摩。闍那耶舍。耶舍曠多。闍那曠多。 隋錄 翻經素三人(譯出經二十一部八十四卷) 曇法智。毗尼多流支。達摩笈多。 唐錄 翻經素二人(譯出經五十八部一千三百七十卷) 波羅頗迦羅。玄奘。 即ち、後漢以來大慈恩寺の玄奘三藏に至る譯經の撰集は百九十九人に關し、その小傳とその譯出に係る聖教一千五百八十八部、五千七百四十三卷と、外に失譯二百九十八部五百二十七卷、總じて一千八百六十六部六千二百七十卷を録出して居るものである。 以上の諸錄の内容は大體に於て歴代三寶記を繼承して居るものであるけれども、歴代三寶記の代録は時代を標準に譯出撰集の聖典を整理せんとしたものである爲に、例

名所行發 (名庫書) 漢所現 (月年の刊寫) (書考多書釋註) 清本 (說解書内) 代年作者 (著者) 缺存 (數卷) (名書) 名題 (號字) 數

へば、月婆首那とか、眞諦とか、闍那曠多とか云ふ如き二代以上に跨つて譯經に従事した人の記事は、それぞれの時代に分割されて記載されて居るに對して、本錄の記事は聖賢とした人に重きを置いて書かれたものである爲に、各代に跨つて譯經に従事した人と雖も、何れかの一時代にそれが認められて居ること、本錄の基礎になつた聖賢が本來譯經三藏の譯經の功績を稱へるにあつたものである爲に、歴代三寶記の代録の記載中より此方撰集の抄經、義解、傳錄等のものは總て省き、純然たる翻經のみを掲げて居る點に於て特色を有して居るもので、この點が古來の譯經三藏の實數を知る上に便宜を與へて居る。然し、その以外に歴代三寶記の記載を其の儘繼承して、立入つた研究をなして居らないものである爲に、歴代三寶記の缺點が其儘に繼承されて居ることも亦止むを得ないことである。されば、智昇が本錄を評して「大慈恩寺翻經堂内聖賢古今翻經圖變、靖通因撰題之于後、但略費長房錄、翻經之者紀之、餘撰集者不錄」と云つてある批評は正に當つて居るものと云はなければならぬ。唯一つ本錄の記載と歴代三寶記の記載と相違して居る點は、姚秦の羅什譯中に婆伽婆豆傳一卷を新たに掲出して居ることであるが、この挿入が誤記であるか、何か新たに之を挿入する理由を發見して入れたものであるか、學者の研究を俟たなければならぬところである。

- 要するに、本錄は歴代三寶記の記載を抄出し、彼自身の立場に於て整理し直しただけのもので、經錄としては全く新味のないものであるけれども、本錄本来の目的が大慈恩寺翻經堂の聖賢の解題にあつたものであるから、他の經錄に對する如き批判は之を避けなければならぬかも知れない。
- 〔參考〕 開元錄第八、貞元錄第一二、奈良朝現在一切經錄目錄(林屋次次郎) Ko-an-ri-kyo-kyo-e-hi-nani-no-ki. ① 卷 ② 寫本(龍大、研究)
 - 古師遺編 ① (日) Ko-shi-ten. ② 卷 ③ 得版編 ④ 寫本(龍大)
 - 古寺巡禮 ① (日) Ko-ji-han-ri. ② 卷 ③ 存 ④ 和辻哲郎著 ⑤ 大正一三刊 ⑥ 東京岩波書店
 - 古事記の世界 ① (日) Ke-ji-kai-no-yo-sei. ① 卷 ② 存 ③ 曉島敏著 ④ 昭和七刊 ⑤ 石川香草舎
 - 古事要語 ① (日) Ko-ji-yo-go. ① 卷 ② 存 ③ 寫本(哲、七八、左、三三)
 - 古社寺の研究 ① (日) Ko-sha-ji-no-ken-kyu. ① 卷 ② 存 ③ 魚澄惣五郎著 ④ 昭和六刊 ⑤ (高木)
 - 古社寺保存便覽 ① (日) Ko-sha-ji-ho-zon-ban-i-an. ① 卷 ② 存 ③ 山崎有信編 ④ 明治三六刊 ⑤ (龍大、研究) (帝國、三一九・三五)
 - 古寫經大觀 ① (日) Ko-shi-kyo-tai-kan. ① 卷 ② 存 ③ 和田哲男編 ④ 大正九刊

古昔五重傳法軌則 ① (日) Ko-shaku-go-judo-ho-i-te-soku. ② 存、傳燈綱要卷中 ③ 此の書は淨土宗に在て、宗脈を傳ふるに五重と圓頓戒を同時に相傳したる時代(鎌倉時代)の作法儀を記したもので、一時放つて隱匿されてあつたのを寶永七年發見された古法の珍書として重んぜられたものである。その事は增上寺第四十五世成譽大玄の著したる五重綱要に述べられてある。

この書の五重傳法式次作法は、頗る丁寧に定められて在て、和尙の入室、法用、神分、表白、奉請、讚、香華、念誦と次第し、次に教授師加持、受者入室、懺悔、敬禮等の式を経て、和尙より五重を一重づつ授與する作法が記されて在る。近時行はるゝ作法とは廣時間同じからざるところがある。(林彦明)

- 古遺記撮要纂釋 ① (日) Ko-shaku-ki-suiso-yo-san-shaku. ③ 卷 ④ 存 ⑤ (哲、七、五、左、三三)
- 古述科 ① (日) Ko-shaku-aw. ① 帖 ② 存 ③ 鎌倉時代寫 ④ (寶龜院)
- 古述抄 ① (日) Ko-shaku-sho. ③ 帖 ④ 存 ⑤ 大永五覺有寫 ⑥ (寶龜院)
- 古跡料簡 ① (日) Ko-shaku-kyo-ken. ① 卷 ② 存 ③ 韻鏡(嘉祿二)一嘉元二(A. D. 1226-1304)撰 ④ (參考) 諸宗章疏卷第三
- 古頌諺解 ① (日) Ko-ji-ge-n-ge. ① 卷 ② 存、高野山結界内女人登詣制戒義之内 ③ 雲堂(元祿五 A. D. 1692)撰 ④

- 刊本(京大、蔵、一六・一〇)
- 古宿禰師語錄 ① (日) Ko-shukuni-zen-ji-go-roku. (支) Ke-sai-cho-shih-yu-tan. ② 卷 ③ 存 ④ 清代古宿胡語、明開編 ⑤ (參考) 譯經目錄
- 古宿禰體 ① (日) Ko-shukuni-hen-ri. ④ 卷 ⑤ 存 ⑥ 寫本(谷大、餘大、二五五九)
- 古書影寫並影像器具印影集 ① (日) Ko-sho-oku-e-aki-ei-shia-narabini-ei-shi-ku-ian-ei-sha. ① 卷 ② 存 ③ 寫本(谷大、餘大、三三九一)
- 古書獻上之記 ① (日) Ko-sho-ken-jou-ki. 平野光寺古書獻上之記 ② ① 卷 ③ 存 ④ 寫本(龍大)
- 古抄記類卷物 ① (日) Ko-sho-ji-rui-kan-ki-monoo. ② 一括 ③ 存 ④ 徳川時代寫 ⑤ (實善提院)
- 古清涼傳 ① (日) Ko-sho-ryo-den. (支) Ke-ching-jiang-chen. ② 卷 ③ 存、大正五・一〇九二 No. 2098、記續二七・三三・二 ④ 唐代慧祥撰 ⑤ 永隆元一弘道元(A. D. 680-683)
- ⑥ 支那に於ける佛教的靈山として最も有名な山西省五臺山一名清涼山のことを記せるものであつて、書中に「今上麟德元年(西紀六六四、高宗時代の年號)云々の記事あれば唐初期高宗時代に成りしものなるを知る。五臺山に關する書はその後、宋時代に廣清涼傳、續清涼傳出で三續清涼傳と稱せらるゝが慧祥の書、最も古きが故に古清涼傳と稱せらる。上下二巻五節よりなり

名所行發 (名庫書) 漢所現 (月年の刊寫) (書考多書釋註) 清本 (說解書内) 代年作者 (著者) 缺存 (數卷) (名書) 名題 (號字) 數

【一】

初に金大定辛丑歲(西紀一八一)の沙門廣英の序を附す。卷上は(一)立名標化、(二)封城里數、(三)古今勝跡の三節に分る。(一)立名標化には五臺山或は清涼山と名ける、山名の由来を説き、殊にこの山が華嚴經に云ふ文殊菩薩の住する清涼山に該當すとなす。これが佛教徒をして此山を聖地化し巡禮者たざる佛教聖地たらしめし所以である。(二)封城里數は清涼山の地理的説明である。(三)古今勝跡には山に存する古今勝跡、寺、石窟等主として佛教的勝跡に就いて記してある。卷下は(四)遊禮感通、(五)支流雜述の二節を收む、(四)遊禮感通は五臺山巡禮者靈感の事蹟を載す。周僧某以下唐僧惠暹まで十三名の遊禮者につきて述べてある。(五)支流雜述には俗人のこの山に關連せる靈異事蹟四件を收録してある。支那の山嶽佛教中にて五臺山は最も廣く信仰を集めたものであり、而してそれは華嚴經、並に文殊菩薩信仰に關連して處となつたものであり、やがてこれ等の經典、信仰の勃興せし隋唐時代は五臺佛教の全盛期をなすのである。今本書は佛教聖地としての五臺山信仰の初期を知るべき最も貴重なる資料である。

⑥元文五年六月二十八日本願寺内の古教寄屋御殿に於て本山執政下間少進仲宣、下間帥仲規、島田主膳勝成、上田主殿芳辰等を教諭し、後重ねてその演説の趣旨を書き願はして贈つたものである。(古教寄屋御殿は延享の初頃まで今時の本山佛殿所の在る場所にあつた。)内容は三ヶ條附一ヶ條に分れ、(一)御奉公は御主旨に御仕へあるべしと申事、(二)拙僧は善知識の御機に入度と不存候各も其の趣に可被成候との事、(三)御爲と申詞は法義には少し不相應の事を堂々と論じ時弊を慨嘆し以て宗門政治家の覺醒を促したものであつて、言々句々眞實の教團を擁護し法域を嚴護せんとすの誠意の露現である。この法話に遇へる人々皆肅然として襟を正し、山内頓に緊張したと傳へらる。

⑦(参考)淨土真宗教典志第二(大原性實) ⑧(参考)古教寄屋物語 ⑨(日)Ko-sai-ki-ya hono-gakari. 古教寄屋法話 ⑩一卷 ⑪存、眞宗全書第六一、小部雜集之内 ⑫法藏(元祿六)寛保元 A. D. 1693-1741)述 ⑬元文五(A. D. 1740) ⑭(日)Ko-sei-tei-tei-an-sen-jū-go-roku (支)Ku-han-chi-chi-Akan-shih-yū-in. ⑮四卷 ⑯存 ⑰現代古教寄屋物語、傳我等編 ⑱(参考) ⑲(参考) ⑳(参考) ㉑(参考) ㉒(参考) ㉓(参考) ㉔(参考) ㉕(参考) ㉖(参考) ㉗(参考) ㉘(参考) ㉙(参考) ㉚(参考) ㉛(参考) ㉜(参考) ㉝(参考) ㉞(参考) ㉟(参考) ㊱(参考) ㊲(参考) ㊳(参考) ㊴(参考) ㊵(参考) ㊶(参考) ㊷(参考) ㊸(参考) ㊹(参考) ㊺(参考) ㊻(参考) ㊼(参考) ㊽(参考) ㊾(参考) ㊿(参考)

①存、續群書類從第九 ②善政(永仁二)康應元 A. D. 1294-1299)撰 ③元の中峰明本禪師の法嗣にして鎌倉の圓覺寺二十九世、建長寺三十八世等に歴住せし正宗廣智禪師古先印元和尙の傳記を、永和二年二月上旬(A. D. 1376)前建長寺四十三世石室善政禪師が、古先印元の神足たる宣、演二子の依頼により五十年來の道友のため其の行狀を編述したものである。古先は薩摩の人、永仁三年(A. D. 1296)に生れ幼にして道隆關溪禪師の法嗣たる圓覺寺四世桃溪德悟禪師に侍し、文保二年二十四歳にして入元し、天台華頂峯の無見先觀禪師に參じ、其の指示に依つて天目山中峯明本禪師に參じて得悟した。後、虚谷希陵、古林清茂、月江正卯、東嶺德海、了庵清欽、靈石芝、笑隱大新、斷江思、別源宗、無言宜、古心誠等に歴參し、眞淨寺清拙正澄禪師の東渡に從つて歸朝し、嘉暦二年清拙の建長寺二十二世となるや三十三歳にして其の藏司となり、延元四年四十五歳にして天龍寺夢窓國師に請せられて、甲州惠林寺に住し中峰明本禪師に嗣香した。翌年京都等持寺に住し、貞和三年(正平二年)五十三歳にして眞如寺に住し、幾もなくして等持寺に再住した。相公足利氏(建長寺に懇請せる無隱元暉禪師に譲り、京都萬壽寺、相州淨智寺に住し、奥州普應寺を開き、房州天寧寺を律院と改めて禪刹とし開山第一祖となり。永和元年六十四歳にして鎌倉長壽寺を創め、翌年圓覺寺二十九世となり、幾もなくして建長寺三十八世となる。

師の親建する所、丹州顯勝、信州盛興、武州正法、津州寶壽等がある。應安七年(文中三年)正月二十四日(A. D. 1374)壽八十、臘六十八にして示寂し、曇芳庵に葬り塔を心印と題した。

【二】

録の序文を附し魏氏の捐資により鈔梓流通せしめたものとある。後、明萬曆四十五年五月(A. D. 1617)經山化城寺よりも刊行せられた。各巻に録する所は、次の如くである。(一)序。南嶽大慧行狀。馬祖大師行狀。百丈懷海語錄。(二)百丈之餘。黃蘗斷際語錄。(三)黃蘗斷際後段。(四)臨濟慧照語錄。(五)臨濟之餘。興化語錄。(六)睦州語錄。(七)南院語要。風穴語錄。(八)首山念誦錄。(九)石門慈照風巖集(谷隱臨隱禪師語錄)。(一〇)汾陽昭明語錄。承天當語錄。(一一)慈明語錄。(一二)南泉普願語要。子湖山神力語錄。(一三)趙州真際語錄。(一四)趙州之餘。(一五)雲門區真廣錄上。(一六)雲門廣錄中。(一七)雲門廣錄下。(一八)雲門廣錄下。(一九)楊岐會語錄。道吾真語要。(二〇)海會法演語錄。(二一)演和尙之餘。(二二)演和尙之餘。(二三)華嚴省語錄。(二四)神鼎語錄。(二五)大風芝語錄。(二六)法華舉語要。(二七至三四)佛眼語錄。(三五)大隨神照語錄。(三六)授子大同語錄。(三七)鼓山神晏法堂支要廣集。(三八)洞山初語錄。(三九)智門神語錄。(四〇)至四一)雲峯悅語錄。(四二至四五)眞淨語錄。(四六)瑞瑤覺語錄。(四七)東林雲門頌古。(四八)佛照奉對錄。

①(大久保堅瑞) ②(日)Ko-zon-shaku-go-roku-ko-kwa. ③一卷 ④存 ⑤無着道忠(承應二)延享元 A. D. 1653-1744)編 ⑥寫本(京大、藏・一七・八)

①(日)Ko-shin-o-shō-go-roku. ②一卷 ③存 ④(参考) ⑤(参考) ⑥(参考) ⑦(参考) ⑧(参考) ⑨(参考) ⑩(参考) ⑪(参考) ⑫(参考) ⑬(参考) ⑭(参考) ⑮(参考) ⑯(参考) ⑰(参考) ⑱(参考) ⑲(参考) ⑳(参考) ㉑(参考) ㉒(参考) ㉓(参考) ㉔(参考) ㉕(参考) ㉖(参考) ㉗(参考) ㉘(参考) ㉙(参考) ㉚(参考) ㉛(参考) ㉜(参考) ㉝(参考) ㉞(参考) ㉟(参考) ㊱(参考) ㊲(参考) ㊳(参考) ㊴(参考) ㊵(参考) ㊶(参考) ㊷(参考) ㊸(参考) ㊹(参考) ㊺(参考) ㊻(参考) ㊼(参考) ㊽(参考) ㊾(参考) ㊿(参考)

①(日)Ko-ten-shō-ha. ②一卷 ③存 ④(参考) ⑤(参考) ⑥(参考) ⑦(参考) ⑧(参考) ⑨(参考) ⑩(参考) ⑪(参考) ⑫(参考) ⑬(参考) ⑭(参考) ⑮(参考) ⑯(参考) ⑰(参考) ⑱(参考) ⑲(参考) ⑳(参考) ㉑(参考) ㉒(参考) ㉓(参考) ㉔(参考) ㉕(参考) ㉖(参考) ㉗(参考) ㉘(参考) ㉙(参考) ㉚(参考) ㉛(参考) ㉜(参考) ㉝(参考) ㉞(参考) ㉟(参考) ㊱(参考) ㊲(参考) ㊳(参考) ㊴(参考) ㊵(参考) ㊶(参考) ㊷(参考) ㊸(参考) ㊹(参考) ㊺(参考) ㊻(参考) ㊼(参考) ㊽(参考) ㊾(参考) ㊿(参考)

①(日)Ko-ten-shō-ha. ②一卷 ③存 ④(参考) ⑤(参考) ⑥(参考) ⑦(参考) ⑧(参考) ⑨(参考) ⑩(参考) ⑪(参考) ⑫(参考) ⑬(参考) ⑭(参考) ⑮(参考) ⑯(参考) ⑰(参考) ⑱(参考) ⑲(参考) ⑳(参考) ㉑(参考) ㉒(参考) ㉓(参考) ㉔(参考) ㉕(参考) ㉖(参考) ㉗(参考) ㉘(参考) ㉙(参考) ㉚(参考) ㉛(参考) ㉜(参考) ㉝(参考) ㉞(参考) ㉟(参考) ㊱(参考) ㊲(参考) ㊳(参考) ㊴(参考) ㊵(参考) ㊶(参考) ㊷(参考) ㊸(参考) ㊹(参考) ㊺(参考) ㊻(参考) ㊼(参考) ㊽(参考) ㊾(参考) ㊿(参考)

名所行發(名庫書)者處所現 月年の刊寫(書考參書詳註)清本 説解管内 代年作者 著者 缺有 數也 (名書)名題 號略字數

名所行發(名庫書)者處所現 月年の刊寫(書考參書詳註)清本 説解管内 代年作者 著者 缺有 數也 (名書)名題 號略字數

【二】

雲編 ③三歸法語以下五篇を輯む。 ④明治二五刊 ⑤(各大、宗洋・二九)

古徳法語集 ①(日)Ko-to-ku-ho-go-shiki. ②(徳)第四篇 ③存 ④佐々木惠雲、佐々木惠球共編 ⑤浄土真宗遺要外七篇を輯む。 ⑥明治二六刊 ⑦(龍大、一〇五・一一・一二・一三)(各大、宗洋・一三〇)

古帆密巻 ①(日)Ko-han-mi-san-toku. ②(徳)古帆密巻 ③二巻 ④存 ⑤義堂周信(正中二一嘉慶二 A. D. 1325-1389)著 ⑥(参考) 禪書目録

古筆拾遺 ①(日)Ko-hitsu-shi-shi. ②(徳)古筆拾遺 ③六巻 ④存 ⑤印應(永享七・一水正一六 A. D. 1435-1519) ⑥(参考) 諸宗聖蹟録第三 ⑦正保三刊(龍大、二六六・三四、研佛)(正大、一四二・八七)(各大、徳大、一三三)寛文二二寫(高大、一・四八、寄・一・四八)

古筆拾集 ①(日)Ko-hitsu-shi-sha. ②一帖 ③存 ④足利時代寫、寛永八寫 ⑤(實徳院)

古筆拾集 ①(日)Ko-hitsu-shi-sha. ②二帖 ③存 ④足利時代寫 ⑤(實徳院)

古筆拾集 ①(日)Ko-hitsu-shi-sha. ②遺巻 ③六巻 ④存 ⑤印應(永享七・一水正一六 A. D. 1435-1519) ⑥(京東)(新、け・四・左・川)

古佛修補遺作法 ①(日)Ko-bu-shu-ho-hok-ken-ka. ②一巻 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(實徳院)

古佛發遣 ①(日)Ko-butsu-hok-ken. ②一帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(實徳院)

古佛遺作法 ①(日)Ko-butsu-hok-ken-sha-ho. ②古佛遺作法三寶院 ③一帖 ④存 ⑤寫本(高大、寄・一・六五)

古佛遺遺召請 ①(日)Ko-butsu-hok-ken-shi-sho. ②二帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(實徳院)

古文抄 ①(日)Ko-bun-sho. ②笑雲撰 ③(参考) 日本釋林撰述書目 ④(参考) 日本釋林撰述書目

古文真寶 ①(日)Ko-bun-shi-ho-sho. ②(参考) 日本釋林撰述書目

古文千字文 ①(日)Ko-bun-sen-jimon. ②一巻 ③(参考) 比較山最段和尚法門道具等目録

古廟移作法 ①(日)Ko-byo-tsa-ho. ②一巻 ③存 ④足利時代寫、徳川時代寫 ⑤(實徳院)

古蜂雲自詠雜筆 ①(日)Ko-ho-un-jit-ai-pitsu. ②流長五世和尚古蜂雲自詠雜筆 ③一巻 ④存 ⑤(参考) 禪書目録

古實禪師語錄 ①(日)Ko-ho-sen-jiguroku. ②(参考) 禪書目録 ③一巻 ④存 ⑤(参考) 禪書目録

古本戒儀授法記 ①(日)Ko-hon-ka-i-ji-ho-ki. ②一巻 ③存 ④大玄(延寶八・寶曆六 A. D. 1690-1756)記 ⑤寫本(正大、一一八・二八)(龍大、二六一・三・六)

古本漢語燈錄 ①(日)Ko-hon-kan-go-to-ku. ②惠光本漢語燈錄 ③一册 ④存、佛古典書第六

古翻壽命經中眞言梵字本 ①(日)Ko-hon-jin-myō-kyō-shū-shin-gon-bon-jū-hon. ②一巻 ③存 ④(京大、藏・一八・一)

古品遺日說般若經 ①(日)Ko-bon-yū-nichi-setsu-han-nyō-kyō. ②遺日摩尼寶經、佛遺日摩尼寶經、古品遺日說般若經 ③一巻 ④存、大正二二・一八九 No. 337 ⑤縮地二二七六・五、北五五推、南五三推、元五〇推、明北五三推、明南五三推、元五〇推、支婁迦讖譯 ⑥後漢建和元一中平三(A. D. 147-186) ⑦佛遺日摩尼寶經の下を以て

古維摩詰經 ①(日)Ko-yū-ma-ki-kyō. ②(支)Ko-wei-mo-ki-kyō. ③二巻 ④後漢般佛調(中平五 A. D. 188)譯 ⑤(参考) 武周錄第一二、開元錄第一四、貞元錄第二四

古來經 ①(日)Ko-rai-kyō. ②(支)Ka-lai-ching. ③一巻 ④(京大、藏) ⑤(参考) 出藏三記第四、武周錄第一二、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五

古來世時經 ①(日)Ko-rai-sei-kyō. ②(支)Ku-lai-shih-shih-ching. ③世時經 ④一巻 ⑤存、大正一・八二九 No. 十、縮地八・二四・一、北五五推、南五三推、元五〇止、明北五三推、清五三推、慶六七推、天五八止、指五三推、法五九推、至九一五推、明南五三推、元五〇推、東晉代(A. D. 317-420)譯

この經典は中阿含六六經説本經(大正一・五〇八)の異譯單行經であつて、前半と後半に分けて見ることの出来るものである。前半は福田への施が大果あることを讚え、このことに就て、阿那律が前生餓饉の時和里獨覺(無患)に一鉢の食を供養せしめ生々世々福樂を得、今世釋迦族の家に生れて富樂限りなかりし事を説き、後半は未來人壽八萬歳の時、轉輪王(佛)出世し、この時、今時佛座下の彌勒が再び出世して、彌勒佛として成佛すべしといふ豫言を説くものである。それで古(過去)來(未來)世時經といふ經名があるのである。説本經に比べると古來世時經は短かく、譯も不完全である。この經典は巴利尼迦耶に見當らなうが、前半阿那律に關するところは Theravāda に出ている。經の經典は智度論(大正二五・五七)には、中阿含本末經として引用されてゐる。

(参考) 開元錄第三、貞元錄第五 (赤沼智善)

古論草目録 ①(日)Ko-ron-so-moku. ②一巻 ③存 ④寫本(各大、大・四四六一)

小石川傳通院志 ①(日)Ko-ishii-kawa-den-den-in-shi. ②(参考) 檀林小石川傳通院志 ③一巻 ④存、浄土宗全書第一〇 ⑤橋門(天明二・天保一〇 A. D. 1782-1839)記

小折紙 ①(日)Ko-ori-kami. ②三折百六十三帖 ③平安末期寫 ④(高大、寄・一・六六)

小金東漸寺誌 ①(日)Ko-gane-to-zen-ji-shi. ②(参考) 東漸寺誌 ③一巻 ④存、浄土宗全書第二〇 ⑤橋門(天明二・天保一

名所行説 (名所書) 歳所現 (月年の刊寫) (書考參書釋註) 書本 (説解管内) 代年作著 (著書) 缺有 (書名) 名題 (號) 號字數

【三】

O. A. D. 1782-1839) 撰

⑥浄土宗十八檀林の一である、千葉縣東葛飾郡小金町東漸寺の寺誌で、他の檀林誌と同時に撰述されたもので、體裁は殆んど同じである。項目を創規起原、現存堂宇、什寶數目、每夏禁札、寶章手輪並上古領知、鞍山添末、開山略傳、列世法將、山本墓碑、輪下秀匠、門列各條の十二とす。創規起原には千葉の鹿渡原の分支高木修理大夫風忠小金を領せる比、經基正運上人來遊し遺俗の歸仰を得て一字建立し、領主より境内、田圃の寄付があつたのが始まり、慶長年間清譽上人の時から十八檀林の隨一に列せられた。現存堂宇の項には本堂の大き、新古の本尊あることを叙し、古本尊來由には修理を四回廻たることを記し新本尊來由には葛西小松川の木村近江より當寺、寄附ありし緣由を述べて、本堂極札の文に鐘銘及祭銘を録し、大師堂安置の香衣大師寄附狀を載せ、樓門、鎮守殿、庫裡方丈、經藏等の建物を列記し、什寶數目の項には書畫等の藏什を列記し、每夏禁札の項には天正十二年及十五年の安居制條を掲げ、寶章手輪及上古領地の項には、家康の手輪、水戸光圀の手輪、朱印、御圖帳の寫數通が載せてある。鞍山添末の條には、鞍山よりの在來の十三ヶ寺、新付十ヶ寺を承認せる書翰、奉行所よりの建示が錄されてある。開山略傳は開山經譽應底正運上人の傳、列世法將には二世清譽上人、三世呈覺位樂上人の略傳、四世行譽上人六世開譽上人の事蹟を略叙し、七世より四十一世までは唯列名に止

め、山本墓碑には山本新五左衛門正成の碑銘を掲げ、輪下秀匠には空心諷公、淨譽發泉、明譽正底、曉譽岸翁、正譽念死育の略傳を掲げ、門列各條の條には武州戸塚三佛寺、小針桂全寺、八條村大經寺、新宿慶圓寺、二本村常行院、松戸來迎寺、赤岩源光寺、阿彌陀寺、無量寺、二丁目村西蓮寺、川崎村專稱寺、二丁目村來迎寺、小作村龍正寺、松戸村松龍寺、青戸村法同寺、板村常然寺、淵江龍岸寺、實性寺、林松寺、昌樹院の小金行念寺、覺村安樂寺、印西野口村放光寺、相馬布施村南龍寺、深井村淨信寺、椿木村淨法寺、高田村淨善寺、加村光照寺、流山長流寺、宇喜田安樂寺、深井西淨寺等の記事が載せてある。

(中谷在禪)

小金東漸寺諸譽周益上人記 ①(日)Ko-gane-to-zen-ji-tai-yo-shū-yasaku-shū-an-ki. ②一巻 ③存 ④琳間記 ⑤文政三寫 ⑥(正大、一五・一六・二六) ⑦小皮籠 ⑧(日)Ko-gawa-go. ⑨二巻 ⑩存 ⑪寫本(高大、一・六四)

小木關伽護嘆 ①(日)Ko-ki-ka-ka-shū-an. ②一巻 ③存、日本大藏經修驗道章疏第二法別類 ④雄仁親王(文政四—明治元 A. D. 1821-1868)撰 ⑤天保一〇(A. D. 1839)

⑥小木は修驗道に於ける紫燈護摩の檀木、圓伽は清淨無垢水で、此の小木及び圓伽の深義を讚嘆し、入時新客の遵守すべき觀念成儀を説いたものが本書である。即ち小木及び圓伽は釋尊の阿私仙給仕の因縁に擬し

たものであること、又圓伽は萬法能生の本源、小木は一切盡滅の所歸であること及び小木、圓伽の標幟等を簡潔に説かれてある。天保十年八月十三日、三山檢校二品雄仁親王が入時の際捧讀した讚嘆文である。

(服部如實)

小嶋印信 ①(日)Ko-jima-in-jin. ②一帖 ③存 ④寫本(高大) ⑤徳川時代寫(金剛三昧院)

小嶋行用 ①(日)Ko-jima-eyō-yū. ②(参考) 本朝古訓撰述密部書目

小嶋灌頂印明 ①(日)Ko-jima-kwani-tō-in-myō. ②一帖 ③存 ④應永二行憲寫 ⑤(金剛三昧院)

小嶋灌頂日記 ①(日)Ko-jima-kwani-tō-nikki. ②一帖 ③存 ④興然(保安元—建仁三 A. D. 1120-1203)記 ⑤寫本(金剛三昧院) ⑥(高大、寄・一・六八)

小嶋血脈 ①(日)Ko-jima-kechi-myaku. ②一紙 ③存 ④寫本(高大、寄・一・七〇)

小嶋私記 ①(日)Ko-jima-shi-ki. ②唯識義私記 ③十二巻 ④存、大正七一・二九八 No. 3319 ⑤日本大藏經三論宗章疏餘 ⑥眞興(承平四—寛弘元 A. D. 931-1004)撰

小嶋上網三所御在所の日記 ①(日)Ko-jima-jō-san-ko-san-ra-shō-go-zai-shū-no-nikki. ②一帖 ③存 ④元中五忠綱寫 ⑤(金剛三昧院)

小嶋上網事 ①(日)Ko-jima-jō-ko-ni-kotō. ②一帖 ③存 ④寫本(金剛三昧院)

小嶋流印信 ①(日)Ko-jima-ryū-in-jin. ②一巻 ③存 ④寫本(金剛三昧院)

小嶋流諸大事傳受私記 ①(日)Ko-jima-ryū-shū-dai-jū-ten-jū-shi-ki. ②一帖 ③存 ④快安(一永祿九 A. D. 1566)述 ⑤足利末期寫 ⑥(金剛三昧院)

小嶋流聖教目錄 ①(日)Ko-jima-ryū-shū-kyō-anōku-roku. ②三册 ③存 ④徳川末期寫 ⑤(金剛三昧院)

小嶋流總血脈 ①(日)Ko-jima-ryū-shū-kechi-myaku. ②數種 ③存 ④足利時代寫、徳川時代寫 ⑤(金剛三昧院)

小嶋流大事 ①(日)Ko-jima-ryū-dai-jū. ②一帖 ③存 ④鎌倉中期寫(高大、寄・一・六四) ⑤徳川時代寫(實徳院)

小消息講話 ①(日)Ko-shū-shōka-kwa. ②一巻 ③存 ④吉岡阿成(元治元—明治三八 A. D. 1861-1905)述 ⑤明治三九刊 ⑥(帝國)三二四・六)

小僧指南集 ①(日)Ko-sō-shū-an-shū. ②二巻或一巻 ③存 ④惠澄(正保元—享保六 A. D. 1641-1721)撰 ⑤(参考) 浄土眞宗教典志第二 ⑥元祿三刊(龍大、一〇五三・四) ⑦寛延元寫(各大、宗大・三八九)

小雙紙 ①(日)Ko-sō-shi. ②小野六帖、小野小六帖、小野小雙紙、小雙紙 ③七巻 ④存、大正七八七六 No. 3473 ⑤上海(天曆九—永承元 A. D. 955-1044)撰 ⑥小野六帖の下を見よ ⑦明應六寫 ⑧(實徳院)

名所行説 (名所書) 歳所現 (月年の刊寫) (書考參書釋註) 書本 (説解管内) 代年作著 (著書) 缺有 (書名) 名題 (號) 號字數

【コ】

小濱庵攝寺由緒書 ①(日)Ko-han-bara-sho-jy-yui-sho-gaki. ②1巻 ③存 ④寫本(龍大)

小卷 ①(日)Ko-maki. ②三軸 ③存 ④寶曆三寫 ⑤(金剛三昧院)

小卷 ①(日)Ko-maki. 國譯小卷 ②存 ③國譯密教事相部第四冊之寫

小卷私考記 ①(日)Ko-maki-shi-ko-ki. ②二冊 ③存 ④徳川時代寫 (寶善院)

小卷物 ①(日)Ko-maki-mono. ②一帖或四軸 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(寶善院)(寶善院)

小松原法難緣起 ①(日)Ko-matsu-bara-ho-nan-en-gi. ①一卷 ②存 ③小松原徳忍寺編 ④(立大、A.O.六・四五)

小六帖 ①(日)Ko-roku-ji. 小野六帖、小野小雙紙、小雙紙、小帖雙紙 ②七巻 ③存、大正七八・七六 No. 2473 ④仁海(天曆九一永承元 A.D. 955-1046)撰 ⑤小野六帖の下を見よ ⑥元文五寫 ⑦(寶善院)

小六帖看快口訣 ①(日)Ko-roku-jy-yu-kan-ku-kei. ②二帖 ③存 ④寫本(金剛三昧院)

子嶋灌頂記 ①(日)Ko-jima-kan-jon-ki. ①一冊 ②存 ③永正一〇良恩寫 ④(金剛三昧院)

子嶋山觀覺寺緣起 ①(日)Ko-jima-san-kan-kei. ①一冊 ②存 ③觀覺寺緣起 ④(金剛三昧院)

子嶋大門坊 ①(日)Ko-jima-dai-mon-do. ①一帖 ②存 ③徳川時代寫 (寶善院)

子嶋傳法八印口訣 ①(日)Ko-jima-den-ho-hachi-in-ku-kei. 子嶋流傳法八印口訣 ②一帖 ③存 ④寫本(高天、1・70)(金剛三昧院)

子嶋南天鐵塔口訣 ①(日)Ko-jima-nan-ten-ten-kei-ko-kei. ②一帖 ③存 ④足利初期寫 ⑤(金剛三昧院)

子嶋流加行意得 ①(日)Ko-jima-ryu-ka-kyo-ko-kei. ②一帖 ③存 ④永正元良恩等寫 ⑤(金剛三昧院)

子嶋流護摩次第 ①(日)Ko-jima-ryu-ryu-go-ma-shi-da. ②一帖 ③存 ④寫本(金剛三昧院)

子嶋流傳授目錄 ①(日)Ko-jima-ryu-ryu-den-ho-moku-roku. ②二冊 ③存 ④隆徳(一天保元 A.D. 1830-)編 ⑤天保一四刊 ⑥(金剛三昧院)

子嶋流傳法八印口訣 ①(日)Ko-jima-ryu-ryu-den-ho-hachi-in-ku-kei. 子嶋傳法八印口訣 ②一帖 ③存 ④永和二行寫(金剛三昧院寫本高天、1・70)

子嶋流臨終大事 ①(日)Ko-jima-ryu-ryu-ryu-on-ji. ①一帖 ②存 ③徳川末妙住寫 ④(金剛三昧院)

子守明 ①(日)Ko-mo-ri-mi. ①一冊 ②存 ③白隱廣錄第一 ④白隱慧鑒(貞享二一明和五 A.D. 1685-1768)撰 ⑤明治三五刊 ⑥(駒大)

己心往生三秘訣 ①(日)Ko-shin-ji-san-hi-mi-kei. ①一冊 ②存 ③(龍大)

己心衆生佛界義 ①(日)Ko-shin-shin-shu-jy-kyo-kai-gi. 己心衆生佛界義記 ②一巻 ③圓仁(延暦一三一貞觀六 A.D. 794-864)述 ④(參考) 山家祖徳撰述書目集卷上

己心衆生佛界義記 ①(日)Ko-shin-shin-shu-jy-kyo-kai-gi. 己心衆生佛界義 ②一巻 ③圓仁(延暦一三一貞觀六 A.D. 794-864)述 ④(參考) 本朝台祖撰述書目集卷上

己心抄 ①(日)Ko-shin-sho. ①一巻 ②存 ③大日本佛教全書第二四天台小部集第一、天台小部集第一七 ④覺超(天徳四一長元七 A.D. 960-1033)述 ⑤本書は日本天台の己心流本覺法門を鏡像圓融の口傳を主眼として説述したもの。本書は恐らく口傳法門が發生した東陽房忠孝から仙流の尊海に至る期間、(大治一弘安 A.D. 1196-1286)約二百年の傳承の間に於いて師表の誰人が都兜先徳覺超に假托しこれを製作したかと思ふ。若し尊海に近き師に作者を求めらば大和庄俊範(承久 A.D. 1231)或は俊範門下の承瑜一河田谷信章(嘉禎一 長建、A.D. 1235-1250)等に作者を推定すべきであらう。何れにしても院政時代の末期から鎌倉時代の初期頃の作と推定すべきであらう。本書は惠心流の一流仙流の支派たる河田谷流の(龍大)

己心中記 ①(日)Ko-shin-jy-kei. ①一巻 ②存、大日本佛教全書第二四天台小部集第一、天台小部集第一七 ④覺超(天徳四一長元七 A.D. 960-1033)述 ⑤本書は日本天台の己心流本覺法門を鏡像圓融の口傳を主眼として説述したもの。本書は恐らく口傳法門が發生した東陽房忠孝から仙流の尊海に至る期間、(大治一弘安 A.D. 1196-1286)約二百年の傳承の間に於いて師表の誰人が都兜先徳覺超に假托しこれを製作したかと思ふ。若し尊海に近き師に作者を求めらば大和庄俊範(承久 A.D. 1231)或は俊範門下の承瑜一河田谷信章(嘉禎一 長建、A.D. 1235-1250)等に作者を推定すべきであらう。何れにしても院政時代の末期から鎌倉時代の初期頃の作と推定すべきであらう。本書は惠心流の一流仙流の支派たる河田谷流の(龍大)

十九通の切紙傳授の第十一通であり、十九通を永和一年(西紀一三七五)及同二年に明辨が注釋してあるのを見て本書は確實に口傳法門に屬する一書たることに何等疑ふべき點がないと思ふ。本書は三段に分けられる。先づ天台大師は本地は藥王菩薩で靈山觀音の衆であり、迹を垂れては四依の大士として五品の位に居し、自解佛乘の大見識を立てて如来一代教の綱目理致を權實・圓頓漸・本迹・因果に剖判解釋し、摩訶止觀では元意符門と五略十廣の二門とを分つて門門に己心中を示し、法華玄義では七番五重・迹本特絶・教證二道は皆一念を出でないといひ、法華文句では四種消釋・五具相即・皆三諦に約して説くから圓意が宛然として明かになつたと。この止觀・玄文・文句は同じく本佛の秘智である。止觀の二門は本有の二門。玄文の二妙は本有の二妙。文句の四種消釋は本有の四種消釋。三觀・四教・迹佛・本佛は皆本有の三諦・四教・理事である。故に章安も筆述しなかつた。第二段はこの法門を傳授大師は在唐の日蓮流に就いて「一心三觀を一言に傳へ、鏡像圓融の譬は口決面授でなければ傳へられない」と、日本天台の根本的説明を先づ祖師の著述に證據を求め、而して第三段は問答を二重にして末法の傳授の價值と其作法を述べて終る。特にこの傳授には二面鏡を用ゐることが記されてゐるが、一心三觀の傳授は一面鏡を用ゐるべきであるといふ説があるのに、本書は二面鏡を用ゐると述べてゐる。ここに又鏡像圓融の深義が口傳法門の重要な地位

【コ】

を占めるのである。又上述のように天台章安の兩大師も決して記さない深義を、末法となつては口傳相承してゐるならば文章でないから全く減びるであらうから、今や甚深なる法門ではあるがこれを筆に草して末學のためにこれを記述したと。この説も口傳法門の傳承が文字に記されるに至つた由来を記したもので注目點である。此等の觀點によつて本書は短文ではあるが相當に口傳法門史研究上注目すべき書である。

⑦(參考) 河田谷傍正十九通の内、明辨(永和二 A.D. 1376)註、覺超私記・鏡像圓融口訣。諸宗章疏錄第二、山家祖徳撰述書目集卷下、本朝台祖撰述書目 ⑧萬治四刊 ⑨(正大、一三一・四) (田島徳音) ⑩(立大、一三一・四) (田島徳音) ⑪(立大、一三一・四) (田島徳音)

己心中義記 ①(日)Ko-shin-jy-gi. ①一巻 ②存、日本大藏經第四〇天台宗顯教章疏第二、大日本佛教全書第二四、天台小部集釋第四 ③圓仁(延暦一三一貞觀六 A.D. 794-864)述

④本書は三諦の妙理は縱横一異法爾自然にして三三相冥一一無一なることを、相性體の妙有眞善、妙色實德、畢竟空にかけて説明し、涅槃經の虚空佛性如来藏の義によつて本理・本有・本覺の體用總別を三諦の修性に約して説いてゐる。この不思議の三諦が一念發起する所に身土依正生死業惑となつては無明薫習し、修善増長し厭苦すれば眞如薫習し、三不退の行増進す。教名起つては本より迹を垂れ、三惡趣に對して三善道の名を立て、三界に對して三乘の名を立て、一圓機に應じて佛界の名を立て、衆生

界に應じて正像末の三時を立て、佛佛相續して利生無窮である。今はこの有教の時であるから知識經卷を外縁となし、内薫自心を圓因となして大道心を發すべきである。發心には緣理の發心と緣事の發心とある。事理の發心によつて五倫即ち五戒を修行し、前念を境となし、後念を觀れば法界も空、妙空なれば妙有妙中、三諦圓融である。是の如く一念即ち己心の三諦圓融なる義を説いてゐる。本書の特色は著書説と三時説と五戒即ち五倫なりとする説である。

⑦(參考) 諸宗章疏錄第二 ⑧刊本(正大、一三六・四) (田島徳音)

己心秘奥抄 ①(日)Ko-shin-hi-ko-sho. ①一巻 ②存 ③寫本(谷大、餘大、二四五六)

己心北斗 ①(日)Ko-shin-hoku-to. ①一巻或二巻 ②存 ③日相述 ④霧海南針を破斥したもの ⑤寛文一三刊 ⑥(谷大、餘大、二四五六)

己心北斗興起 ①(日)Ko-shin-hoku-to-sho. ①一巻 ②存 ③寫本(谷大、餘大、二四五六)

己心問答抄 ①(日)Ko-shin-mon-do-sho. ①一巻 ②存 ③嘉永二刊 ④(谷大、餘大、二四八三)

木葉衣 ①(日)Ko-no-ha-goromo. ②二巻 ③存、日本大藏經修驗道章疏第三教義類、續々群書類從第一二 ④行智(安永七一天保一 A.D. 1778-1841)記 ⑤險門の學匠慧日行智が修驗行者の服裝に

因んで木葉衣と題し、下記三十二項について該博な知識を以つて考證し論議し時に圖解した近代の名著である。即ち上巻には巻頭に「かきつめて木の葉ころ裳をつりをけはさすがに人を見まくとぞいふ」の一首を出し、次に(一)役君。(二)小角。(三)族種。(四)久米岩橋。(五)廣足。 (六)靈異記役君傳。(七)孔雀明王咒法。(八)五百虎譚記。(九)山伏。(一〇)修驗附兇驗。(一一)優婆塞。(一二)客僧。(一三)會美加久太。(一四)有樂刺髮。(一五)御嶽精進。(一六)驗觀。(一七)小幡碑。(一八)峰中略記について記してゐる。下巻には(一九)頭巾。(二〇)折頭巾。(二一)鈴懸衣。(二二)法結袈裟。(二三)伊良太加念珠。(二四)法理源大師之錫杖。(二五)大華山緣起。(二六)九金峯山拜所。(二七)寛政聖詔。(二八)大日本史役公傳。(二九)役直の十四項を論じ且つ解説してゐる。修驗道研究の手引書としても本書の右に出づるものはなからう。上巻終の跋「此書先年コレヲ草シテ後、其本ヲ失フ。幸ニ尾州名古屋小笠原郡二本氏ノ寫シ置ルアリ。近頃冠山老公使ヲ遣テ寫サシメラレテ再ビ我許ニ還ルコトヲ得タリ。因テ重訂増補シテコレヲ留ルナリ。蓋シ餘暇ノ暇筆、人ニ示スニ及バズトイハドモ、聊カ思フ所ヲ記シテ小子等ニ授ク。次テ古衣ノ續補アリ、併セテ兩冊ト爲スノミ」及び下巻末の「予天保三年壬辰閏十一月二十七日此ヲ寫サセ置候也。淺草小隱鳩山、行智」を見れば、本書執筆の由

來並に完成の年代を知ることが出来る。

①寫本(帝國、二二・四七) (服部如實)

巨海代 ①(日)Ko-kai-dai. ①一巻 ②存 ③巨海良建述 ④(參考) 禪籍目錄

巨海代之鈔 ①(日)Ko-kai-dai-no-sho. ②二巻 ③存 ④巨海良建述 ⑤(參考) 禪籍目錄

巨水遠沾記 ①(日)Ko-sui-on-ten-ki. ②二巻 ③存 ④日亭(正保三一享保六 A.D. 1646-1721)撰 ⑤天保三刊 ⑥(谷大、餘大、八六二)(立大、A.O.四・二八九)

巨福山建長興國禪寺草建入佛記 ①(日)Ko-fukusan-ken-cho-ko-ki. ①一巻 ②存 ③(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

巨福山建長禪寺開山蘭溪和尚行實 ①(日)Ko-fukusan-ken-cho-ko-ji. ①一巻 ②存 ③虎園師錄(弘安元一貞和二 A.D. 1278-1346)撰 ④(參考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

巨福山護國尊天記 ①(日)Ko-fukusan-go-koku-sen-ten-ki. 巨福山建長寺護國尊天記 ②一巻 ③存 ④天溪記 ⑤(參考) 禪籍目錄

巨力長者所問大乘經 ①(日)Ko-ri-cho-jy-sho-mon-dai-jy-kyo. (支)Cha-ri-cho-jy-sho-mon-dai-jy-kyo. (支)Cha-ri-cho-jy-sho-mon-dai-jy-kyo. ②三巻 ③存、大正一四・八二九 No. 543. 縮吉六、己一六・一、至 534 各、明南 1042 取、Nj. 994 智吉祥等譯

【コ】

劉宋皇祐五 (A. D. 1033)
本經は具には佛説巨力長者所問大乘經といひ、上中下の三巻より成り、佛巨力長者を初め五百の長者に大乘の法を説き、長者等無生法忍を得、佛これに記明を授け給ひしことを説いたものである。

即ち上巻に於て、舍衛城の巨力長者、五百の長者に諸法の因縁生なること、三乗の法に於て解脱を求むべきことを説き、更に詳述を望まれて、五百の長者と共に紙園精舎に佛を訪ひ、佛のために三乗の權實頓漸生死の脈絡解説を説いて歡喜せしめ、更に六波羅蜜を説き、大乘の最上の菩提は諸法は本無差別同一の法界にして、自性無きことを説き、中巻に於て菩薩所修の行を學び、菩薩を證せんには、有情流轉の根源を明に覺知すべきことを説き、更にこの意を中巻の後半より下巻に涉つて頌を以て重説し、巨力長者等佛の説法に歡喜して無生法忍を得、佛、阿難に巨力長者は五千劫の後に成道して吉祥轉佛となることを豫言し給ふことを説いたものである。(林五邦)

去惡除病經 (日) Ko-shiki-ge-n (支) Ch'o-ku-ch'u-ping-ching. 一巻
去惡除病經 (支) Ch'o-ku-ch'u-ping-ching. 一巻
去惡除病經 (支) Ch'o-ku-ch'u-ping-ching. 一巻
去惡除病經 (支) Ch'o-ku-ch'u-ping-ching. 一巻

出三藏記第五、法經錄第四、仁壽錄第四、壽泰錄第四、內典錄第一〇、武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八、居士傳 (支) Ch'u-shih-chuan. 一巻

居士傳 (支) Ch'u-shih-chuan. 一巻
居士傳 (支) Ch'u-shih-chuan. 一巻
居士傳 (支) Ch'u-shih-chuan. 一巻
居士傳 (支) Ch'u-shih-chuan. 一巻

居士分燈錄 (日) Ko-shi-fen-teng-ki. 一巻
居士分燈錄 (支) Ch'u-shih-fen-teng-ching. 一巻
居士分燈錄 (支) Ch'u-shih-fen-teng-ching. 一巻
居士分燈錄 (支) Ch'u-shih-fen-teng-ching. 一巻

【コ】

嘉、宋魯漢等の師承あり應化の人である七十二人(並に附するに三十八人)の紀傳語要を編録し、自らこれに贊語を加へ、王元瑞これを校閲し、王元瑞、張翼の序、明崇禎四年十一月の自序、同五年八月(A. D. 1633)許經の後序、黃廷簡の跋並に同四年十一月章台里の居士分燈錄引並に崇禎五年八月一日朱時思の跋語を附し、上下二巻として刊行せしめたものである。

其の列次は、卷首に宋漢の撰である夾註輔教編序、重刊法論題辭を、次に大慧宗杲禪師の眞知道人の示す書を、次に蓮池大師雲棲株宏禪師の法語九篇を採録し、卷上に、維摩詰、傳大士、楊街之、向居士、李通玄、龐道玄(附、韓愈)崔群、甘贊、陳真、白居易、裴休、李翱、于頔、王敬初、陳機、陳希聲、張拙、王廷彬、王隨、楊億、曾會、李遵岳、許式、夏竦、范仲淹(附、尹洵、朱炎、昆迪、李流、杜衍、張方平、楊傑、劉經臣、孫比部)附、楊啟、王安石)の二十七人に附するに九人を收め、卷下に、李端履、趙抃、富弼(附、文彦博、歐陽修、范鎮、司馬光、邵雍、呂公著)潘興嗣、張商英、蘇軾、龐實堅(附、韓宗古、彭器資、王正言、朱世英、王衛州)、吳恂、王照、郭祥正、周敦頤(附、程頤、程顥、游酢、謝良佐、楊時)、戴道純、高世則、陳理(附、劉安世)、胡安國、范冲、吳居厚、彭汝霖、盧航、都院、徐俯、趙令畤、李綱、張浚、馮母(附、王敏仲)、趙令畤、李邦、吳偉明(附、吳潛、呂正己、呂本中、陸游、尤袤、葉適、陳貫)、劉彥

修、黃彦節、錢謙益、錢象鳳、潘良貴、曾開、葛剡、莫將、王翺、張拭、李浩、吳三、朱熹(附、陸九淵、眞德秀)、余居士(附、王日休)、宋登源、呂眞人(附、張伯陽)の四十四人に附するに二十九人、即ち上下兩巻を合して、七十二人、附するに三十八人、總計百十人を録して居る。本書は卷末にある章台里の勸導引並に朱時思の跋語にある如く、其の上梓に際して當時の諸居士に五錢又は三錢の捐資を請ふて刊行されたもので、各五錢の捐資者二十五名、各三錢の捐資者三十四名(朱時思も加へて)の助縁者を掲げて居ることは誠に興味深いものである。

其の列次は、卷首に宋漢の撰である夾註輔教編序、重刊法論題辭を、次に大慧宗杲禪師の眞知道人の示す書を、次に蓮池大師雲棲株宏禪師の法語九篇を採録し、卷上に、維摩詰、傳大士、楊街之、向居士、李通玄、龐道玄(附、韓愈)崔群、甘贊、陳真、白居易、裴休、李翱、于頔、王敬初、陳機、陳希聲、張拙、王廷彬、王隨、楊億、曾會、李遵岳、許式、夏竦、范仲淹(附、尹洵、朱炎、昆迪、李流、杜衍、張方平、楊傑、劉經臣、孫比部)附、楊啟、王安石)の二十七人に附するに九人を收め、卷下に、李端履、趙抃、富弼(附、文彦博、歐陽修、范鎮、司馬光、邵雍、呂公著)潘興嗣、張商英、蘇軾、龐實堅(附、韓宗古、彭器資、王正言、朱世英、王衛州)、吳恂、王照、郭祥正、周敦頤(附、程頤、程顥、游酢、謝良佐、楊時)、戴道純、高世則、陳理(附、劉安世)、胡安國、范冲、吳居厚、彭汝霖、盧航、都院、徐俯、趙令畤、李綱、張浚、馮母(附、王敏仲)、趙令畤、李邦、吳偉明(附、吳潛、呂正己、呂本中、陸游、尤袤、葉適、陳貫)、劉彥

白樂天。(二〇)楊大年、李公武(編題)。(二一)吳明遠、王子正、文寬夫、富彦國、張安道、趙開道。(二二)楊次公(王仲回)、王敏中(葛繁)。(二三)張平叔(王邦叔)。(二四)鍾離(景隱松)孫良、陳凌、張通、孫十二郎、馬仲玉(水逸)、左伸、范徽、胡達夫、孫柱、朱進士、王無功、王衷、吳信聖、張掄、李乘、陳子元、圓邦榮、錢同伯、符省書(計公、吳復之、陳君璋)。(二五)劉興臣、潘延之、許叔幹、郭功父、陳體常、吳德夫(王韶)。(二六)蘇子瞻(子由)、黃魯直、吳元符(以道)。(二七)鄭介夫、鄭志完、江民表、陳榮中。(二八)張天覺。(二九)李伯紀。(三〇)宗汝霖(陳允昌)張德遠。(三一)李似之(趙表之、李德遠)嚴康朝、李漢老、馮濟川、蔡子應(劉彦修)、吳元昭、吳十三、顏丙、呂鐵船、葛謙問、徐放牛、張功甫。(三二)張子韶(三三)王中(中安國)李彥弼。(三四)黃希元(陳貴謙)、吳毅夫、三五)李純甫(劉謫沈士榮、王子成、董國華、鄒所南、胡汝仲(馮子振)。(三六)耶律晉卿、國寶。(三七)宋登源。(三八)劉祖庭、萬民望、李文進、王道安、薛元初。(三九)趙大州(小洲)。(四〇)嚴敏卿(嚴漢澤)沈沈、陳興龍(馮開之陸伯貞)。(四一)楊邦華、唐德如、才以安、孫叔子、朱綱、郭大林、劉通志、郭熙載、杜居士、吳大恩、吳用卿、張愛、(四二)殷時調、陳廷傑、顧清甫、朱元正、周楚華、蔡槐庭、虞長卿(信備)、黃平倩、莊復眞、鮑性泉。(四三)李卓吾。(四四)晉登之、楊貞復、除周聖(與齡)無窮侯、唐宣之、羅元立(朱兆隆、鍾伯敏、王弱生、平仲、吳涉、王

字泰、吳體中、應賓、董元宰)。(四五)袁丁凡。(四六)袁伯修、(中郎、小修登)。(四七)曾錦甫、趙凡夫、劉玉受、(楊子澄、維斗、公幹、李子木、徐九一、劉公直、姚文初)。(四八)王孟夙、丁錫紅、朱白民(婁子來)、莊平叔、黃元宇、閔子與、黃子羽、錢伯鑑、吳鐵樓、王先民、陳用拙、賈見於、程季清。(四九)周景文、洪孟長。(五〇)馬邦良、徐成民。(五一)蔡維立、劉長倫、黃元公、黃介子、黃蘊生、(唐昌全、黃潤輝、陳傑、侯元演、元壽、夏雲敷)。(五二)金正希、熊魚山、(姜如農、張大圓)。(五三)溫月峰、崔應魁、蔣虎臣、李生、(劉庭生)。(五四)嚴仲慈、周知微、宋文森、畢紫嵐。(五五)周安士。(五六)知歸子。

光緒四再刊(京大、藏一九〇一)明治一五刊(京大、藏一九〇二)正大、一〇三五、二八、六六(龍大、二〇三三、四一、一九六四、四一、研史)(谷大、餘小、二七)內閣(暫外、一、中、一六)

虎王經 (日) Ko-ō-kyō. (支) Hō-ō-kyō. 一巻
虎王經 (支) Hō-ō-kyō. 一巻
虎王經 (支) Hō-ō-kyō. 一巻
虎王經 (支) Hō-ō-kyō. 一巻

虎關國師傳 (日) Ko-kan-koku-ni. 一巻
虎關國師傳 (支) Ch'u-kan-koku-ni. 一巻
虎關國師傳 (支) Ch'u-kan-koku-ni. 一巻
虎關國師傳 (支) Ch'u-kan-koku-ni. 一巻

虎關國師傳 (支) Ch'u-kan-koku-ni. 一巻
虎關國師傳 (支) Ch'u-kan-koku-ni. 一巻
虎關國師傳 (支) Ch'u-kan-koku-ni. 一巻
虎關國師傳 (支) Ch'u-kan-koku-ni. 一巻

【コ】

考卷下、本朝高僧傳第四十三、延寶傳燈錄第二十八等に見え。諱は宗頓、悟溪と號し、尾州丹羽郡山名邑の人、其の俗姓を詳にせず。幼にして岐嶽衆に超ゆるものあり。永享二年庚戌、十五歳にして郡寺に入りて剃髮し、瑞泉寺日華禪師の室に投ず。日華和尚の京兆妙心寺に遷るに及び、隨て京に登り、隨侍するもの數年、後美濃汾陽寺の雲谷禪師に參し、又、愚溪寺の義天承禪師に謁す。時に桃隱朝禪師、伊勢大樹寺に在り。就いて參詳最も勉む。後、京兆龍安寺に雪江深禪師に謁し、苦修するもの數年、一日問答し其の一喝に遭ひて當下に大悟す。投機偈を呈して曰ふ、「石火電光猶鈍速、機先一喝碎須彌、情僧更有轉身句、展盡圓單與飯來」。即ち印病を付せられ悟溪の號を賜ふ。既にして郷に還り、臥龍庵を青龍山中に構へて閑棲す。浪陽櫻越越前刺史齋藤利藤、地を岐山の麓に攸し、教跡を率めて禪窟と爲し、以て其の主流成願の香火に資し、榜して金寶山瑞龍寺と曰ふ。師、雪江和尚を請して開山始祖とし、自ら謙して創建開山と爲る。後花園上皇、特に官寺と爲し、宸翰を染めて金寶山の篇額を賜ふ。查書彌然、龍翔り風舞ふ。後土御門帝、重ねて輪命を降し十刹の位次に準ぜしめ給ふ。後、敕命を奉じて、龍寶山大德寺、正法山妙心寺、青龍山瑞泉寺の諸を董すこと再度、晩に瑞龍寺に退き、盛んに法輪を建つ。明應六年丁巳五月二十四日、後土御門帝、特に大興心宗禪師の徽號を賜ふ。九年庚申九月六日、微恙を示し、溘然

として示寂す。應壽八十有五、臘六十又三。瑞龍寺並に東海庵に塔し、當して虎穴と云ふ。嘉永元年戊申七月三日、孝明帝、重て佛德廣通國師の徽號を賜ふ。嗣法の徒に、天鏡宗受・西川宗洵・仁濟宗恕・玉浦宗現・壽岳宗彰・鏡隱宗實・瑞翁宗禪・獨秀乾才・興宗宗松の九哲あり。各々化を一方に託んにせり。本録は即ち禪師在日の門人某等の輯録するところに係り、當初三卷を存し、目して虎穴集と稱せしと云ふも、傳寫の久しき、單に魯魚焉馬の誤を生ぜしのみならず、既に人間を佚失せしもの夥からず。金寶山瑞龍寺の如きは其の全部を散佚し、再住青龍山瑞泉寺の如きは、山門等の一會の法語を逸失せるが如き之れなり。扶桑禪林書目に「悟溪和尚語錄一卷」と云へる、恐くは傳寫時代の副卷に依るなるべし。偶某年、瑞龍寺に丙丁童子の災あり。語録又烏有に歸せり。爰に興宗宗松(傳は延寶傳燈錄第三十一卷にあり)に、勸諷圓通無碍禪師澤彦宗恩和尚あり、織田信長の家臣平手清秀(後改政秀)の爲めに政秀寺を創するや、請を承けて開山始祖となり、又、瑞龍寺に住す。妙心寺に住すこと前後五回、天正十五年丁亥十月二日示寂せり(傳は延寶傳燈錄第三十一卷に見ゆ)深く祖翁語録の佚失せるを遺憾とし、其の骨董箱中に機軸頭末等を蒐集するもの年あり。然も十中九は尙は機軸に涉れり。法孫に禪昌寺開祖機山宗三和尚あり。雪巖宗那和尚の徒なり。正法山第百七十四世の統を

嗣ぎ、又、祖翁の遺志を奉じて、禪師の遺芳を指授し、寛永十六年歲次己卯(A.D. 1739)、編して上下二卷と爲し、九月、跋語を附して梓に上し、東海庵に納む。然るに此の錄たる、編次正しからず、頗る錯雜を存し、尙は修訂を要するものあり。即ち正法山第百三十三世雲元什和尚の瑞龍寺に住するの日、力を竭して校正するところあり。其の徒江戸麟野院の通祥眞座元、之れを本庵に藏せんと欲し、享保六年辛丑仲春、正法山第百二十七世夢庵如幻和尚を請して序を撰せしむ。本録上卷に首に載するもの之れなり。享保十七年壬子孟陞、正法山第百二十九世禪昌宗和和尚、舊行狀に率由して新に大興心宗禪師行狀を撰し、以て師の行實を不朽に傳ふ。一節に「爰以語錄編次之暇、或分類補遺、或治業妄、重校版面、本庵、因不肯耳。一派嚴旨、率由舊行狀、纂要編修、以壽于不朽」と云へり。蓋し寛延元年戊辰は、禪師示寂第二百五十回忌の辰に當るの故を以て、其の準備として再修正を試みられたるものなるべく、附録の雜者四十篇は、恐らくは宗和和尚の輯録せられたるものなり。翌二年己巳(A.D. 1749)、孟陞初六日遠諱紀念として重刊せらる。嘉永元年戊申(A.D. 1806)、禪師第百五十回の遠諱に當るや、七月三日、孝明帝、勅して佛德國師の徽號を加賜あらせ給ひ、九月、東海庵に退思の齋を設け、新に微説勸書を附して開版す。世に廣く行はるるもの之れなり。本録二卷の中、上卷には、卷首に享

保六年辛丑夢庵如幻の撰に係る序一篇の外、文明二年庚寅三月十四日、宗頓上人禪室宛、後土御門帝の金寶山瑞龍寺準十刹例給旨、明應六年五月二十四日附、同帝特賜微説勸書並に嘉永元年七月三日、孝明帝勸諷國師微説勸書を奉賜し、次で龍寶山大德寺語以下五會の語録と、示衆・法語・偈頌・道説・像贊・自贊及び銘を輯録す。龍寶山大德寺語は、具に初住平安城龍寶山大德禪寺・語と云ひ、初會録なり。初めて勸を奉じて大德寺に住す。拈提に開王・羅山を請して開堂するの語を擧げて曰く、「愚麼公案、諸人悉謂。主賓道合膠漆相投。光霞光明照映今古、殊不知羅山一場敗闕、開王也是將錯就錯、羅山曰、將謂備是簡俗漢。奈竟草堆頭、誰在伊了也。當時若與伊一喝、非但催教、伊別有生涯、皆取光前絕後也」。再住龍寶山大德禪寺・語は、第二會録なり。文明十二年庚子六月二十一日、再び勸を奉じて入寺開堂す。初めに相國寺橫川堂三和尚の作に係る、「山門疏」と「同門疏」を掲げ、次で入寺法語・當晚小參及び退院の語を出せり。退院の語に「爾回奉勸住名聖、愧我宗猷缺指南、飛錫秋風、好歸去、千峯嶺、翠一茅庵」。正法山妙心寺語は、具に住平安城正法山妙心禪寺・語と云ふ。第三會録なり。文明十六年甲辰四月十五日、勸を奉じて妙心寺に住す。山門・據室・勸費・拈衣・祝聖・嗣法香の外、入寺の示衆、及び五・六・七月の各且・示衆、八月且示衆並に退院の語を輯む。師、山門を指して曰く、「正法海中瑞龍現出」。左右

名所行發 (名庫書) 名庫所現 (月年の刊寫) (書考參書註) 清水 (説解容内) 代年作著 (著者) 缺有 (數色) (名書) 名題 (號鳴字數)

【コ】

を顧視し曰く、「誰不戰栗」。喝一喝す。青龍山瑞泉寺語は、具に初住尾張州青龍山瑞泉禪師・語と云ふ。師の法山に住するの節、文明十三年辛丑七月十五日、尾州瑞泉寺に住するの語なり。山門・據室・拈衣・兩開山塔拈香及び退院の語を輯む。退院の語に「老矣無心轉法輪、萬機休罷一問人、拜・靜思塔・香然久、白髮寧期再擧座」と云へり。再住青龍山瑞泉寺語は、長享三年己酉四月十五日、再び瑞泉寺に住するの語なり。山門等の一會の法語は、既に散逸して傳はず。唯兩開山塔の拈香を存するのみ。示衆は「冬夜示衆」以下三十二章を収む。法語に「示衆難越然居士」の一章あり。偈頌に「佛誕生、佛成道」以下四十三題八十首あり。道説に「春巖」以下の三十九章あり。像贊に文殊以下の三章、自讃に「宗洵首座應請」等の四章、銘に金寶山三石銘三首以下の七章あり。以上總じて上卷の内容とす。下卷は「大年椿公僧都三十三年忌陞座」以下の佛事六十四篇と、享保新撰大興心宗禪師行狀一篇、舊刊行狀一篇並に寛永十六年刊行跋語、及び寛延二年の刊記とを輯む。「金寶山本尊藥師如來安座點眼」の語に「唯道大醫王、慈々露堂々、能消滅萬病、却除却餘殃、愚者得智慧、貧者與寶藏、功德林不老、琉璃界無量、皇風無邊塞、佛日五天長、(以筆點一點云々) 雙眼點、開如日月、珍重。萬年續大方」と云へり。附録の雜者は雪江和尚の「賀大德寺入院・寄悟溪」の七絶以下。禪師に關係ある諸家の遺韻凡そ四十章

を輯めたり。以て其の研究に資すべく、遺芳を拜す。 寛延二刊 (今津洪猷) 虎穴錄事 (日) Ko-ken-roku 一巻 悟和和尚虎穴錄事考 一巻 存 無著遺忠(水應二)延享元 A.D. 1653-1744)撰 (參考) 禪籍目録 虎哉和尚語錄 (日) Ko-shi-go-roku 二巻 宗乙語 (參考) 禪籍目録 虎耳意經 (日) Ko-ni-kyo (支) Ha-eh-i-ching (梵) Sāradakaraṅgavadāna(藏傳) d. Divyāvadhāna XXXIII(藏) Saṅg-rnāhi rtoṅ-pa brjod-pa (參照) 合願誦經、合願誦太子二十八宿經、虎耳經、二十八宿經、太子二十八宿經 一巻 存 大正二二・一〇 No. 1301、縮寫六、二一四・二、北765言、南777言、元771言、明北642言、清642言、麗771言、天764言、法744言、至1001言、明南545言、N. 646 西晉竺法護(一)太始二二建興元 A.D. 265-323)譯 合願誦太子二十八宿經の條を見よ。 虎林和尚語錄 (日) Ko-rin-oshō-roku 六巻 存 虎林中虛語、中願 (參考) 禪籍目録 虎林和尚行記 (日) Ko-rin-oshō-jōki 一巻 存 (參考) 禪籍目録 孤雲懷社禪師 (日) Ko-un-ei-ten 永平寺二祖孤雲懷社禪師 一巻 存 村上素道著 昭和三刊 京都

永興寺 孤雲懷社禪師行狀 (日) Ko-un-ei-jōzen-jōki 一巻 存 臺山相理 (文永五一)正中二A.D. 1268-1325)記 (參考) 禪籍目録 孤雲寺事蹟 (日) Ko-un-ei-ji-see 一巻 存 (參考) 朝鮮佛教總書刊行決定書目 孤山和尚行實 (日) Ko-zan-oshō-jōki 一巻 存 聖珍(一)貞治元 A.D. 1362)撰 (參考) 大日本佛敎全書刊行決定書目 孤山法師撰述目錄 (日) Ko-zan-oshō-shū-shū-jutsu-moku-roku 一巻 存 孤山法師は北宋時代、天台宗山外派の學匠、智圓のことに、その撰述二十八部百七十餘卷の目錄を編輯せるも、その撰述なる開卷の卷尾に附せり。 (藤堂祐範) 孤山法師心經略疏 (日) Ko-zan-oshō-shū-shū-kyō-ryaku-shō 一巻 存 (哲) 四・左・一八) 孤兒經 (日) Ko-ni-kyō (支) Ku-ni-kyō (文) Ku-ni-kyō (支) Ku-ni-kyō-nu-ching 一巻 存 (參考) 法經錄第四、仁壽錄第四、靜泰錄第四、內典錄第一〇、開元錄第一八、貞元錄第二八

孤獨經 (日) Ko-doku-kyō (支) Ku-te-ching 一巻 存 生經卷第四(大正三・一〇)No. 154)撰 孤獨三兄弟經 (日) Ko-doku-san-kyō-dai-kyō (支) Ku-te-san-haiang-te-ching 一巻 存 失譯 (參考) 出三藏記第四、武周錄第二二、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五 孤獨者の合掌 (日) Ko-doku-sha-no-gasshō 一巻 存 西山松三手記、毛利宣明編 昭和三刊 孤峰和尚行實 (日) Ko-hō-ō-shō-jōki 一巻 存 續群書類從第九 聖珍(一)貞治元 A.D. 1362)撰 出雲國能義郡宇賀莊村清井の瑞塔山雲樹寺開山三光國濟國師孤峯覺明禪師の傳記を正平十七年(A.D. 1362)十月二十四日、法嗣聖珍の撰述せるものである。(續群本) 孤峯は奥州會津平氏の子、文永八年(A.D. 1271)に生れ、七歳にして母を喪ひて出家の意を起し、十七歳にして叡山傍叡院の良範に灌髮し天台性相の學を究むること八年、二十六歳にして紀州由良の覺峯興國寺開山法燈國師心地覺心禪師を師として更衣し、洞門の互匠たる出羽の玉泉寺開山了禪法明禪師に參じて省悟し、高峰顯日、南浦紹明禪師等に歷參し、應長元年、四十一歳にして入元し、中峰明本、無見先觀、斷崖了義、雲外雲岫、古林清茂の諸禪師に參じ、歸朝して曹洞宗太祖弘明國師臺山紹理禪師に能登國洞谷山水光寺に參じて遂

名所行發 (名庫書) 名庫所現 (月年の刊寫) (書考參書註) 清水 (説解容内) 代年作著 (著者) 缺有 (數色) (名書) 名題 (號鳴字數)

【コ】

に佛祖正傳菩薩大戒を受け、其の授記に依つて、雲州に赴き字賀庄に雲樹寺を創めた。元弘の始め、後醍醐天皇伯耆船上山に還幸せられ、師を召して授戒し、國濟國師の徽號並に御筆の天長雲樹興聖禪寺の額を賜つた。化導盛にして學人半千を減ぜず常に「當念起時不思量底脫體現成」を以て入道の要として説示した。貞和元年七十五歳にして、鶯峯興國寺を繼ぎて其の殿額を中興し、京都妙光寺に移るや、足利尊氏、直義、後鳥羽院の古廟を以て寺と成し、師を開山に請せんと懇請再三なれども肯んぜず、夜竊に遁れ去つた。正平の初め、後村上天皇、皇后皇太后と共に師に受戒し、三光國師と賜號せられ、勅して和泉國大島郡高石に大雄寺を開き、正平十六年(A. D. 1361)五月二十四日に示寂された。壽九十一、臘七十五。末文に聖珍、孤峯に對する追懷を叙しし居る。(大久保堅瑞)

孤母費一子經 ①(日)Ko-mo-no-its-shi-kyō (支)Ku-mu-sang-tzai-ching. ①卷 ①失譯 ②出題經第二卷の抄出 (参考) 出三藏記第四、法經第五、仁壽錄第三、靜泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

孤運五葉 ①(日)Ko-sen-go-yō. ③存 ①一絲文字(慶長一一一正保二A. D. 1607-1645) ②(参考) 禪籍目録

孤遊錄 ①(日)Ko-sen-roku. ①卷 ①存 ①一絲文字(慶長一一一正保二A. D. 1607-1645) ②(参考) 禪籍目録

孤禪狸詩 ①(日)Ko-zen-i-shi. ②

一卷 ③存、大正文庫第六 ④釋清源著 ⑤大正二刊 ⑥東京丙午出版社

孤流館發輝錄 ①(日)Ko-ryū-kan-hokai-roku. ②卷 ③存 ④三編七組等論題 ⑤寫本(谷大、宗大、一五三六)

枯崖和尚漫錄 ①(日)Ko-gai-ōshō-man-roku. 枯崖漫錄 ②三卷 ③存、國譯禪宗叢書第一 ④枯崖圓悟(一景定頃A. D. 1260-1261)撰 ⑤寶永四刊 ⑥(谷大、餘大、二六二九)(帝國、八二二・二一八)

枯崖和尚漫錄解題 ①(日)Ko-gai-ōshō-man-roku-kai-dai. ③存、國譯禪宗叢書第一

枯崖漫錄 ①(日)Ko-gai-ōshō-man-roku. 枯崖和尚漫錄 ②三卷 ③存、記讀二〇・二一・一、國譯禪宗叢書第一 ④宋代枯崖圓悟(一景定頃A. D. 1260-1261)撰

⑤保漢開禪師の法嗣にして南岳下十九世たる枯崖圓悟禪師の編纂された紀傳である。即ち覺德傳燈、嘉泰普燈等の諸傳燈錄を撮要修正し、諸尊宿の應機接物の入道機縁示業法語等を見聞するに隨つて漫録したもので、或は編して紀傳を成し或は枯崖著語し或は警語を蒐録して本書三卷を作り枯崖漫錄と題したものである。枯崖圓悟禪師、泉南の興福寺に瑞世するや、藏主の起座元、本書の上梓を志し、南宋景定四年四月林希逸の跋、南宋成淳八年二月虎丘紹隆禪師の序、同成淳八年夏(A. D. 1272)陳叔復(信庵)の序を讀みて梓刊したものである。

我が國に於ては、五山版、寛永本、天和二年本等があり、寶永四年二月上院(A. D. 1707)讀波高松の金重山慈恩寺の參徒梅海子これに調點を施し、京都の書林大和屋重左衛門をして刊行せしめた。續藏並に國譯禪宗叢書第一卷所収の本書も調點を付したものである。

(参考) 禪籍志卷下 (大久保堅瑞)

枯崖漫錄考據 ①(日)Ko-gai-ōshō-man-roku-kyō. ③卷 ④存 ⑤(参考) 禪籍目録

枯崖漫錄事苑 ①(日)Ko-gai-ōshō-man-roku-jihon. ①卷 ②存 ③(参考) 禪籍目録

枯崖漫錄抄 ①(日)Ko-gai-ōshō-man-roku-shō. ②卷 ③存 ④義堂周信(正中二一喜慶二A. D. 1325-1338) ⑤(参考) 日本禪林撰述書目

枯崖漫錄別考 ①(日)Ko-gai-ōshō-man-roku-bekko. ①卷 ②存 ③道倫撰

枯樹經 ①(日)Ko-kyō (支)Ku-shu-ching. 大枯樹經 ②一巻 ③存、大正一七・七五・No. 806、縮尺四、二一四・二

④本經は具に佛説枯樹經、一に又大枯樹經ともいひ、迦葉佛の僧伽戸塔及び諸王寺建立の由來を説いたものである。

(参考) 出三藏記第三 (林五邦)

枯木稿集 ①(日)Ko-moku-ko-shū. ①卷 ②存、續群書類從第一三 ③春澤永恩(一天正元A. D. 1573)撰

④建仁、南禪に居住した春澤永恩の詩集で、枯木は永恩の號、別に泰安、萍齋、天津の別號もある。詩は首題十三、並に失題十六首で、天文地理の部四十、懷古八十六、人品四、寄簡三、送別二十三、悼人十九、器用五十、食服十五、草木百十、鳥獸虫鱗四十五、[失題]十四、和韻二十三、道號六十一、[失題]二、計十五首の五百九首を集めたものである。(大久保堅瑞)

枯木集 ①(日)Ko-moku-shū. 東福佛通禪師枯木集 ②二卷 ③存、禪門法語全集第五、國文東方佛敎叢書第三法語部、禪門法語集卷中 ④藥元大慧(寛喜元一正和元A. D. 1229-1232)撰

⑤東福寺第九世佛通禪師藥元大慧和尚の假名法語である。某譯尼のために説示せられたるもの筆録であるといふ。

天台宗の學匠であり、密敎の奥義を傳へて平等なるものを開きたる和尚であるだけに、既に東福寺聖一開師について、禪に轉じ、禪門の秘要を開示するに當りても、台宗密宗の敎理などの口を突いて出づるは、當に然るべきことで、それがこの假名法語の上にも、現はれてゐる。

全部が問答體になつてゐて、分り易く、殊に禪家獨得の室内のさびさが、出でゐる所など、實にきびくしてゐる。禪門假名法語の中に於て、出色あるものである。

(参考) 日本禪林撰述書目 ⑤寛永一八刊 ⑥(谷大、餘大、三四四四)(山田靈林)

故安高法師目錄 ①(日)Ko-an-kō-hos-shi-anokuroku. ①卷 ②缺

名所行録●(名庫書)●藏所現●月年の刊寫●(書考)●書釋註●書本●説解容内●代年作者●著者●缺存●數卷●(名書)●名題●號略字數

【コ】

(参考) 本朝古祖撰述部書目

故紙錄 ①(日)Ko-shi-roku. ②二卷 ③存、近世佛敎集説之四 ④橋梁子記

故事禪要集 ①(日)Ko-ji-zen-yō-shū. ①卷 ②存 ③刊本(首、イ・1・1左・1)

故實記錄 ①(日)Ko-jitsu-ki-roku. ①卷 ②存 ③寫本(谷大、宗大、三三九)

故實公儀書 ①(日)Ko-jitsu-ko-gi-shō. ①卷 ②存、眞宗全書第六四 ③寫本(餘大、一〇六・五)

故實條々錄 ①(日)Ko-jitsu-jō-roku. 眞宗故實條々錄、法流之謠傳故實之條々 ①卷 ②存 ③寫本(谷大、宗大、一三三三)

故實選要鈔圖繪 ①(日)Ko-jitsu-sen-yō-shō-zu-e. ②三卷 ③存 ④清水英書記 ⑤萬延元刊 ⑥(餘大、研史)

故僧正雜記 ①(日)Ko-sō-jō-zanki. ①卷 ②存 ③寫本(正大、一五一四・一三)

故僧正隨筆 ①(日)Ko-sō-jō-zan-i-hisu. ①卷 ②存 ③寫本(正大、一五一四・一三)

故僧正筆記 ①(日)Ko-sō-jō-hik-i. ①卷 ②存 ③寫本(正大、一五一四・一五)

故大僧都行實大律師院書目 ①(日)Ko-dai-sō-zū-gyō-gō-dai-hō-shi-in-shō-mokku. ①卷 ②缺 ③(参考) 本朝古祖撰述部書目

故大德正法大聖國師古岳大和尚道行記 ①(日)Ko-dai-toku-shō-bō-dai-shō-koku-shi-ko-gaku-dai-ō-shō-do-gyō-ki. ①卷 ②存 ③國書藏刊 (一天文元A. D. 1532)撰 ④(参考) 大日本佛敎全書續刊 ⑤日本佛敎全書續刊決定書目

故大德佛宗大弘禪師實傳和尚行記 ①(日)Ko-dai-toku-bus-shō-tai-kō-zen-jitsu-den-ō-shō-gyō-ki. ①卷 ②存 ③常樂龍巖(一天文五A. D. 1536)撰 ④(参考) 大日本佛敎全書續刊 ⑤決定書目

胡音偶本 ①(日)Ko-on-gehon. (支)Hu-yin-chieh-pen. ①卷 ①失譯 ②(参考) 內典錄第一、武周錄第一

胡般泥洹經 ①(日)Ko-hatsu-an-ō-gyō. (支)Hu-pan-ni-yuan-ching. ②二卷 ③缺 ④(參考) 武周錄第一

胡本經 ①(日)Ko-hon-kyō. (支)Hu-pen-ching. ④四卷 ⑤失譯 ⑥(參考) 出三藏記第四、三寶紀第九、內典錄第一、第三、武周錄第一

粉河寺大塔卒都婆建立緣起 ①(日)Ko-kawa-dera-dai-tō-so-ō-shō-kon-ryō-en-gi. ①卷 ②存、大日本佛敎全書第一二〇等諸叢書第四 ③良秀仁範記 ④天喜二(A. D. 1054)

⑤良秀仁範が、靈地粉河寺の由來を述べて、この靈地に鑑み、天然霞丹の靈地聖跡に率塔婆を建てる舊例に倣ひ、この地に率塔婆建立の願を發し、善男善女の供養を得てその念願を果した緣起を述べて、この功德に

よつて、われ人共に觀音の利益を蒙り、彌陀引接の益を得んことを念したものであ

個中の消息 ①(日)Ko-chū-no-shō-soku. 鎌倉參禪個中の消息 ①一巻 ②存 ③無休庵主人著 ④明治三三刊 ⑤(帝國、八・八・七三)(谷大、餘大、一一三)(駒大)

許可 ①(日)Ko-ka. ③三卷 ④存、大日本佛敎全書第三五阿婆抄之内 ⑤永澄(元久二弘安五A. D. 1305-1332)撰 ⑥徳川時代寫 ⑦(寶善院)

許可 ①(日)Ko-ka. 小野大僧都流許可 ①一巻 ②存 ③寫本(谷大、餘大、三〇八)

許可 ①(日)Ko-ka. 許可西院流 ①一巻 ②存 ③徳川時代寫 ④(寶善院)

許可印眞言 ①(日)Ko-ka-in-shingon. ①一巻 ②存 ③覺超(天徳四一長元七A. D. 960-1034) ④(参考) 諸宗章疏錄第二、山家祖撰述部日集卷下、密乘撰述目録

許可印信 ①(日)Ko-ka-in-jin. ②一紙 ③存 ④天正五寫、永正八寫、明治八寫 ⑤(寶善院)

許可印信事 ①(日)Ko-ka-in-jin-no-koto. ①一紙 ②存 ③徳川時代寫 ④(寶善院)

許可印明功能事 ①(日)Ko-ka-in-myō-ka-no-no-koto. ①帖 ②存 ③足利時代寫 ④(寶善院)

許可印明私記 ①(日)Ko-ka-in-myō-ka-no-no-koto. ①帖 ②存 ③足利時代寫 ④(寶善院)

許可灌頂等印信及三昧耶戒内道場圖 ①(日)Ko-ka-in-kanjō-tō-in-jin-ō-yōbi-sam-ma-ya-kai-nai-dō-jō-zu. ①一巻 ②存 ③文政年間寫 ④(寶善院)

許可加行作法 ①(日)Ko-ka-in-kyō-shū. ①一紙 ②存 ③徳川時代寫 ④(寶善院)

許可加行私記 ①(日)Ko-ka-in-kyō-shū-ki. ①一軸 ②存 ③明曆二寫(金剛三昧院)寛文二及一三寫(寶善院)

許可加行表白 ①(日)Ko-ka-in-kyō-shū-byaku. ①一紙 ②存 ③徳川時代寫 ④(寶善院)

許可血脈初重六帖印信 ①(日)Ko-ka-kechi-myakku-shō-jū-roku-jō-in-jin. ①一帖 ②存 ③寫本(寶善院)

許可合行次第 ①(日)Ko-ka-in-jin. ①一帖 ②存 ③寫本(寶善院)

名所行録●(名庫書)●藏所現●月年の刊寫●(書考)●書釋註●書本●説解容内●代年作者●著者●缺存●數卷●(名書)●名題●號略字數

【一】

chiao. ① 卷 ② 缺 ③ 宋末東坡院藏(元嘉二二〇 A. D. 435—443) ④ 第三卷 ⑤ (參考) 開元錄第一四、貞元錄第二四

虛空藏菩薩求聞持儀軌記 ① (日) Ko-ka-zo-bo-satsu-gu-mon-ji-gi-ki-ki. 虛空藏菩薩求聞持儀軌記 ② 1 卷 ③ 存 ④ 元初(元和八—延寶八 A. D. 1622—1680) ⑤ 寛文一三刊 ⑥ (各大、餘大・三三五二)

虛空藏菩薩求聞持法 ① (日) Ko-ka-zo-bo-satsu-gu-mon-ji-ha. (支) Hsu-kung-t'ang-p'u-sa-chu-wei-ch'i-ha. 虛空藏菩薩求聞持法 ② 1 卷 ③ 存 ④ 大正二〇・六〇一 No. 1143 縮成九、元二二六、北466半、南480半、元474半、明北497行、清497行、開480蓋、天472羊、至653父、明市472行、No. 501 善無畏譯 ⑤ 唐開元五—二二(A. D. 717—734) ⑥ 正德三寫 ⑦ (京大、印智、K. G.)

虛空藏菩薩求聞持法經玄談 ① (日) Ko-ka-zo-bo-satsu-gu-mon-ji-ho-kyo-gen-dan. ② 1 卷 ③ 存 ④ 龍雲述 ⑤ 刊本(各大、餘大・一九一三)

虛空藏菩薩觀經 ① (日) Ko-ka-zo-bo-satsu-gwan-kyo. (支) Hsu-kung-t'ang-p'u-sa-kuan-ching. 觀虛空藏菩薩虛空藏觀經 ② 1 卷 ③ 存、大正一三・六七 No. 499 縮成八、元六・一〇、北65民、南65民、元63民、明北366半、清66半、

虛空藏菩薩念誦次第 ① (日) Ko-ka-zo-bo-satsu-on-ji-shi-dai. ② 1 帖 ③ 存 ④ 敬尊(建仁元—正應三 A. D. 1201—1290) ⑤ 徳川時代寫 ⑥ (寶龜院)

虛空藏菩薩問七佛陀羅尼呪經 ① (日) Ko-ka-zo-bo-satsu-mon-shichi-bu-ten-da-ra-ni-shu-kyo. (支) Hsu-kung-t'ang-p'u-sa-wen-ch'i-ta-to-to-ni-chon-ching. (梵) Saptabuddhaka-sutra. (藏) Hphags-pa saas-rgyas bdun-pa-shes-bya-ba theg-pa chen-pohi mdo. (Sk. Arya-saptabuddhaka nama mahayana-sutra) 虛空藏問七佛陀羅尼經 ② 1 卷 ③ 存、大正二一・五六一 No. 1333 縮成八、元二一・二、北347通、南356通、元348通、明北364通、清364通、開346通、天353通、指316通、法338通、至605廣、明市443英、No. 1368 ④ 兼代(A. D. 502—557) 譯

佛陀が蓮華(喜樂)山に居られた時に、林中に於て二人の比丘が兩手を擧げて苦悶

屢55半、天64民、指55半、法62半、至135發、明市63半、No. 70 ⑤ 摩訶多譯 ⑥ 劉宋元嘉元—一八(A. D. 421—441)

虛空藏菩薩神呪經 ① (日) Ko-ka-zo-bo-satsu-jin-shu-kyo. (支) Hsu-kung-t'ang-p'u-sa-shen-chou-ching. (梵) Akṣagarbha bodhisattvadharaṅg-sutra. (藏)……nam-mkha-pi-shih-po…… 虛空藏神呪經 ② 1 卷 ③ 存、大正一三・六六一 No. 407 縮成八、元六・一〇、北64民、南64民、元62民、明北65半、清65半、元64半、天66半、指55半、法63半、至133發、明市63半、No. 69 ④ 摩訶多譯 ⑤ 劉宋元嘉元—一八(A. D. 421—441)

虛空藏菩薩神呪經 ① (日) Ko-ka-zo-bo-satsu-jin-shu-kyo. (支) Hsu-kung-t'ang-p'u-sa-shen-chou-ching. ② 1 卷 ③ 存、大正一三・六五六 No. 405 ④ 本經は虚空藏菩薩の別譯であつて、摩訶多譯の神呪經と同本異譯である。その内容については虚空藏菩薩を見よ。⑤ (參考) 三寶記第一〇、内典書第四、譯經圖記第三、開元錄第五、貞元錄第七

虛空藏菩薩說陀羅尼句經抄 (林五郎) ① (日) Ko-ka-zo-bo-satsu-setsu-da-ra-ni-ku-kyo-sho. (支) Hsu-kung-t'ang-p'u-sa-shuo-to-to-ni-chu-ching-chiao. ② 1 して居た。その一人は惡病の爲めに苦しむ、他の一人は惡鬼の爲めに悩まされて居たのである。この時に虚空藏菩薩が一切の病難並びに惡鬼の障難を治する事を佛陀に問はれた時に、佛陀の威神力に依つて、過去對して病氣、鬼難其の他の一切の災厄を免がれる神呪を説かれたが、即ち此の經を受ける。思ふ所佛の一段に「若し此の經を受持する者は、人の壽命を延長し、所有の習誦は一たび聞いて領悟すれば、終に忘失せず」とあるが、此の思想が後に漸く發達して虚空藏求聞持法と成つたのであらう。附の圓那輪多譯の如來方便善巧呪經(大正・二一・五六五)宋代法天譯の聖虛空藏菩薩陀羅尼經(大正二〇・六〇四)は、同本異譯である。西藏譯はトリケ版 F. 7 北京版 Ha. 8 に出る。(神林隆淨)

虚空藏菩薩問持經得幾福經 ① (日) Ko-ka-zo-bo-satsu-mon-butsu-kyo. (支) Hsu-kung-t'ang-p'u-sa-wen-ta-ching. ② 1 卷 ③ 失譯 ④ 大集經虚空藏菩薩品の抄出 ⑤ (參考) 出三藏記第四、法經錄第一、開元錄第一六、第一七、貞元錄第二六

虚空藏菩薩問佛經 ① (日) Ko-ka-zo-bo-satsu-mon-butsu-kyo. (支) Hsu-kung-t'ang-p'u-sa-wen-ta-ching. ② 1 卷 ③ 失譯 ④ (參考) 開元錄第六、貞元錄第九

虚空藏法要鈔 ① (日) Ko-ka-zo-bo-satsu-ho

虚空藏菩薩陀羅尼 ① (日) Ko-ka-zo-bo-satsu-da-ra-ni. (支) Hsu-kung-t'ang-p'u-sa-to-to-ni. (梵) Akṣagarbha dharaṅg (推定) 虚空藏陀羅尼經 ② 1 卷 ③ 存、大正二〇・六〇七 No. 1148 縮成一、元二一・五、北1113路、南1129路、元1123路、明北788忠、清788忠、元1109路、法1230兵、至725廣、明市95力、No. 916 ④ 法賢(一成平四 A. D. 1001) 譯 ⑤ 宋成平四(A. D. 1001)

虚空藏菩薩陀羅尼 ① (日) Ko-ka-zo-bo-satsu-da-ra-ni. (支) Hsu-kung-t'ang-p'u-sa-to-to-ni. (梵) Akṣagarbha dharaṅg (推定) 虚空藏陀羅尼經 ② 1 卷 ③ 存、大正二〇・六〇七 No. 1148 縮成一、元二一・五、北1113路、南1129路、元1123路、明北788忠、清788忠、元1109路、法1230兵、至725廣、明市95力、No. 916 ④ 法賢(一成平四 A. D. 1001) 譯 ⑤ 宋成平四(A. D. 1001)

虚空藏菩薩能滿諸願最勝心陀羅尼求聞持法 ① (日) Ko-ka-zo-bo-satsu-no-man-sho-gwan-sai-sho-shu-da-ra-ni-gu-mon-ji-ho. (支) Hsu-kung-t'ang-p'u-sa-neng-man-chu-yuan-tsai-shang-hsin-to-to-ni-chu-wei-ch'i-ha. 虚空藏菩薩能滿諸願最勝心陀羅尼求聞持法經、求聞持經、求聞持儀軌 ② 1 卷 ③ 存、大正二〇・六〇一 No. 1145 縮成九、元二二六、北466半、南480半、元474半、明北497行、清497行、開480蓋、天472羊、至653父、明市472行、No. 501 善無畏譯 ⑤ 唐開元五(A. D. 717)

虚空藏菩薩陀羅尼經 ① (日) Ko-ka-zo-bo-satsu-da-ra-ni-kyo. (支) Hsu-kung-t'ang-p'u-sa-to-to-ni-ching. (梵) Saptabuddhaka. (藏) Hphags-pa saas-rgyas bdun-pa shes-bya-ba theg-pa chen-pohi mdo. 虚空藏菩薩陀羅尼、虚空藏經 ② 1 卷 ③ 存、大正二〇・六〇四 No. 1147 縮成八、元二一・二、北1113路、南1129路、元1123路、明北788忠、清788忠、元1113路、天1109路、法1230兵、至725廣、明市795力、No. 793 ④ 宋法天(一開寶六 A. D. 973—) 譯

虚空藏菩薩能滿諸願最勝心陀羅尼求聞持法 ① (日) Ko-ka-zo-bo-satsu-no-man-sho-gwan-sai-sho-shu-da-ra-ni-gu-mon-ji-ho. ② 1 帖 ③ 存 ④ 徳川時代寫 ⑤ (寶龜院)

虚空藏寶鏡 ① (日) Ko-ka-zo-bo-satsu-no-koto. ② 1 帖 ③ 存 ④ 足利時代寫 ⑤ (寶善提院)

虚空藏寶鏡 ① (日) Ko-ka-zo-bo-satsu-no-koto. ② 1 帖 ③ 存 ④ 足利時代寫 ⑤ (寶善提院)

虚空藏品 ① (日) Ko-ka-zo-bo-satsu-ho. (支) Hsu-kung-t'ang-p'u-sa-ho. (梵) Arya-ga-

ra-ni-gu-mon-ji-ho. (支) Hsu-kung-t'ang-p'u-sa-neng-man-chu-yuan-tsai-shang-hsin-to-to-ni-chu-wei-ch'i-ha. 虚空藏菩薩能滿諸願最勝心陀羅尼求聞持法經、求聞持經、求聞持儀軌 ② 1 卷 ③ 存、大正二〇・六〇一 No. 1145 縮成九、元二二六、北466半、南480半、元474半、明北497行、清497行、開480蓋、天472羊、至653父、明市472行、No. 501 善無畏譯 ⑤ 唐開元五(A. D. 717)

虚空藏菩薩能滿諸願最勝心陀羅尼求聞持法經、求聞持經、求聞持儀軌 ② 1 卷 ③ 存、大正二〇・六〇一 No. 1145 縮成九、元二二六、北466半、南480半、元474半、明北497行、清497行、開480蓋、天472羊、至653父、明市472行、No. 501 善無畏譯 ⑤ 唐開元五(A. D. 717)

虚空藏菩薩能滿諸願最勝心陀羅尼求聞持法經、求聞持經、求聞持儀軌 ② 1 卷 ③ 存、大正二〇・六〇一 No. 1145 縮成九、元二二六、北466半、南480半、元474半、明北497行、清497行、開480蓋、天472羊、至653父、明市472行、No. 501 善無畏譯 ⑤ 唐開元五(A. D. 717)

虚空藏菩薩能滿諸願最勝心陀羅尼求聞持法經、求聞持經、求聞持儀軌 ② 1 卷 ③ 存、大正二〇・六〇一 No. 1145 縮成九、元二二六、北466半、南480半、元474半、明北497行、清497行、開480蓋、天472羊、至653父、明市472行、No. 501 善無畏譯 ⑤ 唐開元五(A. D. 717)

虚空藏菩薩能滿諸願最勝心陀羅尼求聞持法經、求聞持經、求聞持儀軌 ② 1 卷 ③ 存、大正二〇・六〇一 No. 1145 縮成九、元二二六、北466半、南480半、元474半、明北497行、清497行、開480蓋、天472羊、至653父、明市472行、No. 501 善無畏譯 ⑤ 唐開元五(A. D. 717)

虚空目分 ① (日) Ko-ka-zo-bo-satsu-bun. (支) Hsu-kung-t'ang-p'u-sa-bun. ② 1 卷 ③ 存、大方等大集經第二二—二四(大正一三・一五 No. 397, 10) ④ 善無畏譯 ⑤ 北涼玄始三(元)甲寅—一五(一三)丙寅(A. D. 414—426)

虚空目分 ① (日) Ko-ka-zo-bo-satsu-bun. (支) Hsu-kung-t'ang-p'u-sa-bun. ② 1 卷 ③ 存、大方等大集經第二二—二四(大正一三・一五 No. 397, 10) ④ 善無畏譯 ⑤ 北涼玄始三(元)甲寅—一五(一三)丙寅(A. D. 414—426)

虚空菩薩經 ① (日) Ko-ka-zo-bo-satsu-kyo. (支) Hsu-kung-yu-p'u-sa-ching. (梵) Akṣagarbha-sutra. (藏) Hphags-pa nam-mkha-pi-shih-po shes-bya-ba theg-pa chen-pohi mho. (Sk. Arya-akṣagarbha nama mahayana-sutra) 虚空菩薩經 ② 1 卷 ③ 存、大正一三・六六七 No. 408 縮成八、元六・九、北65民、南65民、元67民、明北63半、清63半、天63民、指53半、法60半、至134發、明市67半、No. 67 ④ 圓那輪多譯 ⑤ 隋開皇七(A. D. 589)

虚空菩薩經 ① (日) Ko-ka-zo-bo-satsu-kyo. (支) Hsu-kung-yu-p'u-sa-ching. (梵) Akṣagarbha-sutra. (藏) Hphags-pa nam-mkha-pi-shih-po shes-bya-ba theg-pa chen-pohi mho. (Sk. Arya-akṣagarbha nama mahayana-sutra) 虚空菩薩經 ② 1 卷 ③ 存、大正一三・六六七 No. 408 縮成八、元六・九、北65民、南65民、元67民、明北63半、清63半、天63民、指53半、法60半、至134發、明市67半、No. 67 ④ 圓那輪多譯 ⑤ 隋開皇七(A. D. 589)

名所行發 (名庫書) 者藏所現 (月年の刊寫) (書考參書釋註) 書本 (說解書内) 代年作者 (者著) 缺存 (數卷) (名書) 名題 (號略) 字數

【コ】

し、一切衆生の所願を充たし、よく衆生を利益すること、虚空孕菩薩の陀羅尼を讃嘆せられたものである。本經の別譯との對照については、虚空藏菩薩經を見よ。

①(参考) 三寶紀第二、譯經圖記第四、內典錄第五、開元錄第七、貞元錄第一〇(林五邦)

虚科實科之事

①(日) Ko-kwa-jik-kwa-no-koto. ②1冊 ③存 ④印刷(永享七—永正一六 A. D. 1435—1519)記(寫本(寶壽院))

虚舟和尚語錄

①(日) Ko-sho-o-sho-go-roku. 虚舟普度禪師語錄 ②1巻 ③存、(正徳二・二八・一) 宋虚舟普度(慶元五—至元一七 A. D. 1199—1280)語、淨伏嗣(嘉元元年刊) ④(京大、藏・一七・六)

虚舟普度禪師語錄

①(日) Ko-sho-ta-do-zen-ji-go-roku. 虚舟和尚語錄 ②存、(正徳二・二八・一) 宋虚舟普度(慶元五—至元一七 A. D. 1199—1280)語、淨伏嗣(無得覺通禪師の法嗣である南岳下二十世虚舟普度禪師八會の語録を、虚舟の法嗣たる杭州靈隱寺虎巖淨伏禪師、行佑、徳珍並に日本の桂堂瑠林和尚が編録し、門人淳朋は元の至元十七年四月二十四日に示寂せる本師八十二年間の行狀の撰述を元雙行禪師に請ひ、行禪は至元二十年十月(A. D. 1283)に撰述し、門人淳眞は八會語録の編次並に年月の記録を覺巖祖欽禪師に請ひ、祖欽は至元二十一年中秋節(A. D. 1284)にこれに應じたる旨の跋文を撰し語等に附して流通したものである。後、歸朝

後、洛東草河の藤林寺に閑居せし桂堂瑠林和尚は、後二條天皇嘉元元年商舶により八會語録の至るを見て、自己の録する所は才竺冷泉兩會の語録なりしを以て大に喜び、本書の埋蔵せんことを供れて、同年冬五日(A. D. 1303)自序して跋した。今、續藏本に依つて本書の編次を見るに、卷首に目次並に桂堂瑠林和尚の序を載め、次に虚舟普度禪師の初住地たる建康府半山報寧寺語録、鎮江府金山龍濟禪師語録、潭州鹿苑忠禪師語録、撫州隸山白雲禪師語録、平江府永天龍仁禪師語録、臨安府中天竺天寧萬壽永祥禪師語録、臨安府靈隱覺徳禪師語録、臨安府徑山興聖萬壽禪師語録(以上、淨伏嗣)。小參(行佑、徳珍、瑠林等共編)。懐天童晦庵和尚、付衣衣與瑠林侍者、送小師淳眞參雪寶等の偈頌二十九首、眞讚十八首、日本瑠林侍者の請によるものなどの自讃九首、小佛事十首に辭世頌一首を載め、卷末に元雙行禪師の元至二十年十月撰述の虚舟普度禪師行狀並に元至二十一年中秋節撰の雪巖祖欽禪師の跋を附したものである。(大久保堅瑞)

①(日) Ko-shin-gas-sho-gi-shaku. 合掌釋 ②1巻 ③存、密教諸経第八、興教大師全集 ④覺徳(嘉保二—廣治二 A. D. 1095—1143)述

虚心合掌釋

①(日) Ko-shin-gas-sho-gi-shaku. 合掌釋 ②1巻 ③存、密教諸経第八、興教大師全集 ④覺徳(嘉保二—廣治二 A. D. 1095—1143)述

虚心合掌釋

①(日) Ko-shin-gas-sho-gi-shaku. 合掌釋 ②1巻 ③存、密教諸経第八、興教大師全集 ④覺徳(嘉保二—廣治二 A. D. 1095—1143)述

牛頭天王祭文

①(日) Go-zu-ten-no-sai-mon. ②1帖 ③存 ④文化一二寫(寶壽院)

牛頭天王屠神辯

①(日) Go-zu-ten-na-gi-ryaku-shin-ben. ②1巻 ③存 ④平田篤胤(安永五—天保一四 A. D. 1776—1843)著 ⑤刊本(京大、一・二二・二)

牛頭法門要纂

①(日) Go-zu-ho-mon-yo-san. 天台法華宗牛頭法門要纂 ②1巻 ③存 ④最澄(神護景雲元—弘仁一三 A. D. 767—822)撰 ⑤(立大、A 11・三)

牛竹目録

①(日) Go-chiku-moku-roku. ②1巻 ③存 ④天保八寫 ⑤(寶壽院)

牛糞喻經

①(日) Go-fuan-yu-kyō. (支) Niu-fen-yū-ching. (日) S. 22. 96. Go-mayū. ③存、中阿含經第一(大正一・四二一 No. 26. 61)

牛米自供養經

①(日) Go-mai-ji-kyō. (支) Niu-mi-zi-tai-kyung-yang-ching. ②1巻 ③缺 ④魏吳代譯 ⑤(参考) 出三藏記第四、三寶紀第五、內典錄第二、武周錄第一、開元錄第二、第一五、貞元錄第三、第二五

月輪等となし、且つ合掌を彼此冥合の意となし、十指を十如十佛、右の五指は金剛界の五佛、左の五指を胎藏界の五佛等と釋し、此一印を結べば直に成佛する所以を説く、深結釋である。(富田繁純)

①(日) Ko-shin-ki. 胎藏界虛心記 ②2巻 ③存、大正七五・一 No. 2385 ④圓仁(延暦一三—貞觀六 A. D. 794—864)述 ⑤(参考) 山家祖徳撰述篇目集卷上

虚譯傳記國文解

①(日) Ko-taku-den-ki. ②1巻 ③存 ④寛政七刊 ⑤(京大、一・二一・一八)(帝國、一三九・二〇三)

湖隱濟顛禪師語錄

(日) Ko-in-sai-ten-zen-ji-go-roku. (支) Ha-yin-chi-tien-ch'an-shih-yü-lü. 湖隱道濟禪師語録 ②1巻 ③存、(正徳二・二六・一) 宋代沈孟梓叙述 ④寫本(京大、藏・一七・一)(駒大)

湖鏡集

①(日) Ko-kyō-shū. ②1巻 ③存 ④湖月信鏡(一永正一四 A. D. 1517—)述 ⑤(参考) 日本禪林撰述書目、禪師目録

湖山錄

①(日) Ko-zan-roku. ②1巻 ③存 ④朝鮮眞勝 ⑤(参考) 朝鮮佛教總書刊行豫定書目

湖州皎然和尚齋文

①(日) Ko-sha-ko-ken-o-shū-sai-mon. ②1巻 ③(参考) 東城傳燈日録卷下、傳教大師越湖日録

湖州思溪圓覺禪院新雕大藏經律論等目錄

①(日) Ko-shi-shi-kei-ron-moku. ②1巻 ③存 ④(参考) 日本禪林撰述書目、禪師目録

五惡段講話

①(日) Go-aku-dan-ka-wa. 無量壽經五惡段講話 ②2巻 ③存 ④徳龍(安永元—安政五 A. D. 1772—1838)述 ⑤刊本(龍大)

五惡段講話

①(日) Go-aku-dan-ka-wa. ②1巻 ③存 ④徳龍(安永元—安政五 A. D. 1772—1838)述 ⑤刊本(龍大)

五位

①(日) Go-i. ②1巻 ③存 ④加賀香草社

五位格

①(日) Go-i-ka. ②1巻 ③存 ④法道述 ⑤(参考) 禪師目録

五位詰難鈔

①(日) Go-i-kissho-nan-shū. 曹洞五位詰難抄 ②1巻 ③存 ④南英謙宗(嘉慶元—宣正元 A. D. 1387—1450)述 ⑤實徳三寫 ⑥(駒大)

五位工夫傳

①(日) Go-i-ku-fu-den. 曹洞五位工夫傳 ②1巻 ③存 ④寫本(駒大)

五位君臣圖序要解

①(日) Go-i-kun-shin-ju-yō-ge. 曹洞五位君臣圖序要解 ②1巻 ③存 ④朝鮮道隆撰 ⑤弘治八刊 ⑥(駒大)

五位調訣

①(日) Go-i-kun-keitsu. 洞上五位調訣 ②1巻 ③存 ④寫本(駒大)

五位聖光參

①(日) Go-i-kei-ka-san. ②1巻 ③存 ④慈道編 ④寫本(駒大)

五位顯訣

①(日) Go-i-ken-keitsu. (支) Wu-wu-ch'ien-ch'ieh. 洞山五位顯訣、解釋洞山五位顯訣 ②1巻 ③存、(正徳

en-gaku-zen-in-shin-cho-tai-zō-kyō-ri-sū-ton-tō-moku-roku. (支) Ha-chou-ess-ch'i-yuan-ch'ieh-ch'an-yuan-hsin-tiao-ta-s'ang-ching-t'ui-t'ui-t'eng-mu-tu. ②2巻 ③存 ④南宋思溪圓覺禪院版大藏の目録、昭和五年高野山水原堯榮氏、宋刊の原本を發見し印行す。

①(日) Ko-tō-kyō-kyō-ki. 湖東御教誡聞書 ②(日) Ko-tō-kyō-kyō-ki-hiki-gaki. ③1巻 ③存 ④文化一二寫 ⑤(各大、宗大・四〇二五)

湖東三僧傳

①(日) Ko-tō-san-sō-den. ②1巻 ③存、淨土宗全書第一七

湖東三僧傳

①(日) Ko-tō-san-sō-den. ②1巻 ③存、淨土宗全書第一七

湖峰和尚偈頌

①(日) Ko-hō-ō-shō-ge-jū. ②1巻 ③存 ④湖峯述 ⑤(駒大)

買香經

①(日) Ko-kak-kyō. (支) Ka-ko-ching. ②2巻 ③存 ④西晉竺法護(一太始二—建興元 A. D. 216—313)譯 ⑤(参考) 仁壽錄第五、壽泰錄第五、開元錄第一五、貞元錄第二五

箇中の樂地

①(日) Ko-chū-no-raku-ki. ②1巻 ③存 ④宗演(一正大八 A. D. 1919)述、飯塚哲英編 ⑤大正六再刊 ⑥東京東亞堂

【コ】

據源錄 ①(日) Ko-gen-roku. ②1巻 ③存 ④寫本(京大、藏・二四・九)

舉一明三

①(日) Ko-isan-myō-san. ②1巻 ③存 ④(参考) 禪師目録

舉針經

①(日) Ko-hansu-kyō. (支) Ch'a-po-ching. ②1巻 ③失譯 ④昔題三昧經の抄出 ⑤(参考) 出三藏記第四、法華錄第二、壽泰錄第三、開元錄第一六、貞元錄第二六

警說

①(日) Ko-seisan. ②1巻 ③存 ④性空述 ⑤(佛考) 禪師目録

警搜集

①(日) Ko-sō-shū. 澤庵和尚警搜集 ②2巻 ③澤庵宗彭(天正元—正保二 A. D. 1573—1645)撰 ④(参考) 禪師目録

この師とこの弟子

①(日) Ko-no-shi-to-ko-no-de-shi. ②1巻 ③存 ④徳島敏著 ⑤昭和四刊 ⑥加賀香草社

この大災に遇うて

①(日) Ko-no-dai-sai-ni-oyobi-tai-dai-nichi-shū-ji-no-koto. ②1帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(寶壽院)

この身のまゝを

①(日) Ko-no-mi-no-ma-ma-o. ②1巻 ③存 ④山中奉太郎著 ⑤大正九刊 ⑥(各大、外洋・二二三二)

午水大事及胎大種子事

①(日) Go-sai-dai-ji-oyobi-tai-dai-nichi-shū-ji-no-koto. ②1帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(寶壽院)

午水等

①(日) Go-sui-tō. ②1帖 ③存 ④永和六寫 ⑤(寶壽院)

午睡渡話

①(日) Go-sui-shū-wa. ②1帖 ③存 ④(参考) 禪師目録

名所行發(名庫書)者藏所現(月年の刊寫) (書考多書釋註書本) 說解書内(代年作者) 著者(缺存) 數巻(名書)名題(號略)字數

【二】

た。が然し不申にして全三巻の中、上巻は逸して缺如し、従つて今知りうるところは漸く中下の二巻のみである。されば中下二巻の内容は如何、以下序でを以つて且らくこれを述べその概観を試みることにする。

先づ題號及撰者の名に淨土五會念佛經親行儀、南嶽沙門法照撰と記してある。而して中下兩巻のうち先づ中巻には、最初羅什譯の阿彌陀經の全文を掲げ、次で法事を述べ、以下寶島讚、觀經十六卷讚、阿彌陀經讚、維摩讚、涅槃讚、般若讚、道場讚、無量壽佛讚、觀世音讚、大勢至菩薩讚、出家樂讚、淨土樂讚、請觀世音菩薩讚、六根讚、歸西方讚、西方禮讚文、歸西方讚の十種の讚文を述べ、その間に第八讚佛得益門の一章を設け、更に歸西方讚以下に於いて第九化生利物門と第十迴向發願門の二章を加へ、最後に五會念佛を現在及未來の諸の大衆に勧むるの意、又五會念佛の利益等を詳細に記述して、以て此の巻を結んでゐる。次に下巻に就いて見れば、「此下一巻讚。從第八讚佛得益門分出」と述べて全巻の悉くに五會念佛に唱和すべき左の如き種々の讚文が述べられてゐる。即ちその讚文を見れば、依無量壽觀經讚、依阿彌陀經讚、歡歡花供樂讚、淨土五會讚、樂樂五會讚、歡歡五會妙音讚、樂樂欣讚、樂樂莊嚴讚、歡歡此娑婆生淨土讚、歸西方讚、念佛三時見佛讚、高聲念讚、樂樂寶池讚、六道讚、歡歡陀羅尼音勢至讚、西方十五願讚、樂樂蓮珠讚、歸西方讚、四十八願讚、隨心

歡西方讚、西方禮讚、善導和尙西方讚、慈愍三藏西方讚、西方樂讚、淨土五會讚、西方樂讚、淨土法身讚、淨土五字讚、厭苦歸淨土讚の凡べて二十九種を數ふることが出来る。此の如く新発見になる廣法事讚の中下兩巻の内容に就ては今大凡これを知らることも出来るが、遺憾ながら上巻の未だ発見せられざる以上は、その確實なる全三巻の全豹は更に知る由もない。因に此の廣略兩本の同異に就いて一言すれば、先づ兩者異なる點は、略法事讚には全く章段なきに反して、廣法事讚の中巻には第八讚佛得益門乃至第十迴向發願門等と各章門の設けられてゐる點を推察するに、廣法事讚は淨土の五會念佛の行儀作法を示すに十門の章段を分けて特に詳述せられたるものゝ如き、又略法事讚には諸經並に經文の記載なきに反して廣法事讚には諸經の意味及び阿彌陀經の全文の記載せられてゐること等である。然しこゝに特に注意すべきは、廣略兩本とも全く同一意味の五會念佛の行儀作法を述べた書であつて、而も略法事讚中の讚文三十七種のうち二十一種迄が廣法事讚の中下兩巻記載中の讚文と全く同一であること等を思ふとき、略法事讚中の餘の十六種の讚文も或ひは未発見の廣法事讚上巻中に収録せられてゐたものではなからうかと想像しうることである。

①(参考) 淨土真宗教典志第一、淨土依憑經論章疏目錄 ②寫本(龍大、別置) 正保五刊(龍大、二六八・一七八)(谷大、宗大、三四八)(哲、ふ、七、右、六) (上杉文秀)

五會法事讚演底 ①(日) Gō-e-kyō-shū 淨土五會念佛略法事儀讚演底、五會讚演底 ②五卷或八卷 ③存、續淨土宗全書第七 ④東日(一享保頃 A.D. 1716-1735) ⑤(参考) 淨土真宗教典志第三 ⑥享保一刊 ⑦(谷大、宗大、二一七)(龍大、二〇三、三九、研真)(哲、ふ、六、中、四)

五會法事讚管見 ①(日) Gō-e-kyō-shū 淨土五會念佛略法事儀讚管見 ②一巻 ③存、眞宗全書第七 ④神興(文化一一一明治三〇 A.D. 1897-1887) ⑤明治二(A.D. 1869)

⑥明治二年、師五十六歳のとき眞宗大谷派高倉學寮夏安居にあつて講述した筆録である。師自ら、五會法事讚は宗祖親鸞聖人も依用せられたが、未だこれを講述したものがないのを遺憾とし、敢てこれを講述するといつてゐられる如く、古來吾等註解を施したものでない本讚に向つて、師の深遠明晰なる解説あることは、後學者の多とすべき所である。製作理由、行法傳來、一部綱要、題目撰號、入文解釋の五段にわかれ、製作理由を更に縁起と造意に分ち、縁起については大聖の指歸に依ると、異見邪執に依るとの二條を擧げて詳述し、また造意については相承の行儀に順ぜんがため、法會の恒式を定めんがため、淨土の莊嚴を讀ぜんがため、施主の恩を全報せんがため、

自他の願生を勧めんがための五由を説明してゐる。次に行法傳來を述べるとなれば、先づ佛を禮讚する行法の出づる經律論を列ね、支那では道安に興り、廬山遺説、善導等またこの行法を教ふと述べ、更に一部綱要については、大無量壽經の清風時發出五會等々の文により、宮商角徵羽の音律を調へて、音聲佛事をなす極樂の法音をもつて念佛を行じ、偈讚に和して一晝夜の別時法事の軌則を顯すにあると云つてある。五會讚の註書極めて稀なる古今に通じて、本書の價値あることは言を俟たない。

⑦寫本(谷大、宗大、一一七三)(柏原祐義) ⑧五會法事讚眞宗記 ①(日) Gō-e-kyō-shū 眞宗記 ②四巻 ③慧雲(享保一五一天明二 A.D. 1730-1782) ④(参考) 淨土真宗教典志第二

五會法事讚名義數 ①(日) Gō-e-kyō-shū 淨土真宗教典志第二 ②一巻 ③存、大正一四・七九五 No. 533 ④館宿七、七一五、一、北 870 學、南 883 學、元 875 學、明 770 當、清 770 當、慶 870 當、天 870 學、指 847 克、法 857 克、至 1104 和、明 753 當、Nj. 775 ⑤東晉代(A.D. 317-420) 撰

名所行設 (名庫書) 諸所現 (月年の刊寫) (書考參書釋註) 書本 (説解管内) 代年作五 (著者) 缺有 (數色) (名書) 名題 (號略字數)

【二】

①本經は具には佛說五王經といひ、普安王等の五王に八苦を説かれしもの。五王は互に親友の同柄にあつたが、普安王は常に菩薩の行を修して不生不死の法を樂しみ、他の四王は邪行を修して世俗の樂を最上としたが、一日普安王は他の四王を導いて祇園精舍の佛所に往詣するや、佛は生老・病・死・思愛別・所求不得・戀憎會・憂悲惱苦の八苦を説き給ひ、五王等遂に歸佛して須陀洹道を得るに至つた事を説いたものである。

②(参考) 法經錄第三、武周錄第二、開元錄第三、貞元錄第五 (林五邦)

五音伽陀博士和譜 ①(日) Go-on-ka-da-haku-shi-wa-ka ②一巻 ③存 ④寫本(帝國、二一四・九五)

五音九弄十紐圖 ①(日) Go-on-kyū-nō-jū-shū ②一巻 ③存 ④教尋撰 ⑤(参考) 大日本佛教全書續刊決定書目

五音生起 ①(日) Go-on-shō-ki ②一巻 ③存 ④十地房撰 ⑤(参考) 大日本佛教全書續刊決定書目

五音聲伽假博士 ①(日) Go-on-jō-ka-haku-shi ②一巻 ③存 ④葦原寂照(天保四一大正二 A.D. 1833-1913) 編

⑤明治二六刊 ⑥(高大、寄、一・四九)

五音聲論 ①(日) Go-on-jō-ron ②一巻 ③存 ④教尋撰 ⑤(参考) 大日本佛教全書續刊決定書目

五音返事 ①(日) Go-on-hen-ji ②一帖 ③存 ④足利時代寫 ⑤(寶龜院)

五陰經 ①(日) Go-on-kyō (支) Wa-yin-king ②一巻 ③缺 ④魏吳代失譯

①(参考) 出三藏記第四、法經錄第五、仁壽錄第三、靜泰錄第三、三寶紀第五、内典錄第二、武周錄第一、開元錄第二、第一、五、貞元錄第三、第二、五

五陰事經 ①(日) Go-on-ji-kyō (支) Wa-yin-shih-king ②一巻 ③缺 ④吳代支譯(一黃武二建興二 A.D. 223-253) ⑤(参考) 開元錄第一、貞元錄第二、五

五陰成敗經 ①(日) Go-on-jō-bai-kyō (支) Wa-yin-chō-hing ②一巻 ③存 ④失譯 ⑤修行道地經第一巻の抄出 ⑥(参考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一、六、貞元錄第二、六

五陰譬喻經 ①(日) Go-on-ji-yū-kyō (支) Wa-yin-pi-yū-king (支) S. 22. 95 Pheqnan ②一巻 ③存 ④大正二・五〇一 No. 103 縮辰六、二一四・二、北 750 思、南 764 思、元 756 思、明 649 慶、法 649 慶、天 749 思、指 710 若、法 739 樂、至 186 攝、明 633 善、Nj. 653 ⑤安世高譯 ⑥後漢建和一一建寧三(A.D. 148-170)

⑦(参考) 經典は釋阿含十巻の第十經(大正二・六八) S. 22. 95 Pheqna ⑧異譯單行經 P. a. 〇 p. 他に水沫所譯經(大正二・五〇一)

の異譯本がある。内容は、恆河の大流に浮ぶ泡沫を見て佛がこの泡沫(色に譬ふ)や、夏の急雨に生ずる水泡(受に譬ふ)、陽炎(想に譬ふ)、芭蕉(行に譬ふ)、幻像(識に譬ふ)に比して、五蘊の實無く、堅なく、空にして無所有、執着すべきものなきことを、比丘等に教へ給うたものである。四本大體に於て同じものであるが、S. のみ長行の終りに「かく見て比丘等よ、聖弟子は五蘊を眼ひ離れ欲して解脱すの一句を加へ、偈文に S. と雜とすの經典と同じく、水沫所譯經は句を半減してゐる。

①(参考) 出三藏記第二、三寶紀第四、内典錄第一、譯經圖記第一、開元錄第一、貞元錄第一、第二 (赤沼智善)

五戒佈抄 ①(日) Go-ka-i-kyō ②一巻 ③最澄(神護景雲元一弘仁一三 A.D. 767-832) 撰

④山家祖徳撰述高日集巻上に云く、五佈嚴集五戒佈抄。智字誤歟。

⑤(参考) 山家祖徳撰述高日集巻上

五戒經 ①(日) Go-ka-i-kyō (支) Wa-chieh-king ②一巻 ③最勝撰 ④(参考) 武周錄第一、開元錄第一、八、貞元錄第二、八

五戒五常辨 ①(日) Go-ka-i-go-jō-ben ②一巻 ③存 ④松浦信業(天保一一一 A.D. 1841-1922) 述 ⑤大正五刊 ⑥(龍大、一五〇二・一六〇)

五戒相經 ①(日) Go-ka-i-kyō (支) Wa-chieh-hsiang-king ②一巻 ③存、大相經、優婆塞五戒略論 ④一巻 ⑤存、大

正二四・九三九 No. 1476、縮辰一〇、二一八・三、北 303 奉、南 947 奉、元 943 奉、明 1109 初、清 1109 初、慶 935 入、天 937 奉、指 892 入、法 925 入、至 1247 願、明 1293 比、Nj. 1114 ⑥求那跋摩(太和二一 A.D. 431) ⑦劉宋元嘉八(A.D. 431) ⑧優婆塞五戒相經の下を見よ ⑨(参考) 出三藏記第二、三寶紀第一〇、内典錄第四、譯經圖記第三、開元錄第五、貞元錄第七

五戒相經略要 ①(日) Go-ka-i-kyō-sen-yō (支) Wa-chieh-hsiang-king-chien-yao ②優婆塞五戒相經略要 ③一巻 ④存 ⑤明智旭(萬曆二七一一永曆九 A.D. 1599-1655) 撰、後助校 ⑥刊本(正大一一八三・一七)(谷大、餘小、一六九、餘小、一八一)(高大、寄、一・一一三)

五戒相經略解 ①(日) Go-ka-i-kyō-ryaku-ge (支) Wa-chieh-pao-ying-ching ②一巻 ③失譯 ④(参考) 出三藏記第四、法經錄第五、開元錄第五、貞元錄第八

五戒報德經 ①(日) Go-ka-i-hō-kyō (支) Wa-chieh-pao-te-king ②一巻 ③(参考) 仁壽錄第五、靜泰錄第五、開元錄第一、貞元錄第二、五

五戒本行經 ①(日) Go-ka-i-hon-kyō (支) Wa-chieh-pen-hing-king

名所行設 (名庫書) 諸所現 (月年の刊寫) (書考參書釋註) 書本 (説解管内) 代年作五 (著者) 缺有 (數色) (名書) 名題 (號略字數)

D. 1721-1792) 撰 天明八(A. D. 1788) 臨濟禪宗中興の祖兩朝勅諡神機獨妙禪師正宗師自隱和尚の神足勅諡佛護神照禪師東嶺和尚、臨濟、雲門、曹洞、臨濟、法眼の禪宗五家の門戸各別にして各々家風の存するも、要は只向上の大事を究明するに存することを、其祖の行履並に語録遺芳の參詳檢討の上より、綿密に指示せられたるものである。撰述の趣旨及來由は和尚の自序に詳かである。曰く「夫れ五家の宗は、我が宗向上の大事を傳へんと欲するのみ。然るに只世間流布の文字を解するが如く、妄に解して以て要と爲す。故に宗祖各々其の宗の要路を教訓して、門戸を分ち、自ら五つの一宗風と爲る。知りぬべし。根本は只向上の大事なることを。五家は即ち差別の要門なり。第一臨濟の機鋒を職はしむるに、亦全提半提の別あり。第二雲門の言句を揮ぶに、亦全提半提の別あり。第三曹洞の心地を究むるに、亦全提半提の別あり。第四臨濟の作用を明すに、亦全提半提の別あり。第五法眼の利濟を先とするに、亦全提半提の別あり。全提と曰ふは、如來の正法眼藏を全分に荷擔受用するの義なり。半提とは未だ全提に及ばず、或は半、或は十が一に及ぶものあり。半提の言、類多くして分ち難し。學者、半途に止りて究竟と爲すもの、誠に憐愍すべきか。予、三十年前、先師の命を聞くと雖も、懇盡して五と成るの大事と、雲門の言句、老僧今日徹して、言句中に述べ等の密意に至りては、漸く聞いて信受して、而も尙ほ未だ徹せず。參究已に三十餘霜を経て、頗る其の要領を得たり。天明戊申の歲(天明八年)、予、八幡の圓福の蓮に應ず。結夏の日、諸子に告げて曰く、夫れ此の山は、初祖大師と聖德太子との、神佛值遇の靈迹にして、吾が邦無比の祖場なり。老僧徳無くして、古人道く、法あり食ある處には住すべし、法あり食無き處にも住すべし、法無くして食ある處には住すべからずと。諸禪徳、此の山實に食無し。一夏狂げて、碧巖一百則を擧揚して、法食に當つるのみ。法に勇にして、衣食に管せざるもの、已に十より百に至ると。又、衆に告げて曰く、往日、菟山椿公(江戸臨濟院の菟山椿公禪師なり。白隱和尚の正脈を繼ぐ、門下に隱山惟英、卓州胡傳、行應玄節の諸徳あり)予に眼目を折衷し、五家の法要を提提せんことを請ふ。果さるること已に十年、今再び太靈鑑公(白隱和尚の法を嗣ぐ)左右に逼近し、その果さるることを貰ひ。諸禪徳、若し自己を究明することを得んば、我が家の種子にあらざらん。豈に連綿の眞孫と道はんや。是の故に、先づ曹洞の遺體を得るを初めと爲し、雲門の宗旨を究むるを最極とするのみ。五月望、智門蓮花の話を講したる時に、諸子各々五家の門戸を立して、激發請益す。老僧、問を求めて、河西の西都柳庵が宅に往かんと思ふ。晨を渡り駕に乘じて、山を下り河を過ぐ。道西の濱に至り、途中忽ち然として、先師叮囑の境界に撞着す。歡踊の餘り、一偈を打して曰く「去年今日始めて語を爲す。今歲斯の時自ら門に入る。仲夏望を過ぎて辰巳に向ふ。五家の要路是れ縁縁」と。時に天明戊申五月既望なり。宅に入りて坐斷前日の事に異なり、柳庵が宅に在ること五日、山に歸りて諸子を試む。日夜參詳傳らば、五家の兒孫將に其の人を得んとす。時に一人あり、問ふて曰く「五家の宗要は何事と云ふ。予曰く、何を以てか然と問ふ。曰く、根本の事に徹するすら、未だ其の人を得ず。而るに五家の宗要に參するは、並に一箇半箇も無からん。然るときは則ち五家の辯、用ふるも無けん。予曰く、然らず、汝、種子の華果を結ぶを觀るや。荊棘を種うれば則ち荊棘を得、華果を種うれば則ち華果を得、この故に吾が大應老祖、參詳他に異なる。虛堂、讀して曰く、明々に説與す虛堂、東海の兒孫日に轉た多からんと云。大燈、已に佛國の印を受けて、一箇の種草と爲る。其塵に因つてか、還つて老眼に嗣ぐや。是の故に關山國師の遺訓に曰く、宿昔、吾が大應老僧、正元の間、風波の大難の地を越えて、蚤に宋城に入つて、虛堂老僧に淨慧に遇着して、眞參實證し、路頭、徑山の其の藪典を盡す。是の故に、末後、復山の稱を得、兒孫日多の記を受け、揚岐の正脈を吾が朝に單傳するものは、老僧の功なり。次に先師大燈老人、老僧に西京に參得り、京に盤桓侍者たり。其の隨從の際、臨席に到らざるもの多年、頗る古尊宿の風あり。卒に老祖留神の命を受けて、長養するもの

疾を敷はんが爲に、且く各家一二の語詛の因縁を提出して、以て釘を抜き刺を抽く底の一方便と爲すのみ。若し或は晦昧眼目あり、希聖請辭あり。何ぞ者般の杜撰を用ひんやと謂はば、阿阿阿、君に勸む此の一盃の酒を盡せよ。西陽關を出で、故人無けん」と説く。自序に「天明第七歲戊申兩安居之日」と云へる、案ずる天明戊申は八年にして七年に非ず。東嶺和尚六十七歳の時なり。思ふに老年記憶の誤に出づるものか。傳を案ずるに、著者東嶺和尚、字は圓慈。室號を三光室と云ひ、又、不々庵主と號す。近江國神崎縣の人、俗姓は源氏、宇多天皇九世の孫佐々貴氏の出と云ふ。享保六辛丑年を以て生る。實に正受兼主道鏡註編禪師入寂の年である。五歲、古月禪師に謁して出家の志あり。九歲、亮山和尚の室に投じて蓮受具す。十七歳にして南方に發足し、初め古月、翠巖の二老に謁して、農參請教へて倦む無し。雲門胡餅語に於て入處あり。次で丹の大道和尚の室に入り、巾瓶に侍すること凡そ三年なり。以爲らく數員の善知識に見ゆと雖も、一箇として古人雪時・巖頭の使用の如き者無し。如かず此より去つて山中に向て苦修せんにはと。遂に衣を拂つて郷に還り、蓮華峰に於て衣を轉めて日夜打坐し、寢食僧に廢するに至る。居ること久しくして一事の所得無し。寛保元年辛酉年、年二十一歳、一日、坐久しくして疲倦す。自ら謂く道高ければ則ち魔盛なり。今我はれ何の障碍ぞや、我此の生に於て誓つて道を求めずと。言ひ訖つて身

を放つて仆る。頭未だ地に到らざるに豁然として大悟す。即ち偈を作つて曰ふ「法王身矣法王身、大地山河總一塵、佛教祖師元在吾、頭々無二少少春」に三。其の春二月、白隱和尚、原宿松蔭寺に在り。即ち就て其の門に投じ、朝參暮請、辛儉具さに嘗め、數年ならずして盡く室内の事を參得せり。偶々師重疾を得て百藥効無し。自ら謂く、我れ既に宗趣を究むと雖も、もし一日流死せば、何ぞ法門に益あらんやと。因て宗門無盡燈論二卷を著して、白隱和尚に呈す。曰く、此の中若し探るべきあらば、請ふ以て後に始さん。若し夫れ杜撰ならば、速に火中に投ぜよ。和尚一見して曰く、是れ以て後世の點眼薬と爲すべしと。之れより和尚を辭して京に之き、關を白河の邊に掩ふて、唯病を是れ養ふ。死も亦得たり生も亦得たり。任運自在以て時日を消す。一日、無心中忽然として白隱和尚平生の受用底を徵見す。是より病も亦隨つて輕安なり。歡喜に堪へず。書を讀して和尚に報す。白隱和尚、即ち裁答して曰く、必ず速に歸來せよ。因つて東裝して歸りて白隱和尚に従ふ。時に寛延二己巳年冬十一月、師二十九歳、白隱和尚六十五歳なり。臘月二十五日、印記並に金襴の法衣を附與せらる。和尚曰く、此の金襴衣は我曾て之れを服して、四たび碧巖録を講ぜり、今以て汝に傳附す。宜しく後世をして斷絶せしむること莫れと。便ち頂戴して之れを受く。是より師資商量、宗旨を建立し、五位十重禁等、微細の旨要實に至れり。故を以て、

當時鶴林衆中に、微細東嶺、大器蓋着の稱あり。寶曆二壬申年春四月、駿河國瀬戸庄比奈村・神興山無量壽寺再興成る。白隱和尚を請して開山とし、師、命を奉じて住持の席を繼ぐ。和尚に無量壽寺草創記の作あり。八戊寅年、伊豆國北上村深池龍潭寺の草創成る。十庚辰年春二月、白隱和尚を請して開山始創とす。和尚、息耕録開建普説を講ず。四月、師、命に依りて龍潭に主たり。白隱和尚、晚年氣力漸く衰ふるや、師力めて學者を鞭撻す。凡そ晚年從事する者、其の得力多く幽弄、然れども、峨山、頑極の諸子、往々師の穿鑿に與る。是を以て督脫す。明和壬子年、白隱和尚京師等持の請に遇ふ。時に年八十四、老病殊に甚しく、即ち師をして代講せしむ。師、等持の請に赴き、人天眼目を提唱す。合衆四百餘、大に白隱の宗風を振ふ。會未だ畢らずして白隱の訃至る。解制を待ち、速に松蔭に還り、靈翁と俱に葬事を行ふ。師、曾て江戸の至道庵を復興し、虛堂録を提唱す。乾峰法身三種病の則に至りて便ち曰く、此の一段の因縁、實に格外なり。今日來り置かん。峨山和尚解制後、永田より來るを聞く。其の時當に講ずべしと。峨山至る。師乃ち之れを講ず。大に他日に異ると云ふ。師、江戸の東北庵に於て、碧巖録を講ず。第三期に至り、擧揚して曰く、日面佛月面佛と。時に柴田元美の母氏あり。年六十餘、坐下に在つて之を聴き、胸字之が爲に密爾たり。講後師に見えて所解を呈す。師大に之を喜ぶ。母氏、臨終に其の女孫を誠

めて曰く、汝幼文と雖も、宜しく勉めて佛乘に歸依すべし。何となれば、我曾て東嶺和尚の日面佛月面佛を擧するを聴き、一旦一點の塵滓無し。即今死去するも、宛然歸するが如し。其れ復た何をか患へんや。汝若し佛乘に歸依せざれば、我が女孫に非ず。記取せよと、言ひ訖りて泊然として化せりと云ふ。師、寛政四壬子年閏二月十九日、微恙を示し流然として示寂す。壽七十七、臘六十三、勅して佛護神照禪師の徽號を賜ふ。嗣法の徒に大觀文殊、天眞集解、桂林快麟その他幾多の名徳がある。本書跋語の撰者大觀文殊は、室號を瑞雪軒と號し、又、阿尼窟と云ふ。美濃の人、俗姓は佐藤氏、法を東嶺和尚に得て、丹波の法常寺に住し、四十二歳、勅あり紫衣を賜ふ。天保十三壬寅年三月二十八日、世壽七十七歳にして示寂。傳は近世禪林僧寶傳第二に見える。本書及び宗門無盡燈論二卷を校訂し、特に本書の原板は、師が自ら書せるものを印刷したものである。本書一部五卷の中、第一卷は、主として三聖慧然の輯録に係る鎮州臨濟慧照禪師語録を擬要して、臨濟宗は機鋒を職はし、親録を論ずるを旨と爲すことを明し、第二卷は、守堅の雲門文無禪師語録に依りて、雲門宗は言句を揮び親録を論ずるを旨と爲すことを説き、第三卷は、圓信等の輯録に係る洞山良价禪師語録を主として、曹洞宗は心地を極め親録を論ずるを旨と爲すことを明し、第四卷は、圓信等の洞山靈祐禪師語録一卷、仰山慧寂

【コ】

禪師語録に依りて、瀧仰宗は作用を明かにし親疎を論ずるを旨と爲すことを説き、第五卷は圓信等の大法眼文益禪師語録に依りて、法眼宗は利濟を先とし親疎を論ずるを旨と爲すことを明し、附録として顯宗の示衆看經榜の二編が添へられて居る。臨濟宗の下、初めに行録に依りて、臨濟・黃檗に參じて見性悟道するの因縁を擧げ、次で臨濟我松話以下、録中必須難透の語則を掲げて、能く宗風の存するところを示し、往々師の評唱を加へて學人參すべきの語則を明かにする。雲門宗の下、雲門初めに助州に參じて豁然大悟するの因縁を示し、乃至學人透關すべきの語則、一先師白隱の因縁を擧げて之れを評唱し、最後に白隱の人天眼目開匙示衆に依りて、雲門を天子となし、臨濟を將軍とし、瀧仰を公卿とし、法眼は大夫人、曹洞は士民と爲す等、其の間斷じて優劣を容れざるも、宗風高下自ら別あることを明す。曹洞宗の下、初めに洞山、洞山・雲巖に參じて、遂に巖に嗣ぐの因縁を示し、五位・實鏡三昧を説き、後に先師白隱の正受老主より單傳せる洞上五位偏正口訣、洞山良价和尚五位偏正頌を提示して、洞山の眞風を示す。瀧仰宗の下、初めに瀧山・百丈に參じ、仰山・高山に嗣ぐの因縁を掲げ、次に學人參すべきの語則を示して、瀧仰の宗風たるや甚だ審細にして老婆の臭乳に似たるものもあるも、宗旨の峻なること他師に過ぐるものあることを明かにし、最後に碧巖集第四十八則に依りて、茶道の深義を説く。法眼宗の下、初めに法眼・地藏に

參じて其の法を得るの因縁を掲げ、慧超問佛の語乃至學人必透すべきの語則を出して、一一親切の評唱を加へ、以上擧ぐて、五家の門戸各別なりと雖も、要は向上の大事を究明することに存するを詳密にする。附録二編の中、顯八示衆は、顯八接心の際に於ける初夜より第七夜に至る毎夜の示衆で、看經榜は即ち禪門に於ける看經圖の要義を論述したものである。何れも禪門古徳の兒を愍みて醜を忘るゝ血滴々の慈心を窺ふに餘りあることを覺える。本書の刊版は、攝津國豐島郡池田在中川原松雲寺の住持某なる者、曾て東嶺和尚に參するの因縁を以て、同參大觀和尚を請して校訂その他を勞を托し、衣費を投じて上梓せるを初刻とする。蓋し鶴林の門風を扶起し、後學をして五家の要路を見せしめ、且は不々庵主法乳の恩に酬ひんとすの微衷の一端を披瀝せるものに外ならぬ。

順治一四(A.D. 1657) 臨濟宗は全體大用、棒喝齊施。曹洞宗は君臣道合、正偏相資。瀧仰宗は父子一家、師資唱和。雲門宗は出語高古、迥異尋常。法眼宗は開聲悟道、見色明心。云々といひ、その宗に於て特に重んずる所の法門を細かに擧げて、實證せるものである。臨濟宗の四料簡、三句、三玄三要、四喝、四賓主、四照用、三笑、三笑、七事隨身を始め、曹洞宗の正偏五位、君臣五位、王子五位、四賓主、三滲漏等その要法を擧示し、更にその一々に略解や頌が附してある。

自序に、五家の特長を究明し得て、これを著すといふ意味が書いてある。實際この贊には、各師の面目躍如たるものがある。① 慶長一三刊(駒大)萬治三刊(駒大)寛永一刊(龍大、二九六・二四) (京大、藏・一七二) (内閣) 貞和五刊(帝國、特別・賞) (山田靈林) ② 二卷 ③ 存 ④ 寫本(駒大) ⑤ 大主撰 ⑥ (參考) 禪籍目録 ⑦ (參考) 五家正宗贊故事 ⑧ (日) Go-ke-sho-sho-shan-to-ku-ji. ⑨ 一巻 ⑩ 存 ⑪ (參考) 禪籍目録 ⑫ 五家正宗贊考 ⑬ (日) Go-ke-sho-sho-shan-to-ku. ⑭ 一巻 ⑮ 存 ⑯ 寫本(駒大) ⑰ 五家正宗贊助祭 ⑱ (日) Go-ke-sho-sho-shan-to-ku-ken. ⑲ 二十巻 ⑳ 存 ㉑ 無著道忠(承應二一延享元 A.D. 1653-1744) 述 ㉒ (參考) 禪籍目録 ㉓ 五家正宗贊抄 ㉔ (日) Go-ke-sho-sho-shan-sha. ㉕ 二巻 ㉖ 存 ㉗ 東陽英朝(正長元一永正元 A.D. 1428-1594) 撰 ㉘ (參考) 禪籍目録 ㉙ 五家正宗贊抄 ㉚ (日) Go-ke-sho-sho-shan-sha. ㉛ 三巻 ㉜ 存 ㉝ (參考) 禪籍目録 ㉞ 五家正宗贊抄 ㉟ (日) Go-ke-sho-sho-shan-sha. ㊱ 二十巻 ㊲ 存 ㊳ 龍溪述

名所行覽 (名庫書) 諸家所現 (月年の刊寫) (書考參書釋註) 書本 (説解管内) 代年作者 (著書) 缺存 (數巻) (名書) 名題 (號略字數)

【コ】

① (參考) 禪籍目録 ② 刊本(帝國、せ・二一) ③ 五家正宗贊樞要 ④ (日) Go-ke-sho-sho-shan-sha-yo. ⑤ 一巻 ⑥ 存 ⑦ (參考) 禪籍目録 ⑧ 五家正宗贊緒餘 ⑨ (日) Go-ke-sho-sho-shan-sha-yo. ⑩ 一巻 ⑪ 存 ⑫ 無著道忠(承應二一延享元 A.D. 1653-1744) 述 ⑬ (參考) 禪籍目録 ⑭ 五家正宗贊略要考 ⑮ (日) Go-ke-sho-sho-shan-sha-yo-kyo. ⑯ 一巻 ⑰ 存 ⑱ (參考) 禪籍目録 ⑲ 五家正統一覽 ⑳ (日) Go-ke-sho-sho-sho-ichih-an. ㉑ 一巻 ㉒ 存 ㉓ 見聞圖 ㉔ 享保四刊(龍大、研佛) 立大、A五〇・九二一九三) 寛永三刊(谷大、餘大・二八五八) (駒大) ㉕ 五家辨 ㉖ (日) Go-ke-sho-sho. ㉗ 一巻 ㉘ 存 ㉙ 虎關師錄(弘安元一貞和二 A.D. 1278-1346) 述 ㉚ (參考) 日本禪林撰述書目、禪籍志卷下、禪籍目録 ㉛ 五家辨正 ㉜ (日) Go-ke-sho-sho-sho. ㉝ 一巻 ㉞ 存 ㉟ 記續二二・二〇・四 ㊱ 德巖愛存撰 ㊲ 元祿年間(A.D. 1698-1703) 撰 ㊳ 禪宗の系譜に關する論文である。虎關師錄(A.D. 1278-1346) などによつて、臨濟・瀧仰・曹洞・雲門・法眼の五家が、共に馬祖道一禪師の法系に屬することが、頗りに主張されて、幾百年の間、それが正しいのだと考へる向きが、甚だ多くなり、德巖愛存等は甚だ苦々しく思つてゐた。その矢先き、支那の白巖淨行の著「法門備究」が傳はつた。それは師錄の所説を駁する好資料

として擧示するに足るものであつた。愛存は大に悦びて、それを刊行し、附録として自著「五家辨正」を添へ、世に流布したる也。 ① (日) Go-ke-sho-sho. ② 一巻 ③ 存 ④ (參考) 日本禪林撰述書目、禪籍目録 ⑤ 五悔等 ⑥ (日) Go-ke-sho. ⑦ 一帖 ⑧ 存 ⑨ 寫本(東善提院) ⑩ 五下分結經 ⑪ (日) Go-ge-bun-ke-tsu-kyo. (支) Wu-hai-ha-fen-chieh-ching. (E) M. 64 Mahā-nā hūkyā S. ⑫ 存 ⑬ 阿含經第五六(大正一 No. 26, 205) ⑭ 五憲法首書 ⑮ (日) Go-ken-pō-shū-sho. ⑯ 一巻 ⑰ 存 ⑱ 道海湖音(寛永五元祿八 A.D. 1628-1695) 述 ⑲ (參考) 禪籍目録 ⑳ 五玄略講 ㉑ (日) Go-gen-ryaku-ko. ㉒ 五巻 ㉓ 存 ㉔ 小見山三學述 ㉕ 明治四一刊 ㉖ (谷大、餘大・二四八) ㉗ 五眼文經 ㉘ (日) Go-gem-mon-kyo. (支) Wu-yan-wen-ching. ㉙ 一巻 ㉚ 缺 ㉛ 東晉代唐無量壽 ㉜ (參考) 開元錄第一四、貞元錄第二四 ㉝ 五更讚念佛 ㉞ (日) Go-ko-san-nem-jutsu. (支) Wu-ke-ang-tsan-nien-fu. ㉟ 一巻 ㊱ 缺 ㊲ (參考) 傳教大師請來越洲錄 ㊳ 五講式 ㊴ (日) Go-ko-shiki. ㊵ 四巻 ㊶ (參考) 淨土真宗教典志第二 ㊷ 五合記 ㊸ (日) Go-gō-ki. ㊹ 一巻 ㊺ 存 ㊻ 龍護(文化六一慶應三 A.D. 1809-1867) 述 ㊼ 弘化二寫 ㊽ (谷大、餘大・三九

〇八) ① 五教 ② (日) Go-kyō. ③ 一巻 ④ 存 ⑤ 德川時代寫 ⑥ (實錄院) ⑦ 五教世經 ⑧ (日) Go-kyō-se-kyō. (支) Wu-kyō-shih-ching. ⑨ 一巻 ⑩ 缺 ⑪ 失譯 ⑫ (參考) 出三藏記第四、武周錄第一二、開元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五 ⑬ 五根本記 ⑭ (日) Go-kon-pōn-ki. ⑮ 一巻 ⑯ 缺 ⑰ 圓珍(弘仁五一寛平三 A.D. 814-891) 説寛平四、年十八叙) ⑱ (參考) 山家祖徳撰述篇目集卷上 ⑲ 五言詠頌本起 ⑳ (日) Go-gon-ji-hon-gi. (支) Wu-yan-yung-sung-pān-chi. ㉑ 一巻 ㉒ 缺 ㉓ 後漢代失譯 ㉔ (參考) 出三藏記第四、三寶記第四、內典錄第一、武周錄第一、開元錄第一、第一五、貞元錄第二、第二五 ㉕ 五歳曼荼羅圖 ㉖ (日) Go-sai-man-da-ra-ni. ㉗ 一帖 ㉘ 存 ㉙ 德川時代寫 ㉚ (實善提院) ㉛ 五三御書 ㉜ (日) Go-san-go-sho. ㉝ 一巻 ㉞ 存 ㉟ 日宣記 ㊱ 寫本(立大、D〇・二九八) ㊲ 五三寶院 ㊳ (日) Go-san-bō-in. ㊴ 二冊 ㊵ 存 ㊶ (實善提院) ㊷ 五山記 ㊸ (日) Go-san-ki. 鎌倉五山記 ㊹ 一巻 ㊺ 存、續群書類從第二七、史籍集覽第二六 ㊻ 寫本(帝國、一一・二七) (帝國、八五・六四) ㊼ 五山記考異 ㊽ (日) Go-san-ki-hō-i. 鎌倉五山記考異 ㊾ 一巻 ㊿ 存、史籍集覽

第二六 ① 五山志林 ② (日) Go-san-shirin. ③ 八巻 ④ 存 ⑤ 羅天尺撰 ⑥ 寫本(京大、藏・10 n. 1) ⑦ 五山詩傳 ⑧ (日) Go-san-shi-den. ⑨ 一巻 ⑩ 存 ⑪ 上村觀光(一昭和元 A.D. 1926) 編 ⑫ 明治四五刊 ⑬ (谷大、餘洋・三三三) (高大・一一一) (正大・一七一・三) (帝國、七一・九八) ⑭ 東京民友社 ⑮ 五山十刹法度 ⑯ (日) Go-san-jiu-satsu-hatto. ⑰ 一巻 ⑱ 存 ⑲ (參考) 禪籍目録 ⑳ 五山諸塔頭緣起 ㉑ (日) Go-san-sho-tō-tō-en-gi. ㉒ 四巻 ㉓ 存 ㉔ 寫本(龍大、研史) ㉕ 五山世代記 ㉖ (日) Go-san-se-dai-ki. ㉗ 一巻 ㉘ 存 ㉙ (參考) 禪籍目録 ㉚ 五山傳 ㉛ (日) Go-san-den. ㉜ 一巻 ㉝ 存、史籍集覽第二六 ㉞ 京五山の中の南禪、天龍、相國、東福の住持次第を叙し、次に京五山、鎌倉五山、尼寺五山、天然五山、震旦五山、震旦十刹の列名を掲げたもので、史籍集覽所收本は五岳前住持之奥書云技書原在達仁塔頭兩足院延寶己未之歲就木願老而其手體其藏本起筆於庚申之日終功於暮春之中旬今復綴數語于卷尾述書寫之始末以俟他日之增訂云爾。時正徳二年壬辰二月初七日梅軒 ㉟ といふ奥書あるものに依つたもので、延寶七年より翌八年正月七日に及ぶ兩足院の書寫本に正徳二年二月七日(A.D. 1712) 増

名所行覽 (名庫書) 諸家所現 (月年の刊寫) (書考參書釋註) 書本 (説解管内) 代年作者 (著書) 缺存 (數巻) (名書) 名題 (號略字數)

【一】

sharon. 校訂五事毘婆沙論 ②二卷 ③
 存 ④刊本(高大、寄・一・二四)
五事毘婆沙論引微 ①(B) Go-j-i-bi-ba-sharon-in-cho. ①1卷 ②存 ③
 寫本(谷大、餘大・二・三九八)
五事毘婆沙論引文考 ①(B) Go-j-i-bi-ba-sharon-im-mon-ko. ①1卷 ②存 ③寫本(谷大、餘大・三九五〇)
五事毘婆沙論記 ①(B) Go-j-i-ba-sharon-ki. ②四卷 ③存 ④寫本(龍大・二四三二・一・一六)(谷大、餘大・三二九九)
五事毘婆沙論魚釋 ①(B) Go-j-i-bi-ba-sharon-ryo-shaku. ②1卷 ③存 ④桂澤(文化二二A. D. 1915-) ⑤寫本(龍大・二四三二・一・一七)
五事毘婆沙論講義 ①Go-j-i-ba-sharon-ko-gi. ①1卷 ②存 ③寫本(谷大、餘大・五)
五事毘婆沙論開記 ①(B) Go-j-i-bi-ba-sharon-mon-ki. ②五卷 ③存 ④法海(明和五一天保五A. D. 1768-1834) ⑤天保四寫 ⑥(谷大、餘大・四四〇九)
五事論記 ①(B) Go-j-i-ron-ki. ②四卷 ③存 ④寫本(龍大)
五時口決 ①(B) Go-j-i-ku-ketsu. 山家五時口決 ②缺 ③皇覺(一大治頃A. D. 1126-1130) ④(參考) 山家祖德撰述篇目集卷下
五時七候練氣法 ①(B) Go-j-i-shi-chi-ko-ren-ki-hu. ②1卷 ③(參考) 書寫請來法門等目錄

五時圖 ①(B) Go-j-i-zu. ①1卷 ②存 ③日蓮宗々學全書上聖部之内 ④日像(文永六—康永元A. D. 1269-1342) ⑤高麗三(A. D. 1328)
 ⑥京都妙顯寺の開創者日像の作。釋尊一代五時の説法(經)を各宗に配當して依經を示したもので、次の如し。
 一、華嚴經 俱舍宗 成實宗 律宗
 二、阿含經 觀 雙卷經 淨土宗 阿彌陀經 初伽藍經 深密經 法相宗 大日經 眞言宗 金剛頂經 蘇悉地經 十二門論 般若經 中論 三論宗 已上四十二年也
五時八教圖 ①(B) Go-j-i-hak-kyo-gu. ①1卷 ②存 ③普寂(寶永四—天明元A. D. 1707-1781) ④寫本(正大・三二・一一一)
五時八相記 ①(B) Go-j-i-hase-ko-ki. ①1卷 ②存 ③佛立宗 法華宗 天台宗 (馬田行啓)

①1卷 ②存 ③寫本(龍大・二六五二・一五七)
五時名目見聞 ①(B) Go-j-i-myō-moku-ken-mon. 山家五時名目見聞 ②三卷 ③定珍(一天正八A. D. 1580-) ④(參考) 山家祖德撰述篇目集卷下
五時文殊菩薩念誦次第 ①(B) Go-j-i-mon-jū-satsu-nen-jū-shi-dai. 五時文殊念誦次第 ②1帖 ③存 ④德川時代寫 ⑤(寶藏院)
五色糸 ①(B) Go-shiki-ito. ②1卷 ③建長四A. D. 1184-1232 ④(元暦元年七五亥) ⑤(參考) 諸宗章疏錄第三
五色阿字 ①(B) Go-shiki-a-ji. ②1卷 ③存 ④性善(延寶四—寶曆三A. D. 1676-1763) ⑤延享元寫 ⑥(龍大、研)
五色絲 ①(B) Go-shiki-ito. ②1卷 ③存 ④大日本佛教全書第四〇阿婆羅抄之内 ⑤承慶(元久二—弘安五A. D. 1206-1282) ⑥足利初期寫 ⑦(高大、寄・一・六五)
五色糸加持作法 ①(B) Go-shiki-ito-ka-jishi-saku. ②1帖 ③存 ④寫本(寶善提院)
五色糸經抄 ①(B) Go-shiki-ito-kyo-sho. ②1帖 ③存 ④德川時代寫 ⑤(寶善提院)
五色糸作法 ①(B) Go-shiki-ito-sa-ho. ②1帖或1帖 ③存 ④南北朝・足利時代寫(寶藏院) ⑤(寶善提院)
五色糸事 ①(B) Go-shiki-ito-no-koto. ②1帖 ③存 ④元應二寫 ⑤(高

大寄・一・六五)
五色糸圖 ①(B) Go-shiki-ito-no-zu. ②1帖 ③存 ④寫本(金剛三昧院)
五色糸引據 ①(B) Go-shiki-ito-hi-yō. ②1帖 ③存 ④德川時代寫 ⑤(寶善提院)
五色糸縫故實 ①(B) Go-shiki-ito-yori-ko-jitsu. ②1帖 ③存 ④德川時代寫 ⑤(寶藏院)
五色糸縫次第 ①(B) Go-shiki-ito-yori-shi-dai. ②1帖 ③存 ④足利時代寫 ⑤(寶藏院)
五色絲縫等口訣類 ①(B) Go-shi-ki-ito-yori-ko-jitsu-ku. ②1卷 ③存 ④寫本(寶藏院)
五色修多羅抄 ①(B) Go-shiki-shu-tarasho. ②1帖 ③存 ④足利中期寫 ⑤(金剛三昧院) ⑥(寶善提院)
五失蓋經 ①(B) Go-shitsu-gai-kyō. (支) Wu-shih-kai-ching. ②1卷 ③缺 ④失譯 ⑤(參考) 出三藏記第三、法苑珠林第三、仁壽錄第五、新唐書第五、開元錄第四、第一五、貞元錄第六、第二五
五邪經 ①(B) Go-ja-kyō. (支) Wu-hsieh-ching. ②1卷 ③缺 ④失譯 ⑤(參考) 武周錄第一二、開元錄第一五、貞元錄第八、第二五
五種供養義 ①(B) Go-shu-ku-yō-gi. ②1卷 ③空海(寶龜五—承和二A. D. 774-833) ④(參考) 諸宗章疏錄第三
五種勸化 ①(B) Go-shu-kwan-ge. ②1卷 ③存 ④説林坤冊 ⑤寫本(谷大、宗

名所行役 (名庫書) 藏所現 (月年の刊寫) (書考參書釋註) 書本 (説解管内) 代年作者 (著書) 缺存 (數巻) (右書) 名題 (號略) 字數

【二】

大・二六二〇)
五種軍荼 ①(B) Go-shu-gun-da. 五種護摩軍荼利 ①1卷 ②存 ③仁海(天曆五—水承元A. D. 951-1046) ④寫本(京大・日大・三三六)
五種護摩軍荼利 ①(B) Go-shu-ko-shu-gun-da-ri. 五種軍荼 ②1卷 ③存 ④仁海(天曆五—水承元A. D. 951-1046) ④寫本(京大・日大・三三六)
五種護摩私記 ①(B) Go-shu-go-ma-shi-ki. ②1帖 ③存 ④宗命(元永二—永安元A. D. 1119-1171) ⑤鎌倉時代寫 ⑥(寶藏院)
五種護摩抄 ①(B) Go-shu-go-ma-sho. ②(參考) 本朝古風撰述書部書目
五種護摩壇圖 ①(B) Go-shu-go-ma-dan-zu. ②1帖 ③存 ④水徳元寫 ⑤(寶善提院)
五種護摩要記 ①(B) Go-shu-go-ma-yō-ki. ②三卷 ③存 ④淨嚴(寶永一六—元禄一五A. D. 1639-1702) ⑤(參考) 眞言宗全書刊行決定目錄
五種三昧耶三種灌頂圖 ①(B) Go-shu-sam-ma-ya-san-ma-ya-san-shu-kwan-jō-zu. ①説建長四、年七五亥) ②(參考) 諸宗章疏錄第三
五種三昧耶事 ①(B) Go-shu-sam-ma-ya-no-koto. 五種三昧耶事 ②1帖 ③存 ④寫本(金剛三昧院)
五種三昧道事 ①(B) Go-shu-sam-ma-ya-no-koto. 五種三昧耶事 ②1帖 ③存 ④寫本(金剛三昧院)

①應永三三寫 ②(金剛三昧院)
五種師經 ①(B) Go-shu-shi-kyō. 現代意譯五種師經 ②1卷 ③存 ④現代意譯根本佛教聖典叢書第四增一阿含抄 ⑤赤沼智善譯
五種衆生義 ①(B) Go-shu-shū-jō-gi. ②1卷 ③缺 ④(參考) 奈良朝現在一切經疏目錄2737
五種正行開書 ①(B) Go-shu-shō-kyō-kiki-gaki. ②1卷 ③存 ④傳(蓮如(應永二二—明應八A. D. 1415-1499) ⑤(龍大・一一三・一一一) ⑥(研眞)
五種正行開書 ①(B) Go-shu-shō-kyō-kiki-gaki. ②1卷 ③存 ④(參考) 淨土真宗教典本第11
五種正行聽錄 ①(B) Go-shu-shō-kyō-chō-roku. ③存 ④當普(—安政五A. D. 1838) ⑤寫本(龍大・一〇五二・一一七)
五種正行廢立助正傍正之圖 ①(B) Go-shu-shō-kyō-hai-ryō-jō-shō-bō-shō-no-zu. ②1卷 ③存 ④寫本(正大・一五二・一一六)
五種性義 ①(B) Go-shu-shō-gi. ②1卷 ③存 ④(參考) 東城傳燈目錄 ⑤(參考) 諸宗章疏錄第二
五種水羅經 ①(B) Go-shu-sui-ra-kyō. (支) Wu-chung-shui-kyō-chūg. ②1卷 ③根本説一切有部毘奈耶雜事第五卷の抄出 ④(參考) 開元錄第一六、第一七、貞元錄第二六
五種德經 ①(B) Go-shu-tok-kyō. ①1卷 ②存 ③寫本(龍大・二六五二・一五七)

(支) Wu-chung-tai-ching. 五種經 ②1卷 ③缺 ④西晉代失譯 ⑤(參考) 貞元錄第二四
五種法師解說法則 ①(B) Go-shu-hō-shi-ge-saku-hō-so-ku. ②1卷或二卷 ③存 ④日蓮(寛政二二—安政六A. D. 1800-1850) ⑤津川日清校正 ⑥明治一五刊 ⑦(立大・A. O. 四・三・八三)(京大・日大未・五四)(帝國・一四一・一七三)
五種鈴立標之圖 ①(B) Go-shu-rei-rin-tsu-ben-gu. ②1卷 ③存 ④德川時代寫 ⑤(寶藏院)
五種生死輪 ①(B) Go-shu-shū-jō-rin. ②1卷 ③存 ④刊本(龍大、別號)
五種生死輪轉經 ①(B) Go-shu-shū-jō-rin-ten-kyō. (支) Wu-chu-sheng-ast-tan-chuan-ching. ②1卷 ③根本説一切有部毘奈耶第三十四卷の抄出 ④(參考) 開元錄第一六、第一七、貞元錄第二六
五種生死輪辨義 ①(B) Go-shu-shū-jō-rin-ten-kyō. ②1卷 ③存 ④小山虛榮(—明治三六A. D. 1903) ⑤明治二四刊 ⑥(龍大・二〇九九・六二二)
五種六道義 ①(B) Go-shu-ritsu-dō-gi. ②1卷 ③存 ④眞宗全書第六二 ⑤(參考) 眞宗全書第六二 ⑥(參考) 眞宗全書第六二 ⑦(參考) 眞宗全書第六二 ⑧(參考) 眞宗全書第六二 ⑨(參考) 眞宗全書第六二 ⑩(參考) 眞宗全書第六二 ⑪(參考) 眞宗全書第六二 ⑫(參考) 眞宗全書第六二 ⑬(參考) 眞宗全書第六二 ⑭(參考) 眞宗全書第六二 ⑮(參考) 眞宗全書第六二 ⑯(參考) 眞宗全書第六二 ⑰(參考) 眞宗全書第六二 ⑱(參考) 眞宗全書第六二 ⑲(參考) 眞宗全書第六二 ⑳(參考) 眞宗全書第六二 ㉑(參考) 眞宗全書第六二 ㉒(參考) 眞宗全書第六二 ㉓(參考) 眞宗全書第六二 ㉔(參考) 眞宗全書第六二 ㉕(參考) 眞宗全書第六二 ㉖(參考) 眞宗全書第六二 ㉗(參考) 眞宗全書第六二 ㉘(參考) 眞宗全書第六二 ㉙(參考) 眞宗全書第六二 ㉚(參考) 眞宗全書第六二 ㉛(參考) 眞宗全書第六二 ㉜(參考) 眞宗全書第六二 ㉝(參考) 眞宗全書第六二 ㉞(參考) 眞宗全書第六二 ㉟(參考) 眞宗全書第六二 ㊱(參考) 眞宗全書第六二 ㊲(參考) 眞宗全書第六二 ㊳(參考) 眞宗全書第六二 ㊴(參考) 眞宗全書第六二 ㊵(參考) 眞宗全書第六二 ㊶(參考) 眞宗全書第六二 ㊷(參考) 眞宗全書第六二 ㊸(參考) 眞宗全書第六二 ㊹(參考) 眞宗全書第六二 ㊺(參考) 眞宗全書第六二 ㊻(參考) 眞宗全書第六二 ㊼(參考) 眞宗全書第六二 ㊽(參考) 眞宗全書第六二 ㊾(參考) 眞宗全書第六二 ㊿(參考) 眞宗全書第六二

五珠五十萬遍作法 ①(B) Go-ju-man-ben-saku-ho. ②1卷 ③存 ④寫本(京大・日大・三六七)
五珠五十萬遍法則同功德文事 ①(B) Go-ju-man-ben-hō-oku-on-njika-ku-doku-mon-no-koto. ②1卷 ③存 ④五珠五十萬遍作法之内 ⑤寫本(京大・日大・三六七)
五宗教 ①(B) Go-shū-kyō. (支) Wu-pan-ching. ②1卷 ③清代漢古弘忍譯 ④(參考) 譯語目錄
五宗原 ①(B) Go-shū-gen. (支) Wu-pan-ching. ②1卷 ③存 ④(参考) 眞宗全書第六二 ⑤(参考) 眞宗全書第六二 ⑥(参考) 眞宗全書第六二 ⑦(参考) 眞宗全書第六二 ⑧(参考) 眞宗全書第六二 ⑨(参考) 眞宗全書第六二 ⑩(参考) 眞宗全書第六二 ⑪(参考) 眞宗全書第六二 ⑫(参考) 眞宗全書第六二 ⑬(参考) 眞宗全書第六二 ⑭(参考) 眞宗全書第六二 ⑮(参考) 眞宗全書第六二 ⑯(参考) 眞宗全書第六二 ⑰(参考) 眞宗全書第六二 ⑱(参考) 眞宗全書第六二 ⑲(参考) 眞宗全書第六二 ⑳(参考) 眞宗全書第六二 ㉑(参考) 眞宗全書第六二 ㉒(参考) 眞宗全書第六二 ㉓(参考) 眞宗全書第六二 ㉔(参考) 眞宗全書第六二 ㉕(参考) 眞宗全書第六二 ㉖(参考) 眞宗全書第六二 ㉗(参考) 眞宗全書第六二 ㉘(参考) 眞宗全書第六二 ㉙(参考) 眞宗全書第六二 ㉚(参考) 眞宗全書第六二 ㉛(参考) 眞宗全書第六二 ㉜(参考) 眞宗全書第六二 ㉝(参考) 眞宗全書第六二 ㉞(参考) 眞宗全書第六二 ㉟(参考) 眞宗全書第六二 ㊱(参考) 眞宗全書第六二 ㊲(参考) 眞宗全書第六二 ㊳(参考) 眞宗全書第六二 ㊴(参考) 眞宗全書第六二 ㊵(参考) 眞宗全書第六二 ㊶(参考) 眞宗全書第六二 ㊷(参考) 眞宗全書第六二 ㊸(参考) 眞宗全書第六二 ㊹(参考) 眞宗全書第六二 ㊺(参考) 眞宗全書第六二 ㊻(参考) 眞宗全書第六二 ㊼(参考) 眞宗全書第六二 ㊽(参考) 眞宗全書第六二 ㊾(参考) 眞宗全書第六二 ㊿(参考) 眞宗全書第六二
五宗原附濟宗頌語 ①(B) Go-shū-ten-kyō. ②1卷 ③存 ④(参考) 眞宗全書第六二 ⑤(参考) 眞宗全書第六二 ⑥(参考) 眞宗全書第六二 ⑦(参考) 眞宗全書第六二 ⑧(参考) 眞宗全書第六二 ⑨(参考) 眞宗全書第六二 ⑩(参考) 眞宗全書第六二 ⑪(参考) 眞宗全書第六二 ⑫(参考) 眞宗全書第六二 ⑬(参考) 眞宗全書第六二 ⑭(参考) 眞宗全書第六二 ⑮(参考) 眞宗全書第六二 ⑯(参考) 眞宗全書第六二 ⑰(参考) 眞宗全書第六二 ⑱(参考) 眞宗全書第六二 ⑲(参考) 眞宗全書第六二 ⑳(参考) 眞宗全書第六二 ㉑(参考) 眞宗全書第六二 ㉒(参考) 眞宗全書第六二 ㉓(参考) 眞宗全書第六二 ㉔(参考) 眞宗全書第六二 ㉕(参考) 眞宗全書第六二 ㉖(参考) 眞宗全書第六二 ㉗(参考) 眞宗全書第六二 ㉘(参考) 眞宗全書第六二 ㉙(参考) 眞宗全書第六二 ㉚(参考) 眞宗全書第六二 ㉛(参考) 眞宗全書第六二 ㉜(参考) 眞宗全書第六二 ㉝(参考) 眞宗全書第六二 ㉞(参考) 眞宗全書第六二 ㉟(参考) 眞宗全書第六二 ㊱(参考) 眞宗全書第六二 ㊲(参考) 眞宗全書第六二 ㊳(参考) 眞宗全書第六二 ㊴(参考) 眞宗全書第六二 ㊵(参考) 眞宗全書第六二 ㊶(参考) 眞宗全書第六二 ㊷(参考) 眞宗全書第六二 ㊸(参考) 眞宗全書第六二 ㊹(参考) 眞宗全書第六二 ㊺(参考) 眞宗全書第六二 ㊻(参考) 眞宗全書第六二 ㊼(参考) 眞宗全書第六二 ㊽(参考) 眞宗全書第六二 ㊾(参考) 眞宗全書第六二 ㊿(参考) 眞宗全書第六二
 ①密雲圓悟禪師の法嗣である蘇州鄧尉山の漢月法藏禪師が、明天啓五年(A. D. 1623) 聖恩寺萬壽閣に結夏安居中、徹夜證悟と云ふ四上座の請ひに應じて、單に釋迦拈華の一事のみを單傳し、五家の宗旨の分出する所以を知らずして、是れを抹殺せんとするの徒、並に大慧宗杲禪師の打破せる室中書授の死法を珍重する曹洞の人人の謬案を解くため、五宗の本原本旨とする所を著したもので、明崇禎元年春日(A. D. 1536) 自序し、同年四月八日、參學の弟子嚴栴(法名上展) 捐資して此の五宗原並に濟宗頌語を上梓する旨の識語を附して刊行したものである。其の高次は、臨濟宗、兩派合宗其來有據(揚岐黃龍兩派)、雲門宗、臨仰宗、法眼宗、曹洞宗、總結、傳衣法註とである。

名所行役 (名庫書) 藏所現 (月年の刊寫) (書考參書釋註) 書本 (説解管内) 代年作者 (著書) 缺存 (數巻) (右書) 名題 (號略) 字數

【コ】

其の所説を、崇禎三年に本師たる密雲圓悟に呈示せしに、圓悟は漢月を知見に墮したる外道野狐精なりと痛罵して九圓、三圓を著した。然るに漢月の法嗣淳吉弘忍は五宗教を著してこれを駁し、密雲再び闕妄救略説を著して反駁した問題を起した所の著述である。附録の清宗頌語は、笑巖和尚の法嗣廣通が笑巖の笑巖集四巻に序して、曹溪の下、旁岐縱横肆出すとて臨濟宗を誹ひたるを駁し、公案を擧げて頌語し、臨濟宗を讀したものである。(大久保堅瑞)

五宗綱要 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五宗綱要記 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五宗綱要私記 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五宗大意 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五宗要文 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五十音圖 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五十音圖 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五十音圖 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五十音圖 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五十音圖 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

に學習する所のものである。作者につき古來三説ある。一説には百済の尼法明が對馬に來て此の圖を作ると云ふ。此の説は何等の證據もなく、古來殆んど用ひる人がない。一説には天平勝寶年中に吉備眞備これを作り、弘法大師於闍の二音を補ふと云ふ。明鏡の倭片假字反切義解に此の説を出し、伴信友の假字本末等この説を依用してゐる。しかし、これには疑難がある。凡そ五十音圖は梵語悉曇から來たもので、悉曇學の重要な者の作でないことは明かである。然るに吉備公は支那に入つて音韻を習つたが、悉曇は學んでゐない。又弘法大師が於闍の二音を補つたと云ふことは全く臆説である。一説には弘法大師作と云ふ。これ亦確證はない。しかし、此の説には道理がある。凡そ五十音圖はアイウエオの五音にカサタナハマヤラワの九音に配してキンチ等の三十六音を作りて、五十音としたものである。然るにアイウエオの五音は全く悉曇の摩多からとり、九音は同じく體文からとつたものである。此の十四音を一切の音聲の根本とすることは涅槃經字母品の説に基くのである。十四音のことは明了房信範がその著悉曇私抄に評論し、高野山の長覺は悉曇決擇抄に此の義を成立し、宥快は悉曇考要抄にこれを義として擧げ、曇寂は悉曇字記對推にこれを義として引用してゐる。悉曇は奈良朝に婆羅門僧正や佛首が大安寺に於いて教授したらしいが、未だ世に行はれず、弘法大師入唐してこれを傳へ、請來錄にのせて朝廷に獻じ給

うてから、世人が始めて悉曇章のあることを知つたのである。されば此の圖の作者を弘法大師とすることは妥當である。大師以後の人が此の圖を作つたと云ふ形迹は全然ない。野山名靈集には大師眞蹟本が高野山に秘藏されてゐると書き、契沖の倭字正流鈔にも大師の作ならむと云つてゐる。

五十音圖 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五十音圖 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五十音圖 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五十音圖 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五十音圖 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五十音圖 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五十音圖 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五十音圖 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五十音圖 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五十卷抄 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

諸尊法に關する書で、卷數に因みて五十卷抄と名けたのである。經軌鈔物を廣く渉獵し、主として勸修寺流承の口傳を記してゐる。著者晩年の作である。彼の有名な覺神鈔も本書に負ふ所が少くない。覺神は與神に就いて受法してゐる。本書は流布頗る稀である。今高野山寶壽院本によつて内容を録せしむる如くである。第一佛部に「サヤヤ(金剛果)、打者(打者)部(胎藏法)・金輪(藥師)上下・阿彌陀(上下)・

釋迦・準提の七卷九卷。第二經部に孔雀經法・法華經法(上下)の二法三卷。第三菩薩部に金剛薩埵・普賢延命・虚空藏・文殊・六字文殊・彌勒(上下)除蓋障・地藏・金剛藏の九卷十卷。第四觀音部に聖觀音・千手(上下)・馬頭・十一面・多羅・如意輪・不空罽索・毘俱胝の八卷九卷。第五明王部に不動(上下)・降三世・大威德・軍荼利・金剛藥叉の五卷六卷。第六諸天部に北辰・四天王・十二天・聖天・諸龍王の五卷五卷。第七雜部に印眞菩薩・六種供養並餘供養・香藥鈔・諸道具・諸阿闍梨傳記並餘義・雜上(佛法始傳漢土事等)・雜中(一生補處菩薩事等)・雜下(四姓事・印靈等)各一卷の八卷。都計五十卷。寶壽院本は彌勒法の下卷を佚してゐる。

五十五善知識講式 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五十五善知識講式 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五十五善知識講式 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五十五善知識講式 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五十五善知識講式 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五十五善知識講式 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五十五善知識講式 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五十五善知識講式 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五十五善知識講式 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

【コ】

butsu-myō-gyō (SK) W-u-shih-san-fu-ming-ching. ① 卷 ② 失譯 ③ (參考) 出三藏記第四、三寶紀第四、第七、內典錄第一、第三、武周錄第一、

れば解せられないこともあるまいが、然し平等一如とは如何なる義なりやとの須菩提の問に對して、佛の答は六度十八空四念處四正斷乃至十八不共法、及び聲聞の因果緣覺果並に菩薩の一切道智を列擧して居たのみであるから、正面からも裏面からも、空の義を説かれたものとは思へないのである。(山上曹源)

五十通 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五十通 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五十通 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五十通 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五十通 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五十通 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五重圓頓戒講釋 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

天台化法の四教たる藏通別圓の圓教に就き、本化別圓の教觀の立場に於て、圓の圓を立てることを口傳とする旨を説き、當家の圓は觀心の上に元意を立てたもので、其は上行所傳の妙法本門自行の要法である。即ち本門の觀心の圓は事の一念三千の圓で、本門の元意の圓は事行の南無妙法蓮華經である。故に當家の圓宗は天台圓宗等とは全く異なつて事行の妙法蓮華經宗である故を本經圓列によつて明かしたもので、頗る簡にして要を得た秘説である。(馬田行啓)

五重儀勸考 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五重儀勸考 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五重儀勸考 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五重儀勸考 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五重儀勸考 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五重儀勸考 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五重儀勸考 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五重儀勸考 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五重儀勸考 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

五重儀勸考 ①(日)Go-shō-kyō-shū ②(日)Go-shō-kyō-shū ③(日)Go-shō-kyō-shū ④(日)Go-shō-kyō-shū ⑤(日)Go-shō-kyō-shū

【コ】

①此の傳書は、増上寺第二世譽西仰が五重傳書に就いて、師の西譽聖聰(増上寺開山)より聞きたる重なる口傳の筆記であつて、西仰二十三歳の時即ち永享十二年六月一校を加へて書き記したのがこれである。此の書には別ち初重性生記、二重授手印、三重領解鈔、四重決答疑問鈔に於ける重なる宗義口訣を載せて居るのである。同じく西仰の手に成れる五重口傳鈔と併せて見るべき必要の口傳書である。(林彦明)

五重教相抄 ①(日)Go-jō-kyō-shō-shū. ②二卷 ③晴蓮作 ④(参考)本朝合撰撰述書目

五重九箇條 ①(日)Go-jū-kūkajō. ②一巻 ③存 ④寫本(正大、一五五二・一五六)(龍大、研真)

五重九條大事 ①(日)Go-jū-kūkajō-daishū. ②一巻 ③存 ④風航了吟(享和)A. D. 1803)述 ⑤寫本(正大、一五五二・一〇一)

五重口決 ①(日)Go-jū-kū-ketsu. ②一巻 ③存 ④重譽在禪(元文四)一文政三A. D. 1739—1830)述 ⑤寫本(正大、一五五二・一〇一)

五重口決 ①(日)Go-jū-kū-ketsu. ②一巻 ③存 ④隆圓(文政頃A. D. 1818—1839)述 ⑤天保五寫 ⑥(谷大、宗大、一〇八四)

五重口訣 ①(日)Go-jū-kū-ketsu. ②一巻 ③存 ④白隱(明暦二)享保一五A. D. 1556—1730)述 ⑤刊本(正大、一五五二・一〇一)

五重口訣 ①(日)Go-jū-kū-ketsu. ②一巻 ③存 ④統譽圓宜(享保三)寛政四A. D. 1718—1792)述 ⑤寫本(正大、一五五二・一〇六)

五重口訣 ①(日)Go-jū-kū-ketsu. ②一巻 ③存 ④貞嚴(文政一〇)A. D. 1827)述 ⑤寫本(正大、一五五二・一〇四—一〇五)

五重口訣自門勸策 ①(日)Go-jū-kū-ketsu-jimon-kansaku. ②一巻 ③存 ④義譽親徹(明暦三)享保一六A. D. 1657—1731)述 ⑤寫本(正大、一五五二・九四)

五重口訣並眞傳傳話 ①(日)Go-jū-kū-ketsu-narabih-shin-katsuden. ②二巻 ③存 ④寫本(正大、一五五二・一一一)

五重口傳指南 ①(日)Go-jū-kū-den-shinan. ②一巻 ③存 ④貞詮述 ⑤寫本(龍大、研真)

五重口傳抄 ①(日)Go-jū-kū-den-shō. ②一巻 ③存 ④傳燈料要卷上 ⑤譽西仰(應永二)五—長祿三A. D. 1418—1459)述 ⑥文安四(A. D. 1447)述 ⑦此は五重傳書と同じく、譽西仰の著で、彼れ三十歳の時(文安四年五月)の作である。此の書も西仰が師西譽より聞きたる口傳に基いて、五重全部に通じての重なる口傳と私考とを記したもので、五重傳書に改めたる部分を追補したものと云ふべきである。聞書には五重に於ては何も記して居ないが此の書には口傳の條項を擧げて在る。

①傳譽筆本及寫本(正大、一五五二・八七一—八八) (林彦明)

五重決 ①(日)Go-jū-ketsu. ②譽西仰(應永二)五—長祿三A. D. 1418—1459)撰 ③(参考)淨土正依經論書目録

五重決五重抄 ①(日)Go-jū-ketsu-go-shō. ②一巻 ③存 ④譽西仰(應永二)五—長祿三A. D. 1418—1459)述 ⑤(参考)淨土正依經論書目録

五重結護 ①(日)Go-jū-ketsu-go. ②一巻 ③存 ④刊本(正大、一四三一・二六四)(高木、寄一・五七)(京本)足利時代寫(寶善提院)徳川時代寫(寶善提院)(寶善提院)

五重結護顯秘鈔 ①(日)Go-jū-ketsu-gōshō-hiden. ②五重結護鈔 ③一巻 ④存 ⑤顯秘(嘉祿二)嘉元二A. D. 1226—1304)述 ⑥安永四刊 ⑦(正大、一四八・一五六)

五重結護鈔 ①(日)Go-jū-ketsu-gōshō. ②五重結護顯秘鈔 ③一巻 ④存 ⑤顯秘(嘉祿二)嘉元二A. D. 1226—1304)述 ⑥(参考)諸宗章疏録第三

五重玄義因果論 ①(日)Go-jū-gen-igai-ron. ②一巻 ③存 ④明治三九刊 ⑤(龍大、研真)

五重玄義最秘釋 ①(日)Go-jū-gen-saishū. ②一巻 ③存 ④圓仁(延暦一三)貞觀六A. D. 791—864)撰 ⑤(参考)山家祖徳撰諸日集卷上、本朝台祖撰諸書目

五重玄義抄 ①(日)Go-jū-gen-shō. ②一巻 ③存 ④日辰述 ⑤大正四寫 ⑥(立大、D・〇一六七)

五重綱要義 ①(日)Go-jū-gōyō-gi. ②五重傳法綱要義 ③一巻 ④存 ⑤成譽大玄(延寶八)寶曆六A. D. 1580—1756)述 ⑥寶曆五(A. D. 1755)

①淨土宗の五重傳法に異論を唱へたるは寶曆年間増上寺の一代となつた成譽大玄である。彼れの云ふに依れば五十餘年間斯道の爲に盡瘁すと。彼れと時を同じうして此事に當りたるは四休庵貞極であるが、其唱ふる所稱も趣を異にするも簡條傳法を嫌ひ、第五重十念傳を批議する所は相ひ似たるものあり。大玄は上野の人、少にして黒羽長松院俊能に就て出家し、後顯譽祐天に師事し五重傳法、宗脈を相承す、寶曆三年増上寺の主となり大僧正に任じ、六年八月四日寂、壽八十。彼れの生涯最も力を用ひたるは五重傳法の改革、圓頓戒授受の刷新、布薩戒の見事に告げられたるものは五重傳法の改革一巻である。

五重傳法綱要義は四十七章より成る。その重なる點は五重と簡條傳法との輕重、圓(源譽)の正傳、十念に就ての注意等である。而して大玄は初重性生記については眞偽を明言せず、性生記は圓當當時在の書なる故に重んぜられたのであると爲す。十念に就ては其の根據に依憑の書を掲げ、其の評論は自著十念辨に譲つて居る。

大正三刊 ①寫本(正大、一五五二・九五) ②東京芝公園扶宗公論社 (林彦明)

五重三卷書 ①(日)Go-jū-sanpansho. ②一巻 ③存 ④寫本(龍大、二六八四・三)

名所行發(名庫書)名庫所現(月年の刊寫)(書考參書釋註)書本(說解書内)代年作者(著者)缺有(載有)(名書)名題(號)號字數

【コ】

①No. ②一巻 ③存 ④寫本(龍大、二六八四・三)

五重私記 ①(日)Go-jū-shi-ki. ②一巻 ③存 ④貞極(延寶五)寶曆六A. D. 1677—1756)撰 ⑤寫本(正大、一五五二・九九)

五重始末 ①(日)Go-jū-shimatsu. ②一巻 ③存 ④傳燈料要卷上 ⑤善悅(弘治元)A. D. 1553)述

①此の書は飯沼弘經寺第七世見譽善悅の作である。善悅は増上寺開山西譽より六代の法孫に當る。此の書の記すところは初重に於て三項、第二重に於て六項その中二重奥圖の口訣別十九箇條を記すは他の傳書に無きところ、又た第三重の書殘、第四重の云殘、第五重の書殘口傳についても略説を施して居るのは異彩の在るところである。(林彦明)

五重指南箇條 ①(日)Go-jū-shin-an-gō. ②一巻 ③存 ④輪超(一)延寶六A. D. 1678)撰 ⑤享保元寫 ⑥(谷大、宗大、二九〇九)

五重指南目録 ①(日)Go-jū-shin-an-moku-rokku. ②淨土宗安心相傳五重之内口傳指南 ③一巻 ④存 ⑤傳燈料要卷上 ⑥聖四(曆應四)應永二A. D. 1341—1430)撰

①此の書外題は五重指南目録と記し内題は淨土宗安心相傳五重之内口傳指南と爲す。これは日本淨土宗第八祖了譽聖四が、應永十一年九月弟子西譽聖聰に五重傳法を授くるについて作りたる傳法口傳の簡條書である。

その五重傳法なるものは聖四の作りたるものと謂ふべきもので、聖四以前に宗義口傳の相承はありたるも、五重と整頓しそれこゝでの口傳を定め血脈を作りたるは聖四である。

聖四は五重傳法を整へるについては、傳書を五通とし、その各に注釋を造る。

初重性生記 (法照作) 授機鈔 一
二重末代 (聖光作) 傳心鈔 一
三授機手印 (良忠作) 微心鈔 一
四重決答 (同) 銘心鈔 二
五重性生論 (善覺作) 註十念

此の性生記、授手印、領解鈔を束ねて三卷書と呼び、決答鈔二巻と授機鈔等の聖四作五巻とを束ねて七卷書又は七巻と稱し五重傳法の相傳書と爲す。此の三卷七書の各に口傳ありて五十五ヶ條と爲すのである。

初重四ヶ條及知殘
二重三十七ヶ條及知殘
三重一ヶ條及書殘
四重二ヶ條及書殘
五重六ヶ條及書殘

此の五十五ヶ條を記載されたのが五重指南目録である。

その初重四ヶ條とは(一)題號。(二)破戒念佛第二機。(三)愚鈍念佛第一機。(四)和語である。次に二重三十七ヶ條とは(一)傳法要偈。(二)初重二機法不離。(三)序正等一部始終一行三昧結歸。(四)宗義行相文段分別二ヶ立處。(五)一心專念文三重口傳。(六)五正行文三重視相。(七)一心專念

文五義引證。(八)五義引證一々細相。(九)九品三心は念佛の三心。(一〇)多寶少處下註若可性生口傳。(一一)三心五字習。(一二)淨土宗心行二字習。(一三)聖三心必可次第三心一心即三心。(一四)三心肝要第一深心習。(一五)三心中第三心爲體。(一六)三心五念合釋。(一七)奧圖總別大意。(一八)三心。(一九)五念。(二〇)四修。(二一)三種行儀。(二二)至誠心。(二三)深心。(二四)同向發願心。(二五)禮拜門。(二六)讚歎門。(二七)作願門。(二八)觀察門。(二九)回向門。(三〇)恭敬修。(三一)無餘修。(三二)無問修。(三三)長時修。(三四)尋常行儀。(三五)別時行儀。(三六)臨終行儀。(三七)左手印右手印以上が二重の三十七ヶ條口傳である。

次に三重に本末口傳の一ヶ條。四重には本末口傳と讚歎門稱名の二傳。五重には(一)別口傳。(二)總口傳。(三)傍人。(四)氣息。(五)凡入報土。(六)半金色の六ヶ條ありと爲す。而して初重に知殘、二重に云殘、三重に書殘、四重に云殘、五重に書殘の都合五ヶ條あり。此等全部を總べて五十五ヶ條の五重口傳と爲すのである。これが聖四の定めた所であつて之に因て五重傳法が創めて規定されたのである。故に此の指南目録が此の傳法の根本目録と謂はれる。(林彦明)

五重指南目録集 ①(日)Go-jū-shin-an-moku-rokku-shū. ②二巻或一巻 ③存 ④傳燈料要卷上 ⑤了譽(文明一五)A. D. 1493)編

①此の書内題の下に「先師西譽聖聰了譽於私記之、永享八丙辰八月十三日始之」とあるに依て、著者は慶譽了譽で、西譽聖聰の門下の一人であることは明である。此の書は師西譽康存の日に其の五重傳法について口訣、特に五重指南目録に就て、上巻には初重性生記に關する口訣、下巻には二重授手印に關する口傳を記したもので、同門譽西仰の著作に係る五重傳書、五重口傳鈔等と相並べて珍重すべき傳書と謂ふべきである。

寫本(正大、一五五二・八四) (林彦明)

五重拾遺抄 ①(日)Go-jū-shūishō. ②三巻 ③存 ④傳燈料要卷上 ⑤聖聰(貞治五)永享一A. D. 1365—1440)説永享一一或應永二四説)述

①此の書は五重傳書なる三卷七巻(五重指南目録の處に記す)についての釋義である。五重傳書に於ける口傳口訣を知るには最も必要な書物である。それは西譽聖聰(増上寺開山)が五重の作者なる師の聖四より相傳したる口訣を記したので其の價値の有ること知るべきである。

此の書は三巻であるが上巻に在ては初重の性生記とその末釋授機鈔、二重授手印と傳心鈔、三重領解鈔と微心鈔との各々本末につき主として五重指南目録の條項に遡うて要文の解釋を施し、中下二巻に在ては第四重決答疑問鈔と銘心鈔とについて要文の解釋を爲す。孰れも師説を述ぶるは勿論なるも往々聖聰自己の私案を加へて潤色せる傳書である。

名所行發(名庫書)名庫所現(月年の刊寫)(書考參書釋註)書本(說解書内)代年作者(著者)缺有(載有)(名書)名題(號)號字數

【一】

①〔参考〕 淨土正依經論書目録 ②水享
一一刊 ③龍大、二六八四・四〇〇高次、寄
一・一八(谷大、宗大・二二二)〔正大、一
五五二・八六〕 (林彦明)

五重精決 ①(日)Go-jō-shō-keisan
②一巻 ③存 ④折譽利天(寛文元・享保
二〇 A. D. 1661-1735)述 ⑤寫本(正大、
一五五二・一二七)

五重相傳記 ①(日)Go-jō-dō-den-
ji. ②一巻 ③存 ④寫本(龍大)

五重相傳切紙 ①(日)Go-jō-dō-den-
-kiri-kami. ②一巻 ③存 ④寫本(谷大、
宗大・二二二)

五重相傳書 ①(日)Go-jō-dō-den-
sho. ②一巻 ③存 ④寫本(谷大、宗大、
一三六七)

五重相傳の栞 ①(日)Go-jō-dō-den-
-no-shiori. ②一巻 ③存 ④窪川旭丈著
⑤大正一二刊 ⑥〔正大、一五五二・一二四〕
⑦東京増上寺

五重大意鈔 ①(日)Go-jō-dō-itai-yōsha
②一巻 ③存 ④異義集(了詳稿本)第五
⑤蓮如(應永二二一明應八 A. D. 1415-1499)
撰

⑥御文(三ノ一)に出づる五重の義につき
其の大意を釋せしむるに、「淨土の法門
念佛の一行を心うるに五重あり、この重を
はこばずして法門を迷ればあやまるなり」と
説き起し、「一に宿善。二に遇善知識。三
に光明。四に信心。五に名號と次第に之を
釋顯し、更に佛恩報謝の義を高調し、最後
に五首の詠歌、一宿善。昔より阿彌陀の慈

悲にもよほされ、みのりの庭に生れきけ
り。二、善知識。よきひとの御法の教きく
からに、如来をたのむおもひすぢ。三、
光明。佛より光あらはす身にれば迷の雲
もはるゝあけぼの。四、信心。他力より信
心えたる身になれば花の臺にいたるうれし
き。五、名號。うれしきが身にもあまるか
自から南无阿彌陀佛とうかみこそすれ」を
添ふ。巻尾に「蓮如御判」とあれば消息法
師の形式と見るべく、了詳師之を異義集中
に輯録して、題下の朱書に「正に眞偽未決」と
評せり。各大所蔵一寫本は詠歌五首及び
奥書を存せず。

⑦〔参考〕 淨土眞宗聖教目録 ⑧寫本(谷
大、宗大、三一六九、宗甲・一七)

五重大綱 ①(日)Go-jō-dō-tai-
-dō. ②存 ③成譽大支(延寶八一寶曆六
A. D. 1680-1756)述 ④寫本(正大、一五五
二・九七)

五重傳法軌則 ①(日)Go-jō-dō-
-hō-hō-shū. ②一巻 ③存 ④貞隆撰 ⑤
寫本(龍大、研眞)

五重傳法網要義 ①(日)Go-jō-dō-
-hō-hō-shū-yō. ②一巻 ③存 ④成譽大支(延寶八一寶曆六
A. D. 1680-1756)述 ⑤寫本(正大、一五五
二・九七)

五重並願戒口訣 ①(日)Go-jō-
-naranai-e-andon-kai-koku-keku. ②一巻
③存 ④覺宿(寛延三 A. D. 1750)述 ⑤
寫本(正大、一五五二・一〇三)

五重慶立鈔 ①(日)Go-jō-kei-
-tatsu. ②三巻或四巻 ③存、四休庵貞純全
集巻上 ④貞純(延寶五一寶曆六 A. D.
1677-1756)撰 ⑤延享元(A. D. 1743)三
月十日

⑥淨土宗の五重傳法一たび了譽聖阿に定め
られて以來、三百餘年時に道譽、感譽の折
衷行はれ授受の方式に多少の變遷はありた
るも、其の傳書の眞偽を論じ慶立を唱へた
者はなかつたが、寶永寛保の頃に及んで四
休庵貞純出でて始めて之を試みた、是れ實
に傳法に取りて最初の異端者であつた。彼
れより以前に那珂の義山は初重性生記を撰
ひ第五重十念傳を斥けたるも貞純の如く五
重全體には及ばなかつた。又貞純の時を
同じうして成譽大支も傳法に異論を唱へ最
も熱心に十念傳に批議を加へた一人であつ
た。

貞純は姓は大西、京都の人で元禄十六年
二十七歳にして服家の門に入て出家、次で
江戸傳通院に掛錫、寶永元年三十歳にして
漢學門周より五重及び兩派を相承す、時既
に疑問を懐き後研鑽大に發明する所あると
て、正徳二年門人の請に應じて傳法し、そ
れより元文元年に至るまで二十五年の間凡
そ百餘人に自己發明の傳法を行つたと、自
ら告白して居る。その發明の傳法は其の著
五重慶立鈔三巻、兩派自他二要三巻に詳述
して居る。

五重慶立鈔は五重傳法の眞偽を根本的に
沙汰せるもので、その上巻には此の書撰述
の緣由を説き、中巻には五重の傳書一々に

つき批判を施し、中に於て初重性生記の眞
偽と第五重十念傳に就ては自説を主張し、
下巻には九ヶ條傳目についての慶立を力説
して居るのがある。

⑦昭和五刊 ⑧寛保三寫(正大、一五五二・
一〇〇一〇) ⑨嘉永二寫(正大、一五五二・
三五九)寫本(谷大、宗大・二二六九) ⑩神
戸東須摩西極樂寺 (林彦明)

五重秘決 ①(日)Go-jō-hi-
-ketsu. ②一巻 ③存 ④寫本(龍大、研眞)

五重秘密傳章 ①(日)Go-jō-hi-
-mitsu-denshō. ②一巻 ③存 ④明治一八
寫 (龍大、研眞)

五重辨釋 ①(日)Go-jō-hen-
-shō. ②一巻 ③存 ④三巻書及七巻書の註釋
⑤寫本(谷大、宗大・一七四〇)

五重本末講義 ①(日)Go-jō-hon-
-mat-kyōgi. ②一巻 ③存 ④土川勳學宗學興隆會編
⑤昭和六刊 ⑥〔京大、一・二六〇・三四、佛敎
C・五・二八〕

五重門略答 ①(日)Go-jō-mon-
-ryaku-tō. ②一巻 ③存 ④明應二寫 ⑤〔寶
壽院〕

五重唯識略私記 ①(日)Go-jō-
-ui-shiki-ryaku-ri-ki. ②一巻 ③存 ④寫
文七寫 ⑤〔谷大、餘大・一三三三〕

五重唯識略問答鈔 ①(日)Go-jō-
-ui-shiki-ryaku-mon-dō-shō. ②一巻 ③
存 ④辨範述 ⑤永仁五(A. D. 1297) ⑥
寫本(帝國、リ・三九)

五重略問答鈔 ①(日)Go-jō-ryaku-
-mon-dō-shō. ②一巻 ③存 ④應永二六

名所行説●(名庫書)者蔵所現●月年の刊寫●(書考)書釋註書本●説解管内●代年作著●著者●録存●敷也●(名書)名題●號鳴字數

【二】

①〔参考〕 淨土正依經論書目録 ②水享
一一刊 ③龍大、二六八四・四〇〇高次、寄
一・一八(谷大、宗大・二二二)〔正大、一
五五二・八六〕 (林彦明)

五重精決 ①(日)Go-jō-shō-keisan
②一巻 ③存 ④折譽利天(寛文元・享保
二〇 A. D. 1661-1735)述 ⑤寫本(正大、
一五五二・一二七)

五重相傳記 ①(日)Go-jō-dō-den-
ji. ②一巻 ③存 ④寫本(龍大)

五重相傳切紙 ①(日)Go-jō-dō-den-
-kiri-kami. ②一巻 ③存 ④寫本(谷大、
宗大・二二二)

五重相傳書 ①(日)Go-jō-dō-den-
sho. ②一巻 ③存 ④寫本(谷大、宗大、
一三六七)

五重相傳の栞 ①(日)Go-jō-dō-den-
-no-shiori. ②一巻 ③存 ④窪川旭丈著
⑤大正一二刊 ⑥〔正大、一五五二・一二四〕
⑦東京増上寺

五重大意鈔 ①(日)Go-jō-dō-itai-yōsha
②一巻 ③存 ④異義集(了詳稿本)第五
⑤蓮如(應永二二一明應八 A. D. 1415-1499)
撰

⑥御文(三ノ一)に出づる五重の義につき
其の大意を釋せしむるに、「淨土の法門
念佛の一行を心うるに五重あり、この重を
はこばずして法門を迷ればあやまるなり」と
説き起し、「一に宿善。二に遇善知識。三
に光明。四に信心。五に名號と次第に之を
釋顯し、更に佛恩報謝の義を高調し、最後
に五首の詠歌、一宿善。昔より阿彌陀の慈

悲にもよほされ、みのりの庭に生れきけ
り。二、善知識。よきひとの御法の教きく
からに、如来をたのむおもひすぢ。三、
光明。佛より光あらはす身にれば迷の雲
もはるゝあけぼの。四、信心。他力より信
心えたる身になれば花の臺にいたるうれし
き。五、名號。うれしきが身にもあまるか
自から南无阿彌陀佛とうかみこそすれ」を
添ふ。巻尾に「蓮如御判」とあれば消息法
師の形式と見るべく、了詳師之を異義集中
に輯録して、題下の朱書に「正に眞偽未決」と
評せり。各大所蔵一寫本は詠歌五首及び
奥書を存せず。

⑦〔参考〕 淨土眞宗聖教目録 ⑧寫本(谷
大、宗大、三一六九、宗甲・一七)

五重大綱 ①(日)Go-jō-dō-tai-
-dō. ②存 ③成譽大支(延寶八一寶曆六
A. D. 1680-1756)述 ④寫本(正大、一五五
二・九七)

五重傳法軌則 ①(日)Go-jō-dō-
-hō-hō-shū. ②一巻 ③存 ④貞隆撰 ⑤
寫本(龍大、研眞)

五重傳法網要義 ①(日)Go-jō-dō-
-hō-hō-shū-yō. ②一巻 ③存 ④成譽大支(延寶八一寶曆六
A. D. 1680-1756)述 ⑤寫本(正大、一五五
二・九七)

五重並願戒口訣 ①(日)Go-jō-
-naranai-e-andon-kai-koku-keku. ②一巻
③存 ④覺宿(寛延三 A. D. 1750)述 ⑤
寫本(正大、一五五二・一〇三)

五重慶立鈔 ①(日)Go-jō-kei-
-tatsu. ②三巻或四巻 ③存、四休庵貞純全
集巻上 ④貞純(延寶五一寶曆六 A. D.
1677-1756)撰 ⑤延享元(A. D. 1743)三
月十日

⑥淨土宗の五重傳法一たび了譽聖阿に定め
られて以來、三百餘年時に道譽、感譽の折
衷行はれ授受の方式に多少の變遷はありた
るも、其の傳書の眞偽を論じ慶立を唱へた
者はなかつたが、寶永寛保の頃に及んで四
休庵貞純出でて始めて之を試みた、是れ實
に傳法に取りて最初の異端者であつた。彼
れより以前に那珂の義山は初重性生記を撰
ひ第五重十念傳を斥けたるも貞純の如く五
重全體には及ばなかつた。又貞純の時を
同じうして成譽大支も傳法に異論を唱へ最
も熱心に十念傳に批議を加へた一人であつ
た。

貞純は姓は大西、京都の人で元禄十六年
二十七歳にして服家の門に入て出家、次で
江戸傳通院に掛錫、寶永元年三十歳にして
漢學門周より五重及び兩派を相承す、時既
に疑問を懐き後研鑽大に發明する所あると
て、正徳二年門人の請に應じて傳法し、そ
れより元文元年に至るまで二十五年の間凡
そ百餘人に自己發明の傳法を行つたと、自
ら告白して居る。その發明の傳法は其の著
五重慶立鈔三巻、兩派自他二要三巻に詳述
して居る。

五重慶立鈔は五重傳法の眞偽を根本的に
沙汰せるもので、その上巻には此の書撰述
の緣由を説き、中巻には五重の傳書一々に

つき批判を施し、中に於て初重性生記の眞
偽と第五重十念傳に就ては自説を主張し、
下巻には九ヶ條傳目についての慶立を力説
して居るのがある。

⑦昭和五刊 ⑧寛保三寫(正大、一五五二・
一〇〇一〇) ⑨嘉永二寫(正大、一五五二・
三五九)寫本(谷大、宗大・二二六九) ⑩神
戸東須摩西極樂寺 (林彦明)

五重秘決 ①(日)Go-jō-hi-
-ketsu. ②一巻 ③存 ④寫本(龍大、研眞)

五重秘密傳章 ①(日)Go-jō-hi-
-mitsu-denshō. ②一巻 ③存 ④明治一八
寫 (龍大、研眞)

五重辨釋 ①(日)Go-jō-hen-
-shō. ②一巻 ③存 ④三巻書及七巻書の註釋
⑤寫本(谷大、宗大・一七四〇)

五重本末講義 ①(日)Go-jō-hon-
-mat-kyōgi. ②一巻 ③存 ④土川勳學宗學興隆會編
⑤昭和六刊 ⑥〔京大、一・二六〇・三四、佛敎
C・五・二八〕

五重門略答 ①(日)Go-jō-mon-
-ryaku-tō. ②一巻 ③存 ④明應二寫 ⑤〔寶
壽院〕

五重唯識略私記 ①(日)Go-jō-
-ui-shiki-ryaku-ri-ki. ②一巻 ③存 ④寫
文七寫 ⑤〔谷大、餘大・一三三三〕

五重唯識略問答鈔 ①(日)Go-jō-
-ui-shiki-ryaku-mon-dō-shō. ②一巻 ③
存 ④辨範述 ⑤永仁五(A. D. 1297) ⑥
寫本(帝國、リ・三九)

五重略問答鈔 ①(日)Go-jō-ryaku-
-mon-dō-shō. ②一巻 ③存 ④應永二六

①〔参考〕 淨土正依經論書目録 ②水享
一一刊 ③龍大、二六八四・四〇〇高次、寄
一・一八(谷大、宗大・二二二)〔正大、一
五五二・八六〕 (林彦明)

五重精決 ①(日)Go-jō-shō-keisan
②一巻 ③存 ④折譽利天(寛文元・享保
二〇 A. D. 1661-1735)述 ⑤寫本(正大、
一五五二・一二七)

五重相傳記 ①(日)Go-jō-dō-den-
ji. ②一巻 ③存 ④寫本(龍大)

五重相傳切紙 ①(日)Go-jō-dō-den-
-kiri-kami. ②一巻 ③存 ④寫本(谷大、
宗大・二二二)

五重相傳書 ①(日)Go-jō-dō-den-
sho. ②一巻 ③存 ④寫本(谷大、宗大、
一三六七)

五重相傳の栞 ①(日)Go-jō-dō-den-
-no-shiori. ②一巻 ③存 ④窪川旭丈著
⑤大正一二刊 ⑥〔正大、一五五二・一二四〕
⑦東京増上寺

五重大意鈔 ①(日)Go-jō-dō-itai-yōsha
②一巻 ③存 ④異義集(了詳稿本)第五
⑤蓮如(應永二二一明應八 A. D. 1415-1499)
撰

⑥御文(三ノ一)に出づる五重の義につき
其の大意を釋せしむるに、「淨土の法門
念佛の一行を心うるに五重あり、この重を
はこばずして法門を迷ればあやまるなり」と
説き起し、「一に宿善。二に遇善知識。三
に光明。四に信心。五に名號と次第に之を
釋顯し、更に佛恩報謝の義を高調し、最後
に五首の詠歌、一宿善。昔より阿彌陀の慈

悲にもよほされ、みのりの庭に生れきけ
り。二、善知識。よきひとの御法の教きく
からに、如来をたのむおもひすぢ。三、
光明。佛より光あらはす身にれば迷の雲
もはるゝあけぼの。四、信心。他力より信
心えたる身になれば花の臺にいたるうれし
き。五、名號。うれしきが身にもあまるか
自から南无阿彌陀佛とうかみこそすれ」を
添ふ。巻尾に「蓮如御判」とあれば消息法
師の形式と見るべく、了詳師之を異義集中
に輯録して、題下の朱書に「正に眞偽未決」と
評せり。各大所蔵一寫本は詠歌五首及び
奥書を存せず。

⑦〔参考〕 淨土眞宗聖教目録 ⑧寫本(谷
大、宗大、三一六九、宗甲・一七)

五重大綱 ①(日)Go-jō-dō-tai-
-dō. ②存 ③成譽大支(延寶八一寶曆六
A. D. 1680-1756)述 ④寫本(正大、一五五
二・九七)

五重傳法軌則 ①(日)Go-jō-dō-
-hō-hō-shū. ②一巻 ③存 ④貞隆撰 ⑤
寫本(龍大、研眞)

五重傳法網要義 ①(日)Go-jō-dō-
-hō-hō-shū-yō. ②一巻 ③存 ④成譽大支(延寶八一寶曆六
A. D. 1680-1756)述 ⑤寫本(正大、一五五
二・九七)

五重並願戒口訣 ①(日)Go-jō-
-naranai-e-andon-kai-koku-keku. ②一巻
③存 ④覺宿(寛延三 A. D. 1750)述 ⑤
寫本(正大、一五五二・一〇三)

五重慶立鈔 ①(日)Go-jō-kei-
-tatsu. ②三巻或四巻 ③存、四休庵貞純全
集巻上 ④貞純(延寶五一寶曆六 A. D.
1677-1756)撰 ⑤延享元(A. D. 1743)三
月十日

⑥淨土宗の五重傳法一たび了譽聖阿に定め
られて以來、三百餘年時に道譽、感譽の折
衷行はれ授受の方式に多少の變遷はありた
るも、其の傳書の眞偽を論じ慶立を唱へた
者はなかつたが、寶永寛保の頃に及んで四
休庵貞純出でて始めて之を試みた、是れ實
に傳法に取りて最初の異端者であつた。彼
れより以前に那珂の義山は初重性生記を撰
ひ第五重十念傳を斥けたるも貞純の如く五
重全體には及ばなかつた。又貞純の時を
同じうして成譽大支も傳法に異論を唱へ最
も熱心に十念傳に批議を加へた一人であつ
た。

貞純は姓は大西、京都の人で元禄十六年
二十七歳にして服家の門に入て出家、次で
江戸傳通院に掛錫、寶永元年三十歳にして
漢學門周より五重及び兩派を相承す、時既
に疑問を懐き後研鑽大に發明する所あると
て、正徳二年門人の請に應じて傳法し、そ
れより元文元年に至るまで二十五年の間凡
そ百餘人に自己發明の傳法を行つたと、自
ら告白して居る。その發明の傳法は其の著
五重慶立鈔三巻、兩派自他二要三巻に詳述
して居る。

五重慶立鈔は五重傳法の眞偽を根本的に
沙汰せるもので、その上巻には此の書撰述
の緣由を説き、中巻には五重の傳書一々に

つき批判を施し、中に於て初重性生記の眞
偽と第五重十念傳に就ては自説を主張し、
下巻には九ヶ條傳目についての慶立を力説
して居るのがある。

⑦昭和五刊 ⑧寛保三寫(正大、一五五二・
一〇〇一〇) ⑨嘉永二寫(正大、一五五二・
三五九)寫本(谷大、宗大・二二六九) ⑩神
戸東須摩西極樂寺 (林彦明)

五重秘決 ①(日)Go-jō-hi-
-ketsu. ②一巻 ③存 ④寫本(龍大、研眞)

五重秘密傳章 ①(日)Go-jō-hi-
-mitsu-denshō. ②一巻 ③存 ④明治一八
寫 (龍大、研眞)

五重辨釋 ①(日)Go-jō-hen-
-shō. ②一巻 ③存 ④三巻書及七巻書の註釋
⑤寫本(谷大、宗大・一七四〇)

五重本末講義 ①(日)Go-jō-hon-
-mat-kyōgi. ②一巻 ③存 ④土川勳學宗學興隆會編
⑤昭和六刊 ⑥〔京大、一・二六〇・三四、佛敎
C・五・二八〕

五重門略答 ①(日)Go-jō-mon-
-ryaku-tō. ②一巻 ③存 ④明應二寫 ⑤〔寶
壽院〕

五重唯識略私記 ①(日)Go-jō-
-ui-shiki-ryaku-ri-ki. ②一巻 ③存 ④寫
文七寫 ⑤〔谷大、餘大・一三三三〕

五重唯識略問答鈔 ①(日)Go-jō-
-ui-shiki-ryaku-mon-dō-shō. ②一巻 ③
存 ④辨範述 ⑤永仁五(A. D. 1297) ⑥
寫本(帝國、リ・三九)

五重略問答鈔 ①(日)Go-jō-ryaku-
-mon-dō-shō. ②一巻 ③存 ④應永二六

①〔参考〕 淨土正依經論書目録 ②水享
一一刊 ③龍大、二六八四・四〇〇高次、寄
一・一八(谷大、宗大・二二二)〔正大、一
五五二・八六〕 (林彦明)

五重精決 ①(日)Go-jō-shō-keisan
②一巻 ③存 ④折譽利天(寛文元・享保
二〇 A. D. 1661-1735)述 ⑤寫本(正大、
一五五二・一二七)

五重相傳記 ①(日)Go-jō-dō-den-
ji. ②一巻 ③存 ④寫本(龍大)

五重相傳切紙 ①(日)Go-jō-dō-den-
-kiri-kami. ②一巻 ③存 ④寫本(谷大、
宗大・二二二)

五重相傳書 ①(日)Go-jō-dō-den-
sho. ②一巻 ③存 ④寫本(谷大、宗大、
一三六七)

五重相傳の栞 ①(日)Go-jō-dō-den-
-no-shiori. ②一巻 ③存 ④窪川旭丈著
⑤大正一二刊 ⑥〔正大、一五五二・一二四〕
⑦東京増上寺

五重大意鈔 ①(日)Go-jō-dō-itai-yōsha
②一巻 ③存 ④異義集(了詳稿本)第五
⑤蓮如(應永二二一明應八 A. D. 1415-1499)
撰

⑥御文(三ノ一)に出づる五重の義につき
其の大意を釋せしむるに、「淨土の法門
念佛の一行を心うるに五重あり、この重を
はこばずして法門を迷ればあやまるなり」と
説き起し、「一に宿善。二に遇善知識。三
に光明。四に信心。五に名號と次第に之を
釋顯し、更に佛恩報謝の義を高調し、最後
に五首の詠歌、一宿善。昔より阿彌陀の慈

悲にもよほされ、みのりの庭に生れきけ
り。二、善知識。よきひとの御法の教きく
からに、如来をたのむおもひすぢ。三、
光明。佛より光あらはす身にれば迷の雲
もはるゝあけぼの。四、信心。他力より信
心えたる身になれば花の臺にいたるうれし
き。五、名號。うれしきが身にもあまるか
自から南无阿彌陀佛とうかみこそすれ」を
添ふ。巻尾に「蓮如御判」とあれば消息法
師の形式と見るべく、了詳師之を異義集中
に輯録して、題下の朱書に「正に眞偽未決」と
評せり。各大所蔵一寫本は詠歌五首及び
奥書を存せず。

⑦〔参考〕 淨土眞宗聖教目録 ⑧寫本(谷
大、宗大、三一六九、宗甲・一七)

五重大綱 ①(日)Go-jō-dō-tai-
-dō. ②存 ③成譽大支(延寶八一寶曆六
A. D. 1680-1756)述 ④寫本(正大、一五五
二・九七)

五重傳法軌則 ①(日)Go-jō-dō-
-hō-hō-shū. ②一巻 ③存 ④貞隆撰 ⑤
寫本(龍大、研眞)

五重傳法網要義 ①(日)Go-jō-dō-
-hō-hō-shū-yō. ②一巻 ③存 ④成譽大支(延寶八一寶曆六
A. D. 1680-1756)述 ⑤寫本(正大、一五五
二・九七)

五重並願戒口訣 ①(日)Go-jō-
-naranai-e-andon-kai-koku-keku. ②一巻
③存 ④覺宿(寛延三 A. D. 1750)述 ⑤
寫本(正大、一五五二・一〇三)

五重慶立鈔 ①(日)Go-jō-kei-
-tatsu. ②三巻或四巻 ③存、四休庵貞純全
集巻上 ④貞純(延寶五一寶曆六 A. D.
1677-1756)撰 ⑤延享元(A. D. 1743)三
月十日

⑥淨土宗の五重傳法一たび了譽聖阿に定め
られて以來、三百餘年時に道譽、感譽の折
衷行はれ授受の方式に多少の變遷はありた
るも、其の傳書の眞偽を論じ慶立を唱へた
者はなかつたが、寶永寛保の頃に及んで四
休庵貞純出でて始めて之を試みた、是れ實
に傳法に取りて最初の異端者であつた。彼
れより以前に那珂の義山は初重性生記を撰
ひ第五重十念傳を斥けたるも貞純の如く五
重全體には及ばなかつた。又貞純の時を
同じうして成譽大支も傳法に異論を唱へ最
も熱心に十念傳に批議を加へた一人であつ
た。

貞純は姓は大西、京都の人で元禄十六年
二十七歳にして服家の門に入て出家、次で
江戸傳通院に掛錫、寶永元年三十歳にして
漢學門周より五重及び兩派を相承す、時既
に疑問を懐き後研鑽大に發明する所あると
て、正徳二年門人の請に應じて傳法し、そ
れより元文元年に至るまで二十五年の間凡
そ百餘人に自己發明の傳法を行つたと、自
ら告白して居る。その發明の傳法は其の著
五重慶立鈔三巻、兩派自他二要三巻に詳述
して居る。

五重慶立鈔は五重傳法の眞偽を根本的に
沙汰せるもので、その上巻には此の書撰述
の緣由を説き、中巻には五重の傳書一々に

つき批判を施し、中に於て初重性生記の眞
偽と第五重十念傳に就ては自説を主張し、
下巻には九ヶ條傳目についての慶立を力説
して居るのがある。

⑦昭和五刊 ⑧寛保三寫(正大、一五五二・
一〇〇一〇) ⑨嘉永二寫(正大、一五五二・
三五九)寫本(谷大、宗大・二二六九) ⑩神
戸東須摩西極樂寺 (林彦明)

五重秘決 ①(日)Go-jō-hi-
-ketsu. ②一巻 ③存 ④寫本(龍大、研眞)

五重秘密傳章 ①(日)Go-jō-hi-
-mitsu-denshō. ②一巻 ③存 ④明治一八
寫 (龍大、研眞)

五重辨釋 ①(日)Go-jō-hen-
-shō. ②一巻 ③存 ④三巻書及七巻書の註釋
⑤寫本(谷大、宗大・一七四〇)

五重本末講義 ①(日)Go-jō-hon-
-mat-kyōgi. ②一巻 ③存 ④土川勳學宗學興隆會編
⑤昭和六刊 ⑥〔京大、一・二六〇・三四、佛敎
C・五・二八〕

五重門略答 ①(日)Go-jō-mon-
-ryaku-tō. ②一巻 ③存 ④明應二寫 ⑤〔寶
壽院〕

五重唯識略私記 ①(日)Go-jō-
-ui-shiki-ryaku-ri-ki. ②一巻 ③存 ④寫
文七寫 ⑤〔谷大、餘大・一三三三〕

五重唯識略問答鈔 ①(日)Go-jō-
-ui-shiki-ryaku-mon-dō-shō. ②一巻 ③
存 ④辨範述 ⑤永仁五(A. D. 1297) ⑥
寫本(帝國、リ・三九)

五重略問答鈔 ①(日)Go-jō-ryaku-
-mon-dō-shō. ②一巻 ③存 ④應永二六

名所行説●(名庫書)者蔵所現●月年の刊寫●(書考)書釋註書本●説解管内●代年作著●著者●録存●敷也●(名書)名題●號鳴字數

【コ】

五相成身義問答抄 ①(日) Go-ō-shi-hon-i-hon-i-g-shi ②一卷 ③存、大正七八・一〇四No. 3474 ④清溪(萬壽二一) 永久三 A. D. 1025—1115) 述

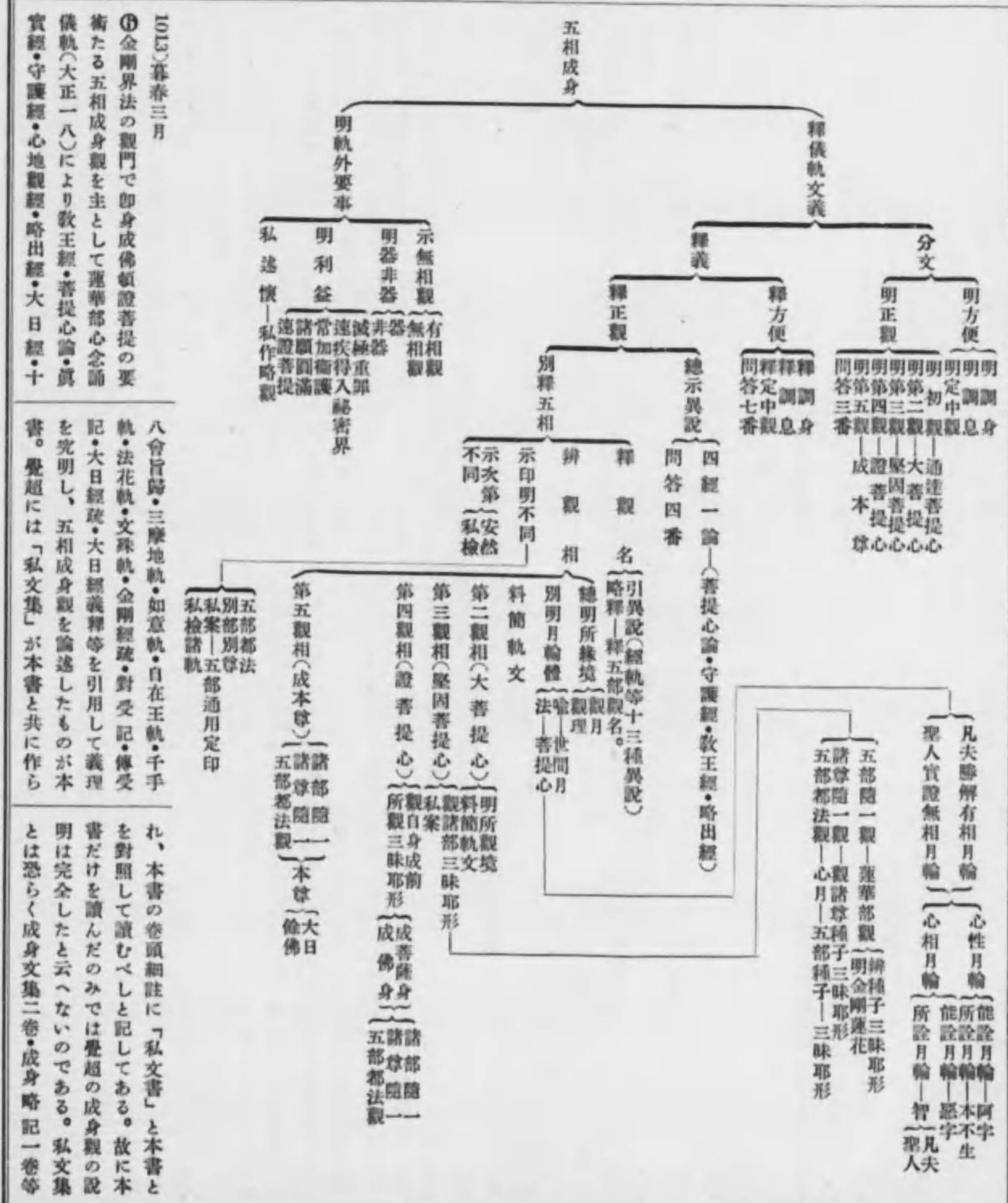
⑤密教に於ける金剛界法修法の重要な観法たる五相成身の義について要義を問答釋したる書である。五相成身とは通達菩提心、修菩提心、成金剛心、證金剛心、佛身圓滿を云ひ、即身成佛の要道頓證菩提の秘術である。本書は初に五相成身を眞言門の發信心位、比觀修行位、分證得位、圓滿位、果滿位の五階位に相配する義あるかについて數番の問答を爲し、眞言門の中に三賢十地を立つる義あるか否かを問答し、五相五智の配屬を論じ、或は五相成身は五部に通ずるかを問答し、更に金剛界法の諸印明の次第について種々の意義を論じ、諸方面から五相成身の意義を明にすることを企てたる。

⑥文治六寫 ⑦(高山寺藏) (小田慈舟)

五相成身觀 ①(日) Go-ō-shi-shin-I-hon. ②一帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(寶善院)

五相成身私記 ①(日) Go-ō-shi-shin-shi-ki. ②一卷 ③最澄(神護景雲元—弘仁一三) A. D. 767—822) 撰 ④(參考) 山家祖傳撰述目集卷上、本朝台祖撰述密部書目

五相成身私記 ①(日) Go-ō-shi-shin-shi-ki. ②一卷 ③存、大正七六・七八三No. 3403 ④覺超(天曆五一—長曆元) A. D. 955—1037) 撰 ⑤長和二(A. D. 1013) 暮春三月



凡夫勝解有相月輪 心性月輪 能證月輪 阿字 聖人實證無相月輪 心相月輪 能證月輪 惡字 凡夫 五部隨一觀—蓮華部觀—辨種子三昧耶形 諸部隨一觀—蓮華部觀—明金剛蓮花 五部隨一觀—心月—五部種子—三昧耶形 諸部隨一觀—心月—五部種子—三昧耶形

【コ】

を指してゐるのであらう。本書製作事情を覺超は巻頭及び巻末に述べてゐる。これによると「この觀門は甚深の中の甚深、秘密の中の秘密、苦海の船筏、長夜の燈燭。往生の淨業、成佛の直道である。秘教を學ぶ者が甘露門を知つたとはこの觀門を知つたことである。幸ひにも此の身、今此の教に値ふことを得た。若し彌陀紫金の妙體を設け得たならば、先づ須らく黃瑣の朽骨を拜しよう。」といひ、また「速かに成佛せんと欲せば、先づ五相成身觀を學ぶべきである。然るに我等は教門を被むるけれども義理が讀れない。敢て頓證菩提を期せんとなすが、只遠く縁を結ばんと欲し、至高の心を發し強いて鑽仰を企てて、射的の喻の如くではあるが、漸々に月輪觀成就の志願を遂げん」として本書を記述したといふのである。この首尾兩文によつて覺超の著作事情が明かされるであらう。本書は一には儀軌の文義を釋し、二には儀軌以外の肝要な事項を論述したものであるが、その記載する所は極めて詳密。台密の五相成身觀に關するもの、白眉、台密教相門の權威たる覺超の力作の一。要綱を略圖すれば前頁の如し。

⑦(注釋) 成身文集二卷。成身略記一卷。(以上覺超撰)

⑧(參考) 諸宗章疏錄第二、密乘撰述目錄、本朝台祖撰述密部書目、山家祖傳撰述密部書目、山家祖傳撰述密部書目、(田島德普) 高日集卷下

五相成身私記 ①(日) Go-ō-shi-shin-shi-ki. ②一卷 ③存、長和二(A. D. 1016—1017) 撰

①(1081) 記 ②(參考) 諸宗章疏錄第二、密乘撰述目錄、山家祖傳撰述密部書目、本朝台祖撰述密部書目

五相成身拾遺文集 ①(日) Go-ō-shi-shin-shi-tsu-ji-mon-shū. ②二卷 ③缺 ④道覺(一建長元 A. D. 1249—) 撰 ⑤(參考) 本朝台祖撰述密部書目

五相成身私記 ①(日) Go-ō-shi-shin-shi-ki. ②一卷 ③存、長和二(A. D. 1016—1017) 撰

五相成身私記 ①(日) Go-ō-shi-shin-shi-ki. ②一卷 ③存、長和二(A. D. 1016—1017) 撰

五相成身私記 ①(日) Go-ō-shi-shin-shi-ki. ②一卷 ③存、長和二(A. D. 1016—1017) 撰

⑥顯教の四弘誓願に對する密教不共の大願で、等勝觀・不動八大童子觀・無畏觀・受菩提心戒儀等に於ける五種の誓願を別出し、即ち衆生無邊誓願・如來無邊誓願・諸佛無邊誓願・法門無邊誓願・如來無邊誓願・諸佛無邊誓願・法門無邊誓願の五を云ふ。(服部如實) ⑦(參考) 諸宗章疏錄第三 (富田義純) ⑧(參考) 諸宗章疏錄第三 (富田義純) ⑨(參考) 諸宗章疏錄第三 (富田義純)

五大虛空藏 ①(日) Go-dai-ko-kō. ②一卷 ③存、大日本佛教全書第三八阿婆抄之内 ④承澄(元久二—弘安五 A. D. 1203—1282) 撰 ⑤鎌倉時代、寛永三寫 ⑥(寶善院)

五大虛空藏次第 ①(日) Go-dai-ko-ka-shi-ji. ②一卷 ③存 ④寫本 (寶善院) 鎌倉時代寫 (寶善院)

五大虛空藏菩薩速疾大神驗秘 ①(日) Go-dai-ko-kō-shū. ②一卷 ③存 ④寫本 (寶善院) 鎌倉時代寫 (寶善院)

密式經 ①(日) Go-dai-ko-ka-shū. ②一卷 ③存、大正三〇・六〇七 No. 1149 縮餘三、己讀一・一五 ④金剛智譯 ⑤唐開元一—二四(A. D. 721—736)

⑥五大虛空藏とは、東方は福智虛空藏、南方は能滿虛空藏、西方は施願虛空藏、北方は無垢虛空藏、中方は解脱虛空藏である。此の經には(一)偈頌。(二)曼荼羅。(三)根本最勝心陀羅尼並に五菩薩の眞言。(四)咒法約四十條。(五)加持供物。(六)念誦諸作法が明されてゐる。

本經は金剛智三藏が、金剛頂瑜珈經に依つて、像末薄福の比丘の爲めに、諸願成滿の諸の咒法を説いたものである。經中に、作法天然圖、於菩提所傳也と言つてあるのは、此の法が菩提道場に於て行はれて有つたのを支那に傳へたと云ふ意味であるが、稍々信じ難い點がある。經の文中に作法云云とある所から見れば、これ明らかに作物で有つて、普通一般の儀軌と同格と見做すことは出来ない。

五大虛空藏修法記 ①(日) Go-dai-ko-ka-shū-shū. ②一卷 ③存 ④寫本 (寶善院)

五大虛空藏先例 ①(日) Go-dai-ko-ka-shū-sen-rei. ②一卷 ③存 ④寫本 (寶善院)

五大虛空藏念誦次第 ①(日) Go-

名所行發 (名庫書) 名庫所現 月年の刊寫 (書考參書釋註) 書本 說解管内 代年作者 著者 缺存 數卷 (名書名題) 號鳴字數

【一】

① 存 ② 運通(天永三—治承四 A. D. 1112—1180)撰 ③ 平安朝時代寫 ④ (寶善院)撰

五大虚空藏法 ① (日) Go-dai-ko-ka-so-ho. ② 二卷 ③ 存、大日本佛教全書第四八卷附抄之内 ④ 覺禪(康治二—建保五以後 A. D. 1143—1217)撰 ⑤ 正徳四寫 ⑥ (寶善院)

五大虚空藏法 ① (日) Go-dai-ko-ka-so-ho. ② 圓行(延暦一八—仁壽一)A. D. 799—853)撰 ③ (參考) 諸宗章疏錄第二

五大虚空藏法 ① (日) Go-dai-ko-ka-so-ho. ② 真空(元慶六—天祿元 A. D. 883—970)撰 ③ (參考) 諸宗章疏錄第三

五大虚空藏法 ① (日) Go-dai-ko-ka-so-ho. ② 一軸 ③ 存 ④ 鎌倉時代寫 ⑤ (寶善院)

五大虚空藏法事觀翻寺記 ① (日) Go-dai-ko-ka-so-ho-ji. ② 弘長元光賢寫 ③ (寶善、四二・一八)

五大虚空藏御修法記 ① (日) Go-dai-ko-ka-so-ho-ji. ② 一軸 ③ 存 ④ 德川時代寫 ⑤ (寶善院)

五大牛王兩實陀羅尼儀軌 ① (日) Go-dai-gu-nyo-ji. ② 密經部之内 ③ 唐轉日羅刹藏(成享二—開元二九 A. D. 671—744)撰 ④ 寫本(京大・藏・一六・一)

五大五色等配當 ① (日) Go-dai-go-shiki-dohai-da. ② 一軸 ③ 存 ④ 德川時代寫 ⑤ (寶善院)

五大濁經 ① (日) Go-dai-joku-kyō. ② (支) Wa-ta-shū-chūng. ③ 一巻 ④ 失譯 ⑤ (參考) 武周錄第一

五大眞言集 ① (日) Go-dai-shin-gon-shū. ② (支) Wa-ta-shin-gon-shū. ③ 一巻 ④ 存 ⑤ 朝鮮仁祥大集 ⑥ (參考) 朝鮮佛教總書刊行豫定書目

五大施經 ① (日) Go-dai-se-kyō. ② (支) Wa-ta-shih-ching. ③ 一巻 ④ 存、大正一六・八三 No. 706 縮印八、二一六・一、明北1002之、清1002之、歷1497號、至1273志、明南1062思、Nj. 1007 施護等譯 ⑤ 宋太平興國五(A. D. 980)撰 ⑥ 本經は具さには佛説五大施經といひ、不殺生、不偷盜、不邪淫、不妄語、不飲酒の五戒を持つことが、五大施であることを説いたものであらう。(林五邦)

五大施經 ① (日) Go-dai-se-kyō. ② 註五大施經 ③ 一巻 ④ 存 ⑤ 祐實註 ⑥ 貞享二刊 ⑦ (谷大・餘大・三六四三)

五大章 ① (日) Go-dai-shō. ② 三寶院流 ③ 存 ④ 寫本(高、大、寄、一・一六)

五大章口決 ① (日) Go-dai-shō-ku-ketsu. ② 一巻 ③ 存 ④ 寫本(龍大、二六六・三九)正徳四寫(寶善院)

五大章功能 ① (日) Go-dai-shō-kō-nō. ② 五大明王功能 ③ 一軸 ④ 存、興教大師全集 ⑤ 覺禪(嘉保二—康治一) A. D. 1095—1143)撰 ⑥ 寫本(寶善院)

五大章供法 ① (日) Go-dai-shō-kyō. ② 一軸 ③ 存 ④ 德川時代寫 ⑤ (寶善院)

五大章護摩次第 ① (日) Go-dai-shō-mō-shū. ② 五帖 ③ 存 ④ 德川時代寫 ⑤ (寶善院)

五大章合行 ① (日) Go-dai-shō-gō-gō. ② 一巻 ③ 存、大日本佛教全書第三九阿婆縛抄第五 ④ 承澄(元久二—弘安五 A. D. 1205—1282)撰

五大章合行法記 ① (日) Go-dai-shō-gō-gō-hō. ② 一帖 ③ 存 ④ 南北朝時代寫 ⑤ (高、大、寄、一・六六)

五大章祭文 ① (日) Go-dai-shō-sai-imon. ② 一帖 ③ 存 ④ 永祿三寫 ⑤ (金剛三昧院)

五大章次第 ① (日) Go-dai-shō-shū. ② (支) Wa-ta-shū-shū. ③ 二巻 ④ 存 ⑤ 同治二刊(龍大、二〇二・二五)光緒元刊(京大・藏・一一・一)

五大辨 ① (日) Go-dai-hen. ② 一巻 ③ 存 ④ 大道述 ⑤ 明治五(A. D. 1872)

五大明王義 ① (日) Go-dai-myō-ō-gi. ② 一巻 ③ 存、弘法大師全集第一三眞僞未決部、弘法大師法教錄、秘密儀軌集第一〇 ④ 觀賢(仁壽三—延長三 A. D. 853—925)撰、空海、眞然、一定等異説あり。

① 弘法大師全集第十三に二本を載せてある、内容は略同じく、甲は原本、乙は後人の増訂本かと云はれて居る。降三世・軍荼利・大威徳・金剛藥叉・不動の五大明王は八識を轉じて五智と成す時の斷惑の形なること、各尊容の表示する意義、八識相應の惑等について説明してある。乙本は最初に降三世を説く文が数行缺けて居る。五大明王各別の説明終つて後、甲本は胎藏の五智瓶金剛界の瓶、胎藏は東に向ひて修し、金剛界は西に向ひて修することを簡単に説くのみである。乙本は金胎の瓶及び東西などの説明なく、本尊を護るは忿怒尊、本尊を住せしむるは部母であること、一字金輪の眞言の威徳、念誦の最後に佛眼の眞言を誦すること、總別の三部、三部の部主部母明王使者、輪王の灌頂、大日は菩薩形四佛は佛形なること、三身のこと等を説いてある。乙本の後半は恐らく五大明王義とは別の書であらう、東寺寶善院藏古寫本に別書の合冊としてある。又此の後半の中に弘法大師説などの文があるから、本書少くとも此の後半は後人の作なること明かである。

② (參考) 諸宗章疏錄第三、本朝台祖撰述密部書目 ③ 鎌倉時代寫(高、大、寄、一・六四)保元二寫(滋賀縣石山寺)延享元寫(寶善院)寫本(龍大、二六六・四三)(谷大、餘大・三六九)

五大明王功能 ① (日) Go-dai-myō-ō-kō-nō. ② 五大章功能 ③ 存、興教大師全集 ④ 覺禪(嘉保二—康治一) A. D. 1095—1143)撰

名所行發 (名庫書) 名庫所現 月年の刊寫 (書考參書釋註) 書本 説解管内 代年作著 著書 缺有 藍色 (名書) 名題 號略字數

【二】

① 或は五大尊功能とも云ふ、不動、降三世、軍荼利、大威徳、金剛夜叉の五大明王の功徳に依りて如何なる懺悔も入る事能はるものなりとのことを記するもの、興教大師獨特の深秘釋なり。

② (參考) 諸宗章疏錄第三 (富田機純)

五大明王法口決 ① (日) Go-dai-myō-ō-hō-ku-ketsu. ② 一軸 ③ 存 ④ 永應元寫 ⑤ (高、大、寄、一・六四)

五大要略鈔 ① (日) Go-dai-yō-ryaku-sō. ② 五帖 ③ 存 ④ 調底隱者遺傳轉日羅集 ⑤ 鎌倉時代寫 ⑥ (寶善院)

五大秘釋 ① (日) Go-dai-hi-shaku. ② 一巻 ③ 存 ④ 觀賢(仁壽三—延長三 A. D. 853—925)撰 ⑤ (參考) 諸宗章疏錄第三

五代記 ① (日) Go-dai-ki. ② 二巻 ③ 光圓記 ④ (參考) 淨土眞宗教典卷第二

五台山金剛窟收五功德記 ① (日) Go-dai-san-kō-kū-shū-shū-gō-toku-ki. ② (支) Wa-tai-shan-kō-kū-shū-kaug-ku-shou-wu-kung-te-chi. ③ 一巻 ④ (參考) 入唐新求聖教目錄

五台山金色教院緣起説 ① (日) Go-dai-san-kō-ji-kyō-in-en-gi-setsu. ② 五台山金色教院緣起記 ③ 一巻 ④ 存、土佐群書類第一六一〇

① 内題は五台山金色教院緣起記であらう、土佐國長岡郡竹林寺の撰文緣起である。即ち聖武天皇文殊菩薩の夢告により、行基に照して文殊菩薩示現の靈區として、支那五台山に模し當寺を創建せしめらるると云ひ、本尊は行基作尺五赤樹撰文殊像を安置し、往昔は弘法大師の舊跡であり、今は足利氏の崇敬外護を獲と述べてある。

② (帝國、特別・け二六) (紀氏隆眞)

五台山金色竹林寺略緣起 ① (日) Go-dai-san-kō-jin-ji-ryaku-en-gi. ② 土佐國五台山金色教院竹林寺略緣起 ③ 一巻 ④ 存、土佐群書類第一六一〇

① 内題は土佐國五台山金色教院竹林寺略緣起と云ひ、前項の五台山金色教院緣起説を和文體に略述したものとされる。末尾に寺實を列記し、且文政七年二月の日附がある。恐らく本書は六十六部の納經所として諸者のために前掲緣起説より略撰したものである。

② (帝國、特別・け二六) (紀氏隆眞)

五台山聖竹林寺釋法照得見 ① (日) Go-dai-san-dai-shin-jin-ji-shaku-hō-shin-ji-shaku-hō-shō-shō-tōk-ken-dai-san-kyō-gai-ki. ② (支) Wa-tai-shan-dai-shin-jin-ji-shaku-hō-shō-shō-shō-tōk-ken-ta-sheng-chu-lin-ssi-shih-ta-chao-tē. ③ 五台山聖竹林寺釋法照得見 ④ 一巻 ⑤ 存、大日本佛教全書第一一三遊方傳叢書第一 ⑥ 圓仁(延暦一三—貞觀六 A. D. 794—864)記 ⑦ (參考) 密乘撰述目錄、山家祖德撰述篇目集卷上

五台山境界記 ① (日) Go-dai-san-dai-shin-jin-ji-shaku-hō-shō-shō-shō-tōk-ken-dai-san-kyō-gai-ki. ② (支) Wa-tai-shan-dai-shin-jin-ji-shaku-hō-shō-shō-shō-tōk-ken-ta-sheng-chu-lin-ssi-shih-ta-chao-tē. ③ 五台山境界記 ④ 一巻 ⑤ 存、大日本佛教全書第一一三遊方傳叢書第一 ⑥ 圓仁(延暦一三—貞觀六 A. D. 794—864)記 ⑦ (參考) 密乘撰述目錄、山家祖德撰述篇目集卷上

五壇護摩記 ① (日) Go-dai-san-dai-shin-jin-ji-shaku-hō-shō-shō-shō-tōk-ken-dai-san-kyō-gai-ki. ② (支) Wa-tai-shan-dai-shin-jin-ji-shaku-hō-shō-shō-shō-tōk-ken-ta-sheng-chu-lin-ssi-shih-ta-chao-tē. ③ 五壇護摩記 ④ 一巻 ⑤ 存、大日本佛教全書第一一三遊方傳叢書第一 ⑥ 圓仁(延暦一三—貞觀六 A. D. 794—864)記 ⑦ (參考) 密乘撰述目錄、山家祖德撰述篇目集卷上

五壇護摩圖 ① (日) Go-dai-san-dai-shin-jin-ji-shaku-hō-shō-shō-shō-tōk-ken-dai-san-kyō-gai-ki. ② (支) Wa-tai-shan-dai-shin-jin-ji-shaku-hō-shō-shō-shō-tōk-ken-ta-sheng-chu-lin-ssi-shih-ta-chao-tē. ③ 五壇護摩圖 ④ 一巻 ⑤ 存、大日本佛教全書第一一三遊方傳叢書第一 ⑥ 圓仁(延暦一三—貞觀六 A. D. 794—864)記 ⑦ (參考) 密乘撰述目錄、山家祖德撰述篇目集卷上

五智心鈔 ① (日) Go-dai-shin-shū. ② 一巻 ③ 存、大日本佛教全書第三九阿婆縛抄之内 ④ 承澄(元久二—弘安五 A. D. 1205—1282)撰

五智五藏 ① (日) Go-dai-shin-go-san. ② 一巻 ③ 存、大日本佛教全書第三九阿婆縛抄之内 ④ 承澄(元久二—弘安五 A. D. 1205—1282)撰

五智五藏等秘密鈔 ① (日) Go-dai-shin-go-san-himitsu-sō. ② 一巻 ③ 存、大日本佛教全書第三九阿婆縛抄之内 ④ 承澄(元久二—弘安五 A. D. 1205—1282)撰

五智明事等 ① (日) Go-dai-shin-myō-ji. ② 一帖 ③ 存 ④ 德川時代寫 ⑤ (寶善院)

五天竺國記 ① (日) Go-ten-jikoku-ki. ② (支) Wa-tien-chu-kuo-ki. ③ 五天竺國記 ④ 一帖 ⑤ 存、德川時代寫 ⑥ (寶善院)

名所行發 (名庫書) 名庫所現 月年の刊寫 (書考參書釋註) 書本 説解管内 代年作著 著書 缺有 藍色 (名書) 名題 號略字數

【一】

國傳・慧超往五天竺國傳 ①一卷 ②存、大正五・九七五ノ。3089。 燉煌石室遺書第一之内 ③新羅慧超(開元一五A.D. 727)記 ④刊本(谷大、外大、七六一) ⑤五天竺之圖 ①(日)Go-ten-shi-ho-no-shi. ②一軸 ③存 ④(龍大、別置) ⑤元曆元一建長四A.D. 1184—1232 一説建長四、年七五(説) ⑥(参考) 諸宗章疏錄第三

五點阿字 ①(日)Go-ten-shi. ②道範(元曆元一建長四A.D. 1184—1232 一説建長四、年七五(説) ⑥(参考) 諸宗章疏錄第三

五點五色阿字等 ①(日)Go-ten-shi-go-shiki-a-ji-to. ②一軸 ③存 ④足利時代寫 ⑤(寶香提院)

五點次第之事 ①(日)Go-ten-shi-dai-no-koto. ②一冊 ③存 ④安政六寫 ⑤(高六、寄一、四八)

五轉圖鈔 ①(日)Go-ten-shi-ten-shu. ②一帖 ③存 ④元應二寫 ⑤(高六、寄一、六四)

五度灌頂口決 ①(日)Go-do-kan-jō-ku-ke-tsu. ②一冊 ③存 ④寫本(金剛三昧院)

五燈一覽之圖 ①(日)Go-ō-ich-i-ran-no-zu. ②存 ③(雲章一慶(至德三—貞正三A.D. 1386—1402)撰 ④(参考) 禪籍目錄

五燈會元 ①(日)Go-ō-e-gen. (支)Wa-teng-hui-yuan. ②二十卷 ③存、記續二ノ。一・一—四 ④南宋大川普濟撰 ⑤禪門佛祖列傳の集大成である。過去七佛より、西天東土の祖師、青原下十六世、南嶽下十七世までの著者等の列傳である。重刊の際(元の至正二十四年A.D. 1366)に、釋延俊等がいつた通り、著者大川普濟は、禪門の史籍として當時既に存せし傳燈錄・廣燈錄・續燈錄・聯燈錄・普燈錄の五つを會して一書となす目的で、その意を題號にも表はして五燈會元と名づけたのであつたかも知れん。が或はまた臨濟・曹洞・臨仰・雲門・法眼の五家に、法燈が分れてゐるけれども、實は一元に會して離れないものであるといふことを表はさうとしたのではないかとも思はれる。自序も凡例もないので、本意を窺ひにくい。

列祖の投機の話、爲人接化の語を録することに、最も詳かである。

⑥貞治年間刊(帝國、特別一〇・寛永一三刊(内閣) (山田靈林)

五燈會元抄 ①(日)Go-ō-e-gen-shō. ②一卷 ③存 ④山一寧(寶治元—文保元A.D. 1247—1317)撰 ⑤(参考) 日本禪林撰述書目、禪籍目錄

五燈會元抄 ①(日)Go-ō-e-gen-shō. ②一卷 ③存 ④叔美宗播(一嘉吉元A.D. 1447)撰 ⑤(参考) 日本禪林撰述書目、禪籍目錄

五燈會元抄 ①(日)Go-ō-e-gen-shō. ②一卷 ③存 ④笑山周念 ⑤(参考) 日本禪林撰述書目、禪籍目錄

五燈會元抄 ①(日)Go-ō-e-gen-shō. ②一卷 ③存 ④古案周印 ⑤(参考) 日本禪林撰述書目、禪籍目錄

五燈會元抄 ①(日)Go-ō-e-gen-shō. ②一卷 ③存 ④蒙山智明(一貞治元A.D. 1366)撰 ⑤(参考) 日本禪林撰述書目、禪籍目錄

五A.D. 1366) ⑥(参考) 日本禪林撰述書目、禪籍目錄

五燈會元續略 ①(日)Go-ō-e-gen-zoku-ryaku. (支)Wa-teng-hui-yuan-fushō. ②八卷(別に首卷あり) ③存、記續二ノ。一・一・五 ④遠門淨柱編 ⑤明崇禎一七(A.D. 1644)

⑥五燈會元の編ありて以後の四百数十年の間に出世したる禪門の著者数百名の列傳集である。

著者の自序には、崇禎十七年と明記してある。凡例は著者の門人が書いてゐるが、それには戊子とある。思ふに、凡例は、上梓の業既に成るの日(永曆二戊子年)に書つたものである。

⑦延寶四刊 ⑧(駒大)(京大、藏一九〇五(内閣) (山田靈林)

五燈會元補遺 ①(日)Go-ō-e-gen-ho-i. (支)Wa-teng-hui-yuan-pu-i. ②存、記續二ノ。一・一五、増集續傳燈錄附録 ③文殊編 ④明永樂一五(A.D. 1417) ⑤五燈會元の南嶽下十六世の所に列すべき十数名の著者傳を編したものである。筆者文殊が、宋末以後の著者の列傳集として増集續傳燈錄六卷を著はしたとき、その第六卷の巻末に、附録としてこれを編め、別題をつけて五燈會元補遺といつてゐるのだから。

(山田靈林)

五燈會元目錄 ①(日)Go-ō-e-gen-moku-roku. (支)Wa-teng-hui-yuan-mu-lu. ②二卷 ③存、記續二ノ。一〇・五 ④南宋大川普濟(一淳祐二A.D. 1252)撰

⑤五燈會元二十卷の目次である。巻頭に、大嶽・延俊等の序文を掲げてあるが、これは何れも、五燈會元を元の至正二十四年(A.D. 1366)に重刊したとき、それに隨喜して書いたもので、初版のときのものと異なる。

(山田靈林)

五燈記 ①(日)Go-ō-ki. ②一卷 ③存 ④伯英徳俊(一應永一〇A.D. 1403)述 ⑤(参考) 禪籍目錄

五燈統 ①(日)Go-ō-tō. (支)Wa-teng-yen-tō. ②二十五卷 ③存、記續二ノ。一・一—五 ④費隱通容(萬曆二一—永曆一五A.D. 1593—1661)撰 ⑤明永曆四(清順治七A.D. 1653)

⑥禪門五家の法燈相承の系譜を明かにすることに重點を置いて、過去七佛・西天二十八祖・東土六祖・南嶽青原兩法系の著者を列傳したものである。

五燈會元と大體は同一であるが、天皇遣悟を南嶽下に列したる點等に於て、出色を示し、第二十一卷以下の五卷には、五燈會元の刊行以後に出世せる諸著者を列傳し、南嶽下は三十四世報恩通秀等まで、青原下は三十六世百文明雪等までをあげてゐる。

尙ほ記載輯載のものには、費隱通容の弟子隆隆琦の跋文がつけてある。明曆三年(A.D. 1657) 日本に於て重刊されるのを著んぶ書つたものである。

(参考) 禪籍志卷上 ⑥永曆七刊 ⑦(駒大) (山田靈林)

五燈統解感篇 ①(日)Go-ō-tō-gen (駒大)

名所行發(名庫書)著者所現 月年の刊寫(書考參書釋註)清末 説解容内 代年作者 著者 缺存 數卷(名書)名題 號略字數

【二】

①(日)Go-ō-waku-hen. (支)Wa-teng-yen-tu-ng-chueh-huo-pien. ②一卷 ③存、記續二ノ。一・一・五 ④費隱通容(萬曆二一—永曆一五A.D. 1593—1661)撰 ⑤明永曆八(A.D. 1654)

⑥五燈統に於て、天皇遣悟等を南嶽下の法系に屬せしめたるに對し、青原下(曹洞宗)の諸師これを誤謬となし、明宗正臨・拙狀説・圓照説等を著して論難したので、五燈統の著者通容が、起つてそれに抗議するために撰したものである。

尙ほ附録として、他の評者忠告者等(の言葉)を添へた。

⑦永曆八刊 ⑧(駒大) (山田靈林)

五燈統目錄 ①(日)Go-ō-tō-gen-moku-roku. (支)Wa-teng-yen-tung-mu-lu. ②二卷 ③存、記續二ノ。一・一—一 ④費隱通容(萬曆二一—永曆一五A.D. 1593—1661)撰 ⑤明永曆七(清順治一〇A.D. 1653)

⑥五燈統の目次である。その書の巻頭に輯載すべきものである。が編くもの、便宜上、別輯して刊行されたものと思ふ。

五燈統を推讃した序文、(筆者は曹勳・成賢・周父・材父等、何れも官吏である)と同書の凡例等も輯載してある。

尙ほ天皇遣悟和尙を南嶽下に列するに就ての文獻を附録として七八種あげてある。

(山田靈林)

五燈私考 ①(日)Go-ō-shi-ko. ②一卷 ③存 ④月潭全龍(一慶應元A.D. 1865)撰 ⑤(参考) 禪籍目錄

五燈全書 ①(日)Go-ō-zen-shō. (支)Wa-teng-chuan-shu. ②百二十卷 ③存、記續二ノ。一・三—一・一五 ④費超永編 ⑤清康熙三三(A.D. 1693)

⑥五燈會元を節を仰ぎ、過去七佛・西天東土の祖師、悉くこれを列傳し、五燈會元の撰述以後に出世せる祖師・著者・居士等、正系旁系ともに廣く探りて、傳述せるものである。その筆に上れるもの七千有餘名である。

法系その他の記述に訛誤がなごはれぬが、浩瀚なる點に於て、まさに群を抜くものである。

⑦寫本(京大、藏一九〇七) (山田靈林)

五燈全書目錄 ①(日)Go-ō-zen-shō-moku-roku. (支)Wa-teng-chuan-shu-mu-lu. ②十六卷 ③存、記續二ノ。一・三—一 ④費超永編 ⑤清康熙三三(A.D. 1693)

⑥五燈全書の序文・凡例・進呈奏疏・目次を輯めたもので、その書の巻頭にあるべき性質のものである。諸讀者のために切り離して流布される様になつたものと思はれる。

(山田靈林)

五燈續略 ①(日)Go-ō-zoku-ryaku. (支)Wa-teng-fushō. ②五燈會元續略 ③四卷 ④存、記續二ノ。一・一—五 ④明代淨柱撰 ⑤(参考) 禪籍志卷上

五燈別書 ①(日)Go-ō-betsu-shō. ②二卷 ③存 ④無着道忠(承應二—延享元A.D. 1653—1744)撰 ⑤(参考) 禪籍目錄

五燈錄抄 ①(日)Go-ō-roku-shō. ②一卷 ③存 ④大有有諸(一永享四A.D. 1432)撰 ⑤(参考) 日本禪林撰述書目、禪籍目錄

五道輪轉罪福報應經 ①(日)Go-dō-rin-ten-zai-fuku-hō-o-kyō. (支)Wa-tao-lun-chuan-ai-fa-pao-ying-ching. ②一卷 ③失譯 ④(参考) 出三藏記第四

五道六道章 ①(日)Go-dō-roku-shō. ②一卷 ③存 ④林常快道(寶曆元—文化七A.D. 1751—1810)撰 ⑤寫本(正大一〇・一・一五)

五德十數 ①(日)Go-toku-jū-shū. ②一卷 ③存、慈雲尊者全集第六昆尼編第一二六 ④慈雲飲光(享保三—文化元A.D. 1718—1804)撰

⑤沙彌尼の五淨徳と沙彌の十數とを釋した書である。五淨徳とは福田經に佛が帝釋天に對して説けるもので、沙彌・沙彌尼に通ずる五徳で、共に福田と名づける。發心出家・親愛・無・遺・莫・故、委・棄・身・命、遵・崇・道、故、志・求・大・乘、爲・度・人・故の五である。

沙彌の十數は四分律行事鈔資持記卷四之二沙彌別行篇に説ける所で、本書にはそれを廣く布演してゐる。十數とは一切衆生皆依・仰・食、名・色、痛・痒・想、四・諦、一・六、入・七、覺・意、八・正・道、九・衆・生・居、十・一・切・入である。十種外道を破せんがために沙彌をして先づ十數を持せしむと行事鈔に説いてゐる。

五三時法則 ①(日)Go-ni-chi-san-hō-soku. ②一帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(寶龜院)

五人御札回心狀並御教誡 ①(日)Go-nin-o-tadaishi-e-shin-jō-narabishi-go-kyō-kai. ②存、尾州五僧安心札理第七 ③寫本(谷大、六・一)

五人所破抄 ①(日)Go-nin-sho-ha-shō. ②五人所破事 ③一卷 ④存、日蓮宗々學全書興隆全集之内 ⑤日興(寛元三—正慶元A.D. 1245—1332)説、日興(永仁二—文和三A.D. 1294—1334)記 ⑥嘉曆三(A.D. 1328)

⑦興門派に於ては古來日蓮の直第六老僧の一人派日興の作と稱するものであるが、本文の終りに「嘉曆三戊辰年七月草案 日興」とあつて三位日興の草案に係るもの、如く思はれる、或ひは日興が草案して日興の印を得たものではないかとも推測される。五人とは六老僧中の日興を除く昭、朗、向、頂、持の五師で、所破抄の中には持師の説は出てゐないが、五人の歩調は同一であつたものと思はれる。

所破抄の要點は第一に五師が捧・武家・狀に「天台沙門」と稱し、「酌・天台之餘流」と等と言つてゐること、並びに將軍の安全及び國家の鎮護を祈る云々の奏狀に對して眞向から非難を加へて論議を往復し、兼ねて

名所行發(名庫書)著者所現 月年の刊寫(書考參書釋註)清末 説解容内 代年作者 著者 缺存 數卷(名書)名題 號略字數

【二】

五師が日蓮の遺文を漢文に改むべしと言へるを難じ、第二に所謂隨身佛の拜否に關し、本化の弟子を隨伴せざる單身佛は拜すべからざる所以につき論難を加へ、第三に戒律の用否につき爾前迷門の戒を禁じ本門の大戒を持つべきを説き、第四に興師の身延難山に對する非難を辨じ、第五に迷門を破しながら方便品を讀誦することの非難に對して一爲「所破」、二倍「文證」、故を以つて答へたものである。

但し五師に果して斯かる非難に値ひする主張があつたか否か、假りにあつたとしても何の程度のものであつたかは疑問とせらるゝ。

五人所破抄見聞

○(日) Go-in-sho (馬田行啓) 蓮宗宗學全書興門宗之部之内 ○日眼 (一) 至德元 A. D. 1384 撰 ○康廣二 (A. D. 1380)

○興門流の日眼が派祖日興の作と稱する『五人所破抄』(其項を見よ)の漢文體を延書にし且つ注釋を施したものである。始めに題詞あり、以下「一、正使出于世説は法復難文。一、無量無數劫開是法亦難(文)」、一、譬如優曇華一切皆愛樂天人所希有時時乃一出(文)。一、妙法蓮華之種類是於浮木(文)。一、妙法蓮華之種類比於浮木(文)。一、應數三五之施化輪而正像二千之弘經精過學(文)。一、設内外兼包之智積三祇大小黑習之行滿百劫不辨時機迷倒本迷其亦難(文)。一、五人捧武家(狀云)未奉公家(天台沙門日照)上。一、酌天台餘流盡地

五人所破抄斥

○(日) Go-in-sho (馬田行啓) 蓮宗宗學全書法華宗部 ○日眼(長祿三—永正一 A. D. 1439—1514)撰

○陣門流本成寺派(今の法華宗)の日眼が日興の作と稱する『五人所破抄』(其の項を見よ)を簡明に批判斥破したものである。宗學全書所載の本書は、其の序言及び奥書に依れば承應二年智門院日求が江戸伊豆子長應寺日恩の請に應じて送つた寫本に依つたもので、日求の私見が加へられてある。初めに五人所破抄に於て五人謗法富士正義と主張するに五箇條ありとて「一、大聖人御抄可爲和字事。一、鎌倉五人云天台沙門無謂事。一、一部五種行過時之事。一、一體佛之事。一、天目房不可讀法方便品立大謗法之事」を挙げ、第一條に對しては所破抄の説に同意を表明し、其の他に對しては同門流の立場から斥破を加へてゐる。

慮研精(文)。一、日昭靈爲不肖身爲兵戈水息奉爲副將安全(文)。一、天台沙門日照誦言上(文)。一、天台法華宗沙門日向頂誦言上(文)。一、日興奉公家武家(文)。一、又五人一同云凡披和漢兩朝之章疏(文)。一、撰哉編章高台嶺崇遠師之富山(文)。一、開明淨之止觀執假字之消息(文)。一、日興云夫龍樹天親者即四依大士難離中間頓一貫之中道而以權爲而陰實用(文)。一、上行菩薩者本極法身(文)。一、五人一同云先師所持釋尊云。一、日興云諸佛之莊嚴難同依。一、印契、而辨(文)。其の他九項を掲げて細説してゐる。

○(日) Go-in-sho (馬田行啓) 蓮宗宗學全書法華宗部 ○日眼(長祿三—永正一 A. D. 1439—1514)撰

○陣門流本成寺派(今の法華宗)の日眼が日興の作と稱する『五人所破抄』(其の項を見よ)を簡明に批判斥破したものである。宗學全書所載の本書は、其の序言及び奥書に依れば承應二年智門院日求が江戸伊豆子長應寺日恩の請に應じて送つた寫本に依つたもので、日求の私見が加へられてある。初めに五人所破抄に於て五人謗法富士正義と主張するに五箇條ありとて「一、大聖人御抄可爲和字事。一、鎌倉五人云天台沙門無謂事。一、一部五種行過時之事。一、一體佛之事。一、天目房不可讀法方便品立大謗法之事」を挙げ、第一條に對しては所破抄の説に同意を表明し、其の他に對しては同門流の立場から斥破を加へてゐる。

○(日) Go-in-sho (馬田行啓) 蓮宗宗學全書法華宗部 ○日眼(長祿三—永正一 A. D. 1439—1514)撰

○陣門流本成寺派(今の法華宗)の日眼が日興の作と稱する『五人所破抄』(其の項を見よ)を簡明に批判斥破したものである。宗學全書所載の本書は、其の序言及び奥書に依れば承應二年智門院日求が江戸伊豆子長應寺日恩の請に應じて送つた寫本に依つたもので、日求の私見が加へられてある。初めに五人所破抄に於て五人謗法富士正義と主張するに五箇條ありとて「一、大聖人御抄可爲和字事。一、鎌倉五人云天台沙門無謂事。一、一部五種行過時之事。一、一體佛之事。一、天目房不可讀法方便品立大謗法之事」を挙げ、第一條に對しては所破抄の説に同意を表明し、其の他に對しては同門流の立場から斥破を加へてゐる。

○(日) Go-in-sho (馬田行啓) 蓮宗宗學全書法華宗部 ○日眼(長祿三—永正一 A. D. 1439—1514)撰

○陣門流本成寺派(今の法華宗)の日眼が日興の作と稱する『五人所破抄』(其の項を見よ)を簡明に批判斥破したものである。宗學全書所載の本書は、其の序言及び奥書に依れば承應二年智門院日求が江戸伊豆子長應寺日恩の請に應じて送つた寫本に依つたもので、日求の私見が加へられてある。初めに五人所破抄に於て五人謗法富士正義と主張するに五箇條ありとて「一、大聖人御抄可爲和字事。一、鎌倉五人云天台沙門無謂事。一、一部五種行過時之事。一、一體佛之事。一、天目房不可讀法方便品立大謗法之事」を挙げ、第一條に對しては所破抄の説に同意を表明し、其の他に對しては同門流の立場から斥破を加へてゐる。

【二】

の五家宗派の系圖を圖示し且つ論じたものである。五家宗派のことを論述するもの宋に建觀あり、次いで覺範あり、更に夢堂の重校五家宗派序に至つて是正を加ふるあれども尙ほ不完全にして妥當を缺く。日本の虎關の五家辨はよく従来の支那の諸書の過誤を正したものである。著者は毎に五家辨を讀みしが、その文の繁多にして頗る難解なるをうらみ此れに大綱をあげて誌したものが此の書である。道原傳燈錄、夢堂宗派序、虎關五家辨の三者の作れる五家の系圖をあげ、これを簡単に評論したものである。蓋し虎關、一東の五家辨系統の研究は推賞すべきものなれども、尙ほ多数の碑文等を集めて研究すべき餘地ありと思はれる。

○(日) Go-in-sho (馬田行啓) 蓮宗宗學全書法華宗部 ○日眼(長祿三—永正一 A. D. 1439—1514)撰

○陣門流本成寺派(今の法華宗)の日眼が日興の作と稱する『五人所破抄』(其の項を見よ)を簡明に批判斥破したものである。宗學全書所載の本書は、其の序言及び奥書に依れば承應二年智門院日求が江戸伊豆子長應寺日恩の請に應じて送つた寫本に依つたもので、日求の私見が加へられてある。初めに五人所破抄に於て五人謗法富士正義と主張するに五箇條ありとて「一、大聖人御抄可爲和字事。一、鎌倉五人云天台沙門無謂事。一、一部五種行過時之事。一、一體佛之事。一、天目房不可讀法方便品立大謗法之事」を挙げ、第一條に對しては所破抄の説に同意を表明し、其の他に對しては同門流の立場から斥破を加へてゐる。

○(日) Go-in-sho (馬田行啓) 蓮宗宗學全書法華宗部 ○日眼(長祿三—永正一 A. D. 1439—1514)撰

○陣門流本成寺派(今の法華宗)の日眼が日興の作と稱する『五人所破抄』(其の項を見よ)を簡明に批判斥破したものである。宗學全書所載の本書は、其の序言及び奥書に依れば承應二年智門院日求が江戸伊豆子長應寺日恩の請に應じて送つた寫本に依つたもので、日求の私見が加へられてある。初めに五人所破抄に於て五人謗法富士正義と主張するに五箇條ありとて「一、大聖人御抄可爲和字事。一、鎌倉五人云天台沙門無謂事。一、一部五種行過時之事。一、一體佛之事。一、天目房不可讀法方便品立大謗法之事」を挙げ、第一條に對しては所破抄の説に同意を表明し、其の他に對しては同門流の立場から斥破を加へてゐる。

○(日) Go-in-sho (馬田行啓) 蓮宗宗學全書法華宗部 ○日眼(長祿三—永正一 A. D. 1439—1514)撰

○陣門流本成寺派(今の法華宗)の日眼が日興の作と稱する『五人所破抄』(其の項を見よ)を簡明に批判斥破したものである。宗學全書所載の本書は、其の序言及び奥書に依れば承應二年智門院日求が江戸伊豆子長應寺日恩の請に應じて送つた寫本に依つたもので、日求の私見が加へられてある。初めに五人所破抄に於て五人謗法富士正義と主張するに五箇條ありとて「一、大聖人御抄可爲和字事。一、鎌倉五人云天台沙門無謂事。一、一部五種行過時之事。一、一體佛之事。一、天目房不可讀法方便品立大謗法之事」を挙げ、第一條に對しては所破抄の説に同意を表明し、其の他に對しては同門流の立場から斥破を加へてゐる。

●名所行發 ●(名庫書)者處所現 ●月年の刊寫 ●(書考)多書釋註書本 ●說解管内 ●代年作者 ●著 ●缺 ●數 ●(名書)名題 ●號略字數

●名所行發 ●(名庫書)者處所現 ●月年の刊寫 ●(書考)多書釋註書本 ●說解管内 ●代年作者 ●著 ●缺 ●數 ●(名書)名題 ●號略字數

【一】

sei-gwan-ryak-kyō-shū. ① 一巻 ② 存
 ③ 良定(天文一三—寛永一六 A. D. 1544—1539)述 ④ 刊本(正大一七九—一七)
五百大阿羅漢記 ① (日) Go-iyaku-fai-a-ra-kan-ki. ② 一巻 ③ 存 ④ 大雲(一明治九 A. D. 1876)述 ⑤ 刊本(正大一〇五—四一)
五百弟子自說本起經 ① (日) Go-hyaku-de-shi-ji-setsu-hon-gi-kyō. (支) Wu-pai-ti-tai-shuo-pen-chi-ching. 佛五百弟子自說本起經 ② 一巻 ③ 存 ④ 大正四・一九〇 No. 199 縮印六、北333頁、南846頁、元349頁、明北725卷、清725卷、麗836卷、天333卷、至800無、法320城、至1067上、明南716卷、No. 729 ⑤ 法法藏譯 ⑥ 西晉泰安二(A. D. 303)
 ⑦ 對照本及び内容 本經は佛が五百の上品と共ニ阿羅漢建王(Anantaka)の招請をうけ、その宮殿に於て各自本起造る所の自らを詳述を講じたる本生話三十篇の纂集である。然れども本起造る所は、佛(第三十巻)と大迦葉以下二十九人の上品(初二十九巻)との本生話に止まり、題名の示す五百弟子の大部分の見えぬ。最初の序文を除き、各品凡て佛頌を以て終始し、その間は、本起の特徵の一ひあらう。漢譯中本起の異譯と稱せらるるものは、巴利經典中 Khuddaka Nikaya 中の Apadana (2) 聖賢傳協會は二部として出版すは本經に相當するものである。然し本起は佛、小教の弟子の自說本起にすぎぬのに反して、Apadana は佛本起、佛覺本起を初めとして

長老本起五四七篇、長老尼本起四〇篇を含む大部のものである。全經佛頌に終始することは本經に同じく、けれども、本起の短き序文は巴利傳にはない。因みに本起の第三十巻世尊品は彼に比し順序も異り内容も簡潔なれども、興起行經の十條を全部載せしむることは注意すべきことであらう。以下初二十九巻に自らの本起を説ける比丘の名を挙げ、巴利の明なるものとの之を究つ、赤沼智善氏の對照表に従ひ Apadana 所出の卷数を挙げ置かう。(比丘名は同時に各巻の品名である)
 (一) 大迦葉(Mahakassapa) A. II. 3
 (二) 舍利弗(Sariputta) A. III. 1
 (三) 摩訶目犍連(Mahamoggallāna) A. II. 2
 (四) 輸提陀(淨修)
 (五) 須菩提(善念・Sumanā)
 (六) 須菩提(明慧・Sona Kalivisa) 十位其
 A. II. 386
 (七) 凡者(取善・Vasāga) A. II. 541
 (八) 賓頭盧(名聞) Binodita Bhadravajja) A. II. 8
 (九) 貨鳩(善來・Sagara) A. II. 32
 (十) 難陀(欣樂・Nanda)
 (十一) 夜耶(名聞・Yasa)
 (十二) 正利羅
 (十三) 海拘盧(賈姓・Bakula) A. II. 393
 (十四) 摩訶阿(大長)
 (十五) 優婆塞業(Uruveḷa Kassapa) A. II. 535
 (十六) 伽耶(提取・Gaya-Kassapa) A. II. 535
 (十七) 樹提(喬・Tulika)
 (十八) 羅吒(想羅・Ratapaḷa) A. II. 18

(十九) 貨提(Sati Kevatputra)
 (二十) 彌承迦業
 (二十一) 朱利般毒(Catupantaka) A. II. 14
 (二十二) 離提施(Sappadisa)
 (二十三) 阿那律(無憂・Anuruddha) A. II. 4
 (二十四) 彌迦弗(度子・Migaputta)
 (二十五) 羅漢(Rahula) A. II. 16
 (二十六) 難陀(Nanda) A. II. 15
 (二十七) 難陀(Bhaddiya) A. II. 43
 (二十八) 羅漢提提(Takuntaka Bhaddiya) A. II. 538
 (二十九) 摩訶和律致(Madhuvasejha)
 (三十) 中有名なる難陀は二十六品に難陀を以て十品の難陀は之を別人である。
 (三十一) (參考) 三寶記第六、内典錄第三、譯經圖記第二、開元錄第二、貞元錄第三(寺時修) 1)
五百婆羅門問有無經 ① (日) Go-hyaku-ba-ra-mo-mo-nu-u-mu-kyō. (支) Wu-pai-po-to-men-wen-yu-wu-ching. ② 一巻 ③ 存 ④ 失譯 ⑤ (參考) 出三藏記第一、法經錄第三、三寶記第五、仁壽錄第五、靜泰錄第五、内典錄第二、武周錄第一
五百本生經 ① (日) Go-hyaku-hon-jō-kyō. (支) Wu-pai-pen-sheng-ching. ② 一巻 ③ 存 ④ 遺書代摩訶乘譯 ⑤ (參考) 開元錄第一、貞元錄第二、五
五百梵志經 ① (日) Go-hyaku-bon-shi-kyō. (支) Wu-pai-fan-chi-ching. 亦
 有亦無經、五百婆羅門問有無經、亦失譯 ⑥ 長傳經 ⑦ (參考) 出三藏記第三、

法經錄第四、仁壽錄第四、靜泰錄第四、内典錄第一、開元錄第一、貞元錄第二、
五百梵律經抄 ① (日) Go-hyaku-bon-ritsu-kyō-shū. (支) Wu-pai-fan-lu-ching-ch'ao. ② 一巻 ③ 疑偽經 ④ (參考) 出三藏記第五、開元錄第一、貞元錄第二、

五百問經釋 ① (日) Go-hyaku-mon-kyō-shaku. (支) Wu-pai-wen-ching-shih. ② 一巻 ③ 存 ④ 明代永海撰 ⑤ 寫本(京大、藏一四一〇)
五百問經略解 ① (日) Go-hyaku-mon-kyō-ryak-gai. (支) Wu-pai-wen-ching-lyao-chieh. ② 一巻 ③ 存 ④ 明代性撰撰 ⑤ 寫本(京大、藏一四一〇)
五百問事 ① (日) Go-hyaku-mon-ji. (支) Wu-pai-wen-shih. ② 一巻 ③ (參考) 傳教大師將來越州錄
五百問事經 ① (日) Go-hyaku-mon-ji-kyō. (支) Wu-pai-wen-shih-ching. ② 一巻 ③ 失譯 ④ (參考) 開元錄第三、貞元錄第五
五百問論 ① (日) Go-hyaku-monron. (支) Wu-pai-wen-lun. 法華五百問論、釋疑 ② 三巻 ③ 存、記續二・五・四 ④ 唐湛然(京大、藏一建三 A. D. 711—785)撰 ⑤ 刊本(正大一三三・一三六・八七)(龍大、研佛)(立大、A. 一・二・一八四)(寶、4・7・左・八)
五百問論註 ① (日) Go-hyaku-monron-ron-ten-cha. 法華五百問論註 ② 三巻 ③ 存 ④ 寫本(元、一五一明和

名所行發 (名庫書) 著藏所現 月年の刊寫 (書考) 參書釋註 清水 説解管内 代年作著 著書 録存 數巻 (名書) 名題 號略字數

【二】

六 A. D. 1702—1769) 註 ⑤ 寛政七刊(山門正藏院版) ⑥ (谷大、倫大、六三六)(京大、藏一五・一)
五百幼童經 ① (日) Go-hyaku-yō-dō-kyō. (支) Wu-pai-yū-tōng-ching. ② 一巻 ③ 存、生經卷第四(大正三・九五 No. 154) ④ 法法藏譯 ⑤ 西晉太康六(A. D. 285)
五百幼童經 ① (日) Go-hyaku-yō-dō-kyō. (支) Wu-pai-yū-tōng-ching. 五百童子經 ② 一巻 ③ 失譯 ④ 生經第四巻の抄出 ⑤ (參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一、貞元錄第二、六
五百羅漢像記 ① (日) Go-hyaku-ra-kan-zō-ki. ② 一巻 ③ 存 ④ 徵定(文化一—明治二四 A. D. 1814—1891)記 ⑤ 刊本(正大、一〇五—四〇)
五百羅漢像記 ① (日) Go-hyaku-ra-kan-zō-ki. ② 一巻 ③ 存 ④ 元祿四刊 ⑤ (帝國、二一四・八五)
五百羅漢像傳 ① (日) Go-hyaku-ra-kan-zō-ki-den. (支) Wu-pai-lohan-hing-yen-chuan. ② 一巻 ③ 存 ④ (參考) 朝鮮佛敎總書刊行豫定書目
五表章 ① (日) Go-hyō-shō. ② 一巻 ③ 存 ④ 尊隆(正和一一至德二 A. D. 1313—1385)撰 ⑤ (參考) 本朝古祖撰述密部書目
五拍子鉢鉢突燦祭文月日聲明
相承次第 ① (日) Go-hyō-shi-eyō-bachi-tsaki-yō-sai-mon-gessu-nichi-shō-

川時代寫 ⑥ (寶龜院) ⑦ 一帖 ⑧ 存 ⑨ 德
五瓶移作法 ① (日) Go-byō-t-sa-hō. ② 一帖 ③ 存 ④ 慶安時代寫 ⑤ (寶龜院) ⑥ 一帖 ⑦ 存 ⑧ 寫本(金剛三昧院)
五瓶異說 ① (日) Go-byō-ise-sō. ② 一帖 ③ 存 ④ 德川時代寫 ⑤ (寶龜院) ⑥ 一紙 ⑦ 存 ⑧ 德川時代寫 ⑨ (寶龜院)
五瓶行遣 ① (日) Go-byō-gyō-dō. ② 一紙 ③ 存 ④ 德川時代寫 ⑤ (寶龜院)
五瓶方位 ① (日) Go-byō-hō-i. ② 一紙 ③ 存 ④ 德川時代寫 ⑤ (寶龜院)
五不可得經 ① (日) Go-ika-kō-kyō. 現代意譯五不可得經 ② 一巻 ③ 存、現代意譯根本佛敎聖典叢書第四卷一阿含抄 ④ 赤沼智善譯
五怖畏集 ① (日) Go-fu-i-shū. ② 一巻 ③ 最澄(神護堂雲元一弘仁三 A. D. 767—822)撰 ④ (參考) 山家祖德撰述篇目集卷上、本朝古祖撰述密部書目
五怖畏集諸家集 ① (日) Go-fu-i-shū-shū-ke-shū. ② 一巻 ③ 最澄(神護堂雲元一弘仁三 A. D. 767—822)撰 ④ (參考) 山家祖德撰述篇目集卷上、本朝古祖撰述密部書目
五部威儀所服經 ① (日) Go-hu-i-shi-shō-boku-kyō. (支) Wu-pu-wai-i-so-fu-ching. 五部威儀經 ② 一巻 ③ 存 ④ 失譯 ⑤ (參考) 出三藏記第四、法經錄第五、仁壽錄第五、靜泰錄第五、武周錄第一、開元錄第五、貞元錄第八、第一二五
五部簡條目錄 ① (日) Go-bu-kan-jō-moku-roku. ② 一巻 ③ 存 ④ 寛文七刊

⑤ (正大、一五〇—四)
五部各別鈔召印信 ① (日) Go-bu-kaku-betsu-kō-shō-in-jin. ② 一紙 ③ 存 ④ 德川時代寫 ⑤ (寶龜院)
五部肝心記 ① (日) Go-bu-kān-jin-ki. 金剛胎藏總行五部肝心記 ② 一巻 ③ 存、大正七八・三七 No. 2467 ④ 眞濟(延暦一九一—貞觀二 A. D. 800—860)撰 ⑤ 金剛界法華の次第を示したものであ
 るが、頭次第に類した簡単な記述法を用ひ、一部分は眞言を示してある。
 ⑥ 明正五寫(高大、寄一・六四)久安四寫(高山寺)永仁五寫(高山寺)元祿八寫(金剛三昧院) (小田慈舟)
五部九卷條簡 ① (日) Go-bu-ku-kwan-jō-kan. ② 一巻 ③ 存 ④ 延寶六刊
五部九卷要義釋觀門義鈔 ① (日) Go-bu-ku-kwan-jō-ge-shaku-kyō-an-mon-gi-shō. 觀經要義釋觀門義鈔、觀門要義鈔、觀門義、自筆鈔 ② 四十二巻 ③ 存、大日本佛敎全書第五一五六、西山全書第三一四 ④ 證空(治承元—實治元 A. D. 1177—1247)述 ⑤ 建保元—嘉祿二(A. D. 1213—1225)
五部共會四分律含注戒本疏行宗記 ① (日) Go-bu-kyō-e-shi-bun-ritsu-gan-hō-kai-hon-shō-kyō-sha-ki. 四分律含注戒本疏行宗記、行宗記 ② 二十一巻 ③ 存、記續一・六二・一一五 ④ 宋元照(慶曆八一—政和六 A. D. 1048—1116)述、即併會 ⑤ 明和八刊 ⑥ (谷大、倫大、二〇〇)

五部血脈 ① (日) Go-bu-ketchi-myaku. 頂戴牛頭法門、相承頂戴之法門 ② 一巻 ③ 存、日本大藏經第四〇天台宗顯教章疏第二、傳教大師全集第四 ④ 最澄(神護堂雲元一弘仁三 A. D. 767—822)
 ⑤ 本書は一念成佛義、生死覺用抄(又は本無生死論)、法華經大意、理觀論、及び法華題目五部を合して名づけたるもの、また一には頂戴牛頭法門とも名づけ、或はまた相承頂戴之法門と呼ばれ、比較山の實録に納められたる一人相傳の秘要と稱する。而してこの五部の書は、づれも日本天台義に立ちて觀心修行の要を説けるもので、所謂の本覺思想のみなきつたものである。蓋し佛(つ)之を取捨の述作と稱するも、事實は然らずして、勿論後世の偽作とせねばならない。殊に一念成佛義の偈文は、牛頭法門要義の第十即身成佛の文と殆ど同一であり、また生死覺用抄の長行文は、即ち牛頭法門要義の第五三惑頓斷と全同であり、而してその偈文は、またこれ牛頭法門要義の第九生死涅槃の文と全同であつて、甚だ混雜して居る。況や生死覺用抄そのものは、從來或は道徳の作とも稱し、或はまた伊勢道空の著す所とも傳へ、諸説紛々としてその歸する所がない。本書の價值たるや、また推して之を知るべきであらう。
五部所斷法並五縛記 ① (日) Go-bu-shō-dan-hō-narabini-go-bak-ki. ② 一巻 ③ 存 ④ 龍溪(文化六一—慶應三 A. D. 1809—1867)撰 ⑤ 寫本(谷大、倫大、三九〇

名所行發 (名庫書) 著藏所現 月年の刊寫 (書考) 參書釋註 清水 説解管内 代年作著 著書 録存 數巻 (名書) 名題 號略字數

【二】

五部掌訣 ①(日)Go-bu-shū-keitsu. (支)Wu-pu-chang-chiaeh. ②1巻 ③(参考) 惠運律師將來教法日録

五部心觀 ①(日)Go-bu-shin-gwan. 檀多僧藥理五部心觀 ②1巻 ③存、佛教圖像集古之内 ④唐書無畏譯 ⑤檀多僧藥理五部心觀の下を見よ。

五部陀羅尼問答傳讀宗祕論 ①(日)Go-bu-da-ra-ni-mon-dō-ge-sa-an-shū-iron. 五部宗祕論 ②1巻 ③存、大正七八・九・No. 343、弘法大師全集第五事相部 ④空海(實録五)承和二A.D. 774-835)撰 ⑤廣く五部諸尊の陀羅尼の秘義等を明す。 ⑥正徳六刊 ⑦龍大、二六六一・四三〇(正大、一四三二・一七)(金山釋迦)

五部大乘經講式 ①(日)Go-bu-dai-jō-kyō-kyō-shiki. ②1巻 ③(参考)川治元一元亨元A.D. 1240-1321)撰 ④(参考)諸宗章疏録第二

五部大乘經釋 ①(日)Go-bu-dai-jō-kyō-shaku. ②1帖 ③存 ④永仁四寫 ⑤(寶善提院)

五部大乘捷徑錄 ①(日)Go-bu-dai-jō-shō-kei-roku. ②四巻 ③存 ④(参考)寛永一七一(元禄八 A.D. 1640-1695)撰 ⑤元禄五刊 ⑥(正大、一三六・八一)(各六、餘大・五五四)(高大、寄・一三三)(龍大、二〇三・一五)

五部秘經傳授要略 ①(日)Go-bu-hi-kyō-den-jō-yō-ryaku. ②三巻或五巻 ③存 ④上田照通(文政一一一明治四〇A.D. 1828-1907)述 ⑤刊本(高大、寄・一・三二)(谷大、餘大、三三六〇)(京專)

五福施經 ①(日)Go-fuku-e-kyō. (支)Wu-fu-shih-ching. ②1巻 ③(参考)西晉竺法護(太始二)建興元A.D. 313-373)譯 ④(参考)仁壽録第五、靜泰録第五、武周録第二、開元録第一五、貞元録第二五

五福德經 ①(日)Go-fuku-tok-kyō. (支)Wu-fu-te-ching. ②1巻 ③(参考)失譯 ④(参考)出三藏記第三、三寶紀第六、内典録第二、武周録第一、開元録第二、第一四、貞元録第四

五佛灌頂等 ①(日)Go-butsu-kan-jō-etc. ②1包 ③存 ④德川時代寫 ⑤(寶善提院)

五佛五五大等相配 ①(日)Go-butsu-go-dai-go-dai-ō-sō-hai. ②1折 ③存 ④德川時代寫 ⑤(寶善提院)

五佛五五大等相配無畏不空 ①(日)Go-butsu-go-dai-go-dai-ō-sō-hai-mu-ō-ku. ②1帖 ③存 ④寫本(金剛三昧院)

五佛頂三昧陀羅尼經 ①(日)Go-bu-tō-san-mai-dā-ra-ni-kyō. (支)Wu-bu-tō-san-mai-dā-ra-ni-ching. ②四巻 ③存、大正一九・二六三・No. 936、縮成四、指933巻、494巻、三十帖策子 ④唐菩提流志(太建四)開元一五A.D. 572-727)譯 ⑤唐長壽II(A.D. 693-) ⑥菩提流志三藏譯(一字佛頂輪王經五巻)

(大正、一九)と、不空三藏譯の菩提場所説一字頂輪王經五巻(大正、一九)との異本であつて、釋迦牟尼佛が摩竭陀國の菩提道場で、一字頂輪王の三昧に入つて、諸魔を降伏する爲に説かれたものである。四巻の中第一巻には、序品第一に於て釋尊が菩提樹下に於て、金剛密速首菩薩等に對して、一切如來の大明咒法である一字轉輪王法を説く緣由を明し、五佛頂王陀羅尼入三摩地加持願德品第二には五佛頂王とは、一字金輪佛頂・白傘蓋佛頂・超頂王・勝頂王・光榮頂王であるが、中でも一字金輪佛頂が最勝である意を説き一字頂輪王寶佛法品第三に一字頂輪王の曼荼羅の畫法が示されてあり、五佛頂三摩地神變加持化像品第四には白傘蓋佛頂以下の四佛頂の曼荼羅の畫法が明されてある。第二巻には五佛頂王行相三昧耶品第五には五佛頂王呪を修行する行相等を明し、五頂王儀法秘密品第六には五頂王を修行する場所・食事・結界・臥床法を成し、五頂王成就法品第七には修法の成就には、護身・結界・結印が必要であること、及び釋尊を中尊とする曼荼羅の様式等を説き、第三巻の五頂王密印品第八には五十五の眞言と印契とを明し、第四巻の五頂王修證悉地品第九には本尊の像に、華蓋の動くこと、畫像の上に大光明を放つこと、及び像自ら動搖することの三相が現すれば、悉地成就の前兆であることが説かれてある。五頂王菩提成就法護摩品第十には請喚身呪・一切供養呪・請火天呪・發遣火天呪・一切頂王心呪・大摧碎頂王呪・摧惡鬼神呪・大難勝頂王呪。

名所行發 (名所書) 著者所現 月年の刊寫 (書考) 多書釋註 書本 說解書内 代年作者 著者 缺存 載色 (名書) 名題 號鳴字數

【二】

五種戒本 ①(日)Go-bun-kaiton. (支)Wu-len-chieh-pen. ②1巻 ③(参考)Wu-len-chieh-pen. ④1巻 ⑤(参考)D. 1828-1907)述 ⑥刊本(高大、寄・一・三二)(谷大、餘大、三三六〇)(京專)

五分羯磨 ①(日)Go-bun-ke-mo. (支)Wu-fen-chieh-mo. 彌沙塞羯磨本 ②1巻 ③存、大正二二・一九四No. 1423、縮張二、二九・八、北918、南921外、元917外、明北1151外、清1151外、麗908隨、天909外、指816隨、法891隨、至1221隨、明市1251卷、Nj. 1157 ④佛陀什等譯 ⑤劉宋景平元一(A.D. 423-424)

五分比丘尼戒本 ①(日)Go-bun-bi-ku-ni-kei-hon. (支)Wu-fen-pi-chih-pen. ②1巻 ③存、大正二二・一〇六No. 1423、縮張二、二九・八、北919外、南922外、元918外、明北1153外、清1153外、麗912外、天910外、指874外、法900隨、至1222隨、明市1269卷、Nj. 1158 ④明徵集 ⑤梁普通三(A.D. 522)

五分律 ①(日)Go-bun-ritsu. ②唐Wu-fen-lü. (支)Mahāśāsaka-vinaya. 彌沙塞部五分律、彌沙塞部和醴五分律、彌沙塞律 ③三十巻 ④存、大正二二・一・No. 1421、縮張一一、二九・八・九一〇、北899上上和、南913上上和、元900上上和、明北1117而益録、清1117而益録、麗902尊

五分便經 ①(日)Go-hō-ben-kyō. (支)Wu-fan-pien-ching. ②1巻 ③(参考)失譯 ④(参考)出三藏記第四、法經録第三、三寶紀第五、仁壽録第五、靜泰録第五、内典録第二、武周録第二、開元録第二、第一五、貞元録第三、第二五

五方便念佛法門抄 ①(日)Go-hō-nen-butsu-anon-shō. ②1巻 ③(参考)東城傳燈目錄卷下、入唐新求聖教目錄卷下、入唐新求聖教目錄卷下、隋智願(梁大同四)隋開皇一十A.D. 535-597)一説中大通三A.D. 531)述

五方便念佛法門 ①(日)Go-hō-nen-butsu-anon. (支)Wu-fang-pien-nien-fa-men. 五方便念佛法門、五方便門 ②1巻 ③存、大正四七・八一No. 1962、二續二、一一三 ④隋智願(梁大同四)隋開皇一十A.D. 535-597)一説中大通三A.D. 531)述

五種の念佛する方法を主部とし、その前に念佛する時に於て五種の諸觀禪あるを説き、その後に一行三昧に關する問答、畫像觀禪に關する問答、及び化法四教の念佛の意義を略説す。

名所行發 (名所書) 著者所現 月年の刊寫 (書考) 多書釋註 書本 說解書内 代年作者 著者 缺存 載色 (名書) 名題 號鳴字數

【一】

〔支〕Wu-fang-pien-men. 五方便念佛門
 ① 卷 ② 存、大正四七・八一〇No. 1963
 〔支〕二・三 ③ 附智願(中大通三)開
 皇十 A. D. 531-597) ④ 刊本(龍大、
 研佛)
五方龍王神咒經 ① (日)Go-hō-ryū
 -ji-shū-kyō. (支)Wu-fang-lung-wang
 -shen-chou-ching. ② 1 卷 ③ 失譯
 〔參考〕武周錄第一
五法 ① (日)Go-hō. ② 1 卷 ③ 存、
 慈覺尊者全集第六尼圖第一之六 ④ 慈覺
 飲光(享保三)文化元 A. D. 1718-1804) ⑤
 ⑥ 沙彌を度する時和上が説く所の五法のこ
 とを述べた書である。五法とは髮、毛、
 爪、齒、皮の五種にいろいろ用心である。
 本書の釋は善見論卷十六に依つたものであ
 る。(小田慈舟)
五法經 ① (日)Go-hō-gyō. (支)Wu-fa
 -ching. ② 1 卷 ③ 缺 ④ 後漢安世高譯
 〔參考〕仁壽錄第五、靜泰錄第五、開元
 錄第一五、貞元錄第二五
五法經 ① (日)Go-hō-gyō. 現代意譯
 五法經 ① 卷 ② 存、現代意譯根本佛敎
 聖典叢書第四卷一阿含抄 ③ 赤沼智善譯
五峰語錄 ① (日)Go-hō-go-roku.
 ② 1 卷 ③ 存 ④ 〔參考〕譯目録
五峰寺事蹟 ① (日)Go-hō-ji-jiseki.
 (支)Wu-fang-sa-shih-chi. ② 1 卷 ③ 存
 〔參考〕朝鮮佛敎總書刊行決定書目
五寶合作法 ① (日)Go-hō-gō-sa-
 -hō. ② 1 帖 ③ 存 ④ 德川時代寫 ⑤ (寶
 龜院)

五寶等 ① (日)Go-hō. ② 1 紙
 ③ 存 ④ 德川時代寫 ⑤ (寶善提院)
五寶等勸文 ① (日)Go-hō-tō-kwan
 -mon. ② 1 帖 ③ 存 ④ 鎌倉時代寫(寶龜
 院)嘉永三寫(寶善提院)
五凡夫論 ① (日)Go-hon-bu-ron.
 (支)Wu-fan-fu-lun. ② 1 卷 ③ 疑偽經
 〔參考〕法經錄第五、仁壽錄第四、武周
 錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八
五味義記 ① (日)Go-mi-gi-ki. ②
 千觀(延喜一八)永觀元 A. D. 918-983
 設水觀二、年六六歲撰 ③ 〔參考〕諸宗
 章疏錄第二、山家祖德撰諸目集卷下
五味義私記 ① (日)Go-mi-gi-shi-
 -ki. ② 1 卷 ③ 缺 ④ 良源(延喜一一)寛
 和元 A. D. 912-985) ⑤ 〔參考〕本朝
 台祖撰諸密書目、山家祖德撰諸目集卷
 上
五味義私記 ① (日)Go-mi-gi-shi-
 -ki. ② 缺 ③ 源信(天慶五一)寛仁元 A. D.
 942-1017) ④ 〔參考〕諸宗章疏錄第
 二、本朝台祖撰諸密書目、山家祖德撰
 諸目集卷下
五味證文 ① (日)Go-mi-shō-mon.
 ② 1 卷 ③ 缺 ④ 最澄(神護景雲元)弘仁
 一三 A. D. 767-823) ⑤ 〔參考〕山家
 祖德撰諸目集卷上、本朝台祖撰諸密書
 目
五明集 ① (日)Go-myō-shū. (支)
 Wu-ming-chi.
 ① 諸佛志に云く「或説梵僧吉弗煙、同曇
 曜、撰五明集、以廣付法藏傳、吉弗煙、即吉
 迦夜也」云々。
 〔參考〕諸佛志卷上
五明論 ① (日)Go-myō-ron. (支)
 Wu-ming-lun. ② 1 卷 ③ 缺 ④ 撰那跋
 陀羅撰 ⑤ 〔參考〕開元錄第一四、貞元錄
 第二四
五明論 ① (日)Go-myō-ron. (支)
 Wu-ming-lun. ② 五卷 ③ 疑偽經 ④ 〔參
 考〕仁壽錄第四
五無經 ① (日)Go-mu-kyō. (支)Wu
 -mu-ching. ② 1 卷 ③ 疑偽經 ④ 〔參考〕
 武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第
 二八
五無反復經 ① (日)Go-mu-hōm-
 bu-kyō. (支)Wu-wu-fan-fu-ching. 五
 反覆大義經 ② 1 卷 ③ 存、大正一七・五
 七三No. 751. 縮前七、一五、一、北852
 南855、元859、明北738、清738、
 麗854、天854、指814、法830、無
 1086上、明南735、No. 742 ④ 沮渠京聲
 (大明八 A. D. 464) ⑤ 劉宋孝建二
 (A. D. 455)
 ⑥ 本經は具きには佛説五無反復經、一に五
 反覆大義經といひ、王舍城の一梵志、舍衛國
 の人々は孝順にして、よく三寶を敬敬する
 と聞きて、舍衛城に赴くに、途に一農夫の
 子耕作中に毒蛇のために噛み殺されたのを
 見、その父も、母も、その姉も妻も、僕婢
 も、一向にこれを悲しまず、生あるものは
 死し、全て因縁の和合によつても止住
 してゐるのであると見れば、縁がなければ
 離れるのが當然であり、憂ひ悲しむも、

死者のためには何等の利益もなうものと、
 平然としてゐるのを嘆き、これこそ反復の
 なうものであるとして、祇園精舎に詣り
 て、佛に教へを受けるや、佛はこれらの五
 人のもこそ反復あるものとして、諸行無
 常の理りを説き、梵志をして淨眼を開かし
 め給ふことを説いたものである。
 〔參考〕三寶紀第一〇、内典錄第四、譯
 經圖記第三、開元錄第五、貞元錄第八
 (林五邦)
五無反復經 ① (日)Go-mu-hōm-bu-
 -kyō. (支)Wu-wu-fan-fu-ching. ② 1
 卷 ③ 失譯 ④ 〔參考〕出三藏記第三、法
 經錄第三
五無返復經 ① (日)Go-mu-hōm-
 bu-kyō. (支)Wu-wu-fan-fu-ching. 五無
 返覆大義經 ② 1 卷 ③ 存、大正一七・五
 七三No. 752. 縮前七、一五、一、明北
 738、No. 743 ④ 沮渠京聲(大明八 A.
 D. 464) ⑤ 劉宋孝建二(A. D. 455)
 ⑥ 本經は具きには佛説五無返復經、一に五
 無返覆大義經といひ、麗、元、本にこれ
 を缺き、明本にのみ收録するもの、五無
 反復經とともに同一人の譯出なるも、字句
 の上に多少の相違がある、その内容は二經
 同一のものである。(林五邦)
五母子經 ① (日)Go-mo-shū-kyō.
 (支)Wu-mu-tō-ching. ② 1 卷 ③ 存、
 大正一四・九〇五No. 555. 縮前七、一
 四、一、北772、南784、元778、明北
 634、清634、麗775、天773、指
 734、法761、至1008、明南633、

【二】

Ni. 638 ① 支譯譯 ② 吳黃武二一建興二
 (A. D. 233-253)
 ③ 本經は八歳の童子が阿羅漢について道を
 學び、遂に四通を得、その宿命通によつ
 て、自が前生の五人の母が、相會して吾子
 の早世を悲しみ、愁ひに沈んでゐるのを見
 て、世間の人は後の世を知らずして、徒に
 死をのみ悲しんでゐるが、今自分は世間を
 厭うて、父母の許を去つて道を求め、度脫
 するを得た悦びを師に述べたものであ
 る。
 〔參考〕三寶紀第五、内典錄第二、譯經
 圖記第一、開元錄第二、貞元錄第三
 (林五邦)
五母子經 ① (日)Go-mo-shū-kyō.
 (支)Wu-mu-tō-ching. ② 1 卷 ③ 失譯
 〔參考〕出三藏記第三、法經錄第三
五二乘論 ① (日)Go-mon-ichū-
 -ron. ② 2 卷 ③ 存 ④ 妙瑞撰 ⑤ 寛保三
 刊 ⑥ 高次、卷一・二四(龍大)二四三五・
 一一一(研佛)(京專)
五門乘論支鈔 ① (日)Go-mon
 -chi-jō-ron-shi-shō. ② 三卷 ③ 存 ④ 延
 享五寫 ⑤ (龍大)二四二五・三三
五門實相論 ① (日)Go-mon-jisō-
 -ron. (支)Wu-men-shih-hsian-g-lun. 十地
 五門實性論 ② 六卷 ③ 缺 ④ 〔參考〕奈
 良朝現在一切經疏日録2645
五門禪經要用 ① (日)Go-mon-zen
 -gyō-yō-yō. (支)Wu-men-ch'an-ching-
 yao-yung. ② 1 卷(第二譯) ③ 缺 ④ 宋
 皇朝實多(一元嘉元一八 A. D. 424-441

一)譯 ⑤ 〔參考〕仁壽錄第五、靜泰錄第
 五、開元錄第一五
五門禪經要用法 ① (日)Go-mon-
 zen-gyō-yō-yō-hō. (支)Wu-men-ch'an-
 ching-yao-yung-fa. 禪經要用法、五門禪要
 法 ② 1 卷 ③ 存、大正一五・三二五No.
 619. 縮卷六、北1005、南1025、元1017、
 明北1375、英、清1375、天、麗1013、天、1015、
 指969、法994、至1455、明南1098、
 宋元嘉元一八(A. D. 424-441)
 ④ 本書は一に五門禪要法、禪經要用法とも
 云ふ、坐禪の要法として、數息觀、不淨
 觀、慈心觀、因緣觀、念佛觀の五にござ
 つ、その觀法の一々を詳述したもので、こ
 の五要法はもと衆生の病に應じてのもので
 あつて、亂心のものには數息觀を、貪愛心
 多きものには不淨觀を、瞋心多きもの
 は慈心觀を、我執の強きものには因緣觀
 を、心没するものには念佛觀を教へ、も
 修行者にして善心あるも、未だ念佛三昧に入
 らざるものには、一心に觀佛すべきことを
 教へ、殊に觀佛の法について力説したもの
 である。
 〔參考〕出三藏記第二、三寶紀第一〇、
 内典錄第四、譯經圖記第三、開元錄第五、
 貞元錄第七 (林五邦)
五門禪經用法經 ① (日)Go-mon-
 zen-gyō-yō-yō-gyō. (支)Wu-men-ch'an-
 yao-yung-fa-ching. ② 1 卷(第一譯) ③
 缺 ④ 後漢安世高(一建和二)建寧三 A. D.
 148-170) ⑤ 〔參考〕開元錄第一五、

貞元錄第二五
五門要用法經 ① (日)Go-mon-yō-
 yō-yō-gyō. (支)Wu-men-yao-yung-fa-
 ching. ② 1 卷 ③ 缺 ④ 後漢安世高(一
 建和二)建寧三 A. D. 148-170) ⑤
 〔參考〕開元錄第一五
五問題講義 ① (日)Go-mon-dai-
 -gi. ② 1 卷 ③ 存 ④ 堀江慶了(一明治二
 九 A. D. 1896) ⑤ 明治一五寫 ⑥ (各)
五問答釋 ① (日)Go-mon-dō-shaku.
 ② 1 帖 ③ 存 ④ 德川時代寫 ⑤ (寶龜院)
五惟越羅名解脫經 ① (日)Go-yū-
 -oisu-ra-myō-ge-datsu-kyō. (日)Wu-wei-
 -yueh-lo-ming-chieh-to-ching. ② 1 卷
 ③ 缺 ④ 魏吳代失譯 ⑤ 〔參考〕出三藏記
 第四、法經錄第五、三寶紀第五、仁壽錄第
 一、第二二、開元錄第二、第一五、貞元錄
 第三、第二五
五亂經 ① (日)Go-ran-gyō. (支)Wu
 -tan-ching. ② 1 卷 ③ 缺 ④ 失譯 ⑤
 〔參考〕出三藏記第四、武周錄第一二、開
 元錄第五、第一五、貞元錄第八、第二五
五力經 ① (日)Go-riki-kyō. 現代意
 譯聖典叢書第四卷一阿含抄 ③ 赤沼智善譯
五律宗 ① (日)Go-ri-shū-shō. ② 1 卷
 ③ 撰然(仁治元)元亨元 A. D. 1240-1321)
 撰 ④ 〔參考〕諸宗章疏錄第二
五流正統尊龍院世系傳 ① (日)
 Go-ryū-shū-tō-gō-son-ryū-in-sei-kei-den.
 ② 1 卷 ③ 存 ④ 寫本(帝室)一一四・二五

【コ】

観、五輪九字秘釋 ①一卷 ②存、大正七
九・一・No. 354、興教大師全集之内、密嚴
諸經第六 ③覺經(喜保二一康治三A.D.
1095—1143)撰

④一名は頓悟性生秘觀とも稱し、略して五
輪九字秘釋とも云ふ。此書の著作の年代は
其跋文に明かなるが如く、興教大師の入滅
の前々年より入滅までの間である。此書は
眞言宗と淨土教との融合を説きたる新主張
の存すると共に、興教大師自ら成佛せりと
云ふ體驗の事實記とも見る可きものである。
故に興教大師の御著作中には最肝最
要の書なると同時に一般佛教史から見
れば聖道門より淨土門に移る架橋とも見る
べきことが出来る。五輪とは大日如來の三
昧耶曼荼羅である空風水地のこと、九字
とは阿彌陀如來の眞言である。〇〇〇〇、
〇〇〇〇、〇〇〇〇のことで、此五輪と九字と
は同一體なりと云ふことを説いたものであ
る。即ち、序文に毘盧佛院、同體異名。極
樂密嚴、名異一處なりとありて、大日如來
と阿彌陀如來とは一體で、極樂淨土と密嚴
淨土とは同處である旨を説いたのである。
此書は序文と正宗分十門と跋文とより成立
つて居る。第一門の擧法權實同題門には、
總説と十住心と顯密差別を擧げ、第二正入
秘密眞言門を分類すれば

因發心の異傳を擧げ、五藏と五字との關係
を擧げ

地輪	阿彌陀如來	肝藏	五轉	五色	五行
水輪	阿彌陀如來	肺藏	發菩提心	東方	青
火輪	寶生如來	心藏	證菩提果	南方	赤
風輪	不空成就如來	腎藏	行者提行	西方	白
空輪	大日如來	脾藏	入涅槃理	北方	黑
			具足方便	中央	黃
				土	土

我身の五藏が即ち五如來なれば、我身が即
ち佛身であると主張し、弘法大師が現身に
成佛せりと宣言して居る。而して五字と五
藏の關係を委説し、五行の相生相剋に依つ
て身體の健康と疾病が生ずる旨を明し、
最後に即身成佛義を擧げて居る。次に九
字九品報身門には、阿彌陀如來の眞言の九
字の句義と字義を委説して居る。第二の總
攝法界法身の法身建立門には五種法身の新
説を提示して字宙人格の主張を明かにして
次の實修實行門には觀音菩薩を中尊として
阿彌陀如來を眷屬とする、最極深秘の曼荼
羅を新に圖繪し、因と果とを述べて、因
人たる興教大師自身が已成佛の諸佛諸菩薩
を眷屬とする旨を暗示して居る。第三正獲
功德無量門には眞言修行者の得る所の功德
の最勝なることを明し、第四所作自成實行
門には、信仰が確立すれば平生の行爲が直
に秘密行となる旨を説き、第五總修一行成
多門には、阿彌陀如來の一修法を修するの
みにても、密教の廣大の修行と同じ證得あ
る旨を説き、第六上品上生現證門には、極
樂に往生せし人を指示し、普通の人とし
て、韋提夫人、月蓋長者、龍樹菩薩、護法

五輪九字明秘密釋 ①(日)Go-in
Ichi-kyō-in-ishi-shaku. 國譯五輪九
字明秘密釋 ②一卷 ③存、國譯密教論釋
第一

五輪抄 ①(日)Go-in-shū. ④十一
卷 ⑤存 ⑥契中記 ⑦(參考) 諸宗章疏
錄第二、本朝古撰撰述密都書目、山家祖德
撰述諸日集卷下、密乘撰述目錄

五輪成身法密記 ①(日)Go-in-
shū-to-anshū-shi. ②一帖 ③存 ④鎌倉
時代寫 ⑤(高次、寄一・六四)

五輪投地次第 ①(日)Go-in-to-
shū-tai. 胎藏界念誦次第 ②存、弘法大師
全集第六 ③空海(實德五・承和二A.D.
774—835)撰

胎藏法次第である。而も外題諸本一定せ
ず、或は胎藏界念誦次第、又は作證次第、
打系抄、五輪投地次第とも稱す、五
輪投地次第と云ふは本文の最初に五輪投地
云々の文あるに依る。

享保九寫 ①(京都大通寺) (金山秘藏)
五輪塔婆圖 ①(日)Go-in-tōhō-zu
②一軸 ③存 ④徳川中期末寫 ⑤(金剛
三昧院)

五例講義 ①(日)Go-in-kyō-shi. (支)
Wa-ri-chiang-i. ②一卷 ③存 ④宋代則
安撰 ⑤刊本(龍大、二四二・九)

吾人の宗教 ①(日)Go-in-kyō-shi
②一卷 ③存 ④鳥島敏著 ⑤明治
三五刊 ⑥(谷大、餘洋・八二)

吳雲錄 ①(日)Go-in-ryūku. ③存
④吳雲法曇語 ⑦(參考) 禪籍目録

五輪九字明秘密釋 ①(日)Go-in
Ichi-kyō-in-ishi-shaku. 國譯五輪九
字明秘密釋 ②一卷 ③存、國譯密教論釋
第一

五輪抄 ①(日)Go-in-shū. ④十一
卷 ⑤存 ⑥契中記 ⑦(參考) 諸宗章疏
錄第二、本朝古撰撰述密都書目、山家祖德
撰述諸日集卷下、密乘撰述目錄

五輪成身法密記 ①(日)Go-in-
shū-to-anshū-shi. ②一帖 ③存 ④鎌倉
時代寫 ⑤(高次、寄一・六四)

五輪投地次第 ①(日)Go-in-to-
shū-tai. 胎藏界念誦次第 ②存、弘法大師
全集第六 ③空海(實德五・承和二A.D.
774—835)撰

胎藏法次第である。而も外題諸本一定せ
ず、或は胎藏界念誦次第、又は作證次第、
打系抄、五輪投地次第とも稱す、五
輪投地次第と云ふは本文の最初に五輪投地
云々の文あるに依る。

享保九寫 ①(京都大通寺) (金山秘藏)
五輪塔婆圖 ①(日)Go-in-tōhō-zu
②一軸 ③存 ④徳川中期末寫 ⑤(金剛
三昧院)

五例講義 ①(日)Go-in-kyō-shi. (支)
Wa-ri-chiang-i. ②一卷 ③存 ④宋代則
安撰 ⑤刊本(龍大、二四二・九)

吾人の宗教 ①(日)Go-in-kyō-shi
②一卷 ③存 ④鳥島敏著 ⑤明治
三五刊 ⑥(谷大、餘洋・八二)

吳雲錄 ①(日)Go-in-ryūku. ③存
④吳雲法曇語 ⑦(參考) 禪籍目録

名所行設 (名庫書) 著者所現 (月年の刊寫) (書考多書釋註) 書本 (説解管内) 代年作著 (著者) 缺存 (載色) (名書) 名題 (號略) 字數

【コ】

吳漢音韻傳 ①(日)Go-tan-on-in-
den. ②一卷 ③存 ④寫本(高次、寄一・
五七)

吳漢兩音法華經安樂行品 ①(日)Go-
kan-ryō-on-hō-ke-kyō-an-ri-
ku-kyō-hon. ②一卷 ③存 ④刊本(京
大、一・三三・四一五)

吳山淨端禪師語錄 ①(日)Go-san-
jō-tan-zen-jō-gō-kyō. (支) Wu-shan-
ching-tan-chen-shih-jō-ta. 吳山禪師
語錄、安和尙語錄 ②二卷 ③存、正徳
三・三・三 ④師成(一編平三A.D. 1236—)
重編

雲門宗に屬する吳山淨端禪師の語録を、
劉誠の序、宋嘉定二年(A.D. 1209) 道場山
の定隆の序、徳洪(洪覺範)の西余端禪師
傳、劉澗の行業記、林梅の墓誌等を附し
て、宋端平三年六月望日(A.D. 1236) 法
孫の師成が重編し、施財鑄板して刊行した
ものである。後、明萬曆二十年二月十三日
(A.D. 1592) 進賢真可禪師が序し、徽州の
吳惟明によつて鑄刊された。

吳山の法系は、徳洪の傳、進賢の序には
姑蘇の翠峯慧月に嗣ぐとあり、續藏本の目
録に於ては金山覺に嗣ぎ雙泉師寛の系に屬
すとあり、劉澗の序、及び行業記には、杭
州龍華の寶覺齊岳に嗣ぐとある。然し、五
燈會元卷十二、嘉泰普燈錄卷三、續燈錄卷
八、續傳燈錄卷九、教外別傳卷九、指月錄
卷二十五、等により、吳山淨端は龍華の寶
覺齊岳に嗣ぎ、齊岳は各陞靈巖に嗣ぎ、首
山省念、風穴延沼、寶應慧顯、興化存笑、

臨濟義玄と連る法系であらう。其の列次を
見ると、上記の序説、傳、行業記等を前後
として、卷上に長興壽聖禪寺語錄、西余大
覺禪師語錄、雲山孝感禪師語錄、卷下に約
一百編の詩偈、書、讚、示世偈等を収めて
居る。吳山淨端禪師は、吳興歸安の人、字
を明表、別號を安和尙、端師子と稱し
た。宋崇寧三年正月七日(A.D. 1104) 壽七
十四、臘四十九にして示寂された。

明萬曆二〇刊 ①(駒大) (大久保堅瑞)
吳竹雜記 ①(日)Go-chiku-zaki-ki.
②五卷 ③存 ④寫本(谷大、宗大・二六〇
七)

吳中石佛相好儀 ①(日)Go-chū-
shō-butsu-ō-gō-shō-ki. (支) Wu-chung-
shih-tsu-ashang-fao-shan-i. 禮吳中石佛
起止儀式 ②一卷 ③存、正徳二乙・二・二
④明代傳燈編

内題には「禮吳中石佛記止儀式、天台山
南溪沙門傳燈集」とある。浙江地方にて古
き靈佛として有名な會稽の妙相寺にある維
衛佛を対象として禮讚し懺悔する儀式であ
る。妙相寺維衛佛とは、齊永明六年太歲
戊辰於吳郡敬造維衛尊像、なる三行正書の
題字ある石佛にして、古き石佛造像例の少
き南齊のものとして著名であり、且この佛
像に就いてやがて種々の靈驗説話が附會さ
れ支那有数の靈佛として佛教徒の信仰を
集めたものである。維衛佛は過去七佛の第
一とさる、毘婆尸佛であつて、この儀式は
一心頂禮過去維衛尊像を稱し石佛の相好
を讚歎する歌讚を唱へ懺悔發願する法要次

後宇多院御灌頂記 ①(日)Go-
daigo-kyō-kanjō-ki. ③存、群書類從第
一五種家部之内 ④藤原隆長記 ⑤徳治三
(A.D. 1308)

本書は徳治三年正月二十六日、後宇多法
皇が東寺灌頂院に於て、兩部灌頂を受けさ
せ給ひし御時の行事、並に翌二十六日大阿
闍梨御教誡、並に法皇御恩賞仰せなどの事
を、當時法皇の近臣、從三位藤原隆長之が
奉行たりしを以て奉記に記述したるもの
である。此記によれば、法皇は御灌頂の爲
に此年正月五日より東寺兩院御幸の上、三
七日間灌頂御前行あり。灌頂當日には大阿
闍梨は神助大僧正、灌頂院道場飾付、親
王、公卿の恩從、色無行列の有様、目の前
に見る様子を書かれてある。特に興味あるこ
とは、東寶記を見ても列らぬ當時の灌頂院
の建築物は五間四面の灌頂堂で、其南に七
間の禮堂、其北に五間四面の護摩堂と、其
西に圓伽井があつたと明白に記されてある
ことである。(土宜豊了)

後宇多院御灌頂記 ①(日)Go-
daigo-kyō-kanjō-ki. ③存、群書類從第
一五種家部之内 ④藤原隆長記 ⑤徳治三
(A.D. 1308)

本書は徳治三年正月二十六日、後宇多法
皇が東寺灌頂院に於て、兩部灌頂を受けさ
せ給ひし御時の行事、並に翌二十六日大阿
闍梨御教誡、並に法皇御恩賞仰せなどの事
を、當時法皇の近臣、從三位藤原隆長之が
奉行たりしを以て奉記に記述したるもの
である。此記によれば、法皇は御灌頂の爲
に此年正月五日より東寺兩院御幸の上、三
七日間灌頂御前行あり。灌頂當日には大阿
闍梨は神助大僧正、灌頂院道場飾付、親
王、公卿の恩從、色無行列の有様、目の前
に見る様子を書かれてある。特に興味あるこ
とは、東寶記を見ても列らぬ當時の灌頂院
の建築物は五間四面の灌頂堂で、其南に七
間の禮堂、其北に五間四面の護摩堂と、其
西に圓伽井があつたと明白に記されてある
ことである。(土宜豊了)

名所行設 (名庫書) 著者所現 (月年の刊寫) (書考多書釋註) 書本 (説解管内) 代年作著 (著者) 缺存 (載色) (名書) 名題 (號略) 字數

【コ】

持興隆すべしとの御態度の如何に眞摯に
て恭敬なもので御ありなかつたか、能く
窺はれるのである。本書の原本即ち天皇の
御宸翰は、京都市嵯峨大本山大覺寺門跡に
現存し、國寶となつて居る。

後宇多院御幸記

①(日)Go-u-ta-i-in-mai-yuki-no-ki. 仙理記 ②存、續群書類從第四帝王部

①本書一名仙理記と云ひ、正和二年八月、後宇多法皇が高野御參詣の御幸記である。法皇八月六日嵯峨の御所を出御せられ、九日御登山、十日より十六日迄御登山、此間奥院金堂御參拜は申す迄もなく、十二日より十四日に至る三日間は論議を行ひ、法皇之を聽聞遊され給ふ。又十五日夜は特に奥院御參籠あり、靈瑞を感應せさせ給ひしと、十六日御下山天野を經、觀心寺、龍養寺、高貴寺、磯長の御廟などを御巡禮、二十日嵯峨大覺寺に還御せられ給ふとあり。本記は其奥書に正和二年癸丑九月檀林朽木頼清志とあれば、御幸の後、間もなくして記したる様なれども、文章餘りに形容に過ぎ、眞を失ふかの觀あるは、誠に惜むべしと云ふ也。

後宇多法皇

①(日)Go-u-da-ho-o-ki. 大覺寺編 ②(京)存

後宇多院法皇御灌頂記

①(日)Go-u-da-in-ho-gokuwan-jiki. 後宇多院御灌頂記 ①軸 ②存 藤原隆長記 ③德治三(A. D. 1308) ④寫本(寶善院藏)

後宇多法皇と大覺寺兩心經殿

に就て

①(日)Go-u-da-ho-o-to-dai-kaku-ji-tsuketari-shio-gyo-den-n-tsui-ko. ①卷 ②存 ③黒板勝美述、大覺寺心經會編 ④大正一〇刊 ⑤(高)大、一、三三三

後落葉集

①(日)Go-ochi-ha-shu. ②存、行誼上人全集之内 ③福田行誼(文化三—明治二一 A. D. 1806—1885)述

①福田行誼の詠じた和歌を集めたものに落葉集があり、それに漏れたるものを集めたのが、この後落葉集と、後落葉集拾遺である。歌の数は春が六十七首、夏が四十七首、秋が七十一首、冬が六十首、雜歌が九十五首「この中には普陀落山親自在菩薩三十三所拜禮の言葉」といふを頭に置きて三十三首の春夏秋冬各神祇釋教無常觀に涉つてゐるや、鐵舟寺十景、十二光佛のうち八佛等がある、述懐や、題歌、贈答等の二百二十二首、長歌三首、阿彌陀佛の五字を經緯してよめる歌がある。拾遺には普爲大施主の五首の外四十五首が收録されてゐる。(中谷在禪)

後加持

①(日)Go-ka-ji. ①帖 ②存 ③德川時代寫 ④(寶善院藏)

後加持作法

①(日)Go-ka-ji-sa-ho. ①卷 ②存 ③德川時代寫 ④(寶善院藏)

後加持法則

①(日)Go-ka-ji-ho-so-ban. ①軸 ②存 ③足利時代寫 ④(寶善院藏)

後學篇

①(日)Go-gaku-hen. ②11卷 ②存 ③學信享保七—寛政元 A. D. 1723—1789)撰 ④寫本(正大、一五五八、1723—1789)撰 ⑤寫本(正大、一五五八、1723—1789)撰

後嵯峨院宸筆御八講記

①(日)Go-sa-e-in-shim-pitsu-go-hank-ko-ki. ②存、群書類從第一五種家部、新校群書類從第一八

後光嚴院三十三回聖忌記

①(日)Go-ko-gon-in-san-ju-san-ke-ni-shio-ki-ki. ②存、群書類從第一五種家部

後五百歳合文

①(日)Go-go-i-yaku-ki. ①1卷 ②存、日蓮聖人御遺文之内、原文對照口譯譯日蓮上人全集第五之内 ③日蓮(貞應元—弘安五 A. D. 1223—1283)撰 ④文應元(A. D. 1260)

後櫻町天皇七回忌覺

①(日)Go-sakura-machi-tenno-7-kaishi-ka-ki. ①1卷 ②存 ③文政二寫 ④(帝室、一四一〇)

後櫻町天皇年忌法要覽

①(日)Go-sakura-machi-tenno-nen-ji-ho-ron. ①1卷 ②存 ③寫本(帝室、一四一〇)

後三教見聞

①(日)Go-san-kyo-kenmon. ②2卷 ②存 ③惠德撰 ④寛永二二刊 ⑤(龍大、二六三九—四八)谷大、餘大、二九二〇(正大、一三九—二二〇) ⑥(普、ま、一、左、一七) ⑦(京大、一、二六、一、一)

後七日

①(日)Go-shichi-nichi. 後七日御修法由緒作法、後七日由緒作法 ②1

後花山院相國記

①(日)Go-kawa-nin-no-ho-ken-ki. ①1卷 ②存 ③文永七年御八講のことを記す。 ④寫本(京大、五、一七別)

後光嚴院三十三回聖忌記

①(日)Go-ko-gon-in-san-ju-san-ke-ni-shio-ki-ki. ②存、群書類從第一五種家部

後五百歳合文

①(日)Go-go-i-yaku-ki. ①1卷 ②存、日蓮聖人御遺文之内、原文對照口譯譯日蓮上人全集第五之内 ③日蓮(貞應元—弘安五 A. D. 1223—1283)撰 ④文應元(A. D. 1260)

後櫻町天皇七回忌覺

①(日)Go-sakura-machi-tenno-7-kaishi-ka-ki. ①1卷 ②存 ③文政二寫 ④(帝室、一四一〇)

後櫻町天皇年忌法要覽

①(日)Go-sakura-machi-tenno-nen-ji-ho-ron. ①1卷 ②存 ③寫本(帝室、一四一〇)

後三教見聞

①(日)Go-san-kyo-kenmon. ②2卷 ②存 ③惠德撰 ④寛永二二刊 ⑤(龍大、二六三九—四八)谷大、餘大、二九二〇(正大、一三九—二二〇) ⑥(普、ま、一、左、一七) ⑦(京大、一、二六、一、一)

後七日

①(日)Go-shichi-nichi. 後七日御修法由緒作法、後七日由緒作法 ②1

後七日

①(日)Go-shichi-nichi. 後七日御修法由緒作法、後七日由緒作法 ②1

後七日

①(日)Go-shichi-nichi. 後七日御修法由緒作法、後七日由緒作法 ②1

【コ】

①(日)Go-shichi-nichi. 後七日御修法由緒作法、後七日由緒作法 ②1

①(日)Go-shichi-nichi. 後七日御修法由緒作法、後七日由緒作法 ②1

①(日)Go-shichi-nichi. 後七日御修法由緒作法、後七日由緒作法 ②1

①(日)Go-shichi-nichi. 後七日御修法由緒作法、後七日由緒作法 ②1

①(日)Go-shichi-nichi. 後七日御修法由緒作法、後七日由緒作法 ②1

①(日)Go-shichi-nichi. 後七日御修法由緒作法、後七日由緒作法 ②1

①(日)Go-shichi-nichi. 後七日御修法由緒作法、後七日由緒作法 ②1

①(日)Go-shichi-nichi. 後七日御修法由緒作法、後七日由緒作法 ②1

①(日)Go-shichi-nichi. 後七日御修法由緒作法、後七日由緒作法 ②1

①(日)Go-shichi-nichi. 後七日御修法由緒作法、後七日由緒作法 ②1

①(日)Go-shichi-nichi. 後七日御修法由緒作法、後七日由緒作法 ②1

①(日)Go-shichi-nichi. 後七日御修法由緒作法、後七日由緒作法 ②1

①(日)Go-shichi-nichi. 後七日御修法由緒作法、後七日由緒作法 ②1

①(日)Go-shichi-nichi. 後七日御修法由緒作法、後七日由緒作法 ②1

①(日)Go-shichi-nichi. 後七日御修法由緒作法、後七日由緒作法 ②1

①(日)Go-shichi-nichi. 後七日御修法由緒作法、後七日由緒作法 ②1

①(日)Go-shichi-nichi. 後七日御修法由緒作法、後七日由緒作法 ②1

①(日)Go-shichi-nichi. 後七日御修法由緒作法、後七日由緒作法 ②1

①(日)Go-shichi-nichi. 後七日御修法由緒作法、後七日由緒作法 ②1

【コ】

(龍大、研真) 後世物語録 ①(日)Go-se-monogatari-roku. ②一巻 ③存 眞宗全書第四五 ④了詳(天明八—天保一三 A.D. 1788—1842)述 ⑤天保七(A.D. 1836) ⑥了詳師述の後世物語開書講義と文辭に少しく違つたところもあるが内容は大體同一である。同一講義を別人の筆録したものに相違ない。(柏原龍義)

後醍醐天皇元弘勸願所淨光明寺案内 ①(日)Go-tai-go-tenno-temple-kyoan-sho. ②一巻 ③存 大正三輪信俊編 大正八刊 ④(高)大寄・一・三三三

後醍醐波經 ①(日)Go-tai-go-ha-kyo. ②一巻 ③存 現代宣譯根本佛敎聖典叢書第二中阿含經抄 ④宇野圓空、林五邦共譯

後土御門院十三回聖恩記 ①(日)Go-tsuchi-no-kado-ji-isan-ki. ②一巻 ③存 群書類從第一五釋家部 ④永正九年九月執行された先帝後土御門院十三回忌の法要の記録である。九月二十八日が御命日で、二十三日より三日間、禁中清涼殿に於て法華懺法講を行はせられ、諸役補任等ありて、二十三日發願、二十四日中日、二十五日結願の各模様を互願記録したものが本書である。(紀氏隆真)

後傳法記 ①(日)Go-den-ho-ki. ②一巻 ③存 圓珍(弘仁五—寛平三 A.D. 814—891)説寛平四、年七八(寛)撰 ④(参考) 山家祖徳撰述當日集巻上、本朝台祖撰述密部書目、密乘撰述目録

後傳法記 ①(日)Go-den-ho-ki. ②二巻 ③存 光定(實徳)一〇—天安二 A.D. 779—858)撰 ④(参考) 本朝台祖撰述密部書目、山家祖徳撰述當日集巻下

後鳥羽院御願禮記 ①(日)Go-to-beru-tenno-temple-ki. ②一冊 ③存 ④紀吉繼記 ⑤享和二寫 ⑥寫本(谷大、餘大、四二三一)

後東陵漫談 ①(日)Go-to-ri-man-dan. ②存 國文東方佛敎叢書第四卷隨筆部 ③(参考) 聖空光謙(承應元—元文四 A.D. 1652—1739)述 ④享保一五(A.D. 1730)三月十八日—四月二十三日

聖空光謙和上が比叡山三塔の大衆並に安樂律院の律徒の請に依りて説話したものを、侍者古林が筆受し、古雲が編集したものである。是より先享保九年四月十三日より十五日に至る三日間、大衆並に律徒の爲めに説話したのを集めたものに前東陵漫談があるので、これを後東陵漫談と名付けた。前回の時は法語を記録するは宜くないと止めたが、密に記録したものがあつて、異聞異説があると聞えたので、此度は侍者にして筆記せしめたのだと、勇頭に記してある。

聖空自から初めに人をしかる嘲しが多、と云つてるやうに、末徒を戒諭することが多く、學問に就て忘言得意と云ふことを説きて、一步を引つて談じ、引歌のこと、教生觀音經のこと、即念佛の功徳利益を長明の發心集と、教生觀音經に得たりとてこれを読み、但當の文字のこと、有文有義常人用之、無文無義智者用之、有文無義時者用之、無文無義迷者用之の事を論じ、若今圓論の點の事を説き、融二大千沙界於一塵、會十世古今於當念の文章に就て、嚴格なる批評を下してゐる。十念相續章和解、並に止觀大意講録に就ての兩條の書付、三通共に一貫者に渡し置けりて記して、本文には省かれ、最後に三月二十三日光謙口授して書付させ畢ぬと結んである。(中谷在禪)

後入唐傳 ①(日)Go-ni-to-den. ②宗觀(大同四—元慶八 A.D. 809—884)撰 ③(参考) 本朝台祖撰述密部書目

後伏見帝宸筆和譯觀無量壽經 ①(日)Go-fushimi-tenno-temple-shin-wa-kyo. ②一巻 ③存 天保五刊 ④(龍大、研真)

後辨辨 ①(日)Go-hei-ben. ②一巻 ③存 寫本(帝國、一九六九)

後母經 ①(日)Go-mo-kyo. ②(支)Hou-mo-kyo. ③一巻 ④存 仁壽錄第四、武周錄第一五、開元錄第一八、貞元錄第二八

後桃園天皇五十回忌覺 ①(日)Go-momoto-tenno-temple-jo-ikku-ki. ②一巻 ③存 文政一一寫 (帝國、一一四一九)

後問答 ①(日)Go-mon-da. ②一帖 ③存 寫本(實徳院)

後問答印信 ①(日)Go-mon-da-jo-in. ②一帖 ③存 寫本(高、大、寄・一・七〇)

七〇(徳川時代寫(實徳院)) 後問答大事 ①(日)Go-mon-da-ji. ②一巻 ③存 徳川時代寫 ④(實徳院)

後夜護摩次第 ①(日)Go-yaku-ma-shi-dai. ②一帖 ③存 徳川時代寫 ④(實善提院)

後夜金界 ①(日)Go-yaku-kon-ka. ②一帖 ③存 後夜金界中院流 ④一帖 ⑤存 有快(貞和元—應永三 A.D. 1342—1416)撰 ⑥應永五寫 ⑦(高、大、寄・一・六八)

後夜作法 ①(日)Go-yaku-sa-ho. ②一帖 ③存 徳川時代寫 ④(實善提院)

後夜胎藏界 ①(日)Go-yaku-tai-zan-ka. ②一巻 ③存 寫本(京大、印哲、N・四三三)

後夜胎藏大日護摩灌頂護摩次第金剛王院 ①(日)Go-yaku-tai-zan-da-ichi-go-ma-kwan-ji-go-ma-shi-dai-kon-go-in. ②一帖 ③存 徳川時代寫 ④(實善提院)

後夜投花 ①(日)Go-yaku-toge. ②一巻 ③存 明治時代寫 ④(實徳院)

後夜道場圖 ①(日)Go-yaku-dojo-zan. ②一紙 ③存 足利時代寫 ④(實徳院)

後夜念誦 ①(日)Go-yaku-nen-ju. ②一帖 ③存 南北朝、足利時代、元祿四寫 ④(實善提院)

後夜念誦 ①(日)Go-yaku-nen-ju. ②一帖 ③存 夜念誦中院流 ④一帖 ⑤存 寛延三寫 (高、大、寄・一・六八)寫本(實徳院)

後夜念誦 ①(日)Go-yaku-nen-ju. ②一帖 ③存 夜念誦西大寺方 ④一帖 ⑤存 天保一五寫 ⑥(高、大、寄・一・六八)

後夜念誦開書口訣 ①(日)Go-yaku-nen-ju-ki-ku. ②一帖 ③存 足利時代寫 ④(實徳院)

後夜念誦作法 ①(日)Go-yaku-nen-ju-sa-ho. ②一帖 ③存 元祿一二寫 ④(實徳院)

後夜念誦事 ①(日)Go-yaku-nen-ju-no-koto. ②一帖 ③存 徳川時代寫 ④(實徳院)

後夜念誦事口決 ①(日)Go-yaku-nen-ju-no-koto-ku. ②一帖 ③存 寫本(金剛三昧院)

後夜念誦事口決 ①(日)Go-yaku-nen-ju-no-koto-ku. ②一帖 ③存 寫本(金剛三昧院)

夜念誦西大寺方 ①一帖 ②存 天保一五寫 ③(高、大、寄・一・六八)

名所行發 (名庫書) 著者所撰 月年の刊行 (書考參書釋註) 書本 説解内容内 年代作者 著者 録存 巻巻 (名書) 名題 號略字數

【コ】

三願、十一巻一帖は久しく入録されなかつたので後年偽題としての疑を起すことを怖れ、入藏を請ひ、貞元經録に編入することを許されたが、それを機會に、この三經を傳來せる悟空大徳の傳記を記すのであると、著者圓照は云つて居る。従つてその内容は悟空が入竺求經の次第である。悟空は支那唐代、上都章敬寺の入竺僧で、俗名は奉朝。張船先に従つて蘭國に往し、偶々重病に罹つて歸國することが出来ず、全快の後には病中の誓願に従ひ剃髮し達摩都と名を改めた。時に齡二十七、二十九歳にて具足戒を受け、それより西域印度の各地を巡禮の後、舍利越摩より前記三經の梵本及佛牙舍利を授けられて歸途に著き、貞元六年二月難路を犯して上都に歸る。實寺所の佛牙と經本を上るや勅に依つて章敬寺に住することになつた。悟空は彼地に在りしこと實に四十年、とある。宋高僧傳中の悟空傳記は、本記に依るものと如くである。(三好隆雄)

悟溪和尚語錄 ①(日)Go-kei-o-sho. ②二巻 ③存 悟溪宗頌話、宗桂校 ④(参考) 扶桑釋林書目 ⑤寛延三刊 ⑥(駒大)

悟後更迷關 ①(日)Go-go-ko-ma-ki. ②二巻 ③存 支樓奧能(享保五—文化一〇 A.D. 1720—1813)撰 ④(参考) 前掲目録

悟性論 ①(日)Go-sho-ron. ②(支)Wa-shing-ron. ③達磨大師悟性論 ④一巻 ⑤存、己續二・一五・五

悟窓客談 ①(日)Go-ko-kyaku-dan. ②二巻 ③存 (参考) 釋籍目録

悟澄略傳 ①(日)Go-chu-ryaku-den. ②安藏本本典開版者悟澄略傳 ③一巻 ④存 寫本(龍大、別置)

悟道の歌 ①(日)Go-do-no-uta. ②一巻 ③存 實田敏郎著 ④大正一三刊 ⑤(龍大、二〇五五・一(京大、一・二六・三二))

悟道ののみちびき ①(日)Go-do-no-michi-biki. ②一巻 ③存 五十嵐絶聖編 ④明治四一刊 ⑤(駒大) ⑥東京萬山堂

悟道の妙味 ①(日)Go-do-no-myō-ji. ②一巻 ③存 高階瑞仙著 ④大正八刊 ⑤(東京隆文館)

悟道百話 ①(日)Go-do-hyaku-wa. ②一巻 ③存 刊本(駒大) ④京都貝葉書店

悟道辨 ①(日)Go-do-hen. ③存 平田篤胤全集巻一 ④平田篤胤(安永五—天保一四 A.D. 1776—1843)述 ⑤明治四四刊 ⑥(駒大) ⑦東京一教堂

悟道錄 ①(日)Go-do-roku. ②一巻 ③存 山田孝道(文久三—昭和三 A.D. 1863—1928)述 ④大正四刊 ⑤(駒大) ⑥東京教學館

悟法鈔 ①(日)Go-ho-sho. ②一巻 ③(参考) 源信(天慶五—寛仁元 A.D. 912—1017)述 ④(参考) 諸宗章疏録第二

悟法秘 ①(日)Go-ho-hi. ③(参考) 源信(天慶五—寛仁元 A.D. 912—1017)述 ④(参考) 本朝台祖撰述密部書目

悟由禪師廣錄 ①(日)Go-yu-zen-ho-kyo. ②大徳悟由(大正四 A.D. 1915)撰 ③森田悟由(大正四 A.D. 1915)撰 ④五十嵐悟道編 ⑤大正一〇刊 ⑥(駒大) ⑦東京三合庵

悟由禪師法話集 ①(日)Go-yu-zen-ho-ho-wa-shu. ②永平悟由(永平悟由)撰 ③一巻 ④存 森田悟由(大正四 A.D. 1915)述 ⑤明治四三刊 ⑥(駒大) ⑦東京萬山堂

悟山舊稿 ①(日)Go-san-kyo-ko. ②獨撰撰稿 ③二巻 ④存 獨撰撰稿 ⑤寛永五—寛永三 A.D. 1628—1706)撰 ⑥(参考) 刊本(駒大)

御遺室流瀆記 ①(日)Go-an-shitsu-ri-to-ki. ②一巻 ③存 光宥記

御遺迹記 ①(日)Go-i-seki-ki. ②五巻 ③存 先啓(享保五—寛政九 A.D. 1720—1797)撰 ④(正)大・一・六三・三六

御遺文錄 ①(日)Go-i-mon-roku. ②高僧御遺文錄 ③三十巻 ④存 日蓮(貞應元—弘安五 A.D. 1222—1282)撰

御一宗御法脈御系譜書 ①(日)Go-isshu-go-ho-myakur-go-kei-tsu-sho. ②一巻 ③存 寫本(龍大、別置)

御一代記開書 ①(日)Go-ichi-dai-ki-kai-sho. ②蓮如上人御一代記開書、蓮

名所行發 (名庫書) 著者所撰 月年の刊行 (書考參書釋註) 書本 説解内容内 年代作者 著者 録存 巻巻 (名書) 名題 號略字數

【一】

如上人御一代開書 ②二卷 ③存、大正八
三・八〇九 No. 2669、蓮如上人全書、眞宗
法要第二二二二、眞宗假名聖教之内
④蓮如、應永二二一明應八 A. D. 1415—
1499)述、聖書、蓮悟編 ⑤蓮如上人御一
代記開書(下)を見よ ⑥元祿二刊(龍大、研
眞)文化八刊(谷大、宗小・八二)刊本(龍大、
一・二二二・二二一三)

御一代記開書講義 ①(日)Go-tchi-
-dai-ki-kiki-gaki-ko-gi. 蓮如上人御一代
記開書講義 ②十卷或六卷 ③存、眞宗大
系第二九一三〇 ④深淵(寛延二—文化一
四 A. D. 1749—1817)述 ⑤寫本(谷大、宗
丙・三〇、宗小・一〇五)

御一代記開書講義 ①(日)Go-tchi-
-dai-ki-kiki-gaki-ko-gi. ②五卷 ③存
④法海(明和五—天保五 A. D. 1769—1834)
述 ⑤(参考) 眞宗大系刊行豫定書目

**御一代記開書第八十八箇條
講義** ①(日)Go-tchi-dai-ki-kiki-ga-
-ki-dai-hyaku-hachi-jo-hakka-jo-ko-gi.
①一卷 ③存 ④義導(文化二—明治一四
A. D. 1805—1881)述 ⑤慶應二(A. D.
1865) ⑥明治二四寫 ⑦(谷大、宗大・三二
一)

御一代記講辨 ①(日)Go-tchi-dai-
-ki-ko-ben. ①一卷 ③存 ④德龍(安永
元—安政五 A. D. 1772—1858)述 ⑤寫本
(龍大)

御一代記開書癸卯記 ①(日)Go-tchi-
-dai-ki-kiki-gaki-ki-bo-ki. 蓮如上人御一代
記開書癸卯記 ②二卷 ③存 ④竹園(明
和六—嘉永四 A. D. 1769—1832)述 ⑤寫
本(龍大、一・二四三—二二四)

御一代記開書講義 ①(日)Go-tchi-
-dai-ki-kiki-gaki-ko-gi. 蓮如上人御一代記開
書講義 ②五卷 ③存 ④智現(一天保六
A. D. 1835)述 ⑤(参考) 眞宗全書刊行豫
定書目

御一代記開書觸光榮轉章聞書
①(日)Go-tchi-dai-ki-gaki-sok-kō-nya
-nan-shō-kiki-gaki. 蓮如上人御一代開書
觸光榮轉章聞書 ②一卷 ③存 ④德龍
(安永元—安政五 A. D. 1772—1858)述 ⑤
寫本(龍大、研眞)

御一代記開書大罪人章聽誌
①(日)Go-tchi-dai-ki-gaki-sok-kō-zai-nin
-shō-cho-shi. ①一卷 ③存 ④德龍(安
永元—安政五 A. D. 1772—1858)述 ⑤寫
本(龍大)

御一代代開書錄 ①(日)Go-tchi-dai-
-kiki-gaki-roku. ②二卷 ③存 ④善行
(寛政四—弘化元 A. D. 1792—1844)述 ⑤
〔参考〕 眞宗全書刊行豫定書目

御衣裳記 ①(日)Go-e-shō-ki. ①
一卷 ③存 ④寫本(龍大、別置)

御繪指圖 ①(日)Go-e-shi-ji-shū.
②二卷 ③存 ④寫本(龍大)

御繪指圖 ①(日)Go-e-shi-ji-shū.
②二卷 ③存 ④寫本(龍大)

御繪傳教授鈔 ①(日)Go-e-den-
-kyō-jū-shū. ②十一卷或七卷 ③存 ④靈
源(元祿二—明和六 A. D. 1698—1769)述
⑤安永四刊(龍大、一・九六一・五五)明治一三

和六—嘉永四 A. D. 1769—1832)述 ⑤寫
本(龍大、一・二四三—二二四)

御一代記開書講義 ①(日)Go-tchi-
-dai-ki-kiki-gaki-ko-gi. 蓮如上人御一代記開
書講義 ②五卷 ③存 ④智現(一天保六
A. D. 1835)述 ⑤(参考) 眞宗全書刊行豫
定書目

御一代記開書觸光榮轉章聞書
①(日)Go-tchi-dai-ki-gaki-sok-kō-nya
-nan-shō-kiki-gaki. 蓮如上人御一代開書
觸光榮轉章聞書 ②一卷 ③存 ④德龍
(安永元—安政五 A. D. 1772—1858)述 ⑤
寫本(龍大、研眞)

御一代記開書大罪人章聽誌
①(日)Go-tchi-dai-ki-gaki-sok-kō-zai-nin
-shō-cho-shi. ①一卷 ③存 ④德龍(安
永元—安政五 A. D. 1772—1858)述 ⑤寫
本(龍大)

御一代代開書錄 ①(日)Go-tchi-dai-
-kiki-gaki-roku. ②二卷 ③存 ④善行
(寛政四—弘化元 A. D. 1792—1844)述 ⑤
〔参考〕 眞宗全書刊行豫定書目

御衣裳記 ①(日)Go-e-shō-ki. ①
一卷 ③存 ④寫本(龍大、別置)

御繪指圖 ①(日)Go-e-shi-ji-shū.
②二卷 ③存 ④寫本(龍大)

御繪指圖 ①(日)Go-e-shi-ji-shū.
②二卷 ③存 ④寫本(龍大)

御繪傳教授鈔 ①(日)Go-e-den-
-kyō-jū-shū. ②十一卷或七卷 ③存 ④靈
源(元祿二—明和六 A. D. 1698—1769)述
⑤安永四刊(龍大、一・九六一・五五)明治一三

名所行發 (名庫書) 著者所現 (月年の刊局) (書考多書詳註) 書本 (説解管内) 代年作著 (著者) 缺存 (載色) (名書) 名題 (號略) 字軌

【二】

と記せり。

④惠安白筆本(谷大、宗甲・四八)
(大須賀秀道)

御詠歌全集 ①(日)Go-ekasen-
-shū. ①一卷 ③存 ④大鳥誠一編 ⑤大
正三刊 ⑥(正大・一〇八・一〇一) ⑦東京
大鳥誠道堂

御影裏書 ①(日)Go-i-ura-gaki.
②二十五點 ③存
④真如二、教如三、宜如八、琢如二、常如
三、一如三、從如三、實如一の御影の裏書
を集めたもの。

⑤寫本(龍大、別置)

御影讀類御裏書寫 ①(日)Go-ei-
-san-ri-on-ura-gaki-utsushi. ①一卷 ③
存 ④寫本(龍大、別置)

御影像記 ①(日)Go-ei-gaki. ②一
卷 ③存 ④惠安(正保元—享保六 A. D.
1644—1721)記 ⑤宗祖の御影像に關する
記述 ⑥元祿二寫 ⑦(谷大、宗甲・一一)
1644—1721)記 ⑧宗祖の御影像に關する
記述 ⑨元祿二寫 ⑩(谷大、宗甲・一一)

御延年眞俗略辨 ①(日)Go-en-
-nen-shū-zoku-ryaku-ben. ①一卷 ③存
④刊本(龍大、一〇五五・四六)

御縁起 ①(日)Go-en-shi. ①一卷
③存、萬代龜鏡録第四 ④刊本(谷大、
大・五八四)

御改革手續書 ①(日)Go-kai-shū-
-te-suzuki-sho. ①一卷 ③存 ④天保一
三刊 ⑤(龍大、一・九七一・一一)

御改革に付石田小右衛門手扣
①(日)Go-kai-kaku-ni-tsuki-tachi-da-ko-
-emon-te-bikae. ②一卷 ③存 ④寫本

和六—嘉永四 A. D. 1769—1832)述 ⑤寫
本(龍大、一・二四三—二二四)

御一代記開書講義 ①(日)Go-tchi-
-dai-ki-kiki-gaki-ko-gi. 蓮如上人御一代記開
書講義 ②五卷 ③存 ④智現(一天保六
A. D. 1835)述 ⑤(参考) 眞宗全書刊行豫
定書目

御一代記開書觸光榮轉章聞書
①(日)Go-tchi-dai-ki-gaki-sok-kō-nya
-nan-shō-kiki-gaki. 蓮如上人御一代開書
觸光榮轉章聞書 ②一卷 ③存 ④德龍
(安永元—安政五 A. D. 1772—1858)述 ⑤
寫本(龍大、研眞)

御一代記開書大罪人章聽誌
①(日)Go-tchi-dai-ki-gaki-sok-kō-zai-nin
-shō-cho-shi. ①一卷 ③存 ④德龍(安
永元—安政五 A. D. 1772—1858)述 ⑤寫
本(龍大)

御一代代開書錄 ①(日)Go-tchi-dai-
-kiki-gaki-roku. ②二卷 ③存 ④善行
(寛政四—弘化元 A. D. 1792—1844)述 ⑤
〔参考〕 眞宗全書刊行豫定書目

御衣裳記 ①(日)Go-e-shō-ki. ①
一卷 ③存 ④寫本(龍大、別置)

御繪指圖 ①(日)Go-e-shi-ji-shū.
②二卷 ③存 ④寫本(龍大)

御繪指圖 ①(日)Go-e-shi-ji-shū.
②二卷 ③存 ④寫本(龍大)

御繪傳教授鈔 ①(日)Go-e-den-
-kyō-jū-shū. ②十一卷或七卷 ③存 ④靈
源(元祿二—明和六 A. D. 1698—1769)述
⑤安永四刊(龍大、一・九六一・五五)明治一三

和六—嘉永四 A. D. 1769—1832)述 ⑤寫
本(龍大、一・二四三—二二四)

御一代記開書講義 ①(日)Go-tchi-
-dai-ki-kiki-gaki-ko-gi. 蓮如上人御一代記開
書講義 ②五卷 ③存 ④智現(一天保六
A. D. 1835)述 ⑤(参考) 眞宗全書刊行豫
定書目

御一代記開書觸光榮轉章聞書
①(日)Go-tchi-dai-ki-gaki-sok-kō-nya
-nan-shō-kiki-gaki. 蓮如上人御一代開書
觸光榮轉章聞書 ②一卷 ③存 ④德龍
(安永元—安政五 A. D. 1772—1858)述 ⑤
寫本(龍大、研眞)

御一代記開書大罪人章聽誌
①(日)Go-tchi-dai-ki-gaki-sok-kō-zai-nin
-shō-cho-shi. ①一卷 ③存 ④德龍(安
永元—安政五 A. D. 1772—1858)述 ⑤寫
本(龍大)

御一代代開書錄 ①(日)Go-tchi-dai-
-kiki-gaki-roku. ②二卷 ③存 ④善行
(寛政四—弘化元 A. D. 1792—1844)述 ⑤
〔参考〕 眞宗全書刊行豫定書目

御衣裳記 ①(日)Go-e-shō-ki. ①
一卷 ③存 ④寫本(龍大、別置)

御繪指圖 ①(日)Go-e-shi-ji-shū.
②二卷 ③存 ④寫本(龍大)

御繪指圖 ①(日)Go-e-shi-ji-shū.
②二卷 ③存 ④寫本(龍大)

御繪傳教授鈔 ①(日)Go-e-den-
-kyō-jū-shū. ②十一卷或七卷 ③存 ④靈
源(元祿二—明和六 A. D. 1698—1769)述
⑤安永四刊(龍大、一・九六一・五五)明治一三

名所行發 (名庫書) 著者所現 (月年の刊局) (書考多書詳註) 書本 (説解管内) 代年作著 (著者) 缺存 (載色) (名書) 名題 (號略) 字軌

【コ】

御勅化聞書 ①(日)Go-kwan-te-kiki-gaki. ②存 ③(参考)淨土真宗聖教目録

御灌頂記 ①(日)Go-kwan-to-ki. ②1巻 ③存 ④正徳四寫 ⑤(帝室、一一一・一一五)

御灌頂御祝儀帳 ①(日)Go-kwan-to-go-shu-te-chō. ②1冊 ③存 ④寶曆六寫 ⑤(寶善院)

御灌頂次第書 ①(日)Go-kwan-to-shi-dai-gaki. ②(尊親王御灌頂次第書) ③1巻 ④存 ⑤寶曆一二寫 ⑥(帝室、一一一・一六五)

御灌頂内願一件記 ①(日)Go-kwan-to-nai-gwan-ik-ken-ki. ②1巻 ③存 ④文政五寫 ⑤(帝室、一一一・一六五)

御願供養法次第 ①(日)Go-gwan-ku-yō-sai-hi-dai. ②1軸 ③存 ④鎌倉初期寫 ⑤(高次、寄、一・六五)

御下向先々法諱日並 ①(日)Go-ge-ko-saki-saki-hō-dan-hi-nami. ②1巻 ③存 ④寫本(龍大、別置)

御系圖 ①(日)Go-keizu. ②1巻 ③實情(明應元一天正一一 A. D. 1492-1583)撰 ④(参考)淨土真宗聖教目録

御境内繪圖 ①(日)Go-kei-dai-e-zu. ②1葉 ③存 ④寫政四寫 ⑤(龍大、別置)

御境内御構内繪圖 ①(日)Go-kei-dai-go-ko-nai-e-zu. ②1葉 ③存 ④寫本(龍大、別置)

御境内寺社町方普請一式 ①(日)Go-kei-dai-ji-sha-machi-kanata-fa-shi-hi-shiki. ②1巻 ③存 ④延享二一三寫 ⑤(帝室、一一一・二一六)

御書術御固被仰出書 ①(日)Go-kei-ei-on-katame-gō-se-ida-sare-sho. ②1巻 ③存 ④寫本(龍大、別置)

御公儀御達書 ①(日)Go-ko-gō-ta-shi-gaki. ②1巻 ③存 ④天保一一寫 ⑤(龍大、別置)

御黒印衆徒法度等寫 ①(日)Go-koku-in-shu-to-hi-do-gō-no-utsushi. ②1帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(寶善院)

御再建御書演説 ①(日)Go-sai-kon-go-sho-en-jetsu. ②1巻 ③存 ④天明八寫 ⑤(龍大、別置)

御裁許次第書並御裁許書 ①(日)Go-sai-kyō-shi-dai-sho-narabini-go-sai-kyō-sho. ②1巻 ③存 ④明和五寫(各六、栗原、九)

御裁斷御書 ①(日)Go-sai-dan-ge-sho. ②御裁斷書 ③1巻 ④存、真宗假名法典卷中 ⑤本如(安永七一文政九 A. D. 1778-1826)記 ⑥文化三(A. D. 1806)

御裁斷御消息聴記 ①(日)Go-sai-dan-go-shō-sōku-chō-ki. ②1巻 ③存 ④利井鮮妙(天保六一正三 A. D. 1835-1914)撰 ⑤寫本(龍大、一七五・一六八)

御裁斷書 ①(日)Go-sai-dan-sho. ②御裁斷書 ③1巻 ④存、真宗假名法典卷中 ⑤本如(安永七一文政九 A. D. 1778-1826)記 ⑥文化三(A. D. 1806)

①本願寺派に於ける三大法派の隨一たる三業惑亂は結局智洞方即ち新義派の敗るゝこととなり、文化三年七月十一日知洞以下夫々所刑、一方本山も過害の命をうけて百日閉門した、十一月四日閉門の許可を得て、同六日洞之間に於て本如宗主の披露せるものがこの御裁斷書である。内容は新義派の主要する宗教經驗の相を欲生、願生にありとする願生歸命説、又は三業歸命説を排して歸命の信相は信樂にあり、從つて信願の信仰こそ親覺教徒の宗教經驗の全相なる旨を懇諭せるものである。この書によつて數十年に渡る法義上の積弊一掃せらるゝに至つた。

②(注釋)裁斷申明書信願記二卷(超然、高裁奉行録一卷(自譯)) ③(龍大、一一二・九四、研眞)

御齋會始圖 ①(日)Go-sai-e-anjime-no-zu. ②1巻 ③存 ④寫本(帝國、特別二・一八)

御作書目録 ①(日)Go-saku-sho-moku-roku. ②大御製作書目録 ③1冊 ④存 ⑤寫本(金剛三昧院)

御作諸目録 ①(日)Go-saku-sho-moku-roku. ②1巻 ③存 ④信嚴編 ⑤(参考)請宗章録第三

御作總勘文 ①(日)Go-saku-sho-kanmon. ②1巻 ③道鏡(元暦元一建長四 A. D. 1184-1231)説建長四年七五波撰 ④(参考)請宗章録第三

御作並字記文義指示 ①(日)Go-saku-narabini-ji-ki-mon-gi-shi-j. ②1冊

①存 ②南北朝時代寫 ③(寶善院)

御作目録 ①(日)Go-saku-moku-roku. ②圓珍(弘仁一寛平三 A. D. 814-891)説寛平四、年七八歳撰 ③(参考)密乘撰述目録

御作目録 ①(日)Go-saku-moku-roku. ②大師遍照金剛御作書目録 ③1冊 ④存 ⑤清蓮(萬壽二一永久三 A. D. 1025-1115)撰 ⑥寫本(金剛三昧院)

御作目録 ①(日)Go-saku-moku-roku. ②存、弘法大師全集第一五附録 ③覺(嘉保二一康治二 A. D. 1095-1143)集 ④高祖御製作書目録の項を見よ。

御作目録 ①(日)Go-saku-moku-roku. ②二帖或一帖 ③存 ④鎌倉南北朝時代寫(寶善院)

御作目録並覺鑲道範清蓮目録 ①(日)Go-saku-moku-roku-narabini-kaku-dan-dō-han-sai-sen-moku-roku. ②1帖 ③存 ④足利時代寫 ⑤(寶善院)

御山務御用私記 ①(日)Go-san-mu-go-yōshi-ki. ②1巻 ③存 ④通顯爲純(一文化頃 A. D. 1804-1817)記 ⑤明和元一文政一二寫 ⑥(帝室、一一八・一八)

御嗣書傳記 ①(日)Go-shi-shō-den-ki. ②1巻 ③存 ④寶曆一三寫 ⑤(別大)

御示諭講義 ①(日)Go-shi-yū-kyō-gi. ②宗憲安心御示諭講義 ③1巻 ④存 ⑤朝倉嶋海述 ⑥明治三四刊 ⑦(各六、宗洋、三六〇)

名所行發 (名庫書) 著家所及 月年の刊寫 (書考參書釋註) 書本 説解書内 代年作書 著書 録存 數色 (名書) 名題 號略字數

【コ】

御寺内町敷之覺 ①(日)Go-ji-nai-machi-kan-no-shōe. ②1巻 ③存 ④貞享五寫 ⑤(龍大、別置)

御寺法掟錄 ①(日)Go-ji-hō-okite-roku. ②1巻 ③存 ④寫本(龍大)

御寺法隨聞記 ①(日)Go-ji-hō-ai-mon-ki. ②1巻 ③存 ④曉悟記 ⑤明治三寫 ⑥(各六、宗大、二四八四)

御式御狀 ①(日)Go-shiki-go-jō. ②1巻 ③存 ④寫本(龍大)

御直論 ①(日)Go-jiki-gyū. ②1巻 ③存 ④明治三七刊 ⑤(龍大、一一二九・一一一)

御手印緣起 ①(日)Go-shu-in-en-gi. ②1冊 ③存 ④有快(貞和元一應永三三 A. D. 1345-1416) ⑤徳川時代寫 ⑥(寶善院)(金剛三昧院)

御手印緣起記 ①(日)Go-shu-in-en-gi-ki. ②1冊 ③存 ④有快(貞和元一應永三三 A. D. 1345-1416) ⑤口、快全、一應永三三 A. D. 142)記 ⑥足利初期寫 ⑦(金剛三昧院)

御手印緣起聞書 ①(日)Go-shu-in-en-gi-kiki-gaki. ②1冊 ③存 ④疊和(一正和元 A. D. 1312-)記 ⑤天保五寫 ⑥(金剛三昧院)

御手印緣起聞書 ①(日)Go-shu-in-en-gi-kiki-gaki. ②1冊 ③存 ④信堅圓智(正元元一元亨二 A. D. 1329-1332)記 ⑤天保九快眼寫 ⑥(金剛三昧院)

御手印緣起聞書 ①(日)Go-shu-in-en-gi-kiki-gaki. ②1冊 ③存 ④有快

①(貞和元一應永三三 A. D. 1345-1416)撰 ②天和三寫 ③(金剛三昧院)

御手印緣起眞偽 ①(日)Go-shu-in-en-gi-shū-gi. ②1冊 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(寶善院)

御手印緣起並御遺言等 ①(日)Go-shu-in-en-gi-shū-gi-ai-arabini-go-yū-gon-gō-tō. ②1冊 ③存 ④寫本(金剛三昧院)

御手印緣起略解 ①(日)Go-shu-in-en-gi-gyaku-ge. ②1冊 ③存 ④(高次、寄、一・五五)(金剛三昧院)

御宗意惑亂書 ①(日)Go-shō-i-waku-ran-sho. ②1巻 ③存 ④寫本(龍大)

御宗號一件略書 ①(日)Go-shō-ik-ken-gyaku-sho. ②1巻 ③存 ④寫本(龍大、一七五・一四四)

御宗名異論 ①(日)Go-shō-na-i-ron. ②1巻 ③存 ④宗名諍論に關する文書及著書を輯む ⑤寫本(龍大)(各六、宗大、一一五三)

御宗名記 ①(日)Go-shō-na-ki. ②1巻 ③存 ④義導(文化二一明治一四 A. D. 1805-1881)記 ⑤文久二(A. D. 1862) ⑥御文一帖日十五通の講義 ⑦治三寫 ⑧(各六、宗大、七九六)

御宗名顯眞辨 ①(日)Go-shō-na-ken-shi-i-ben. ②1巻 ③存 ④玄智(享保一九一寛政六 A. D. 1734-1791)述 ⑤明治四一寫 ⑥(各六、宗大、一一八〇)

御宗名故障書之彈文 ①(日)Go-shō-na-myō-ko-shō-sho-no-dam-mon. ②1

①本願寺派に於ける三大法派の隨一たる三業惑亂は結局智洞方即ち新義派の敗るゝこととなり、文化三年七月十一日知洞以下夫々所刑、一方本山も過害の命をうけて百日閉門した、十一月四日閉門の許可を得て、同六日洞之間に於て本如宗主の披露せるものがこの御裁斷書である。内容は新義派の主要する宗教經驗の相を欲生、願生にありとする願生歸命説、又は三業歸命説を排して歸命の信相は信樂にあり、從つて信願の信仰こそ親覺教徒の宗教經驗の全相なる旨を懇諭せるものである。この書によつて數十年に渡る法義上の積弊一掃せらるゝに至つた。

②(注釋)裁斷申明書信願記二卷(超然、高裁奉行録一卷(自譯)) ③(龍大、一一二・九四、研眞)

御齋會始圖 ①(日)Go-sai-e-anjime-no-zu. ②1巻 ③存 ④寫本(帝國、特別二・一八)

御作書目録 ①(日)Go-saku-sho-moku-roku. ②大御製作書目録 ③1冊 ④存 ⑤寫本(金剛三昧院)

御作諸目録 ①(日)Go-saku-sho-moku-roku. ②1巻 ③存 ④信嚴編 ⑤(参考)請宗章録第三

御作總勘文 ①(日)Go-saku-sho-kanmon. ②1巻 ③道鏡(元暦元一建長四 A. D. 1184-1231)説建長四年七五波撰 ④(参考)請宗章録第三

御作並字記文義指示 ①(日)Go-saku-narabini-ji-ki-mon-gi-shi-j. ②1冊

①存 ②支智(享保一九一寛政六 A. D. 1734-1791)撰 ③寫本(龍大)

御宗名御爭論記 ①(日)Go-shō-na-myō-go-sai-ron-ki. ②1巻 ③存 ④明治四二寫 ⑤(各六、宗大、一一六二)

御宗名消息四門分別錄 ①(日)Go-shō-na-myō-shō-soku-shi-man-ambetsu-roku. ②1巻 ③存 ④寫本(龍大)

御宗名消息智師辯述 ①(日)Go-shō-na-myō-shō-soku-chi-gea-shi-ben-jutsu. ②1巻 ③存 ④寫本(龍大)

御宗名諍論 ①(日)Go-shō-na-myō-shō-ron. ②1巻 ③存 ④寫本(龍大)

御宗名諍論辨 ①(日)Go-shō-na-myō-shō-ron-ben. ②1巻 ③存 ④寶覺(延享三一文政一一 A. D. 1746-1838)述 ⑤寫本(各六、宗大、二〇六九)

御宗名辨別錄 ①(日)Go-shō-na-myō-ben-betsu-roku. ②1巻 ③存 ④寫本(龍大)

御宗名辨惑論 ①(日)Go-shō-na-myō-ben-naku-ron. ②1巻 ③存 ④寫本(龍大)

御出張御親修御法要日記 ①(日)Go-shū-uchō-go-shin-shō-go-hō-yō-shū-ki. ②1巻 ③存 ④寫本(龍大、別置)

御所守衝勳王一件 ①(日)Go-sho-shū-shō-kinū-ō-ken. ②存 ④寫本(龍大、別置)

御書 ①(日)Go-sho. ②御書録内 ③四十一卷(附目録共) ④存 ⑤日蓮(貞應元

一弘安五 A. D. 1222-1282) ⑥(正大、一八三・一一)(龍大、二〇四・二〇四)

御書 ①(日)Go-sho. ②高田御書 ③五巻 ④存 ⑤刊本(各六、宗大、二九一一)

御書 ①(日)Go-sho. ②佛光寺歷代御書 ③五巻 ④存 ⑤刊本(各六、宗小、一四〇・宗大、三〇〇七)

御書 ①(日)Go-sho. ②1巻 ③存 ④墨鏡記 ⑤寫本(龍大、一四五・三)

御書 ①(日)Go-sho. ②1巻 ③存 ④問念記 ⑤(龍大、研眞)

御書 ①(日)Go-sho. ②五巻 ③存 ④問庸記 ⑤(龍大、研眞)

御書案文 ①(日)Go-sho-an-mon. ②1巻 ③存 ④寫本(龍大、別置)

御書音義 ①(日)Go-sho-on-gi. ②一卷或二巻 ③存 ④正保五刊(龍大、二六九・一一)(立大、A〇二・五二・五三)(背あ・七・中・二九(京大、一・二六・一)) ⑤寛文九刊(立大、A〇二・五〇・五一)

御書教通 ①(日)Go-sho-kyō-tō. ②1巻 ③存、華園文庫第一 ④弘化四刊 ⑤(各六、宗大、一四〇〇)

御書科文 ①(日)Go-sho-ka-mon. ②四巻 ③存 ④延寶七刊 ⑤(立大、A〇二・五〇)

御書見聞 ①(日)Go-sho-ken-mon. ②御書見聞集、私抄、私見聞 ③存、日蓮宗々學全書之内 ④日朝(應永二九一明應九 A. D. 1422-1500)述 ⑤延寶八刊(背、二・八・左・一)(立大、A〇二・四一六) ⑥文明一一寫(立大、A〇二・三)

名所行發 (名庫書) 著家所及 月年の刊寫 (書考參書釋註) 書本 説解書内 代年作書 著書 録存 數色 (名書) 名題 號略字數

【一】

御書見聞集 ①(B) (Go-sho-ken-mo-shu. 御書見聞、私抄、私見聞) ②四十一卷(刊行會本三卷) ③存、日蓮宗々學全書之内 ④日朝(應永二九)明應九A.D. 1432-1500)述

⑤日蓮門下に於て本門法華宗の祖日隆と並び述作の雙璧と稱せられる身延の行學院日朝が、日蓮の問目、安國、報恩、撰時の五鈔を始め諸御書に注釋して「見聞」「私抄」「私見聞」等と題したものを、御書の數に於て二十六篇、見聞四十四卷を數ふ。其内已刊十七卷未刊二十七卷あり、日蓮宗宗學全書刊行會に於て其の四十一卷を三卷にまとめ朝師御書見聞集と名づけ、第六、第十一、第十五の三回に互り刊行したものである。各御書見聞の内容は各其の項に譲り今日次のみを列ねれば次の如くである。

御書見聞集第一は「安國論私抄」五卷。「開目抄私見聞」五卷。「撰時抄私見聞」二卷。同第二は「報恩抄私見聞」二卷。「觀心本尊抄私記」八卷。「身延山御書見聞」二卷。「曾谷八道賜御消息見聞」二卷。「如説修行鈔見聞」二卷。同第三は「法華題目鈔見聞」二卷。「秀句十勝鈔見聞」二卷。「彼岸鈔見聞」二卷。「本尊問答鈔私見聞」二卷。「今此三界合文事」二卷。「神國王書私見聞」二卷。「唱法華題目鈔事」二卷。「願勝法鈔私見聞」上下二卷。「月水鈔私見聞」二卷。「題目編陀名號勝劣事」二卷。「謙興八幡事私見聞」二卷。「略八幡鈔事」二卷。「十法界因果鈔」二卷。「一代聖教大意鈔見聞」二卷。「三世諸佛總勘文事」二卷。合計四十一卷を收めしむ。

御書鈔 ①(B) (Go-sho-sho. 馬田行啓) ②二十五卷或三卷 ③存 ④日蓮撰 ⑤明應刊(立大、A.O.二二四)大正二刊(谷大、餘洋・三五五)龍大、研佛(立大、B.O.九一四)

御書籍脱座開本記 ①(B) (Go-sho-sho-ekki-dokan-kaikuppon-ki. 一巻) ③存 ④寫本(龍大、二〇一七・三)

御書續集 ①(B) (Go-sho-zoku-shu. 三巻) ③存 ④日蓮(貞應元一弘安五A.D. 1292-1283)勸、日貞集 ⑤天保一三刊(哲、え・三・右・二)立大、A.O.一・二五、一(二四)

御書註 ①(B) (Go-sho-cha. 二巻或十六卷) ③存 ④永應註 ⑤寛永二二刊(立大、A.O.二・二六—二七)大正二刊(立大、B.O.九・二—一三)龍大、研佛)

御書に現れたる日蓮大聖人 ①(B) (Go-sho-ni-utsawa-reta-ru-nichi-renda-i-sho-nin. 一巻) ③存 ④昭和七刊

御書編集考 ①(B) (Go-sho-hensha-ka. 一巻) ③存 ④勇猛日鷹著 ⑤刊本(立大、A.O.一〇一—一〇二)

御書法海義 ①(B) (Go-sho-ho-kai. 一巻) ③存 ④弘誓庵述 ⑤寫本(谷大、宗大・三二六)

御書目錄 ①(B) (Go-sho-moku-roku. 一巻) ③存 ④日昭(弘安六A.D. 1283)記 ⑤立大、A.O.一・八八—一八九、九〇、一四〇(正大、一八三、一五)

御書目錄 ①(B) (Go-sho-moku-roku. 二巻) ③存 ④日昭(弘安六A.D. 1283)記 ⑤立大、A.O.一・八八—一八九、九〇、一四〇(正大、一八三、一五)

御書問答證義論 ①(B) (Go-sho-mon-dō-shi-ron. 十巻) ③存 ④日通(元禄一五—安永五A.D. 1702—1776)述

御書要文 ①(B) (Go-sho-yō-mon. 二巻) ③存 ④日性集 ⑤永祿七刊(龍大、二六九一・三)立大、A.O.一・七五一—七六(京大、一・二六八・二、一・二六八・一五)

御書要文集 ①(B) (Go-sho-yō-mon-shū. 品類御書) ②六巻 ③存 ④日性集 ⑤正保四刊 ⑥哲、え・三・右・二)立大、A.O.一・七八(龍大、二六九一・四)帝國、二一〇、一四九)

御書要文集 ①(B) (Go-sho-yō-mon-shū. 品類御書) ②六巻 ③存 ④日性集 ⑤正保四刊 ⑥哲、え・三・右・二)立大、A.O.一・七八(龍大、二六九一・四)帝國、二一〇、一四九)

御書要文集 ①(B) (Go-sho-yō-mon-shū. 品類御書) ②六巻 ③存 ④日性集 ⑤正保四刊 ⑥哲、え・三・右・二)立大、A.O.一・七八(龍大、二六九一・四)帝國、二一〇、一四九)

御書略注 ①(B) (Go-sho-ryaku-chū. 一巻) ③存、日蓮宗々學全書史傳舊記部之内 ④日朝(嘉永七A.D. 1825)記 ⑤嘉永元(A.D. 1828)

⑥靜岡縣玉澤妙法華寺第三十三代の壇持院日通(元禄十五年—安永五年)作の「御書問答證義論」十巻を日朝が抜萃和譯したもので、初めに「宗祖繼國之事。其祖先事。父御配流及其原因。氏姓事。宗祖御兄弟事。御母事。大野曾谷兩氏關係事。御叔父男金實信事。其妻並日向上人事。登山出家事。御遊學之事。資助檀那事。上洛宿房事。御同學事。吾祖居鎌倉名越」所以等の項目を擧げて日蓮の家系以下遊學に關する事蹟を述べ、次に「建長三年、辨成法印改衣事。建長四年、吉祥丸爲弟子事。昭師系諸事。池上兄弟事。朝師系諸事。建長五年、立教開宗、二十八日三月四日同異事。日向日遊誕生事。南條金吾事」以下年代順に建宗後入滅に至る事蹟を詳述し、更に後段「康永元年、佛師入寂等事。佛師俗姓事。三善薩院論旨事」に至るまでを詳述したものである。

御書略要 ①(B) (Go-sho-ryakuyō. 一巻) ③存 ④日通記 ⑤明治二九寫 ⑥立大、D.O.三四)

御書錄外 ①(B) (Go-sho-roku-ge. 二十五巻) ③存 ④日蓮(貞應元一弘安五A.D. 1292-1283)述 ⑤刊本(谷大、餘大・一四二五)

御書錄内 ①(B) (Go-sho-roku-nai. 一巻) ③存、日蓮宗々學全書史傳舊記部之内 ④日朝(嘉永七A.D. 1825)記 ⑤嘉永元(A.D. 1828)

【二】

御書 ④四十巻 ③存 ④日蓮(貞應元一弘安五A.D. 1292-1283)述 ⑤寛文九刊 ⑥(谷大、餘大・一四二四)立大、A.O.一・八六)

御書録内啓蒙條箇 ①(B) (Go-sho-roku-nai-kaikō-jōkan. 六巻) ③存 ④澄演述 ⑤正徳三刊 ⑥(谷大、餘大・二七九五)

御書録内綱目 ①(B) (Go-sho-roku-nai-kaikō-jōkan. 二帖) ③存 ④立大、A.O.二・三九)

御書優語式 ①(B) (Go-sho-ura-go-shiki. 御書和語式) ②五巻 ③存 ④日相(寛永一一)享保三A.D. 1635-1718)述

⑤延寶九刊 ⑥(哲、え・三・右・一七)谷大、餘大・一一三(立大、A.O.二・三〇—三六)

御生身供養作法 ①(B) (Go-sho-jin-gu-bu-ken-sa-hō. 一帖) ③存 ④明和元寫(寶香提院)

御生身供養作法古廟遷作法 ①(B) (Go-sho-jin-gu-bu-ken-sa-hō-ko-ya-mi-ko-ji. 三帖) ③存 ④徳川時代寫(寶香提院)

御正忌御文講義 ①(B) (Go-shō-ki-ō-fami-ko-gi. 一巻) ③存 ④靈照述 ⑤文化一〇(A.D. 1813) ⑥文化一〇寫(谷大、宗大・三二五)

御正忌法話聞書 ①(B) (Go-shō-ki-hō-wa-ki-kō-gaki. 祖師聖人御正忌法話聞書) ②一巻 ③存 ④七里恒順(天保六一明治三三A.D. 1835-1900)著 ⑤明治三〇刊 ⑥(谷大、宗洋・一〇一一)

御正本三卷傳籍 ①(B) (Go-shō-mon-shū. 三巻) ③存 ④日蓮撰 ⑤明應刊(立大、A.O.二二四)大正二刊(谷大、餘洋・三五五)龍大、研佛(立大、B.O.九一四)

御書籍脱座開本記 ①(B) (Go-sho-sho-ekki-dokan-kaikuppon-ki. 一巻) ③存 ④寫本(龍大、二〇一七・三)

御書續集 ①(B) (Go-sho-zoku-shu. 三巻) ③存 ④日蓮(貞應元一弘安五A.D. 1292-1283)勸、日貞集 ⑤天保一三刊(哲、え・三・右・二)立大、A.O.一・二五、一(二四)

御書註 ①(B) (Go-sho-cha. 二巻或十六卷) ③存 ④永應註 ⑤寛永二二刊(立大、A.O.二・二六—二七)大正二刊(立大、B.O.九・二—一三)龍大、研佛)

御書に現れたる日蓮大聖人 ①(B) (Go-sho-ni-utsawa-reta-ru-nichi-renda-i-sho-nin. 一巻) ③存 ④昭和七刊

御書編集考 ①(B) (Go-sho-hensha-ka. 一巻) ③存 ④勇猛日鷹著 ⑤刊本(立大、A.O.一〇一—一〇二)

御書法海義 ①(B) (Go-sho-ho-kai. 一巻) ③存 ④弘誓庵述 ⑤寫本(谷大、宗大・三二六)

御書目錄 ①(B) (Go-sho-moku-roku. 一巻) ③存 ④日昭(弘安六A.D. 1283)記 ⑤立大、A.O.一・八八—一八九、九〇、一四〇(正大、一八三、一五)

御書目錄 ①(B) (Go-sho-moku-roku. 二巻) ③存 ④日昭(弘安六A.D. 1283)記 ⑤立大、A.O.一・八八—一八九、九〇、一四〇(正大、一八三、一五)

御書問答證義論 ①(B) (Go-sho-mon-dō-shi-ron. 十巻) ③存 ④日通(元禄一五—安永五A.D. 1702-1776)述

御書要文 ①(B) (Go-sho-yō-mon. 二巻) ③存 ④日性集 ⑤永祿七刊(龍大、二六九一・三)立大、A.O.一・七五一—七六(京大、一・二六八・二、一・二六八・一五)

御書要文集 ①(B) (Go-sho-yō-mon-shū. 品類御書) ②六巻 ③存 ④日性集 ⑤正保四刊 ⑥哲、え・三・右・二)立大、A.O.一・七八(龍大、二六九一・四)帝國、二一〇、一四九)

御書要文集 ①(B) (Go-sho-yō-mon-shū. 品類御書) ②六巻 ③存 ④日性集 ⑤正保四刊 ⑥哲、え・三・右・二)立大、A.O.一・七八(龍大、二六九一・四)帝國、二一〇、一四九)

御書要文集 ①(B) (Go-sho-yō-mon-shū. 品類御書) ②六巻 ③存 ④日性集 ⑤正保四刊 ⑥哲、え・三・右・二)立大、A.O.一・七八(龍大、二六九一・四)帝國、二一〇、一四九)

御書略注 ①(B) (Go-sho-ryaku-chū. 一巻) ③存、日蓮宗々學全書史傳舊記部之内 ④日朝(嘉永七A.D. 1825)記 ⑤嘉永元(A.D. 1828)

⑥靜岡縣玉澤妙法華寺第三十三代の壇持院日通(元禄十五年—安永五年)作の「御書問答證義論」十巻を日朝が抜萃和譯したもので、初めに「宗祖繼國之事。其祖先事。父御配流及其原因。氏姓事。宗祖御兄弟事。御母事。大野曾谷兩氏關係事。御叔父男金實信事。其妻並日向上人事。登山出家事。御遊學之事。資助檀那事。上洛宿房事。御同學事。吾祖居鎌倉名越」所以等の項目を擧げて日蓮の家系以下遊學に關する事蹟を述べ、次に「建長三年、辨成法印改衣事。建長四年、吉祥丸爲弟子事。昭師系諸事。池上兄弟事。朝師系諸事。建長五年、立教開宗、二十八日三月四日同異事。日向日遊誕生事。南條金吾事」以下年代順に建宗後入滅に至る事蹟を詳述し、更に後段「康永元年、佛師入寂等事。佛師俗姓事。三善薩院論旨事」に至るまでを詳述したものである。

御書略要 ①(B) (Go-sho-ryakuyō. 一巻) ③存 ④日通記 ⑤明治二九寫 ⑥立大、D.O.三四)

御書錄外 ①(B) (Go-sho-roku-ge. 二十五巻) ③存 ④日蓮(貞應元一弘安五A.D. 1292-1283)述 ⑤刊本(谷大、餘大・一四二五)

御書錄内 ①(B) (Go-sho-roku-nai. 一巻) ③存、日蓮宗々學全書史傳舊記部之内 ④日朝(嘉永七A.D. 1825)記 ⑤嘉永元(A.D. 1828)

【一】

shō-ko-roku. ①一巻 ②存 ③興隆實
曆九一天保一三 A. D. 1759—1812 述 ④
〔参考〕 眞宗全書刊行豫定書目
御消息集講註 ①(日) Go-shō-soku
-shō-ko-roku. ①一巻 ②存 ③吉岡町成
(元治元—明治三八 A. D. 1861—1905) 述
④明治三九刊 ⑤(龍大、研眞)

御消息集第二章甲子錄 ①(日)
Go-shō-soku-shō-dai-ni-shō-ko-roku-shi-
ka. ①一巻 ②存 眞宗大系第二三
③(文化二—明治一四 A. D. 1805—1881)
述 ④元治元(A. D. 1861)

⑤本書は元治元年十月、四日間に亘つて美
濃石田正尊寺において講述せられたもので
ある。親覺の御消息集第二章は、親覺が晩
年關東より歸洛の後、關東において諸宗の
僧侶其他陽陽師等の類が鎌倉幕府に念佛停
止の沙汰あらんことを訴へ出でたため、關
東在住の親覺の弟子性信が單身幕府に出頭
して辯解に努め、漸く事なきを得たことを
都の親覺に報告せし書狀に對する返簡であ
つて、その中に「念佛をふかくたのみで、
世のいりにこころにいでて、まふしあは
せたまふし」とか、「朝家の御ため、國
民のために念佛をまふしあはせたまひさ
らば、めでたふさふらふし」とか、親
覺の他の遺書に多くの類を見ない言葉があ
る。明治維新の直前、國家並に宗門の多事
の際、特に本書を口述した所以も、本章の
内容が當時の僧侶を警告する所多きことが
あつたからであらう。述者は先づ本章の來意
を講じて、前述の如き事情のため親覺が性

信へ返簡したものであることを説き、次に
本章の大意は、佛恩報謝のために稱ふる念
佛に、自然に現世安穩、國家安全の利益
あることを示したまふものなることを叙述
し、進んで本文を追うて講述してゐる。中
において淨土眞宗における祈禱論を擧げ、
昨年(文久三年?)、大谷派の學侶賢珠院、
香山院、開彰院等がそれ、祈禱問題を稽
けて本山に上書したが、その内容は、我が
淨土眞宗にあつては非理の祈禱を斥けるけ
れども願理の祈禱はこれを行ふべきであ
る。而して、その願理の祈禱とは私利私欲
の念を忘れて、一には報國の志、二には弘
法の志を以てするものであるといふ意味で
あつたと述べてゐる。其他、幕末の排佛毀
釋事件を傳へたる點は當時の一史料として
注意に値し、淨土眞宗が他の佛教諸宗と異
なれる十七形式として、一、御戒を受け
ず。二、神棚を釣らず。三、注連を張ら
ず。四、參宮を許さず。五、門松を立て
ず。六、戸札門札等なし。七、現世を祈禱
することなし。八、日に吉凶を選ばず。
九、方に善惡を言はず。十、卜占祭祠無
し。十一、物忌觸觸無し。十二、没後に引導
善趣向なし。十三、死人に經衣を著せず。十四、追
六、彌陀一體の外餘佛菩薩を安置せず。十
七、肉食妻帯を許すことを列擧したる點
も、考へさせらるゝ問題を將來に残してゐ
る。(柏原祐藏)

御消息集評辨 ①(日) Go-shō-soku
-shō-hyō-bon. 辨御消息集 ②存、眞宗

大系第二三、異義集(了詳稿本)第二 ①了
詳(天明八—天保一三 A. D. 1788—1842) 述
②御消息集は親覺聖人の御消息を其滅後に
輯録せられたものであるが、本書は了詳師
がこれに對して評辨せられた研究録にし
て、其自筆稿本が谷大圖書館に現存する。
眞宗大系所載のものとは之を底本とし、自筆
本には辨御消息集と名づけられてゐる。さ
れど本書は御消息本文の講解にはあらずし
て、集中の答教書や答性信書に現れ
た一念多念の問題と、漢語燈所載の基親狀
に出づる成覺房一念義との交渉につき、或
は又建長年間の鎌倉に於ける念佛の訴へ事
件に關し、當時日蓮や普賢、性信等の間に
存せし原始教團に於ける事情や實勢を探究
するなど、一々に多くの關係文書を引證
し、精到なる史的考察を試みたものであ
る。蓋し御消息の上では其事が文言に露
れてゐないのを、其背に横はれる事實を暗
中探せんとしたるものにて、親覺の消息
及び原始教團史の研究につき、多くの參考
資料が提供されてゐる。

③了詳自筆本(谷大、宗甲・一七)
(大須賀秀道)

御消息集略述 ①(日) Go-shō-soku
-shō-ryaku-jūsu. ①一巻 ②存 ③吉谷覺
壽(天保一三—大正三 A. D. 1842—1914) 述
④明治三三刊 ⑤(谷大、宗小・一六二)(龍
大、一三三・一三〇) 立大、A. D. 1901(〇〇)

御消息集錄 ①(日) Go-shō-soku-
shō-roku. 親覺聖人御消息集錄 ②一巻
③存、眞宗全書第四七 ④興隆(實曆九一

天保一三 A. D. 1759—1812) 述 ⑤文政九
(A. D. 1826)

⑥親覺聖人御消息集を漢文にて註解せるも
の。さきに法要典據あれども據に事據を擧
ぐるのみであつて未だ法義を辨ぜざるを憾
み、各章についてその緣起、釋文、解義等
詳密に註解せるものである。蓋し本願寺派
學匠の録中、末灯鈔を註解せる僧侶の管見
録と共に親覺聖人消息録中の白眉とせられ
てゐる。卷末に附せる親覺聖人御消息集科
は全十一章を一章毎に分科してその内容を
一目瞭然たらしめて居る。

⑦寫本(龍大) (大原性實)

御消息全集 ①(日) Go-shō-soku-
zen-shū. 眞宗大谷派御消息全集 ①一巻
②存 ③刊本(龍大、一四一・一、研眞)

御消息斷簡 ①(日) Go-shō-soku-
dan-kan. ①一巻 ②存 ③親覺(永安三
—弘長二 A. D. 1173—1262) 述 ④影寫本
(龍大、研眞)

御消息に現れたる親覺聖人
①(日) Go-shō-soku-akurawara-ten-shū-
shū-ran-shū-nin. ①一巻 ②存 ③梅原
眞隆著 ④昭和五刊 ⑤京都親覺學苑

御消息目次 ①(日) Go-shō-soku-
moku-ji. ②存、新撰眞宗聖典附錄 ③大
正二刊 ④(龍大、三〇三・三二二)

御消息類集 ①(日) Go-shō-soku-
rai-shū. ①一巻 ②存 ③蓮如(應永二
—明應八 A. D. 1415—1499) 等記 ④寫
本(龍大、一三九・五一六)

御消息類集 ①(日) Go-shō-soku-
rai-shū. ①一巻 ②存 ③准如(天正五
—寛永七 A. D. 1577—1630) 等記 ④寫本
(龍大、一三九・六)

御消息類集 ①(日) Go-shō-soku-
rai-shū. ①一巻 ②存 ③法如(寛永四
—寛政元 A. D. 1707—1789) 等記 ④寫本
(龍大、一三九・七・九)

御消息類集 ①(日) Go-shō-soku-
rai-shū. ①一巻 ②存 ③文如(延享元
—寛政一 A. D. 1744—1799) 等記 ④寫
本(龍大、一三九・一〇)

御消息類集 ①(日) Go-shō-soku-
rai-shū. 御親教御直諭御消息類集 ②一巻
③存 ④普龍(實曆) 明治三三刊 ⑤(龍
大、一三九・一一)

御將來目錄 ①(日) Go-shō-rai-an-
ku-roku. 智證大師請來目錄 ②一巻 ③
存、大日本佛教全書佛敎書目録第二
④四珍(弘仁五—寛平三 A. D. 814—891) 説
寛平四、年七八(寂)撰 ⑤〔参考〕 山家祖
德撰述高日集卷上

御聖教目錄 ①(日) Go-shō-kyō-
moku-roku. 御聖御本御聖教目錄 ②一巻
③存 ④寫本(京大、藏・二一・一)

御精進供作法 ①(日) Go-shō-jin-
kyō-shū-hō. ①一帖 ②存 ③足利時代寫(實
善提院) 徳川時代寫(寶龜院)

御精進供次第 ①(日) Go-shō-jin-
kyō-shū-dai. ①一冊 ②存 ③寫本(京大、
寄・一・六五) 徳川時代寫(寶龜院)

御請來經等之目錄 ①(日) Go-shō-
rai-kyō-to-no-moku-roku. 御請來目錄

名所行發 (名庫書) 著所現 (月年の刊記) (書考參書釋註) 書末 (説解内容) 代年作者 (著書) 録有 (數色) (名書) 名題 (號略) 字號

【二】

②一巻 ③存、大正五五・一〇六〇 No.
3161、大日本佛教全書佛敎書目録第二、
弘法大師全集第一 ④空海(實龜五—承和
二 A. D. 774—835) 撰 ⑤正安四寫 ⑥正
大、一四〇・一一)

御請來表私 ①(日) Go-shō-rai-hyō
-shi. 御請來表私 ②一冊 ③存
④貞濟注 ⑤永正—一慶恩寫 ⑥(金剛三
昧院)

御請來目錄 ①(日) Go-shō-rai-an-
ku-roku. 御請來經等之目錄 ②一巻 ③
存、大正五五・一〇六〇 No. 3161、大日本
佛教全書佛敎書目録第二、弘法大師全集
第一 ④空海(實龜五—承和二 A. D. 774—
835) 撰

⑤弘法大師空海勅を奉じて延暦廿三年入唐
し、大同元年密乘の龜典を傳へて歸國せる
際、請來せる經律論疏章傳記、並に佛菩薩
金剛天等の像、三昧耶曼陀羅、法曼陀羅、
傳法阿闍梨等の影及及び道具、並に阿闍梨
付屬物等を目錄に制し、上表文を付して大
同元年十月(A. D. 806) 閣下に奉進せる進
官目錄が即ちこの御請來目錄である。

本録の内容を略述すれば、先づ請來聖典に
關しては最初に「金剛頂瑜伽觀世音菩薩三
卷四十二紙」、「金剛頂瑜伽觀世音菩薩一
卷八紙」を始めとして、十八部一百五十卷の不
空三藏新譯聖典名を掲げ、次に新譯聖典四
十卷を始めとして御敎金剛眞言一卷に至る
二十四部九十七卷の近譯、或は本邦未傳の
書を列ね、次に梵字聖典四十二部四十四
卷、論疏章等三十二部一百七十卷等のもの

を記載して居る。次に聖典以外の佛像道
具類等を記載し、佛像等十鋪、道具九種十
八事、阿闍梨付屬物十三種等の名を掲ぐ。
又文中「大日如來—金剛薩埵—龍猛—龍智
—金剛智—不空—惠果—空海、に至る付法
の八祖傳燈を記して居る。本書の最も古き
寫本は、現に東寺及び竹生島に藏せられ
居る。竹生島所藏のものは、書道の方面に
於て弘法大師の眞筆として誤りなきものと
斷ぜられて居る。東寺所藏のものは、由來
弘法大師眞筆と傳へられて居るも、自餘の
大師眞筆と幾かその趣を異にするものがある。
書道の人々は寧ろ之を傳教大師最澄の
筆寫せるものとなして居るやうである。恐
らく、傳教大師が弘法大師の請來目錄を借
覽筆寫せるものが、何等かの機會から東寺
に藏せらるるに至つたものであらう。

⑦正安四刊 ⑧(正大、一四〇・一一)(京專)
(高六、寄・一・五〇)(立大、A. D. 1907)(龍
大、二〇一・三・一) (林房友次郎)

御請來目錄抄 ①(日) Go-shō-rai-
moku-roku-shō. 御請來目錄傳受開書 ②一
帖 ③存 ④足利中期寫 ⑤(金剛三昧院)
moku-roku-shō. 御請來目錄傳受開書 ②一
帖 ③存 ④足利中期寫 ⑤(金剛三昧院)

御請來錄開書 ①(日) Go-shō-rai-
roku-ki-kaishō. ①一冊 ②存 ③有快(貞
和元—應永二 A. D. 1345—1416) 天保
一二寫 ④(高六、寄・一・五〇)

御請來錄開書 ①(日) Go-shō-rai-
roku-ki-kaishō. ①一冊 ②存 ③有快
(貞和元—應永二 A. D. 1345—1416) 口、
快全(一應永三 A. D. 1412) 記 ④天保一
二寫 ⑤(高六、寄・一・五〇)

御請來錄開書 ①(日) Go-shō-rai-
roku-ki-kaishō. ①一冊 ②存 ③有快
(貞和元—應永二 A. D. 1345—1416) 口、
快全(一應永三 A. D. 1412) 記 ④天保一
二寫 ⑤(高六、寄・一・五〇)

御請來錄開書 ①(日) Go-shō-rai-
roku-ki-kaishō. ①一冊 ②存 ③有快
(貞和元—應永二 A. D. 1345—1416) 口、
快全(一應永三 A. D. 1412) 記 ④天保一
二寫 ⑤(高六、寄・一・五〇)

御上棟御式略圖 ①(日) Go-shō-to-
on-shiki-ryaku-zu. 眞方本堂御上棟御式
略圖 ②一葉 ③存 ④寫本(龍大、別置)

御條目寫 ①(日) Go-shō-monku-an-
shū. ①一巻 ②存 ④寫本(正大、一五
一・四・五)

御眞影略傳 ①(日) Go-shin-
ryaku-den. 大廟御眞影略傳 ①一巻 ③
存 ④信純(寛政三—明治五 A. D. 1791—
1872) 撰 ⑤明治一八刊 ⑥(谷大、宗大・一
三〇・六)

御眞筆改悔文寫 ①(日) Go-shin-
pitsu-gai-ke-mon-ansūshi. 改悔文 ②一
巻 ③存、眞宗全書第六二、眞宗小部集之

名所行發 (名庫書) 著所現 (月年の刊記) (書考參書釋註) 書末 (説解内容) 代年作者 (著書) 録有 (數色) (名書) 名題 (號略) 字號

- shichi-ki. ②七巻或五巻 ③存、眞宗大系第三冊之内 ④惠空(正保元)享保六 A. D. 1644-1721) ⑤正徳四刊 ⑥(各) 大・宗大・五八三、宗洋・四一三(龍大・一〇三・二九(研究))
- 御傳繪詞澄義編 ①(日)Go-denn-e-shi-dō-gi-hen. ②六巻 ③存 ④善業(一)天明元 A. D. 1781-) ⑤天明元刊 ⑥(各)大・宗大・二五三七(龍大・一九六一・五九(立大・A四〇・八))
- 御傳繪取意鈔 ①(日)Go-denn-e-shi-dō-shū. ②一巻 ③存 ④寫本(龍大・一九六一・六二)
- 御傳繪取正解鈔 ①(日)Go-denn-e-shi-dō-shū-kei. ②御傳繪取正解鈔 ③二巻 ④存 ⑤寫本(各)大・一〇八一)
- 御傳繪鈔講話 ①(日)Go-denn-e-shi-dō-ka. ②一巻 ③存 ④花田凌雲述 ⑤大正六刊 ⑥(龍大・一九六一・二二六)
- 御傳繪鈔講話追加 ①(日)Go-denn-e-shi-dō-ka-jū. ②一巻 ③存 ④花田凌雲述 ⑤大正一〇刊 ⑥(各)大・一九六一・六二)
- 御傳繪照蒙記 ①(日)Go-denn-e-shi-dō-ka. ②九巻 ③存 ④如空(寛永一)享保三 A. D. 1634-1718) ⑤寛文四刊(龍大・一九六一・六三) ⑥寛文四刊(龍大・一九六一・六五)(各)大・一〇六二)
- 御傳繪鶴鶴鈔 ①(日)Go-denn-e-shi-dō-ka. ②三巻 ③存 ④先啓(享保五)寛政九 A. D. 1720-1797) ⑤文化八刊 ⑥(龍大・一九六一・六七)
- 御傳繪説詞略鈔 ①(日)Go-denn-e-shi-dō-shū. ②五巻或二巻 ③存 ④靈藤(一元祿八 A. D. 1693-) ⑤寶永八巻 ⑥(龍大・一九六一・六八)(各)大・一三四三)
- 御傳繪祖徳記 ①(日)Go-denn-e-shi-dō-ka. ②二巻 ③存 ④惠空(正保元)享保六 A. D. 1644-1721) ⑤正徳四刊 ⑥(龍大・一九六一・七〇)
- 御傳繪相粹記 ①(日)Go-denn-e-shi-dō-shū. ②二巻 ③存 ④寫本(龍大・一九六一・六九)
- 御傳繪大意 ①(日)Go-denn-e-shi-dō-shū. ②一巻 ③存 ④僧撰(享保四)寶曆一 A. D. 1719-1762) ⑤寫本(各)大・宗大・九四〇)
- 御傳繪報恩鈔 ①(日)Go-denn-e-shi-dō-shū. ②御傳報恩鈔 ③九巻 ④存 ④知電述 ⑤享保六(A. D. 1721) ⑥明治四一刊 ⑥(各)大・宗大・一六四(龍大・一九六一・七二)
- 御傳繪目次拾遺記 ①(日)Go-denn-e-shi-dō-shū. ②寫本(龍大・一九六一・七一) ③淨道撰 ④寫本(龍大・一九六一・七一)
- 御傳繪聞記 ①(日)Go-denn-e-shi-dō-shū. ②一巻 ③存 ④深厚(一安永三 A. D. 1774-) ⑤寫本(龍大・一九六一・七三)
- 御傳繪略解 ①(日)Go-denn-e-shi-dō-shū. ②高祖聖人御傳繪略解 ③一巻 ④存
- 存 ①刊本(各)大・宗大・二七〇八)
- 御傳繪相指慶 ①(日)Go-denn-e-shi-dō-shū. ②一巻 ③存 ④智通(元祿三)明和五 A. D. 1690-1765) ⑤明和八寫 ⑥(各)大・宗大・一三三〇)
- 御傳記繪鈔 ①(日)Go-denn-e-shi-dō-shū. ②御開山聖人御傳記繪鈔 ③一巻 ④存 ⑤佐竹智應述 ⑥明治四四刊 ⑥(各)大・宗洋・二〇九(二七三)
- 御傳記繪説思敬錄 ①(日)Go-denn-e-shi-dō-shū. ②寫本(龍大・一九六一・七四)
- 御傳記法話 ①(日)Go-denn-e-shi-dō-shū. ②一巻 ③存 ④持淨(一安政三)A. D. 1856-) ⑤寫本(龍大・一九六一・七四)
- 御傳管親鈔 ①(日)Go-denn-e-shi-dō-shū. ②五巻 ③存 ④註釋(寶曆頃 A. D. 1756-1763) ⑤明治二二寫 ⑥(龍大・一九六一・七六)(各)大・宗大・一〇六九)
- 御傳決疑鈔 ①(日)Go-denn-e-shi-dō-shū. ②二巻 ③存 ④明傳(貞享頃 A. D. 1688-1697) ⑤貞享四寫 ⑥(龍大・一九六一・七七)(各)大・宗大・一一二四)
- 御傳在國考 ①(日)Go-denn-e-shi-dō-shū. ②一巻 ③存 ④嘯聲(天明二)文政五後 A. D. 1783-1823) ⑤寛政一一
- 刊 ①(龍大・一九六一・一)(各)大・宗大・二五九)
- 御傳撮要講説 ①(日)Go-denn-e-shi-dō-shū. ②吉水大御傳撮要講説 ③八巻 ④存 ④法洲(明和二)天保一〇 A. D. 1765-1839) ⑤稿、法道(文化元)文久三 A. D. 1804-1863) ⑥安政五刊 ⑥(各)大・宗大・六六五)
- 御傳指示記 ①(日)Go-denn-e-shi-dō-shū. ②御傳指示記 ③一巻 ④存 ④先啓(享保五)寛政九 A. D. 1720-1797) ⑤天保一五刊 ⑥(龍大・一九六一・七八)
- 御傳指圖草稿 ①(日)Go-denn-e-shi-dō-shū. ②一巻 ③存 ④寫本(龍大・別)
- 御傳謝徳鈔 ①(日)Go-denn-e-shi-dō-shū. ②六巻 ③存 ④支智(享保一)九寛政六 A. D. 1724-1794) ⑤寫本(各)大・宗大・一八一五)
- 御傳鈔 ①(日)Go-denn-e-shi-dō-shū. ②善信聖人親覺傳繪、本願寺聖人親覺傳繪、親覺傳繪、二巻或四巻 ③存、大正八三・七五〇 No. 2664、眞宗聖典宗祖撰 ④覺如宗昭(文永七)親應一 A. D. 1270-1351) ⑤撰、水仁 H(A. D. 1295) ⑥撰、眞宗の開祖親覺の二期に於ける行狀を記した同書と、これを圖解せる繪巻の部分とが交互に書かれた繪巻がある。これを善信聖人親覺傳繪とも又本願寺聖人親覺傳繪とも言ふが、又略して親覺傳繪とも言つてゐる。所がさうした繪巻より同書のみを鈔出別行したものを普通には御傳鈔と呼び、

- それと反對に同書を省略して單に繪巻のみを抽出して掛軸としたものを特に御傳繪と呼んでゐる。繪巻と同書とより成れる所謂親覺傳繪は親覺の滅後三十四年永仁三年十月の製作で、同書の執筆は御門覺如これに當り、繪巻は親覺に隨從してその行狀を見聞せる西佛房の子康榮寺淨賢の描く所である。幕府繪詞第五の第二段に「永仁三歳ノ冬應中御ノ候ニヤ報恩謝徳ノタメニトテ本願寺聖人ノ御一期ノ行狀ヲ草案シニ巻ノ縁起ヲ圖畫セシメシヨリ以來門流ノ聲遠邦モ近郭モ崇テ賞散シ、若齡モ老者モ響セテ安置ス」とあるが即ちそれで、文中に二巻の縁起とは今の傳繪を指すことは申すまでもない。本書は覺如が本願寺留守職就任以前にもした報恩講式、拾遺古徳傳と共に有名なものであるが、殊にその特徴をいへば親覺の正確なる史實を如實に傳へるといふよりも寧ろ金剛の文字を以て祖徳の宏大なることを讃仰し、且つその中へ巧に教義を織り込んで、靈簡實にそのよろしきを得た所にある。當時親覺の時代を距ること漸く遠く、面投口決の門侶悉く影を没するの時、稍もすれば崩れて往かうとする教團を宗祖の精神によつて引き締め、自らその護持の大任に當らむとした覺如の意氣が本書によつて遺憾なく何はれる。淨惠の眞宗故實傳來鈔によると、傳繪とは覺如の長子存覺の時別行流布されたといふが、今現存の遺品數種について見ると、御傳繪(繪相)を別行し二幅乃至四幅に仕立てたものに南北朝時代以後のもののみで、決してそ
- れ以前のものに接し得ないから、淨惠の説も大體承認してよからうと思ふ。かうした傳繪と繪との別行の事實がやがて後世に於て繪を拜見し傳文を聽聞するの風習を作つた。本山、末寺相共に報恩講には必ず御傳鈔を拜讀するが、西派本山では一月十二日、東派本山では十一月二十五日即ち報恩講七晝夜中日の初夜にそれ／＼その行儀を行ひ、御堂衆の勤むるが古例である。而して末寺にては本山より拜讀の許可をうけたもののみ、報恩講を修するに當つて拜讀し得らるゝが、御傳鈔を申請けない在家には決して許されてない。寛文、元祿、享保の頃には傳文繪相の上に就いて傳受といふことが行はれ、信濃康樂寺や松本正行寺が其中心となりて西佛私記、白鳥山日記又は行狀記の書を作つたといふことである。異本は大體三種で、(一)善信聖人親覺傳繪と題するもの。(二)善信聖人繪と題するもの。(三)本願寺聖人親覺傳繪と題するもの。即ちそれである。第一は高田派專修寺、及び東京報恩寺に藏する古本で、第二は西本願寺に藏する唯一本のみで、第三は康永二年の再治本たる東本願寺藏本を初めとして、弘願寺本、康永三年本(照願寺藏)、伏見西方寺藏本、その他本願寺聖人親覺傳繪の題號を有する流布本はすべてこの中に含まれる。いわゆる流布本の内容は上下兩卷十五段に分たれ、上巻は一、出家學道。二、吉水入室。三、六角靈告。四、蓮位夢想。五、選擇附屬。六、信行兩座。七、信位心同異。八、定評夢想。下巻は一、師表流
- 刑。二、稻田興法。三、山伏歸依。四、箱根參詣。五、熊野現果。六、入滅西歸。七、廟堂建立である。第一の古本は上巻にて第四蓮位夢想と第八定評夢想の兩段を缺き、下巻にて第五段の後半を缺いてゐるが、第二の古本善信聖人繪は上巻に於て第四、第八の兩段を加へたる所、全く康永本及び流布本と同じであるが、しかしその字句の相異に就ては一層原始的な面影がある。その他佛光寺流に傳へる所は傳繪によれば該派の列祖源海の作と稱し、蓮位、定評の二段を缺いて建曆歸洛、鎌倉校經、並に伊勢鹿島兩宮參詣の三項を増加してゐる。今、刊寫の諸本につき重なるものを掲ぐれば左の如し。
- 寫本(一)康永二年十一月著者自筆本、畫工開宗、宗舜、四卷(東本願寺藏)。(二)貞和二年釋弘願筆寫本、四卷(東本願寺藏)。(三)康永三年十一月外題及奥書著者自筆本四卷(上總國照願寺藏)。(四)善信聖人繪(卷末識語「向福寺琳阿彌陀佛」とあり、傳著者自筆、傳淨賢畫)二卷(西本願寺藏)。(五)善信聖人親覺傳繪(傳自筆本)五卷(高田派專修寺藏)。(六)善信聖人親覺傳繪、二卷(東京報恩寺藏)。(七)足利時代古寫本、四卷(京都伏見西方寺藏)。
- 一以上傳繪、繪畫、同書併用のもの一
- (一)建武五年本(願主明尊、畫隆圓)一幅(備後光照寺藏)。(二)古本(畫、傳土佐光業)六幅(甲斐高福寺藏)。(三)南北朝時代、三幅(三河如意寺藏)。(四)古本、二幅(越前淨得寺藏)。(五)應永二十六年本(畫工隆
- 光)四幅(加賀願成寺藏)。(六)寶徳元年本(裏書存如)四幅(加賀專稱寺藏)。(七)寛正五年本(裏書蓮如、畫傳土佐將監)四幅(近江西派赤野井別院藏)。(八)永正十一年本(裏書實如)二幅(大和木善寺藏)。(九)享祿四年本(裏書實如)四幅(和泉源光寺藏)。(一〇)天正二年本(裏書顯如)四幅(紀伊齋森御坊藏)。
- 一以上繪傳(繪畫別行のもの)一
- 同書だけを別行の御傳鈔の古寫本については、一帖本(越後、本誓寺藏)。二帖本(越後、淨興寺藏)。傳聞如上人筆二帖本(和泉、眞宗寺藏)等數へ立てれば限もなからずべて略する。尙、刊本については、延寶三年版、平假名繪入本、二冊(井筒屋七兵衛)。寶永二年本(佛光寺開版)。本派藏版本。大谷派藏版本。京都東六條丁九開版本。明治八年京都西村空華堂出版本。明治十八年京都東六條丁九再版本。大正四年西村九郎右衛門出版假名繪入本。等があり、御傳繪版畫としては京都栗田植髮御堂藏版物。京都西六條坊刊のもの(延仁寺茶屋の一段の所、火焰北方に向ふ)。京都東六條坊刊のもの(同じき火焰南方に向ふ)。勝川春亭原畫繪傳(五十二圖)等がある。(日下無倫)
- 御傳鈔羽車 ①(日)Go-denn-e-shi-dō-shū. ②四巻 ③存 ④明和元寫 ⑤(各)大・宗大・一九五三)
- 御傳鈔演義 ①(日)Go-denn-e-shi-dō-shū. ②十巻或十三巻 ③存 ④栗津義圭(一)寛政一一 A. D. 1799) ⑤安永八刊

【一】

一巻 ⑥存、東林更湯集抄之内 ①(龍大、研史)

御本願寺より東本願寺分家略記 ①(日)Go-hon-byō-in-gwan-ji-yo-ri-higashi-hon-gwan-ji-dan-ke-ryak-ki. ①巻 ⑥存 ⑥寫本(龍大、別置)

御由緒年契 ①(日)Go-yū-shō-nen-kei. ①巻 ⑥存 ⑥寫本(龍大、別置)

御由緒略記 ①(日)Go-yū-shō-ryak-ki. ①巻 ⑥存 ⑥山田辨承(一明治四四 A. D. 1911)記 ⑤明治三三刊 ④(正大、一五一四・四五一四六)

御遺誡 ①(日)Go-yū-ka. ⑥存、弘法大師全集第一四四部、弘法大師法教錄之内

⑥初に諸弟子等と稱し、次に固守戒律不行經、難及死門不妄語など七字句の偶文二十六句を列ね、終に吾末表未來諸僧機宜之と結んである。偶文の中には高祖大師四十八戒起請文と同じ句が往々ある。空海の遺誡と傳へて居るけれどその文辭から見てもかた後世の作たること明かである。

御遺誡木鐸 ①(日)Go-yū-kaimon-ku-taku. ①巻 ⑥存 ⑥法明述 ⑤寶曆一四刊 ④(高次、寄・一・五三)

御遺訓御講印形 ①(日)Go-yū-kan-go-kyō-in-gei-gata. ①巻 ⑥存 ⑥寫本(龍大、別置)

御遺訓御書 ①(日)Go-yū-kan-go-sho. ①巻 ⑥存 ⑤明治五寫 ④(龍

大、一・二九・一四)

御遺訓並御添書拜聴御請帳 ①(日)Go-yū-kan-narabishi-go-ten-shō-hat-cho-ō-ake-toku. ①巻 ⑥存 ⑤明治四寫 ④(龍大、別置)

御遺告 ①(日)Go-yū-ka. ⑥缺 ⑥最澄(神護景雲元一弘仁一三 A. D. 767-823)撰 ⑦(参考)本朝台祖撰述密部書目 ⑥遺告 ①(日)Go-yū-ka. ①巻 ⑥存、大正七・四〇八 No. 3431、弘法大師全集第七遺訓部 ④空海(寶龜五—承和二 A. D. 774—833)記

⑥本書は二十五條から成るもので、大師が入定前約一週日前の承和二年三月十五日の日附であるが、恐らく以前から思ひ付いて居られたものを、病床に臥しながら、遺弟に示す爲めに、卒爾に書き下されたものと思はれる。大師の文としては甚だ拙であるが、單に意の存する所を書き記したままで、他の披見す可きものでないから、文章の方には別に注意を拂はなかつたものと思はれる。本書が偽作であると言ふ説もあるが、その理由とする所は二三あるが、第一の理由は文の拙なることである。併し密家一般では、本書を大師の眞作と見做して居る。(一)初に成立を示す緣起第一には、大師御自身の略傳の記録である。(二)實惠大徳を以て、吾が滅度の後に、諸の弟子の依師長者と爲す可き緣起には、我が道の興ることは専ら此の大徳の信力に依ると説いてある。(三)弘福寺を以て、眞雅法師に屬す可き緣起には、實惠大徳に次いで眞雅

法師が東寺の長者と成る可きことが論されてある。(四)珍皇寺(宇治宮寺)を以て後生の弟子門徒の中に修治す可き緣起には、同寺は師の譲りであるから、後生の門弟等が修治すべきであることを論じてある。(五)東寺を教王護國寺と號す可き緣起には、唐の青龍寺に準じて、教王護國寺の稱を存する意を示す。(六)東寺の灌頂院は宗徒の長者大阿闍梨が檢校す可き緣起には、門徒の中で先輩から順に灌頂阿闍梨と成る可きを示し、且つ灌頂院は未だ遺傳し畢らないうが、實惠大徳が遺功す可きを論じてある。(七)食堂の佛前に、大阿闍梨並に二十四の僧の童子等を召侍して、五悔を習誦せしむ可き緣起には、大唐青龍寺の例に依る意が示してある。(八)吾が後生の弟子門徒等は大安寺を以て、本寺と爲す可き緣起には、大師の僧石潤の贈僧正が大安寺は道慈律師が推古天皇の御願を遂げられし所として本寺とせられたから、我が門徒も爾が爲す可きであると言つて居られる。(九)眞言場に宿住して、師の門徒と爲らんと欲はん者は、必ず先づ須らく情操を以て、本と爲すべき緣起には眞言の法燈を繼承せしめん爲には赤子を看定て、之を勞り榮うて其の操行の宜しきものを弟子とす可きことを論じてある。(一〇)東寺に長者を立つ可き緣起。(一一)三論・法相を兼學せしむ可き緣起。(一二)東寺に供僧二十四口を定むる緣起。(一四)二十四口の定額を以て、宮中の正月後七日の御願の修法を修す可き緣起。(一五)宮中の御願正月修法の修僧等は各々所得の上分を分て、高野寺の修理雜用に充つ可きこと。(一六)宗家の半分を試度す可きこと。(一七)祖師の恩を報す可きこと。(一八)東寺の僧房に女人を入る可からざること。(一九)僧房の内に酒を飲む可からざること。(二〇)神護寺家をして、宗の門徒・長者・大阿闍梨に口入せしむ可きこと。(二一)傳法灌頂阿闍梨の職位、並に兩部の大法を執く授く可からざること。(二二)金剛峯寺を東寺に加へて、宗家の大阿闍梨が修務すべきこと。(二三)一山土心水師が建立する道場に、朝毎に遊蛇の法を、三箇日夜に修す可きこと。(二四)東寺の座主大阿闍梨は、如意寶珠を護持す可きこと。(二五)若し末世の因婁非福等有て、密華園を破せんと擬せば、修法す可きこと。以上二十五條は悉く大師の滅後、眞言門徒が嚴守す可きを遺告されたものである。(神林隆淨)

御遺告 ①(日)Go-yū-ka. ①巻 ⑥缺 ⑥良源(延喜二一—寛和元 A. D. 912—965)撰 ⑦(参考)山家祖撰述密部書目集卷上、本朝台祖撰述密部書目

御遺告 ①(日)Go-yū-ka. ①巻 ⑥存、國譯密教別卷之内 ⑥塚本賢曉撰 ④大正一四刊 ④(龍大、研佛)

御遺告裏書 ①(日)Go-yū-ka-ura-shi. ①巻 ⑥存 ⑥宥快(貞和元—應永二二 A. D. 1345—1416)述 ④安政二寫 ④(高次、寄・一・五三)(寶龜院)

御遺告記 ①(日)Go-yū-ka-ki. ①巻 ⑥存 ⑥親快(建保三—建治二 A. D.

【二】

1215—1276)撰

御遺告勸注 ①(日)Go-yū-ka-kān-cha. ③巻 ⑥存 ⑥景嚴記 ④天正五(A. D. 1577) ⑥空海の御遺告(二十五條)の注釋 ⑥寶曆一一寫(高次、寄・一・五三)(京專)

御遺告勸注抄 ①(日)Go-yū-ka-kān-cha-shō. ③巻 ⑥存 ⑥尙祥(一寛元三 A. D. 1245)撰 ⑥空海の御遺告(二十五條)の注釋 ⑥鎌倉時代寫(寶龜院)明曆二寫(谷大、餘大・一一七)(京專)應永七寫(金剛三昧院)徳川時代寫(寶善院)

御遺告問書 ①(日)Go-yū-ka-kaishō. ①冊 ⑥存 ⑥類聚撰 ⑥寛永八寫 ④(高次、寄・一・五三)(正大、一四八・一五八)

御遺告口決 ①(日)Go-yū-ka-kaiketsu. ①巻 ⑥存 ⑥一巻 ⑥存 ⑥實實(正慶一一—應永五 A. D. 1333—1398)述 ⑥貞治五(A. D. 1365) ⑥御遺告の口決

御遺告口決類集 ①(日)Go-yū-ka-kaiketsu-rui-shū. ③巻 ⑥存 ⑥宜(天文五一—慶長一十 A. D. 1536—1612)撰

御遺告口傳 ①(日)Go-yū-ka-ku-

den. ②一帖 ⑥存 ⑥徳川時代寫 ④(寶龜院)

御遺告口傳抄 ①(日)Go-yū-ka-ku-den-shō. ①冊 ⑥存 ⑥快全(一應永三 A. D. 1424)記 ⑥足利時代寫 ④(寶龜院)

御遺告口筆 ①(日)Go-yū-ka-ku-hitsu. ②巻 ⑥存 ⑥宥幸撰 ⑥明應九寫 ④(金剛三昧院)

御遺告弘秘抄第四上 ①(日)Go-yū-ka-ku-hi-hi-shō-dai-shijō. ①巻 ⑥存 ⑥鎌倉時代寫 ④(高次、寄・一・五三)

御遺告考證 ①(日)Go-yū-ka-kaishō. ④巻 ⑥存 ⑥實心編 ⑥寶曆一三寫 ④(正大、一四〇・一一三)

御遺告最秘要記 ①(日)Go-yū-ka-ge-sai-hi-yō-ki. ①帖 ⑥存 ⑥徳川時代寫 ④(寶龜院)

御遺告私記 ①(日)Go-yū-ka-shi-ki. ③巻 ⑥存 ⑥觀應(明曆二—寶永十 A. D. 1656—1710)記 ⑥實永(一 A. D. 1705) ⑥正徳三寫(高次、寄・一・五三)寫本(金剛三昧院)

御遺告私聞書 ①(日)Go-yū-ka-shi-ki-kaishō. ②巻 ⑥存 ⑥足利時代寫 ④(寶龜院)

御遺告私抄 ①(日)Go-yū-ka-shi-shō. ①巻 ⑥存 ⑥實實(正應一一—應永五 A. D. 1333—1398)撰 ④(寶龜院)

本(仁和寺)

御遺告七箇秘法 ①(日)Go-yū-ka-shichi-kan-hi-hō. ③帖或一帖 ⑥存 ⑥寛文五寫(高次、寄・一・六四)寛文一〇寫(高次、寄・一・五三)

御遺告釋疑鈔 ①(日)Go-yū-ka-shaku-gi-shō. ③巻 ⑥存 ⑥類聚(嘉祿二—享元二 A. D. 1225—1304)述 ⑥空海の御遺告(二十五條)の疑問にこき釋したるもの。

④天和二刊(龍大、二六六・五三)(正大、一四三・二六五、一四八・三〇)(京專)延寶四寫(谷大、餘大・六〇七)哲・け・四・左・三三(京大、日大末、四一五)延寶八刊(高次、寄・一・五三)(寶龜院)享保六寫(高次、寄・一・五三)天文四寫(寶善院)

御遺告鈔 ①(日)Go-yū-ka-shō. ①巻 ⑥存 ⑥仁海(天曆五—永承元 A. D. 951—1046)撰

御遺告口決 ①(日)Go-yū-ka-kaishō. ①巻 ⑥存 ⑥實實(正慶一一—應永五 A. D. 1333—1398)撰 ⑥貞治五(A. D. 1365) ⑥空海二十五條御遺告の註書。桂光院上綱定樂に面受せる口決を骨子として作る。(密教大辭典)

御遺告鈔 ①(日)Go-yū-ka-shō. ①巻 ⑥存 ⑥快全(應永三— A. D. 1424)記 ⑥寫本(京專)

御遺告大事 ①(日)Go-yū-ka-dai-ji. ①包 ⑥存 ⑥寫本(高次、寄・一・五三)(寶龜院)(金剛三昧院)

御遺告傳授頭書 ①(日)Go-yū-ka-den-jū-go-shō. ③巻 ⑥存 ⑥成雄(永徳元—實徳三 A. D. 1381—1451)撰

御遺告難字 ①(日)Go-yū-ka-nan-ji. ①紙 ⑥存 ⑥足利時代寫 ④(寶善院)

御遺告秘訣 ①(日)Go-yū-ka-hi-ketsu. ①冊 ⑥存 ⑥實實(長治二—永承元 A. D. 1105—1160)記 ⑥寶曆九寫 ④(高次、寄・一・五三)(金剛三昧院)(寶龜院)

御遺告秘訣 ①(日)Go-yū-ka-hi-ketsu. ①帖 ⑥存 ⑥眞慶(一建長元 A. D. 1249—)記 ⑥享保一〇寫 ④(高次、寄・一・五三)

御遺告秘訣 ①(日)Go-yū-ka-hi-ketsu. ①巻 ⑥存 ⑥覺心述 ⑥寛政一〇寫 ④(龍大、研佛)

御遺告秘訣 ①(日)Go-yū-ka-hi-ketsu. ①冊 ⑥存 ⑥快全(應永三— A. D. 1424)記 ⑥應永一六(A. D. 1409) ④天明元寫(高次、寄・一・五三)

御遺告秘要鈔 ①(日)Go-yū-ka-hi-yō-shō. ②帖 ⑥存 ⑥室町時代寫 ④(高次、寄・一・五三)

御遺告略解抄 ①(日)Go-yū-ka-ryak-ge-shō. ①巻 ⑥存 ⑥新調述

御遺告資講 ①(日)Go-yū-ka-sai-kyō-ka. 一枚起請表講 ⑥存、的門上人全集第

名所行發 (名庫書)著者所現 月年の刊寫 (書考多書釋註)書本 説解書内 代年作者 著者 缺有 數巻 (名書)名題 號略字數

名所行發 (名庫書)著者所現 月年の刊寫 (書考多書釋註)書本 説解書内 代年作者 著者 缺有 數巻 (名書)名題 號略字數

綱經・華嚴經・楞嚴經・新金光明經・勝天王般若經・善戒經・瑜伽論・十地經・賢愚經・十住斷結經・四教義・解深密經・圓宗錄・華公・慈恩三藏・海東法苑(元曉)・天台・私案等を引用し或は参照して一部八品の總説及び經文の分科並に文句解釋をし、覺超の志を述べたものである。彼は「敬て世の信を得んことを望まず」といひ、「仁王般若經は萬善の根本、獲災招福の術、上求下化の行」であるといひ、「異解を集めて要を抽んでたもの」であるといつてゐる。彼の本書著作の態度はこれ知られるであらう。本書は「將にこの經を釋するに略して四門あり、一には經の大意を述べ、二には五重玄を明し、三には入文科釋し、四には問答料簡す」とある如く四部門を以つて構成されてゐる。仁王經の大意とは通別二意あり、通じて般若部經典に一貫した通別圖の三教を明してゐるが、別圖によれば「内、佛果の十地を護り、外、國土衆生を護る」經である。次に五重玄義は古藏の疏によつて天台の五重玄を用ひ、「一、釋名は經名を一字一字解説し、仁王を般若に望むれば般若は護護、仁王は所護。般若に護持せらるゝが故に仁王が安穩。若し人が法を稱るとみれば、仁王は護護。般若は無生正觀。四、辨用は内外二護。五、教相は大乘滿字教」。以上の古藏の説。次に自説を掲げて、實相を體となし、因果を宗となし、通別圖の教を教相とし、五味の中に第四熟蔕の教なりといふ。この自説は天台大師智顛説、章安記の仁王經疏(大正三三ノ二五三)の説と同一である。因みにいふ。覺超は天台の仁王疏は圓宗錄(恐らく大唐法苑珠林目錄に收めてあるもの)に「仁王經疏四卷、智者大師撰前碑上に名あつて未だ得ず云云」といひ全く散逸したものと考へてゐる。現在の仁王經疏の序文でみると覺超の師たる源信僧都の手によつて宋國へ贈つたようになつてゐる。若し然りとすれば覺超が仁王疏に就いて見聞したことはあり得ないと思はれる。この點は疑ひとして後日に遺して置く。入文科釋の段では序品を序分とし、觀空品から受授品までの六品を正宗分とし、彌果品の一品を流通分とする古藏の説によつてゐるようである。本書で注意すべき點は楞嚴經、四卷楞伽、起信論等と仁王經が心生滅の義に關して意同といひ、經の說と仁王經とは初一念の始終有無の義に相通するものありといひ、仁の文字の會意を天真人三才にかけて縱橫の義を説いてゐる等の點である。但し仁の字を三才にかけて説いてゐるのは天台大師の仁王經疏卷一(大正三三)に出でゐるから敢て覺超の新説ではないが、この文字の字劃の縱橫によつて教義を解説する方法は日本天台一貫道徳山王の二字を三護三觀にあて、説明すること、共通するものがある。覺超の著述には偽作が多いが本書は親撰と認むべきものである。決して疑ふべき點はない。然し本書と天台大師の仁王經疏と全く關係がない。本書が天台宗の觀點を取つてゐるといひながら二護三

護の解釋、一念の説明等が天台宗の教義で力説してゐないのは何となく物足りぬ感がある。又圓宗思想も強く詳しく説述してはなかつたが一般教義解説の程度を出でないのは如何なる事情によつたものか。時代は正に武門政治に變革せんとして地方の民心漸やく不安になつてゐる時代の作品たる本書が、又圓宗國家の道場たる叡山に住してゐた覺超が冷かな學術書を記述してゐるのは如何なる内部事情が潜んでゐたのであらうか。更に注意すべきものがあると思ふ。(参考) 山家祖德撰述編目集卷下 (田島德音)

護國新論 (日)Go-koku-shinron. ① 卷 ② 存 ③ 安國漢雲述 ④ 慶應四刊 (龍大、二八、四四、一六四、六)

護國尊者所問大乘經 (日)Go-koku-son-jō-shō-mon-dai-jōkyō. (支)Haiko-tsun-the-so-wen-ta-chōng-ching. (藏)Phags-pa yul-hkhon-skyoh gis shub-pa shes-hya-ba theg-pa chen-pohi md. ④ 卷 ⑤ 存 ⑥ 大正二二、一、No. 321. 縮地一〇、二、五、五、北1215. 南1225. 元1225. 明北258. 清863. 麗1214. 天1211. 法1359. 至1955. 明南890. 凡、873. ⑦ 施護譯 ⑧ 宋太平興國五(A.D. 980-)

護國善護 (梵)華山なる佛の所に至つて、無上の功德、無碍の大神を得、衆生を教化して、かの煩惱を斷じ、愚暗を離れて念佛せしめ、甚深の梵義を樂聞して、無上の正智を得しむる爲に、善護が行すべき所

を尋ねたの對して、佛が徳目の方面と、實際の方面との二方から、説示せられたものである。寶積經の第十八會(卷八〇、八一)が、その異譯である。

始に内外心意の四法具足したるを善護と名くと云ひ、次で善護を安穩せしめる法、輪廻中にあつて心を愛樂せしむる法、愛樂すべからざる法、善護を損する法、明了に修習すべき法、行法を清淨ならしめる法、離すべき法、遠離すべき法、行すべからざる法、苦の報(卷一)、並に傳法など、十二種に就いて、各四項を以て數へ、更に善提過去世の成義意如來の世に於ける、發光國王とその王子の福光大太子との物語を述べてゐる(卷二、四)。この物語の大意は、別項護國善護會に出したから、茲には略する。たゞ彼の經に勝喜樂城とあるのが、本譯では愛樂城とあり、太子が出家して後の修業の期間と、終に、無量劫の間、五波羅蜜を行すよりも、此の正法を信受するの、造に勝れたるを述べてゐる所が、や、彼の經と異るのみである。(選擇成譯)

護國殿三種寶物記 (日)Go-koku-ken-san-shū-hō-motsu-ki. ① 卷 ② 存 ③ 寫本(正大、一五、一四、四四)

護國扶宗論 (日)Go-koku-basūron. ① 卷 ② 存 ③ 寫本(龍大、二八、二、三)

護國篇 (日)Go-koku-hen. 淨宗護國篇 ① 卷 ② 存 ③ 良信撰 ④ 寶永七(A.D. 1710) ⑤ 寶永七刊 ⑥ 正大、一五

一五、三六)

護國善護會 (日)Go-koku-bō-satsū-e. (宋)Hu-kuo-p'u-sa-hui. (藏)Phags-pa yul-hkhon-skyoh gis shub-pa shes-hya-ba theg-pa chen-pohi mdo. (Sk)Arya-ratrapalapariprecha nama mahāyānastrōj(支)Ratrapala-pariprecha(Ed. by I. Finot, Bibl. Bud., St. Pétersbourg, 1901)護國善護經 ④ 存 ⑤ 大寶積經第八〇一八(大正二二、No. 310, 18) ⑥ 圓經多譯 ⑦ 隋開皇五—二〇(A.D. 585—600)

佛が善國叡山に於て、護國善護の爲に、微妙の義有り、無染清淨の梵行を具せる法を説かれたもので、施護譯の護國尊者所問大乘經の異譯である。舍婆提城に於て、安居を終へた護國善護が、佛所に至り、一切法に於て功德を増し、究竟の處に至つて自在を得、捷疾の智を證し、決定智を得、衆生をして一切智を證せしめ、念佛三昧を得て、速に一切種智を證得せしむるに、善護は如何に行すべきやを尋ねたの對して、佛が、如上の清淨の事を成ずるの法、無畏の法、心を歡喜せしめる法、棄捨すべき法、無悔の法、行すべき調伏の法、淨菩提の行、墮落の法、險道の法、親近すべからざる福伽羅(人)、未來の苦を當す法、繫縛の法など、十二種に互つて、各四種を説き、更に五十の例を引いて、過去世に自ら無量の苦行を爲して疲倦せざりし事、未來の衆生は、此の等の一行一偈をも信受せざるのみならず、却つて佛説に非ずして誘

ずべく、未來の比丘も亦、放逸無慚なるべきを評説し、未來に大乘を行ずる善護は、かゝる過患を遠離すべきを述べ、更に善護を障礙する八種の法を掲げてある(卷八〇)。

次に過去の成利難佛の所に於て、娑王が王子福子の爲に、七寶もて勝喜城を造り、無數の婁女を居らしめたが、王子は是を喜ばずして、吉利意(即ち成利難)佛の所に走り、諸有の佛を解いて、無上道に至らんことを求めたので、佛は王子の爲に善提の行を廣説される。父王の娑王は、王子が成利難佛の所にあるを知つて、是亦かの佛所に至り、説法を聞いて不退轉地に至る。王子は、かの佛に自らの勝喜樂城を奉り、僧伽藍を獻じ、三億俱致の間、壽命を願みずして、佛及び僧を供養し、此の佛の涅槃後に、如來を團思して、九十九俱致の寶塔を作り、後王子は出家して、頭陀を行じ、一切施與して疲倦する所無かつたので、諸の人天が、常に承事供養した物語があつて、この娑王は今の無量壽如來であり、王子福子とは今の釋尊であることが説かれ、終に若し善護にして、無上菩提を得んとすれば、この王子が、深心至誠に修した諸行を學び、一切愛憎の念を捨つべきことが述べられてある(卷八一)。

經の前半は、善護の行すべき徳目を掲げ、後半は實例を以て是を示し、ことに名利を受して善法を損し、我慢に害せられ、惡知識に親近すべからざることをば、懇々と説示したもので、實際的方面から、大乘

の善護行を解説したものと云はねばならぬ。(選擇成譯)

護國論 (日)Go-koku-ron. 佛法護國論 ① 十九枚 ② 存 ③ 月性(文化一四、一、安政五、A.D. 1817—1838)述 ④ 帝國、二〇〇、三六)

護持法 (日)Go-ji-hō. ① 卷 ② 存 ③ 大日本佛教全書第四〇阿婆摩抄之内

承澄(元久二—弘安五、A.D. 1205—1232)撰

護三寶物體 (日)Go-san-bō-motai. ② 卷 ③ 缺 ④ 唐道宣(開皇一六—乾封二、A.D. 596—607)述 (參考)諸宗章疏卷第二

護持教誡 (日)Go-ji-kyō-kai. 眞宗寺院護持教誡 ① 卷 ② 存 ③ 佐竹智應編 ④ 明治三三刊 ⑤ 谷大、宗洋、三四六)

護持正法章 (日)Go-ji-shō-chō. ① 卷 ② 存 ③ 日本大藏經法相宗章疏第二 ④ 良通(建久五—建長四、A.D. 119—1232)述

此の書は生駒良通上人が、夙に像法末代鴻季に及んで、修學衰微して増進のせない理由は何處にあるかと云ふて、其の違縁を挙げ、法炬の眼前に消え盡命の喉底に盡きて如何とも致し難いから、學匠中流の者數人が、毎月會合して所請し、佛道增進の願縁を説いて、修道の捷徑を示し、遮止門表彰門の二つを以て、當時の教界に對し一大警戒を與へたものである。

て居る。その第一には、學に志して寺に住するを好まざるもの、第二には放逸して大酒大食するもの、第三には勝負闘鬪六大小將等を終日なすもの、第四には追従するもの、第五には京童となるもの等が日々に増加して法命を減す故に、面々互にこれを遮防すべきであるとか、次に表彰門には願縁として、第一には凡夫に就いて、第二には良家に就いて、第三には佛徒に就いてと説き、凡夫に就いての中に又三あつて、一に中流に就いて、二に論匠に就いて、三に非論匠に就いてといつて願縁を明して居る。次に中流の事の一段に於ては、中流の徳を説き、次に論匠事の一段に於ては、論匠講問の形式化せるを痛み、同時に眞面目なる論匠たるべきを説き、次に非論匠事の一段に於ては、怠慢非論匠の者の勸誘すべきを説き、次に良家事の一段には、延曆園城の北嶺に法相一宗に名僧なしと云ふのは實に悲しむべきであるから、修練講學究道すべきを説き、最後に興隆事の一段には、總じて修學增進、寺院興隆の徳を明し、形式的なる讚歎講、法式及び無用の飲酒等は行はれて居るが、問答講學は絶え、稽古は殆んど荒れた。故に中流面々この由を充分わきまへ大勇猛精進し、所請評定せられたいと云ふ一大警告の文であつて、當代のみでなく現代に於ても通すべき戒である。何れも上人の學殖を基礎とした極めて實踐的なものである。(稿本藏風)

護持僧次第 (日)Go-ji-shō-shū-tai. ① 卷 ② 存 ③ 續群書類第四

【コ】

によつて能く疾病災難を除去し得ることを反覆説法してゐるし、過去七佛（維衛佛、式佛、隨樂佛、拘樓秦佛、拘那含牟尼佛、迦葉佛、釋迦牟尼佛）の名字や、六神名字（波奈羅、迦奈羅、摩訶迦、迦迦、摩訶、摩訶）を讀誦すれば災難消滅の功徳を述べ、前半は阿難を、後半は文殊師利、四天神王、天人等を對告衆として水火、盜賊、刀杖、枷鎖等の災厄を除くことを列挙してゐる。其中で、我（文殊師利）を指す（當に於佛滅後、將二十五菩薩、於惡世中、有能讀誦此經、處我等處夜在其左右、誦讀是人、の文あれど、二十五菩薩の名を擧げず、終末には阿難への遺囑あり、本經の供養者には、現世安吉。將來往無量壽國。即生蓮華。願體金色。身相具足。智慧勇健。如三上輩者、功德如是。不可稱計の利益あることを述ぶるも、二十五菩薩は十往生經（續藏一・一四）や山海經（大正八五・三九二）等の思想を混じり、往生無量壽國；如上輩者は無量壽國よりの轉用なるはいふまでもない。更に、最後に、佛告阿難、當用好紙好筆好墨、至心書寫我所出法（中略）無令妄失、失一畫一點。或は、阿難復言、受天章教、頂禮佛足、一心奉行の如きは明かに疑信難の馬脚を露はしてゐるし、修福受樂報。所欲皆自然。超然生死流。上言至涅槃（中略）得口至涅槃。不滅復不生の二十偈文を以て本一經を總結してゐるのである。

【参考】奈良朝現在一切經目錄1769。開元釋教錄略出卷第四 ①煇煌本（佛蘭西

國民圖書館藏P.2340）

護身命經 (日) Go-shin-myō-kyō

①支) Hu-shen-ming-ching. ②一巻
 ③存、大正八五・一三二六No.3866
 ④本經は中村不折氏藏の煇煌本にして大正八十五巻に初めて收載されたものである。本經の題名並びに首部分を除く。首題は恐らくは經跋に依つて新加されたものであらう。即ち其の跋文に依れば

正光二年(A.D.522)十二月十五日、信士張阿宜、寫護身命經、受持讀誦、願供養經。上及七世父母、下及己身、皆誠善味之道。とあり。故に本經の成立は此の跋文に關する限り北魏時代正光以前に遡るべきものであらう。

本經の内容は經首及び初の部分を缺いて列明せざる所あるも、十二聖賢の意義を述ぶる第五より初まつてゐる。而して以下を分節して五類にすることが出来る。第一節は佛は阿難を對告衆として、若しも比丘比丘尼優婆塞優婆夷國王王子及び諸の婦女ありて能く此の十二法を奉行するものあらば、所隨生に在れども常に佛に值ふことを得るし、教化を周旋し長く衆苦を離れて三法門に入らば功得成就して疾く佛となれることを得て輪し三界を歩するが如しといひ、若し現世の所有人間が此の無上道を求め、廣く一切を度せんと思ふれば此の經を讀誦せよと教へ、此の世を度し無爲を取らんと欲するもの、上は妙樂天上に生れんと欲するもの、轉輪聖王を求めんと欲するもの、尊貴

富を求むるもの、女身を轉じて男身を求むるもの、世々明師に隨つて教化を求めんとするもの等は宜しく此の經を讀誦せよと示し、此の經を奉持するものは十方現在の諸佛に擁護せらるると説き、過去七佛の爲に護らるといひてその名を擧げず、天龍鬼神日月五星二十八宿等を出し、横死なく、一切の衆邪に害せられずと説き、此の經を聞いて受持する者書寫するもの、その所願悉く得るとして、阿難汝忘る、莫れといへば、阿難は天尊の教を受けんと述べてゐる。第二節は此の一座の中に長者の女善信と呼ぶものあつて、佛に女賤を以つて弟子と爲らんとし、生々の處女身を離れたいこと、佛より五戒を授かりたいことを尋ね、善信女の前世は長い間未だ佛を聞かず、未だ法を聞かずして、隨世の因縁により正法を毀滅し、或は塔寺を搗め、或は眞人を殺し、或は三尊の財物を掠め、或は父母を殺すなど衆惡作れども自覺せず、今佛陀に遭ふことを得て心開意解して五戒を求むるのであるとなし、第三節に於て佛は諸女に向つて五戒の相を説いてゐる。即ち、一には仁を守りて恩者及び群生を殺さず。二には義護して盜まず、己を損じて衆を濟ふ。三には貞潔にして姦行せず汚汚することも無し。四には言詳論ならず口過を犯さず。五には酒を遠けて飲まず衆怨を犯せずとの五戒を以て讀しめ、汝等諸戒を守らば願の如く悉く得て終りに處しからざるなりと述し、第四節には阿難を初め汝等は護行せば佛に至るを得べく、佛道は學せずんばあるべからず、經法は讀まざらんばあるべからずとなし、我は今佛となり得たるも、積學修行の致せし所であるとし、大乘の妙法は男もなく、女もなく、貴も無く、賤もなしと決擇し、聞是經の功徳は所願悉得なりと教へ給ひたれば、大衆が大歡喜して無上眞道を發して佛を作禮奉行してゐる。第五節は經の廣宜流布受持を以て阿難に囑累し、此の經の功徳を重ねて述して、本經を結んでゐる。

煇煌本(中村不折氏藏) (成田昌信)

護僧物制 (日) Go-shō-mōshū-zei

①支) Hu-sheng-wa-choh. ②一巻 ③唐道宣
 (開皇一六一號封) A.D. 590—687) 述
 【参考】諸宗章疏錄第二

護念經聞書鈔 (日) Go-nen-kyō

①支) Hu-nen-kyō. ②一巻 ③寬延四寫
 (正光、一五四・九四)

護法救世妙道明鑑 (日) Go-hō-kyō

①支) Hu-hō-kyō. ②一巻 ③存
 ④日辰述 ⑤明治二七刊 ⑥谷大、餘大、二四八四(帝國、四・二八〇)

護法建策 (日) Go-hō-ken-aku

①一巻 ③存 ④義導(文化二)明治一四
 A.D. 1805—1881) 述 ⑤寫本(谷大、長保、七二)

護法賢聖傳 (日) Go-hō-ken-eden

①二巻 ③存 ④石林貞一編 ⑤明
 治一七刊(正光、一〇三五・五三)(龍大、二九六五・一〇)明治四五刊(谷大、餘洋、三〇七)(帝國、二八・二二四)

護法濟衆編 (日) Go-hō-ken-eden

①一巻 ③存 ④西有移山(一)明治
 四三 A.D. 1910) 撰 ⑤(參考) 譯書目錄

護法錄 (日) Go-hō-roku

①支) Hu-hō-roku. ②(支) Hu-hō-roku. ③一巻 ④存 ⑤明末撰(一)洪武
 一三 A.D. 1380) 撰、明末撰(參考) 譯書志卷下 ⑥寫文六刊 ⑦(哲、え・七、中・一九)(京大、藏・二四・六)

護法錄 (日) Go-hō-roku

①一巻 ③存 ④佐々木了綱編
 本護法錄 ⑤(谷大、宗大、二九二二)

護法論 (日) Go-hō-ron

①一巻 ③存、大正五・二六・三七No.
 2114、餘大、八、三三〇・六、明北1495、且、清1502野、明南1506魯、N. 1502 張商
 英述 ⑥宋大觀四(A.D. 1110)

護法論 (日) Go-hō-ron

①護法論は當時韓退之や歐陽修、程明道、
 程伊川等の佛教排斥論が朝野に横溢せるに
 對して儒佛二教の各々の典籍を擧げてこれ
 を反駁し、兼て王浮の化胡經の偽作なる
 ことを論じ、又王文康の「大同論」等を用
 いて三教の調和論を提唱し、儒は皮膚の疾を
 治し道は血脈の疾を治し釋は骨髓の疾を治
 すとして三教は鼎足の一を缺くべからざる
 のであると主張し、力を極めて持佛思想
 を一掃せんとした論である。韓退之や歐陽
 修等の持佛論に對して「余嘗て謂へらく其
 の教を持せんと欲せば、恣に盡く其の書を
 讀み深く其の理を求むべし、其の吾が儒に
 合はざるものと學佛の見とをとりて質疑辨
 惑して後にこれを排せば可なり、今其の理
 に通ぜずして妄りにこれを排すれば、是れ
 斥鷃が鷓鴣を笑ひ、朝菌が松柏を輕んずる

名所行設(名庫書)若藏所現 月年の刊寫(書考多書釋註)書本 説解者内 代年作著 著書 缺存 載世(名書)名題 號字子數

【コ】

hen. ①一巻 ③存 ④南漢(天明三)一明
 治六 A.D. 1783—1873) 撰 ⑤明治三三刊
 ⑥(龍大、二〇九九・六四)(帝國、一・二・三三
 一)

護法財場論 (日) Go-hō-zai-hō-ron. ①一巻 ③存 ④詩自在道人述 ⑤
 刊本(高大、寄・一・二四)

護法策進 (日) Go-hō-saku-shin. ①一巻 ③存 ④靈遊(一)安政三 A.D. 1856
 一) 述 ⑤刊本(谷大、餘大、二二二三)

護法資治論 (日) Go-hō-sai-ron. ①五巻或十巻 ③存 ④森尚謙(永
 應二)享保六 A.D. 1683—1721) 撰 ⑤寬
 永四刊(立大、A.O.四・三三〇)(高大、寄・一・
 二四)(正大、一〇九一・八)(寛永四刊(谷大、
 餘大、三七九)前半明和、後半寛永五刊(龍
 大、研史)明和三刊(正大、一〇九一・七)安永
 三刊(正大、一〇九一・六)天明三刊(正大、一
 〇九一・七)

護法沙門法琳別傳 (日) Go-hō-sha-mon-hō-rin-hō-ten. ①(支) Hu-fa-sha-mon-fa-lin-pich-hi-tan. 唐護法沙門
 法琳別傳 ②三巻 ③存、大正五〇・一九
 八No.2031、餘大、八、三三〇・三三・一
 ④陳彦瑛(永定元)大業六 A.D. 57—610)
 集 ⑤(參考) 新編諸宗章疏錄第三

護法集 (日) Go-hō-shū. ②九巻
 ③存 ④獨處玄光(寛永七)元祿一 A.D.
 1630—1698) 集

⑤獨處獨語、自誓語、俗談、語語、獨處
 黨、渡物、蒙山對客、睡庵雜記二書、合科
 改題)、般若九想圖贊、辨々意(辨々意指市

ノ漢譯)を、附録として譯宗辨を收む。
 ⑥元祿五刊 ⑦(哲、え・七、右・一八、え・五、
 右・一三)(龍大、二六九九・二二)(駒大)

護法集碎金 (日) Go-hō-shū-kan. ①一巻 ③存
 ④(參考) 譯書目錄

護法小策 (日) Go-hō-shō-saku. ①一巻 ③存 ④慶應(慶應)A.D. 1865
 一) 述 ⑤明治二寫 ⑥(谷大、宗大、
 四〇七七)

護法小品 (日) Go-hō-shō-hōon. ①一巻 ③存 ④超然(真政四)明治元 A.
 D. 1792—1868) 述 ⑤安政二刊 ⑥(谷大、
 餘大、四二二六)(龍大、二〇五二・一四)(京
 大、一・二六・三)

護法正議 (日) Go-hō-shō-gei. ①一巻 ③存 ④田中智學著 ⑤大正九刊
 ⑥東京國經會

護法常應錄 (日) Go-hō-shō-jō-ron. ①一箱 ③存 ④柳澤吉保
 (萬治元)正徳四 A.D. 1658—1714) 述 ⑤
 【參考】 譯書目錄

護法常應錄鈔 (日) Go-hō-shō-jō-roku. ①三巻 ③存 ④柳澤吉保(萬治元)正徳四 A.D. 1658
 一) 述 ⑤(參考) 譯書目錄

護法新論 (日) Go-hō-shin-ron. ①五巻 ③存 ④安藤(一)慶應元 A.D. 1865
 一) 述 ⑤慶應三刊(哲、え・八、右・三三・三
 三)(龍大、二八二・五)(谷大、餘大、一〇
 三)明治二刊(二編)(龍大、二八二・七)(谷
 大、餘大、一〇四)

護法塵露篇 (日) Go-hō-jin-ro-hen. ①一巻 ③存 ④瑞門(一)寶永三 A.
 D. 1706—) 述 ⑤寶永三刊 ⑥(正大、一〇
 九一・七三)

護法總論 (日) Go-hō-sō-ron. ①一巻 ③存 ④雲英見(文政七)明治四
 三 A.D. 1824—1910) 述 ⑤昭和五刊 ⑥
 (龍大)(谷大、餘洋、一〇四五)

護法談 (日) Go-hō-dan. ①一巻 ③存 ④道英(文化一三)明治九 A.D.
 1816—1876) 述、大内青村(弘化二)大正七
 A.D. 1845—1918) 撰 ⑤明治一六刊(正大、
 一〇九・七)(龍大、二八二・八)(哲、え・八、
 中・四)明治一九刊(京大、一・二六・四)
 ⑥東京鴻盟社

護法圖論 (日) Go-hō-to-ron. ①一巻 ③存 ④收浩然(一)大正九 A.D.
 1920) 著 ⑤明治初期(寺院寮創設の頃)
 ⑥一、外護。二、内護。(一)因果法爾。
 (二)佛法有用。(三)隨難別答。(標部文鏡)

護法得宜論 (日) Go-hō-toku-ron. ①二巻 ③存 ④日透撰 ⑤刊本
 (哲、え・一、右・二七)(谷大、餘大、一一八)
 (立大、A.O.五・二九〇)

護法漫筆 (日) Go-hō-man-pitsu. ①一巻 ③存 ④松平定常(一文政一) A.
 D. 1829) 撰 ⑤文政一〇刊(谷大、餘大、一
 四九)明治一〇刊(帝國、一三九・二〇二)(龍
 大、二八二・九)(正大、一〇九一・二〇)(哲、
 え・八、中・二)(高大、寄・一・二四)(京專)

護法用心集 (日) Go-hō-yō-jin-

shū. ①一巻 ③存 ④西有移山(一)明治
 四三 A.D. 1910) 撰 ⑤(參考) 譯書目錄

護法錄 (日) Go-hō-roku. ②(支) Hu-hō-roku. ③一巻 ④存 ⑤明末撰(一)洪武
 一三 A.D. 1380) 撰、明末撰(參考) 譯書志卷下 ⑥寫文六刊 ⑦(哲、え・七、中・一九)(京大、藏・二四・六)

護法錄 (日) Go-hō-roku. ①一巻 ③存 ④佐々木了綱編
 本護法錄 ⑤(谷大、宗大、二九二二)

護法論 (日) Go-hō-ron. ①一巻 ③存、大正五・二六・三七No.
 2114、餘大、八、三三〇・六、明北1495、且、清1502野、明南1506魯、N. 1502 張商
 英述 ⑥宋大觀四(A.D. 1110)

護法論は當時韓退之や歐陽修、程明道、
 程伊川等の佛教排斥論が朝野に横溢せるに
 對して儒佛二教の各々の典籍を擧げてこれ
 を反駁し、兼て王浮の化胡經の偽作なる
 ことを論じ、又王文康の「大同論」等を用
 いて三教の調和論を提唱し、儒は皮膚の疾を
 治し道は血脈の疾を治し釋は骨髓の疾を治
 すとして三教は鼎足の一を缺くべからざる
 のであると主張し、力を極めて持佛思想
 を一掃せんとした論である。韓退之や歐陽
 修等の持佛論に對して「余嘗て謂へらく其
 の教を持せんと欲せば、恣に盡く其の書を
 讀み深く其の理を求むべし、其の吾が儒に
 合はざるものと學佛の見とをとりて質疑辨
 惑して後にこれを排せば可なり、今其の理
 に通ぜずして妄りにこれを排すれば、是れ
 斥鷃が鷓鴣を笑ひ、朝菌が松柏を輕んずる

名所行設(名庫書)若藏所現 月年の刊寫(書考多書釋註)書本 説解者内 代年作著 著書 缺存 載世(名書)名題 號字子數

【コ】

開仁(延暦一三—貞觀六 A. D. 794—865)撰
 護摩の火色、金輪方壇、投物、乳木、降伏、五香、五穀等に付き、孔雀不動使者執等を引いて解説をしてゐる。但し書中屢ば慈覺大師口傳、大師在唐口決と云ひ、又寛平七年正月十日大師口傳等とあり、同年は大師入滅を去る三十二年後であるから、或は後人の偽作と思はる。(大森眞應)

護摩觀想 ①(日)Go-ma-kwan-sa.
 ②(参考) 本朝台祖撰述密部書目
護摩觀法 ①(日)Go-ma-kwan-bō.
 ②(参考) 本朝台祖撰述密部書目
護摩觀法口決 ①(日)Go-ma-kwan-bō-ku-keitsu. ②阿彌陀房記 ③(参考) 本朝台祖撰述密部書目
護摩加行 ①(日)Go-ma-ke-gyō.
 ②存 ③夢源述 ④永正八寫 ⑤(金剛三昧院)

護摩見聞記 ①(日)Go-ma-kem-mon-ki. 護摩見聞集 ②二卷 ③覺超(天德四—長元七 A. D. 960—1034)述 ④(参考) 本朝台祖撰述密部書目、山家祖德撰述諸日集卷下
護摩見聞思記 ①(日)Go-ma-kem-mon-shi-ki. 護摩見聞集 ②二卷 ③覺超(天德四—長元七 A. D. 960—1034)述 ④(参考) 密乘撰述目録
護摩見聞集 ①(日)Go-ma-kem-mon-shū. 護摩見聞記、護摩見聞思記 ②二卷 ③覺超(天德四—長元七 A. D. 960—1034)述 ④(参考) 諸宗章疏錄第二
護摩五種各別口決 ①(日)Go-ma-

Go-shū-kaku-betsu-ku-keitsu. ②二卷 ③存 ④明治四四寫 ⑤谷大、餘大、一五六八) ⑥護摩幸聞記 ①(日)Go-ma-kōmon-ki. ②一卷 ③存 ④元文六寫 ⑤(谷大、餘大、九四四) ⑥護摩作壇 ①(日)Go-ma-sa-tan. ②一冊 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(寶龜院) ⑥護摩作壇作法 ①(日)Go-ma-sa-dan-sa-hō. ②一帖 ③存 ④元文三寫 ⑤(高次、寄、一六二二) ⑥護摩作壇略作法 ①(日)Go-ma-sa-dan-ryaku-sa-hō. ②一帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(寶善提院) ⑥護摩最略抄 ①(日)Go-ma-sai-ryō-ku-shō. ②一卷 ③存 ④勝賢(保延四—建久七 A. D. 1138—1196)述 ⑤寫本(寶善提院) ⑥護摩雜記 ①(日)Go-ma-zaki-ki. ②聖賢記 ③(参考) 諸宗章疏錄第三
護摩雜要 ①(日)Go-ma-zaiyō. ②一帖 ③存 ④鎌倉時代寫 ⑤(寶善提院) ⑥護摩支度 ①(日)Go-ma-shi-taku. ②一冊 ③存 ④寫本(高次、寄、一六四四) ⑥護摩支度及諸尊護摩 ①(日)Go-ma-shi-taku-oyubi-shō-son-go-ma. ②一帖 ③存 ④鎌倉時代寫 ⑤(寶善提院) ⑥護摩支分抄 ①(日)Go-ma-shi-bun-shō. ②一帖 ③存 ④平安朝時代寫 ⑤(寶善提院) ⑥護摩次第 ①(日)Go-ma-shi-dai. ②一卷 ③存、弘法大師全集第七、第一三、日本大藏經真言宗事相章疏第一 ③空海(寶龜五—承和二 A. D. 774—835)述 ④弘法大師全集第七卷所收のものは、護摩の頭次第で、火天、都母、本尊、諸尊、滅惡の五段護摩の法を説いてゐる。第一三卷所收のものは、護摩修法の次第で、火天、都母、本尊、諸尊、火天の五段護摩を説いてゐる。前者の如き頭次第ではなくて少しく丁寧に觀想などを記してゐる。作者につき、弘法大師、理源大師聖賢の兩説がある。多分聖賢作であらう。 ⑤天明二寫 ⑥(大通寺藏) (小田藤舟) ⑦護摩次第 ①(日)Go-ma-shi-dai. ②二卷 ③存、日本大藏經天台宗密教章疏第一、大日本佛教全集第二八 ④圓珍(弘仁五—寛平三 A. D. 814—891)説寛平四年、七八段)述 ⑤護摩次第 ①(日)Go-ma-shi-dai. ②一冊 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(寶龜院) ⑥護摩師口決 ①(日)Go-ma-shi-ku-keitsu. ②存 ③足利時代寫 ④(寶龜院) ⑥護摩師傳抄 ①(日)Go-ma-shi-den-shō. ②一冊 ③存 ④設置(實治元—一冊 應二 A. D. 1347—1393)記 ⑤寫本(金剛三昧院) ⑥護摩述記 ①(日)Go-ma-shū-ki. ②二卷 ③覺超(天德四—長元七 A. D. 960—1034)述 ④(参考) 諸宗章疏錄第二、本朝台祖撰述密部書目、密乘撰述目録、山家祖德撰述諸日集卷下、密乘撰述目録、
 ⑤最澄(神護景雲元—弘仁一三 A. D. 767—823)撰 ⑥(参考) 山家祖德撰述諸日集卷上、密乘撰述目録、本朝台祖撰述密部書目、
 ⑦護摩集 ①(日)Go-ma-shū. ②五卷 ③存 ④覺超(天德四—長元七 A. D. 960—1034)撰 ⑤(参考) 諸宗章疏錄第二、山家祖德撰述諸日集卷下、密乘撰述目録、本朝台祖撰述密部書目、
 ⑧安永九寫 ⑨(谷大、餘大、二五八二) ⑩護摩初行卷數案 ①(日)Go-ma-shō-kyō-kan-zū-an. ②一帖 ③存 ④足利時代寫 ⑤(寶善提院) ⑥護摩初行表白並灌頂護摩表白 ①(日)Go-ma-shō-kyō-kan-zū-an. ②一帖 ③存 ④足利時代寫 ⑤(寶善提院)

一卷 ③覺超(天德四—長元七 A. D. 960—1034)述 ④(参考) 山家祖德撰述諸日集卷下、密乘撰述目録、諸宗章疏錄第二
護摩次第 ①(日)Go-ma-shi-dai. ②一卷 ③存 ④興然(保安元—建仁三 A. D. 1130—1203)述 ⑤供養法は金界大法立にて不動法を修す。これに異本あり。十四根本・十九布字を加へ、又道場觀の終に十九布字を擧げ(密教大辭典)。
護摩次第 ①(日)Go-ma-shi-dai. ②一卷 ③存 ④實嚴(一文治元 A. D. 1185)記 ⑤(一)安法相傳護摩次第の(一)密教大辭典)。
護摩次第 ①(日)Go-ma-shi-dai. ②一帖 ③存 ④宥快(貞和元—應永二 A. D. 1345—1416)述 ⑤徳川時代寫 ⑥(寶龜院)
護摩次第調伏 ①(日)Go-ma-shi-datō-boku. ②一帖 ③存 ④圓珍(弘仁五—寛平三 A. D. 814—891)説寛平四年、七八段)撰 ⑤(参考) 本朝台祖撰述密部書目
護摩次第傳授記 ①(日)Go-ma-shi-dai-den-jū-ki. ②一帖 ③存 ④足利中期、天文一四寫 ⑤(金剛三昧院)
護摩私記 ①(日)Go-ma-shi-ki. 護摩次第 ②一卷 ③存、弘法大師全集第

名所行説(名庫書)者藏所収(月年の刊寫)(書考多書釋註)書本(説解管内)代年作者(著書)缺存(書名)題(號)字數

【コ】

七、日本大藏經真言宗事相章疏第一 ①空海(寶龜五—承和二 A. D. 774—835)述 ②(参考) 諸宗章疏錄第三
護摩私記 ①(日)Go-ma-shi-ki. ②殘缺一卷 ③存、大日本佛教全集第二八智證大師全集第四 ④圓珍(弘仁五—寛平三 A. D. 814—891)説寛平四年、七八段)述 ⑤嗽口、火爐、乳木の口決を叙へた、僅かに六行半の断片であつて、演奥抄や三井組抄抄を引いてゐる點より見て、後人の作と思はる。
 ⑥(参考) 密乘撰述目録、諸宗章疏錄第二、山家祖德撰述諸日集卷上、本朝台祖撰述密部書目 (大森眞應)
護摩私記 ①(日)Go-ma-shi-ki. ②皇慶(貞元二—永承四 A. D. 977—1049)撰 ③(参考) 山家祖德撰述諸日集卷上、密乘撰述目録
護摩私記 ①(日)Go-ma-shi-ki. ③宣助(天喜五一—天治二 A. D. 1057—1125)撰 ④(参考) 諸宗章疏錄第三
護摩私記 ①(日)Go-ma-shi-ki. ③三卷 ④存 ⑤覺成(大治元—建久九 A. D. 1136—1198)撰
護摩私記 ①(日)Go-ma-shi-ki. ③相實(永治頃 A. D. 1141—)述 ④(参考) 山家祖德撰述諸日集卷上
護摩私記 ①(日)Go-ma-shi-ki. ③一巻 ④存 ⑤家敏(一明徳頃—A. D. 1390—1393)撰 ⑥刊本(京大、印哲、一八)
護摩私記 ①(日)Go-ma-shi-ki. 西

大寺流護摩私記 ②一卷 ③存 ④寫本(谷大、餘大、二九八八)
護摩私記 ①(日)Go-ma-shi-ki. ③味正流護摩私記 ④一卷 ⑤存 ⑥刊本(谷大、餘大、一八〇二)
護摩私記 ①(日)Go-ma-shi-ki. ②一卷 ③存、金胎兩部記之内 ④元祿七刊 ⑤(龍大、別置)
護摩私記口決 ①(日)Go-ma-shi-ki-ku-keitsu. ②一冊 ③存、教母抄一〇卷之内 ④教母(一文永弘安頃 A. D. 1264—1287)述 ⑤刊本(谷大、餘大、一六六八)
護摩私聞書 ①(日)Go-ma-shi-ki-ki. ②一帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(寶龜院) ⑥護摩私加行 ①(日)Go-ma-shi-ki-ki-gaki. 護摩加行 ②一帖 ③存 ④永正八寫 ⑤(金剛三昧院)
護摩私次第 ①(日)Go-ma-shi-shi-dai. ②一巻 ③存 ④實嚴(一文治元 A. D. 1185)記 ⑤内題下に師口傳と註す。常に之を「カキヒチクリノ次第」と云ふ。是れは混沌供の「カキ」の名言を取りて名とす。實嚴が宗意の口傳を受けて、良西に授けし次第である。
護摩私抄 ①(日)Go-ma-shi-shō. ②三巻 ③存 ④空算述
護摩私抄 ①(日)Go-ma-shi-shō. ②二巻 ③存 ④聖快(一明徳元 A. D. 1390—)撰 ⑤刊本(京大、一六・三)(香林、一六)
護摩私抄 ①(日)Go-ma-shi-shō. 護摩供事抄 ②二巻 ③存 ④宗承(嘉吉三

一文明二後 A. D. 1443—1480)述 ⑤慶安二寫 ⑥(谷大、餘大、二九二二)
護摩私註 ①(日)Go-ma-shi-cha. ②一卷 ③法助(安貞元—弘安七 A. D. 1237—1287)述 ④(参考) 諸宗章疏錄第三
護摩師口 ①(日)Go-ma-shi-ku. ②一帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(寶龜院)
護摩師口決 ①(日)Go-ma-shi-ku-keitsu. ②存 ③足利時代寫 ④(寶龜院)
護摩師傳抄 ①(日)Go-ma-shi-den-shō. ②一冊 ③存 ④設置(實治元—一冊 應二 A. D. 1347—1393)記 ⑤寫本(金剛三昧院)
護摩述記 ①(日)Go-ma-shū-ki. ②二巻 ③覺超(天德四—長元七 A. D. 960—1034)述 ④(参考) 諸宗章疏錄第二、本朝台祖撰述密部書目、密乘撰述目録、山家祖德撰述諸日集卷下、密乘撰述目録、
 ⑤最澄(神護景雲元—弘仁一三 A. D. 767—823)撰 ⑥(参考) 山家祖德撰述諸日集卷上、密乘撰述目録、本朝台祖撰述密部書目、
 ⑦護摩集 ①(日)Go-ma-shū. ②五巻 ③存 ④覺超(天德四—長元七 A. D. 960—1034)撰 ⑤(参考) 諸宗章疏錄第二、山家祖德撰述諸日集卷下、密乘撰述目録、本朝台祖撰述密部書目、
 ⑧安永九寫 ⑨(谷大、餘大、二五八二) ⑩護摩初行卷數案 ①(日)Go-ma-shō-kyō-kan-zū-an. ②一帖 ③存 ④足利時代寫 ⑤(寶善提院) ⑥護摩初行表白並灌頂護摩表白 ①(日)Go-ma-shō-kyō-kan-zū-an. ②一帖 ③存 ④足利時代寫 ⑤(寶善提院)

①(日)Go-ma-shō-kyō-kan-zū-an. ②一帖 ③存 ④足利時代寫 ⑤(寶善提院)
護摩諸童子供作法 ①(日)Go-ma-shō-kyō-kan-zū-an. ②一帖 ③存 ④觀尊(建仁元—正應三 A. D. 1201—1290)撰 ⑤元祿一五寫 ⑥(寶龜院)
護摩抄 ①(日)Go-ma-shō. ②一帖 ③存 ④房覺草 ⑤建保六寫 ⑥(高次、寄、一六二二)
護摩抄並神供 ①(日)Go-ma-shō-narabai-jū-gū. ②一帖 ③存 ④寛正三寫 ⑤(寶龜院)
護摩抄並破壇神供 ①(日)Go-ma-shō-narabai-jū-gū. ②一帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(寶龜院)
護摩抄別記 ①(日)Go-ma-shō-bek-ki. ②一冊 ③(参考) 本朝台祖撰述密部書目
護摩抄 ①(日)Go-ma-shō. ②一卷 ③存 ④海(寶龜五—承和二 A. D. 774—835)撰 ⑤(参考) 諸宗章疏錄第三
護摩抄 ①(日)Go-ma-shō. ③惠運(延暦一十一—貞觀一 A. D. 798—869)撰 ④(参考) 本朝台祖撰述密部書目、諸宗章疏錄第三
護摩抄 ①(日)Go-ma-shō. ③三巻 ④實信(應徳元—仁平三 A. D. 1084—1133)記 ⑤(参考) 諸宗章疏錄第三
護摩神供作法 ①(日)Go-ma-shō-jū-an. ②一帖 ③存 ④慶長一八寫

名所行説(名庫書)者藏所収(月年の刊寫)(書考多書釋註)書本(説解管内)代年作者(著書)缺存(書名)題(號)字數

【一】

弘仁三年遺書 ①(B) Ko-nin-san-shu ②存、傳教大師全集第四 ③最澄(神護堂堂元一弘仁一三 A. D. 767—822)撰

④弘仁三年五月八日、傳教大師最澄が、奉簡を以て山寺の總別當となし文書司を兼ねしめ、開院をして即ち傳法の座主たらしめ、また沙彌孝融をして一切經藏の別當となし、乃至近土壬生維成を以て雜文書司の別當たらしむることを定め、以て同法の僧衆、件々の別當に隨ひて私に左右是非すべからざることを誡しめ、而して更に向後三年の間は、文書道具等經藏に出入すべからざることを、及び三年の後と雖も、之をして院内を出散せしむべからざることを規定せしめられたものである。蓋しこの遺書たるや、傳述一心戒文に、弘仁三年大師病床に在り、而してその五月、付法の印書を圖畫に授くとあるものと正に相應するものとあらう。

弘仁新集 ①(B) Ko-nin-shin-shu ②六卷 ③最澄(神護堂堂元一弘仁一三 A. D. 767—822)撰

④本朝古撰撰述部書目に曰く「指傳所出新撰撰持集、兼、但卷有十、與、六、不同、更檢」云々。

⑤(参考) 本朝古撰撰述部書目

弘仁中高雄灌頂受者歷名 ①(B) Ko-nin-taka-o-kwan-jū-ta-sha-ryaku-myō ①一册 ②存 ③延享二 ④寫本(寄・一・五五)

弘法行狀集記 ①(B) Ko-hō-gyō ②存

弘法大師一代理 ①(B) Ko-hō-dai-ri ②一册 ③存 ④山縣玄淨(慶應二一明治三六 A. D. 1866—1903)編

弘法大師一代贊議 ①(B) Ko-hō-dai-kan ②三卷 ③存

④初七日乃至七日百箇日一周忌等三十三年に至るまでに正月十六日、二月二十九日の月日と十五十三佛とを配當し、十三佛の功徳を説く簡單なる經文を擧げてある。死後に修すべき年忌退福を生前に豫め修するの遺傳で、正月十六日の月日は遺傳に相應せる月日である。見開隨身鈔卷中、弘法大師年譜第十二卷參照。(吉野眞雄)

弘法大師行化記 ①(B) Ko-hō-dai-shi-ryō-ki ①一卷 ②存、續群書類第八傳部第一 ③深賢記

④弘法大師年譜授引書目の本邦撰述部に依れば、行化記には四本あるとして居る。第一は河内守久高作かとの二卷本、第二は弘法大師行化記三卷殘闕本、第三は深賢記弘法大師行化記、第四は行通僧都編行化記の四本之れである。而して、此行化記は四本あるとして、其何れに當れるものか、今詳かにするに由ない。或は深賢記の行化記に當るとする者もある確證がない。尤も一本(京都專門學校教授長谷秀信正藏本)の奥書には

承久元年十二月十五日於醍醐寺三寶院北房書寫了

此書本先師傳正(岳東院)命選註給之本也、即師主僧正(顯智院)依先師之御命、

【二】

真付等令書集之給草本也、次件本愚僧令書寫之間、彼性靈集等被載之表等之文、機學題目、而界了又殊界之趣、雖有俚且又今師主僧正御房令示給旨如此仍聊記之

末流沙門深賢とあり、而して先師傳正岳東院とは勝賢僧正のことである。又師主僧正顯智院とは成賢僧正のことであるから、寧ろ勝賢僧正、成賢僧正記と云ふ可く、深賢記とするのは當らない。然し何れにせよ本書の奥にも貞和二年丙戌七月一日、於紀州金剛峯寺、以持明院本書寫集とあるから、南北朝時代前に著作せられたものなることは明かである。本書の内容としては、巻初め部分は大師の御年譜に合はして、主として廿五條御遺告の第一條傳記を主として採擷したものである。然し本書に注意すべきことは延暦廿二年の受具足戒經文や、大同二年四月の府邸や、大同三年六月の太政官符などを擧げて大師の御出家年代等について異説を示して居ることである。勿論編者の心持は寫誤と見て居るに相違なからうけれども、大師傳研究者には注意すべき參考史料を與へて呉れて居る理である。

④寫本(高・一・五五) (土宜豐了)

弘法大師行狀繪詞 ①(B) Ko-hō-dai-shi-gyō-e-shi ①弘法大師行狀記、國文庫第四傳部各宗高僧實傳、國文東方佛敎叢書第五

弘法大師行狀記 ①(B) Ko-hō-dai-shi-gyō-ki ①弘法大師行狀繪詞、弘法大師行狀記、國文庫第四傳部各宗高僧實傳、國文東方佛敎叢書第五

弘法大師行狀圖會 ①十二卷 ②存、帝國文庫第四傳部各宗高僧實傳、國文東方佛敎叢書第五

③本書は京都市東寺護國寶弘法大師行狀記を天保五年弘法大師第一千忌に當り、東寺塔頭十輪院畫師等發起して繪圖新編六册本となせるものを採録したものである。其の内容は大師誕生靈瑞より白河院の寛治二年二月高野御登山の御年迄を五十九箇條に分ち、繪と詞とを以てて大師御一代の行狀を説明せり、繪は貞和年中土佐光宣之れを畫き、詞は貞和年中土佐光宣之れを畫き、詞は貞和年中土佐光宣之れを畫き、詞は貞和年中土佐光宣之れを畫き、其の詞のみを採録せしもの本書なりとす。

④寫本(京專)

弘法大師行狀記圖會 ①(B) Ko-hō-dai-shi-gyō-ki-tōkai ①十二卷 ②存、帝國文庫第四傳部各宗高僧實傳、國文東方佛敎叢書第五 ③大正二刊 ④(龍大、研史)

弘法大師行狀集記 ①(B) Ko-hō-dai-shi-gyō-shū-ki ①一卷 ②存、續群書類第八、史籍集覽第一二 ③經範(長元四—長治元 A. D. 1031—1104)記 ④寫本(京專)

弘法大師行狀圖畫 ①(B) Ko-hō-dai-shi-gyō-e-ga ①三冊 ②分ちて集記したもの。經範の記に於ては、三僧記類案には作者不明とありて疑問を残してゐる。

④康永二寫(醍醐三寶院)宣政三寫(高野正智院)

弘法大師御行狀略頌 ①(B) Ko-hō-dai-shi-on-gyō-ryō-kyō ①一帖 ②存、德川中期刊 ③(寶壽院)

弘法大師行狀曼荼羅和解 ①(B) Ko-hō-dai-shi-gyō-man-dara-ban-gai ①一卷 ②存、大竹祐康述 ③明治一五刊 ④(正・大・一四六・一七)京專

弘法大師行狀要集 ①(B) Ko-hō-dai-shi-gyō-yōshū ①六卷 ②存

④眞寶撰 ⑤應永七(A. D. 1400)

⑥弘法大師の傳記を集録したもの。第一卷は桓武天皇の御宇、第二卷平城城天皇の御宇、第三卷嵯峨天皇の御宇、第四卷淳和天皇の御宇、第五卷仁明天皇御宇、第六卷大師入寂後の事を記す。

⑦南北朝時代寫 ⑧(寶善提院)

弘法大師求法建立眞言宗灌頂御願記 ①(B) Ko-hō-dai-shi-gō-kyō ①一帖 ②存、南北朝時代寫 ③(寶善提院)

弘法大師求法の熱心を欲求す ①(B) Ko-hō-dai-shi-gō-no-neo-shin ①一卷 ②存、南條文雄(嘉永二—昭和二 A. D. 1849—1927)述 ③刊本(京專)

弘法大師勸發修行記 ①(B) Ko-hō-dai-shi-kwan-pōshū-shū-ryō-ki ①一卷 ②存、弘法大師全集第一四部部

③本書は末世比丘の行爲、思想等は如斯きものであると、之れを四字一句の六十の頌文に撰つたものである。弘法大師全集の編者が『義義意善、文辭甚拙、明是後人作』

と云へる如く、大師の文にあらず、後人の大師に托しての偽作である。(土宜豐了)

弘法大師勸發道心頌 ①(B) Ko-hō-dai-shi-kwan-pōshū-dō-shin-jū ①一卷 ②存、弘法大師全集第一四部部未決部 ③海(寶壽一承和二 A. D. 774—825)撰、蓋し偽作か。

④七字句の偈文で十六句より成る。智と行と道心との有無を組合せたる八種の人に於いて、有智有行有道心、現證無上大菩提と云ふ風に、その得失を述べたものである。弘法大師年譜卷十二

⑦(注釋)勸發道心頌略解一卷(吉野眞雄)

弘法大師勸發道心頌略解 ①(B) Ko-hō-dai-shi-kwan-pōshū-dō-shin-jū-ryōkai ①一卷 ②存、海(寶壽一承和二 A. D. 774—825)述 ③天和二刊 ④(龍大、二六六・一八九)

弘法大師觀 ①(B) Ko-hō-dai-shi-kan ①一卷 ②存、森田龍徳著 ③昭和四刊 ④東京二松堂書店

弘法大師御作書 ①(B) Ko-hō-dai-shi-gō-saku-sho ①弘法大師御作書目錄 ①一卷 ②存、弘法大師全集第一五 ③濟運(萬壽二—承久三 A. D. 1025—1115)撰 ④風宣揚會編 ⑤刊本(各・大・餘・三・二六〇)

弘法大師御作目錄 ①(B) Ko-hō-dai-shi-gō-saku-shū-mokuji ①御作目錄 ①一册 ②存、德川時代寫 ③(寶善提院)

弘法大師御制禁條集 ①(B) Ko-hō-dai-shi-gō-kei-jūshū ①一册 ②存、德川時代寫 ③(寶善提院)

【コ】

①兜率天に往生せむことを願求するに十因あることを明して、彌勒菩薩に歸依し、兜率往生を勧むる書である。十因とは第一釋尊付嘱故、第二高祖上生故、第三本誓深重故、第四舍利有緣故、第五上生最易故、第六修行相應故、第七過期引接故、第八教主甚深故、第九國土甚深故、第十爲度衆生故の十箇條である。この十因につき經軌章疏の文を引證して一々丁寧に説明してゐる。兜率往生に關する密教徒の著書としては代表的なものである。鎌倉期には眞言宗にも極樂淨土の願生者が多数にあつたから、彼等に對して兜率往生の義を唱道したものであらう。書中に極樂界と知足天王宮(兜率天)と何れも偏執してはならぬと説いてゐる。好夢十因と名づけることについては、卷末に自ら因、故先願、蒙、彌勒加持、入、兜率樓閣也、是則如見、見夢、夢者願、見好夢、故、好夢十因、夢覺後此願又可爲、證驗、可笑可笑と云つてゐる。

④元弘三經疏(寶善提院藏)文武四刊(谷大、餘大・二二九)(餘大、研藏)寫本(京大、藏・二四〇・一六)(高大、寄・一・五七)

江隱稿 ①(日)Ko-in-ko. ②一卷 ③存 ④宗廟撰 ⑤(參考) 釋籍目錄

江介集 ①(日)Ko-kai-shū. ②二卷 ③存 ④月書撰 ⑤(參考) 扶桑釋林書目、釋籍目錄

江教論史 ①(日)Ko-kyō-ron-shi. ②一卷 ③存 ④司馬江漢(一文政元A. D. 1818)問、教觀答 ⑤寫本(京大、藏・二四〇・一六)

①(一) 江月年譜 ①(日)Ko-getsu-nen-pu. ②一卷 ③存 ④江月宗玩述 ⑤(參考) 釋籍目錄

江山歌 ①(日)Ko-san-ka. (支)Chin-an-gsan-ko. ②一卷 ③存 ④(參考) 朝鮮佛教總書刊行決定書目

江西一節集 ①(日)Ko-sai-setsu-shū. ②一卷 ③存 ④江西龍溪(永和元—文安三A. D. 1375—1446)撰 ⑤(參考) 釋籍目錄

江西和尚語錄 ①(日)Ko-sai-o-shō-go-roku. ②一卷 ③存 ④江西龍溪(永和元—文安三A. D. 1375—1446)撰 ⑤(參考) 釋籍目錄

江西寺事蹟 ①(日)Ko-sai-ji-se-ki. (支)Chiang-hsi-ssu-shih-ki. ②一卷 ③存 ④(參考) 朝鮮佛教總書刊行決定書目

江西疏 ①(日)Ko-sai-sho. ②一卷 ③存 ④江西龍溪(永和元—文安三A. D. 1375—1446)撰 ⑤(參考) 釋籍目錄

江西疏稿 ①(日)Ko-sai-sho-ko. ②一卷 ③存 ④江西龍溪(永和元—文安三A. D. 1375—1446)撰 ⑤(參考) 釋籍目錄

江西錄 ①(日)Ko-sai-roku. ②一卷 ③存 ④江西龍溪(永和元—文安三A. D. 1375—1446)撰 ⑤(參考) 釋籍目錄

江都督願文集 ①(日)Ko-to-to-ku-kan-mon-shū. ②六卷 ③存 ④大江區房(長久二—天永二A. D. 1041—1111)撰 ⑤天永二(A. D. 1111) ⑥(參考) 大日本佛教全書續刊決定書目

江東識廬三十句 ①(日)Ko-to-shi-ri-ten-san-ju. ②存 ③廣川堂三(永享元—明應二A. D. 1429—1493)撰 ④瑞仙(永享二—延徳元A. D. 1430—1489)共著 ⑤(參考) 釋籍目錄

江燈纂要 ①(日)Ko-to-san-yō. ②五卷 ③和都編 ④六物園、壇經、臨濟錄、護法論、禪儀外文、杜律の要を蒐む ⑤(參考) 釋籍目錄

江南業草 ①(日)Ko-nan-gos-ssō. ②一卷 ③義譜撰 ④(參考) 釋籍目錄

江南禪師智融經 ①(日)Ko-nan-zen-ji-chi-yū-kyō. (支)Chiang-nan-ch'an-shih-chih-yung-ching. ②一卷 ③存 ④(參考) 大正新修大藏經刊行決定書目

江陵詩集 ①(日)Ko-ryō-shi-shū. ②一卷 ③存 ④原黃 ⑤延享二刊 ⑥(駒大)

江陵地藏禪院明圓大師悟眞塔碑 ①(日)Ko-ryō-ji-dō-zen-in-ō-en-dai-shi-gō-shūn-ō-hi. (支)Chiang-ling-ti-shi-ang-ch'an-yuan-lang-uean-ta-shih-wu-chen-ta-pei. ②存 ③高麗太祖三(A. D. 940) ④(參考) 朝鮮佛教總書刊行決定書目

江陵集萃 ①(日)Ko-ryō-shū-ka. ②三卷 ③存 ④寫本(駒大)

仰信餘華 ①(日)Ko-shin-yō-hisshū. ②一卷 ③存、眞宗全書第五二 ④超然(眞政四—明治元A. D. 1792—1865)著 ⑤高永二(A. D. 1849) ⑥主として淨土異流(西、撰)に對する見解を「吉水門下三人」外十七ヶ條に分つて述べてゐる。淨土三家の比較研究の實績として見るべきものである。内容目次は吉水門下三人、選擇司南、九方卓相馬、頂門一針、已證自證、西儀已證、諸行往生、相對絕對、背師自立、語燈刪修、信心宗要、學徒三類、今時道心寫、信願行說、信願行緣略說、確信祖教、三家之祖一二、明治一〇刊 (大原性實)

光永寺明春葬禮之記 ①(日)Ko-ryō-ji-myō-shun-sō-ryō-no-ki. ②一卷 ③存 ④寫本(駒大、別設)

光永寺明劉一札之事 ①(日)Ko-ryō-ji-myō-ryū-ichū-satsu-no-koto. ②一卷 ③存 ④寫本(駒大、別設)

光基院傳法灌頂見聞雜記 ①(日)Ko-ki-in-dōmō-hō-kwan-jō-kem-mon-zak-ki. ②一冊 ③存 ④應安五寫 ⑤(寶善提院)

光華梵志經 ①(日)Ko-kwa-bon-shi-kyō. (支)Kuang-hua-fan-chih-ching. ②存 ③生經卷第四(大正三・九八No. 154, 40)

光華梵志經 ①(日)Ko-kwa-bon-shi-kyō. (支)Kuang-hua-fan-chih-ching. ②一卷 ③失譯 ④生經第四卷抄出。

【コ】

②(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

光顯百首 ①(日)Ko-ken-hyaku-shū. ②一卷 ③存、佛教古典叢書第二二 ④尾尾教專、妻木直良解説

光顯院殿遺芳錄 ①(日)Ko-ken-in-den-i-hō-roku. ②一卷 ③存 ④楠歌淨編 ⑤明治四五刊 ⑥(谷大、宗洋・五二五)

光孝禪寺語錄 ①(日)Ko-ko-zen-ji-go-roku. ②一卷 ③存 ④(參考) 釋籍目錄

光嚴場記 ①(日)Ko-gon-jō-ki. ②一卷 ③存 ④運教(慶長一九一元祿六A. D. 1614—1693)撰 ⑤眞享四刊 ⑥(谷大、餘大・二二四)(正大、一四二・五二)

光嚴洞水和尚語錄 ①(日)Ko-gon-ō-shō-i-shō-go-roku. ②洞水和尚語錄 ③十二卷 ④存 ⑤月湛、存妙、梵丁共編 ⑥文化六刊 ⑦(駒大)

光佐光晴消息 ①(日)Ko-sa-kō-sei-shō-soku. ②一通 ③存 ④寫本(駒大、別設)

光佐宗主三百年忌追慕勸進歌 ①(日)Ko-sa-shū-san-sam-kyaku-nen-ki-tsu-i-bo-kwan-jin-ka. ②一卷 ③存 ④本派本願寺編 ⑤刊本(駒大、別設)

光佐消息 ①(日)Ko-sa-shō-soku. ②光佐顯如消息 ③三通 ④存 ⑤寫本(駒大、別設)

光護經 ①(日)Ko-san-kyō. (支)Kuan-g-kyō. ②一卷 ③存 ④寫本(京大、藏・二四〇・一六)

②(參考) 出三藏記第四、法經錄第四、仁壽錄第三、靜泰錄第三、第四、開元錄第一六、貞元錄第二六

光顯百首 ①(日)Ko-ken-hyaku-shū. ②一卷 ③存、佛教古典叢書第二二 ④尾尾教專、妻木直良解説

光顯院殿遺芳錄 ①(日)Ko-ken-in-den-i-hō-roku. ②一卷 ③存 ④楠歌淨編 ⑤明治四五刊 ⑥(谷大、宗洋・五二五)

光孝禪寺語錄 ①(日)Ko-ko-zen-ji-go-roku. ②一卷 ③存 ④(參考) 釋籍目錄

光嚴場記 ①(日)Ko-gon-jō-ki. ②一卷 ③存 ④運教(慶長一九一元祿六A. D. 1614—1693)撰 ⑤眞享四刊 ⑥(谷大、餘大・二二四)(正大、一四二・五二)

光嚴洞水和尚語錄 ①(日)Ko-gon-ō-shō-i-shō-go-roku. ②洞水和尚語錄 ③十二卷 ④存 ⑤月湛、存妙、梵丁共編 ⑥文化六刊 ⑦(駒大)

光佐光晴消息 ①(日)Ko-sa-kō-sei-shō-soku. ②一通 ③存 ④寫本(駒大、別設)

光佐宗主三百年忌追慕勸進歌 ①(日)Ko-sa-shū-san-sam-kyaku-nen-ki-tsu-i-bo-kwan-jin-ka. ②一卷 ③存 ④本派本願寺編 ⑤刊本(駒大、別設)

光佐消息 ①(日)Ko-sa-shō-soku. ②光佐顯如消息 ③三通 ④存 ⑤寫本(駒大、別設)

光護經 ①(日)Ko-san-kyō. (支)Kuan-g-kyō. ②一卷 ③存 ④寫本(京大、藏・二四〇・一六)

ang-tsan-ching. (支)Pacsa-vim-ati-sāhas-rika-prajāparimitā. (藏)Se-āb-kyi-phā-ro-lu-pyic-pa-stob-phrag-hi-si-ha-pa. 光讀般若經、光讀摩訶般若經、光讀般若波羅蜜經 ②十卷 ③存、大正八・一四七No. 222、縮月五、己五・四、北河漢、南河、元河、明北河、清河、麗河、天河、指河、法河、至河、明南河、Ni. ④法法護譯 ⑤西晉大康七(A. D. 286)

⑥本經は梵本二萬五千頌般若波羅蜜多經(Pārcaviṅśatisāhasrika-prajāparimitā)に相當する支那譯大般若經第二會八十五品中最初の二十七品(四〇—二七卷)と同本であり、また無又譯が西紀二九一年に傳譯した放光般若經二十卷九品中最初の三十品(一六卷)及び羅什が西紀四〇三年に譯出した摩訶般若波羅蜜經二十七卷九十品中最初の二十九品(一一卷)に相當してゐる。就中本經と最もよく一致するものは玄奘の譯本であつて、品の名稱は大いに相違し、品の分方も多少異つてゐるけれども、兩本の各品は夫々合致すると謂つて可い。

⑦現存の本經は、(一)光讀品。(二)願空品。(三)行空品。(四)歡喜品。(五)授決品。(六)分別空品。(七)了空品。(八)假觀品。(九)行品。(一〇)幻品。(一一)摩訶品。(一二)等無等品。(一三)大衆品。(一四)乘大衆品。(一五)無縛品。(一六)三昧品。(一七)觀品。(一八)十住品。(一九)所因出衍品。(二〇)無未來品。(二一)衍與空等品。(二二)分曼陀尼佛品。(二三)等三世品。

(二四)觀行品。(二五)問品。(二六)法師如幻品。(二七)兩法寶品の二十七品のまゝに成立してゐるが、本經の原譯は放光經と同じく九十品の完本であつたかも知れない。蓋し本經は于闐の沙門祇多羅(Gāmitra)によつて西紀二八六年初めてその原本が長安に齎され、同年同處で竺法護によつて翻譯されて、九十一年を經過して、西紀三七六年に至つて漸く襄陽に於て道安の手に入つて、世に現はれるやうになつたのであつて、その時はすでに現存二十七品の缺本となつてゐたのであるが、(出三藏記集第七所收の道安撰・合放光光讀略解序)譯出以來この時に至る長年月世に隱没してゐる間に兩法寶品以下の諸品が散逸して歸したのであらうと考へ得る餘地があるからである。因みに本經の題名がその最初の光讀品といふ名稱に基いたものであることは言ふを俟たぬ。(佛教大辭典一一八八頁、織田佛敎大辭典三二二頁、望月佛敎大辭典古版六八九頁、同新版一〇四八頁、哲學雜誌五四八號所載の鈴木宗忠氏・般若經の原形に就いて參照)。

⑧(注釋) 道安撰・合放光讀略解(缺) (羽溪了齋)

光讀般若經 ①(日)Ko-san-han-ryō-kyō. (支)Kuang-tsan-pan-to-ching. 光讀經、光讀摩訶般若經、光讀般若波羅蜜經 ②十卷 ③存、大正八・一四七No. 222、縮月五、己五・四、北河漢、南河、元河、明北河、清河、麗河、天河、指河、法河、至河、明南河、Ni. ④竺法護譯 ⑤西晉大康七(A. D. 286)

(二四)觀行品。(二五)問品。(二六)法師如幻品。(二七)兩法寶品の二十七品のまゝに成立してゐるが、本經の原譯は放光經と同じく九十品の完本であつたかも知れない。蓋し本經は于闐の沙門祇多羅(Gāmitra)によつて西紀二八六年初めてその原本が長安に齎され、同年同處で竺法護によつて翻譯されて、九十一年を經過して、西紀三七六年に至つて漸く襄陽に於て道安の手に入つて、世に現はれるやうになつたのであつて、その時はすでに現存二十七品の缺本となつてゐたのであるが、(出三藏記集第七所收の道安撰・合放光光讀略解序)譯出以來この時に至る長年月世に隱没してゐる間に兩法寶品以下の諸品が散逸して歸したのであらうと考へ得る餘地があるからである。因みに本經の題名がその最初の光讀品といふ名稱に基いたものであることは言ふを俟たぬ。(佛教大辭典一一八八頁、織田佛敎大辭典三二二頁、望月佛敎大辭典古版六八九頁、同新版一〇四八頁、哲學雜誌五四八號所載の鈴木宗忠氏・般若經の原形に就いて參照)。

⑧(注釋) 道安撰・合放光讀略解(缺) (羽溪了齋)

光讀般若經 ①(日)Ko-san-han-ryō-kyō. (支)Kuang-tsan-pan-to-ching. 光讀經、光讀摩訶般若經、光讀般若波羅蜜經 ②十卷 ③存、大正八・一四七No. 222、縮月五、己五・四、北河漢、南河、元河、明北河、清河、麗河、天河、指河、法河、至河、明南河、Ni. ④竺法護譯 ⑤西晉大康七(A. D. 286)

光讀般若略解 ①(日)Ko-san-han-ryō-ryaku-ge. (支)Kuang-tsan-pan-to-hiao-chih. ②二卷 ③道本(一作寺)作 ④(參考) 東城傳燈目錄卷上

光聚坊 ①(日)Ko-ku-ka. ②十七卷 ③榮有撰 ④(參考) 本朝古組撰述密部書目

光助法印事書 ①(日)Ko-jū-hō-in-shō. ②一卷 ③存 ④榮俊撰 ⑤寫本(駒大)

光定和尚行狀 ①(日)Ko-ō-shō-ō-shū. ②一卷 ③存 ④傳教大師行狀 ⑤一卷 ⑥存 ⑦圓覺等著 ⑧寫本(京大、一・二二・五)

光定和尚略傳和尙年譜 ①(日)Ko-ō-shō-ō-shō-roku-nen-pu. ②一卷 ③家寬撰 ④(參考) 山家祖德撰述高目集卷上

光常寺御教誡 ①(日)Ko-jō-ji-go-kyō-ka. ②江州光常寺御教誡 ③一卷 ④存 ⑤寬政一二寫 ⑥(谷大、宗大・二七七〇)

光盛一生記 ①(日)Ko-sei-issō-ki. ②一卷 ③存 ④德川時代寫 ⑤(寶

【コ】

の火焔裏の説法をあげ「各自分別を生じそれがしは時味の衆生なり無智の凡夫なりと卑下し」というて、武帝の情識分別を指摘し、長沙の公案によりて「これ識神の静慮を佛坐なりと解したる魔類なり。このゆゑに鼻祖大師廓然無聖不識と開示し、さらば長沙の學道之人の偶を引き、廓然無聖が不識たることを説き、道州問道の知不知を以て道を卜度するは、なほこれ長沙の識神をとどむるものなりと訓誡し、不識の不の字は否定の言葉にあらず、梵網の非の字である。經家抄に「只非すと云時相對の義は長く解説する也」とあるゆゑに、六箇の非の字が情識分別を打斷する屋裏の寶銀である。それと同じく不の字が解説の義なるゆゑに、不識とは情識分別を解説したことである。されば釋迦牟尼佛の説法之人は、情識分別を解説して名相をはなれた不識たることをのべ、保寧の一堆猛焰互天紅は三世常住の大光明を證し、證道歌と龍樹とは三世如來聖である。それにもかかはらず、非器也初心也晩學也というて、佗國に誇許するは情識のまねくところなりと斥け、武帝の病根に對症の既眩薬を葛頭にもそがれた。この情識は吾我をもとするゆゑに、安心法門を引き吾我をはなれしむ。吾我をはなれたとき不見身ゆゑに、拘那含牟尼佛の佛、不見身智是佛。若實有智無別佛の佛を引く。しかあるにほ草露浮泡の身を受して、汝が本身たる大光明識をわき見するゆゑに大安樂の境界をえられぬ。大安

樂とは大解脱地をいふ。もし大解脱地を證せんとおもはば、情識識神を透脱せよ、わづかも情識識神を透脱し大光明識を得得及し行得せば、何ぞ、我が身一人の得脱のみならん。またこれ法界虚空みなその互益をかうむる。このゆゑに先づ情識識神を透脱せよ、不識とは情識識神を透脱したことをいふ。その證據は、曹山大師の偈を見よ、第一句は一段の大光明を説き、第二句は廓然無聖を説き、二句にて本證をかかげ、前後の兩聯においてあきらかに念心情識の四字を點出し、不識の識は情識識神たることを證明し、その情識識神を透脱する妙修を示し、第七第八は意根下の卜度をはなれた兀坐不疑の無相身を説き、第一句の覺性圓明無相身に應じて筆をさめた國師が「是れ即ち光明識中の直指直説にしてしかも妙修本證を開示したまふなり」と示さるゆゑに、佛祖家裡。本無心性佛性識性等道理也。只依風火因縁和合。而有。動顯施爲。而愚人認動顯施爲。以爲識神。者也の意をうけて初祖の深意を發揮し、不識の公案に落ちつめた。つまり國師が先づ曹山大師の偈を見出してこの公案の不識を證し、一巻の光明識三昧とせられたは、なほ高祖が道州の達磨傳與什麼人の公案と老僧者裏體不立の公案とを見出して得皮得髓の公案を證明し、一篇の葛藤の巻を結成あそばされたやうなものである。それ故にこの偈は光明識三昧の骨子である。それから不識の語をあらためて無所得心といひ、金剛經を引き、無所得心が燃燈佛相

見の一句である。英國作佛が燃燈佛であり、釋迦牟尼佛であり、廓然無聖不識である。三世の諸佛は恒常に大寂滅光の本道場にましまして、刹那と一へどもこの坐を起たぬ、それが常精進である。常精進というても、先尼外道と混同してはならぬ、斷絶を超越し無始無終を脱落して、燃燈釋迦嫡嫡相承の只管打坐それが正法眼藏涅槃妙心である。佛祖の大光明である。光明寂照遍河沙である。凝住壁觀。無自無他。凡聖等一。堅住不移である。ゆゑに證道歌を引き取捨を排して情識識神なりとし、一戒光明の計我著相者。此法不離信というて情識分別を打斷し「此三昧は、初めより諸佛果海の道場なり。故に單傳の佛坐佛行なり。既に佛子たるものは、唯佛座に安坐すべし。地獄坐佛鬼坐。乃至畜生修羅人天坐。聲聞緣覺坐にかならずしも坐すべからず。如是只管打坐して、光陰莫度。是を直心道場。不思議解脱の光明識三昧と云ふなり」と結ばれた。三昧王三昧の巻に「葛藤として盡界を超越して、佛祖の屋裏に大尊貴生なるは、結跏趺坐なり。外道魔黨の頂頰を踏踏して、佛祖の堂奥に個中人なるは、結跏趺坐なり。佛祖の極之極を超越するは、ただこの一法なり」とある結跏趺坐それが不識である。不識のとき廓然無聖である。廓然無聖と不識とは同身共命である。これ嫡嫡相承の口訣である。この口訣を相傳授するののが光明識三昧である。まことに圓通大光明識なるものか。

懐非禪師の内)村上素道。光明識三昧不識、岸澤惟安。④明和三跋(京大、一・二五、二・五、六)(岸澤)明治三刊(駒大)(帝國、一三八・一五四)(岸澤)(龍大、二六七・三六)(普、ふ・三・左・一五)④明和本、京都柳枝軒小川多左衛門。明治本、名古屋堀田勸助
光明藏三昧布鼓 ①(日)Kōmyō-shō-shū-mat-fu-ko (支)Kuang-ming-tan-shan-mat-fu-ko ①巻 ②存 ③孤雲懷笑(建久九一弘安三 A.D.1198-1280)記、陳鏡巖譯 ④大正五刊 ⑤(龍大、二六七・三・七)⑥(京大、一・二五・七)(駒大)⑦名古屋圓通寺僧堂
光明大師看病法用 ①(日)Kōmyō-shō-shū-kan-byō-hō-yō (支)Kuang-ming-shi-shi-kan-ping-fa-yung ①巻 ②存、善導大師傳之内 ③延寶五刊 ④(正六、一五一・一八)
光明大師願文和解 ①(日)Kōmyō-shō-shū-wan-wa-ge ①巻 ②存 ③超然述 ④寶永六刊 ⑤(谷大、宗大、二九六)(龍大、二六八・四四)
光明大師別傳並纂註 ①(日)Kōmyō-shō-shū-betsu-den-narabishi-san-cha ①巻 ②存 ③善導大師別傳纂註 ④二巻或四巻 ⑤(翁奏(正保二正徳元 A.D.1645-1711)述 ⑥延寶八(A.D.1680) ⑦(參考)淨土真宗教典第三 ⑧文久元刊 ⑨(高大、寄・一・一八)(正大、一五・一六・一〇)
光明童子因縁經 ①(日)Kōmyō-shō-jin-en-kyō (支)Kuang-ming-tang-jō-jin-en-kyō

名所行説 (名庫書)者蔵所収 月年の刊寫 (書考多書釋註)書本 説解管内 代年作者 著者 録存 數巻 (名書)名題 號鳴字數

【コ】

rei-yin-yuan-ching. 淨說光明童子因縁經、光明童子經 ④四巻 ⑤存、大正一四・八五四 No. 549. 縮寫六、己一五・七、北1463頁、南1315頁、元1305頁、明北934頁、清934頁、麗1463頁、天1295頁、明南954頁、新、舊、939 ⑥施護譯 ⑦宋太平興國五(A.D.980) ⑧本經は具には淨說光明童子因縁經といひ、善賢長者の子光明童子の證果の因縁を説いたもので、四巻より成る。
即ち卷一に於て、王舍城の善賢長者外道尼健子に歸依してゐたが、その妻の憤憤するや、夫妻佛所に往詣し、佛より生れる子の男子にして長じて天の勝福を受け、出家して阿羅漢となることを聞き、外道に便嚇せられて、胎兒を殺さんとて妻の腹に毒を塗り、遂に死に至らしめ、胎兒も共に死んだものと思ひ、寒林に葬送すること、佛光明を放つて、寒林に葬送すること、佛光卷二に佛の威神光明によつて、長者の妻の亡骸は茶毗に附せられしも、火中の蓮華の中に童子端然として坐して死せず、佛この光明童子を頭陀婆羅王に附して護持養育せしめられること、故中より歸來した童子の伯父に責められて、善賢長者王に乞うて童子を養育すること、父の長者没して後光明童子家督を相續し、厚く三寶に歸依して、種々の天の勝福を受用することを明し、卷三に光明長者と賈波の商賈曼暢阻誤との交渉、阿闍世太子父王を執殺して王となるや、長者は難を恐れて、財寶を人々に施して出家の意を決せしことを説き、卷四に、

長者佛所に往詣して出家し、三門六通を得るに至り、佛は阿羅漢に童子が毗婆尸佛の世に、積財長者として生れ、夏安居中毗婆尸佛を供養した功德によつて今の證果を得るに至つたものであることを説いたものであ

悉く彌陀の光明より出づるとなし、更に十二光佛の功德を説きて、之を攝取不捨の義より名號に結歸して、光明名號と信心との内外因縁を顯し、終に他力の譬喩五條を陳ねて佛智不思議の信を勧めたのである。而して本書の内容全く存覺師の顯名鈔の中から抄録せられて、前後二箇所の文を綴合し、僅に改竄を加へたものに過ぎないこと、異義集に了詳師が對校せしが如く、故に眞宗教典志、帖外管窺には之を存覺の撰とせるも、實は其撰者明かならず、異義集は嚴嚴なる批判より之を管名不同計の中に収めて、異計の手に成るものと看做してゐる。

光明の生活 ①(日)Kōmyō-shō-no-sei-tawashi 辨榮聖人造稿要集光明の生活 ①巻 ②存 ③辨榮(安政六一大正九 A.D.1839-1930)述 ④大正一三刊 ⑤東京オヤのり社
光明通照文 ①(日)Kōmyō-ten-pon 光明通照之文 ①巻 ②存 ③知空(寛永一一享保三 A.D.1631-1718)述 ④(參考)淨土眞宗教典目錄 ⑤正徳四刊 ⑥(龍大、一五〇二・一九五)
答光明房書 ①(日)Kōmyō-tō-no-kotōfu-sho 越中の光明房(ひかはす御返事) ①巻 ②存、黒谷上人語燈録(和語)(大正八三 No. 3611) ③源空(長永二一建曆二 A.D.1133-1212)記
光明本尊 ①(日)Kōmyō-hon-zen. ①巻 ②存、南北朝時代寫 ③(龍大、別置)
光明名號因縁 ①(日)Kōmyō-mei-en ①巻 ②存、異義集(大系本)第二(同上)(了詳稿本)第七、眞宗假名法典卷下、眞宗法要第五、眞宗法要拾遺、眞宗聖典全書和文之部、眞宗聖教大全附録 ④存覺(弘安九一應安六 A.D.1286-1373)述 ⑤眞宗の他力信心が光明名號の因縁から獲られる趣旨を示すに、先づ諸佛光明の利益

名所行説 (名庫書)者蔵所収 月年の刊寫 (書考多書釋註)書本 説解管内 代年作者 著者 録存 數巻 (名書)名題 號鳴字數

【コ】

は、信後稱名以下六十六項。第四卷には、製法變白以下百十項。第五卷には、御文章御加兩部以下七十五項を収む。巻首に安永三年正月、築地省所にて記した序文があるけれども、本書の内容は多年に亘つて蒐集され、安永三年に至つて完成されたものである。

①(参考) 淨土真宗教典志第二 ②寫本(龍大、一〇六・一一四)(谷大、宗大、一八〇四)明治二〇刊(谷大、宗大、四六)(龍大、研究) ③(参考) 澤田宗義(龍大、一七五・三四) ④寫本(龍大、一七五・三四) ⑤(参考) 東城傳燈目録卷下、諸宗章疏録第二

劫外傳 ①(日)Ko-ge-ten. ②存 ③(参考) 澤田宗義(龍大、一七五・三四) ④寫本(龍大、一七五・三四) ⑤(参考) 東城傳燈目録卷下、諸宗章疏録第二

劫外錄 ①(日)Ko-ge-roku. (支)Chih-sh-wai-ta. ②一巻 ③存 ④宋代清了徳初等編 ⑤(参考) 澤田宗義(龍大、一七五・三四) ⑥寫本(龍大、一七五・三四) ⑦(参考) 東城傳燈目録卷下、諸宗章疏録第二

劫外錄鈔 ①(日)Ko-ge-roku-sha. ②三巻 ③存 ④萬安編 ⑤(参考) 澤田宗義(龍大、一七五・三四) ⑥寫本(龍大、一七五・三四) ⑦(参考) 東城傳燈目録卷下、諸宗章疏録第二

劫章 ①(日)Ko-sha. (支)Chih-sh-an-g. ②一巻 ③(参考) 惠運禪師將來教目録

劫章記 ①(日)Ko-sha-ki. (支)Chih-sh-chang-chi. ②一巻 ③(参考) 惠運禪師將來教法目録

劫章科文 ①(日)Ko-sho-ke-wan. (支)Chih-chang-ko-wan. ②一巻 ③(参考) 入唐新求聖教目録、慈覺大師在唐遺書、日本國承和五年入唐求法目録

劫章頌 ①(日)Ko-sho-ju. (支)Chih-chang-sung. ②一巻 ③存、已讀一・七五・三 ④唐鑑基(貞觀六)永淳元 A. D. 632-633 撰 ⑤(参考) 東城傳燈目録卷下、諸宗章疏録第二、日本國承和五年入唐求法目録、慈覺大師在唐遺書、入唐新求聖教目録 ⑥寫本(曹、六・左・二四、八・中・五)正徳三刊(京大、藏・一五・一)

劫章頌記 ①(日)Ko-sho-ju-ki. (支)Chih-chang-sung-ki. ②一巻 ③(参考) 日本國承和五年入唐求法目録、慈覺大師在唐遺書、入唐新求聖教目録、東城傳燈目録卷下、諸宗章疏録第二

劫章頌疏 ①(日)Ko-sho-ju-sho. (支)Chih-chang-sung-shu. ②一帖 ③存 ④(参考) 慈覺大師在唐遺書、靈巖寺和尙請來法門道具等目録、入唐新求聖教目録、東城傳燈目録卷下、諸宗章疏録第二

劫章頌科文 ①(日)Ko-sho-ju-ke-wan. (支)Chih-chang-sung-ko-wan. ②一巻 ③(参考) 東城傳燈目録卷下、諸宗章疏録第二

劫章頌疏 ①(日)Ko-sho-ju-sho. (支)Chih-chang-sung-shu. ②一帖 ③存 ④(参考) 慈覺大師在唐遺書、靈巖寺和尙請來法門道具等目録、入唐新求聖教目録、東城傳燈目録卷下、諸宗章疏録第二

劫章頌鈔 ①(日)Ko-sho-ju-sho. ②一巻 ③存、小部集釋之内 ④有快(貞和元一應永二三 A. D. 1345-1416)述 ⑤延寶九刊 ⑥(龍大、二六八・一〇)(谷大、餘大、一〇七四)(京大、藏・一五・一)

劫章頌略本 ①(日)Ko-sho-ju-ryō-ban. (支)Chih-chang-sung-ryō-ban. ②一巻 ③(参考) 智證大師請來目録

劫章疏 ①(日)Ko-sho-sho. (支)Chih-chang-shu. ②一巻 ③(参考) 惠運禪師將來教法目録

劫章論頌 ①(日)Ko-sho-shō-ron-ju. (支)Chih-chang-shō-ron-ju. ②一巻 ③(参考) 唐鑑基(貞觀九一先天二 A. D. 635-713)撰 ④(参考) 靈巖寺和尙請來法門道具等目録

劫心義章 ①(日)Ko-shin-ge-sha. ②三巻 ③存 ④(参考) 運徹(慶長一九一元祿六 A. D. 1614-1693)述 ⑤(参考) 諸宗章疏録第三 ⑥(曹、け・四・中・一六)

劫波羅章 ①(日)Ko-ha-ra-sha. (支)Chih-po-lo-chang. ②一巻 ③(参考) 東城傳燈目録卷下、諸宗章疏録第二

攻璞集 ①(日)Ko-ka-shū. (支)Kung-ping-chi. ②(参考) 證悟圓智(一紹興二八 A. D. 1138)撰 ③(参考) 諸宗章疏録第二

孝感篇 ①(日)Ko-kan-hon. ②六巻 ③存 ④(参考) 獨庵玄光(寛永七一元禄一 A. D. 1630-1695)撰 ⑤(参考) 澤田宗義(龍大、一七五・三四) ⑥(参考) 澤田宗義(龍大、一七五・三四)

孝子經和譯 ①(日)Ko-shi-kyō-wa-ryaku. ②一巻 ③存 ④高志大(譯)(京大)

孝子御書 ①(日)Ko-shi-go-sho. ②兵衛志書 ③一巻 ④存、日蓮聖人御遺文、原文對照口語譯日蓮聖人全集第五池上氏(御書之内) ⑤日蓮(貞應元一弘安五 A. D. 1222-1282)記 ⑥弘安二(A. D. 1279)

孝子經和 ①(日)Ko-shi-kyō-wa ②一巻 ③存 ④(参考) 父左衛門大夫廣光の死去を弔すると共に、兄弟衛門大夫志宗仲が法華經の故に度々父の勸告を受けた際、弟として善く兄に力を添へ、遂に父を捨邪歸正せしめて兄の勸告を許されるに至つたことは、宛かも法華經の淨觀淨眼兄弟が父妙莊嚴王を歸正せしめたこととくであるから、或は其の後身か又は藥王藥上二菩薩の後身かとも思はれるとして、其の孝愛を讃歎し、更に兄弟より上仲よくすべしを諭したものである。

孝子睦經 ①(日)Ko-shi-mu-kyō. (支)Hiao-tai-shan-ching. ②一巻 ③(参考) 澤田宗義(龍大、一七五・三四) ④(参考) 澤田宗義(龍大、一七五・三四)

孝子善之丞感得傳 ①(日)Ko-shi-zen-no-kan-toku-den. ②二巻 ③存 ④(参考) 一天明二 A. D. 1782-)記 ⑤天明二刊 ⑥(正大、一五二六・二七三)(京大、一・一一一・一)

孝子百人集 ①(日)Ko-shi-hyaku-nin-shū. ②布教材料孝子百人集 ③一巻 ④存 ⑤(参考) 高樫味淡編 ⑥明治三八刊 ⑦(谷大、宗洋・一五四)

孝子報恩經 ①(日)Ko-shi-hō-on-kyō. (支)Hiao-tai-pao-en-ching. ②孝子經記第三、武周録第一二 ③一巻 ④(参考) 澤田宗義(龍大、一七五・三四) ⑤(参考) 澤田宗義(龍大、一七五・三四)

孝順經 ①(日)Ko-jun-kyō. (支)Hiao-shun-ching. ②一巻 ③(参考) 澤田宗義(龍大、一七五・三四) ④(参考) 澤田宗義(龍大、一七五・三四)

孝明天皇崩御一件 ①(日)Ko-meiten-ō-kyō. ②一巻 ③(参考) 澤田宗義(龍大、一七五・三四) ④(参考) 澤田宗義(龍大、一七五・三四)

孝義庵規約 ①(日)Ko-ge-an-kyō. (支)Hiao-ge-an-kyō. ②一巻 ③存、雲棲法堂第三孝義庵規約之内

孝義庵錄 ①(日)Ko-ge-an-roku. (支)Hiao-ge-an-roku. ②一巻 ③存、雲棲法堂第三、武林家故叢編第三

孝義庵集 ①(日)Ko-ge-an-shū. ②一巻 ③存、雲棲法堂第三、武林家故叢編第三

孝義庵集 ①(日)Ko-ge-an-shū. ②一巻 ③存、雲棲法堂第三、武林家故叢編第三

孝義庵集 ①(日)Ko-ge-an-shū. ②一巻 ③存、雲棲法堂第三、武林家故叢編第三

孝義庵集 ①(日)Ko-ge-an-shū. ②一巻 ③存、雲棲法堂第三、武林家故叢編第三

孝義庵集 ①(日)Ko-ge-an-shū. ②一巻 ③存、雲棲法堂第三、武林家故叢編第三

孝義庵集 ①(日)Ko-ge-an-shū. ②一巻 ③存、雲棲法堂第三、武林家故叢編第三

孝義庵集 ①(日)Ko-ge-an-shū. ②一巻 ③存、雲棲法堂第三、武林家故叢編第三

孝義庵集 ①(日)Ko-ge-an-shū. ②一巻 ③存、雲棲法堂第三、武林家故叢編第三

孝義庵集 ①(日)Ko-ge-an-shū. ②一巻 ③存、雲棲法堂第三、武林家故叢編第三

孝義庵集 ①(日)Ko-ge-an-shū. ②一巻 ③存、雲棲法堂第三、武林家故叢編第三

孝義庵集 ①(日)Ko-ge-an-shū. ②一巻 ③存、雲棲法堂第三、武林家故叢編第三

孝義庵集 ①(日)Ko-ge-an-shū. ②一巻 ③存、雲棲法堂第三、武林家故叢編第三

孝義庵集 ①(日)Ko-ge-an-shū. ②一巻 ③存、雲棲法堂第三、武林家故叢編第三

孝義庵集 ①(日)Ko-ge-an-shū. ②一巻 ③存、雲棲法堂第三、武林家故叢編第三

【コ】

孝子經 ①(日)Ko-shi-kyō. ②科註孝子

孝子經註 ①(日)Ko-shi-kyō-ju. ②一巻 ③存 ④(参考) 澤田宗義(龍大、一七五・三四) ⑤(参考) 澤田宗義(龍大、一七五・三四)

孝子經和 ①(日)Ko-shi-kyō-wa ②一巻 ③存 ④(参考) 父左衛門大夫廣光の死去を弔すると共に、兄弟衛門大夫志宗仲が法華經の故に度々父の勸告を受けた際、弟として善く兄に力を添へ、遂に父を捨邪歸正せしめて兄の勸告を許されるに至つたことは、宛かも法華經の淨觀淨眼兄弟が父妙莊嚴王を歸正せしめたこととくであるから、或は其の後身か又は藥王藥上二菩薩の後身かとも思はれるとして、其の孝愛を讃歎し、更に兄弟より上仲よくすべしを諭したものである。

孝子睦經 ①(日)Ko-shi-mu-kyō. (支)Hiao-tai-shan-ching. ②一巻 ③(参考) 澤田宗義(龍大、一七五・三四) ④(参考) 澤田宗義(龍大、一七五・三四)

名所行説(名庫書)若蔵所現 月年の刊寫(書考多書釋註)書本 説解百内 年代作著 著者 録存 數巻 (名書)名題 號鳴字數

名所行説(名庫書)若蔵所現 月年の刊寫(書考多書釋註)書本 説解百内 年代作著 著者 録存 數巻 (名書)名題 號鳴字數

【コ】

り、巻末に、母が佛道を知りたしと申し来りたるが、孝養の志は深しと雖も記して送ることが出来ず居つた所、幸に三人の聖人が之を哀んで、一夏の間、經論の文を引きたり、併し夫では田舎に居る母に解し難からうと思つて、書き和げたとある如く、和文である、若し此の書が眞に興教大師の作ならば、我國に於ける最古の和文なれども、此の書には、往生要集を引用したる所あるのみならず、盛んに十念を勧め居りて、興教大師の思想とは全く異なるものがある。上巻には、第一佛法と申事を明らかにする様、第二人の生るゝより終るまじの有様、第三善を捨て悪を作る事、第四作罪に依りて地獄に墮つる事、第五佛道修むるの相、第六畜生道の悲みの相、第七阿修羅道の不安の相、第八人間の八苦の相、第九天人の五衰の現相、第十一終る人の生處を知つて孝養すべき様、第十二功德作して回向すべき様。中巻には、第一三界を厭ふべき事、第二信心を發すべき事、第三福業を成すべき事、第四念佛を唱ふべき事、第五菩提心を發すべき事、第六佛制の戒を持つべき事、第七修行あるべき事、第八罪を滅失すべき事、第九心を静むべき事、第十福徳の白毫を觀すべき事、第十一性生の業を定むべき事、第十二法華經を讀むべき事、第十三佛の御心に叶ふべき事、第十四佛の言を持つべき事、第十五情慢を恐るべき事。下巻には、第一兼て臨終の用意あるべき事、第二道場を嚴るべき事、第三善知識有るべき事、第四病人に順じて勤むべき事、第五病人をして苦しまざる様、第六兼日に十念を習ふべき様、第七正しく最後の一念に依りて往生を爲すべき様、第八佛聖衆來迎の様、第九淨土に生じ樂を受くる様、第十淨土に生じ安樂に歸り縁ある人諸の衆生を淨土に導く様、以上通計三十七項目に分ちて説く淨土往生を勧め居る。

元祿七刊(正大、一四三三・二〇、一五三三・七六・七七)寛永二〇刊(龍大、二六六二・九一)(高六、寄・一五六)(京大、一・二六・三三)(富田義純)
孝養父母親念 ①(日)Ko-yo-ban-ko-kwan-oen. ②一巻 ③存、興教大師全集之内 ④覺經(喜保二一)康治二A.D. 1095—1143)迄
 ⑤父母に孝養する觀念を深秘釋に説きたるもの、之を四門に分つ。
 一、自身成佛 父の骨は我に傳りて金剛界曼荼羅となる。母の體は我に傳りて胎藏界曼荼羅となる。二、父母孝養 父は慧の法門なれば我結印に依て心月輪は顯れて、父は金剛界曼荼羅會上の人となる。母は定の法門なれば我結印に依て心蓮華顯はれて、母は胎藏界曼荼羅會上の人となる。
 三、師長奉仕 三世諸佛は慧の法門なれば我結印に依つて善知識は供養稱贊せらる。一切經論は定の門なれば我結印に依つて諸佛供養の功德を得る。四、衆生利益 一切男は慧の法門なれば我結印に依つて金剛界曼荼羅會上の人となる。一切女は定の法門なれば我結印に依つて胎藏界曼荼羅會上の人となる。

人となる。
 ⑦(参考) 諸宗章疏錄第三 (富田義純) 孝論 ①(日)Ko-ron. (支)Hsiao-tun. ②一巻 ③存 ④宋代佛日製撰撰 ⑤明治八刊(駒大)明治一九刊(哲、あ・二五・二五) ⑥存 ⑦大内青精(弘化二—大正七A.D. 1845—1918)註 ⑧明治十九刊(帝國、五・一七七)(京大、一・二四カ三)(龍大、二〇九九・一一〇)(内閣)正大、一〇九一・一一二)
孝論 ①(日)Ko-ron. 冠華孝論 ②一巻 ③存 ④町元春空註 ⑤明治二二刊(内閣)帝國一六・一三)
更出阿闍世王經 ①(日)Ko-shutsu-eh-jase-d-gyō. (支)Kang-ch'u-o-shih-shih-wang-ching. ②二巻 ③缺 ④西晉竺法護(一)泰始二—建興元A.D. 285—313)譯 ⑦(参考) 武周錄第一二、開元錄第一四、貞元錄第二四
更生の前後 ①(日)Ko-sei-no-zen-kyō. ②一巻 ③存 ④曉島敏著 ⑤大正九刊 ⑥(各)大、東洋、四四〇(正大、一〇九一・四二)(龍大、一〇五四・一一) ⑦京都護法館
更問鈔 ①(日)Ko-ron-shū. 大日經義釋更問鈔、記問八張 ②一巻(殘缺) ③存、大日本佛教全集第二六智證大師全集第二 ④圓參(弘仁五—寛平三A.D. 814—821)説寛平四年、年七八(説) ⑦(参考) 諸宗章疏錄第二、山家訓德撰述篇目集卷上、密乘撰述目錄

宏教血脈 ①(日)Ka-kyō-kechi-myō-aku. ②一帖 ③存 ④徳川時代寫(金剛三昧院)
宏壽草 ①(日)Ka-jū-kyō. ②一帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(實善院)
抗越寄和詩集 ①(日)Ka-etsu-ki-wa-shū-shū. (支)Hang-yueh-ch'i-lo-shih-chi. ②一巻 ③(参考) 日本國承和五年入唐求法目錄、入唐新求聖教目錄
抗越唱和詩 ①(日)Ka-etsu-shi-wa-shi. (支)Hang-yueh-chang-ho-shih. ②一巻 ③(参考) 入唐新求聖教目錄
杭州上天竺講寺志 ①(日)Ka-shū-ji-ten-jiku-kyō-ji-shi. (支)Hang-chon-shang-tien-chu-chiang-ssé-chih. ②十五巻 ③存、武林家故叢編第二五 ④廣寶撰 ⑤光緒二二刊 ⑥(龍大、史史)
杭州路禪宗大報國寺笑隱和尚語錄 ①(日)Ka-shō-ro-zen-shū-dai-ho-koku-ji-shō-in-ō-shō-go-roku. (支)Hang-chou-lu-ch'an-tsuang-ta-pao-koo-ss'i-hsu-yin-lo-shang-yū-lu. ②一巻 ③存 ④慧雲寺編 ⑤古版(帝國、特別・一・貴)
幸心一流傳授師記 ①(日)Ka-shin-ichi-ryū-den-ji-ōke-eki-ki. ③三巻 ④存 ⑤寫本(正大、一四八・八七)
幸心院金胎開書 ①(日)Ko-shin-in-kon-tai-ki-ki. ②二冊 ③存 ④寛順口、惠海記 ⑤享保一一寫 ⑥(金剛三昧院)
幸心院傳授私記 ①(日)Ko-shin

名所行發 (名庫書) 名藏所現 月年の刊寫 (書考書書註) 書本 説解者内 年代作者 著者 缺存 巻巻 (名書) 名題 號略字數

【コ】

in-den-ji-shi-ki. ②三巻 ③存 ④寫本(正大、一四八・九三)
幸心院實池方傳授記 ①(日)Ko-shin-in-ko-chi-gata-den-ji-ki. ②六冊 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(實善院)
幸心薄初重 ①(日)Ko-shin-usu-sho-ja. ②一帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(實善院)
幸心薄二重 ①(日)Ko-shin-usu-ja. ②一帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(實善院)
幸心方印信口訣 ①(日)Ko-shin-gata-in-jin-ku-keisu. ②一帖 ③存 ④享保八寫 ⑤(實善院)
幸心方薄初重傳授隨聞記 ①(日)Ko-shin-gata-usu-sho-ja-den-ji-zui-mon-ki. ②一帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(實善院)
幸心方許可等重位口記 ①(日)Ko-shin-gata-ko-ka-dō-ja-ku-ki. ②一帖 ③存 ⑤文武四寫 ⑥(實善院)
幸心方四度傳授口訣 ①(日)Ko-shin-gata-shi-do-den-ji-ku-keisu. ②一巻 ③存 ④寛海述 ⑤實善二刊 ⑥正大、一四八・九一)
幸心方十四根本原圖 ①(日)Ko-shin-gata-ju-shi-kon-pōn-gen-zu. ②一帖 ③存 ④足利時代寫 ⑤(實善院)
幸心方聖教 ①(日)Ko-shin-gata-shō-kyō. 國譯幸心方聖教 ③存、國譯密教事相部第二一三
幸心方先德讀曲 ①(日)Ko-shin-

gata-sen-doku-yomi-kuse. ②一帖 ③存 ④拾遺(享保四—寛政元A.D. 1719—1789)記 ⑤徳川時代寫 ⑥(實善院)
幸心方毘沙門天護摩私記 ①(日)Ko-shin-gata-bi-sha-mon-ten-go-na-shi-ki. ③存 ④寫本(實善院)
幸心方毘沙門天法 ①(日)Ko-shin-gata-bi-sha-mon-ten-hō. ③存 ④寫本(實善院)
幸心口 ①(日)Ko-shin-ku. ②一帖 ③存 ④親快(建保三—建治二A.D. 1215—1276)述 ⑤徳川時代寫(實善院)天文一三寫(實善院)
幸心願行等聞書 ①(日)Ko-shin-gwan-ryō-ō-ki-ki-gaki. ②一帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(實善院)
幸心灌頂部折形圖物 ①(日)Ko-shin-kwan-jō-bu-ori-gata-an-motsu. ②一巻 ③存 ④寫本(實善院)
幸心最秘阿彌陀法 ①(日)Ko-shin-sai-hi-ami-dō-hō. ②一帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(實善院)
幸心最秘光明眞言法 ①(日)Ko-shin-sai-hi-kō-myō-shin-gon-hō. ②一帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(實善院)
幸心最秘不共求聞特別次第 ①(日)Ko-shin-sai-hi-ko-myō-shin-gon-mon-jū-betsu-shi-dai. ②一帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(實善院)
幸心四度薄部二重口訣 ①(日)Ko-shin-shi-do-usu-bu-ni-ja-ku-keisu. ②一帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(實善院)

幸心四度再聞記 ①(日)Ka-shin-shi-do-sai-mon-ki. ②一帖 ③存 ④文化六寫 ⑤(實善院)
幸心受者聞初後夜 ①(日)Ka-shin-ju-sha-ō-ji-sho-go-ya. ②一帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(實善院)
幸心鈔 ①(日)Ko-shin-shō. ②五巻 ③存 ④大正七八・七一(No. 3498) ⑤憲深(建久三—弘長三A.D. 1192—1263)口訣 ⑥親快(建保三—建治二A.D. 1215—1276)記 ⑦諸章法等事相に關する種々の口訣を記した書で主として秘鈔傳授の際の問答である。書中に先師傳授とあるは憲深の本師たる成賢傳授を指す。幸心とは憲深を指し、憲深の口訣を鈔する意で幸心鈔と名づけたのである。憲深は限嶺山報恩院に住した僧であるから、後人が報恩の略字として幸心の二字を用ひ、憲深の法流を幸心方と稱した。
 本書は建長二年同六年同八年頃の記であるが、まゝ弘長二年同三年等に受けた口訣も載つてゐる。恐らくは折に於て聞いたものが加はつてゐるのであらう。巻末には先師報恩院僧正存日之間、受法之時、而談之次第、不審、聞口訣、然而天性疎學口傳等悉不覺悟、期記一編、粗備廢忘、未再治之上次第又前後相違文言不調、説謬定多乎、閉眼之刻必可憐之、小野末葉親快とある。

内容目次は下の如くである。卷一に傳受次第事、同作法事、觀音段印事、千手事、十一面事、准胝事、牛王加持事、如意輪事、不空爾索事、葉衣施願印事、白衣觀音事、普賢延命事、招魂事、五秘密事、五大虛空藏事、諸尊道場觀廣略事、金剛喜菩薩事、阿闍陀三形事、釋迦事、藥師事、阿闍陀同異事、日光菩薩印事、大佛頂事、金輪事、光明眞言事、佛眼事との二十六條。卷二に法花法事、理趣經法事、大勝金剛事、隨求事、彌勒兜羅尼事、普賢事、文殊事、求聞持事、地藏事、不動事、降三世事、金剛夜叉二十五輪事、金剛童子事、毘沙門事、水天事、十二天事、吉祥天事、淨天事、水歡喜天、北斗事、三九結要事、本命宿事、炎魔天事、摩星王事、婆娑婆院夜天事、土公供事、星供等轉經燭事、印佛事、諸加持事、觀加持事、御衣木加持事、帶加持事、修法後加持事、觀壇事、五色圓護事、大神供事、童子經書寫事、金剛般若事、呪賊經、壽延經事、泥塔供養事、許可作法事、五色糸事、灌頂三昧耶戒事、傳授目六等、同雜々問答事の四十六條。卷三に如法愛染王事、敬愛普通、如法尊勝事、孔雀經法事、同法事、仁王經法事、p. 3. 轉法輪事、六字法事、同法事、愛染王事、同法事、太元法事、同法事、同法事、後七日事、請雨經法事の十七條。卷四に付諸尊壇場可存知事、九重阿字觀事、印同體異名事、與願施願施無畏印事、白傘蓋印事、付諸尊種子三形召請壇場事、結果印事、加持物印事、加持淨衣事、召罪障罪印明事、振鈴作法事、振鈴問以五古一加持事、飲食燈明印事、圓伽配前後供養事、七所加持事、五相成身之時佛身圓滿存知事、本

名所行發 (名庫書) 名藏所現 月年の刊寫 (書考書書註) 書本 説解者内 年代作者 著者 缺存 巻巻 (名書) 名題 號略字數

【一】

幸加持可^レ用。大日印明事、散念誦時用佛
 眼大金一字事、行法中間立座事、後供養
 撥遣花事、開眼時印明事、同開眼事、付
 理三昧、供養新佛事、禮佛事、降三世
 佛事、造次用意事、榮手水事、護摩
 事、護摩燒乳木作法事、同護摩事、內護
 摩事、付法傳來事、大小法存知事、結緣灌
 頂事、付法傳來事、簡俊僧正授法事、法三
 御子事、真如親王御事、三部印明事、平救
 阿闍梨事、祕宗雜談事、清瀧御事、智證大
 師事、八家結緣事、雜雜事、在家出家受戒
 事の四十六條。卷五に守護經法事、心經法
 事、多羅尊事、青頸事、阿摩提事、持世
 事、馬鳴事、滅惡趣事、圓滿金剛事、帝釋
 事、畢里孕迦羅事、金翅鳥事、摩利支天
 事、廣利童女事、大黑天神事、寶月如來
 念誦事の十六條。

五卷の中、第五卷は秘鈔の異尊に就いて
 の口譯である。前四卷については、或寫本
 は上下二卷とし各本末を分ちて四卷に調へ
 たがある。

④享保元寫(高木、寄・一・六四)享保七寫(谷
 大、餘大・九九一)文政八寫(金剛三昧院)正
 徳二寫(智尊)尼利時代寫(實善提院)慶長寛
 永頃寫(金剛三昧院)元禄一三寫(實善院)
 (小田慈舟)
 den-ju-no-moku-oku. ①一巻 ②存、大
 日本佛教全書佛敎書目録第二

⑤東密小野流の一派たる三寶院流報恩院方
 の聖敎傳授の次第目録である。幸心とは報
 恩の片字で、事相家には古來通用された名

稱である。
 此目録は四度と薄草紙と秘鈔と灌頂部と
 の目録を示し、厚造紙、金寶鈔、支那鈔等
 の目録を出してゐないから完全な目録では
 ない。卷末に授傳授目録、加行中禁制條々
 などを添へてゐる。多分地方の僧徒の手に
 なつたもので本山で出来たものではなから
 ち。

⑥徳川時代寫 (實善院) (小田慈舟)
 幸心傳法灌頂初後夜作法
 ①(日) Ko-shin-den-ko-kan-ko-cho-ko-
 -yaku-ku. ①一帖 ②存 ③徳川時代寫
 (實善院)

幸心秘法 ①(日) Ko-shin-hi-ku.
 ②五巻 ③存 ④寫本(正大、一四八・四〇)
 幸心秘鈔灌頂部後三部等口訣
 ①(日) Ko-shin-hi-sho-kan-ko-ku-
 -san-bu-to-ku-ken. ②十四册 ③存 ④
 徳川時代寫 (實善院)

幸心流口訣 ①(日) Ko-shin-ryu-
 -ku-ken. ②一帖 ③存 ④徳川時代寫
 (實善院)

幸心流後夜念誦作法口訣
 ①(日) Ko-shin-ryu-go-yaku-ku-
 -ku-ken. ②一紙 ③存 ④徳川時代寫
 (實善院)

幸心流四度折紙表白等 ①(日)
 Ko-shin-ryu-shi-do-or-i-kan-i-hyō-byaku-
 -da. ②一包 ③存 ④徳川時代寫 (實
 善院)

幸心流十八道傳授開書 ①(日)
 Ko-shin-ryu-jū-hachi-do-den-ju-ku-ku-
 -gō. ①一巻 ②存、讀詳書類第八

①一帖 ②存 ③眞源(元禄二一寶曆
 八 A. D. 1691—1728) ④徳川時代寫 (實
 善院)

幸開記 ①(日) Ko-mō-ki. ②十巻
 ③存 ④隆慶記 ⑤寛政六寫 ⑥(谷大、長
 保・二四〇)

庚子歳 ①(日) Ko-shi-sai. ②一紙
 ③存 ④徳川時代寫 (實善院)

庚申縁起 ①(日) Ko-shin-en-gi. ②
 一帖 ③存 ④利榮記 ⑤文化一一寫 (實
 善院)

庚申御本地由來記 ①(日) Ko-
 -shin-go-hon-ji-yu-rai-ki. ②二巻 ③存
 ④天保七寫 ⑤(京大、一・二六・二四)

庚申大事 ①(日) Ko-shin-dai-ji. ②
 一帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(實善提院)

庚申待縁起 ①(日) Ko-shin-machi-
 -en-gi. ②一帖 ③存 ④徳川時代寫 (實
 善院)

庚申待作法 ①(日) Ko-shin-machi-
 -se-hō. ②一巻 ③存、修驗聖典第四深秘
 修法集

庚申會の行法次第、護身法・發願及び不
 動國古・外五古・障礙神の三種印明と祈願・
 法施等とより成つてゐる。(服部如實)

河野文書其他 ①(日) Ko-no-mon-
 -jo-son-ō. ②一巻 ③存 ④寫本(龍大)

河野由緒目録 ①(日) Ko-no-yū-
 -sho-moku-yoku. ②一巻 ③存 ④寫本
 (龍大)

皇慶傳 ①(日) Ko-kei-den. ②谷阿闍梨
 傳 ③一巻 ④存、讀詳書類第八

江尻房(長久二天永二 A. D. 1041—1111)
 撰 (參考) 本朝台祖撰述密部書目
 皇室之眞言宗 ①(日) Ko-shin-
 -shō-shin-gon-shū. ②一巻 ③存 ④風風宜
 揚會編 ⑤大正四刊 ⑥(正大、一四一・二)
 (龍大、二六六・八)(立大、B・一三・一八)
 (京大、一・二一・一)(帝室、七・一・一
 〇)

皇室之眞言宗 ①(日) Ko-shin-
 -shō-shin-gon-shū. ②一册 ③存 ④眞人會
 編 ⑤昭和四刊 ⑥京城眞人會
 皇室之天台宗 ①(日) Ko-shin-
 -shō-tai-shō. ②一巻 ③存 ④延曆寺編
 明治四三刊 ⑤(谷大、餘大・五七三)

皇相略 ①(日) Ko-shō-ryaku. ②一巻
 ③存 ④宗芳編 (參考) 讀詳目録

皇太子十七憲法記 ①(日) Ko-tai-
 -shō-jū-shichi-ken-pō-ki. ②一巻 ③存
 ④缺頁述 ⑤寫本(帝國、二三五・二六四)

皇太子聖德奉讚 ①(日) Ko-tai-
 -shō-shōtoku-hō-san. ②太子奉讚、御聖和
 讚、太子和讚、皇太子奉讚、一巻 ③
 存、大正八三・六六九 No. 2653、假名聖敎
 (惠聖筆寫)八十八部之内、新撰眞宗聖典之
 内 ④親覽(承安三一弘長二 A. D. 1173—
 1202)述 ⑤建長七(A. D. 1255)十一

⑥親覽が聖德太子の遺徳を讃讃せる和讃と
 して傳はるるの三種ある内、流傳の跡の最
 も明かなるは内容に七十五首を收むる皇太
 子聖德奉讚である。高田山藏願智寫本に
 は外題に「太子奉讚」とある。本書内容の
 大部分が四天王寺御聖縁起に依る所から

名所行設 (名庫書) 著者所見 (月年の刊寫) (書考參書註) 清水 (説解管内) 代年作著 (著者) 缺存 (書名) 名題 (號鳴字數)

【二】

「御聖和讚」といひ、又俗に「太子和讚」
 とも稱してゐる。
 本書は建長七年十一月三十日親覽の清書
 撰筆せるもので、「日本國歸命聖德太子、
 佛法弘興ノ恩ヲカシ、有情救濟ノ慈悲ヒロ
 シ、奉讚不退ヲラシメヨ」を第一首として
 太子の生涯に於ける宗教的行蹟を讃詠した
 ものである。六角堂の縁起を初め四天王寺
 の御手印縁起に取材し、或は太子の前身と
 傳説する勝愛夫人惠思禪師の因縁をとり、
 又太子傳曆、三寶繪詞、記註文、十七憲法
 等當時世に行はれたる太子關係の資料を和
 讚し、之を綴り合せてゐるもので、可成原
 文の字句を存せんと努めてゐる。隨處に左
 調が施されてゐる。

先啓の眞宗聖敎目録には「眞筆在二天王
 寺寶庫」とあるけれども同寺には何ら藏さ
 れてない。眞筆本は現に各地に分散し山口
 縣德應寺(第三十七首)、大谷派本願寺(第
 四十五首)、大阪府願泉寺(第六十一・六十
 二・七十二)第三句、第四句)石川縣本
 誓寺(第六十五・六十六首)、石川縣本
 (奥書・願富傷)等其の他に保存されてゐる。
 高田山專修寺には書寫完本二本を傳へ、一
 は眞佛一は願智の書寫である。前者は古來
 眞筆本と傳へられたるもの、外題「皇太子
 聖德奉讚」の左下に釋眞佛とあり内題の下
 には「愚禿親覽作」の撰あり、七十五首
 を列ねたる上勝堂經に依る「南無救世觀音
 大菩薩、哀愍護我、南無皇太子勝堂比
 丘、願佛常攝受」の敬禮文あり、次いで御
 手印縁起の奥書が次第文字を多少變更して

「皇太子佛子勝堂、是緣起文納(寶金堂内
 監)不可^レ披見(手跡)乙卯歲正月八日」
 とあり、續いて「拜見奉讚人者、南無阿彌
 陀佛、可唱々々、建長七歲乙卯十一月晦日
 書之、愚禿親覽(八十三歳)」と奥書されて
 ある。なほ眞蹟斷簡に依れば最後に願富傷
 が附記されてゐる。

現流本は明治十五年三月高田山にて開版
 せるものである。常樂齋藏覺如轉寫本には
 第七十二首の本文と左調とを混同して首數
 をも誤記されてゐる。本文を七七首或ひ
 は七十八首と傳ふるものは皆技に基因す
 る。

〔別本〕右と同じ題號の和讚が別に十一
 首傳へられてゐる、之は前者が史傳を主と
 するとは異り、讚仰を主として取扱つたも
 のである。皇太子聖德奉讚の首題の下に愚
 禿書信作の撰説を置き、終に「已上聖德奉
 讚十一首」と附記されてゐる。之は文明五
 年運如開版の正像本和讚のうち正像本淨土
 和讚、無題の佛智疑蓋罪過和讚に次で收め
 られてゐるが、配列の次第の雜然たるは僅
 々十一首の内相似たるものも多き點等より
 考案すれば、種々に太子を讃詠したる親覽
 未定稿の和讚を、後に至つて取選見たもの
 ではなからう歟。古寫本等未だ發見され
 ず、唯第九首目が高田山藏「正像本和讚」
 草稿本の巻尾にある別和讚のうち「上宮太
 子方便シ、和國ノ有情ヲアワレメテ、如來
 ノ悲願弘宣セリ、慶喜奉讚セシムヘシ」の
 太が皇、ワがハとなり願の下にワの一字を
 加へたものである。十一首和讚は親覽の撰

と認むべきではあるが、なほ別和讚の分際
 ともいふべき歟。内容を檢するに、佛智不
 思議に計へられ太子の恩恵によつて入正定
 業等正覺の身となつたこと(一、四)、親音
 化身の太子が父母の如く(二、三)、また垂
 迹の太子は父、本地の親音は母の如くに護
 念あること(六)、如來二種の同向は、太子
 の護念に依つて之に入り(一)、佛恩報謝
 のために之を弘通すること(五)、久遠劫來
 の憶念(七、十)、和國の教主たる聖德皇の
 恩徳廣大(八)、和國の有情への憐愍(九)、
 斯くして一心歸命慶喜奉讚不退の心境にあ
 ることを讃詠されてゐる。

親覽が正像本和讚の製作は、草稿本を
 見るに、三十二首を列ねたる後正嘉元年閏
 三月一日附で同年二月九日夜の夢告讚が記
 されてゐるから、其の巻尾にある別和讚は
 親覽八十五歳若くは夫以前の作と見ねばな
 らぬ。又高田山に藏する願智書寫の正像本
 法和讚には「草本云、正嘉二歲九月二十四
 日、親覽(八十六歳)」といふ眞本の奥書が
 寫し取つてあるから、再治本の製作年時も
 知られる。然るに今十一首和讚は此の再治
 本にその影を留めてゐない、故に今假りに
 文明開版本の底本となつたと想像される一
 本の内に加へられた此の十一首は、恐らく
 は再治本製作當時若くはその以後に迄、草
 稿本別和讚以來弗々讃詠されてゐたもので
 はなからうか。聖德太子和讚集、解説帖外
 和讚集、親覽聖人研究二九・六七、現代佛
 敎第六三、願眞學報第四、眞宗の世界第一
 三の一参照。

⑦(參考) 淨土眞宗聖敎目録 ⑧事修寺版
 (龍大、眞寫)寫本(谷大、宗大・二四二)

皇太子奉讚 ①(日) Ko-tai-shō-
 -hō-san. ②太子奉讚、御聖
 和讚、太子和讚 ③一巻 ④存、大正八
 三・六六九 No. 2653、假名聖敎(惠聖筆寫)
 八十八部之内、新撰眞宗聖典之内 ⑤親覽
 (承安三一弘長二 A. D. 1173—1202)述
 ⑥建長七(A. D. 1255)十一 ⑦刊本(龍大、
 別設)

皇太子奉讚估畢草稿 ①(日) Ko-
 -tai-shō-hō-san-est-pi-kaō. ②五巻
 ③存 (谷大)

皇太神續座次第 ①(日) Ko-tai-
 -shin-za-shū-tdai. ②一帖 ③存 ④寫本
 (金剛三昧院)

皇朝天台史略 ①(日) Ko-cho-ten-
 -tai-shi-ryaku. ②三巻 ③存 ④讀津實
 全(嘉永三一大正一〇 A. D. 1850—1931)編
 明治二九刊 ⑤(立大、A・一六・一四)(帝
 室、三・四・二二) ⑥京都眞業書院

皇帝降誕日内道場論衡 ①(日)
 Ko-tei-ge-tan-nichi-nai-dō-jō-ron-kei
 (支) Huang-ti-chiang-tan-jih-
 -nei-tō-jō-ron-kei. ①降誕日内道場論衡 ②一
 巻 ③(參考) 入唐新求聖敎目録

皇帝降誕日於麟德殿講大方廣
 佛華嚴經玄義 ①(日) Ko-tei-ge-
 -tan-nichi-in-toku-dan-ni-ō-te-dai-hō-
 -bun-shū-ke-gō-gyō-ge-n-ō-ko-za. (支)
 Huang-ti-ching-tan-jih-yū-lin-tē-tien-

名所行設 (名庫書) 著者所見 (月年の刊寫) (書考參書註) 清水 (説解管内) 代年作著 (著者) 缺存 (書名) 名題 (號鳴字數)

【コ】

ling-ch'ao. ②二巻 ③缺 ④宋末那跋摩 (太和二一)元嘉八 A. D. 367—431)撰 ⑤
 【参考】奈良朝現在一切経目録2790
高僧傳略集 ①(日)Kō-shō-dan-i-yan
 ku-shū. (支)Kō-shō-ōng-ch'uan-hio-ch'i.
 ②二巻 ③缺 ④【参考】奈良朝現在一切
 経目録2792
高僧の観たる人の一生 ①(日)
 Kō-shō-no-ami-ta-ru-jiō-no-shū. ②一
 巻 ③存 ④平松貞夫編 ⑤大正一五再刊
 ⑥(龍大、二〇九・一四八)
高僧釋山 ①(日)Kō-shō-hoku-san.
 ②一巻 ③存 ④横井見明著 ⑤昭和七刊
 ⑥東京中央佛敎社
高僧法顯傳 ①(日)Kō-shō-hōk-ken
 den. (支)Kō-shō-fa-hsien-ch'uan. 法
 顯法師傳、歷遊天竺記傳、法顯傳、佛國記
 ②一巻 ③存、大正五一・八五七No. 3085
 ④續教六、三三〇・五、北1075通、南1091通、
 元1086通、明北1489通、明南1469兵、N.
 1496 ⑤法顯記 ⑥東晋弘始二—義熙一四
 (A. D. 399—418)
 ⑦略して『法顯傳』と呼び、又『佛國記』
 とも云ふ。法顯三蔵が西遊求法の有様を法
 顯自ら記したものである事は、『東晋沙
 門釋法顯自記遊天竺事』と題するを以て明
 らかである。法顯は東晋の隆安三年、慧景
 等四人と共に長安を發し鄯善、于闐、葱嶺
 等の諸地を経て北天竺に入り、義熙六年
 高船に乗じて南海を渡り青州に達したる者
 で、遊歴したる所實に三十ヶ國、所述は悉
 く當時の見聞であるから西域印度に關する

史料として重要な價值がある。レミュー
 ーの佛傳、ビールの英譯、レッグの英譯が
 ある。
高僧名著全集 ①(日)Kō-shō-kyō-
 chō-zenshū. ②一巻 ③存 ④山本勇夫
 編 ⑤昭和五刊 ⑥東京平凡社
高僧和讃 ①(日)Kō-shō-wakan. 淨
 土高僧和讃 ②一巻 ③存、大正八三・六
 六〇No. 3651、眞宗假名法典卷上、眞宗聖
 典全書和文之部、眞宗聖典之内 ④親覺(永
 安三—弘長二 A. D. 1173—1262)撰 ⑤實
 治二(A. D. 1248)
 ⑥高僧和讃は淨土高僧和讃の時稱で、もと
 清書本の巻尾に「已上高僧和讃一百七首」
 とあるより此稱が起つてゐる。奥書に「實治
 第二戊申歲初月下旬第一日釋親覺、七十六
 歳、書之畢」とあるので撰述年時を知るこ
 と出来る。「彌陀和讃高僧和讃都合二百二
 十五首」と淨土和讃の勢至讃を除けるもの
 と合計してある所より見、彼には奥書のな
 い所より考へると、本書は淨土和讃と一連
 に述作されたものである。
 親覺は其著願淨土眞實教行證文類の行卷
 に正信偈を作つて依經段依釋段を含ませて
 あるが、彼の漢文に對して此は和文の譯註
 であり淨土和讃の依經讀に次で本書は依釋
 讀である。淨土眞實教傳持の七高僧の事蹟
 と教釋とを順次和讃したもので、讃首に龍
 樹菩薩と稱し、付釋文と傍書し、十首を示
 し、讃尾に「以上龍樹菩薩」と記してある。
 以下同例である。七高僧各々の稱呼は首尾

異なるものがある、曇覺菩薩、道輝和尚、
 善導和尚、源信和尚といふ如き之である。
 【一】龍樹菩薩、付釋文、十首。事蹟に於て諸
 論撰述の本意(一)、初伽藍記(二)、三)を讀
 し、教釋に於て「十住論」に依て難易二道
 の判を擧げて易行道を勧め(四—七)、「智
 度論」に依て世尊の名義を稱し念佛の勝益
 を讀してある(八—一〇)。
 【二】天親菩薩、付釋文、十首。事蹟に於て
 天親の行蹟を讀し(一)、教釋に於て「淨土
 論」に依て淨土の莊嚴(二—五)、「一心歸命
 の安心(六—一〇)を讀してある。
 【三】曇覺和尚、付釋文、三十四首。事蹟に
 於て自行化他(一—二)、天子の勸に答ふる
 題(三—四)、汎く道俗を勧むること(五)、
 其他傳記を列ねて其他を讀め(六—一〇)、
 教釋に於て「論註」に依て本願圓頓佛法不
 思議(一一—一三)、往還二題(一四—一
 六)、他力一心(一七—二〇)、一味の法徳
 (二一—二三)、諸佛の勸誘(二四—二六)、
 因果の平等(二七—二九)、如實修行(三〇—
 三二)を説いて涅槃の證に結歸し(三三)、
 最後に時の天子に禮敬された事蹟を讀して
 ある(三四)。
 【四】道輝律師、付釋文、七首。事蹟に於て
 拾聖歸淨(一)、涅槃經の講説を聞て淨土
 門を勧めたるを讀し(二)、教釋に於て「安
 樂集」に依て聖道の自力を示し(三、四)、
 淨土の他力を讀してある(五—七)。
 【五】善導律師、付釋文、二十六首。事蹟に
 於て大海の本迹を讀し(一—二)、教釋に
 於て親經の疏等五部九卷の撰述に依て先づ

二巻各別の教意を述べるに彌陀の弘願門
 (三)、釋迦の要門(四)を擧げ、更に要門に
 就て難行難修を簡び(五—七)、弘願門の相
 を示し(八—一二)、後に二巻一致の教意に
 依て本願念佛の教義を詳述し(一三—二
 四)、彌陀釋迦二尊の恩を念報すべきを讀
 してある(二五、二六)。
 【六】源信大師、付釋文、十首。事蹟に於て
 本地(一)、垂迹(二—四)に互つて讀し、教
 釋に於て「往生要集」に依り(六—一〇)、
 或はその所引群疑論の原文に依て(五)、二
 修の因果(五、六)、專修の得益(七—一〇)
 を讀してある。
 【七】源聖聖人、付釋文、二十首。事蹟に於
 て先づ出世の徳を嘆じて淨土眞宗開闢の恩
 を偲び(一—四)、垂迹(五—七)、本地(八、
 九)に互る史傳を擧げ、眞宗の繁昌(一〇)
 を讀し、教釋に於て「選擇集」に依て勸信
 (一一)誠疑(一二)を讀し、後重ねて事蹟を
 述べて臨終の相を詳に讀してある(一三
 —一五)。
 本書は、高田山に藏する親覺の自筆を以
 て「淨土高僧和讃」と外題を施したる清書
 本を見るに、内題淨土高僧和讃の下に愚亮
 親覺作の撰述あり、本文の隨處に左調が施
 されてある。奥書には「實治第二戊申歲初月
 下旬第一日釋親覺、七十六歳、書之畢、見寫
 人者必可唱南無阿彌陀佛」とある。高田山
 には別に親覺書寫の四帖和讃を傳へたので
 あるが、淨土高僧和讃のみ散逸して傳はら
 ない。その淨土和讃の奥書に「草木云、建長
 七年乙卯四月二十六日寫書之」とあつて

【コ】

清書本とは多少字句を異にしてゐるよりみ
 て、或は本書にも再治本の存在したかの如く
 に想像される。眞慧が「文明十五年二月二
 十四日以後御正本移書之也」と奥書せる書
 寫本を高田山に藏するが、之に依て當時
 清書本に對して異本の存在したことが窺は
 れる。例へば「ヒトニニ修トナツケシム」
 の句に「難行トアンハシタル御本マアリ」
 と傍書せる如きに依て勘ふべきである。文
 明五年蓮如開版本には題號に「高僧和讃」
 の時稱を用ひ内容に於ても多少字句の異な
 る點がある。巻尾に都合の一項を缺き奥書
 も無き。「五濁惡世ノ衆生ノ、選擇本願信
 スレハ、不可稱不可説不可思議ノ、功德ハ
 行者ノ身ニミテリ」の一首がある。之は後
 に初後の句に文字を改め正像本法和讃の第
 三十首として編まれたもので、茲には別和
 讃として存する。次に三國七祖を列ねて後
 「聖德太子、敏達天皇元年正月一日誕生、當
 佛滅後一千五百二十一年也」とある。更に
 「南無阿彌陀佛ヲトケルニハ、衆善海水ノ
 コトクナリ、カノ清淨ノ善身ニエテリ、ヒ
 トノク衆生ニ趣向セン」の一首がある。前
 後の二首共親覺書寫淨土和讃の巻尾に附す
 る別和讃五首ある中に收まるもので、前のは
 第三首目の信者が行者となつたもの、後のは
 第二首目のトナフルニガトケルニハとな
 り、ミガ身、ンガムとなつたものである。
 【注釋】正説六卷(智通)。香解十卷(月
 笠)。興宗記四卷(慧雲)。講義三卷(眞班)。
 講義三卷(德龍)。講義三卷(深願)。甲戌録
 三卷(宣明)。丁巳録三卷(義護)。思齊記十

卷(知空)。望溪記二卷(法雲)。香解補闕三
 卷(實説)一巻(奉嚴)。講林六卷(智通)。撰
 釋四卷(采遠)。講記三卷(康溪)。講錄二卷
 (堅亮)。採集記一巻(觀道)。講義一巻(義
 勇)。龍記二巻(勝忍)。筆記二巻(德潤)。
 龍記一巻(泰慶)。天親章疏記一巻(慶親)。
 天親章疏述一巻(大覺)。天親章疏述一巻
 (界雄)。龍樹章疏記一巻(栴城)。開信鈔十
 一巻(慧慈)。略解一巻(仰誓)。講錄七巻
 (旭辨)。第二章玄談引據一巻(第五卷講錄
 一巻)法雲。指掌記五巻(單同)。開書第
 七祖一巻(第一章第二章一巻(忍阿)。講錄
 二巻(忍成)【参考】淨土眞實教典志第二
 (生業完明)
高僧和讃改元天明錄 ①(日)Kō-
 shō-wakan-kaigen-temmei-roku. ②六
 巻 ③存 ④寫本(龍大、一二三六・一三六)
高僧和讃開導 ①(日)Kō-shō-wa-
 san-kaidō. ②三巻 ③存 ④栗津義主
 (一寛政一 A. D. 1799)述 ⑤寛政四刊
 (龍大、一二三六・一一一)明治二九刊(谷大、
 宗洋、二七)
高僧和讃解釋 ①(日)Kō-shō-wa-
 san-getsushaku. ②五巻 ③存 ④德龍
 (安永元—安政五 A. D. 1772—1838)述 ⑤
 (龍大)
高僧和讃記 ①(日)Kō-shō-wakan-
 ki. ②二巻 ③存 ④和多田惠心述 ⑤明
 治二二(A. D. 1889) ⑥寫本(谷大、宗大、一
 六九六)
高僧和讃鼓望錄 ①(日)Kō-shō-wa-
 san-kobōroku. ②四巻 ③存 ④仰誓
 (享保六—寛政六 A. D. 1721—1794)述 ⑤
 寫本(谷大、宗大、三九五)
高僧和讃親淵錄 ①(日)Kō-shō-wa-
 san-kyōnenroku. ②三巻 ③存 ④寫本
 (谷大、宗大、三五六)
高僧和讃義疏 ①(日)Kō-shō-wa-
 san-gi-shū. ②一巻 ③存 ④源成世眼述
 ⑤明治四三刊 ⑥龍大、一二三六・一一一、
 研究)
高僧和讃開書 ①(日)Kō-shō-wa-
 san-ki-shū. ②二巻 ③存 ④慧琳(正
 徳五—寛政元 A. D. 1715—1789)述 ⑤明
 和四(A. D. 1767) ⑥寫本(谷大、宗大、三
 四)
高僧和讃開書 ①(日)Kō-shō-wa-
 san-ki-shū. ②三巻 ③存 ④宣明(寛
 延二—文政四 A. D. 1749—1821)述 ⑤文
 化一一(A. D. 1814) ⑥文化一一刊 ⑦谷
 大、宗大、九六八)
高僧和讃源信章不染記 ①(日)
 Kō-shō-wa-san-gen-shin-shō-in-an-ken-ki.
 ②一巻 ③存 ④利井辨妙(天保六一—大正
 三 A. D. 1835—1914)述 ⑤明治四四刊
 (龍大、研究)
高僧和讃源信章聞記 ①(日)Kō-
 shō-wa-san-gen-shin-shō-in-on-ki. ②一巻
 ③存 ④寫本(龍大、一二三六・一四一)
高僧和讃興宗記 ①(日)Kō-shō-wa-
 san-kyōshū-ki. ②二巻或四巻 ③存 ④
 慧雲(享保一五—天明二 A. D. 1730—1789)
 述 ⑤【参考】淨土眞實教典志第二 ⑥寫

本(龍大、一二三六・一一九、研究)
高僧和讃講案 ①(日)Kō-shō-wa-
 san-kyōdan. ②一巻 ③存 ④大橋徹快述
 ⑤大正三刊 ⑥(龍大、一二三六・一一三)
高僧和讃講記 ①(日)Kō-shō-wa-
 san-kyōki. ②四巻 ③存 ④康溪(享保
 二〇—寛政七 A. D. 1735—1793)述 ⑤寫
 本(龍大、一二三六・一四一)
高僧和讃講記 ①(日)Kō-shō-wa-
 san-kyōki. ②三巻 ③存 ④功存(享保
 五—寛政八 A. D. 1720—1796)述 ⑤寫本
 (龍大)
高僧和讃講義 ①(日)Kō-shō-wa-
 san-kyōgi. ②三巻 ③存 ④靈巖(安永
 一〇(A. D. 1827) ⑥寫本(谷大、宗大、四四
 四五)
高僧和讃講義 ①(日)Kō-shō-wa-
 san-kyōgi. ②三巻 ③存 ④眞宗全書第四一
 A. D. 1779—1838)述 ⑤天保一四(A. D.
 1843)
 ⑥師は天保六年六十四才のとき眞言大谷派
 高倉學寮夏安居において淨土和讃を講じ、
 次で同じく十四年七十二才のとき高僧和讃
 を、また安政元年八十三才のとき正像本和
 讃を講述した。本書は實にその天保十四年
 四月二十三日より四十七回に亘つて講述せ
 しもの筆録である。淨土和讃の巻頭には
 由序として二首の和讃があつて巻末に結讃
 なく、高僧和讃の巻頭には由序の和讃なく
 して巻末に結讃二首があるから、淨高二帖

【コ】

の和讃は一部の和讃といふべく、このうち浄土和讃は大型の真言をたゞえ、高僧和讃は太祖の解釋を讃詠せしものであるといひ、更に淨高正の三帖和讃を天台の三大部と比較するなど先人未發の見を述べ、高僧和讃の來意を述ぶるに當つては初めに淨土和讃の大綱を説き、次に太祖の解釋の傳承を明かにし、深奥の義を發揮するところが多し。

⑨寫本(谷大・宗大・三八一九、宗大・四四四九)
高僧和讃講義 ①(日) Kō-shō-wa-san-ko-ge. ②二卷 ③存 ④斷絶(一明治二 A. D. 1869) ⑤寫本(龍大・一二三六・一五)

高僧和讃講義 ①(日) Kō-shō-wa-san-ko-ge. ②一巻 ③存 ④調雲集(文政二一明治三 A. D. 1819—1899) ⑤寫本(谷大・宗大・二〇四〇)

高僧和讃講義 ①(日) Kō-shō-wa-san-ko-ge. ②一巻 ③存 ④是山惠覺述(大正三刊) ⑤(龍大・一二三六・一六一一七)

高僧和讃講義 ①(日) Kō-shō-wa-san-ko-ge. ②一巻 ③存 ④眞宗通信講義之内 ⑤河崎了述 ⑥大正五刊 ⑦(龍大・一二三六・一一八)(谷大・宗大・三三三五)

高僧和讃講義 ①(日) Kō-shō-wa-san-ko-ge. ②一巻 ③存 ④松島書海(安政二一 A. D. 1855—1893) ⑤明治三〇刊 ⑥(龍大・一二三四・六〇)

高僧和讃講義 ①(日) Kō-shō-wa-san-ko-ge. ②一巻 ③存 ④義勇(一文政五 A. D. 1822—) ⑤寫本(龍大・一二三六・六〇)

高僧和讃講義 ①(日) Kō-shō-wa-san-ko-ge. ②六卷 ③存 ④智洞(一文化三 A. D. 1806) ⑤(参考) 淨土眞宗教典卷第二 ⑥寫本(龍大・一二三六・一一一)

高僧和讃講義 ①(日) Kō-shō-wa-san-ko-ge. ②二卷 ③存 ④堅亮(寫保元一寫政九 A. D. 1741—1797) ⑤寫本(龍大・一二三六・一一五)

高僧和讃講義 ①(日) Kō-shō-wa-san-ko-ge. ②五卷 ③存 ④大運賢(曆七一寫政二 A. D. 1757—1800) ⑤寫本(龍大・一二三六・一二四)

高僧和讃講義 ①(日) Kō-shō-wa-san-ko-ge. ②三卷 ③存 ④靈照(安永四一嘉永四 A. D. 1775—1851) ⑤文政一〇刊 ⑥(谷大・宗大・一六四)

高僧和讃講義 ①(日) Kō-shō-wa-san-ko-ge. ②二卷 ③存 ④調雲集(文政二一明治三 A. D. 1819—1899) ⑤明治三三(A. D. 1898) ⑥明治三三刊 ⑦(龍大・一二三六・一一三)(谷大・宗大・三二六、四八〇六—四八〇七)

高僧和讃講義 ①(日) Kō-shō-wa-san-ko-ge. ②一巻 ③存 ④明治四二刊 ⑤(龍大・一二三六・一一〇)

高僧和讃講義 ①(日) Kō-shō-wa-san-ai-shū-ki. ②一巻 ③存 ④親道

(寶曆二一 A. D. 1733—1823) ⑥寫本(龍大・一二三六・一一六)

高僧和讃私記 ①(日) Kō-shō-wa-san-shi-ki. ②二卷 ③存 ④立大、A 四〇・五七)

高僧和讃私科 ①(日) Kō-shō-wa-san-shi-ka. ②一巻 ③存 ④天明六寫(谷大・宗大・三六〇六)

高僧和讃思齋記 ①(日) Kō-shō-wa-san-shi-shū-ki. ②十卷 ③存 ④知堂(寫永一一享保三 A. D. 1634—1718) ⑤(参考) 淨土眞宗教典卷第二 ⑥寫本(谷大・宗大・一三六五)

高僧和讃述古 ①(日) Kō-shō-wa-san-jutsu-ko. ②一巻 ③存 ④開嘆述 ⑤寫本(龍大・一二三六・一三〇)

高僧和讃寫瓶錄 ①(日) Kō-shō-wa-san-sha-byō-roku. ②五卷 ③存 ④大峯親秀述 ⑤天明二刊(谷大・宗小二〇) ⑥天明六刊(龍大・一二三六・一一九、一六四・一〇)

高僧和讃正說 ①(日) Kō-shō-wa-san-shō-sei. ②六卷 ③存 ④智通(元祿三一明和五 A. D. 1690—1768) ⑤(参考) 淨土眞宗教典卷第二 ⑥寫本(龍大・別置)

高僧和讃管解 ①(日) Kō-shō-wa-san-shō-ge. ②十二卷 ③存 ④月笠(寫文一一享保一四 A. D. 1671—1729) ⑤寫本(龍大・一二三六・一一九、別置)

高僧和讃管解補關 ①(日) Kō-shō-wa-san-shō-ge-ho-kan. ②三卷 ③存 ④

榮(正徳元一寶曆一三 A. D. 1711—1763) ⑥(参考) 淨土眞宗教典卷第二

高僧和讃攝釋 ①(日) Kō-shō-wa-san-shō-shaku. ②五卷 ③存 ④柔遠(寫保二一寫政一〇 A. D. 1742—1798) ⑤寫本(龍大・一二三六・一一八)

高僧和讃攝釋 ①(日) Kō-shō-wa-san-shō-shaku. ②一巻 ③存 ④道隱(寫保元一文化一〇 A. D. 1741—1813) ⑤寫本(龍大)

高僧和讃隨聞記 ①(日) Kō-shō-wa-san-zui-mon-ki. ②一巻 ③存 ④玄伏(元文三—寫政四 A. D. 1738—1792) ⑤寫本(龍大)

高僧和讃覽說 ①(日) Kō-shō-wa-san-zai-sei. ②一巻 ③存 ④靈榮(正徳元一寶曆一三 A. D. 1711—1763) ⑤(参考) 淨土眞宗教典卷第二

高僧和讃善導講義 ①(日) Kō-shō-wa-san-zen-dō-kyōgi. ②一巻 ③存 ⑤寫本(龍大)

高僧和讃善導講義 ①(日) Kō-shō-wa-san-zen-dō-kyōgi. ②一巻 ③存 ⑤寫本(龍大)

高僧和讃善導講義 ①(日) Kō-shō-wa-san-zen-dō-kyōgi. ②一巻 ③存 ⑤寫本(龍大)

高僧和讃善導講義 ①(日) Kō-shō-wa-san-zen-dō-kyōgi. ②一巻 ③存 ⑤寫本(龍大)

名所行役 (名庫書) 名藏所現 (月年の刊寫) (書考多書釋註) 書本 (説解管内) 代年作者 (名書) 缺存 (名書) 兼也 (名書) 名題 (名書) 號碼字數

【コ】

高僧和讃聽記 ①(日) Kō-shō-wa-san-cho-ki. ②二卷 ③存 ④曉忍(安永四一天保九 A. D. 1775—1833) ⑤寫本(龍大・一二三六・一三四)

高僧和讃聽記 ①(日) Kō-shō-wa-san-cho-ki. ②一巻 ③存 ④持淨(一安政三 A. D. 1856—) ⑤寫本(龍大・一二三六・一三三)

高僧和讃聽記 ①(日) Kō-shō-wa-san-cho-ki. ②二卷 ③存 ⑤寫本(龍大・一二三六・一三三)

高僧和讃聽稿 ①(日) Kō-shō-wa-san-cho-ko. ②一巻 ③存 ④信撰(享保四一寶曆二 A. D. 1710—1763) ⑤寶曆一三寫 ⑥(谷大・宗大・四七八)

高僧和讃丁亥記 ①(日) Kō-shō-wa-san-cho-gai-ki. ②三卷 ③存 ④眞宗大系第二〇 ⑤靈照(安永四一嘉永四 A. D. 1775—1851) ⑥文政一〇(A. D. 1827)

⑦先(高僧和讃製作の由来を述ぶるに就て) ⑧第一に三帖和讃の順序のことを詳しく説き、第二に眞宗七祖の傳承のことを研め、以て本和讃は淨土眞宗の法脈相承を明かにせんが爲に撰述せるものなりと斷じ、更に進んで本和讃の大意は、選擇本願を明かにするを大意とするか、教行信證の四法を明かにするを大意とするかの説があるけれども、今は選擇本願が凡夫の機に相應することを明かにするが大意であると述べ、かくて入文解釋に及んでゐる。本書は文政十年四月十五日開講の眞宗大谷派高倉學寮

の夏安居における講録にして講會を重ねること總べて五十六會、眞宗七高僧及び宗祖の教義を胸中に蘊め、説論横説、蓋し高僧和讃講義の詳細なるものと云ふべきである。(柏原龍義)

高僧和讃丁巳錄 ①(日) Kō-shō-wa-san-cho-shi-roku. ②三卷 ③存 ④義謙(寛政八—安政五 A. D. 1796—1853) ⑤(参考) 眞宗大系刊行豫定書目

高僧和讃天親章記 ①(日) Kō-shō-wa-san-ten-jin-shō-ki. ②一巻 ③存 ④大爲記 ⑤寫本(龍大・一二三六・一四三)

高僧和讃天親章記 ①(日) Kō-shō-wa-san-ten-jin-shō-ki. ②一巻 ③存 ⑤界雄(文化一一明治三〇 A. D. 1814—1887) ⑥寫本(龍大・一二三六・一四四)

高僧和讃天親章記 ①(日) Kō-shō-wa-san-ten-jin-shō-ki. ②一巻 ③存 ⑤慶恩(天明二—嘉永元 A. D. 1789—1848) ⑥寫本(龍大・一二三六・一四五)

高僧和讃天親章記 ①(日) Kō-shō-wa-san-ten-jin-shō-ki. ②一巻 ③存 ⑤泰巖(享和一一明治元 A. D. 1802—1868) ⑥寫本(龍大・一二三六・一四六)

高僧和讃天親章復述 ①(日) Kō-shō-wa-san-ten-jin-shō-ki-fukusu. ②一巻 ③存 ⑤大爲記 ⑥寫本(龍大・一二三六・一四四)

高僧和讃天明錄 ①(日) Kō-shō-wa-san-ten-mei-roku. ②六卷 ③存 ④智洞(一文化三 A. D. 1806) ⑤元明三寫

嘉永四補 ①(龍大・一二三六・一三五)(谷大・宗大・一〇七四)

高僧和讃傳持 ①(日) Kō-shō-wa-san-den-ji. ②二卷 ③存 ④臨全述 ⑤寛政九寫 ⑥(谷大・宗大・一五二七)

高僧和讃秘決 ①(日) Kō-shō-wa-san-hi-kei. ②二卷 ③存 ④聖賢(寫文元一延享三 A. D. 1661—1746) ⑤寫本(谷大・宗小・一五)

高僧和讃方軌 ①(日) Kō-shō-wa-san-hō-ki. ②二巻 ③存 ④信撰(享保八一天明三 A. D. 1723—1783) ⑤寫本(龍大・一二三六・一三七)

高僧和讃望溪記 ①(日) Kō-shō-wa-san-bō-kyō-ki. ②一巻 ③存 ④法雲(元祿六一寫保元 A. D. 1693—1741) ⑤(参考) 淨土眞宗教典卷第二 ⑥寫本(龍大・研眞)

高僧和讃文義林 ①(日) Kō-shō-wa-san-bun-gei-in. ②二巻 ③存 ④惠廣撰 ⑤寫本二寫 ⑥(谷大・宗大・一五八六)

高僧和讃問答決擇 ①(日) Kō-shō-wa-san-mon-dō-kechaku. ②一巻 ③存 ④稻葉敬山述 ⑤大正三刊 ⑥(龍大・一二三六・一三八)

高僧和讃聞記 ①(日) Kō-shō-wa-san-mon-ki. ②三巻 ③存 ④月安(寫文一一享保一四 A. D. 1671—1729) ⑤寫本(谷大・宗大・四一一九)

高僧和讃聞記 ①(日) Kō-shō-wa-san-mon-ki. ②五巻 ③存 ④眞宗全書第六 ⑤靈照(安永四一嘉永四 A. D. 1775—

1831) ⑥文政一〇(A. D. 1827)

⑦師の高僧和讃丁亥記三巻と同時の筆録である。丁亥記三巻に録する講義五十六會のうち、初會より第四十五會までは全くこの聞記を底本として眞宗大系に載せたのであるから、丁亥記とこの聞記と文辭全く等しく、大系本の四十六會以後は他の筆録を底本としてゐるから兩書の間には相違と異なるところもあるが、大體は同じい。(柏原龍義)

高僧和讃聞記 ①(日) Kō-shō-wa-san-mon-ki. ②高僧和讃講義 ③一巻 ④存 ⑤眞宗全書第四一 ⑥徳龍(安永元—安政五 A. D. 1772—1828) ⑦天保一四(A. D. 1843) ⑧寫本(谷大・宗大・九七三)

高僧和讃聞信錄 ①(日) Kō-shō-wa-san-mon-shin-roku. ②一巻 ③存 ④法海(明和五一天保五 A. D. 1768—1834) ⑤寫本(谷大)

高僧和讃略解 ①(日) Kō-shō-wa-san-ryaku-ge. ②一巻 ③存 ④柳堂(享保六一寫政六 A. D. 1721—1749) ⑤刊本(谷大・宗大・八九九)

高僧和讃略述 ①(日) Kō-shō-wa-san-ryaku-jutsu. ②一巻 ③存 ⑤大正一刊 ⑥(龍大・一二三六・一三九)

高僧和讃覽師章聞書 ①(日) Kō-shō-wa-san-ryaku-shō-shō-kan. ②一巻 ③存 ④性海(明和二一天保九 A. D. 1763—1838) ⑤寫本(龍大)

高僧和讃龍樹章繪抄 ①(日) Kō-shō-wa-san-ryaku-jū-shō-eshō. ②二巻 ③存 ④普通述 ⑤寛政七刊 ⑥(龍大・一二

名所行役 (名庫書) 名藏所現 (月年の刊寫) (書考多書釋註) 書本 (説解管内) 代年作者 (名書) 缺存 (名書) 兼也 (名書) 名題 (名書) 號碼字數

【一】

三六一四九) 高僧和讃龍樹章總記 ①(日)Ko-wa-san-ryō-jū-shō-chō-ki. ②1巻 ③存 ④栖城(寛政五—文久元A.D.1793—1861) ⑤寫本(龍大、二二六・一四七) 高僧和讃龍天曇章筆記並科文 ①(日)Ko-shō-wa-san-ryō-ten-don-shō-hiki-ki-narabini-kwa-mon. ②11巻 ③存 ④徳潤(明和四—文政十A.D.1767—1824) ⑤文化11(A.D.1814) ⑥(龍大、二二六・一四八)

高僧和讃臨講記 ①(日)Ko-shō-wa-san-ryō-ko-ki. ②3巻 ③存 ④惠忍(元禄六—天明三A.D.1693—1783) ⑤寫本(谷大、宗大・九三六)

高祖和讃錄 ①(日)Ko-so-wa-san-roku. ②7巻 ③存 ④賢隨(—安永六A.D.1777—) ⑤寫本(龍大、二二六・一四〇)

高峰和尚語錄 ①(日)Kō-bō-ō-shō-go-roku. (支)Kō-feng-ho-shang-yō-lu. ②3巻 ③存 ④宋原妙(嘉熙三—元貞元A.D.1239—1295) ⑤古版(内閣)

高峰和尚禪要 ①(日)Kō-bō-ō-shō-zen-yō. (支)Kao-feng-ho-shang-ch'an-yao. 高峰原妙禪師禪要 ①1巻 ③存 ④己續二・二七・四 ⑤宋原妙(嘉熙三—元貞元A.D.1239—1295) ⑥持正、洪喬祖共編 ⑦刊本(谷大、餘大・三六二九)(帝國、特別) ⑧一七寫本(京大、藏・一七ヶ・七)

高峰顯日和尙語錄 ①(日)Kō-bō-ken-nichi-ō-shō-go-roku. 佛國國師語錄 ③存、禪學大系編第五 ④高峰顯日(治二—正和五A.D.1241—1361) ⑤妙環編 ⑥寫本六刊 ⑦(駒大)

高峰原妙禪師語錄 ①(日)Kō-bō-zen-myō-zen-ji-go-roku. (支)Kao-feng-yuan-miao-ch'an-shih-yō-lu. 高峰大師語錄 ①1巻 ③存 ④己續二・二二・四 ⑤宋原妙(嘉熙三—元貞元A.D.1239—1295) ⑥參學門人編

雪巖祖師法嗣の法嗣にして南岳下第二十一世高峰原妙禪師の語録で參學門人の編纂刊行せるものである。後、明萬曆二十七年(A.D.1596)雲棲株宏禪師重梓の序を附し、雪巖弘毅重刊し、清康熙六年(A.D.1667)嘉興府初級寺より刊行し、清光緒二年(A.D.1876)許雲處が昭慶空經房より上梓した。我國に於ては五山版、明曆三年(1667)黄龍版、續藏本等がある。其の内容は、上巻に、宋成淳十年高峰三十七歳にして、湖州雙髻庵に就庵せし時の示衆法語。元至元二十四年冬五十歳にして杭州西天目山師子禪寺の開堂語要、示衆法語を収め。下巻に、拈古、補遺語要、偈頌、小佛事、讀佛祖、法語を収め、卷末に原妙の徒弟明初の命により洪喬祖の見聞する所を編録せる行狀、無準師範禪師に參學せし尙朝の丈夫たる眉山の家之興の撰に成る塔銘並香牒を附したものである。(大久保堅瑞)

高峰原妙禪師禪要 ①(日)Kō-bō-zen-myō-zen-ji-zen-yō. (支)Kao-feng-yuan-miao-ch'an-shih-ch'an-yao. 高峰和尚禪要 ①1巻 ③存 ④己續二・二二・四 ⑤宋原妙(嘉熙三—元貞元A.D.1239—1295) ⑥參學門人編 ⑦明曆三刊(駒大)(帝國、八二二・五二二・一一一)

尙禪要 ①1巻 ③存 ④己續二・二二・四 ⑤宋原妙(嘉熙三—元貞元A.D.1239—1295) ⑥持正、洪喬祖共編 ⑦高峰原妙禪師の示衆法語にして特に參禪の要訣となるものを編録して禪要一巻と成したもので、侍者持正これを録し、參學の直翁居士洪喬祖これを編集して、元至元十四年九月(A.D.1354)喬祖自序し、同年十月參學の清喜淨明朱顯道跋を撰して墓鏤鏤梓したものである。後、明嘉靖十八年の春(A.D.1539)神興寺幹善道人靈祉は智異山南台庵に重刊し、明隆慶四年春(A.D.1570)慧澄等は無等山安心寺に於て上梓した。また明崇禎後丙寅五月日全羅道樂安理金華山澄光寺開刊とある朝鮮本もある。續藏本の卷末には、安永二年孟春(A.D.1773)長州萩の洞春寺所藏の朝鮮本に據つて所寫せる旨及び天明三年(A.D.1783)朝鮮本に據つて校正せる旨の刊記がある。別に丹波水上郡神樂村瑞巖山高源寺に於て刊行されて居る。朝鮮の自跋互照和尚は高峰和尚禪要私記一巻を著した。今この洪喬祖の編纂に係る禪要の内容を見るに、開堂普說、示衆法語數十篇、除夜小參二則、書(各直翁居士書、通仰山老和尚疑詞書)並に室中三關の法語である。(大久保堅瑞)

高峰大師語錄 ①(日)Kō-bō-dai-shō-go-roku. (支)Kao-feng-tai-shih-yō-lu. 高峰原妙禪師語錄 ①1巻 ③存 ④己續二・二二・四 ⑤宋原妙(嘉熙三—元貞元A.D.1239—1295) ⑥參學門人編 ⑦明曆三刊(駒大)(帝國、八二二・五二二・一一一)

明版(内閣)光緒一五刊(京大、藏・一七・一四)

高峰德因集賢語錄 ①(日)Kō-bō-toku-in-shū-ken-go-roku. (支)Kao-feng-toku-in-shih-ken-go-roku. 高峰龍泉院因師集賢語錄、因師集賢錄、龍泉集 ②十五巻 ③存 ④己續二・一九・一 ⑤元代如瑛編 ⑥因師集賢錄の下を見よ。⑦寫本二刊 ⑧(谷大、餘大・三四七八)(帝國、八二二・一一〇)

高峰龍泉院因師集賢語錄 ①(日)Kō-bō-ryō-en-in-shū-ken-go-roku. (支)Kao-feng-ryō-en-in-shih-ken-go-roku. 因師集賢錄、龍泉集、高峰德因集賢語錄 ②十五巻 ③存 ④己續二・一九・一 ⑤元代如瑛編 ⑥因師集賢錄の下を見よ。⑦寫本二刊 ⑧(谷大、餘大・三四七八)(帝國、八二二・一一〇)

高野往生傳 ①(日)Kō-yō-ō-jō-den. 高野山往生傳 ①1巻 ③存 ④大日本佛教全書第一〇七、續淨土宗全書第六、續群書類從第八、如寂(一元)元A.D.1184) ⑤高野山往生傳の下を見よ。

高野往來集、拾遺性靈集 ②二巻 ③存、續群書類從第一二、弘法大師全集第一〇 ④高野雜集集の下を見よ。⑤(參考)請宗章疏錄第三

高野勤王傳 ①(日)Kō-yō-kinnō-den. 高野山勤王傳 ①1巻 ③存 ④大日本佛教全書第一〇七、續淨土宗全書第六、續群書類從第八、如寂(一元)元A.D.1184) ⑤高野山往生傳の下を見よ。

高野往來集、拾遺性靈集 ②二巻 ③存、續群書類從第一二、弘法大師全集第一〇 ④高野雜集集の下を見よ。⑤(參考)請宗章疏錄第三

高野山開創一千年記念大法會記 ①(日)Kō-yō-san-kai-kyū-ichū-nen-kinen-dai-hō-ki. ①1巻 ③存 ④大山公淳著 ⑤昭和六刊 ⑥高野山密教研究會

高野山學侶行人聖之來由 ①(日)Kō-yō-san-gaku-ryō-jin-shū-no-rai-yū. ①1巻 ③存 ④寫本(谷大、餘大・三六八〇)

名所行狀 (名庫書) 著者所現 月年の刊寫 (書考參書釋註) 書本 説解管内 代年作著 著者 録存 數巻 (名書) 名題 號鳴字數

【二】

高野行 ①(日)Kō-yō-ka. ②1巻 ③存 ④福良竹亭編 ⑤昭和四刊 ⑥(高野山、一・五七)

高野弘法大師行狀圖畫 ①(日)Kō-yō-kō-bō-dai-shō-jō-shū-kyō-gō-jō-zan-gwa. ②五册 ③存 ④(高野山、一・五五)

高野興廢記 ①(日)Kō-yō-kō-kai-ki. ②1巻 ③存、大日本佛教全書第一二〇寺誌叢書第四 ④何祚(—寛元三A.D.1245)記 ⑤寶永二寫(寶善提院)寫本(金剛三昧院)

高野興廢記 ①(日)Kō-yō-kō-kai-ki. ②1巻 ③存、大日本佛教全書第一二〇寺誌叢書第四 ④信堅(正元元—元永二A.D.1259—1323)撰 ⑤次の目次に見る如く高野山史に關する貴重な資料である。

(一)佛誕年記。(二)弘法大師秘略年譜。(三)弘法大師御入定以後の秘略年譜。以上筆者題す。(四)高野山與吉野境界相論事自記。建保六年、至承久三年、四年之間、これは古來高野山上有名な大事業であつた。今はその始終を詳記す。(五)大塔興廢日記、高野山根本大塔興廢の歴史を記す。(六)金剛峯寺座主次第、第一權少僧都壽長より第三十三代僧正定海に終るも、中途第七代以下第三十代までを略して記さず。これに就いて、佛教全書本には「蓋已後以執行職多執「寺務」故乎」と考證してある。(七)依被「崇」高野山、度々御幸事寄「庄園」事、庄園寄進のこと、天皇若くは法皇御參詣のことを記す。(八)大師御入定廟所自「公家」被

送裝束、事、延喜二十一年十月二十一日醍醐天皇、大師の御入定所へ繪皮色御裝束一襲を送られたことを記す。(九)興廢一雙鳥島事、大江道綱の外記を引いて興廢へ、眼金色足爪青色の天鳥來つて鳴いたといふ説を出す。但し年月のことなし。(一〇)大師如意寶珠安置事、大師如意寶珠を三ヶ所安置し給ふたことを出す。(一一)御影堂二度々火災事、正暦五年と久安五年との二度の壇上(御堂)火災に、大師御影堂のみ火難を脱したといふこと不思議を記す。(一二)興廢興廢事、承平三年僧平珍興廢の廟塔を修理したこと、その後二十年にして雷火の爲め焼失したことを記す。(一三)高野山二度中絶事、延喜十七年より二十一年まで、長保三年より長和五年まで二度、高野山衰亡のことを記す。(一四)高野佛事始行事。(一五)傳法院建立事附中絶事、覺鏡上人が傳法院を高野山上へ興した前後の事情を略記す。(一六)御室高野山僧御同座事。(一七)御影堂事。以上、高野山史研究上重要な一書である。

寫本(帝國、二一〇・三六八)(立大、A二〇・一四五)

高野雜記 ①(日)Kō-yō-zaki-ki. ②1巻 ③存 ④深賢(—弘長元A.D.1261)記 ⑤寫本(谷大、餘甲・七五)

高野雜集 ①(日)Kō-yō-zap-pitshū. ②二巻 ③存、續群書類從第一二、弘法大師全集第一〇

高野大師空海の遺文を集めたるもの、遍照發揮性靈集の拾遺である。然し性靈集と重複せるもの尠くない。收むる所は上表上啓並に俗に對する往復書簡等、長きは數百言、短きは二三行のものもあり、中には空海の弟子の消息文なども多少混入せられて居る。請宗章疏錄第三に高野往來集二巻と云へるは本書で、章疏錄に高野雜集一巻又は發揮拾遺編と云へるは本書と別である。

延喜九刊 ④(龍大、二〇九三・一三)(立大、A二〇・一四八)(高野山、一・五二)

高野雜集 ①(日)Kō-yō-zap-pitshū. ②二巻 ③存 ④空海(實德五—承和二A.D.774—835)記 ⑤(參考)請宗章疏錄第三

高野山緣起 ①(日)Kō-yō-san-en-ki. ①1軸 ③存 ④貞勝記 ⑤天文六(A.D.1527) ⑥徳川時代寫 ⑦(寶龜院)

高野山往生傳 ①(日)Kō-yō-san-ō-jō-den. 高野往生傳 ①1巻 ③存、大日本佛教全書第一〇七、續淨土宗全書第六、續群書類從第八傳部 ④如寂(一元)元A.D.1184) ⑤撰

高野山の開創者弘法大師の教學は三密加持の現法によりて即身成佛を期するものであつた。然るに地理的關係上、その地遠く京洛を離れ、深山幽谷、峯高く雲深く、大樹巨木は天を磨し、遙に俗塵を超脱す。これによつて開山後數百年、特に源平時代を中心とした前後の頃、遺世者相續して此の山に入り、幽境に心行くまで念佛三昧を

行じ、西方願求の徒相集まることゝなつた。本書の如きはその時代即ち永承より文治の頃に至る約五十年ばかりの間に於けるそれらの著名な行者三十八人の簡單な傳曆を輯録したもので、高野山淨土思想(歸密念佛)史研究上の資料である。

延喜五刊 ④(高野山、一・五五、寄・一・五五)(正大、一〇三六・二九)(龍大、二九六五・二二九)

高野山興廢記 ①(日)Kō-yō-san-ō-kai-ki. 興廢興廢記、高野興廢記 ②1巻 ③存、大日本佛教全書第一二〇寺誌叢書第四 ④何祚(—寛元三A.D.1245)記 ⑤興廢興廢記の下を見よ。

高野山興廢記 ①(日)Kō-yō-san-ō-kai-ki. ②1册 ③存 ④何祚(—寛元三A.D.1245)記 ⑤寫本(高野山、一・五五)

名所行狀 (名庫書) 著者所現 月年の刊寫 (書考參書釋註) 書本 説解管内 代年作著 著者 録存 數巻 (名書) 名題 號鳴字數

【2】

高野山金石圖説 ①(日)Ko-ya-san-kin-seki-zu-sei-su. ②四卷 ③存 ④水原榮著 ⑤大正一三刊 ⑥(龍大、研史)(京專)

高野山口傳 ①(日)Ko-ya-san-ku-ten. ②一冊 ③存 ④文化二寫 ⑤(金剛三昧院)

高野山官符 ①(日)Ko-ya-san-kwan-pu. ②一冊 ③存 ④元和七寫 ⑤(高六、一五五)

高野山勸發信心集 ①(日)Ko-ya-san-kwan-potau-shin-jin-shu. ②一冊 ③存 ④信堅(正元元一元年A.D. 1299—1322)撰 ⑤寫本(高六)

高野山結界内女人登詣制誠集 ①(日)Ko-ya-san-kei-kai-nan-nyo-onin-to-kei-sei-kat-shu. ②一冊 ③存 ④雲堂(元祿五A.D. 1692)著 ⑤彦峯(正保一一享保一一A.D. 1645—1727)校 ⑥文政一〇再刊 ⑦(京大、一六・一〇)

高野山見存藏經目錄 ①(日)Ko-ya-san-ken-son-sei-kyo-moku-roku. ②一冊 ③存 ④高野山學志第二 ⑤水原榮著 ⑥昭和七刊 ⑦春江書局

高野山古事秘録 ①(日)Ko-ya-san-ko-ji-hi-roku. ②一冊 ③存 ④寫本(高六、一五五)

高野山御參詣記 ①(日)Ko-ya-san-go-san-kei-ki. ②一冊 ③存 ④續群書類第五 ⑤平祐國記

高野山御朱印御條目寫 ①(日)Ko-ya-san-go-shu-in-go-jo-moku-nishashi. ②一冊 ③存 ④天保一〇寫 ⑤(高六、一五五)

〔行年五十七〕登御兩日勤修御法事於奥院也」とあり、本文の記、此の時のものなることは明瞭であつて、記者は伊豫守平祐國である。十月十一日曉更出發、淀河を船にて下り山崎南岸より石清水へ参り、更に乗船、長柄橋の附近に一泊、翌日船にて住吉へ参詣、和泉國曾爾御借屋に一泊、翌日も船にて海路より紀ノ川を上り、高野政所即ち山麓慈尊院へ着して一泊、愈々十四日高野登山、深觀僧都の御出迎を受けて奥院へ着、十五日は大師の御靈前にて理趣三昧法會を行じ、講論一座を勤め、丁重な供養あり、十六日には深觀僧都の案内にて大師御影堂へ参詣、「室中脇息繩床木履杖等皆在世之物具也、經數百年、其形皆以如新、僧都以大師眞跡手書一巻(入二木造供書)玉取一柄(入二綿袋)三貼一柄、被(獸物皆珍重)とある。十七日下山船にて紀ノ川を下り粉河寺へ詣し、船にて市の宿へ往つて一泊、十八日は吹上濱和歌部を周覽、日根の宿にとまり、十九日天王寺へ参り、二十日に歸宅された。當時頼通公の盛な威容もしのばれ、高野山に於ける法儀の盛觀、並に京都と高野山との交通の便など、詳に記されて史家の参考となる。(天野觀明)

高野山御手印緣起 ①(日)Ko-ya-san-go-shu-in-eri-gi. ②一冊 ③存 ④(参考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

高野山御朱印御條目寫 ①(日)Ko-ya-san-go-shu-in-go-jo-moku-nishashi. ②一冊 ③存 ④天保一〇寫 ⑤(高六、一五五)

高野山御條目並請狀等 ①(日)Ko-ya-san-go-jo-moku-narabishi-uke-ke-ko. ②一冊 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(寶龜院)

高野山御付屬眞然僧正之事 ①(日)Ko-ya-san-go-fu-za-zoku-shin-nen-go-jo-no-koto. ②一冊 ③存 ⑤足利時代寫 ⑥(寶龜院)

高野山興廢記 ①(日)Ko-ya-san-kyo-tai-ki. ②一冊 ③存 ④大日本佛教全書第一二〇寺誌叢書第四 ⑤信堅(正元元一元年A.D. 1299—1322)撰 ⑥高野興廢記の下を見よ ⑦寫本(立大、A 二〇・一四五)(帝國、二一〇・三六八)

高野山金剛峯寺緣起 ①(日)Ko-ya-san-kon-go-bu-ji-eri-gi. ②一冊 ③存 ④頼慶記 ⑤慶安四刊 ⑥(金剛三昧院)

高野山金剛峯寺草創事 ①(日)Ko-ya-san-kon-go-bu-ji-ryo-no-koto. ②一冊 ③存 ④嘉永七寫 ⑤(金剛三昧院)

高野山金堂造營儀 ①(日)Ko-ya-san-kon-do-ryo-eri-gi. ②一冊 ③存 ⑤徳川時代寫 ⑥(寶龜院)

高野山細見大繪圖 ①(日)Ko-ya-san-ai-ken-dai-e-zu. ②一枚 ③存 ④山本平六編 ⑤(帝國、一六六・二一九)

高野山雜記 ①(日)Ko-ya-san-zaki-ki. ②四卷 ③存 ④寫本(京專)

高野山三派由來 ①(日)Ko-ya-san-san-pa-yu-rai. ②一冊 ③存 ④(京專)

高野山山主年表 ①(日)Ko-ya-san-shu-nen-pyō. ②一冊 ③存 ④寫本(龍大、二九八・二一八)

高野山四至太政官符 ①(日)Ko-ya-san-shi-shi-ta-ko-kwan-pu. ②一冊 ③存 ④足利末期寫 ⑤(金剛三昧院)

高野山事略 ①(日)Ko-ya-san-jiryaku. ②一冊 ③存 ④國文東方佛教叢書第六、新井白石全集第三 ⑤新井君英明撰 ⑥享保一〇A.D. 1697—1723)撰

高野山の三派、即ち學侶、行人、聖(或は非事史と書す)方の由來より、江戸時代一山三派の争論等十箇條を記述せり。即ち(一)學侶行人聖方由來の事、三派の名稱は元弘建武の頃までは用ゐられなかつたことを記し、然もそれに類する行者は古くより存在してゐたことを現はしてゐる。(二)木食上人高野山を再興せし事、高野山興山寺の開祖木食上人應其が、豊臣秀吉高野山を征せんとした時の史實を録して、上人の功績を讃じてゐる。(三)學侶行人兩派わかれたり事附文殊院の事。(四)文殊院を江戸に移すこと。(五)東照宮高野山に御儀座のこと、家康の遺志により、寛永四年に興山寺第三世應昌、高野山に東照宮を設けし因縁を出す。(六)學侶行人争論始めの事、正保二年以來凡そ六年間の學侶行人の争論を略述す。(七)學侶行人第二度争論の事、明暦二年十一月以降四年間の争論の録事である。(八)學侶行人第三度争論の事、寛文三年十一月より同六年八月までの争論を記す。(九)學侶行人第四度の争論並興山寺住

名所行録 (名庫書) 著者所現 月年の刊寫 (書考多書釋註) 書本 説解管内 代年作者 著者 缺存 數色 (名書) 名題 號略字數

【2】

持職興山上人の法斷絶の事、延寶三年四年、元祿二年四年の争論の記述がある。

(一〇)行人の僧徒流刑並高野山東照宮神法樂御法事の儀同如の事、元祿五年七月行人の僧六百八十人餘流刑に處せられ、爾來高野山東照宮の御法事二十餘年間嚴重に舊儀のままに修することの出来なかつたことを出す。本書は徳川時代の高野山史を研究する爲めの一史料となればならぬ書である。(天野觀明)

高野山巡堂次第 ①(日)Ko-ya-san-jun-do-shi-dai. ②一冊 ③存 ④(参考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

高野山諸院並堂舎記 ①(日)Ko-ya-san-sho-in-arabishi-de-sha-ki. ②一冊 ③存 ④(参考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

高野山諸要雜證 ①(日)Ko-ya-san-sho-yo-zus-shi. ②一冊 ③存 ④法華撰 ⑤天保八寫 ⑥(谷大、餘大・三〇七〇)校群書類第一九

高野山燒失記 ①(日)Ko-ya-san-sho-shitsu-ki. ②一冊 ③存 ④詳書類第一五、新校群書類第一九

⑥失火或は雷火による高野山燒失の記録は一二に非ざるも、本記の如きは最も大なるものであらう。即ち永正十八年二月十二日巳刻、西院谷福智院より出火し、餘炎轉じて壇上に移り、大塔・金堂・御影堂をはじめ諸堂悉く灰燼となり、更に火勢寺家へ轉じ、南谷・西院谷・本中院谷・各上一・心院谷・五ノ室谷・千手院谷・小田原谷等悉く赤土となる(紀伊續風土記四、三七下)と記さ

るゝが故に如何に猛烈な大火災であつたかが想はれる。燒失寺院數の記録なきは遺憾なれど、現在の高野山より追想するに、大約その七分を失つたものゝようである。今書に

或は住侶の惡心に依り護法善神山裡み玉ふと云ひて、涙を流す者あり、或は衆生の信心薄く、佛界は滅し、魔界は増し、寺は滅すと歎き悲む者あり。

等記すること、如何に時人の悲歎極まりなかつたかを追想するに足るのであらう。

高野山眞俗興廢記 ①(日)Ko-ya-san-shin-soku-kyo-hai-ki. ②一冊 ③存 ④光宥(一承應元A.D. 1622)記 ⑤寫本(龍大、研史)(徳川時代寫(寶善提院))

高野山圖 ①(日)Ko-ya-san-zu. ②一冊 ③存 ④周傳(一元治頃A.D. 1864—)記 ⑤寫本(金剛三昧院)

高野山圖繪 ①(日)Ko-ya-san-zu-e. ②一冊 ③存 ④淺井公英畫 ⑤(谷大、餘大・三八五二)

高野山千百年史 ①(日)Ko-ya-san-sen-hyakun-nen-shi. ②一冊 ③存 ④金剛峯寺記念大法會事務局編 ⑤大正三刊 ⑥(正大、一四一・一七)(高六、一・二二二)(京專)(龍大、二九七・二九)(谷大、餘洋・四四六)

高野山全圖 ①(日)Ko-ya-san-zen-zu. ②一冊 ③存 ④伊藤龍山畫 ⑤安政四刊 ⑥(谷大、餘大・一九三七)

高野山大閣秀吉公御朱印並知

行寫目錄 ①(日)Ko-ya-san-tai-ko-hide-yoshi-ko-go-shu-in-arabishi-chi-ryo-nishashi-moku-roku. ②一冊 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(寶龜院)

高野山大傳法院御作目錄 ①(日)Ko-ya-san-dai-den-ho-in-go-jo-saku-moku-roku. ②存 ④弘法大師全集第一五附錄

⑤高野山大傳法院興教大師の集めたる弘法大師の御作目錄の意なるを、文字が略されたる故、興教大師の著作目錄の如く誤解せらるゝのである。興教大師は保延三年並に四年に求開持法を修し、眞言宗の總ての經論を書寫せんことを立願せられたるのみならず、弘法大師の著作目錄を作られたるも、故、弘法大師の著作目錄を作られたるも、其の目錄に四種類ある中の一本である。奥書に、承安五年二月十八日とある。此の年號は興教大師滅後二十四年目であるが、後人書寫せる時に記入する所か其の點が不明である。(富田義純)

高野山大傳法院本願靈瑞並寺家緣起 ①(日)Ko-ya-san-dai-den-ko-in-hon-gwan-rei-zai-narabishi-ji-ken-en-gi. ②一冊 ③存 ④覺滿撰 ⑤寫本(金剛三昧院)

高野山大塔供養記 ①(日)Ko-ya-san-dai-to-ku-kyo-ki. ②一冊 ③存 ④安永三寫 ⑤(寶善提院)

高野山大塔興廢記 ①(日)Ko-ya-san-dai-to-kyo-hai-ki. ②一冊 ③存 ④楠玉譜(文政元一明治三二A.D. 1818—

高野山塔頭記 ①(日)Ko-ya-san-tac-to-ki. ②一冊 ③存 ④(参考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

高野山壇上修法 ①(日)Ko-ya-san-dan-jō-shū-hō. ②一冊 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(寶龜院)

高野山中院明算阿闍梨流 ①(日)Ko-ya-san-chū-in-myō-san-ā-jarī-ryū. ②一冊 ③存 ④享保二寫 ⑤(寶善提院)

高野山中院流 ①(日)Ko-ya-san-chū-in-ryū. ②一冊 ③存 ⑤寫本(金剛三昧院)

高野山中院流聖教目錄 ①(日)Ko-ya-san-chū-in-ryū-sei-kyō-moku-roku. ②一冊 ③存 ④眞源(元祿一一寶曆八A.D. 1699—1758)編 ⑤延寶三寫(高六、一・六一)(寶曆七寫(金剛三昧院))

高野山中興記 ①(日)Ko-ya-san-chū-in-kyō-ki. ②一冊 ③存 ④(参考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

高野山中絶記 ①(日)Ko-ya-san-chū-in-zetsu-ki. ②一冊 ③存 ④眞實(正慶一一應永五A.D. 1333—1398)撰 ⑥(参考) 大日本佛教全書續刊豫定書目

高野山陳列圖書目錄 ①(日)Ko-ya-san-chin-ryū-to-shū-moku-roku. ②一冊 ③存 ④大正一〇刊 ⑤(正大、一〇・一一一)

高野山通念集 ①(日)Ko-ya-san-tōnen-shū. ②一冊 ③存 ④一無軒道

名所行録 (名庫書) 著者所現 月年の刊寫 (書考多書釋註) 書本 説解管内 代年作者 著者 缺存 數色 (名書) 名題 號略字數

【一】

治(一延寶八A.D.1680)編 ①(帝國)1
〇六・四六(高大・寄・一・五五)
高野山傳法院座主次第 ①(日)Kō-ya-san-denn-bō-in-za-su-shū-dai. ①
1巻 ②存 ③(参考) 大日本佛教全書續
刊決定書目

高野山度々訴狀 ①(日)Kō-yo-
san-do-do-ō-ō-ō. ①1紙 ②存 ③徳川
時代寫 ④(寶龜院)

高野山並東寺記 ①(日)Kō-ya-san-
nara-shū-ō-ji-ki. ①1巻 ②存 ③文化
13寫 ④(谷大・餘大・二九八四)

高野山二十一勝記 ①(日)Kō-ya-
san-ni-ji-shō-ki. ①1冊 ②存 ③増
隆(文政六一明治二六A.D.1823-1893)撰
④明治一四刊 ⑤(高大・寄・一・五五)

高野山事 ①(日)Kō-ya-san-no-ko-
no. ①1冊 ②存 ③寫本(金剛三昧院)

高野山の傳説 ①(日)Kō-ya-san-
no-densetsu. ①神祕の靈峯高野山の傳説
②1冊 ③存 ④水原堯榮著 ⑤昭和三刊

高野山小補書 ①(日)Kō-ya-san-no-
ki. ①1軸 ②存 ③足利時代寫 ④(寶
龜院)

高野山秘記 ①(日)Kō-ya-san-hi-
ki. ①1巻 ②存 ③慶安二寫(谷大・餘
大・二九六三)徳川時代寫(金剛三昧院)

高野山秘記 ①(日)Kō-ya-san-
hi-mitsu-ki. ①1帖 ②存 ③足利時代寫
④(寶龜院)

高野山獨案内 ①(日)Kō-ya-san-
hitori-nan. ①1巻 ②存 ③松山岩松
編 ④明治三二刊 ⑤(帝國)八二・八九)

高野山獨案内名靈集 ①(日)Kō-
ya-san-hitori-nan-nami-yō-rei-shū. ①
1巻 ②存 ③津田實英編 ④明治三〇刊
⑤(帝國)七六・一五四)

高野山文化史 ①(日)Kō-ya-san
bun-kwa-shi. ①1冊 ②存 ③中田法善
編 ④大正一三刊 ⑤(高大・一・二二)

高野山南谷成蓮院記 ①(日)Kō-
ya-san-minami-dani-jō-rens-in-ki. ①
1巻 ②存 ③(参考) 大日本佛教全書續刊
決定書目

高野山明神御託宣之事 ①(日)Kō-
ya-san-myō-shin-go-taku-sen-no-ko-
to. ①1紙 ②存 ③足利時代寫 ④(寶
龜院)

高野山名所圖繪 ①(日)Kō-ya-san-
mei-sho-e. ①1巻 ②存 ③各宗本山
名所圖繪之内 ④石倉重編 ⑤明治三七
刊 ⑥(龍大・二九七二)(立大・B・一六・
九三)(京大・二二二・四)(帝國)七八・一
六) ⑦東京博文館

高野山靈寶輯 ①(日)Kō-ya-san-
rei-hō-shū. ①1巻 ②存 ③藤村密隆編
④大正一〇寫 ⑤(立大・D・七二・五) ⑥高
野金剛峯寺

高野參詣日記 ①(日)Kō-ya-san-
kei-ki. ①1巻 ②存 ③國文東方佛教
叢書第七・群書類從第一・三條西實隆
撰 ④正元一天文六A.D.1435-1437)記
⑤(實隆公成年の四月、住吉天王寺へ詣る) ⑥

き志を發し、同月十九日伏見より船に乗
り、大阪へ出で、更に二十二日高野參詣の
ことを思ひ立ち、宗廟といふものをしる
べと頼み、さの(佐野)殿より、大鳥の社、
信田(シノダ)野社を過ぎ根來(參り、二十
三日更に粉川寺を過ぎて紀の川を渡り、高
野山へ登り、二十四日草鞋を着けて諸堂を
巡禮した。大塔には「柱とも立、心柱な
どきりて、造作のあらまじどもなり」と記
してあるから、造作中であつたらしい。
「金堂はかたの如く取立たるさまなるに三
結の松も昔のは焼て、その種おひとていし
垣廻らしたるを見て」と記する故、前年焼
失して、未だ復興完成してゐなかつたもの
らしい。

二十五日
高野山この晩の月だにも待てる程ぞひ
さしかりける
その帯山中の宿坊一心院の奥坊へは
思ひいりし一心のおくををきて歸らん座
の世をいかにせん
といふ歌を残して下山した。猶下山後の文
章少々あれど高野參詣の記は上述の如くに
して終つてゐる。根來寺へ參詣し、開祖覺
上人の詠歌に
夢のうちは夢も現も夢なればさめなば夢
も現とをしれ
と、さる句を思ひ出して詠んだ歌に
うづまめむらうもしらす七十のけふだ
に同じ夢の世の中
とあり。七十の傍註に「大永三」と記す故、
今の日記は大約此の頃のものであらう。國

文東方佛教叢書には解題に大永四年と記
す。何れにせよ永正十八年に高野山は大火
したのであるから、焼失後三年若くは四年
となり、大塔金堂の模倣も推察することが
出来、今の日記も一層興味深く思はる。
(高野山焼失記参照) (天野親明)

高野住山開書 ①(日)Kō-ya-jō-san-
ki-gaki. ①1帖 ②存 ③寫本(金剛
三昧院)

高野春秋 ①(日)Kō-ya-shū-ka. 高
野春秋編年輯録 ②18巻 ③存 ④大日本
佛教全書第一三一 ⑤(懷英)寛永一九一享
保二二A.D.1642-1727)編 ⑥(元祿七
享保四A.D.1694-1719) ⑦(正大一四
一・一六)

高野春秋編年輯録 ①(日)Kō-ya-
shū-ka-hen-nen-shū-ō-ku. 高野春秋
十八巻 ②存 ③大日本佛教全書第一三一
④(懷英)寛永一九一享保二二A.D.1642-
1727)編 ⑤(元祿七享保四A.D.1694-
1719)

⑥弘仁七年弘法大師高野山開創以來本年に
及びて約一千二百年、その間時に興廢あ
つたことは免れないけれど、残る所の文獻
古文書類は夥しい。特に本書の編せられた
時代は一層高野山ものがあつたと想像せら
る。それらの中より幾多の資料記録類を、
編年體に輯録し、一山の歴史を明にしたも
のが本書である。高野山の歴史は古くし
て、然も未だかゝる総合的な歴史書を有せ
ざる時に當り懷英が敢て本書を編纂した勞
苦は多とすべきである。勿論かゝる事業に

名所行録(名庫書)諸堂所撰 月年の刊寫(書考多書釋註)書本 説解存内 代年作者 著者 録存 巻巻(名書)名題 號鳴字數

【二】

材料の取捨、年次の前後等史家の満足し得
られないものもあるは免れなうことにし
て、本書にも亦かゝる缺點が存すること
であらう。されど元祿の時代一山住侶の一人
としての著者が、苦心の編纂といふことに
於いて何人もこれを手にして感謝せざる者
はないであらう。

古來高野山には學侶・行人・非事史(ヒヂ
リ)といふ三派あり。本書に錄する所は主
として學侶の事歴であるといふ點あ
らんと、上記の意味に於いて珍重すべき高
野山史の一大堆積である。

①寫本(龍大・二九七四・五三)(谷大・餘大・
一七三三)(高大・寄・一・五五) (天野親明)

高野諸作法集 ①(日)Kō-ya-shō-
sa-hō-shū. ②1巻 ③存 ④寫本(谷大・
餘小・四九)

高野心南院中院 ①(日)Kō-ya-
shin-nan-in-chū-in. ①1巻 ②存 ③
仁然(曆仁元一文保二A.D.1238-1318)
寫本(金剛三昧院)

高野奏狀 ①(日)Kō-ya-sō-jō. ②覺
慶(嘉保二一康治二A.D.1093-1143)撰
③(参考) 諸宗章疏錄第三

高野贈大僧正遺戒 ①(日)Kō-ya-
sō-dai-sō-jō-ai-kan. ①1軸 ②存 ③足利時
代寫 ④(寶龜院)

高野贈大僧正傳 ①(日)Kō-ya-sō-
dai-sō-jō-den. 空海僧都傳 ②1巻 ③
存 ④群書類從第八・史籍集覽第一二一 ⑤眞
濟(延暦一九一貞觀二A.D.793-869)撰
⑥空海僧都傳の下を見よ ⑦(正徳六刊) ⑧

hitori-nan. ①1巻 ②存 ③松山岩松
編 ④明治三二刊 ⑤(帝國)八二・八九)

高野山獨案内名靈集 ①(日)Kō-
ya-san-hitori-nan-nami-yō-rei-shū. ①
1巻 ②存 ③津田實英編 ④明治三〇刊
⑤(帝國)七六・一五四)

高野山文化史 ①(日)Kō-ya-san
bun-kwa-shi. ①1冊 ②存 ③中田法善
編 ④大正一三刊 ⑤(高大・一・二二)

高野山南谷成蓮院記 ①(日)Kō-
ya-san-minami-dani-jō-rens-in-ki. ①
1巻 ②存 ③(参考) 大日本佛教全書續刊
決定書目

高野山明神御託宣之事 ①(日)Kō-
ya-san-myō-shin-go-taku-sen-no-ko-
to. ①1紙 ②存 ③足利時代寫 ④(寶
龜院)

高野山名所圖繪 ①(日)Kō-ya-san-
mei-sho-e. ①1巻 ②存 ③各宗本山
名所圖繪之内 ④石倉重編 ⑤明治三七
刊 ⑥(龍大・二九七二)(立大・B・一六・
九三)(京大・二二二・四)(帝國)七八・一
六) ⑦東京博文館

高野山靈寶輯 ①(日)Kō-ya-san-
rei-hō-shū. ①1巻 ②存 ③藤村密隆編
④大正一〇寫 ⑤(立大・D・七二・五) ⑥高
野金剛峯寺

高野參詣日記 ①(日)Kō-ya-san-
kei-ki. ①1巻 ②存 ③國文東方佛教
叢書第七・群書類從第一・三條西實隆
撰 ④正元一天文六A.D.1435-1437)記
⑤(實隆公成年の四月、住吉天王寺へ詣る) ⑥

(正大・一四一・五六)(谷大・餘大・五七九)

高野大師行狀記 ①(日)Kō-ya-dai-
shū-gyō-ki. ②4巻 ③存 ④天文一
二寫 ⑤(高大・寄・一・五五)(寶龜院)

高野大師行狀圖繪 ①(日)Kō-ya-
dai-shū-gyō-e. ②10巻或六巻 ③存

⑦弘法大師の行狀圖繪にして、高野山地蔵
院所藏六巻本は、國寶として指定されてゐ
る。

⑧徳川中期版(寶壽院)永享五刊(寶龜院)
(立大・A・二〇・一四六)(高大・寄・一・五五)
(高野山地蔵院)

高野大師御繪詞執筆人々
①(日)Kō-ya-dai-shū-gō-ji-shū-pen-
no-ho-bito. ②1帖 ③存 ④寫本(高
大・寄・一・五五)

高野大師御廣傳 ①(日)Kō-ya-
dai-shū-go-kō-den. 高野大師御廣傳
②2巻 ③存 ④群書類從第八傳部第一
⑤(永保三久安三A.D.1083-1147)
撰 ⑥本書は同部に載められた空海僧都傳、
贈大僧正空海和上傳記、大師御行狀集記、
弘法大師御傳、弘法大師行化記等のうち
で、最も博搜旁引完全を期した點が窺はれ
るもので、大師の滅後二百八十六年撰集さ
れ、大師傳中の權威のあるものとされてゐ
る。記事は漢文、傳記型に始終し、上巻に
は出生、家系、出家、改名、受戒等を順を
逐ひて記し、延暦年間入唐遊學中の事跡、
書簡、詩文等を載せ、歸朝の際贈られた

る後地道俗の差別法を録し、歸朝後請來經
卷、圖繪、用具等の遊戯目録及表、法帖、
用筆、雜書の遊戯に付したる表文、弘仁四
年の遺説、高野山開創の緣由年歴、上表、
結果啓白、御製詩文、讚岐濠洲池の築造
の表、四恩の爲め二部大曼荼羅製作の願
文、藤中納言の爲めに十七尊を造る願文を
掲げ、大師の行化の記事を進め、天皇、上
皇の入壇灌頂ありしこと、天皇より輪百屯
に副へて賜はりし時、大師謝恩の時を奉り
しこと、東寺に僧五十口給せらるゝ旨を
奉ぐ。下巻には東大寺に於ける供養三寶の
願文、神泉苑の新開、少僧都を辭する表を
掲げ、和氣眞綱が神護寺を建立して大師に
付することより、仁王經公修の表、大利益
田池神鏡、大極殿祈雨の願文、綜藝種智院
式、元興寺の護命僧正の八十壽賀詩、高野山
萬燈會の願文等を撰ぎ、承和元年五月重ね
て遺戒文をつくり、同年高野山佛塔建立の
勳進文を起草、同二年毎年三僧を度するを
許され、高野山を定額寺とすること、同年
三月十五日豫め二十一日に入定の事を告
げ、神護寺、東寺、弘福寺、大安寺をそれ
ら弟子に付属し、遺告二十五條を製し門
徒に遺し、二十一日精進狀座し大日の定印
を結んで入定され、朝廷にては痛惜された
事、上皇より給はりし御製を掲げ、門弟實
惠の謝恩狀、追諡、贈位等の旨を載せ、
生前の行化、奇跡等を記し、著者目録、門
下の高尼の名を列し、最後に入定後の奇特
を諸記録より採用して結んでゐる。
(中谷在綱)

高野壇上入堂次第等 ①(日)Kō-
ya-dan-jō-nyū-dō-shū-dai-tō. ①1冊 ②
存 ③(寶善院)

高野中院流 ①(日)Kō-ya-chū-in-
ryū. 高野山中院流 ①1冊 ②存 ③應
永二一寫 ④(金剛三昧院)

高野中院流他不見集 ①(日)Kō-
ya-chū-in-ryū-ta-fuken-shū. ①1巻 ②
存 ③足利時代寫 ④(寶龜院)

高野二萬千石之知行支配之覺
①(日)Kō-ya-ni-man-sen-goku-no-chi-
gyō-shū-hai-ō-hō. ①1紙 ②存 ③
徳川時代寫 ④(寶龜院)

高野日記 ①(日)Kō-ya-ni-ki. ②
1巻 ③存 ④國文東方佛教叢書第七、續
群書類從第一八 ⑤(順阿(正安三一元中元
A.D.1301-1384)記)

⑥本書は順阿の高野參詣日記である。今書
の著作年代、順阿の高野參詣せし年次、共
に詳にするを得ないけれど、その内容は假
名書にして、甚だ文學趣味に富んだもので
ある。即ち高野參詣の朝り僧綱元(會し、
案内されてその日の一夜を綱元の庵に宿る
こととなり、西行法師の著述なる山家集の
美事なる寫本、隆信朝臣の大原の圖六巻、
實信朝臣のみなせ殿の四季の四巻などを觀
賞し、海象といふ七十ばかりの老僧より、
弘法大師いろは歌製作の由来を聞き、いろ
は四十八文字を冠にきたる四十八首の歌
を出し、大師の影前にそなへた。前後讀に
興味多き文章を綴つてゐる。
みやこもたびのきはぎに、世のほか

名所行録(名庫書)諸堂所撰 月年の刊寫(書考多書釋註)書本 説解存内 代年作者 著者 録存 巻巻(名書)名題 號鳴字數

【コ】

になりゆきて、かゝる御もてなし、すて人の身のうへには、めづらしう侍る。とて、一夜を過ぎた綱元の厚遇を謝してゐるのである。(天野聖明)

高野入定作法 ①(日) Kō-yano-ryō-shū. ①巻 ②(参考) 講宗宗疏第三

高野のしをり ①(日) Kō-yano-shi-ori. ④巻 ②存 ③井本眞琴編 ④(京車)

高野のしをり ①(日) Kō-yano-shi-ori. 高野山名跡考 ②一卷 ③存 ④井村米太郎著 ⑤明治二八刊 ⑥(帝國、一八・六一三、六八・三八八)

高野板展覽目録 ①(日) Kō-yan-ban-ten-ran-moku-roku. ①巻 ②存 ③大阪府立図書館編 ④昭和四刊 ⑤(高六・一・五〇)

高野版の研究 ①(日) Kō-yan-ban-ken-kyū. ①巻 ②存 ③水原堯榮著 ④大正一〇刊 ⑤(龍大、二五・二・七) (立大、B一八・三九)(高六、一・五九) ⑥東京上校書洞

高野の秘事 ①(日) Kō-yan-hi-ji. ①帖 ②存 ③道鏡(元暦元一建長四 A. D. 1181—1252) ④(説建長四、年七五) ⑤撰鎌倉時代寫 ⑥(寶龜院)

高野道の記 ①(日) Kō-yan-michi-no-ki. ①存、國文東方佛敎叢書第七 ②(日) Kō-rai-koku-shin-chō-dai-zō-kō-shū

高麗國新羅大藏校正別錄 ①(日) Kō-rai-koku-shin-chō-dai-zō-kō-shū

高麗大藏經目錄 ①(日) Kō-rai-dai-zō-moku-roku. (支) Kō-i-ta-tsang-ching-mu-tu. ②五巻 ③存 ④高麗守其編 ⑤(参考) 朝鮮佛敎總書刊行豫定書目

高麗大藏經印刷願末 ①(日) Kō-rai-dai-zō-moku-roku. (支) Kō-i-ta-tsang-mu-tu. 高麗大藏經印刷願末 ②一卷 ③存 ④森田慈航編 ⑤大正一二刊 ⑥(京大、一・二二・六)

高麗大藏目錄 ①(日) Kō-rai-dai-zō-moku-roku. ③巻 ④存、昭和法寶總目錄第二 ⑤大藏目錄の下を見よ。 ⑥(参考) 淨土真宗敎典第三 ⑦寛文一九刊 ⑧(龍大、研佛)(谷大、餘大・三五九三、餘大、八四三)

倣然受報集 ①(日) Kō-neen-jū-shū. ②二巻 ③存 ④普寧編 ⑤正徳四刊 ⑥(谷大、餘大・一二三三)(龍大、二〇九九・四九)(高六、一・二四)

國府尼御前御書 ①(日) Kō-no-amura-go-ze-go-shū. ①存、日蓮聖人御遺文之内、原文對照口語譯日蓮聖人全集第五 ②日蓮(貞應元一弘安五 A. D. 1222—1292) ③(建治元(A. D. 1275) ④原本(佐渡妙宣寺)

國府入道への御書 ①(日) Kō-no-nyō-dō-e-no-go-shū. ②三巻 ③存、日蓮聖人御遺文之内、原文對照口語譯日蓮聖人全集第五 ②日蓮(貞應元一弘安五 A. D. 1222—1292) ③(建治元(A. D. 1275) ④原本(佐渡妙宣寺)

黃泉無着和尚語錄 ①(日) Kō-son-an-ni-jaku-no-shō-go-roku. ①存 ②黃泉無着(一文化文政頃 A. D. 1801—1839) ③(馬田行啓) ④寫本(龍大)

黃林拾葉 ①(日) Kō-rin-shū-yō. ②五巻 ③存 ④寫本(龍大、別設)

黃蘆園經 ①(日) Kō-ro-on-kyō. (支) Huang-lu-yuan-ching. (日) A. V. II. 11 Verajña. ①存、中阿含經第四〇(大正一、四二一 No. 26, 137)

ある場合に、他の藏經の正文を以て補正し、又重複せる箇所ある場合には、各藏の比較上それを正しき原型に復せしめ、或は名を異にして内容同一なるもの、轉寫の際に前後を轉倒せる如きものは、各藏間の對照に依て其等を訂正し、その内容の完璧なるものは、この高麗國新羅大藏校正別錄なる理由を示せるものであつて、決定尼尼經、須摩提經、大集經等を初めとして、佛名經に至る六十の聖典に關し、各藏間の記載の異同を示し、現藏がその何れに依たかを示して居るものである。本書の價値は破開集に本書の編纂者たる守其の功績を稱へ、「開泰寺僧統守、其學博識精、奉勸勸大藏經、正諸如素所親譯」と云へる如き確かによく當つて居るものであらう。

高麗國普照禪師修心訣 ①(日) Kō-rai-koku-ū-shi-zen-jishū-shū-ke-ssu. (支) Kō-i-ta-ku-pū-chiao-ch'ian-shih-shū-shin-ch'ieh. 普照禪師修心訣、修心訣 ①一卷 ②存、大正四八・一〇〇五 No. 3020 ③(龍大、一〇・二一八・五、明北 1512) ④(清 1623) ⑤(譯 1618) ⑥(譯 1618) ⑦(譯 1618) ⑧(譯 1618) ⑨(譯 1618) ⑩(譯 1618) ⑪(譯 1618) ⑫(譯 1618) ⑬(譯 1618) ⑭(譯 1618) ⑮(譯 1618) ⑯(譯 1618) ⑰(譯 1618) ⑱(譯 1618) ⑲(譯 1618) ⑳(譯 1618) ㉑(譯 1618) ㉒(譯 1618) ㉓(譯 1618) ㉔(譯 1618) ㉕(譯 1618) ㉖(譯 1618) ㉗(譯 1618) ㉘(譯 1618) ㉙(譯 1618) ㉚(譯 1618) ㉛(譯 1618) ㉜(譯 1618) ㉝(譯 1618) ㉞(譯 1618) ㉟(譯 1618) ㊱(譯 1618) ㊲(譯 1618) ㊳(譯 1618) ㊴(譯 1618) ㊵(譯 1618) ㊶(譯 1618) ㊷(譯 1618) ㊸(譯 1618) ㊹(譯 1618) ㊺(譯 1618) ㊻(譯 1618) ㊼(譯 1618) ㊽(譯 1618) ㊾(譯 1618) ㊿(譯 1618)

高麗新羅大藏校正別錄 ①(日) Kō-rai-shin-chō-dai-zō-kō-shū-hetsu-tōku. (支) Kō-i-ta-hsin-taō-ta-tsang-ch'ian-ching-pieh-tu. 高麗國新羅大藏校正別錄 ②三十巻 ③存、龍結九一〇(高麗守其等校勘) ④高麗即位三三八(A. D. 1250) ⑤寫本(谷大、長保二・三六)

高麗大藏經印刷願末 ①(日) Kō-rai-dai-zō-moku-roku. ①巻 ②存 ③森田慈航編 ④大正一二刊 ⑤(京大、一・二二・六)

高麗大藏目錄 ①(日) Kō-rai-dai-zō-moku-roku. ③巻 ④存、昭和法寶總目錄第二 ⑤大藏目錄の下を見よ。 ⑥(参考) 淨土真宗敎典第三 ⑦寛文一九刊 ⑧(龍大、研佛)(谷大、餘大・三五九三、餘大、八四三)

倣然受報集 ①(日) Kō-neen-jū-shū. ②二巻 ③存 ④普寧編 ⑤正徳四刊 ⑥(谷大、餘大・一二三三)(龍大、二〇九九・四九)(高六、一・二四)

國府尼御前御書 ①(日) Kō-no-amura-go-ze-go-shū. ①存、日蓮聖人御遺文之内、原文對照口語譯日蓮聖人全集第五 ②日蓮(貞應元一弘安五 A. D. 1222—1292) ③(建治元(A. D. 1275) ④原本(佐渡妙宣寺)

國府入道への御書 ①(日) Kō-no-nyō-dō-e-no-go-shū. ②三巻 ③存、日蓮聖人御遺文之内、原文對照口語譯日蓮聖人全集第五 ②日蓮(貞應元一弘安五 A. D. 1222—1292) ③(建治元(A. D. 1275) ④原本(佐渡妙宣寺)

黃泉無着和尚語錄 ①(日) Kō-son-an-ni-jaku-no-shō-go-roku. ①存 ②黃泉無着(一文化文政頃 A. D. 1801—1839) ③(馬田行啓) ④寫本(龍大)

黃林拾葉 ①(日) Kō-rin-shū-yō. ②五巻 ③存 ④寫本(龍大、別設)

黃蘆園經 ①(日) Kō-ro-on-kyō. (支) Huang-lu-yuan-ching. (日) A. V. II. 11 Verajña. ①存、中阿含經第四〇(大正一、四二一 No. 26, 137)

二十六年(A. D. 1598)本等の刊本がある。本書に於て述ぶる所は修心の要訣を説いたもので、三界輪廻の苦惱を脱せんと欲せば佛を求むるに若くは莫く、佛とは即ち心である。自心即ち眞佛であり自性は眞法である。過現の諸佛賢聖は皆な是れ明心修心底の人である。學人もこの修心の法に據らねばならぬ。修心の要は千聖の軌範たる頓悟漸修の二門あるのみである。亦、空寂靈知の心を稱して清淨の心體と名づけ、衆生の本源覺性と稱して三世諸佛の勝淨明心と云ふのである。此の空寂靈知の心は自性上の體用に當る。定は體、慧は用。體用不離の故に常知常寂である。即ち定慧を雙修し然る後に對治の功を用ふべきであると説き、身命剝露の如き無常の世に人身一たび失ひては萬劫にも逢ひ難きが故に實山に入りて空手にして還るの悔を残すなと警誡したものである。(大久保堅瑞)

高麗新羅大藏校正別錄 ①(日) Kō-rai-shin-chō-dai-zō-kō-shū-hetsu-tōku. (支) Kō-i-ta-hsin-taō-ta-tsang-ch'ian-ching-pieh-tu. 高麗國新羅大藏校正別錄 ②三十巻 ③存、龍結九一〇(高麗守其等校勘) ④高麗即位三三八(A. D. 1250) ⑤寫本(谷大、長保二・三六)

高麗大藏經印刷願末 ①(日) Kō-rai-dai-zō-moku-roku. ①巻 ②存 ③森田慈航編 ④大正一二刊 ⑤(京大、一・二二・六)

高麗大藏目錄 ①(日) Kō-rai-dai-zō-moku-roku. ③巻 ④存、昭和法寶總目錄第二 ⑤大藏目錄の下を見よ。 ⑥(参考) 淨土真宗敎典第三 ⑦寛文一九刊 ⑧(龍大、研佛)(谷大、餘大・三五九三、餘大、八四三)

倣然受報集 ①(日) Kō-neen-jū-shū. ②二巻 ③存 ④普寧編 ⑤正徳四刊 ⑥(谷大、餘大・一二三三)(龍大、二〇九九・四九)(高六、一・二四)

國府尼御前御書 ①(日) Kō-no-amura-go-ze-go-shū. ①存、日蓮聖人御遺文之内、原文對照口語譯日蓮聖人全集第五 ②日蓮(貞應元一弘安五 A. D. 1222—1292) ③(建治元(A. D. 1275) ④原本(佐渡妙宣寺)

國府入道への御書 ①(日) Kō-no-nyō-dō-e-no-go-shū. ②三巻 ③存、日蓮聖人御遺文之内、原文對照口語譯日蓮聖人全集第五 ②日蓮(貞應元一弘安五 A. D. 1222—1292) ③(建治元(A. D. 1275) ④原本(佐渡妙宣寺)

黃泉無着和尚語錄 ①(日) Kō-son-an-ni-jaku-no-shō-go-roku. ①存 ②黃泉無着(一文化文政頃 A. D. 1801—1839) ③(馬田行啓) ④寫本(龍大)

黃林拾葉 ①(日) Kō-rin-shū-yō. ②五巻 ③存 ④寫本(龍大、別設)

黃蘆園經 ①(日) Kō-ro-on-kyō. (支) Huang-lu-yuan-ching. (日) A. V. II. 11 Verajña. ①存、中阿含經第四〇(大正一、四二一 No. 26, 137)

【コ】

になりゆきて、かゝる御もてなし、すて人の身のうへには、めづらしう侍る。とて、一夜を過ぎた綱元の厚遇を謝してゐるのである。(天野聖明)

高野入定作法 ①(日) Kō-yano-ryō-shū. ①巻 ②(参考) 講宗宗疏第三

高野のしをり ①(日) Kō-yano-shi-ori. ④巻 ②存 ③井本眞琴編 ④(京車)

高野のしをり ①(日) Kō-yano-shi-ori. 高野山名跡考 ②一卷 ③存 ④井村米太郎著 ⑤明治二八刊 ⑥(帝國、一八・六一三、六八・三八八)

高野板展覽目録 ①(日) Kō-yan-ban-ten-ran-moku-roku. ①巻 ②存 ③大阪府立図書館編 ④昭和四刊 ⑤(高六・一・五〇)

高野版の研究 ①(日) Kō-yan-ban-ken-kyū. ①巻 ②存 ③水原堯榮著 ④大正一〇刊 ⑤(龍大、二五・二・七) (立大、B一八・三九)(高六、一・五九) ⑥東京上校書洞

高麗大藏經目錄 ①(日) Kō-rai-dai-zō-moku-roku. (支) Kō-i-ta-tsang-ching-mu-tu. ②五巻 ③存 ④高麗守其編 ⑤(参考) 朝鮮佛敎總書刊行豫定書目

高麗大藏經印刷願末 ①(日) Kō-rai-dai-zō-moku-roku. (支) Kō-i-ta-tsang-mu-tu. 高麗大藏經印刷願末 ②一卷 ③存 ④森田慈航編 ⑤大正一二刊 ⑥(京大、一・二二・六)

高麗大藏目錄 ①(日) Kō-rai-dai-zō-moku-roku. ③巻 ④存、昭和法寶總目錄第二 ⑤大藏目錄の下を見よ。 ⑥(参考) 淨土真宗敎典第三 ⑦寛文一九刊 ⑧(龍大、研佛)(谷大、餘大・三五九三、餘大、八四三)

倣然受報集 ①(日) Kō-neen-jū-shū. ②二巻 ③存 ④普寧編 ⑤正徳四刊 ⑥(谷大、餘大・一二三三)(龍大、二〇九九・四九)(高六、一・二四)

國府尼御前御書 ①(日) Kō-no-amura-go-ze-go-shū. ①存、日蓮聖人御遺文之内、原文對照口語譯日蓮聖人全集第五 ②日蓮(貞應元一弘安五 A. D. 1222—1292) ③(建治元(A. D. 1275) ④原本(佐渡妙宣寺)

國府入道への御書 ①(日) Kō-no-nyō-dō-e-no-go-shū. ②三巻 ③存、日蓮聖人御遺文之内、原文對照口語譯日蓮聖人全集第五 ②日蓮(貞應元一弘安五 A. D. 1222—1292) ③(建治元(A. D. 1275) ④原本(佐渡妙宣寺)

黃泉無着和尚語錄 ①(日) Kō-son-an-ni-jaku-no-shō-go-roku. ①存 ②黃泉無着(一文化文政頃 A. D. 1801—1839) ③(馬田行啓) ④寫本(龍大)

黃林拾葉 ①(日) Kō-rin-shū-yō. ②五巻 ③存 ④寫本(龍大、別設)

黃蘆園經 ①(日) Kō-ro-on-kyō. (支) Huang-lu-yuan-ching. (日) A. V. II. 11 Verajña. ①存、中阿含經第四〇(大正一、四二一 No. 26, 137)

高麗國新羅大藏校正別錄 ①(日) Kō-rai-koku-shin-chō-dai-zō-kō-shū

高麗大藏經印刷願末 ①(日) Kō-rai-dai-zō-moku-roku. ①巻 ②存 ③森田慈航編 ④大正一二刊 ⑤(京大、一・二二・六)

高麗大藏目錄 ①(日) Kō-rai-dai-zō-moku-roku. ③巻 ④存、昭和法寶總目錄第二 ⑤大藏目錄の下を見よ。 ⑥(参考) 淨土真宗敎典第三 ⑦寛文一九刊 ⑧(龍大、研佛)(谷大、餘大・三五九三、餘大、八四三)

ある、恐らく何部派かの所傳の中阿含經の一編であつたものであり、從つてこれらしても經典が種々の部派に種々に傳授せられたことを示す好例の一例になるものである。舍利弗説法の内容は、(一)聖法證得の十二種の法、(二)聽法の用意十六種、(三)般若成熟の十種の法、(四)如法行の十種、(五)不淨想障の十四法、(六)無常想障の六法、(七)光明想障の十一法等、種々の觀法觀想の障礙を示し、(八)不淨觀を修むるに就て助けとなる十四法等、その他種々斯くの如き修道の用意に就いて細密に教へたものである。

〔参考〕三寶記第九、内典錄第五、譯經圖記第四、開元錄第七、貞元錄第一〇 (赤沼智賢著)

廣義法門經 (日) Kō-gi-hō-mon-kyō (支) Kuang-tai-an-hing. ① 卷一 ② 卷二 ③ 卷三 ④ 卷四 ⑤ 卷五 ⑥ 卷六 ⑦ 卷七 ⑧ 卷八 ⑨ 卷九 ⑩ 卷十 ⑪ 卷十一 ⑫ 卷十二 ⑬ 卷十三 ⑭ 卷十四 ⑮ 卷十五 ⑯ 卷十六 ⑰ 卷十七 ⑱ 卷十八 ⑲ 卷十九 ⑳ 卷二十

廣弘明集 (日) Kō-kō-myō-shū (支) Kuang-hung-ming-shi. ① 卷一 ② 卷二 ③ 卷三 ④ 卷四 ⑤ 卷五 ⑥ 卷六 ⑦ 卷七 ⑧ 卷八 ⑨ 卷九 ⑩ 卷十 ⑪ 卷十一 ⑫ 卷十二 ⑬ 卷十三 ⑭ 卷十四 ⑮ 卷十五 ⑯ 卷十六 ⑰ 卷十七 ⑱ 卷十八 ⑲ 卷十九 ⑳ 卷二十

廣疑瑞決集 (日) Kō-gi-sui-ketsu-shū. ① 卷一 ② 卷二 ③ 卷三 ④ 卷四 ⑤ 卷五 ⑥ 卷六 ⑦ 卷七 ⑧ 卷八 ⑨ 卷九 ⑩ 卷十 ⑪ 卷十一 ⑫ 卷十二 ⑬ 卷十三 ⑭ 卷十四 ⑮ 卷十五 ⑯ 卷十六 ⑰ 卷十七 ⑱ 卷十八 ⑲ 卷十九 ⑳ 卷二十

1481 ① 道宣(開元一六一)開封二A.D. 595—657)撰 ② 唐德誠元(A.D. 664)

① 道宣には『廣弘明集』の外『續高僧傳』其他著名な著書が多数ある。然も『宋高僧傳』の著者が、道宣をその母の夢に托して聖僧の再生であると記したのは、實に道宣に『廣弘明集』の編著があるが爲である。梁僧祐は弘明教、佛教護持の爲に六朝時代の書記文書を集めて一十四卷となし、『弘明集』と名づけた。道宣は同じ題目に基づき、『弘明集』中に錄せざる六朝諸家の文、並に梁以下唐初に及ぶ迄、凡て弘明護法のものは文書野賦は因より、詔牒の類に至る迄、これを編錄して一十卷となした。即ち『廣弘明』とは、『其法網を弘護し、有識を開明するなり』と。然も僧祐は對論以外には單に佛教家のもののみを收録したの對して道宣は、列子、後漢書、魏書等に至る迄、前記の題目に叶ふ記録は幾つこれを收めた。それのみならず、必要に応じては簡單なる註記をも附し、本本文を適當に抄録する事も忘れて居ない。

内容は目次に示す如く、歸正篇第一以下純歸第十に至る十篇に分ち、道宣自ら各篇冒頭にその序を載せ、その要旨を記し、その目録には僧祐『弘明集』中の文書の各々篇毎に相當するものをも亦分類して擧げて居る。六朝に於けると異つて、隋唐に迄降れば佛教護持の文書は殆ど教學に眼がなしい。その中に就て、特に『弘明』の名に適し、この三武の廢佛と三張の末流、邪惡なる道教者の妄動に關するものである。即ち

廢佛の當事者が、道教を奉じてこれに迷惑せられ、如何に不當な迫害を佛教に加へたか。而して當時の道教會が如何に邪惡なものであつたか。歸正篇の一部と辯惑篇の全部はこれに對へたものであり、辯惑篇第二篇が、全三十卷中、實に十卷を占めて居る。而して歸正篇に收録せらるゝものに就て見れば、南北朝初期の三教調和思想と異つて、佛の超孔超老を明確に指示して居る事を一言記することに止め、他の八篇に就てはその目録の示す所の外特にその解説を除く。唯本集一部が、僧祐『弘明集』の後を受けて唐初に至る間、佛教史上のみならず、道教々理史教會史上の貴重なる資料にして、二教交渉史に關しては、『弘明集』と共に唯一のものたる事を記すれば足る。目次左の如し。(目とあるは目次のみ)

- 〔卷一〕(一)歸正篇
- 1 高太宰開孔子聖人。2 子書中佛爲老師。
- 3 漢宗開佛化法本傳。4 後漢書郊祀志。
- 5 吳主孫權論教佛道三宗。6 宗文帝集朝率論佛教。7 元魏孝明召佛道門人論前後。
- 〔卷二〕
- 8 元魏書釋老志。9 高齊書述佛志。
- 〔卷三〕
- 10 遼書高(江淹)。11 歸心篇(顏之推)。12 七錄序(阮孝緒)。
- 〔卷四〕
- 13 捨事李老道法詔(梁武帝)。14 廢李老道法詔(齊宣帝)。15 通論(彦琮)。
- 〔卷五〕(一)辯惑篇
- 1 辯惑論(曹植)。2 聖賢同軌老非大賢論(孫盛)。
- 3 老子疑問反訊(孫盛)。4 均聖論(沈約)。
- 〔卷六〕
- 5 列代王臣辯惑解。(1)後魏世祖。(2)周世宗。(3)宋世祖。(4)唐高祖。(5)道武帝。(6)蔡謨。(7)顏延之。(8)道安之。(9)周朗。(10)虞翻。(11)張普濟。
- 〔卷七〕
- (12)李琪。(13)劉表。(14)陽街之。
- 〔卷八〕
- (15)梁荀濟。(16)齊章仇子陀。(17)周僧元高。(18)宋劉慧琳。(19)范缜。(20)齊顧歡。(21)魏邢子才。(22)涼高道讓。(23)齊李公緒。(24)隋盧思道。(25)唐傅奕。
- 〔卷九〕
- 6 擊佛焚經坑付詔(魏太武帝)。7 周滅佛法道俗議事(周武帝)。8 二教論(道安)。(歸宗顯本。備道昇降。君爲教主。詰論形神。仙異涅槃。道仙優劣。孔老非佛。釋異道流。服法非老。明典真偽。教旨通局。依法除疑)。
- 〔卷十〕
- 9 笑道論(甄鸞)(證立天地。年號差舛。元爲天人。結土爲人。明五佛並興。五維生尸。觀音特道。佛生西陰。日月周旋。崑崙飛浮。法道天設官。稱南無佛。鳥跡前文。張奕取經。日月普集。大上尊貴。五穀爲命之靈。老子作佛。勸懲崇道。樹木開誠枯以酒助事邪求道。佛邪亂政。樹木開誠枯死。起禮北方爲始。青觀求道。延生符。拈與劫齊。隨劫生死。服丹成金色。偷改佛經爲道經。偷佛經因果。道經未出言出。五位重天。道士出入儀式。道士來佛。道士合氣

法。諸子爲道書

- 〔卷一〇〕
- 10 周禮二教立通道觀詔(周帝宇文邕)。11 周禮平齊召僧叙立抗拒事(惠遠)。12 周禮巡部詢問佛法事(道林)。13 周禮天元立對衛元崇上事(王明廣)。
- 〔卷一一〕
- 14 唐上廢省僧制表(傅奕)。15 唐廢省僧制疏(法琳)。16 唐戒邪論(法琳)。
- 〔卷一二〕
- 17 決對傳度僧事(明賢)。
- 〔卷一三〕
- 18 辯正論十喻九箴(法琳)(十喻篇(答李道士十異論)(九箴篇(答九述論))
- 〔卷一四〕
- 19 內德論(李師政)。(辯惑篇。通命篇。空有篇)
- 〔卷一五〕(二)佛德篇
- 1 佛釋迦文菩薩等像讚(支道林)。2 佛影銘(慧遠)。3 佛法銘(謝靈運)。4 佛記序(沈約)。5 佛像瑞集(釋氏)。6 出古育王塔下佛舍利記(梁武帝)。7 上善提樹頌(梁晉安王綱)。8 唱導文(梁簡文)。9 禮佛發願誓文(王僧孺)。10 懺悔禮佛文(王僧孺)。
- 〔卷一六〕
- 11 初夜文。
- 12 謝述佛法事書啓(梁簡文帝)。13 寺刹佛塔諸銘頌(沈約等)。
- 〔卷一七〕
- 14 隋國立舍利塔詔(隋高祖)。15 舍利感應記(王邵)。16 慶舍利感應表(隋安德王華百官等)。

〔卷一八〕(三)法義篇

- 1 釋疑論(戴安)。2 與遠法師書(戴安)。
- 3 釋疑論(道祖)。4 重與遠法師書(戴安)。
- 5 報應問(何承天)。6 辯宗論諸道人王衛軍問答(謝靈運)。7 述佛法諸深義(姚興與安侯書)。
- 8 析疑論(慧淨)。
- 〔卷一九〕
- 9 內典序(沈約)。10 齊皇太子解講疏(沈約)。
- 11 齊竟陵王發講疏(沈約)。12 齊竟陵王解講疏(沈約)。
- 13 齊荆湘州刺史劉虬書(蕭子良)。
- 14 齊梁州刺史劉虬書(蕭子良)。
- 15 御講疏(沈約)。
- 16 叙御講疏若義疏并問答(蕭子顯)。
- 17 蕭子顯御講疏若義疏(梁皇太子)。
- 〔卷二〇〕
- 18 上大法頌表(梁皇太子)。
- 19 上皇太子玄周講頌啓(晉安王綱)。
- 20 爲亮法師製涅槃經疏序(梁武帝)。
- 21 梁簡文帝法寶齋序(湘東王綱)。
- 22 莊嚴法師成實論義疏序(梁皇太子)。
- 23 內典神銘集林序(梁元帝)。
- 24 釋林妙記集序(支明)。
- 25 法苑珠林序(李儉)。
- 〔卷二一〕
- 26 梁昭明太子答雲法師請開講書三首。27 昭明勸勵水陸如意啓。28 昭明太子解二諦義章。29 南洲寺釋慧超論語二諦義。30 晉安王綱二諦義。31 招提寺釋慧成論二諦義。32 棲玄寺釋宗崇論二諦義。33 中郎王規論二諦義。34 靈根寺釋僧通論二諦義。35 羅平侯蕭正立論二諦義。36 衡山侯蕭恭論二諦義。37 中興寺釋僧懷論二諦義。38 始興王第西男蕭映論二諦義。39 吳平王子蕭勳論二諦義。40 宋熙寺釋慧令論二諦義。41 始

興王第五男蕭暉論二諦義。42 興皇寺釋法宣論二諦義。43 解脫侯蕭暉論二諦義。44 先宅寺釋法雲論二諦義。45 靈根寺釋慧令論二諦義。46 宮中釋慧明論二諦義。47 莊嚴寺釋僧受論二諦義。48 宣武寺釋法雲論二諦義。49 建康寺釋僧慈論二諦義。50 先宅寺釋敬說論二諦義。51 昭明太子解法身義。52 招提寺釋慧成論法身義。53 先宅寺釋法雲論法身義。54 莊嚴寺釋僧受論法身義。55 宣武寺釋法雲論法身義。56 靈根寺釋慧令論法身義。57 靈味寺釋靜安論法身義。58 勸勵道主書看講啓(昭明太子)。

釋智稱行狀。10 釋僧堂行狀(廣義)。11 釋淨秀行狀(沈約)。

- 59 勸勵道主書看講啓(昭明太子)。
- 60 勸勵道主書看講啓(昭明太子)。
- 61 勸勵道主書看講啓(昭明太子)。
- 62 晉安王答廣信侯書述講事。63 晉安王與廣信侯書述內教。64 廣信侯答王心夢。
- 〔卷二二〕
- 65 佛知不異衆生知義(沈約)。
- 66 六道相續作佛義(沈約)。
- 67 因緣義(沈約)。
- 68 論形神(沈約)。
- 69 神不滅論(沈約)。
- 70 難范續神滅論(沈約)。
- 71 因緣無性論(真觀)。
- 72 性法自然論(朱世卿)。
- 73 北齊三部一切經頌文(魏收)。
- 74 周經頌文(王褒)。
- 75 齊經頌文(隋煬帝)。
- 76 三藏聖教序(唐太宗)。
- 77 聖記三藏經序(皇太子治達)。
- 78 金剛般若經注序(禿亮)。
- 79 金剛般若經集序(李儉)。
- 80 與魏觀論佛書(柳宣)。
- 〔卷二三〕(四)僧行篇
- 1 支曇詠讚(丘道護)。
- 2 竺羅什讚(僧肇)。
- 3 釋法綱讚(慧琳)。
- 4 竺道生讚(慧琳)。
- 5 釋曇隆讚(謝靈運)。
- 6 釋慧遠讚(謝靈運)。
- 7 釋玄敬讚(張翥)。
- 8 釋玄暉讚(慧琳)。
- 9

- 12 沙汰僧徒詔(宋武帝)。
- 13 褒揚僧德詔(元魏孝文帝)。
- 14 述僧中食論(沈約)。
- 15 述僧會論(沈約)。
- 16 漢沙汰釋李詔(北齊宣帝)。
- 17 北齊沙汰釋李詔(北齊宣帝)。
- 18 東陽盛法師書(王均)。
- 19 與汝南周願書(智林)。
- 20 與法法師書(劉孝綽)。
- 21 與法法師書(王曼穎)。
- 22 中興法師亡書(劉之遴)。
- 23 與僧兄李敬顯書(劉之遴)。
- 24 中興法師亡書(劉之遴)。
- 25 東陽金華山栢志(劉孝綽)。
- 26 與徐僕射領軍述役僧書(真觀)。
- 27 山深法師經道書(徐陵)。
- 28 謙周祖沙汰僧表(曇瑛)。
- 29 戴遠始書仙城命禪師。30 蘭林沙門惠命謝書濟北戴先生。31 中興法師亡書(薛道衡)。
- 〔卷二五〕
- 32 福田論(彦琮)。
- 33 問出家損益詔(唐高祖)。
- 34 出沙汰佛道詔(唐高祖)。
- 35 命道士在僧前詔(唐太宗)。
- 36 漢沙門敬之大詔(并讚狀表啓論)(唐高祖)。
- 〔卷二六〕(六)慈濟篇
- 1 究竟慈悲論(沈約)。
- 2 與何胤書論止殺(周朗)。
- 3 斷殺絕宗廟犧牲詔(梁武帝)。
- 4 誠教家訓(顏之推)。
- 5 斷酒肉文(梁武帝)。
- 〔卷二七〕(七)滅功篇
- 1 與劉遺民等書(釋慧遠)。
- 2 與蕭詒議等書(梁元帝)。
- 3 答湘東王書(梁簡文)。
- 4 與梁朝士書(曇瑛)。
- 5 與戒律師書(釋慧淨)。
- 6 隋煬帝與智者禪師書(目)。
- 7 隋煬帝於天台山頂禪師所受菩薩戒文。8 隋智者大師

名所行發 (名庫書) 若藏所現 月年の刊寫 (書考書釋註) 書本 説解書内 代年作者 著者 録存 數巻 (名書) 名題 號略字數

名所行發 (名庫書) 若藏所現 月年の刊寫 (書考書釋註) 書本 説解書内 代年作者 著者 録存 數巻 (名書) 名題 號略字數

廣攝虛空藏 〇(日)Ko-shu-ko-ah-zo. 〇一巻 〇安然(承和八)延喜年間A. D. 841-901)作 〇(參考) 山家祖德撰述當日集卷上、本朝台祖撰述密部書目

廣攝虛空藏菩薩行法要決 〇(日)Ko-shu-ko-ah-zo-ho-satsu-kyo-ho-yo-keisan. 〇三巻 〇安然(承和八)延喜年間A. D. 841-901)作 〇(參考) 諸宗章疏錄第二、本朝台祖撰述密部書目、山家祖德撰述當日集卷上、密乘撰述目錄

廣攝不動 〇(日)Ko-sho-to-nda. 廣攝不動明王秘要決、廣攝不動秘法要決 〇現存三巻、日本大藏經天台密教章疏第三、安然(承和八)延喜年間A. D. 841-901)作 〇(參考) 諸宗章疏錄第二、山家祖德撰述密部書目、本朝台祖撰述密部書目、密乘撰述目錄

廣攝不動明王秘要決 〇(日)Ko-sho-to-nda-myō-gi-kyō. 廣攝不動秘法要決、廣攝不動 〇現存三巻、日本大藏經天台密教章疏第三、安然(承和八)延喜年間A. D. 841-901)作 〇(參考) 諸宗章疏錄第二、山家祖德撰述密部書目、本朝台祖撰述密部書目、密乘撰述目錄

廣攝不動明王秘要決 〇(日)Ko-sho-to-nda-myō-gi-kyō. 廣攝不動秘法要決、廣攝不動 〇現存三巻、日本大藏經天台密教章疏第三、安然(承和八)延喜年間A. D. 841-901)作 〇(參考) 諸宗章疏錄第二、山家祖德撰述密部書目、本朝台祖撰述密部書目、密乘撰述目錄

頂經、底理三昧經、聖無動秘密法等に依つて畫像法、供養儀式、作壇、並に灌頂儀式等を詳しく叙述したるものである。

〇(一巻)略敘秘法差別第一、灌頂經底理三昧經を引いて、不動明王の供養次第の目を擧げ、此修行法は蘇悉地法に屬する、不動明王の修行方法を明すと云つてある。又此等行法に依つて内外二障を降伏すること、本誓のこと、利益のこと等を叙べ、更に不動安樂家國法を略述し、此法は金剛智三藏が王光行者に授與せしことを叙べ、仁王儀軌に依り五大光明王の身相三昧形本誓等を説いてゐる。

〇(二巻)略敘畫像差別第二、此の巻は専ら不動明王の五種の畫像を明し、安樂家國法に依り、其の儀式と、隨方安樂と、護世八天法と、並に三部各別の不動尊の曼荼羅畫像法を叙ぶ。

〇(三巻)略敘傳受差別第三、不動明王を供養すべき修行法を傳法する阿闍梨に四種あることを叙べ、外に二種の許可法、五種の三昧耶と、並に印法、事業、以心、の三種の灌頂と、大悲、喜會、都法、秘密別壇の四重の曼荼羅とを説いて、不動明王の地位を明示し、七日作壇の作法に依り、前述の三種の灌頂を修行儀式を叙べてゐる。

廣西院八結私聞書 〇(日)Ko-sei-ta-hachi-keetsu-shi-ki-ken-sho. 〇一册 〇存 〇貞正四寫 〇(金剛三昧院) 廣西三六記 〇(日)Ko-sei-san-ro-ku-shi. 〇二巻 〇存 〇徳川時代寫 〇(寶龜院) 廣大儀軌 〇(日)Ko-da-i-ki. 國譯 廣大儀軌 〇存、國譯密教經部第三 廣大儀軌 〇(日)Ko-da-i-ki. 國譯 廣大儀軌 〇存、國譯密教經部第三 廣大儀軌 〇(日)Ko-da-i-ki. 國譯 廣大儀軌 〇存、國譯密教經部第三

本經は上中下三巻十品より成り、釋迦牟尼佛王舍城に於て初めて摩軍を降伏し給ひし時、金剛密跡菩薩、寶藏菩薩の請により一切衆生利益の爲に廣大儀軌菩薩住持密陀羅尼を説き、その功德、誦法、作壇、畫像、供養及び諸尊の印呪法を説いたもので、略して寶藏經とも云ふ。

香麗願、〇(天)請一切天龍、〇(地)請四天王等、〇(水)侍者、〇(火)入道場、〇(風)獻一切佛及一切菩薩諸天等、〇(日)擁護身、〇(月)發遣諸聖以上の諸呪及び功德を明し、結壇壇法品第七には、擇地、作壇、畫佛菩薩諸天等像、莊嚴供養、入道場時先誦の眞言及びその功德を示し、畫像品第八には、新白眞の一方一肘乃至七肘を取りて之に佛菩薩諸天を畫く法、畫具、畫師の作法、念誦法及び所成の事を説く。こゝに示す佛菩薩諸天の名、位置及び相は結壇壇法品に説くものとは異なる。護摩品第九、初めに護摩供養呪、次に護摩法及び此の陀羅尼王法の威徳及び功德を説く。印法品第十、金剛藥又主菩薩、佛に陀羅尼印法を説き給はんことを乞ふ、佛爲に、〇(一)寶蓮華印呪、〇(二)普光明寶淨一切如來心印呪法、〇(三)一切如來心印呪法、〇(四)一切如來普光大會秘密印呪法、〇(五)一切如來瓔珞印呪法、〇(六)一切如來師子座印呪法、〇(七)一切如來成就大寶灌頂印呪法、〇(八)一切如來降伏熾然大魔軍智炬轉法輪神變加護印呪法、〇(九)得勝符印呪法、〇(十)如來轉法輪印呪法、〇(十一)一切如來成寶三昧耶金剛印呪法、〇(十二)聖者執金剛菩薩印呪法、〇(十三)思惟寶金剛菩薩印呪法、〇(十四)四天王印呪法、〇(十五)吉祥天女印呪法、〇(十六)輪奘尼天女印呪法、〇(十七)金剛使者天女印呪法、〇(十八)請住壇中諸神等印呪法、〇(十九)蓮華商天女印呪法、〇(二十)根本印法心印法隨心印法等の二十一法を説き給ふ。

以上の品次及び内容は菩提流志譯原本に依れるものであるが、同譯原本と比較する

時品品次及び内容に於て大異あるを見る。即ち雜呪品第六以後に於て内容を見るに、其の概要は一致すれども品次及び陀羅尼は一致せざるものあり。品数は原本は十品なれども明本は手印呪品第八、普光心印品第十一を加へて十二品とし、品次原本とは前後す。明本の手印呪品第八は相當文原本には無く、普光心印品第十一全文は原本印法品第十の初めと殆んど一致す。

廣大儀軌 〇(日)Ko-da-i-ki. 國譯 廣大儀軌 〇存、國譯密教經部第三 廣大儀軌 〇(日)Ko-da-i-ki. 國譯 廣大儀軌 〇存、國譯密教經部第三 廣大儀軌 〇(日)Ko-da-i-ki. 國譯 廣大儀軌 〇存、國譯密教經部第三

【コ】

等と稱せらるるもの、先に勝論の諸句義、數論の自性等によつて總して常執を破し、又別して聲時・自然・常因・補微等の常實の執を破す。小乘では有部の虚空無爲等が破される。次いで小乘・數論・勝論等の涅槃説を破す。破我品第二(別して我の常を破す、勝論を初めとし順世外道、記論外道、(文典家) 正理派、小乘異部、數論、離繫(耆那教)等の所執の常實の我を破す)以上にて常の事を破し以下に無常の事を破す。破時品第三(破斥の對象は主として有部で兼ねて小乘諸異部、數論、勝論等に及ぶ、かくて三世實有・法體恒有の思想及び因中有果無果の諸執を破し、住と生滅とを破し、かくて時と無常とを破す、而して上來諸品の所論を一應結んで常・無常の二邊を遠離したる中道を開示す)破見品第四(如來は眞實に勝義理の空を説くに世間は何んぞ妄見紛々たりやとて本品を起す。而して再び諸外道の淺近の事に於てすら倒見を生じて實有と執するを呵し、廣く數論・勝論等所説の實執を破し、尙外道の涅槃は我所を破すも我を破せざるが故に捨證の正方便に非ず、大乘の眞空觀のみ涅槃の眞因たるを論證し更に諸法の眞理は空無にして非有非空、分別戲論の及ぶ所に非ずと讃説し、終りに婆羅門、離繫と對比して如來の説の甚深なるを説く)破根境品第五(先づ了別の所依たる根を破せんが爲に先に能依の境を破せんとて、廣く數論、勝論等所説の色根の境を破し、色性を破し、終りに境相を有質礙・無質礙に分ち、又は有爲・無爲に

分つて外道小乘所執の一切の境を破してゐる。次に所依たる根を破せんとて餘乘數論・勝論等の根説を破し、心の境を取るを破し、根・境成なる故所生の識も虚なりとして此に一切法如幻皆空の理を顯説す。破邊執品第六(上に根境皆成なるを辨じたるが故に次に眞に非ざる句義邊執の垢穢を離除せんとて廣く數論・勝論・離繫外道等につき實有の執を破す、その論法は瓶と色、諸法と色性、補微と果等についての一異即離破である。而して之を結んで四句分別して數論・勝論・無常・邪命外道の説に各々配して之を破し、その實有の邪見を正してゐる。最後の偈によつて、境滅すれば識も生ぜず、所緣無ければ能緣無く、能所俱滅して清凉涅槃に至ると釋し、而も此の後に別釋として彼自身の唯識説を展開す)破有爲相品第七(先に別して根・境の無我を分別したるが故に今總じて有爲相の空を辨ずべしとて本品を起し來る。三有爲相中首に生を破せんとて果の先有・無を破し、所生の果を破し、四句分別して能生の因縁の不成を證し、以て凡ての側面より生を否定し、合して三相を破し、更に廣く生時を破して無生を證説し、最後に結んで有爲無爲一切法の實有を破して畢竟空を讃説す。以上七品專ら外道小乘の一切法實有の邪見妄執を破して我我所の二性相の皆空なることを顯はせり。教誡弟子品第八(今一品最後に自の正義を顯説し、正しく眞宗を教して懇切に弟子を教誡す。初頭に論主曰く、一切の法は本性皆空なりと雖も、而も

初學の徒は未だ見ること能はざるが故に、妄有を追愛し、眞空に迷せんことを怖る、或は餘縁の爲に未だ能く決了せざれば正理教を以て重ねて前宗を顯はし、彼をして疑ひを除いて諸の倒執を捨てしめんと、かくて尙眞空の理に迷せず有執を存する者の疑難を種々に破捨しつゝ一切法本性空に導く。然るに彼は反つて惡取空に墮して「法にして本性空ならば空を見て何の徳有りや」と反問するを以て「空を證すれば虛妄分別も亦空なるべし何んぞ縛の用有らん」と疑ふ。此を以て次第に二諦の理を提示し、世俗と勝義と種々に論究してゐる。論の經過に於て論主護法は恐らく中觀一派の皆空説に對して惡取の空見を破すと呼ばして、依他・圓成の俱に有なるを主張し經によりて證して已に彼が唯識説の理世俗の立場をほめめかしつゝ、而も自らの系統中の眞實の立場を侵すことなくして、諸法は眞諦なりと説くは外應を捨てしめんが爲なり、外應を捨てれば妄識は隨つて滅す、妄識滅するが故に便ち涅槃を證すと中道の實義を開説し、最後に有・非有等の四句の妄見は勝義理の中に於ては皆悉く滅して少法も有ること無し、一切法の本性は無性なるが故に如何なる有見が眞空に抗論せんと欲すと空は所依無きが故に依るべき無し、大心有りて弘誓を發する者は妄見の塵垢を斷除して佛の眞空に悟入すべしと結ぶ。

【傳通】本釋論が印度に於て如何程に行はれしやば疑問である。玄奘によりて支那に傳來された後も決して盛んに弘通したと見ることには出来ない、いなむしろその研鑽は不振を極めたと見るべきである。本論に對する註疏も唐代玄奘の門下によつて作されたもののみでそれ以後には見出すことが出来ない。蓋しこれは本論の宗派的中間性と内容が難解煩瑣なる外小破なるに由るのであらう。

【注釋】破十卷(文備)。破十卷(文軌)。破十卷(圓測)。首歸一卷(元曉)。撮要一卷(元曉)。同論□□卷(善珠)。宗要一卷(元曉)。古迷記一卷(大賢)。但し現存するは上述文軌の破十卷中最初の二卷のみ(大正八五・七八二頁、佛蘭西國同書館藏、煨煨本)。

【參考】內典錄第五、開元錄第八、新編諸宗教藏總錄第三、東城傳燈目錄卷下、三論宗經論章疏目錄。

廣百論宗要 ①(日) Kō-hyaku-ron-shō-yō. (支) Kuang-pai-lun-tsung-yao. ①一卷 ②缺 ③新編元曉(眞平王三九 A.D. 617)述 ④參考 ⑤新編諸宗教藏總錄第三

廣百論疏 ①(日) Kō-hyaku-ron-shō. (支) Kuang-pai-lun-shū. ①十卷 ②唐圓測(大業九一萬歲通天元 A.D. 617—626)述 ③參考 ④東城傳燈目錄卷下、諸宗章疏錄第一、奈良朝現在一切經疏目錄3483

廣百論疏 ①(日) Kō-hyaku-ron-

【ク】

ho. (支) Kuang-pai-lun-shū. 廣百論鈔

①一卷現存、大正八五・七八二頁、3800

②唐代文軌述

③東城傳燈錄、三論宗章疏等によれば本疏は十卷本であつたことを知るのであるが、現存するは唯一巻に過ぎない。(佛蘭西國同書館藏、煨煨本)、而も約八種もあつた廣百論疏中現存する唯一のものであるから甚だ貴重な文獻と云はねばならぬ。此の疏一卷は廣百論疏第一卷(破常品第一の大部分)を釋したもので、作者文軌は直接玄奘の門に學べた人であるが、その譯場にも列なつた碩學であり、疏の内容より見るも博學細密の人なりしことが知られる。本疏一卷によつて廣百論疏の綱格を知り、且つ玄奘當時の本論研鑽の程度を窺ひ得べき貴重な資料である。而して内容の特色としては全巻殆んど全く因明の形式によつて敘述されてゐる点にある。

【參考】諸宗章疏錄第一、東城傳燈目錄卷下、注進法相宗章疏 (遠藤二平)

廣百論鈔 ①(日) Kō-hyaku-ron-shō. (支) Kuang-pai-lun-ch'iao. ①十卷 ②缺 ③唐代文備述 ④參考 ⑤東城傳燈目錄卷下、諸宗章疏錄第一、注進法相宗章疏、奈良朝現在一切經疏目錄2481

廣百論本 ①(日) Kō-hyaku-ron-pun. (支) Kuang-pai-lun-pên. (譯) Bstan-bcos bshi-brgya-pa shes-bya-bahi shig-le-pur-byas-pa [Skt. Catuṣṭakakāṣṭra karika-nāma] [Bstan-hgyur-mdo-hgrel-tsha (XVIII, 1) 卷] Cordier, P. 296. 四百

論頌、廣百論 ①一卷 ②存、大正三〇・一八二二頁、1270 縮書二、二二一七、北557是、南601是、元534是、明北1182同、清1182同、履589同、天991是、指548同、法579同、至1309同、明南1340同、Nf. 1189 ③聖天造支非(仁壽二一)論德元A.D. 602—604 ④唐永徵元(A.D. 630)

⑤(成立) 本論は聖天(提婆)菩薩の著者で漢譯は二百の偈より成る。菩薩の他の著百論(釋提婆)は本論の綱要書で、同じく百字論(善提婆)は更に百論の綱要である。梵原本では四百論頌と稱せられ四百頌十六品なりしもの後半に當り、百論に對して廣百論と名けしもの、梵語原文は漢譯相當の二百頌中、現に八十七偈、他に半偈のみもの五が見出され、西藏譯には全部存する。西域記卷五に提婆菩薩が鉢羅耶伽(Prayāga、現今のAllahabad)國大城の西南勝博迦(Campaka)華林中の塔塔波の側なる伽藍中に於て本論を製作したと述べてゐる。大體西紀三世紀の上中と見て大過無うであらう。

【大綱】 一巻八品、その主とする所は外道小乘の諸法實有の妄執を破し、眞空無我の理を闡明せんとするにある。元來中觀宗宗本來の立場は破邪即顯正にあることと雖も知らるゝ如くであるが、その論格菩薩に比し、歴史的事情から云ふ、性格的に見ると特に破邪に秀でたりと考へらるゝ提婆菩薩による本論は、特にその面目顯如たるものがあつて、從つて中論に比しその破邪の更に積極的であり、且つ具體的包括的であらう。

僅に最後の一品を以つて自らの宗義を開陳してゐる。

【内容大綱】 次の表及び別項廣百論釋論を見よ。

(一)破常品 Niryātha-pratiseḍha

(二)破我品 Āma-sūdhya-ḡpāya-samūharaṇa

(三)破時品 Kāla-vipratiseḍhadhāvaṇopadeśa

(四)破見品 Dṛṣṭi-vipratiseḍhadhāvaṇopadeśa

(五)破根境品 Indriyārtha-pratiseḍha

(六)破邊執品 Antagrāhavipratiseḍhaya

(七)破有爲相品 Sanskrātrahapratisēḍha

(八)教誡弟子品 Garuḍīyavyavasthāpadeśa

【傳通】 本論は四百論の後半なること前述の如くであるが、本論には護法菩薩によりてなされた註釋廣百論釋論あり、その初頭に歸敬偈あるより見て本論が既に印度に於て四百論より別出して行はれたらうことを知る。四百論(屢々單に百論とも稱せらる)に對する註釋は月稱(Candrakīrti)のよつて成され梵本(Bhūtiśāstra-yogācāra-cāṅgī-śāstra-tika 菩薩摩訶薩行四百論釋)の斷片及び西藏譯(Byan-chub-sens-dpañi-rnal-'byor-spyod-pa bshi-brgya-pahi-rgya-cher-hgrel-pa) [Bstan-hgyur-mdo-hgrel-ya (XXIV, 2) 卷] (Cordier, P. 304)の完本として現存する。かく四百論と廣百論とを角印度に於て兩釋あり、且つ月稱の梵文中論註(Prasamadati)を初め、漢

譯中論、顯中論、佛性論、般若燈論、入大乘論、大乘中觀釋論、成實論等に四百論の引用が見出さるゝが故に四百論流布の盛なりしことは想像し得るのであるが、然し後半のみの所謂廣百論としては如何なりしや明かでない。支那・日本に於ては本論が獨立に行はれしに非ずして護法釋の廣百論釋論として行はれたがその研鑽は盛んであつたといふことは出来ない。

【參考】 內典錄第五、譯經圖記第四、開元錄第八、貞元錄第一 (遠藤二平)

廣百論疏 ①(日) Kō-hyaku-ron-shū. ①一卷 ②存、慈雲尊者全集第六 ③慈雲飲光(享保三—文化元 A.D. 1718—1804)撰 ④布薩の式を記した書である。慈雲尊者が長福寺の尼僧のために撰せられたものらしい。

⑤著者草本(高貴寺藏) (小田慈舟)

廣百論疏 ①(日) Kō-hyaku-ron-shū. ①三卷 ②存、月輪編 ③寛永三刊 ④帝國(二四一・五)

廣付法傳 ①(日) Kō-hyaku-ron-shū. ①二卷 ②存、大日本佛教全集第一〇六、弘法大師全集第一 ③空海(實德五—承和二 A.D. 774—835)撰 ④歸密曼茶羅教付法傳の下を見よ ⑤(參考) 本朝合撰圖説諸部書目

廣付法傳勸文 ①(日) Kō-hyaku-ron-shū. ①二卷 ②存、信日(一—ken-kam-mon. ③三卷 ④信日(一—ken-kam-mon. ⑤三卷 ⑥寛永一—den-kiki-gaki. ③三卷 ④寛永一—

【一】

一刊(谷大、餘大・二六一八)(京專)寫本(高
大、寄・一・五五)

廣福寺文書 ①(日)Ko-fuku-ji-mon
②肥後廣福寺文書 ③一卷 ④存
寫本(駒大)

廣福神王供 ①(日)Ko-fuku-jin-
e-shi ②帖 ③存 ④天和三寫 ⑤(京
大、一・二六・小別)

廣福廟志 ①(日)Ko-fuku-ya-shi.
(支)Kuang-fa-miao-shih. ②一卷 ③存
武林掌故叢編第八 ④(帝國、一七六・五)寫
本(京大、藏・二〇・六)

廣法寺事蹟碑 ①(日)Ko-ho-ji-
seki-shi. (支)Kuang-fa-ssai-shih-chi-pai.
②存 ③朝鮮李時恒撰、黃敏厚書 ④英祖
三 ⑤(參考)朝鮮佛教總書刊行規定書目

廣明法界衆生根機法 ①(日)Ko-
myo-hok-kai-shu-jin-kon-ki-ha. (支)Ka-
ang-min-z-fa-chieh-chung-sheng-ken-ki-
fa. ②一卷 ③疑偽經 ④(參考)武周
錄第一五、開元錄第一八

廣目天 ①(日)Ko-moku-ten. ②一
帖 ③存 ④嘉元二寫 ⑤(高、大、寄・一・六
六)

廣文類鳥水記 ①(日)Ko-mon-tai-
b-sai-ki. ②二卷 ③存 ④寶雲(寛政三
一弘化四 A. D. 1791—1847)寫本(龍
大、一・三三・七六)

廣文類會讀記 ①(日)Ko-mon-tai-
e-dok-ki. ②十八卷 ③存、真宗大系第一
三一一五 ④深淵(寛延二—文化一四 A. D.
1749—1817)述 ⑤文化二—三(A. D. 1805
—1806)

⑥師は享和三年七月より九十五會にして教
行二卷を講述し、次で文化二年八月二日よ
り十二月二十一日に亘り信巻を講述し、更
にまた翌文化三年七月十八日より十一月十
一日に亘り教行二卷を講述した。本書に講
むる前七卷即ち教行二卷の會讀記は實にそ
の文化三年の講述筆記であり、後十一卷即
ち信巻の會讀記はその前年即ち文化二年の
講述である。廣文類會讀記と題するけれ
ども、廣文類六卷のうち後三卷の講述に及
んでをらぬことは惜むべきである。廣文類
は淨土真宗にとつて甚だ大切な聖典なれ
ば、本文解釋以前において一部の支旨を窺
ふことは恐れ多しとして、先づたい拜讀の
方軌、撰述の年時、末註の嚴最のみに就い
て述べ、題號解釋の下には教行信證の四法
の大綱を詳述し、かくて總序の文を講じ終
りて第一卷を費し、第二卷は教巻を、第三
卷以下第七卷までに行巻を、第八卷より第
十八卷まで信巻を講じ終つてゐる。師の
口述そのまゝの筆録であるから時に俗語も
混じてゐるが、本書に限らず、師の講録は
孰れも實に微をうがち細をきはめ、懇切可
吟にして初學のものに最も了解され易し。

(柏原祐義)

廣文類聞書 ①(日)Ko-mon-tai-
kimi-shi. ②十五卷 ③存、真宗大系第一
六一一七

④本書は風韻師が會て手稿されたる廣文類
報恩記に基き、某講師の講述せしもの、講
述中にたま〜豊前講師云々の語あるは、

蓋しその故であらう。豊前講師とは風韻師
が豊前古城の正行寺に住職してゐられたか
らである。本書先づ玄談において製作意
趣、一部大綱、撰述年代を簡単に述べ、次
いで入文解釋してゐる。十五卷のうち、第
一卷に廣文類總序并に教巻を講じ、第二、
三卷に行巻を、第四、五卷に信巻を、第六、
第七卷に證巻を、第八、九卷に眞佛土巻を、
第十卷以下第十五卷に至る六卷に化身土巻
を講述してゐる。即ち本書の講述は廣文類
六卷のうち、前五卷に簡にして第六化身土
巻に全力を注がれたものである。されば化
身土巻を研究せんとするものは、必ず本書
を參考せねばならない。また前五卷は極め
て略述ではあるが、皆師の發揮を主として
の講述であるから、研究上に頗る便益があ
る。

(柏原祐義)

廣文類誌書 ①(日)Ko-mon-tai-
kiki-shi. ②一卷 ③存 ④寶雲(寛政三
一弘化四 A. D. 1791—1847)述 ⑤寫本(龍
大、一・三三・七六)

廣文類科解 ①(日)Ko-mon-tai-
kwaie. ②一卷 ③存 ④寫本(龍大、一
二二五・一〇四)

廣文類顯眞錄 ①(日)Ko-mon-tai-
ken-shin-roku. ②教行信證顯眞錄 ③六卷
④存 ⑤宣明(寛延二—文政四 A. D. 1749—
1823)述 ⑥明治三三刊 ⑦(龍大、一・三三
一・七七、研眞)(帝國、二九・一四〇)(各
大、宗大、一・六一)

廣文類五願大意 ①(日)Ko-mon-
tai-go-gwan-tai-i. ②一卷 ③存 ④靈旺

(安永四—嘉永四 A. D. 1775—1851)述 ⑤
寫本(谷大、宗大・三・七九)

廣文類山陰錄 ①(日)Ko-mon-tai-
san-in-roku. ②教行信證山陰錄 ③五卷 ④
存 ⑤文政九寫 ⑥(谷大、宗大・三・三三三)

廣文類所引書目並科圖 ①(日)
Ko-mon-tai-sho-in-sho-moku-narabishi-
kwa-zu. ②一卷 ③存 ④玄智(享保一九
一寛政六 A. D. 1731—1794)撰 ⑤寫本(龍
大、一・三三・七八)

廣文類信巻講義 ①(日)Ko-mon-
tai-shin-no-makki-kye. ②教行信證信巻講
義 ③四卷 ④存 ⑤深淵(寛延二—文化
一四 A. D. 1749—1817)述 ⑥文化二寫 ⑦
(谷大、宗大・三・七八)

廣文類對問記 ①(日)Ko-mon-tai-
tai-mon-ki. ②教行信證對問記 ③十卷 ④
存 ⑤月珠(—安政三 A. D. 1856)述、東陽
圓月(文政元—明治三五 A. D. 1818—1902)
問 ⑥明治三三刊 ⑦七再刊 ⑧(龍大、一・三
三・七九—一八〇、研眞)(谷大、宗大・七・二、
宗大・七・一一)

廣文類誌記 ①(日)Ko-mon-tai-
chi-ki. ②一卷 ③存 ④南溪(天明三—
明治六 A. D. 1783—1873)述 ⑤寫本(龍大、
研眞)

廣文類略讀 ①(日)Ko-mon-tai-
ryaku-sen. ②教行信證略讀 ③十八卷 ④
存、佛光大系第二〇 ⑤道隱(寛保元—文化
一〇 A. D. 1741—1813)述 ⑥文化八(A. D.
1811) ⑦教行信證略讀の下を見よ ⑧文
化八寫(正六、一六三、一三)明治三九刊(龍

名所行録(名庫書)著者所現(月年の刊寫)(書考參書釋註書本)説解存内(代年作者)著者(録存)巻(名書)名題(號鳴字數)

【二】

大、一・三三・五八)(谷大、宗大、一・二六)(帝
國、一〇九・八〇)

廣文類論草 ①(日)Ko-mon-tai-
ron-ka. ②六卷或五卷 ③存 ④南條神興
(文化一—明治三〇 A. D. 1814—1887)述
⑤明治三九刊(帝國、一〇八・一六)明治三
一刊(谷大、宗大、一・五七)(龍大、一・三三・八
一)明治三五刊(正六、一六三・六)(立六、A
四〇・五二)大正六刊(谷大、宗大、四・四四)
⑥京都法藏館

廣文類論題 ①(日)Ko-mon-tai-
ron-dai. ②六卷 ③存 ④藤岡覺音(文政
四—明治四〇 A. D. 1821—1907)述 ⑤明治
二六、二八再刊 ⑥(龍大、一・五〇・九)(各
大、宗大、一・四四)(京大、一・二六・一四)
(帝國、一〇・一八)

廣隆寺牛祭文 ①(日)Ko-ryu-ji-
ushi-matsuri-no-mon. ②一卷 ③存 ④
寫本(帝室、一〇五・六四)

廣隆寺緣起 ①(日)Ko-ryu-ji-en-
gi. ②一卷 ③存、大日本佛教全書第一一
九寺誌叢書第三 ④承和三(A. D. 896)十一
月十五日

⑤京都府葛野郡太秦の廣隆寺の緣起であ
る。題號の下に宇三泰公寺、一名三峰岡寺と
注してゐる。推古天皇の時聖德太子の爲め
に、秦河勝が建立せること、舊地九條河原
里が狹隘なる爲め、五條瓦町里に遷りし事、
其の後流記資財帳等の紛失、焼亡、散失あ
りしことを述べ、後代の爲めに其由を述
べて寺に留むと記し、承和三年十二月十五
日、檀越太秦公府福永道、大別當傳燈大法

師位壽龜、法頭朝屋宿禰明吉、少別當傳燈
大法師位道昌、都維那傳燈滿位僧惠最、上
座傳燈滿位眞蹟、寺主傳燈滿位僧安惠の名
を列記してゐる。(中谷在禪)

廣隆寺史 ①(日)Ko-ryu-ji-shi. 太秦
廣隆寺史 ②一卷 ③存 ④橋川正(明治
二七—昭和六 A. D. 1891—1931)編 ⑤大正
二二刊 ⑥(谷大、餘大・三・六七〇)

廣隆寺資財校替實録帳 ①(日)
Ko-ryu-ji-shi-zai-ko-tai-jitsu-roku-cha.
②一卷 ③存、大日本佛教全書第一一九寺
誌叢書第三、續群書類從第二七 ④弘仁九
(A. D. 818)

⑤京都府葛野郡太秦廣隆寺が火災に罹つた
後、寺の資財帳を改め造つたものである。
佛物草の下、寺院地境、金堂、安置の佛像、
帳帳、供養具、高座、幡蓋、題額等に關
し、丈量、形體、施入主等を記し。法物草
の下、講法書堂、本尊、經卷、香爐、花瓶、
机、其他の法具、鐘樓等に就き丈量、卷數、
施入主などを記し、常住僧物草の下、食
堂、僧房、隔房につき丈量、建具等のこと
を記し。通物草の下、寶藏、倉庫、膳屋、
厨屋、湯屋、厩屋、客房、南大門、東大門、
西大門、釜、瓶、碓、厨子、辛籠等が録さ
れ、一々註記がある。唐樂器の下、四鼓、
三鼓、柷、紗袍衣、吳樂面形、并に衣裳
等の目錄を掲げ、水陸田章の下に同寺の所
有の水田、陸田の所在地、丈量等が註記さ
れ、別院の下に塔院、般若院、寺東院の一
々に建物を註記し、終に從來諸寺の資財帳
の校勘呈出は六年毎に行はれたのを、四年

毎とし、各寺に二巻を造り、一は僧綱所の
一は勸解由の料とする意見を述べてゐる。

(中谷在禪)

廣隆寺資財帳 ①(日)Ko-ryu-ji-
shizai-cho. ②一卷(巻下) ③存 ④大正
一〇寫 ⑤(谷大、餘大・三・六一五)

廣隆寺大觀 ①(日)Ko-ryu-ji-tai-
kwan. ②一卷 ③存 ④佛教美術社編
⑤大正一四刊 ⑥(龍大、別置)

廣隆寺大略緣起 ①(日)Ko-ryu-ji-
tai-ryaku-en-ki. ②京太秦廣隆寺大略緣起
③一卷 ④存、大日本佛教全書第一一九寺
誌叢書第三、國文東方佛教叢書第六 ⑤元
祿一四(A. D. 1700)撰 ⑥京太秦廣隆寺大
略緣起の下を見よ。

廣隆寺堂宇記 ①(日)Ko-ryu-ji-
do-ji. ②一卷 ③存 ④顯證(—承應頃
A. D. 1653—1654)記 ⑦(參考)大日
本佛教全書續刊決定書目

廣隆寺並柱宮院領當知行文書
①(日)Ko-ryu-ji-narabishi-kei-kyo-in-
pogo-chi-ko-hon-jin. ②一卷 ③存、
大日本佛教全書第一一九寺誌叢書第三
④京都府葛野郡太秦廣隆寺並に柱宮院領當
知行文書を集めたものである。收むること
ろ、永仁四年廣隆寺領丹波國江林寺に下す
下司職補任の狀、建武元年の朱印、建武三年
足利尊氏より所領復舊の狀、應永二年足利
直義より桂新免の狀、康永二年江林寺下司
職補任の狀、貞和二年足利直義より南朝退
治祈禱の狀、應永二十七年足利尊氏より桂
宮院を祈願寺とする狀、永享四年足利義教

より桂宮院桂新免並に美濃國西池田庄内豐
久御領家職半分事、知行相違なき狀、永正十
四年太秦桂宮院領當知行目録、永正十四
年並に大永二年の知行復舊、祈禱精勵すべ
き狀、慶長二年前田德義院より門前境内の
地子、前々如き寺納すべき狀、元和元年
徳川家康より山城國太秦の内六百石の寺納
と門前境内諸役免除の狀を載せてゐる。

(中谷在禪)

廣隆寺別當補任次第 ①(日)Ko-
ryu-ji-bet-ko-ho-nin-shi-tai. ②一卷 ③
存 ④大正一〇寫 ⑤(谷大、餘大・三・六二
〇)

廣隆寺來由記 ①(日)Ko-ryu-ji-
rai-yu-ki. ②山城州葛野郡野大塚郷廣隆寺
來由記 ③一卷 ④存、群書類從第一五、
新校群書類第一八 ⑤清水(嘉吉二—明應
八後 A. D. 1443—1499)撰

⑥具名を「山城州葛野郡野大塚郷廣隆寺
來由記」と云ひ、清水の撰する所である。
本書は京都太秦廣隆寺の來由を漢文で記
すものであるが、開卷第一に推古帝十二年
八月聖德太子秦川勝と共に本寺を造立し給
ひし由を詳述し、次に「安置廣隆寺三尊
記事」の項下に、金剛彌勒菩薩像、同救世觀
音像、清佛藥師の各に就きて造像の由來と
其の靈驗威徳を詳し、更に「安置當寺三尊
外諸佛菩薩等記事」の項では、日光・月光・
十二神將・十一面四十觀音・不空罽索・文殊・
不動・都牟婁茶羅・十一面四十手觀音(一坐
像二立像)等を掲揚説明し、廣隆寺内諸堂諸
院事の項下では、大講堂以下常行三昧

名所行録(名庫書)著者所現(月年の刊寫)(書考參書釋註書本)説解存内(代年作者)著者(録存)巻(名書)名題(號鳴字數)

【一】

堂・十輪院・寶塔院・法華三昧院・新堂院・尊
重院・平等寺・桂宮院・安養寺・安養堂・尊學
院・寶相寺・隆城寺等を列挙して、其の安置
佛並に由来規模を細説し、諸庫藏諸門架組
等に互り寺觀土工の全面を羅列してある。
「當寺有五寺號」の項では蜂岡寺・泰公寺・
桂林寺・三觀寺・廣隆寺の名稱と其の銘名の
由来を明し、最後に「泰氏系圖」を掲げ寺
門頭徳文を載せてある。末尾に御供養之記
を附し、奥書に「明應八年己未七月上滑記
之、權僧正清承永秋五十八」とあれば、足
利末の作である事が分る。(紀氏隆眞)

興雅御記加行日記 ①(日)Ko-ga
on-ki-ke-gyo-nik-ki 一帖 ②存
徳川時代寫 ③(寶龜院)

興雅御自筆假名文集 ①(日)Ko-
ga-on-ji-hitsu-ka-na-mon-ju 一紙
②存 ③南北朝時代寫 ④(寶龜院)

自興雅僧正宥快師來書狀寫
①(日)Ko-ga-on-ji-yo-kai-ji-ku-wai-shi-
-sho-ji-utsushi 一帖 ②存 ③徳川時
代寫 ④(寶龜院)

**興雅僧正宥快法印江附屬物之
覺唯授一人口傳** ①(日)Ko-ga-on-
-ji-yo-kai-ho-in-e-in-zoku-butsu-no-
-oboe-yui-ji-teki-nin-ka-den 一巻 ②
存 ③徳川時代寫 ④(寶龜院)

興起行經 ①(日)Ko-ki-gyo-kyo
②存 ③(寶龜院)

(支)Hsing-ki-hsing-ching 十餘經、嚴
誠宿緣經 ②二卷 ③存、大正四・一六三
No.197、館辰一〇、己一五・一、北9096頁、
南9327頁、元815頁、明北729頁、清729頁、
麗9611頁、天815頁、指769頁、法795頁、至
1043頁、明南911頁、N.733 ④康孟詳譯
⑤後漢興平元一建安四(A.D.194—199)
⑥(特色及對照本) 此經は本經部に屬する
經で(大正四・一〇)、釋迦佛の本生話を十
箇條だけ説いたものである。これ「十餘經」
の別名ある所以である。この經説示の目的
は少しく他の本生話と異なるものがある。一
般本生話は主として現在の釋迦佛の福徳の
因由を説いて、之を前生積む所の善根の果
報なりとするのであるが、これは釋尊の現
世に受けたる禍患を凡て過去の惡業の餘殃
なりとして、その前生に造れた惡業十條を
羅列せるものである。一經の始終凡て禍患
に對する佛の前生惡業説を以て綴られたる
ものは、未だその例を見ない。従つてこれ
は本經の特色と言ひ得るであらう。

本經に相當する異譯はないが、一々の物
語は往々他の佛傳等に散見する。但五百弟
子自說本起經第三十卷世尊品の後半は簡潔
ながら此の十條を佛前に結んで之を説いて
ゐる。然しその順序は本經と一致せず、
(一)〇(六)次第である。

【内容】佛の惡縁を説ける十條を編纂し、
最初に十條を概説せる偈頌を附せるもので
あるが、十條の名稱は次の如くである。

(一)孫陀利宿緣經。(二)善觀宿緣經。(三)
頭痛宿緣經。(四)骨節煩疼宿緣經。(五)背
痛宿緣經。(六)木槍刺脚宿緣經。(七)地
婆連兜石緣經。(八)婆羅門女樹沙誘佛緣
經。(九)食馬麥宿緣經。(一〇)苦行宿緣經。
(一一)孫陀利女(Sundari)が佛を誘惑せる事
實に對する本生話、許支佛樂無爲と採女
與相と不義ありと誘れる博戲人淨眼が佛の
前身で、鹿相は孫陀利の前身となす。(一)
愛填王妃者彌波(差摩嚩帝(Samavati)と佛
と不義ありと誘れる摩提提女(Magandhiya)のた
めに説せられたる事實に對する本生話、
許支佛愛學と婆羅門梵天の婦淨音と不義あ
りと誘れる婆羅門延如達が佛の前身、淨
音は善觀跋地なりとす。【中本起經下、本
起經容品第八參照該容者】。照堂・摩提
提女(Vidagdha)を誘惑する。釋迦族
討伐の時、佛が頭痛に悩める事實に對する
本生話で、王の前身なる野魚の頭を杖を以
て打てる四歳の小兒は佛の前身なりとす。
(四)佛の骨節煩疼の事實に對するもので、
地婆連兜(提婆達多 Devadatta)の前身な
る病長者子に非業を興へて死に致せし醫師
は佛の前身なりとす。(五)佛背痛の因縁に
て、刹帝利力士(地婆連兜の前身)の背骨を
挫折せる婆羅門に刺される事實に對するも
の、木槍宿緣經(賈客主 Sarthavaha 地婆
連兜の前身)の脚に矛を刺して殺せし第一
薩薄は佛自身なりとす。(七)地婆連兜が佛
に誘惑せる事實に對するもので、長者須埵
の遺產争の事から次子耶那舍(地婆の前身)

を石を以て打ち殺せる長子須摩提は佛自身
なりとす。(八)樹沙女(Chand)誘佛の有名
なる本生話で、盡勝如來の同門無勝比丘と
長者大愛の婦善灯(樹沙の前身)と不義あり
と誘れる常歡比丘は佛自身なりとす。(大
事(Mahavastu)に依り原語を推定すれば
盡勝(Sarabhhaha) 大愛(Tritya)、無勝
(Nandi)、常歡(Abhya)となす。無勝、
常歡は顛倒なる「し」。(九)毘蘭邑(Ve
rahi)にありて佛及び弟子等が三ヶ月間馬
麥を食せる事實に對するもので、盤頭王
(Bandhumi)の治世、毘婆塞如來(Vipasa
sya)にけ馬麥こそ應はしき食なりと之を誘
れる因陀耆利(Indragiri)即ち山王婆羅門
は佛の前身なりとす。【中本起經下、佛食
馬麥品第十五參照。但し須頭王、盤頭越城
維衛如來の名あれども婆羅門の名を缺く】
(一〇)佛苦行六年の因縁にして、迦葉如來
(Kassapa)を誘惑せる火婆(Gotihala)は佛
の前身なりとし、其時の火婆の良友瓦師
(Ghaukara)たりし難提婆羅(難喜 Nandi-
pala)は佛の出家を極力勸説せる作販天子
の前身なりとす。

【參考】三寶記第四、內典錄第一、譯經
圖記第一、開元錄第一、貞元錄第二、
【參考】三寶記第四、內典錄第一、譯經
圖記第一、開元錄第一、貞元錄第二、
【參考】三寶記第四、內典錄第一、譯經
圖記第一、開元錄第一、貞元錄第二、
【參考】三寶記第四、內典錄第一、譯經
圖記第一、開元錄第一、貞元錄第二、

名所行發(名庫書者蔵所収) 月年の刊寫(書考多書釋註活本) 説解管内(代年作者) 著者 缺存 數巻(名書) 題 號略字

【二】

1898)編 明治二二刊 ①(正大、一四一、
三) ②東京森江書店

興教大師御一代略傳 ①(日)Ko-
gyo-dai-shi-go-ichi-dai-ryaku-den ②一
巻 ③存 ④權田雷斧編 明治二四刊
⑤(正大、一四一、一一)

興教大師實傳 ①(日)Ko-gyo-dai-
-shi-jitsun-den ②一巻 ③存、續帝國文庫
第四九續高僧實傳之内

興教大師實傳 ①(日)Ko-gyo-
-dai-shi-jitsun-den ②一巻 ③存 ④
權田雷斧編 明治二七刊 ⑤(正大、一四
一、一三)(龍大、二九六・七六) ⑥京都貝
葉堂

興教大師全集 ①(日)Ko-gyo-dai-
-shi-zen-shu ②一巻 ③存 ④加持世界社編
⑤興教大師覺縁の著述を編輯したもので、
收載さる、書目左の如し。

五輪九字明密經、秘密莊嚴傳法灌頂一
興義、密嚴淨土略觀、阿彌陀經釋、心月輪經
釋、眞言宗義、眞言宗即身成佛義章、顯密不
同章、秘密莊嚴不二義章、文字略釋、文字
義、一期大要略密集、虚空藏寶鏡、文字義
鈔、文字略釋事、釋菩提心義、孝養父母
觀念、眞言三密修行問答、字成就相應義、
八箇條、眞言三密修行問答、成心合掌義釋、
金剛頂瑜伽中發阿彌多羅三藐三菩提心論、
秘密莊嚴兩部一心頌、以呂波略釋、以呂波釋
可有事等、三界唯心釋、大日遍照釋、法華經
略釋、理趣經種子釋、八千枚略釋、大日眞言
問題、秘鏡略註、眞言所學釋摩訶衍論指
事、愚案鈔(第一、第二)、五大願略釋、十九

執金剛略釋、兩部曼荼羅功徳略鈔、眞言淨
善提心私記、阿字觀、阿字觀、自身觀、大
日略觀、齋食略觀、阿字月輪觀、入法界
觀、月輪觀、法身說法頌、顯密不問
頌、月輪觀頌二十頌、月輪觀頌、摩多體文
五言略頌、無相觀頌、八祖忌日頌、一心自
覺頌、助師成佛頌、五字略頌、勸發頌、
文字觀頌、秘密曼荼羅十住心略頌、文字
密觀、自受法樂讚、五十萬遍表白、求開持
表白、御供佛師表白、無常導師表白、愛
染王講式、歡喜天講式、不動講式、不動
講式、愛染講式、毘沙門天講式、地蔵講
式、舍利供養式、日串都婆式、障子文、覺
鏡名字釋、寶劍事、密嚴院發露懺悔文、請
授法書簡、五大明王功徳、秘密雜草、密嚴
院十徳、密嚴院瑞夢、神策卦、鐵塔事、入
唐諸師密教傳、大師十徳、血脈、十八
道、末代眞言行者用心、初心行者要文、謝
徳成佛頌、金剛弟子覺縁敬立申大願等事、
立申大願等、十八道沙汰、金剛頂經蓮花部
心念誦次第沙汰、胎藏界沙汰曼荼羅沙汰、
諸流通用口決、引導次第、阿字觀、孝養
集、御垂示安心。

興教大師年譜 ①(日)Ko-gyo-dai-
-shi-nen-pu ②一巻 ③存 ④川井精春編
⑤(京專)

興教大師年譜和讃 ①(日)Ko-gyo-
-dai-shi-nen-pu-wa-san ②二巻 ③存
④但親撰 ⑤安永三刊 ⑥(龍大)(高、
一・五五)

興化存養禪師語要 ①(日)Ko-ke-
-zon-sho-zen-ji-go-yo ②(支)Hsing-hua-

gwan-chiang-shan-shih-yu-yao 廣濟大師
語要 ③存、正續二・二五・一、同二・二三、
二古尊宿語錄第五

②臨濟宗の開祖臨濟義玄禪師の法嗣にして
南岳下五世大名府興化寺の廣濟大師存養禪
師の語要である。臨濟義玄との問答。後唐
莊宗帝との應酬並に興化寺開堂示衆の法語
等の語要五篇と、存養、興化寺に在りて授
勸せる臨濟慧照禪師塔記とを収めたもので
ある。存養は後唐同光年中(A.D.923—
936)に示寂したもので、莊宗帝より廣濟大
師の諡號を賜つた。其の本貫姓氏等は明か
らな。

興決鈔不動護摩傳受私記 (大久保堅瑞)
①(日)Ko-ke-tsuo-sho-bu-dogamoten-
-den-ji-shi-ki ②一册 ③存 ④應永
一八弘章寫 ⑤(金剛三昧院)

興國寺事蹟 ①(日)Ko-koku-ji-
-shiji ②一册 ③存 ④應永
一八弘章寫 ⑤(金剛三昧院)

興國の宗教 ①(日)Ko-koku-no-
-shu ②一巻 ③存 ④清瀬貞雄著
⑤明治四二刊 ⑥(立大、B〇九・一七二、B
〇四・六五一六)

興山寺聖教目錄 ①(日)Ko-san-ji-
-sho-gyo-moku-roku ②一巻 ③存
④(參考) 大日本佛教全書刊行豫定書目

興山集 ①(日)Ko-san-shu ②十五
巻 ③存 ④彦岑隆正(正保二一享保二二
A.D.1645—1727)編 ⑤(文政一〇刊 ⑥
哲「p.1.左」)(高、一・五二)寄、一・五

11)
興山由來 ①(日)Ko-san-yu-rai
②一帖 ③存 ④徳川時代寫 ⑤(寶龜院)

興宗明教禪師行狀 ①(日)Ko-shu-
-myo-kyo-shi-jitsun-kyo ②一巻 ③存

⑤南禪相國天龍に歷住せし無求周仲禪師の
法嗣にして相國寺第四十二世興宗明教禪師
瑞溪周風和尚の傳記を、其の嗣希宗女派
が、瑞溪の塔銘及び語録外集の序跋を明の
高僧名士に求むる必要上より其の行狀の編
述を相國寺八十三世景徐周麟和尚に依頼
し、文明十五年三月(A.D.1488) 鹿苑院周
璋(皇朝編年史卷七十八) 足利義政の命に
より入明正使となり希宗その從僧として入
明せんとするに際して、景徐この行狀を撰
したものである。

瑞溪別號を臥雲山人、釋羊僧、竹椰子、
劉梧子と稱し、明徳二年(元中八年)十二
月八日(A.D.1391) 泉州堺の伴氏に生れ、
十四歳にして相國寺十二世無求周仲禪師に
依り、應永十三年十六歳にして藤榮し、天
龍寺に留りて大周周喬に侍し、鹿苑寺の殿
中周應に侍して其の學人を教へ、殿中の相
國寺二十二世となるや、藏主となり、應永二
十七年五月母の病死に其の藏書を盡く賣り
て葬儀を辦じた。永享八年四十六歳にして
相國寺一住となり同年八月足利義教の命に
より登徳寺に住し、嗣香を無求周仲禪師に
獻じた。翌九年義教の命によりて等持寺に
住し、關東管領足利持氏と其の區上杉憲實
との争ひに將軍の命により關東に赴きて和

名所行發(名庫書者蔵所収) 月年の刊寫(書考多書釋註活本) 説解管内(代年作者) 著者 缺存 數巻(名書) 題 號略字

【コ】

を講ぜしめ其の紀行、入東記を著した。同十二年秋五十歳にして相國寺四十二世に陞住し、聖嘉吉元年義教の執せらるゝや壽星院に退休し、文安三年五十六歳にして足利義政の命により鹿苑寺に住し僧録司となり、康正二年六十六歳にして再び鹿苑に住して僧録司に任じ、義政の請に應じて知恩院に法華經を講じ、應仁元年の大亂に北山巖藏に入りて著述を事とし、文明三年十二月二十五日勅命により南禪寺に住せしめ紫衣を賜りたれども因辭して受けず國師號を賜ひ受戒せんとし給ひしも亦因辭せしを以て、天龍寺開山夢窓國師に大國師を追諡して以て師の德に代へられ、夢窓國師は遂に七朝の國師となる。文明五年五月八日(A. D. 1473)壽八十三、臘六十八にして示寂した。文明十四年(A. D. 1482)後土御門天皇、先帝御花園天皇御忌に際し師の德を追慕して、興宗明教師の諡號を賜つた。師幼時より蘇詩に精しく誦說二十五卷補遺一卷を作り、刑稽集二百卷、語錄二卷、書讀國寶記三卷、臥雲日伴錄三十卷等の遺著が最も有名である。(大久保堅瑞)

興正寺開基以來諸留書 ①(K) Kō-shō-jī-kai-ki-rai-shō-todome-gaki. 本願寺末門跡興正寺開基以來諸留書 ②一卷 ③寫本(龍大、別置)

興正寺記 ①(K) Kō-shō-jī-roku. ①一卷 ③寫本(谷大、宗大、三〇八〇)

興正寺勸章 ①(K) Kō-shō-jī-kan-shō. ①帖 ③興正寺歴世諸主の消息を

集録したもの。⑦(参考) 淨土眞宗教典志第二

興正寺交渉一件 ①(K) Kō-shō-jī-kō-shō-ken. ①一卷 ③寫本(龍大、別置)

興正寺事件書上 ①(K) Kō-shō-jī-ken-shō-jō. ①一卷 ③寫本(谷大、宗大、二四一六)

興正寺事件文書 ①(K) Kō-shō-jī-ken-shō-jō. ④四卷 ③寫本(谷大、宗大、二四五一)

興正寺准尊御往生記 ①(K) Kō-shō-jī-jūn-sōn-ō-jō-ki. ①一卷 ③寫本(龍大、別置)

興正寺對本願寺交渉一件 ①(K) Kō-shō-jī-tai-hon-ō-jō-shō. ①一卷 ③寫本(龍大、別置)

興正寺代々得度及遷化年月 ①(K) Kō-shō-jī-tai-tai-toku-ō-jō. ①一卷 ③寫本(龍大、別置)

興正寺殿一件最初より御吟味迄之始末大略 ①(K) Kō-shō-jī-dō-jō-shō. ①一卷 ③寫本(龍大、別置)

興正寺殿御兒御得度日記 ①(K) Kō-shō-jī-dō-ō-jō. ①一卷 ③寫本(龍大、別置)

興正寺殿藏板和讃跋一件 ①(K) Kō-shō-jī-dō-zō. ①一卷 ③寫本(龍大、別置)

可伏三毒事。離名利可修學事。無想して可忘執心事。看病勸誘事。利生の願を堅固にすべき事。中有不定事。殺生禁斷事。唯識中道事。僧食信施事。持齋祈雨事。表無表章開講所物語。律大乘根本事。可發開提顯事。表無表章に依て眞法立たる事。學問の益廣事。佛法久住事。受生善惡處顯事。心大に可發事。學問授戒發事。女人出家事。睡眠事。修行用心事。興法利生可爲先事。菩提心事。持戒成佛勝因事。寺始事。西大寺結界布薩初事。僧法利他益廣事。通受最初四人同心成就事。別受事。失欲人の事。四攝の事。律學昔有標事。梵網經古述等開講打聞。律法再興根本事。發心以後皆成勝因事。衆生住身事。可恭敬人。一向衆生に任身事。遊行時可禮拜塔事。怨依止不可出功事。堅護戒可直成儀事。出家人不應禮在家人。弘安八年二月一日より口經御講御少々。弘安八年三月十五日涅槃經御講時。袈裟并直突事。の五十四項がある。其のいづれも戒律成儀等に関する事が多く、實踐上の警策とすべきものである。本書の原本は西大寺の所藏である。(中谷在禪)

興正菩薩行實年譜 ①(K) Kō-shō-jī-bo-satsu-gyō-jiken-nen-pō. 西大勸業興正菩薩行實年譜 ①一卷 ③寫本(龍大、三〇四四)

興正菩薩傳 ①(K) Kō-shō-jī-bo-satsu-den. ①一卷 ③寫本(龍大、三〇四四)

名所行發(名庫書)者處所現(書考)月年の刊寫(書考)説解書内(代年)作者(者著)缺有(數卷)(名書)名題(號略)字數

【ク】

我が國戒律の再興者であり同時に奈良西大寺の中興であつた觀智思圓上人の傳記書である。

本書の内容を一瞥するに、先づ興正菩薩行實年譜が一代の行歴を略述し、就中大悲菩薩覺處と共に自誓受戒によりて、中古古廢せる戒律宗を再興したる事蹟を評述讃仰してゐる。尙卷末に「再興律宗兩寺開山年略」の項下に、唐招提寺中興覺處應量上人、西大寺中興觀智思圓上人を並舉して其の出世を比較し、觀智は滅後十三年後伏見帝正安二年七月四日興正菩薩の諡號を拜したが、覺處は更に二十九年後れて、而も招提寺門徒の鼓奏により、嘉曆三年大悲菩薩の賜諡ありし事を述へ、正安二年の興正菩薩諡下賜の院宜を掲げている。

興正菩薩遺具之圖 ①(K) Kō-shō-jī-bo-satsu-do-ru-no-ka. ①一冊 ③寫本(龍大、別置)

興正菩薩略行狀 ①(K) Kō-shō-jī-bo-satsu-gyaku-gyō-jō. ①一卷 ③寫本(龍大、別置)

興正菩薩遺具之圖 ①(K) Kō-shō-jī-bo-satsu-do-ru-no-ka. (文) Hising-sheng-kuo-shih-hsuan-yao-kuang-chi. 鼓山神覺師語錄 ③存、已續二・三・四古章語錄第三七 ④唐代鼓山神覺語 ⑥鼓山神覺師語錄の下を見よ。

興正寺五祖行業 ①(K) Kō-shō-jī-go-sō-gyō-gō. ①一卷 ③寫本(龍大、別置)

興正寺誌 ①(K) Kō-shō-jī-shi. ①一卷 ③寫本(龍大、別置)

興正寺寺緣雜記 ①(K) Kō-shō-jī-jō-jō. ①一卷 ③寫本(龍大、別置)

興正寺之記 ①(K) Kō-shō-jī-ki. ①一卷 ③寫本(龍大、別置)

興正寺語錄 ①(K) Kō-shō-jī-gō-roku. ①一卷 ③寫本(龍大、別置)

興正寺記 ①(K) Kō-shō-jī-ki. ①一卷 ③寫本(龍大、別置)

とも云ふ、一切三昧の根本であるからこれに證すれば何れの法門も開かれ何れの三昧も現成する、この宗乘を擧揚すれば、三乘十二分教は水の如く水の如くに消ゆるものであるとて、禪は佛道の究極なる所以を説破し、且つ禪は佛正法の血脈を相承して居るもので論議妄説ではない、傳教大師慈覺大師の如きも神秀門下の禪師に參じて傳法受衣したとて、安然の教時評、弘法大師の秘法記等を引證して付法血脈相承の正しきことを論證し、諸宗は乃ち教理行果であるが如きものである。所以に一切の妄縁を離れ、本自圓成即佛の我が佛正法に歸せよと論じて居る。

⑦(参考) 扶桑禪林書目、日本禪林撰述書目、古版(帝國、特別・一・貴)刊本(實、ふ・三・左・一四) (大久保堅瑞)

興正寺解題原文 ①(K) Kō-shō-jī-kaigen-bun. ①一卷 ③寫本(龍大、別置)

興正寺論 ①(K) Kō-shō-jī-ron. ①三卷 ③寫本(龍大、別置)

興正寺論 ①(K) Kō-shō-jī-ron. ①三卷 ③寫本(龍大、別置)

日本禪宗の初祖神龍濟宗建仁寺派大本山建仁寺開闢千光祖師榮西禪師の撰述に係り、日本禪宗開闢の爲の宣言書であつて、其の宗義綱領の發表書であつて、元祖法然の撰述本願念佛集、宗祖親鸞の顯淨土眞實教行證文類、祖師日蓮の立正安國論が、それ

それ、淨土宗、淨土眞宗、日蓮法華宗の立教開宗の宣言書であり、其の尊皇主とする宗意綱領の發表であつて、單に禪の一家に限らず、日本佛教史、教理史、思想史の上に重大なる地歩を持つに止まらず、日本文化史、思想史、延ては美術史、風俗史その他の上に重大なる地歩を有する、劃時代的の撰著であると共に、以下に説明する如き意味に於て、本書は禪定の宗教たる我が日本佛教に、原則的禪定の佛教を提唱することに依りて、その體験的支持と保證とを將に開却することに依りて、外道化せんとする、應用的禪宗の佛教たる、古京王朝の日本の佛教に開眼點睛するの地歩と任務とを有せし點に於て、他の諸宗教學の立教開宗の本書と自ら異なる特殊地歩を有するものと考へ得る。爰に本書の印度、西域、支那、日本の佛教史、特に日本佛教史上の地位があると俱に、千光祖師榮西の特殊地歩が存することは特に指摘すべきことに屬する。凡そ宗教には、祈禱型の宗教と、禪定の宗教とがある。禪定型の宗教は佛陀の宗教を以て唯一のものとするが同じく禪定型の宗教にも、佛陀釋迦牟尼の在世及び入涅槃後約五百年間、即ち正法時代を通じた原則的禪定と、佛陀釋迦牟尼に其の論を發して、正法時代の一分を通じ、特に爾後の佛教、即ち像末期の佛教の大部分を通じて、應用的禪定とも名くべきもの、存することは、筆者の別處に於て詳細に論述した通りである。祈禱型の宗教は、近くは基督教及び回教に見るが如き、宗教的主體の外

名所行發(名庫書)者處所現(書考)月年の刊寫(書考)説解書内(代年)作者(者著)缺有(數卷)(名書)名題(號略)字數

【コ】

に客體あり、自己の外に神有りとする宗教形態で、佛陀の宗教を除く殆んど總ての宗教は此の類型に属する。禪定型の宗教は、宗教的主體の外に客體の存在を認めず、自己以外に神の存在を認めざる宗教で、前者が修行者の悔改と祈禱とに依りて、其の願望と救済とに與り得べきことを教ゆるに對し、後者は持戒と禪定三昧の實修とに依りて、修行者本来佛陀たるの正智見を實證具現し得らるべきことを示す宗教である。新舊型と云ひ、禪定型と云ふも、單に其れぞれなる宗教それ自體の有する修道の方法の上より命名せるものに外ならない。新舊型の宗教は、祈禱なる心情態度そのもの、本質的必然性として、禪定型の宗教たらんとする傾向を有し、筆者の所謂擬似的禪定型の宗教形態を取るを當とするが、此の傾向を呈し來りて其の形態を取るに至る時、その進歩的な進歩發達を見ることは、宗教史の示すところであるが、禪定型の宗教に於ては、それと正反對に相類似して、禪定型の宗教そのもの、宗教的機能を發揮せしむる必要上、方法論として暫く新舊型の宗教形態を取るに至るを原則とし、斯くて其の宗教的機能を充分に發揮し得て、禪定三昧の實修とその方法に依る目的の實現の上、客觀的妥當性を與へんとする。筆者は暫く新舊型の宗教の形態を取れる禪定の宗教を、應用的禪定の宗教、又は擬似的禪定型の宗教と名づけ、その然らざるを原則的禪定型の宗教、又は規範的禪定型の宗教と名づける。支那、日本の佛敎諸宗教の

中、大乘佛敎に属する殆んど總ての宗旨宗派は、應用的禪定を宗とする佛敎に屬し、敎外別傳を宗とする禪の正脈は即ち後者に屬する。原則的禪定を宗とするものは、その名の示すが如く、禪定三昧を實修することによりて、佛陀釋迦牟尼に依る樹下觀成の知見たる正法の慧命理念を、さながらに實證具現することに依りて、師表の間に大法の慧命を直授灌頂して嫡傳護持するに對し、應用的禪定を宗とするものは、其の特に爲人施設せられたる方法論の實修に依りて、よりよく禪定の宗教をして宗教としての機能を發揮せしめて、皆共成佛道の行願を全ふする。應用的禪定即ち新舊型の宗教形態を取れる禪定の宗教は、原則的禪定に依りて體験的根據と保證とを附與せられることに依りて、佛陀の宗教として宗教としての眞機能を發揮せしめるが、若し原則的禪定に依る體験的根據を離れ又は忘れたるときは、即ち單なる新舊型の宗教に墮して、そこに禪定の宗教としての階層があり、佛敎の外道化がある。我が藤原末期の佛敎は、奈良朝・王朝の諸宗を通じて、實に此の一大危機に陥つた時であるが、爰に幸にも日本禪宗の初祖千光祖師明善聖西禪師の出世せらるゝありて、その元久元年、禪師六十四歳の撰述に係る日本佛敎中興願文一卷の大願の示すが如く、禪定三昧の實修具現に依りて、西天四七、東土二三等と相承せる、佛陀釋迦牟尼の慧命理念を嫡傳相承することを得、如實に日本佛敎中興の洪業を圓成せられ、正法遠く遐代に流傳す

ることを得せしめられた。此の意味に於て、千光祖師は、決して單なる日本禪宗の開立者では無く、日本の佛敎を通じての中興の祖師と云ひ得るものと考へられる。本書の地歩も亦推して知るべきである。禪師の紀傳は、如蘭の明庵西公禪師塔銘一卷、東山禪師年譜一卷の外、無等以倫の黃龍十世錄、廣禪の日本國千光法師祠堂記、大白名山千佛閣記等の特殊のものを存し、明月記建曆三年の條、東鏡第十六、第二十一、第二十二、百鍊抄第十梅尾明上人傳記並遺訓、正法眼藏隨聞記、砂石集、東大寺供養記等の當代又は當代を去ること未だ久しからざる各種の日記・古記より、皇代記、皇年代略記、皇帝紀抄、武家年代記、帝王編年記その他の史書、元享釋書第二、第二十六、本朝高僧傳第三、延寶傳燈錄第一、扶桑釋林僧寶傳第一、日本高僧傳第二の各種の僧傳並に之れを傳へて、特に紹介するの必要を認めない、一代の撰者紛々ならず、其の多くが台密十三流の中、葉上流の流祖葉上房榮西としての立場に基くものなることは注意するに價する。虎關師範、無等以倫、如蘭の傳傳は、(一)興禪護國論三卷、(二)一代經論總釋一卷、(三)日本佛敎中興願文一卷、(四)不二門論一卷、(五)三部經開題一卷の五部七卷を出して「密部甚だ多し盡く記せず」と云ひ、元元師範は、前記の中、(一)(二)(三)の四部を擧げて、「密部特に多し盡く記すべからず」と傳へ、延寶傳燈錄には「平生の述作若干部あり」と傳へる。東峰東曉禪師は、古今を通じて

の禪師研究の權威者であるが、其の著千光祖師塔銘拾遺鈔には、前記の五部の外、(一)法華入眞言門訣一卷、(二)菩提心論口訣一卷、(三)出家大綱一卷、(四)受戒儀軌一卷、(五)又或二卷、(六)師子淨戒論一卷の七部七卷、總じて二十四卷を列ねる。外に扶桑釋林書目は、單に右の内(一)(二)(三)の三部のみを出すが、日本釋林撰述書目には、(一)圓頓一心戒和解一卷、(二)眞禪融心義二卷を以てする。但し眞禪融心義は、古德既に「古來傳へて光祖の作と爲すも、按ずるに、引く所の書義、高野流に據る。疑ふべきの一なり。跋記に云く、弘長三年云々」と。此れ祖師の入定と相照るものと四十八年、故に他師の作なることを知る。蓋し祖師門徒の作なり」と斷ざるが如く、禪師の眞撰に非ること疑ふべくも無い。恐くは高野山金剛三昧院に於ける行勇禪師門流の所作にかゝらう。比較山無量院敬雄の天台體標に、禪師の著書として、右の眞禪融心義の序の外、(一)教時義勸文序一卷、(二)同書附誓文一卷、及び日本佛敎中興願文一卷の四部を擧げて其の全文を出す。此の他現存するものに、安永版興禪護國論卷末附載の(七)未來記一卷、(八)自誓受三乘淨戒法一卷、(九)梵網經菩薩戒作法一卷、(一〇)出願大綱一卷、(一一)受經作法一卷、(一二)普願寺孟蘭盆經緣起一卷、(一三)普願寺建立緣起一卷、(一四)入唐緣起殘缺一卷を數へ得る。以上の中、喫茶養生記は一卷

【コ】

本と二巻本とを存し、前者は建曆元年辛未春正月の撰に係り、後者は再治本にして、建保二年甲戌正月、將軍實朝に獻せんとし修治せられたるものである。現に鎌倉町龜谷山壽福寺に其の眞筆本を蔵する。普願寺孟蘭盆經緣起一卷と、普願寺建立緣起一卷とは、並に治承二年の作に係り、其の眞筆は現に福岡縣糸島郡今津村字今津普願寺に寶藏せられ、同じく禪師の眞筆に係る法華經十卷(開結經共)理趣經一卷と俱に、明治四十四年四月、國寶に指定せられた。入唐緣起は、恐くは義堂周信の空華日用工夫集に「當時開山自筆日記」等と見へるものであらう。尙ほ東山禪師年譜に附載せる、禪師の自談語一章、及び續古今集經旅部所載の歌詠一首、及び在唐中天臺山萬年寺に於ける「海外轉運得來」等の七絶一首が存する。梅尾明上人傳記並遺訓。正法眼藏隨聞記、及び砂石集等の權威ある諸書に散見する法語・逸話等又選すべからざるものである。要するに、現時禪師の眞撰と認むべきもの總じて二十有三部、内、一代經論總釋、不二門論、三部經開題、師子淨戒論の四部を缺き、餘の十有九部を存する。是等は本書の如き、日本禪宗初祖としての撰述の外、台密葉上流祖としての撰述、禪戒史上の撰述等、其の内容は極めて他方面に渉るものがあるが、本書は日本佛敎中興願文、出家大綱、齋戒勸進文等と相並びて、日本佛敎中興の大理想のものに撰述せられたるもので、其の意義たるものに日本禪宗立敎開宗の本書としてのみならず、

前に解説するが如き重大なる地歩を有することには、特に學者の注意せざるべからざることに屬する。本書は古來稱して禪師の再來と云はるゝ互福山建長寺開山勸諷大覺禪師道隆撰述が、其の五十年遺蹟に際して、香語に「興禪護國の論を造る」と讃揚し、靈鷲山長母寺開山無住國師が、其の著砂石集に「我が祖師後五十年に禪法興るべき由記し置き給へり(未來記)を指す興禪護國論といふ文を作り給へり」と傳へた如く、禪師一代の撰述を代表するもので、其の眞精神を具象化したものとも云ふべき著作である。佛在聖聖撰述が、其の著禪師志に「興禪護國論、卷數四冊、建仁開祖明善葉西千光祖師之所撰、余曾讀護國論、文章太拙、理趣不深、蓋後人偽作、誣名國師也」と評せる。卷數に於て相違せるのみに非ず、其の評全く當らない。學者往々にして、之れに依りて本書の偽作説を云々するものもあるも、蓋し内容を檢せず、史實に通ぜざるの致すところであらう。本書は禪師が日本佛敎中興の大願に基いて、原則的禪定を宗とする菩提進路を祖とする敎外別傳の一宗を擧揚することに依りて、大法の慧命理念の所在を明かにすると俱に、應用的禪定を宗とすることに依りて、新舊型の宗教形態を取るに至れる在來の諸宗教學の保證と支持とを忘却し去つて、將に單なる新舊の宗教、即ち外道化せんとする危地より救復復古せんがために撰著せられたる

ので、云ひ得るならば、將に形式化し固定化せんとする既成敎學に、一條の鮮血を注入することに依つて、其の眞生命を護持保持せんとせられたものと考へ得る。特に傳敎・慈覺・智證等の諸大師の天台佛敎に對して其の然るを感ずる。禪師一度敎外別傳の宗風を擧揚せらるゝや、南都・北嶺の僧徒は、頻りに反對を試み、迫害に迫るを重ねて、遂には朝に訴へて、建曆宗停止の宣旨を見るに至り、禪師は帝都の滯留をすら許されざるに至らんとした。此の點は法然・親鸞・日蓮等の諸聖に對する迫害と相似せるものあり。思想革命を以て任ずる大宗敎家の古今東西の軌を一にするところである。禪師即ち只管興禪護國の旨を明かにし、持戒を以て始と爲し、修禪を以て究とする旨を論じて、以て其の妄を開き偏執を打破せんとせられた。本書が即ちそれである。自序に「我が朝聖日昌明賢風遐暢す、鶴貴衆尊の國、丹輝に頓首し、全郡玉嶺の郷、信を磐石に投ず。素臣世を治むるの經を行ひ、福侶出世の道を弘むるや、四章の法猶ほ以て用ゆ。五家の禪堂に敢へて請を捨んや。而るに此れを請るの者あり。謂て暗證の禪と爲す。此れを疑ふの者あり。謂て暗證の禪と爲す。亦本法の法に非ずと謂ひ、亦我が國の要に非ずと謂ふ。或は我が斗背を賤んで、以て未だ文を徴せずと爲し、或は我の權根を輕んじて、以て擬を興し難しと爲す。是れ則ち法を持する者の法寶を滅し、我に非る者の我が心を知るなり。嘗に禪國の宗門を塞ぐのみに非ず、抑

も亦報録の祖道を毀つものなり。慨然憤然、是なりや非なりや。仍つて三篋の大綱を編めて之れを時哲に示し、一宗の要目を記して之れを後昆に貽す。跋して三巻と爲し、分ちて十門を立て、之れを興禪護國論と名づく。法王の仁王の元意に稱へんが爲の故なり」と見え、禪師七世の法孫南叟朝禪師の所記に見へ、安永版本書の卷首に收載せる禪師の行狀には、「師、處菴禪師に、天台・天童兩山の際に従ふこと年あり。親しく其の室に入りて佛心印を傳ふ。禪門の事悉く皆授受す。明善の禪を立つ辭して東歸せんと欲するに及んで、禪師自ら佛語數十紙を書して以て贈之れを證す。乃ち海東佛心流通の附屬所に在り(中略)建仁二年壬戌、鴨川第五橋畔に一禪刹を創す。建仁の號を賜ふ。一に佛心宗を唱ふ。學徒雲集して、禪を習ひ定を修す。廣く菩薩の大戒を流へ、兼て台密の事業を修す。大に梵行を興し、偏く道化を布く、黑白月毎に布薩説戒開如あること無し。久して、都下信じて之に歸す(中略)既にして敎外別傳最上乘の宗を弘む。然るに南都北嶺の諸講師、頗る偏執の者有り。仍て誘て且つ訴ふ。是に於て、論三卷を撰して、經論の文を證して之れを持す。目して興禪護國論と曰ふ。以て奏す。敎可す。是れに由りて吾が宗天下に流布することを得たり」と見え、一部三卷を通じて廣く華嚴・般若・法華・涅槃・梵網等の諸經を初め、多く天台・荆溪・傳敎・慈覺・智證・安然等の台宗古德の論釋を引きて、我が禪門は特に今初めて有るに非